

4 8区の遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

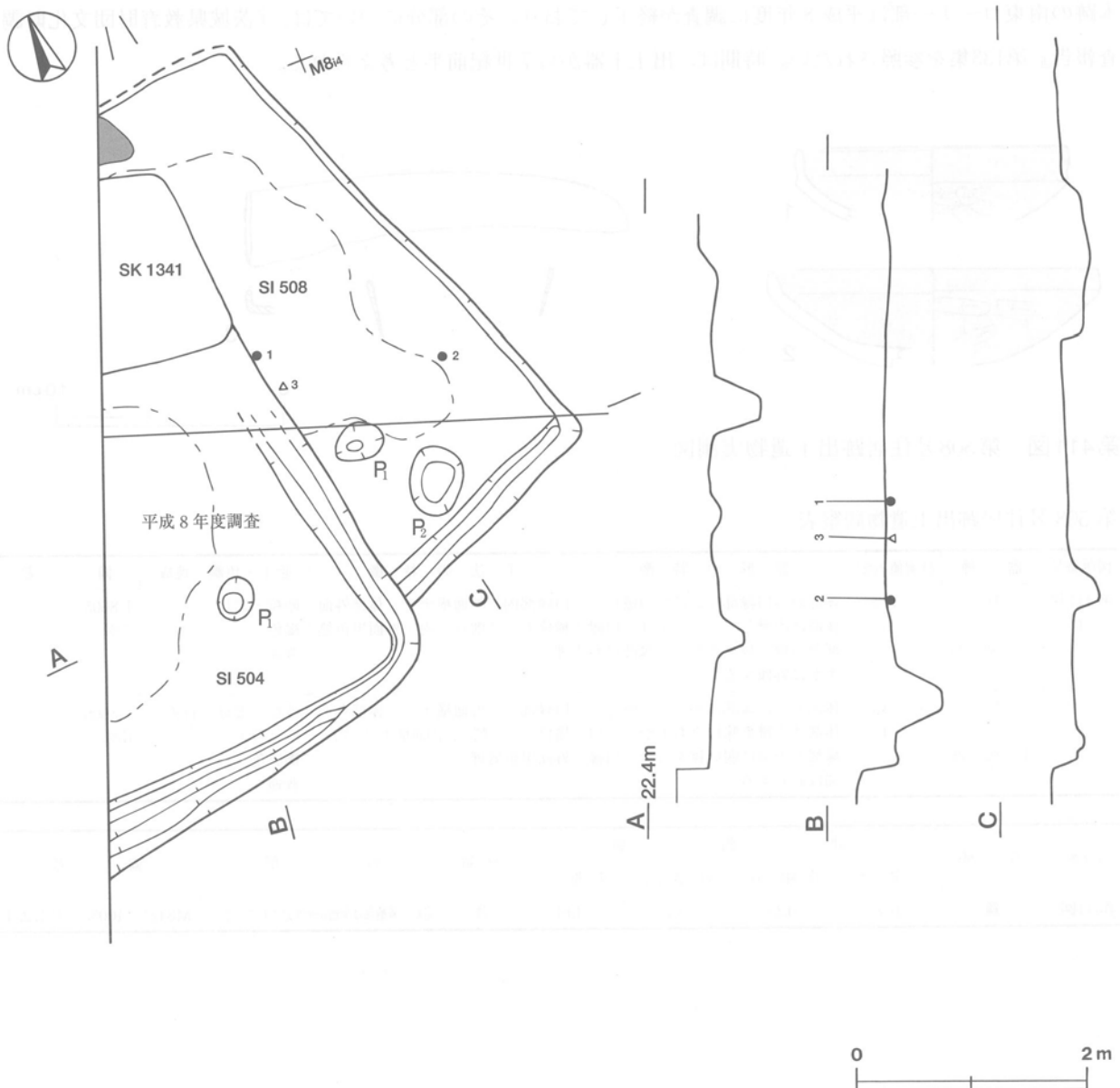
① 古墳時代

第508号住居跡 (第410・411図)

位置 調査8区の西部, M8i3区。平成8年度と平成11年度の調査区にまたがって位置しており, そのため, 調査も南東コーナー部は平成8年度, 北東コーナー部は平成11年度と, 両年度にわたった。さらに, 西部が調査区域外に位置している。

重複関係 西部が第504号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 北東コーナー部はトレンチャーによる攪乱を受けているため, 壁の立ち上がりは確認できなかった。規模と平面形は床質から推定した。さらに, 西部の大半が調査区域外に位置しているため, 全容は不明である。規模は, 南北軸が推定で5.00mで, 東西軸が2.08mだけが確認できた。



第410図 第504・508号住居跡実測図

主軸方向 南北軸を主軸とみなしN-17° -Wと推定した。

壁 南東コーナー部で確認できた壁高は16cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 南部の壁際で確認された。規模は上幅28~30cm, 下幅5~11cm, 深さ12cmで、断面形はU字形をしている。

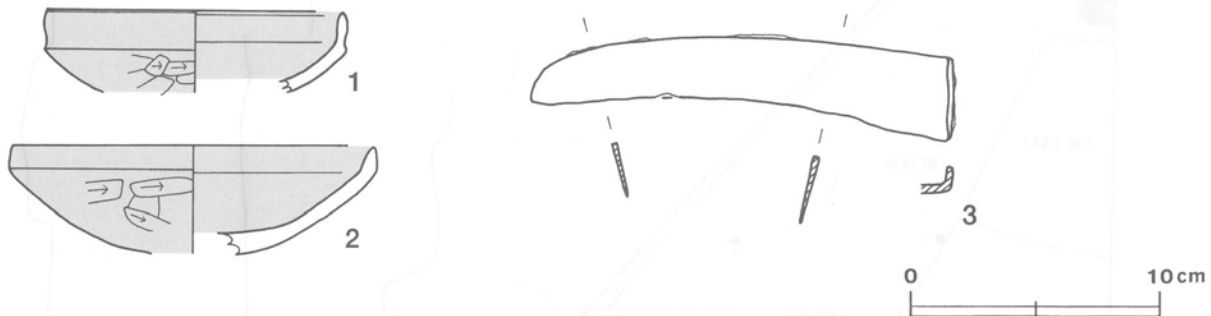
床 確認できた部分はほぼ平坦で、住居の中央部と推定される部分が特に踏み固められている。

竈 北西壁の中央部付近で竈の痕跡と思われる砂質粘土と焼土ブロックが少量検出されている。

ピット 2か所。P1・P2は、平成8年度の調査区で検出されており、規模と位置から支柱穴と考えられる。今回の調査では検出されなかった。

遺物 今回の調査では、土師器片78点、須恵器片5点、鉄器1点(鎌)が出土している。第411図1の土師器坏片と3の鎌は、中央部の床面から出土している。2の土師器坏片は、南東コーナー部の床面から出土している。須恵器片5点は、北東部の覆土上層から出土しており、攪乱により混入したものと思われる。

所見 本跡は、北東コーナー部にトレンチャーによる攪乱を受けているため、堆積状況は確認できなかった。本跡の南東コーナー部は平成8年度に調査が終了しており、その部分については、『茨城県教育財団文化財調査報告』第133集を参照されたい。時期は、出土土器から7世紀前半と考えられる。



第411図 第508号住居跡出土遺物実測図

第508号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第411図 1	坏 土師器	A [11.8] B (3.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 褐色 普通	P8605 5%
2	坏 土師器	A [14.4] B (4.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り、内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・ 赤色粒子 褐灰色 普通	P8606 15%

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	背幅(cm)	刃幅(cm)	重量(g)			
第411図3	鎌	16.8	0.25	3.4	49.4	鉄	完形。着柄部は全面が折り返されている。	M8421 100% P L254

第509号住居跡（第412・413図）

位置 調査8区の西部，M8i4区。平成8年度と平成11年度の調査区にまたがって位置しており，そのため，調査も南西コーナー部は平成8年度，それ以外は平成11年度と両年度にわたった。

規模と平面形 長軸4.76m，短軸4.68mの方形である。

主軸方向 N-28°-W

壁 壁高は22～30cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 北東壁際の一部と南東壁際の一部を除いて，巡っている。規模は上幅7～25cm，下幅4～14cm，深さ6～10cmで，断面形はU字形をしている。

床 ほぼ平坦で，中央部が特に踏み固められている。

竈 北西壁の中央部やや北寄りに，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで65cm，両袖幅115cmであり，壁外への掘り込みは認められなかった。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第3・4層には粘土粒子・砂粒が含まれることから，これらの層が天井部の崩落土と考えられる。西袖部はトレンチャーによる攪乱を受けており，遺存状態が悪い。火床部は，床面を約4cm掘りくぼめられており，皿状をしている。煙道は火床面から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒中量，炭化粒子少量
- 4 灰褐色 焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・炭化粒子少量
- 5 黒褐色 粘土粒子・山砂中量，焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量

ピット 7か所（P1～P7）。P1・P2は長径42cm・38cm，短径30cmの楕円形，深さ42cm・57cmで，P3は径60cmの円形，深さ68cmで，P4は径20cmの円形，深さ63cmである。いずれも各コーナーに寄った位置で検出され，規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は，径40cmの円形で，深さ36cmであり，南壁際の中央部に位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7は，径30cm・20cmの円形で，深さ62cm・51cmであり，位置的にみて，P6はP2の，P7はP4の補助柱穴の可能性はある。

P5土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック多量，ローム粒子中量，炭化粒子少量

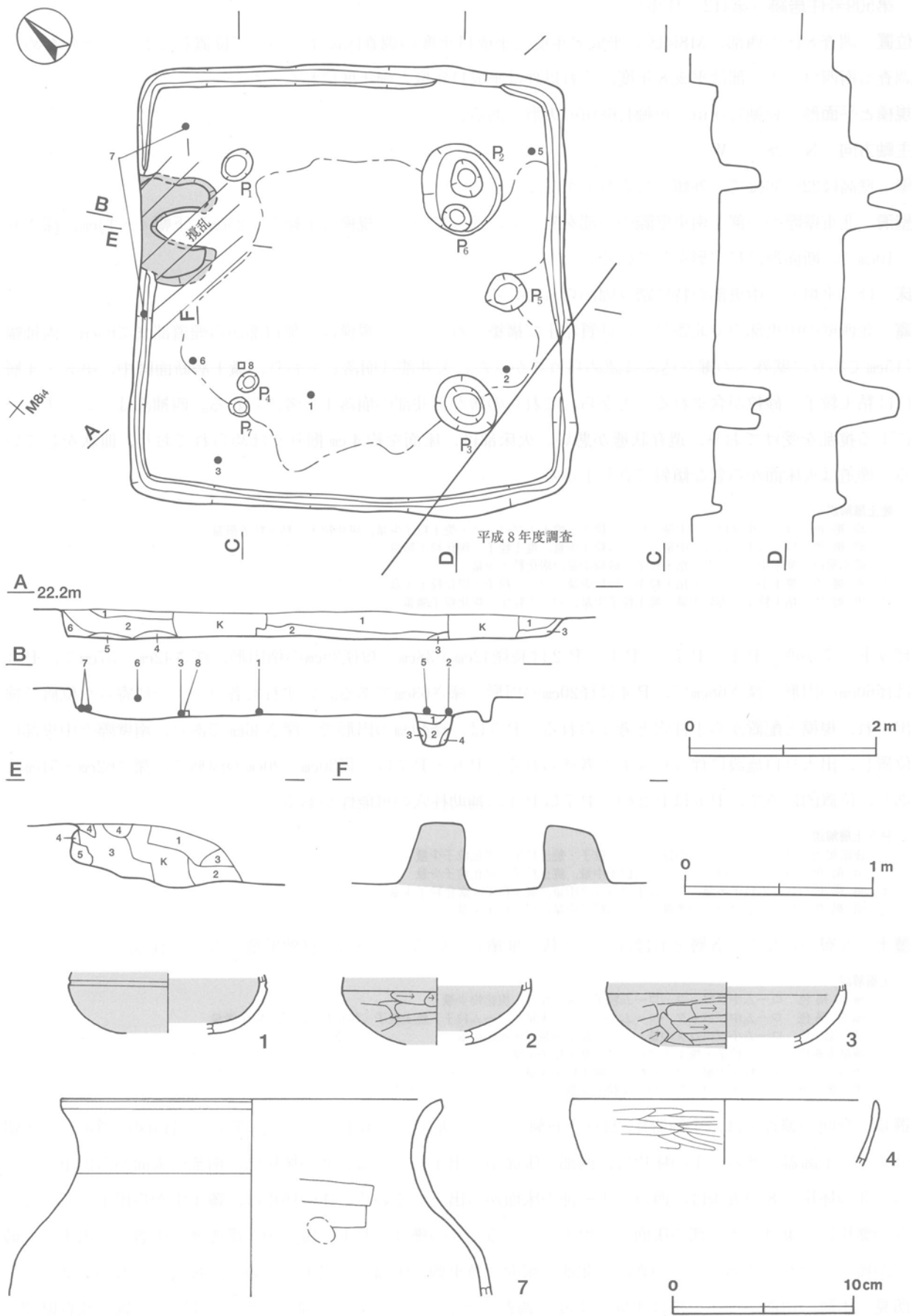
覆土 6層からなる。各層ともほぼレンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

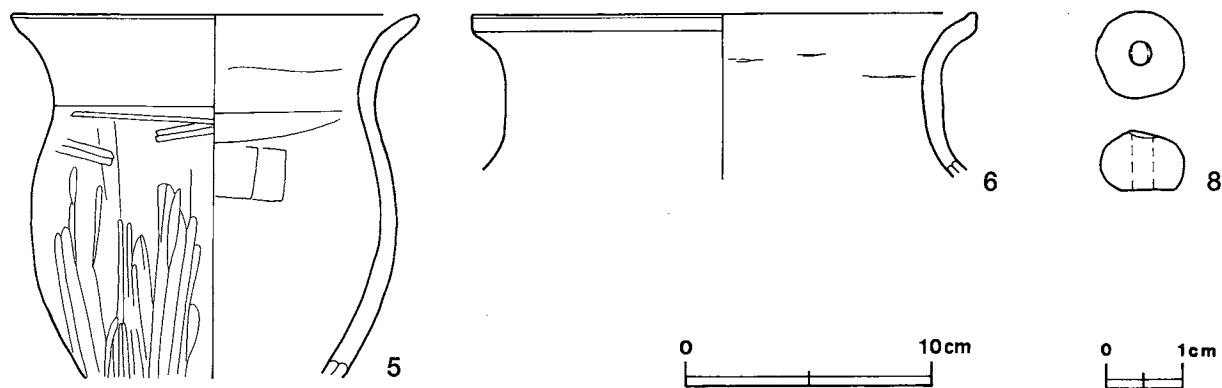
- 1 極暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
- 2 極暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，炭化物微量
- 4 極暗赤褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・粘土粒子少量
- 5 極暗褐色 粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 今回の調査では，土師器片324点，石製品1点（丸玉）が出土している。第412・413図に図示した土器はすべて土師器である。1の坏片は，西部の床面から出土している。2の坏片は，南部の床面から出土している。3の坏片と8の丸玉は，西コーナー部の床面から出土している。4の坏片は，覆土中から出土している。5の甕片は，東コーナー部の床面から出土している。6の甕は，P1の覆土中と竈西側の中層から出土した破片が接合したものである。7の甕は，北部の床面と竈東側の床面から出土した破片が接合したものである。

所見 本跡の南西コーナー部は平成8年度に調査が終了しており，その部分については、『茨城県教育財団文化財調査報告』第133集を参照されたい。時期は，出土土器から7世紀後半と考えられる。



第412図 第509号住居跡・出土遺物実測図



第413図 第509号住居跡出土遺物実測図

第509号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第412図 1	坏 土師器	B (3.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は短く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ、内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒 にぶい褐色 普通	P 8584 10%
2	坏 土師器	B (3.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は短く、わずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り、内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・石英 灰褐色 普通	P 8585 10%
3	坏 土師器	B (3.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は短く、わずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り、内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 褐灰色 普通	P 8586 5%
4	坏 土師器	A [16.4] B (3.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラナデ、内面横ナデ。	砂粒・雲母・石英・ 赤色粒子 にぶい褐色、普通	P 8587 5%
第413図 5	甕 土師器	A [16.0] B (14.5)	体部下位から口縁部にかけての破片。体部は球形を呈する。頸部はくびれ、口縁部は外反して開く。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、縦位のヘラナデ。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・ 石英 明赤褐色、普通	P 8588 5%
6	甕 土師器	A [20.0] B (6.5)	頸部から口縁部にかけての破片。頸部は緩やかにくびれ、口縁部は外反して開く。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。内面に輪み痕が残る。	砂粒・雲母・石英・ 赤色粒子 褐灰色、普通	P 8589 5%
第412図 7	甕 土師器	A [20.6] B (10.7)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部で「く」の字状に屈曲し、口縁部は外反して開く。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面上位横ナデ、内面に指頭による押さえ痕有り。	砂粒・雲母・長石・ 石英・赤色粒子 にぶい褐色 普通	P 8590 10% P L 243

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第413図8	丸玉	1.15	0.8	0.3	1.5	蛇紋岩	やや扁平な球体。ていねいに研磨されている。	Q 8405 100% P L 254

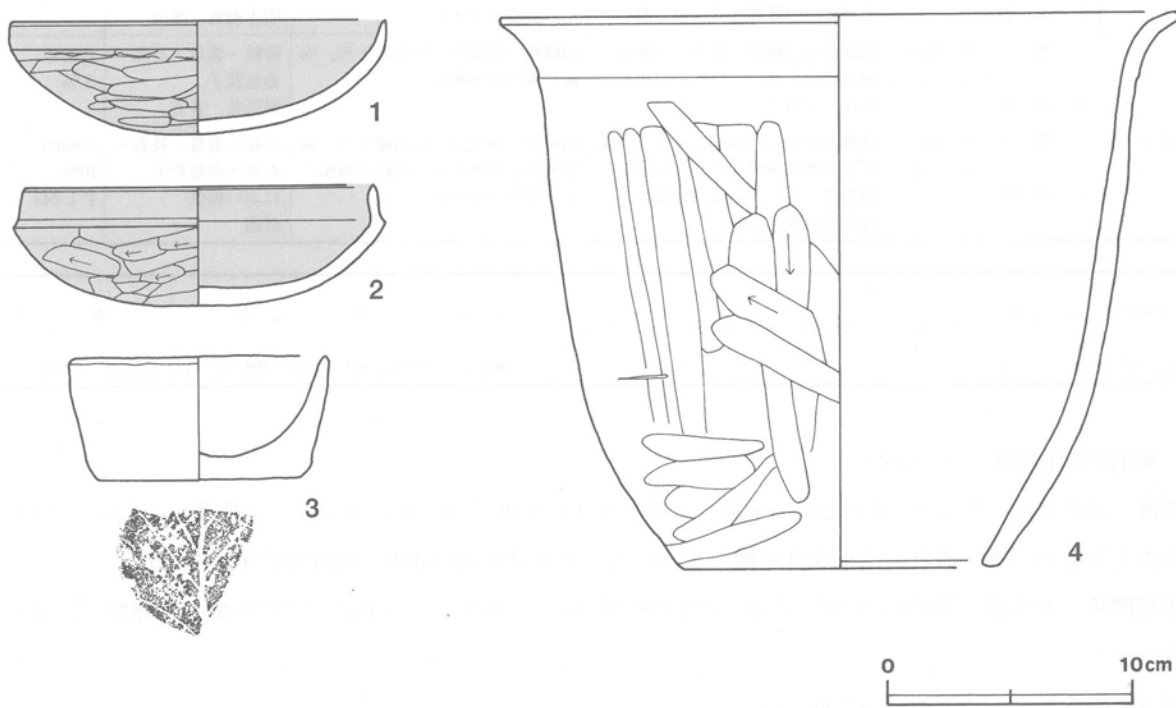
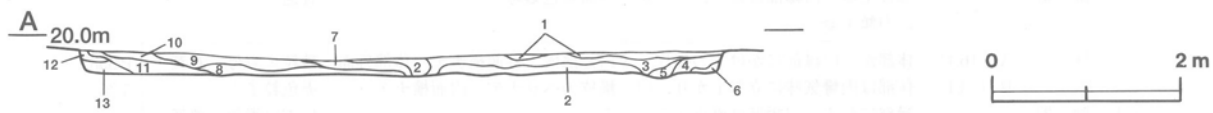
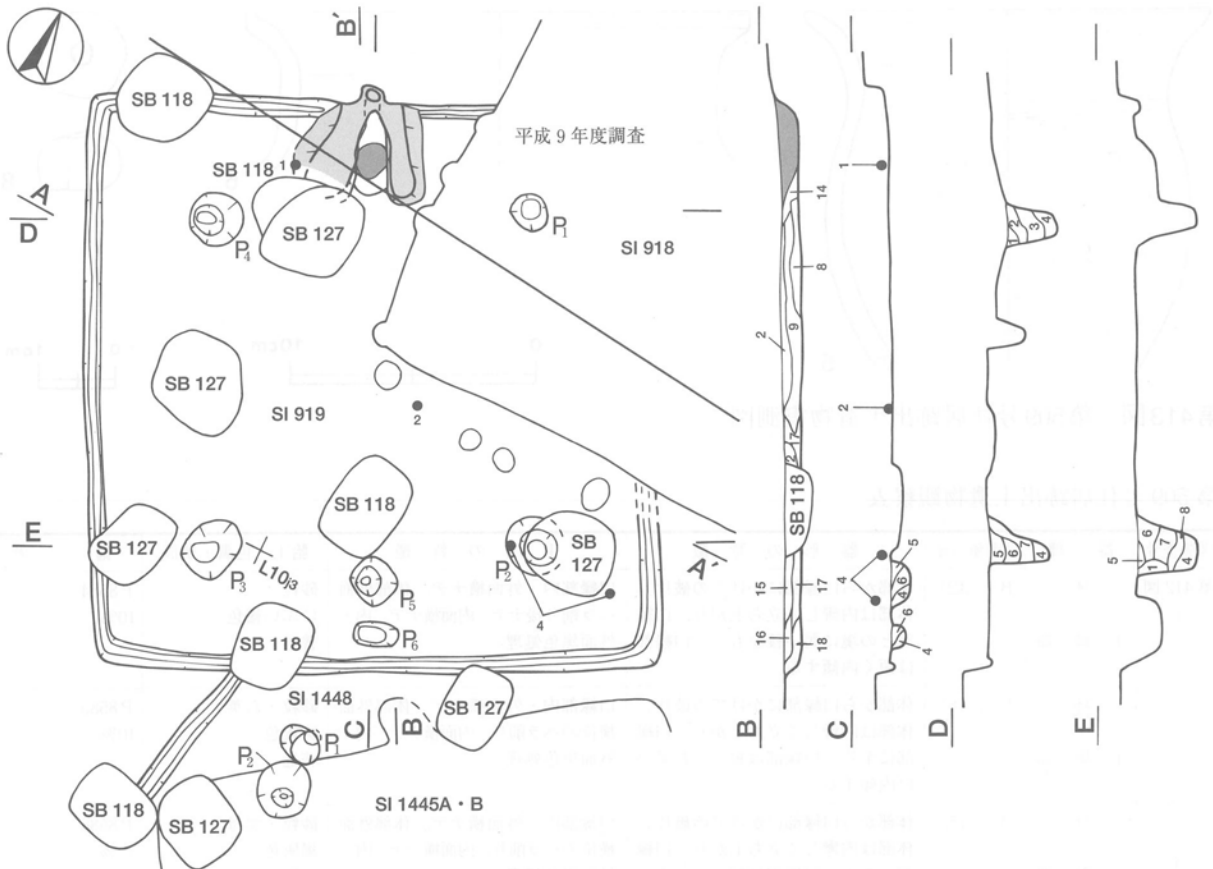
第919号住居跡 (第414図)

位置 調査8区の北東部、L10i2区。平成9年度と平成11年度の調査区にまたがって位置しており、そのため、調査も北壁の一部と竈付近は平成9年度、それ以外の大半は平成11年度と両年度にわたった。

重複関係 北東部が第918号住居、南部が第1448号住居、中央部以南が第118・127号掘立柱建物に、それぞれ掘り込まれている。

規模と平面形 一辺5.97mの方形である。

主軸方向 N-27° -W



第414図 第919・1448号住居跡実測図，第919号住居跡出土遺物実測図

壁 壁高は15cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北東部は第918号住居に掘り込まれているため確認できないが、それ以外は巡っている。規模は上幅16～21cm、下幅5～8cm、深さ4～8cmで、断面形はU字形をしている。

床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。

ピット 6か所（P1～P6）。P1～P4は、径40～55cmの円形で、深さ60～70cmであり、いずれも各コーナー寄りに位置し、規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は径50cmの円形、深さ20cmで、P6は長径45cm、短径25cmの楕円形で、深さ15cmであり、いずれも南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P1・P3～P6土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, ローム大ブロック・ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 7 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック少量
- 8 黒褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・粘土粒子少量

覆土 18層からなる。各層にロームブロック・ローム粒子が多く含まれ、ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 2 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, ローム粒子・炭化物・粘土粒子少量
- 3 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・粘土粒子少量
- 4 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量, 粘土小ブロック少量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量
- 6 黒褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 7 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, ローム大ブロック・粘土粒子少量
- 9 黒色 ローム粒子・砂質粘土大ブロック中量, ローム小ブロック・焼土粒子少量
- 10 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック少量
- 11 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量
- 12 黒褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 13 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, ローム小ブロック粒子少量
- 14 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量, ローム粒子・焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒少量
- 15 黒褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, ローム中ブロック少量
- 16 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム大ブロック少量
- 17 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, ローム小ブロック少量
- 18 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・炭化粒子少量

遺物 今回に調査では、土師器片34点、須恵器片2点が出土している。第414図1の土師器坏は、竈西側の床面から逆位で土圧でつぶれた状態で出土している。2の土師器坏は、中央部の床面から破片で出土している。3の土師器手捏土器は覆土中から出土している。4の土師器甕は、P2付近の床面から出土している。

所見 本跡の北壁の一部と竈付近は平成9年度に調査が終了しており、その部分については、『茨城県教育財団文化財調査報告』第166集を参照されたい。本跡の時期は、出土土器から7世紀前葉と考えられる。

第919号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第414図 1	坏 土師器	A 15.0 B 4.5	体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、横位のヘラナデ、内面ナデ。内・外面黒色処理。体部外面に輪積み痕が残る。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P 8410 95% P L 243
2	坏 土師器	A [13.8] B 4.7	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁	部は直立する。口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい赤褐色 普通	P 8411 25% P L 243

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第414図 3	手捏土器	A [10.0]	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ナデ，内面ヘラナデ。底 部木葉痕。	砂粒・赤色粒子 褐色 普通	P 8412 25% P L 243
		B 4.9				
	土師器	C [7.8]				
4	甌	A [27.0]	底部から口縁部にかけての破片。 無底式。体部は内彎して立ち上 がり，上半は外傾し，頸部に至る。 口縁部は外反して開く。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体 部外面ヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・雲母・石英 橙色 普通	P 8413 30% P L 243
		B 21.9				
	土師器	C [12.4]				

第926号住居跡（第415・416図）

位置 調査8区の北西部，M8c9区。平成9年度と平成11年度の調査区にまたがって位置しており，そのため，調査も竈を含む北部の大半は平成9年度，南西コーナー部は平成11年度と両年度にわたった。

重複関係 北西部が第925・938号住居に，南部が第1340号土坑に掘り込まれている。

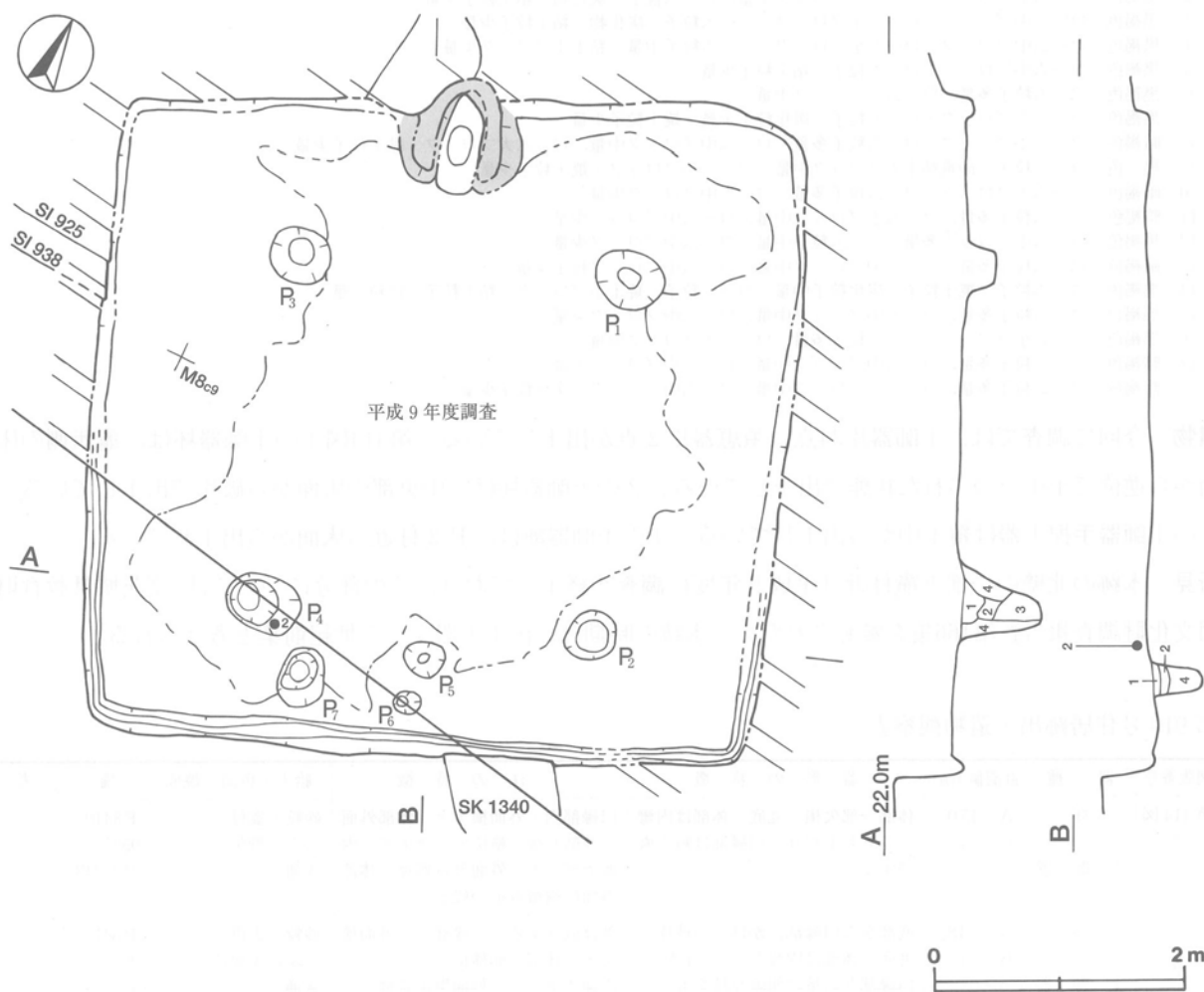
規模と平面形 長軸5.56m，短軸5.24mの方形である。

主軸方向 N-22° - W

壁 壁高は26～43cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 南部の壁下で検出された。上幅14～23cm，下幅4～12cm，深さ5～10cmで，断面形はU字形をしている。

床 ほぼ平坦で，中央部が特に踏み固められている。



第415図 第926号住居跡実測図

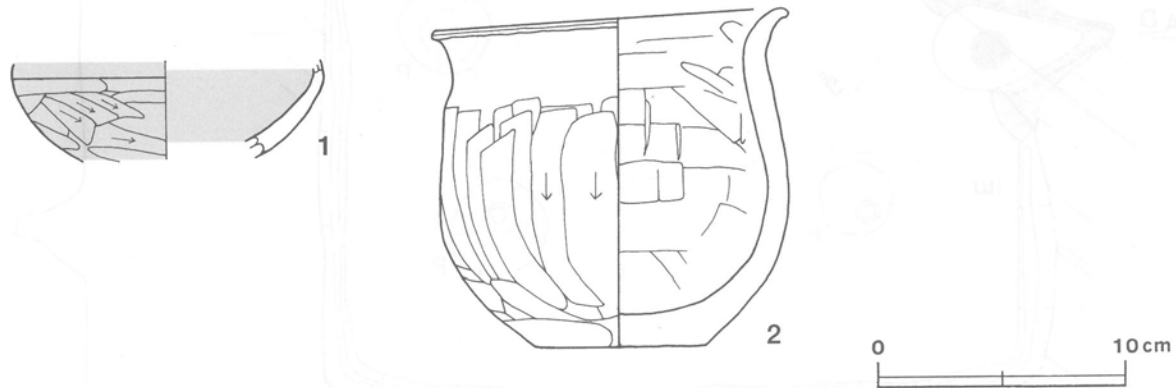
ピット 7か所 (P1~P7)。P1~P3・P5は平成9年度の調査区に位置している。P4は、長径60cm、短径44cmの楕円形で、深さ69cmである。P1~P4は、各コーナー寄りに位置しており、規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は径30cmの円形、深さ42cmで、P6は径17cmの円形、深さ14cmのであり、南壁側の中央部に位置していることから、両ピットとも出入り口施設に伴うピットと考えられる。P7は長径48cm、短径33cmの楕円形で、深さ27cmであり、P4に隣接していることから補助柱穴の可能性がある。

P4・P5土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量

遺物 土師器片45点, 須恵器片6点, 磁器片1点が出土している。第416図1の土師器坏片は、南西コーナー部の覆土中から出土している。2の土師器甕は、南西コーナー部の床面から横位で出土している。磁器片は、攪乱により混入したものである。

所見 本跡の竈を含む北部の大半は平成9年度に調査が終了しており、その部分については、『茨城県教育財団文化財調査報告』第166集を参照されたい。本跡の時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第416図 第926号住居跡出土遺物実測図

第926号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第416図 1	坏 土師器	B (3.9)	体部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面斜位のヘラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・黒色粒子・赤色粒子にぶい黄橙色、普通	P8414 20% P L243
2	甕 土師器	A [13.8] B 13.3 C 6.9	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、頭部でややくびれ、口縁部は外反気味に開く。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り、内面横ナデ。	砂粒・赤色粒子にぶい黄橙色 普通	P8415 85% P L243

第927号住居跡 (第417・418図)

位置 調査8区の北西部, L9j1区。平成9年度と平成11年度の調査区にまたがって位置しており、そのため、調査も竈の西袖部を含む南部の大半は平成9年度、北コーナー部は平成11年度と両年度にわたった。

規模と平面形 長軸5.90m、短軸5.81mの方形である。

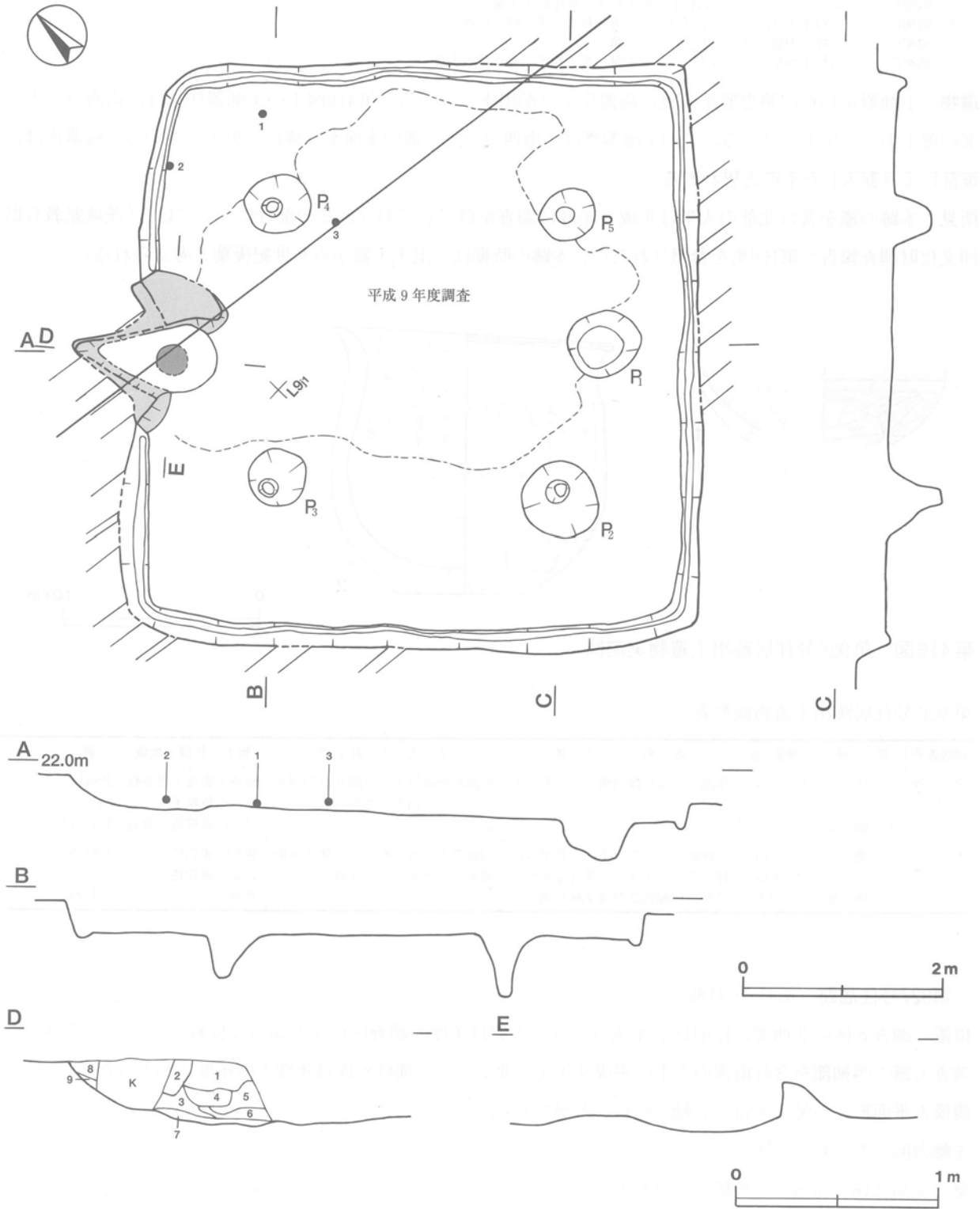
主軸方向 N-42° - W

壁 壁高は18~30cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。規模は上幅14~25cm、下幅5~12cm、深さ5~10cmで、断面形はU字形をしている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北西壁の中央部を壁外へ65cmほど掘り込んで、砂質粘土で構築されている。西袖部がトレンチャーによる攪乱を受けているため、遺存状態は悪い。確認できた規模は、焚口部から煙道部まで145cmで、推定される両袖部幅160cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、第3～5層には粘土粒子・砂粒が多量に含まれ、第3層は砂質粘土が赤変硬化していることから、これらの層が天井部の崩落土と考えられる。第7層には



第417図 第927号住居跡実測図

多量の焼土粒子・炭化粒子が含まれ、下面が火床面と考えられる。火床部は、床面から約5cm掘りくぼめられて、おり、皿状をしている。煙道は火床面から緩やかに立ち上がる。

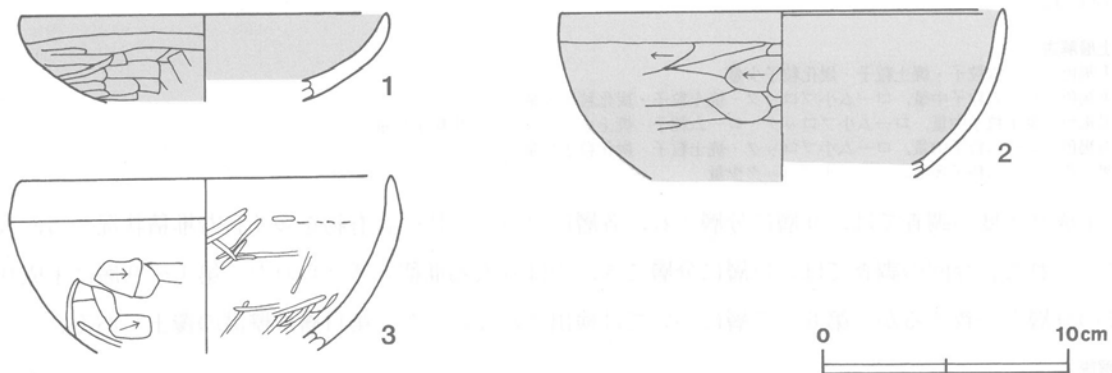
竈土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 暗赤褐色 赤変硬化した粘土粒子・砂粒多量, ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 4 灰褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 5 にぶい黄褐色 粘土粒子多量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 6 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量, 炭化物・粘土粒子・砂粒少量
- 7 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子中量, 粘土粒子・砂粒少量
- 8 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
- 9 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P3・P5は平成9年度の調査区に位置している。P2~P5は径55~78cmの円形で、深さ38~63cmである。各コーナー部に寄った位置で検出されており、規模と配置から支柱穴と考えられる。P1は南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

遺物 今回の調査では、土師器片137点、須恵器片2点、鉄滓1点が出土している。第418図1・2の土師器坏片は、北コーナー部の床面から出土している。3の土師器碗片は、中央部の床面から出土している。鉄滓は覆土中から出土しているが、鍛冶炉等は確認されておらず、混入した、または投棄されたものと考えられる。

所見 本跡の竈の西袖部を含む南部の大半を平成9年度に調査が終了しており、その部分については、『茨城県教育財団文化財調査報告』第166集を参照されたい。覆土の堆積状況は、トレンチャーによる攪乱を受けているため、確認できなかった。本跡の時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第418図 第927号住居跡出土遺物実測図

第927号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第418図 1	坏 土師器	A [14.6] B (3.3)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎気味に立ち上がる。口 縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 横位のヘラ削り, 内面ナデ。内・ 外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・ 石英 にぶい黄橙色, 普通	P 8568 5%
2	坏 土師器	A [17.6] B (6.6)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎してに立ち上がる。口 縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 横位のヘラ削り, 内面横ナデ。内・ 外面黒色処理。	雲母・長石・赤色粒 子・砂粒 にぶい赤褐色, 普通	P 8569 5%
3	碗 土師器	A [14.8] B (6.8)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎して立ち上がり, 口縁 部との境に弱い稜をもつ。口縁部 は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 横位のヘラ削り, 内面に輪積み痕 を残すヘラ磨き。	砂粒・長石・石英・ 赤色粒子 にぶい橙色 普通	P 8570 15% P L 243

第933号住居跡（第419図）

位置 調査8区の北部，M9c4区。平成9年度と平成11年度の調査区にまたがって位置しており，そのため，調査も竈を含む北半は平成9年度，南半は平成11年度と兩年度にわたった。

重複関係 北部で第932号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸6.31m，短軸6.21mの方形である。

主軸方向 N-48° -W

壁 壁高は18～58cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 ほぼ全周している。規模は上幅10～23cm，下幅4～10cm，深さ8～11cmで，断面形はゆるやかなU字形をしている。

床 ほぼ平坦で，全面が踏み固められている。南コーナー部から焼土塊が検出された。焼土小ブロック・焼土粒子は，焼土土層断面図中，第1～2層に含まれている。焼土塊の性格は不明である。

焼土土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・粘土小ブロック少量
- 2 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量，炭化物，粘土小ブロック・粘土粒子少量
- 3 黒褐色 焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・粘土小ブロック少量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
- 6 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

ピット 6か所（P1～P6）。P1～P3は，平成9年度の調査区に位置している。P1～P4は，径50～60cmの円形で，深さ53～88cmであり，規模と配置から支柱穴と考えられる。P5・P6は，径48・35cmの円形で，深さ37・20cmであり，いずれも南東壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

P4土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック少量

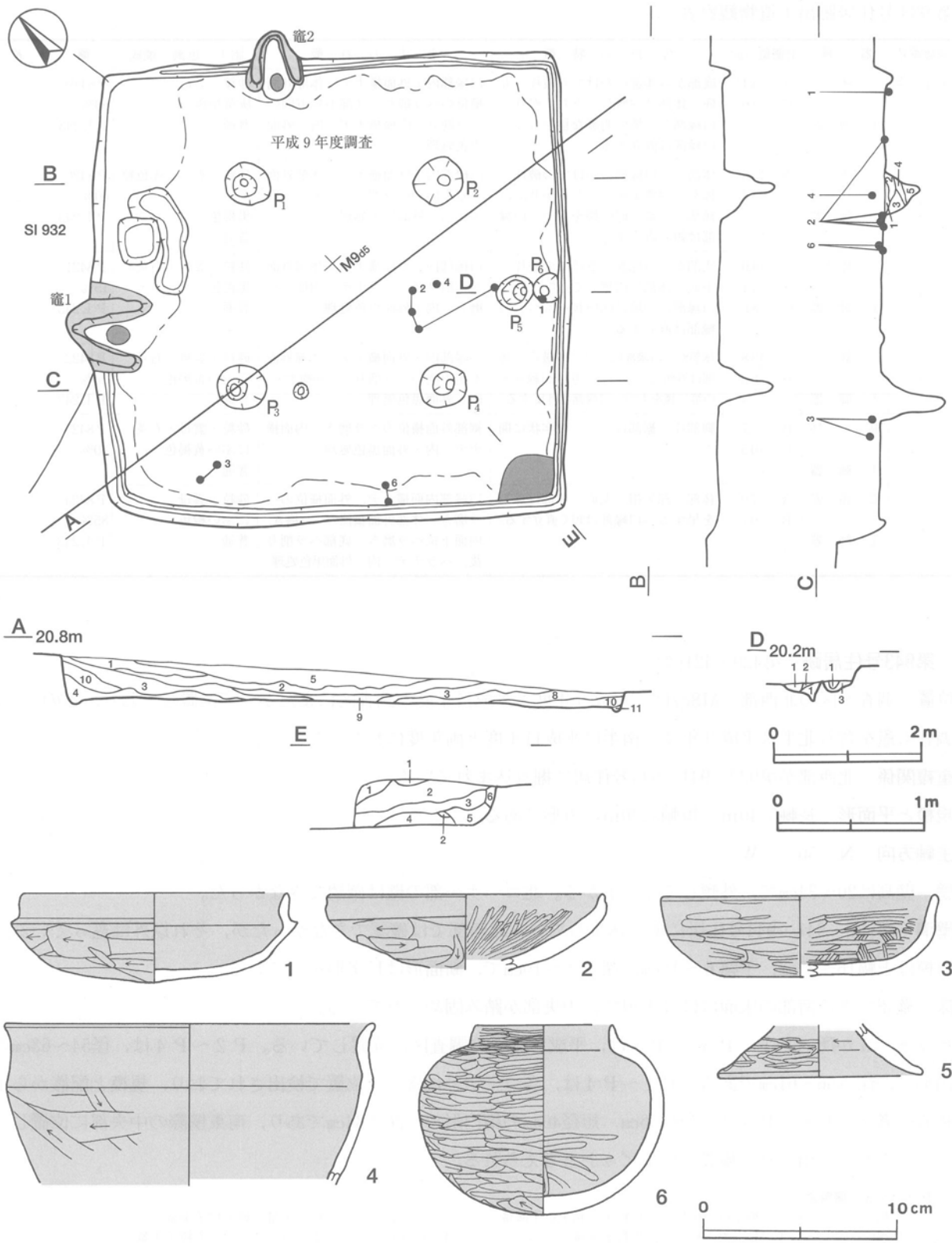
覆土 平成9年度の調査では，9層に分層され，各層にブロック状の含有物を多く含む堆積状況から，人為堆積と考えられた。今回の調査では，11層に分層でき，やはり人為堆積と考えられた。第1～9層は平成9年度調査での分層と一致するが，第6・7層については検出されなかった。第11層は壁溝の覆土である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム中ブロック・炭化粒子中量，ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 8 黒褐色 ローム小ブロック・炭化粒子中量，ローム中ブロック少量
- 9 黒褐色 ローム中ブロック・炭化粒子中量，ローム大ブロック少量
- 10 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 11 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 今回の調査では，土師器片149点，須恵器片2点が出土している。第419図1の土師器坏は，南東壁際の中央部の床面から正位で出土している。2の土師器坏は，中央部の床面から破片で出土している。3の土師器坏片は，南西コーナー部の覆土下層から出土している。4の土師器鉢片は，中央部の覆土下層から出土している。5の土師器高坏の脚部片は，南西壁際の壁溝覆土中から出土している。6の土師器短頸壺は，南西壁際の中央部の床面から逆位で出土している。須恵器片は攪乱により混入したものと思われる。

所見 本跡の竈を含む北半は平成9年度に調査が終了しており，その部分については、『茨城県教育財団文化財調査報告』第166集を参照されたい。時期は，出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第419図 第933号住居跡・出土遺物実測図

第 933 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第 419 図 1	坏 土 師 器	A [13.4] B 4.6	底部から体部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り、底部不定方向のヘラ削り、内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 灰黄褐色 普通	P 8419 60% P L 243
2	坏 土 師 器	A [13.8] B (3.8)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面不定方向のヘラ削り、内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 黒褐色 普通	P 8420 60% P L 243
3	坏 土 師 器	A [14.0] B 4.1 C [8.6]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ヘラナデ、内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英 黒褐色 普通	P 8421 15% P L 243
4	鉢 土 師 器	A [18.8] B (8.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面不定方向のヘラ削り、内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英 におい黄褐色 普通	P 8422 5% P L 243
5	高 坏 土 師 器	B (2.7) D 10.5	脚部片。裾部は「ハ」の字状に開く。	裾部外面横位のヘラ磨き、内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英 におい黄褐色 普通	P 8423 10%
6	短 頸 壺 土 師 器	A 7.0 B 9.7	体部一部欠損。丸底。体部は球形を呈する。口縁部は短く直立する。	口縁部内面横ナデ、外面横位のヘラ磨き。体部外面横位のヘラ磨き、内面下位ヘラ磨き。底部ヘラ削り後、ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 におい橙色 普通	P 8424 85% P L 243

第943号住居跡 (第420・421図)

位置 調査 8 区の北西部, M8c7区。平成 9 年度と平成11年度の調査区にまたがって位置しており, そのため, 調査も竈を含む北半は平成 9 年度, 南半は平成11年度と両年度にわたった。

重複関係 北西部が第939・941・944号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.40m, 短軸5.30mの方形である。

主軸方向 N-56°-W

壁 壁高は20~34cmで, 外傾して立ち上がる。北コーナー一部の壁は確認できなかった。

壁溝 第939・941・944号住居に掘り込まれている北西部では確認できなかったが, それ以外は巡っている。

規模は上幅16~23cm, 下幅 6~10cm, 深さ 4~10cmで, 断面形はU字形をしている。

床 確認できる南部の床面はほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。

ピット 5 か所 (P 1~P 5)。P 1 は, 平成 9 年度の調査区に位置している。P 2~P 4 は, 径54~63cmの円形で, 深さ56~61cmである。P 1~P 4 は, 各コーナーに寄った位置で検出されており, 規模と配置から主柱穴と考えられる。P 5 は, 長径56cm, 短径40cmの楕円形で, 深さ34cmであり, 南東壁際の中央部に位置していることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。

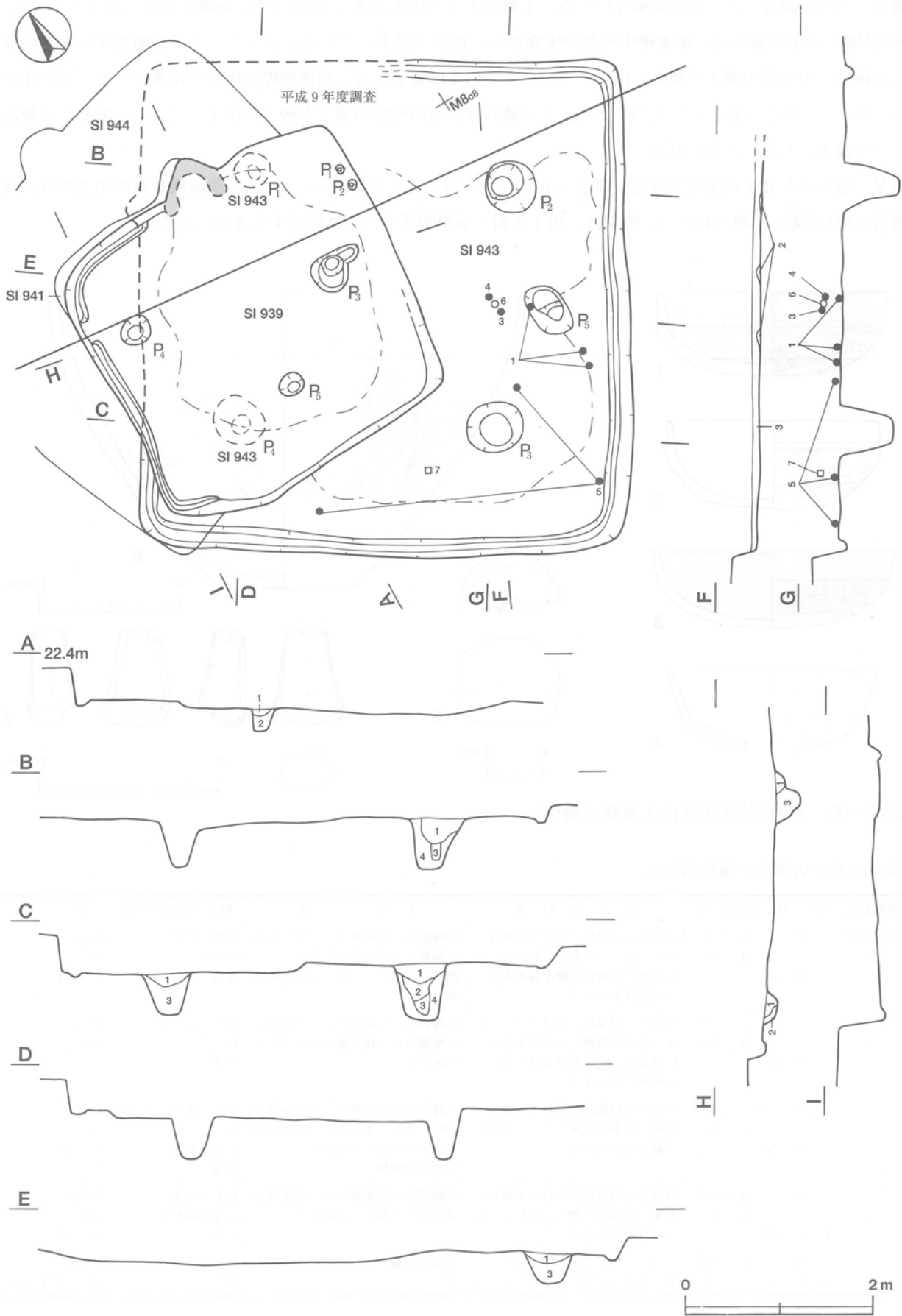
P 2~P 5 土層解説

- | | |
|---------------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量 | 3 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量 |

覆土 平成 9 年度の調査では, 5 層に分層でき, ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられた。今回の調査では, 第 1・4・5 層は確認できなかった。また, 上層部に攪乱を受けており, 検出できた層は 2 層であるため, 堆積状況は確認できなかった。

土層解説

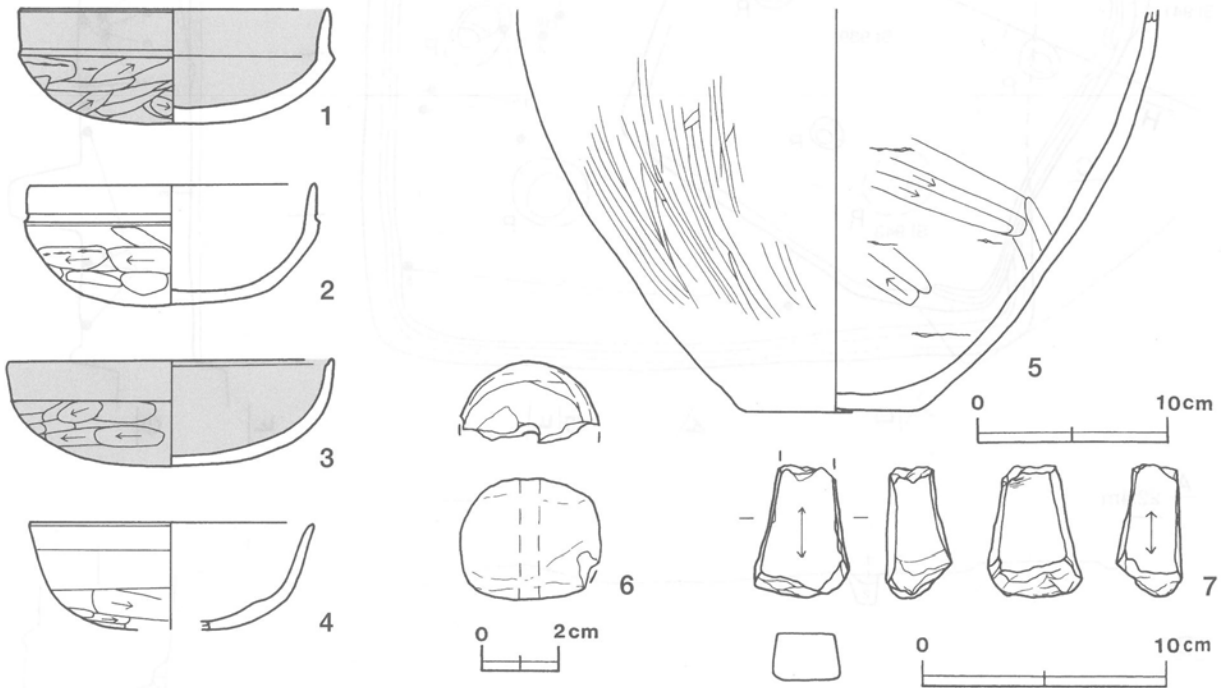
- | |
|--|
| 2 暗褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック中量 |
| 3 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量 |



第420図 第939・943号住居跡実測図

遺物 今回の調査では、土師器細片1192点、土製品1点（球状土錘）、砥石1点、陶器片1点が出土している。第421図1の土師器坏は、南東壁中央部の床面から、逆位で出土している。2・3・4の土師器坏片と6の球状土錘は、中央部の覆土下層から出土している。5の土師器甕片は、南西壁際の床面と南東コーナー部の床面から出土した破片が接合したものである。7の砥石は、南西壁際の覆土下層から出土している。陶器片は攪乱により混入したものと思われる。

所見 竈を含む北半は平成9年度に調査が終了しており、その部分については、『茨城県教育財団文化財調査報告』第166集を参照されたい。時期は、出土土器と重複関係から7世紀前半と考えられる。



第421図 第943号住居跡出土遺物実測図

第943号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第421図 1	坏 土師器	A 12.4 B 4.6	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面に輪積み痕を残す不定方向のヘラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 灰褐色 普通	P 8431 60% P L 244
2	坏 土師器	A [11.4] B 4.8	底部から口縁部にかけて破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面に輪積み痕を残す横位のヘラ削り、内面ナデ。	砂粒・赤色粒子 橙色 普通	P 8432 20%
3	坏 土師器	A [13.0] B 4.1	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ・口縁端部内面に沈線1条が巡る。体部外面横位のヘラ削り、内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P 8433 35% P L 243
4	坏 土師器	A [11.4] B 4.2	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はやや外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り、内面ナデ。	砂粒・石英 にぶい黄橙色 普通	P 8434 25% P L 243
5	甕 土師器	B (21.0) C 9.2	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面縦位のヘラ磨き、内面ナデ。	砂粒・雲母 褐色	P 8435 20% P L 243

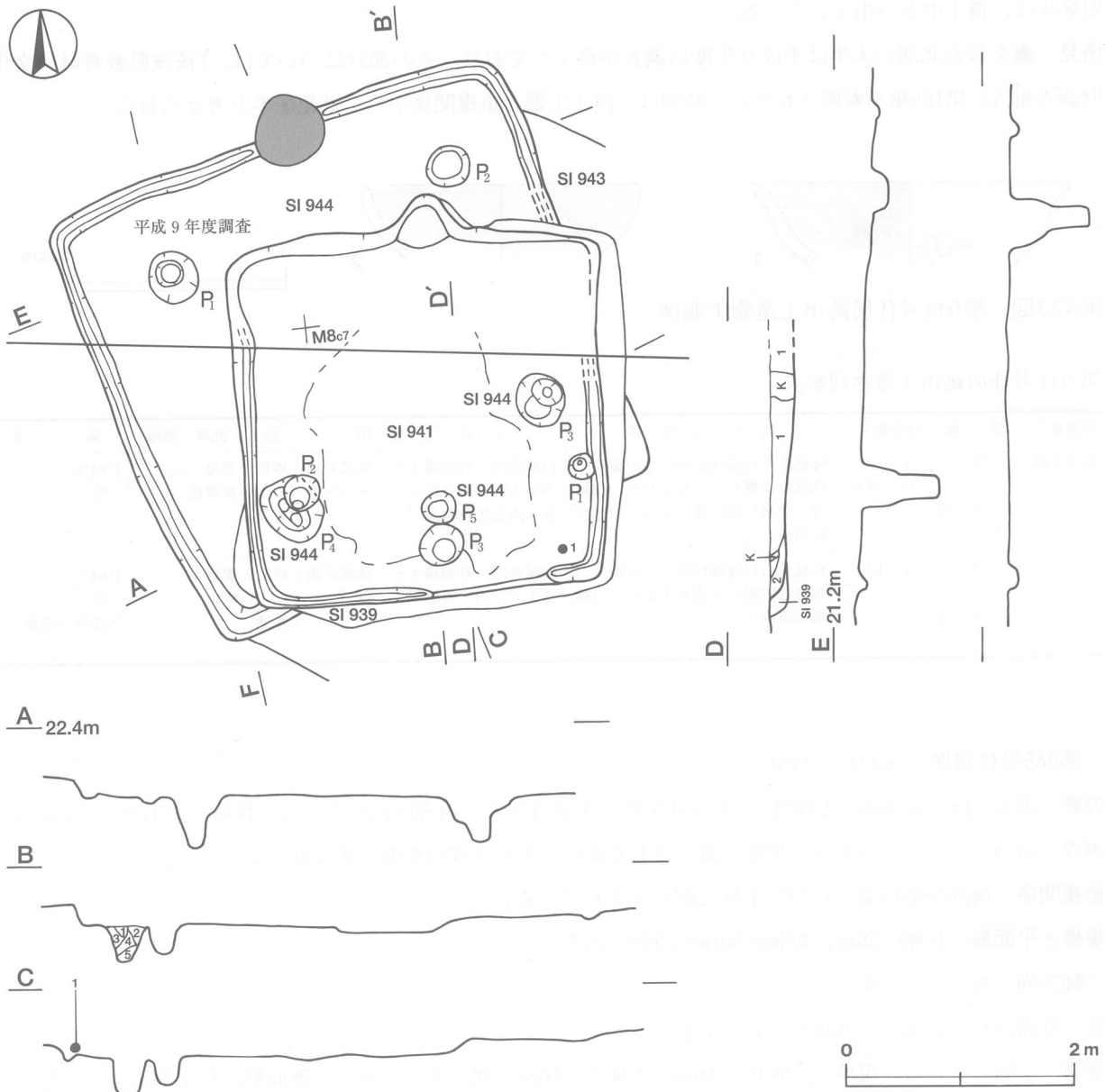
図版番号	器種	計測値				特徴	胎土・色調	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第421図6	球状土錘	3.7	3.2	0.5	(20.6)	球体。ナデ。	長石・赤色粒子, にぶい橙色	D P 8401 50%

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第421図7	砥石	(5.3)	3.8	1.9	(54.5)	凝灰岩	砥面4面, 中央部が薄くなっている。	Q 8401 40% P L 254

第944号住居跡 (第422・423図)

位置 調査8区の北西部, M8c7区。平成9年度と平成11年度の調査区にまたがって位置しており, そのため, 調査も竈を含む北部の大半が平成9年度, 南部が平成11年度と両年度にわたった。

重複関係 東部で第943号住居跡を掘り込み, 南東部が第939・941号住居に掘り込まれている。



第422図 第941・944号住居跡実測図

規模と平面形 長軸4.25m, 短軸4.05mの方形である。

主軸方向 N-16° -W

壁 確認できた南西コーナー部の壁高は, 10cmである。

壁溝 第939・941号住居に掘り込まれている南東部では確認できなかったが, それ以外は巡っている。規模は上幅12~23cm, 下幅6~10cm, 深さ5~8cmで, 断面形はU字形をしている。

床 確認できる北西部の床面はほぼ平坦である。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1・P2は平成9年度の調査区に位置している。P1は, 径44cmの円形で, 深さ70cmである。P2・P3は径38・48cmの円形で, 深さ15・39cmであり, P4は長径62cm, 短径50cmの楕円形で, 深さ46cmである。P1~P4は, 各コーナー寄りに位置し, 規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は, 径30cmの円形で, 深さ27cmであり, 南壁際の中央部に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

遺物 今回の調査では, 土師器片21点が出土している。第423図1の土師器坏片は, 覆土中層から, 2の土師器坏片は, 覆土中から出土している。

所見 竈を含む北部の大半は平成9年度に調査が終了しており, その部分については, 『茨城県教育財団文化財調査報告』第166集を参照されたい。時期は, 出土土器と重複関係から7世紀後半と考えられる。



第423図 第944号住居跡出土遺物実測図

第944号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第423図 1	坏 土師器	A [12.0] B (3.8)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面不定方向のヘラ削り, 内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい黄橙色 普通	P8436 5%
2	坏 土師器	A [12.0] B (3.3)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P8437 5% 体部外面剥離

第945号住居跡 (第424・425図)

位置 調査8区の北西部, L8h8区。平成9年度と平成11年度の調査区にまたがって位置しており, そのため, 調査も南西コーナー部は平成9年度, 竈を含む北部の大半が平成11年度と両年度にわたった。

重複関係 南部が第1332~1334号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸6.56m, 短軸6.50mの方形である。

主軸方向 N-34° -W

壁 壁高は6~18cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。規模は上幅10~28cm, 下幅4~10cm, 深さ4~8cmで, 断面形はU字形をしている。

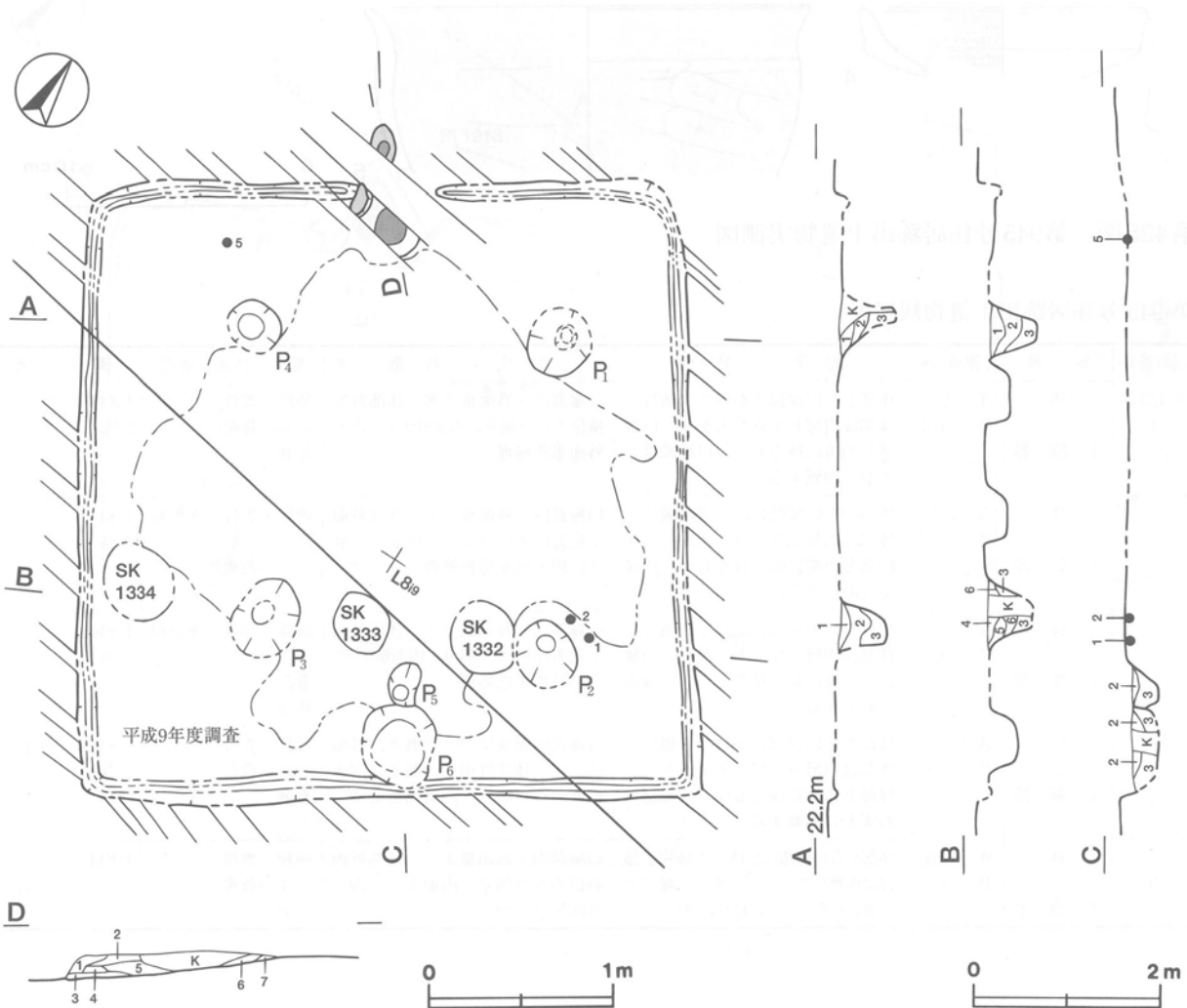
床 全面にトレンチャーによる攪乱を受けている。確認できた床面はほぼ平坦で中央部が踏み固められている。

竈 北西壁の中央部で確認されたが、トレンチャーによる攪乱を受けているため、西袖部の一部と煙道の一部が遺存していただけである。規模は、焚口部から煙道部まで約145cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、第2層から粘土粒子・砂粒が検出され、赤変硬化していることから、第2層が天井部の崩落土と考えられる。第3層には多量の焼土ブロック・焼土粒子が含まれることから、下面が火床面と考えられる。火床部は、床面から約5cm掘りくぼめられており、皿状をしている。煙道は火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっていたと推測される。

竈土層解説

- 1 にぶい赤褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土小ブロック多量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量、ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物少量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量、ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物少量
- 4 暗赤褐色 ローム粒子・焼土小ブロック中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
- 5 暗赤褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
- 6 にぶい赤褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック・焼土小ブロック中量、焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
- 7 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量、炭化粒子中量、ローム粒子・炭化物・粘土粒子・砂粒少量

ピット 6か所 (P1~P6)。P1~P4は、径60~70cmの円形で、深さ52~58cmであり、いずれも規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は長径48cm、短径30cmの楕円形で、深さ36cmであり、P6は径80cmのほぼ円形で、深さ34cmである。P5とP6は隣接しており、南東壁際の中央部で検出されていることから、いずれも出入口施設に伴うピットと考えられる。



第424図 第945号住居跡実測図

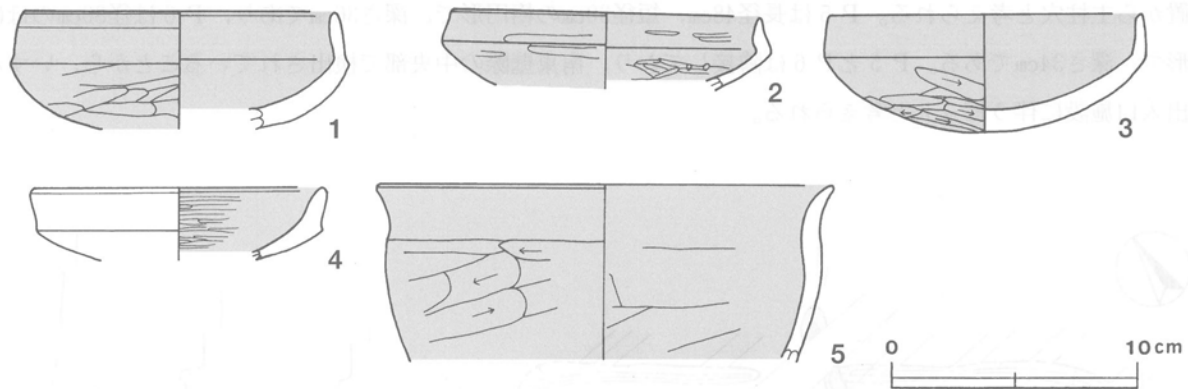
P1～P6土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 極暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 極暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子・灰少量
- 6 極暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量

覆土 床面がほぼ露出した状態で検出されたため、覆土はほとんどなく堆積状況は確認できなかった。

遺物 今回の調査では、土師器細片213点、須恵器片16点、陶器片4点、磁器片2点が出土している。図示した土器はすべて土師器である。第425図1・2の坏片は、東コーナー部の床面から出土している。3の坏片はP2の覆土中から、4の坏片はP4の覆土中からそれぞれ出土している。5の鉢片は、西コーナー部の床面から出土している。須恵器片、陶器片及び磁器片は、攪乱により混入したものと思われる。

所見 南部は平成9年度に調査が終了しており、その部分については、『茨城県教育財団文化財調査報告』第166集を参照されたい。時期は、出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第425図 第945号住居跡出土遺物実測図

第945号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第425図 1	坏 土師器	A [12.3] B (4.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り、内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母にぶい黄橙色普通	P8438 20%
2	坏 土師器	A [12.2] B (3.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面不定方向のヘラ削り、内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子にぶい黄橙色普通	P8439 5%
3	坏 土師器	A [12.8] B 4.7	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面不定方向のヘラ削り、内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子にぶい黄橙色普通	P8440 15%
4	坏 土師器	A [11.6] B (2.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内面横位のヘラ磨き、外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面横位のヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母にぶい橙色普通	P8441 5%
5	鉢 土師器	A [18.0] B (7.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面斜位のヘラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母にぶい黄橙色普通	P8442 5%

第1200号住居跡 (第426・428図)

位置 調査8区の南東部, N10g2区。

重複関係 中央部から北西部を第1213号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.80m, 短軸3.43mの長方形である。

主軸方向 N-27° - W

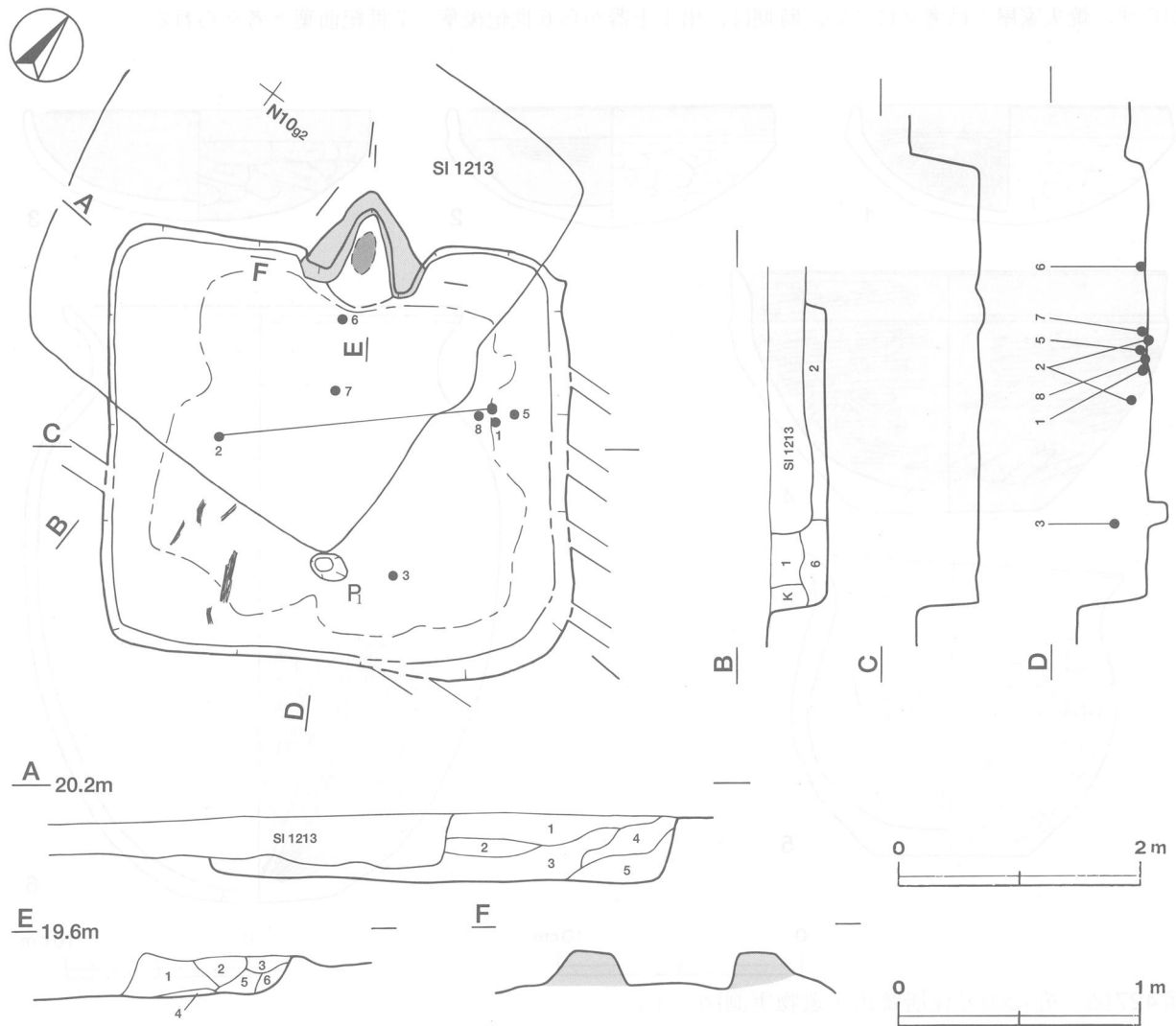
壁 壁高は50~57cmで, ほぼ直立する。

床 ほぼ平坦であり, 全体的に踏み固められている。

竈 北西壁の中央部を壁外に37cmほど掘り込み, 砂質粘土で構築されている。規模は, 焚口部から煙道部まで98cm, 両袖部幅109cmである。火床面は床面からわずかに掘りくぼめられ, 長径35cm, 短径20cmの楕円形を呈している。煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- 1 にぶい赤褐色 砂粒中量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
- 2 明褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
- 4 暗褐色 砂粒中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子, 焼土小ブロック・砂粒少量



第426図 第1200号住居跡実測図

ピット 1か所。P1は南東壁際に位置し、径約30cmのほぼ円形で、深さ19cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

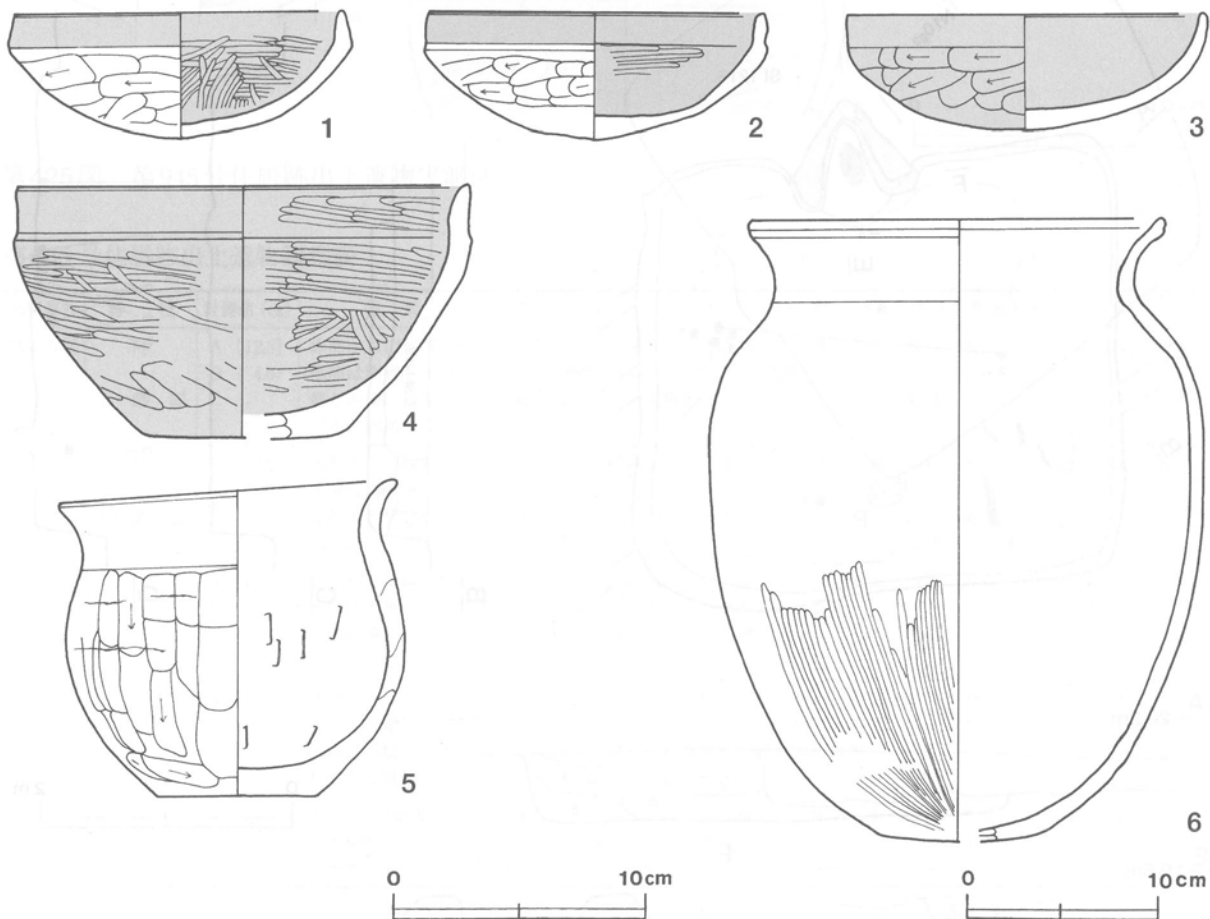
覆土 6層からなる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

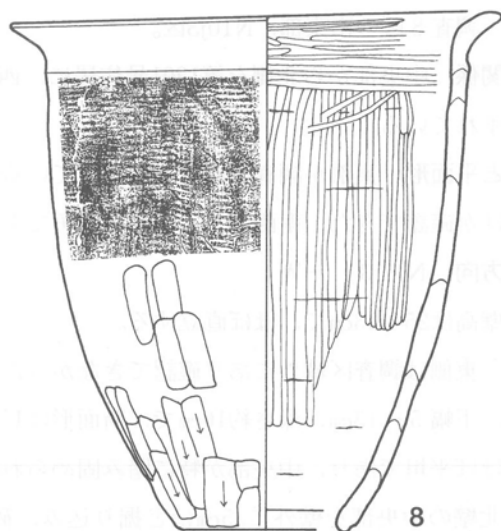
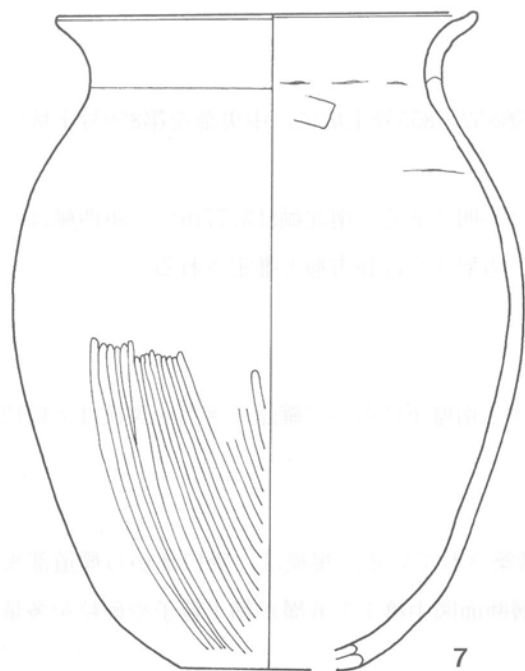
- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
- 3 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子・炭化物微量

遺物 土師器片445点，炭化材5点，攪乱により混入したとみられる須恵器片5点，磁器片2点が出土している。第427・428図に示した土器はいずれも土師器である。1～3は坏で，1は北東壁寄りの床面から正位で出土している。2は，東部の床面と中央部やや西寄りの床面から出土した破片が接合したものである。3は中央部寄りの覆土下層から正位で出土している。4の鉢は覆土中から出土している。5～7は甕である。5は北東壁寄りの覆土下層から横位で出土している。6は竈南側の床面直上から土圧でつぶれた状態で出土している。7は中央部の床面直上から斜位で出土している。8の甗は，北東壁の床面から正位で出土している。南コーナー部の床面から長さ45cm，径8cmの炭化材が1点，長さ15cm～22cm，径2cm～5cmの炭化材が4点出土している。

所見 本跡の床面から炭化材が出土しているが，出土量が少ないうえに焼土粒子や焼土ブロックは検出されておらず，焼失家屋とは考えにくい。時期は，出土土器から6世紀後葉～7世紀前葉と考えられる。



第427図 第1200号住居跡出土遺物実測図(1)



第428図 第1200号住居跡出土遺物実測図(2)

第1200号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第427図 1	坏 土師器	A 12.9	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。口縁部及び体部内面ヘラ磨き。内面及び口縁部外面黒色処理。	砂粒・石英・赤色粒子 にぶい褐色、普通	P 8203 95% P L 244
		B 4.9				
2	坏 土師器	A 13.1	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ヘラ磨き。内面及び口縁部外面黒色処理。	砂粒・石英・細礫 灰褐色 普通	P 8204 90% P L 244
		B 5.0				
3	坏 土師器	A 14.2	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英 褐灰色、普通	P 8205 90% P L 244
		B 4.5				
4	鉢 土師器	A [17.8]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に段をもつ。口縁部は直立する。	口縁部外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ヘラ磨き。内面丁寧なヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・細礫 にぶい赤褐色 普通	P 8206 40% P L 243
		B 10.0				
		C [8.0]				
5	甕 土師器	A 13.2	口縁部一部欠損。平底。小形。体部は倒卵形を呈し、頸部でくびれ、口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面輪積み痕を残す縦位のヘラ削り、内面ヘラナデ。	砂粒・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P 8207 90% P L 243
		B 12.6				
		C 6.3				
6	甕 土師器	A 21.4	底部から口縁部の破片。平底。体部は倒卵形を呈し、頸部でくびれ、口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部下半縦位のヘラ磨き、内面横位のナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 橙色、普通	P 8208 60% P L 244
		B 32.2				
		C [8.6]				
第428図 7	甕 土師器	A 21.6	底部から口縁部の破片。平底。体部は倒卵形を呈し、頸部でくびれ、口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部下半縦位のヘラ磨き、内面ヘラナデ。体部内面輪積み痕。	石英・長石・赤色粒子 橙色、普通	P 8209 60% P L 244
		B 34.5				
		C [9.2]				
8	甕 土師器	A 25.0	口縁部一部欠損。無底式。体部は外傾して立ち上がり、頸部から口縁部は緩やかに外反する。	口縁部外面横ナデ、内面横位のヘラ磨き。体部外面横位の平行叩き後、ヘラ削り。内面輪積み痕を残す縦位のヘラ磨き。	砂粒・石英・赤色粒子・細礫 橙色 普通	P 8210 95% P L 244
		B 27.3				
		C 8.7				

第1202号住居跡 (第429・430図)

位置 調査8区の南東部, N10j3区。

重複関係 中央部から北側を第1201号住居に, 西部の一部を第852・855号土坑に, 中央部を第859号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 東部が調査区域外に位置しているため, 全容は不明である。南北軸は3.77mで, 東西軸は2.77mだけが確認できた。南西コーナー部が直角であることから, 方形または長方形と推定される。

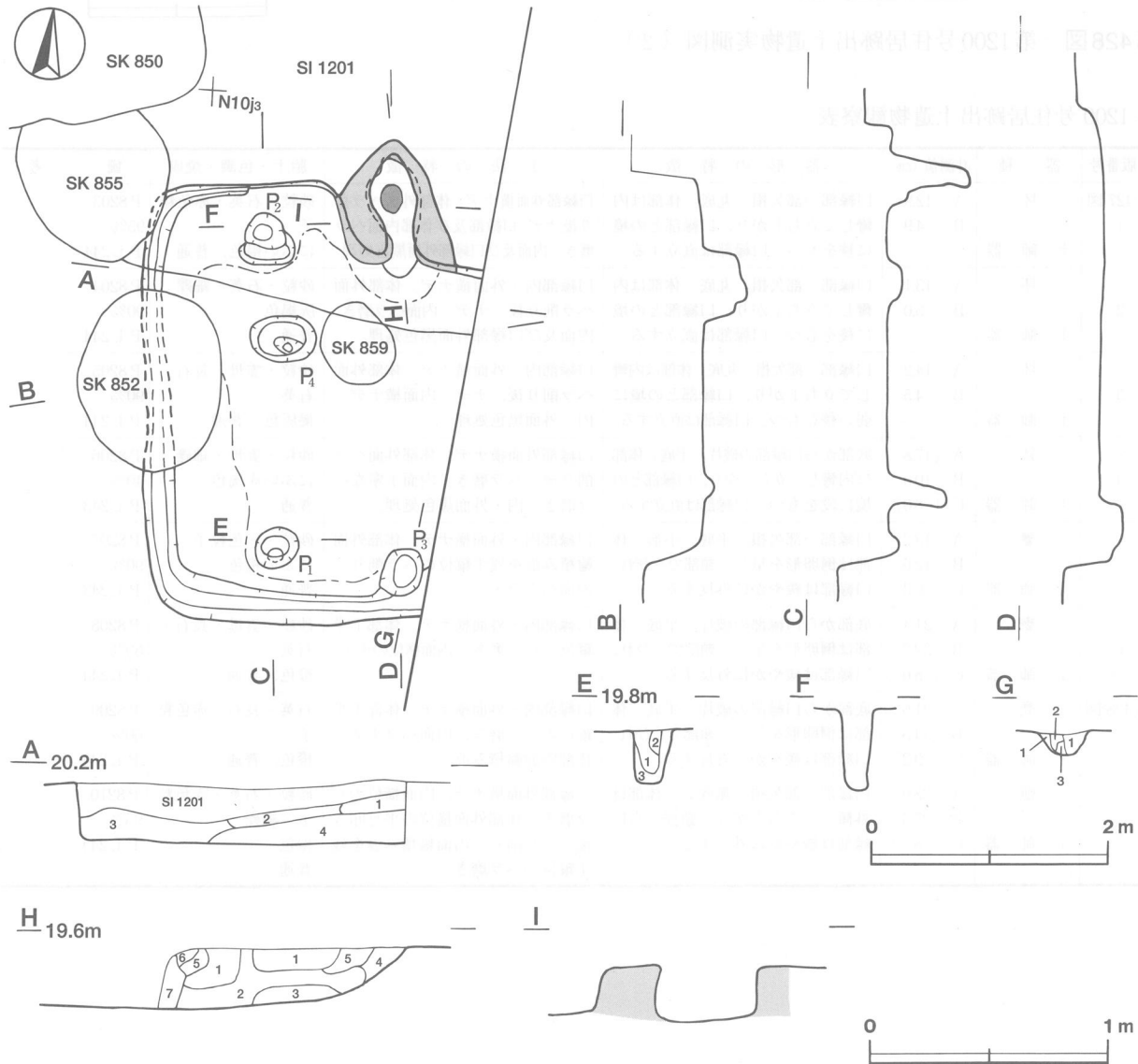
主軸方向 N - 3° - W

壁 壁高は25~43cmで, ほぼ直立する。

壁溝 東側は調査区域外にあり確認できなかったが, 北西壁下と南壁下において確認できた。規模は上幅12~36cm, 下幅5~13cm, 深さ約10cmで, 断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦であり, 中央部が特に踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外に35cmほど掘り込み, 砂質粘土で構築されている。規模は, 焚口部から煙道部まで118cm, 両袖部幅92cmである。天井部は崩落しており, 竈土層断面図中第1・6層が粘土粒子や砂粒を多量に



第429図 第1202号住居跡実測図

含むことから、崩落土と考えられる。第3層は焼土ブロック・焼土粒子を多く含み、下面が赤変硬化していることから、火床部と考えられる。煙道は外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗褐色 粘土粒子多量, ローム粒子・砂粒中量, ローム小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック少量
- 2 黒色 焼土粒子・炭化粒子多量, 焼土小ブロック・炭化物中量, ローム粒子・焼土中ブロック・粘土小ブロック・砂粒少量
- 3 赤黒色 焼土粒子多量, ローム粒子・焼土小ブロック・粘土粒子中量, 炭化粒子・粘土中ブロック・砂粒少量
- 4 赤褐色 焼土粒子多量, 焼土大ブロック・焼土小ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土大ブロック・焼土粒子多量, ローム粒子・炭化粒子少量
- 6 灰黄褐色 粘土粒子多量, 砂粒中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 7 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子少量, ローム中ブロック・焼土小ブロック微量

ピット 4か所 (P1~P4)。P1は南西コーナー寄りに位置し、径36cmの円形で、深さ50cmである。P2は北西コーナー寄りに位置し、長径50cm, 短径30cmの楕円形で、深さ72cmである。P1・P2は規模と位置から主柱穴と考えられる。P3は南壁際に位置し、径40cmの円形で、深さ23cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。P4は長径58cm, 短径42cmの楕円形で、深さ22cmである。性格は不明である。

P1・P3土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量

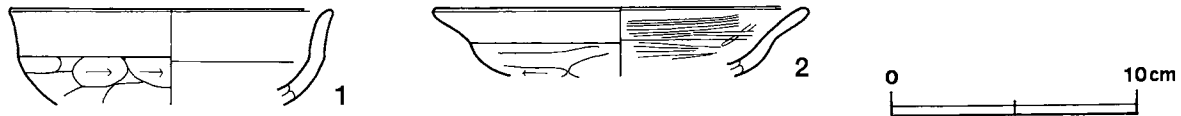
覆土 ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量
- 3 にぶい赤褐色 焼土粒子・砂粒中量, ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量, 焼土中ブロック・炭化粒子微量

遺物 土師器片108点, 攪乱により混入したとみられる須恵器片10点が出土している。第430図1の土師器坏と2の土師器高坏は、覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。



第430図 第1202号住居跡出土遺物実測図

第1202号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第430図 1	坏 土師器	A [12.8] B (3.8)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ, 内面横位のナデ。	砂粒・雲母にぶい褐色普通	P8212 10%
2	高坏 土師器	A [15.0] B (2.7)	坏部上半から口縁部の破片。坏部は内彎しながら立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部外面横ナデ。坏部外面ヘラ削り。口縁部及び坏部内面ヘラ磨き。	砂粒にぶい橙色普通	P8213 5%

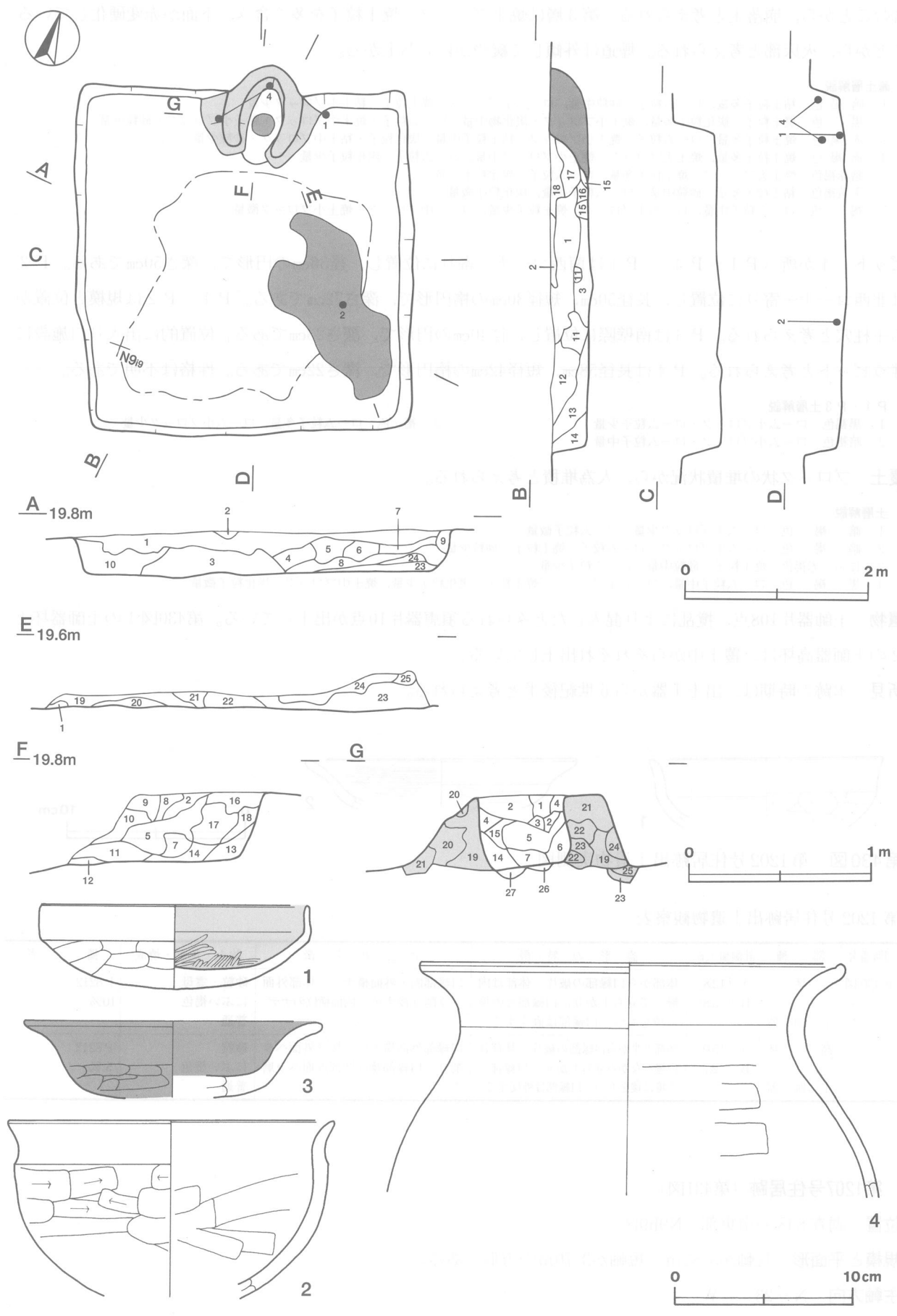
第1207号住居跡 (第431図)

位置 調査8区の南東部, N9h9区。

規模と平面形 長軸が3.82m, 短軸が3.70mの方形である。

主軸方向 N-23° - W

壁 壁高は35~45cmで、ほぼ直立する。



第431图 第1207号住居跡・出土遺物実測図

床 ほぼ平坦であり、全体的に踏み固められている。中央部から南東コーナー部にかけて、床面から焼土粒子や焼土ブロックが検出された。

竈 北壁の中央部を壁外に30cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで110cm、両袖部幅120cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図中第5・11・16～18層が粘土粒子を中量含むことから、崩落土と考えられる。袖部は砂粒を中量含んだ砂質粘土で芯を作り、それに黒褐色土を貼り付けて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火熱を受け赤変硬化している。煙道はほぼ直立する。

竈土層解説

1	黒褐色	色	ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量	13	暗褐色	色	ローム小ブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子微量
2	黒褐色	色	砂粒少量, ローム粒子微量	14	にぶい赤褐色	色	焼土粒子・粘土粒子中量, 焼土小ブロック少量
3	黒褐色	色	ローム粒子少量, ローム小ブロック微量	15	黒褐色	色	粘土粒子・砂粒中量, ローム粒子微量
4	黒褐色	色	ローム粒子・砂粒微量	16	黒褐色	色	粘土粒子中量, ローム小ブロック・砂粒少量
5	黄褐色	色	粘土小ブロック・粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量	17	黒褐色	色	粘土粒子中量, ローム小ブロック・砂粒少量
6	暗褐色	色	焼土小ブロック・粘土粒子少量, ローム小ブロック微量	18	にぶい赤褐色	色	ローム粒子・粘土粒子中量, 焼土粒子・砂粒少量
7	暗褐色	色	ローム小ブロック・粘土粒子・砂粒少量	19	にぶい赤褐色	色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量, 焼土粒子少量
8	暗褐色	色	粘土粒子・砂粒少量, 焼土粒子微量	20	黒褐色	色	焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
9	黒褐色	色	ローム小ブロック少量	21	暗赤褐色	色	ローム粒子・砂粒少量, 炭化粒子微量
10	黒褐色	色	ローム小ブロック・粘土小ブロック少量, 粘土粒子微量	22	にぶい黄褐色	色	砂粒・粘土粒子中量
11	黄褐色	色	粘土粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量	23	にぶい赤褐色	色	焼土粒子・粘土粒子中量, 砂粒少量
12	褐色	色	ローム小ブロック, 粘土粒子少量	24	にぶい赤褐色	色	焼土小ブロック・粘土粒子中量, 焼土粒子・砂粒少量
				25	暗赤褐色	色	炭化粒子・砂粒少量
				26	にぶい赤褐色	色	焼土粒子少量
				27	暗褐色	色	焼土粒子・粘土粒子少量

覆土 25層からなる。各層にロームブロックが比較的多く含まれていることや、不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。19層～25層は、焼土粒子や焼土ブロックが比較的多く含まれている層である。

土層解説

1	黒褐色	色	ローム小ブロック少量	13	褐色	色	ローム小ブロック・粘土小ブロック少量, ローム中ブロック微量
2	暗赤褐色	色	ローム小ブロック・焼土粒子少量	14	褐色	色	粘土小ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
3	暗褐色	色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック少量	15	にぶい黄褐色	色	粘土大ブロック・砂粒多量, ローム粒子少量
4	褐色	色	ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック微量	16	赤褐色	色	焼土小ブロック・焼土粒子中量
5	褐色	色	ローム小ブロック少量	17	黒褐色	色	ローム小ブロック・炭化物少量, 炭化粒子微量
6	黒褐色	色	ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック微量	18	黒褐色	色	ローム小ブロック・粘土小ブロック少量
7	暗褐色	色	ローム小ブロック少量	19	暗褐色	色	焼土小ブロック・炭化粒子微量
8	褐色	色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量	20	褐色	色	焼土粒子少量, 炭化粒子微量
9	褐色	色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量	21	黒褐色	色	焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
10	褐色	色	ローム小ブロック・ローム粒子少量	22	暗褐色	色	焼土粒子少量
11	褐色	色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量	23	褐色	色	焼土粒子・炭化粒子少量
12	褐色	色	ローム小ブロック・粘土小ブロック少量, 焼土粒子微量	24	にぶい赤褐色	色	焼土粒子中量, 炭化粒子微量
				25	にぶい赤褐色	色	焼土粒子中量, 焼土小ブロック, 炭化粒子少量

遺物 土師器片164点、攪乱により混入したとみられる須恵器片4点が出土している。第431図に示した土器はいずれも土師器である。1の坏は、竈東側の覆土下層と北東部の覆土中から出土した破片が接合したものである。2の碗は東壁寄りの覆土下層から、3の高坏は覆土中から出土している。4の甕は、竈内と竈西袖部側の覆土中層から出土した破片が接合したものである。

所見 本跡の床面から焼土粒子や焼土ブロックが検出されているが、柱材等の炭化材は検出されておらず、焼失家屋とは考えにくい。本跡が廃絶された後に投棄されたものと考えられる。時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。

第1207号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第431図 1	坏 土師器	A [14.6]	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面へラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・石英・赤色粒子 にぶい橙色、普通	P 8225
		B 4.6				P L244
2	碗 土師器	A [18.0]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面へラナデ。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P 8226
		B (9.8)				P L244

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第431図 3	高 坏 土 師 器	A [16.4] B (4.2)	坏部上半から口縁部の破片。坏部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面、坏部内面横ナデ。坏部外面ヘラ削り。内・外面赤彩。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P 8227 20%
4	甕 土 師 器	A [23.4] B (12.8)	体部上位から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部でくびれ、口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ、内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・ 石英・赤色粒子 にぶい橙色、普通	P 8228 20% P L 244

第1211号住居跡（第432～435図）

位置 調査8区の南西部，N8f5区。

規模と平面形 長軸4.96m，短軸4.80mの方形である。

主軸方向 N-4°-E

壁 壁高は26～53cmで，ほぼ直立する。

壁溝 北西壁下及び南西壁下で確認できた。規模は上幅16～24cm，下幅5～10cm，深さ約8cmで，断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦であり，中央部が特に踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外に20cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで108cm，両袖部幅123cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中第2・10層が粘土ブロックや砂粒を多量に含むことから，崩落土と考えられる。袖部は良好に遺存しており，粘土ブロックを多く含んだ砂質粘土で構築している。火床部は，床面をわずかに掘りくぼめた後，褐色土を貼り，造られている。火床面は火熱を受け，赤変硬化している。火床面から赤く焼けた土製支脚が立位の状態で出土している。煙道はほぼ直立する。

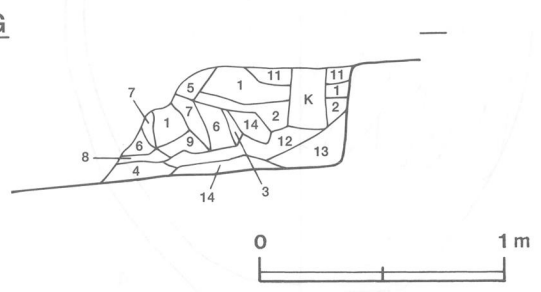
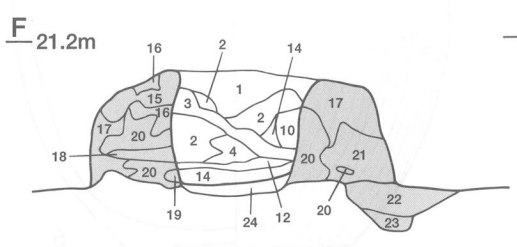
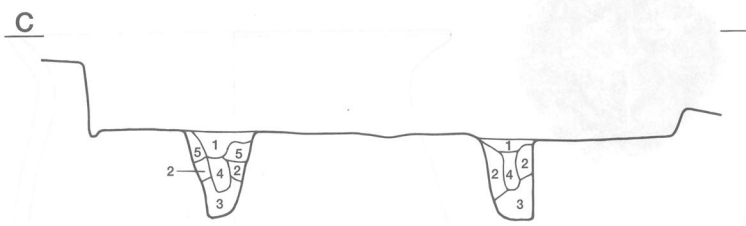
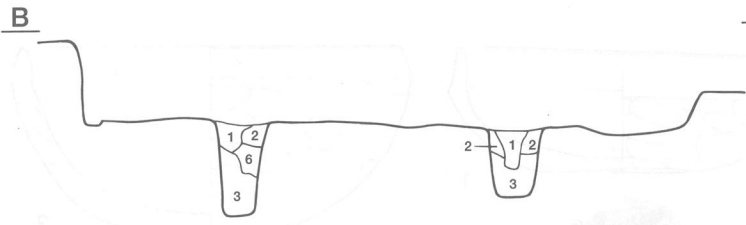
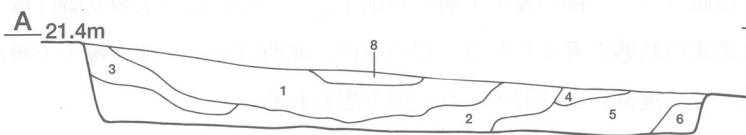
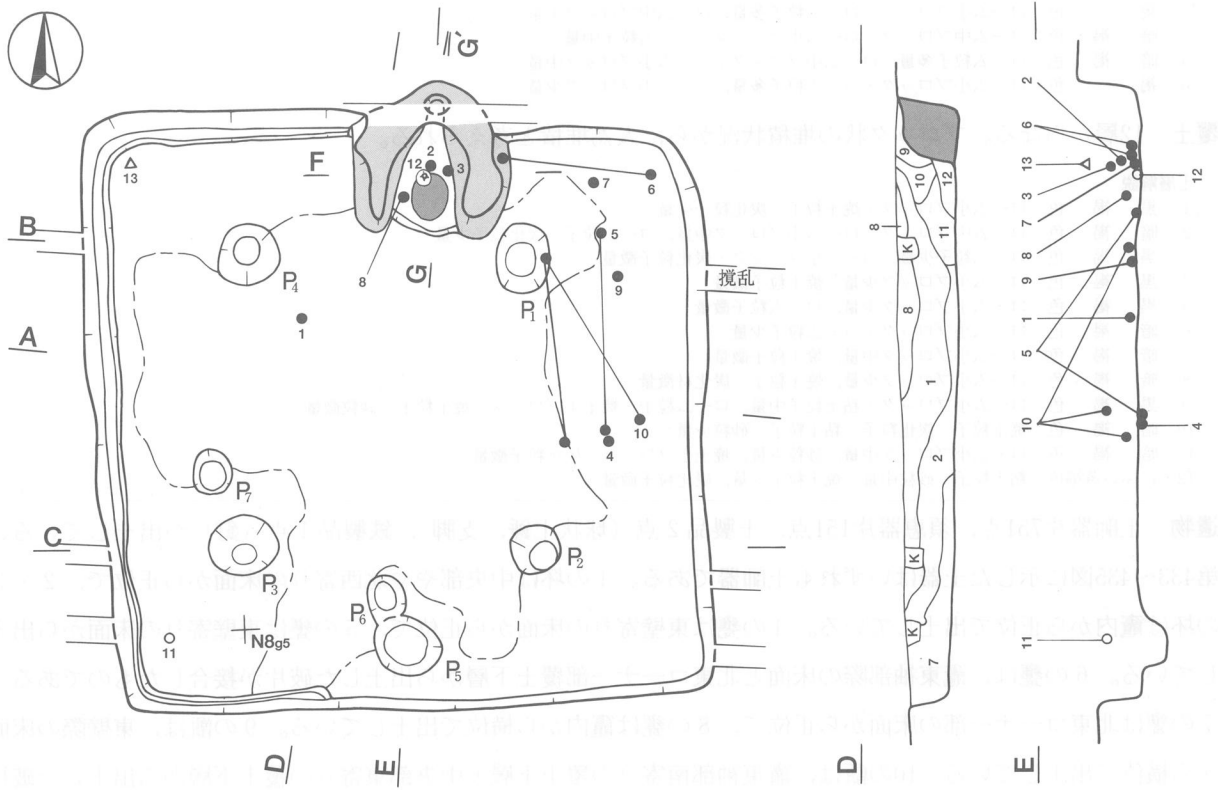
竈土層解説

- 1 黒 褐 色 粘土中ブロック多量，ローム小ブロック・ローム粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 にぶい黄褐色 粘土大ブロック多量，砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黒 褐 色 ローム小ブロック多量，ローム粒子・粘土小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
- 4 黒 褐 色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量，ローム粒子・炭化材・砂粒少量
- 5 暗 褐 色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・砂粒少量
- 6 暗 褐 色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・砂粒微量
- 7 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒微量
- 8 暗 褐 色 ローム粒子・焼土中ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック中量，炭化粒子・砂粒少量
- 9 黒 褐 色 焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量，砂粒微量
- 10 暗 褐 色 粘土小ブロック・砂粒中量，ローム粒子・炭化粒子少量
- 11 暗 褐 色 粘土粒子中量，ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 12 暗 褐 色 焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック中量，ローム粒子・焼土小ブロック・砂粒少量
- 13 暗 褐 色 粘土小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
- 14 極暗赤褐色 焼土中ブロック中量，焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
- 15 にぶい黄褐色 粘土粒子多量，砂粒中量，焼土小ブロック少量，炭化粒子微量
- 16 黒 褐 色 粘土粒子中量，炭化粒子少量
- 17 暗 褐 色 砂粒少量，ローム小ブロック微量
- 18 にぶい赤褐色 粘土粒子多量，焼土粒子・砂粒中量，炭化粒子少量，炭化物微量
- 19 にぶい赤褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
- 20 にぶい黄褐色 粘土大ブロック多量，砂粒中量，ローム粒子少量
- 21 にぶい黄褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック・粘土粒子・砂粒少量
- 22 にぶい黄褐色 ローム小ブロック中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土小ブロック・砂粒少量
- 23 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量，ローム中ブロック微量
- 24 褐 色 ローム粒子中量，炭化粒子少量

ピット 7か所（P1～P7）。P1～P4は各コーナーから中央部寄りに位置し，径41～57cmの円形で，深さ63～78cmである。規模と配置から支柱穴と考えられる。P5・P6は南壁際の中央部に位置し，それぞれ径35cm・50cmの円形で，深さ18cm・24cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。P7は中央部やや西寄りに位置し，径32cmの円形で，深さ21cmである。性格は不明である。

P1～P4土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム小ブロック多量，ローム中ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 褐 色 ローム大ブロック・ローム粒子多量



第432图 第1211号住居跡実測图

- | | | | | |
|---|---|---|------------------------------|------------------------------|
| 3 | 褐 | 色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック少量 | |
| 4 | 暗 | 褐 | 色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量 |
| 5 | 暗 | 褐 | 色 | ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック中量 |
| 6 | 褐 | 色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック少量 | |

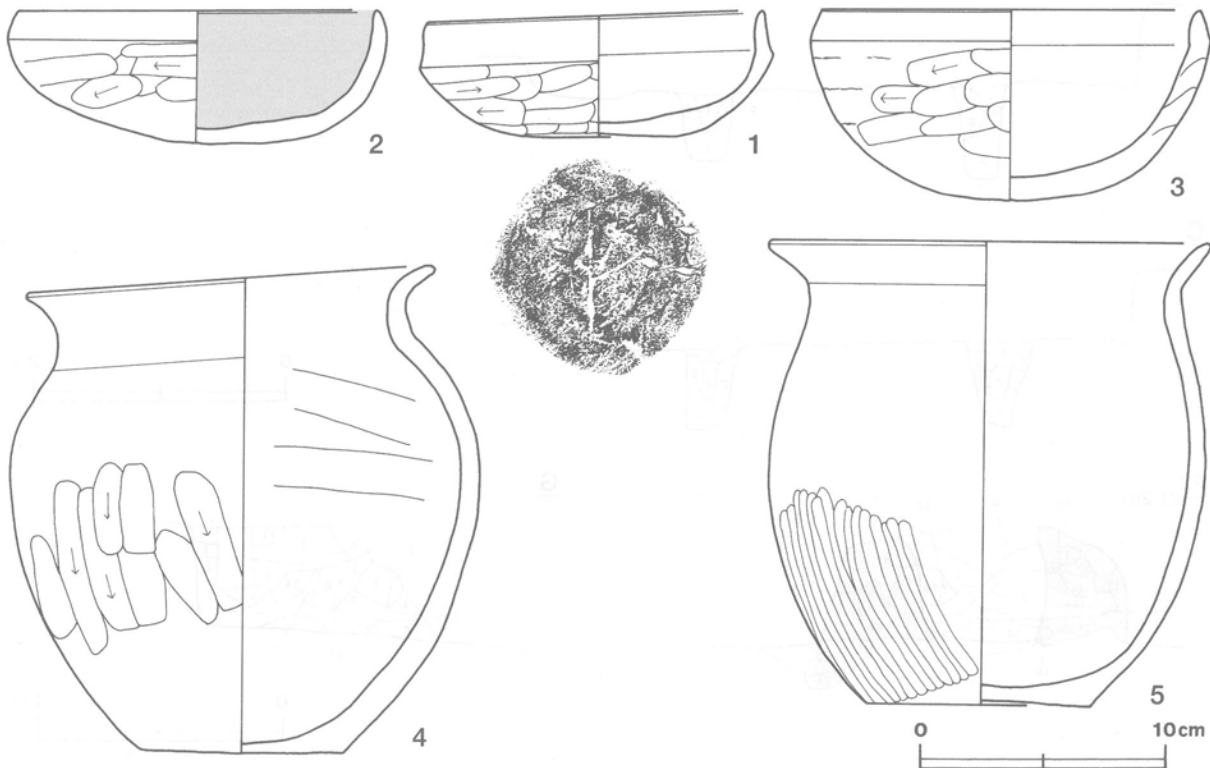
覆土 12層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

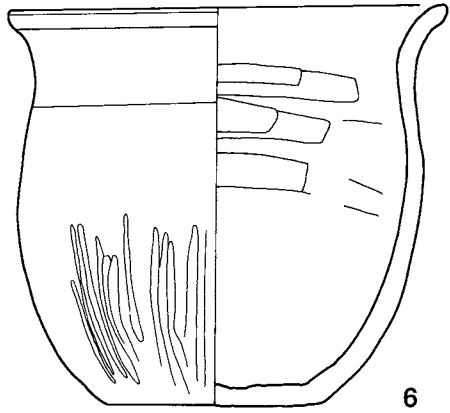
- | | | | | |
|----|-----|-----|---|--|
| 1 | 黒 | 褐 | 色 | ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 | 暗 | 褐 | 色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 3 | 黒 | 褐 | 色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 | 黒 | 褐 | 色 | ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 5 | 黒 | 褐 | 色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子微量 |
| 6 | 暗 | 褐 | 色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 7 | 暗 | 褐 | 色 | ローム小ブロック中量, 焼土粒子微量 |
| 8 | 暗 | 褐 | 色 | ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化材微量 |
| 9 | 黒 | 褐 | 色 | ローム小ブロック・粘土粒子中量, ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒微量 |
| 10 | 暗 | 褐 | 色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 |
| 11 | 暗 | 褐 | 色 | ローム小ブロック中量, 砂粒少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 12 | にぶい | 黄褐色 | | 粘土粒子・砂粒中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |

遺物 土師器片751点, 須恵器片151点, 土製品2点(球状土錘, 支脚), 鉄製品1点(釘)が出土している。第433~435図に示した土器はいずれも土師器である。1の坏は中央部やや北西寄りの床面から正位で, 2・3の坏は竈内から正位で出土している。4の甕は東壁寄りの床面から正位で, 5の甕は東壁寄りの床面から出土している。6の甕は, 竈東袖部際の床面と北東コーナー部覆土下層から出土した破片が接合したものである。7の甕は北東コーナー部の床面から正位で, 8の甕は竈内から横位で出土している。9の甕は, 東壁際の床面から横位で出土している。10の甕は, 竈東袖部南寄りの覆土下層と中央部東寄りの覆土下層から出土した破片が接合したものである。11の球状土錘は, 南西コーナー部の覆土上層から出土している。12の土製支脚は竈火床面から立位で出土しており, 使用されたままの状態と考えられる。13の釘は, 北西コーナー部の覆土上層から出土している。須恵器片のほとんどは細片で, 攪乱により混入したものである。

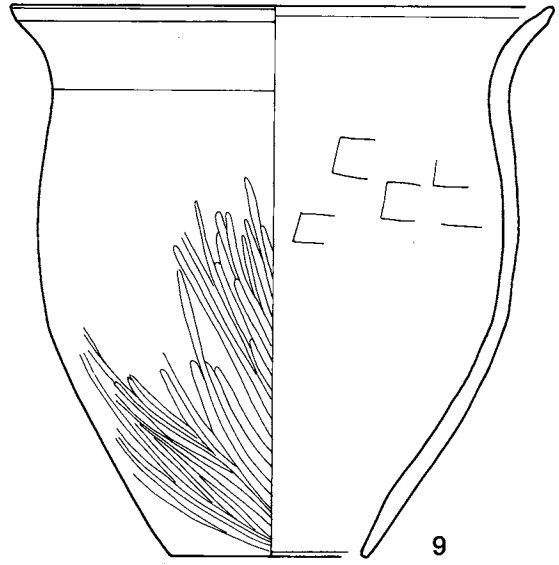
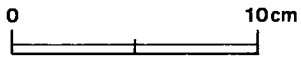
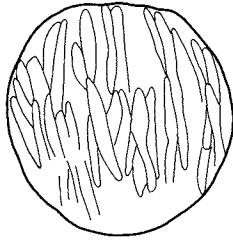
所見 本跡の時期は, 出土土器から6世紀後半と考えられる。



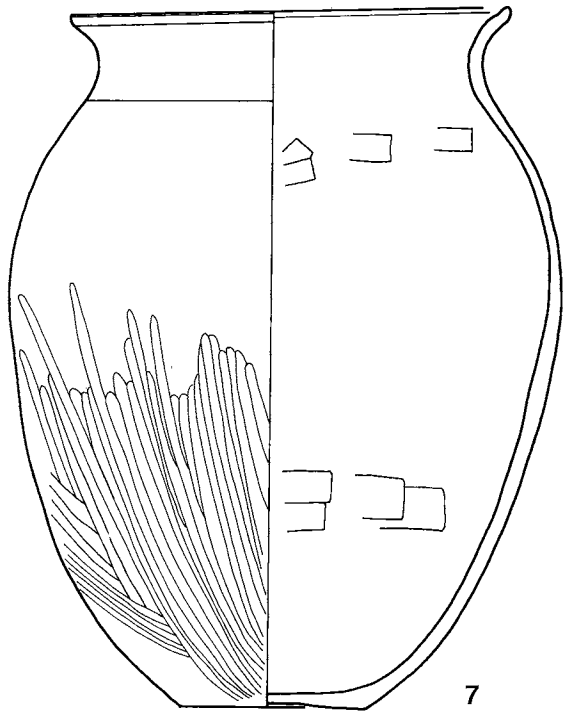
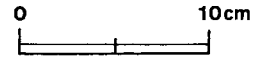
第433図 第1211号住居跡出土遺物実測図(1)



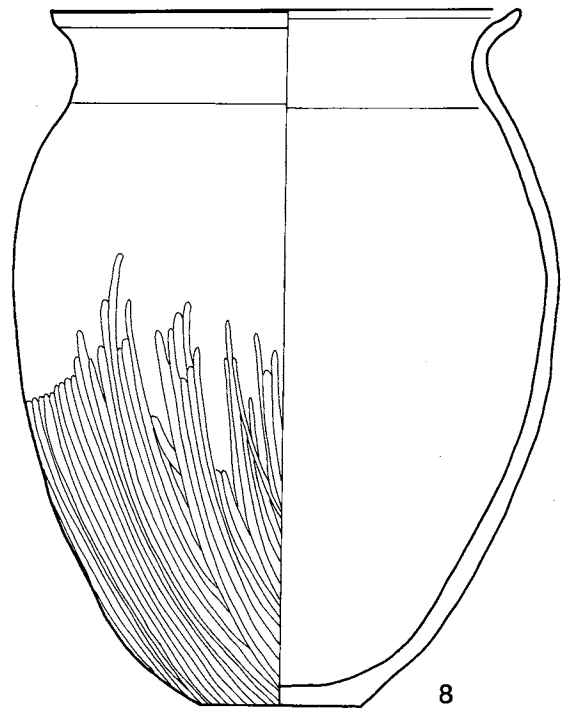
6



9



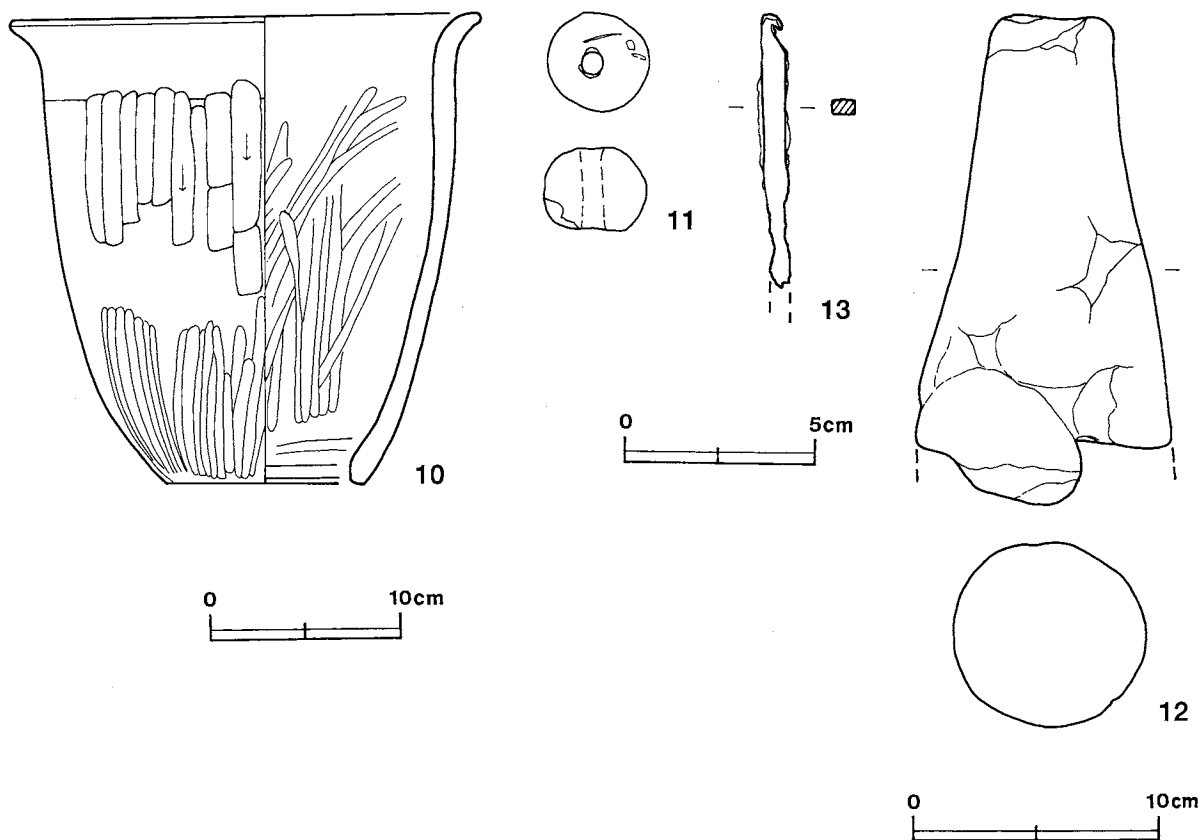
7



8



第434图 第1211号住居跡出土遺物実測図(2)



第435図 第1211号住居跡出土遺物実測図(3)

第1211号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第433図 1	坏 土師器	A 13.3	完形。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り、内面横ナデ。底部木葉痕。	砂粒・雲母・石英にぶい橙色普通	P 8246 100% P L 245
		B 5.0				
		C 5.1				
2	坏 土師器	A 14.4	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り、内面ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英 橙色、普通	P 8247 70% P L 245
		B 5.4				
3	碗 土師器	A [15.0]	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面輪積み痕を残すへら削り、内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子にぶい橙色、普通	P 8248 60% P L 245
		B 7.5				
4	甕 土師器	A 16.0	口縁部一部欠損。平底。体部は球形を呈し、頸部でくびれ、口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のへら削り、内面へらナデ。	砂粒・雲母・長石・石英にぶい赤褐色、普通	P 8249 95% P L 244
		B 19.4				
		C 8.0				
5	甕 土師器	A 17.2	底部・口縁部一部欠損。平底。体部は球形を呈し、頸部でくびれ、口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半ナデ、下半縦位のへら磨き。内面へらナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子にぶい橙色、普通	P 8250 70% P L 244
		B 18.4				
		C 9.0				
第434図 6	甕 土師器	A 17.0	底部から口縁部の破片。平底。体部は球形を呈し、頸部でくびれ、口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半ナデ、下半縦位のへら磨き。内面へらナデ。底部外面へら磨き。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 橙色、普通	P 8251 60% P L 244
		B 16.1				
		C 9.0				
7	甕 土師器	A 22.8	口縁部一部欠損。平底。体部は倒卵形を呈し、頸部でくびれ、口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半ナデ、下半縦位のへら磨き。内面へらナデ。	砂粒・雲母・長石・石英にぶい黄褐色、普通	P 8252 95% P L 245
		B 36.5				
		C 9.4				
8	甕 土師器	A 24.3	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は倒卵形を呈し、頸部でくびれ、口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半横ナデ、下半縦位のへら磨き。内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 橙色、普通	P 8253 90% P L 244
		B 36.2				
		C 8.4				
9	甗 土師器	A 24.2	体部・口縁部一部欠損。無底式。体部は内彎気味に立ち上がり、頸部から口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半へら削り、下半縦位のへら磨き。内面へら磨き。	砂粒・長石・石英・赤色粒子にぶい橙色、普通	P 8254 95% P L 245
		B 24.7				
		C 10.4				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第435図 10	甌 土師器	A [27.9]	底部から口縁部にかけての破片。無底式。体部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ磨き、内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・石英にぶい黄橙色普通	P 8255 60% P L 245
		B 28.9				
		C [10.1]				

図版番号	器種	計測値				特徴	胎土・色調	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第435図11	球状土錘	2.2	2.7	0.8	13.2	球体、ナデ、外面一部欠損	砂粒・長石、にぶい橙色	D P 8202 P L 253
12	土製支脚	(19.6)	4.4~10.2	—	(948)	下端は裾広がりがり。ナデ。	砂粒・長石・細礫、にぶい橙色	D P 8203 P L 253

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第435図13	釘	(7.2)	0.6	0.4	(21.5)	鉄	下半欠損、断面長方形。	M8203 P L 254

第1216号住居跡（第436・437図）

位置 調査8区の南西部，N8g1区。

重複関係 第74号掘立柱建物，第1034～1036号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸6.28m，短軸5.46mの長方形である。

主軸方向 N-15° -W

壁 壁高は9～12cmで，外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦であり，中央部が特に踏み固められている。

竈 北壁の中央部に付設されており，砂質粘土で構築されている。攪乱を受けており遺存状態は悪い。規模は焚口部から煙道部まで90cmと推定される。両袖部は遺存しており，袖部幅85cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さで，わずかに焼けて赤変している。

竈土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 2 にぶい赤褐色 焼土粒子多量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
- 3 にぶい赤褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量，炭化粒子少量
- 4 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量

ピット 5か所（P1～P5）。P1～P4は各コーナーのやや中央部寄りに位置し，径48～78cmの円形で，深さ31～66cmである。規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は南壁際の中央部からやや南西寄りに位置し，径45cmの円形で，深さ43cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

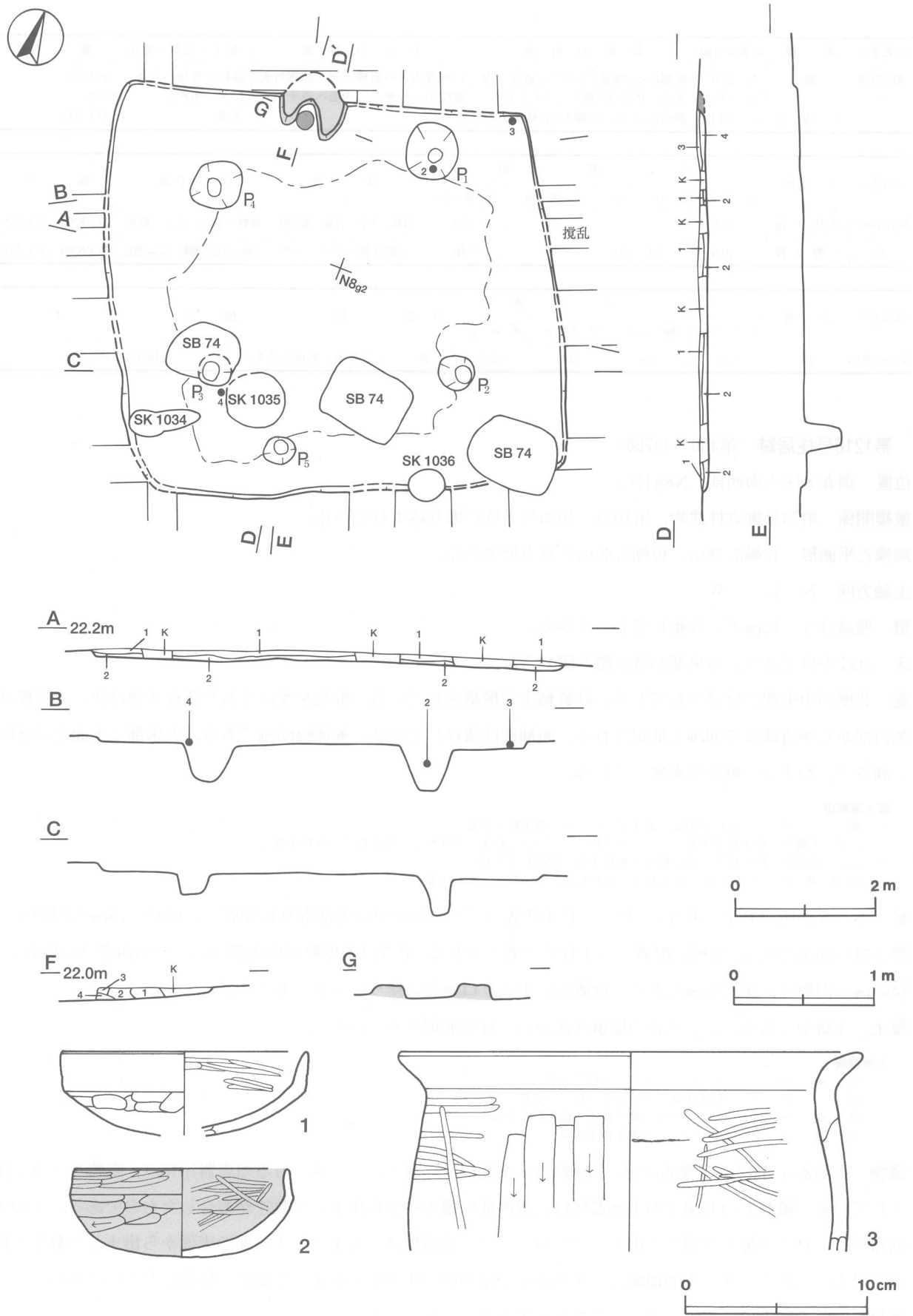
覆土 4層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説

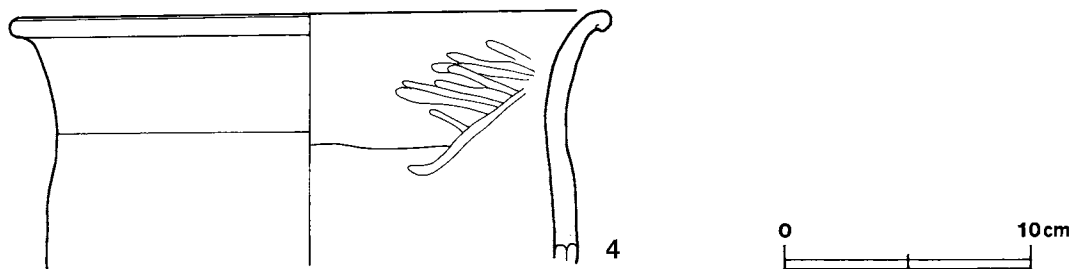
- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・焼土粒子少量

遺物 土師器片300点，土製品1点（支脚片），攪乱により混入したとみられる須恵器片18点，陶器片3点が出土している。第436・437図1の土師器甌は，南西部の覆土中から出土した数片が接合したものである。2の土師器甌は，P1の覆土下層から出土している。3の土師器甌は，北東コーナー部の床面から出土した数片が接合したものである。4の土師器甌は，中央部やや南西側の床面から出土した数片が接合したものである。

所見 本跡の時期は，出土土器から7世紀前半と考えられる。



第436图 第1216号住居跡・出土遺物実測図



第437図 第1216号住居跡出土遺物実測図

第1216号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第436図 1	坏 土師器	A [13.1] B (4.5)	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。口縁部下位に2条の沈線をもつ。	口縁部外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面へラ磨き。	砂粒・長石・石英にぶい橙色 普通	P 8263 20% P L 246
2	坏 土師器	A [11.6] B 4.8	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面へラ磨き。体部外面へラ削り後、へラ磨き。内面へラ磨き。内面及び口縁部外面黒色処理。	砂粒・長石・石英・雲母 浅黄橙色、普通	P 80068 60% P L 245
3	甌 土師器	A [24.6] B (10.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のへラ削り、一部へラ磨き。内面へラ磨き。体部内面輪積み痕。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい橙色、普通	P 8264 15% P L 245
第437図 4	甌 土師器	A [24.0] B (10.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、頸部から口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ、内面横位のナデ、一部へラ磨き。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 にぶい橙色、普通	P 8265 20% P L 245

第1219号住居跡 (第438~441図)

位置 調査8区の南西部、N8h1区。

重複関係 東部を第1220号住居に、南部を第1222号住居に掘り込まれている。また、第74号掘立柱建物にも掘り込まれている。

規模と平面形 長軸6.74m、短軸6.68mの方形である。

主軸方向 N-3°-E

壁 壁高は23cm~33cmでほぼ直立する。

壁溝 第1220号住居に掘り込まれている部分を除き、巡っている。規模は上幅12~24cm、下幅4~12cm、深さ約6cmで、断面形はU字形である。

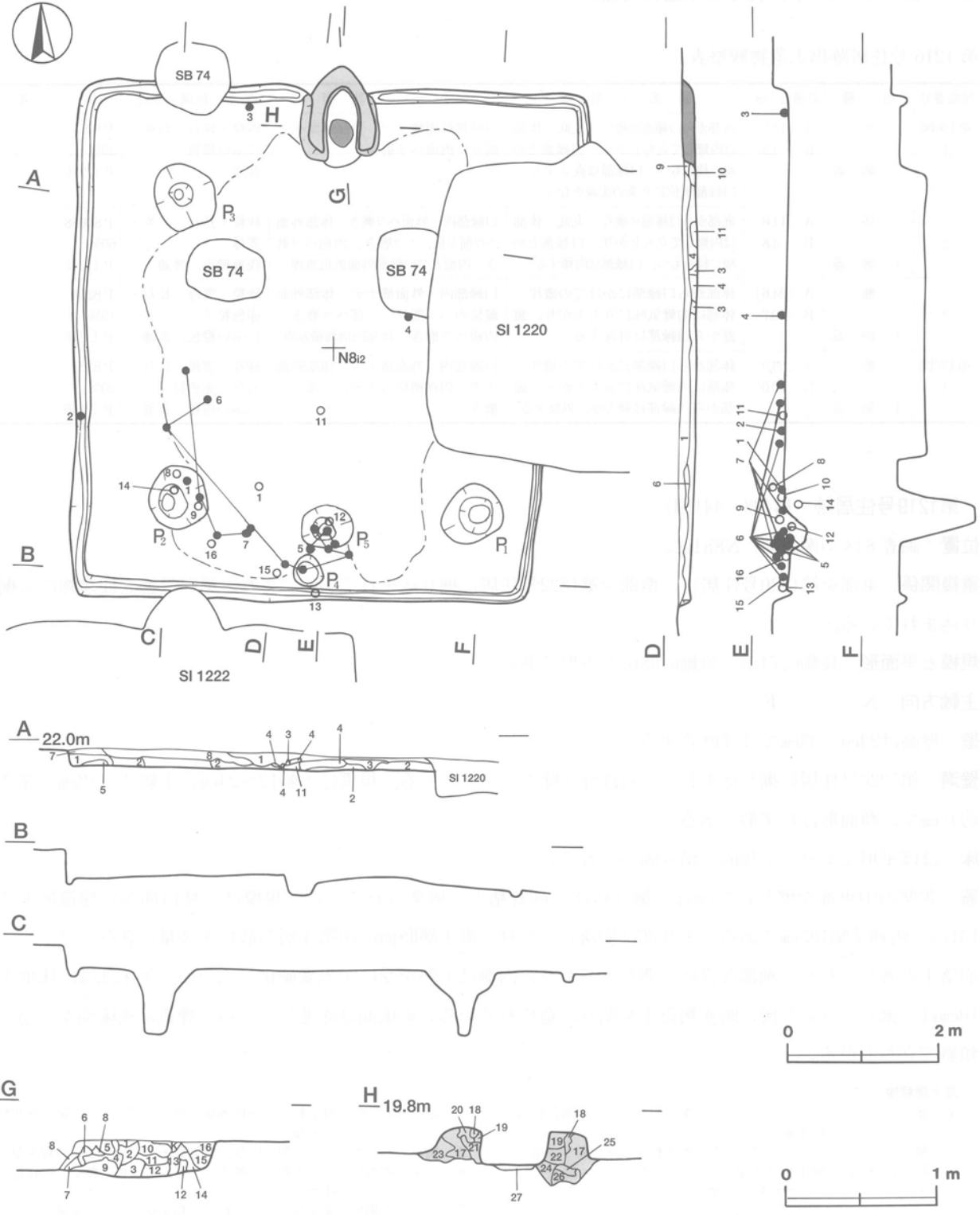
床 ほぼ平坦であり、全体的に踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外に25cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで131cm、両袖部幅105cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図中第4層が砂粒を多量に含むことから、崩落土と考えられる。袖部は良好に遺存しており、内側は火熱を受けて赤変硬化している。火床部は、床面を10cmほど掘りくぼめた後、暗赤褐色土を貼り、造られている。火床面は赤変している。煙道は火床面から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1 褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量	4 赤褐色	焼土粒子・砂粒多量、焼土小ブロック中量、炭化粒子少量
2 褐色	ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	5 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
3 暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量	6 にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
		7 にぶい赤褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量

- | | | | | | |
|----|--------|----------------------------------|----|--------|------------------------|
| 8 | にぶい赤褐色 | 砂粒中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 16 | 褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 9 | 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒少量 | 17 | 褐色 | 砂粒多量, 粘土粒子少量 |
| 10 | 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 18 | 明赤褐色 | 焼土粒子・砂粒多量, 粘土粒子中量 |
| 11 | にぶい赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子少量 | 19 | 黄褐色 | 粘土粒子・砂粒中量 |
| 12 | 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 砂粒中量, 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量 | 20 | にぶい黄褐色 | 粘土粒子・砂粒中量 |
| 13 | 暗褐色 | 砂粒中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 21 | にぶい赤褐色 | 焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒多量 |
| 14 | にぶい赤褐色 | 砂粒中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 | 22 | 暗褐色 | 焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量 |
| 15 | 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量 | 23 | 暗褐色 | 粘土粒子・砂粒少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| | | | 24 | 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量 |
| | | | 25 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |
| | | | 26 | 褐色 | ローム粒子少量, 粘土粒子微量 |
| | | | 27 | 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子少量 |



第438図 第1219号住居跡実測図

ピット 5か所 (P1～P5)。P1～P3は北東コーナーを除く各コーナーからやや中央部寄りに位置し、径78～82cmの円形で、深さ86～102cmである。規模と位置から支柱穴と考えられる。P4・P5は南壁の中央部に位置している。P4は径40cmの円形で、深さは30cmである。P5は、長径70cm、短径55cmの楕円形で、深さは33cmである。P4・P5は、位置的に入出口施設に伴うピットと考えられる。

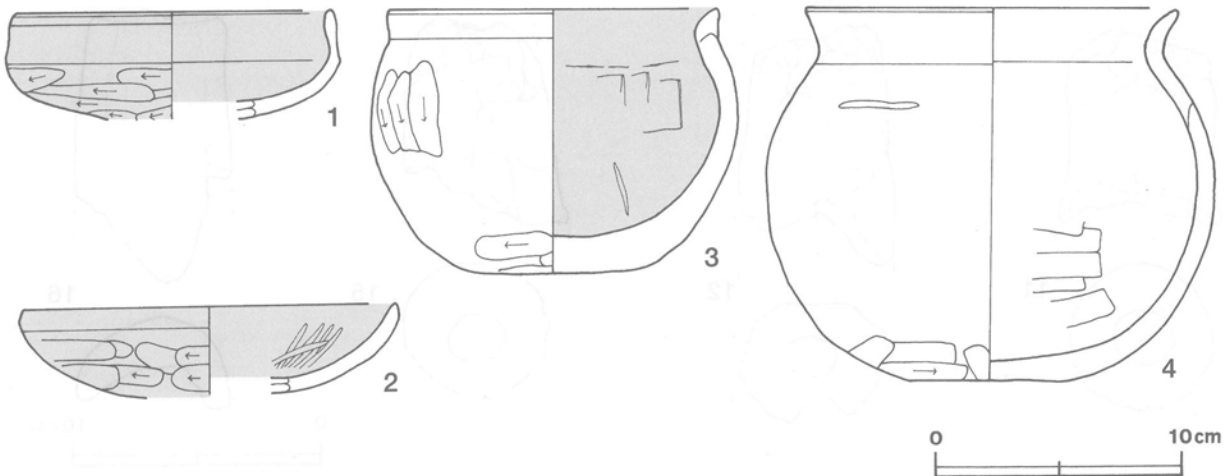
覆土 11層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

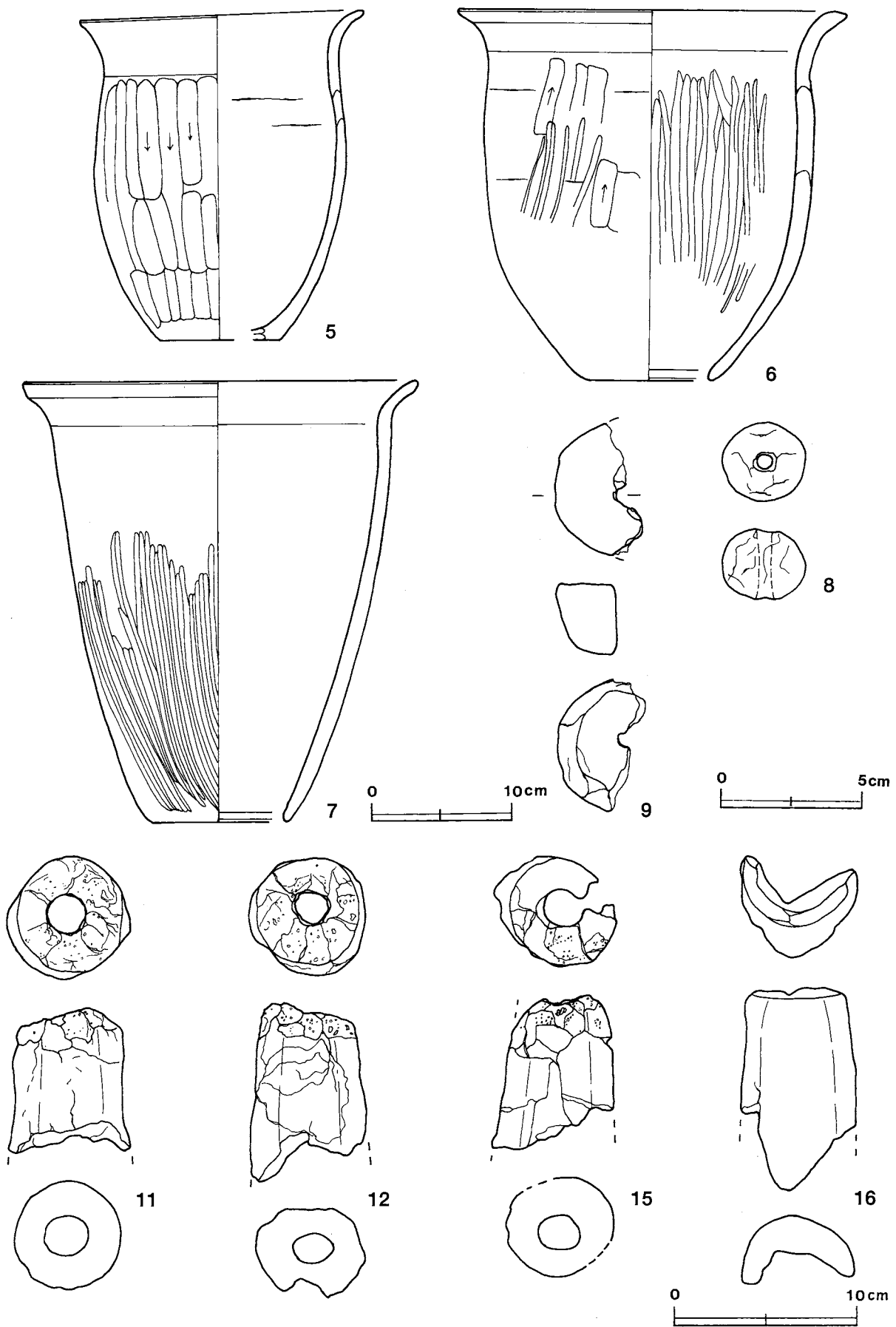
- 1 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 3 明褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量
- 4 黒褐色 粘土粒子・砂粒中量、ローム小ブロック少量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・炭化粒子少量
- 7 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 8 黒褐色 ローム小ブロック・焼土粒子少量
- 9 暗褐色 粘土粒子・砂粒中量、ローム小ブロック少量
- 10 暗赤褐色 ローム小ブロック、焼土粒子・炭化粒子少量
- 11 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子・粘土小ブロック微量

遺物 土師器片393点、土製品10点 (球状土錘1、鞆羽口8、紡錘車1)、攪乱により混入したとみられる須恵器片37点、陶器片1点が出土している。第439・440図1～7は土師器である。1の坏はP2の覆土上層から、2の坏は西壁際の床面からそれぞれ出土している。3の鉢は、竈西側の床面から一括で出土した破片が接合したものである。4の甕は、中央部の床面から正位で出土している。5の甕は、南壁寄りの床面から出土した破片数点が接合したものである。6の甕は、中央部やや南西側の床面と南壁際の床面から出土した破片が接合したものである。7の甕は、中央部やや西側の床面と中央部やや南側の床面から出土した破片が接合したものである。8の球状土錘は、南西部の覆土上層から出土したものである。9～15は、鞆羽口である。9・14はP2の覆土中層から、12はP5の覆土上層から斜位で出土している。10はP5の北西側の床面から横位で、15はP4の西側の床面から出土した破片数点が接合したものである。11は中央部の床面から、13は南壁際の床面から横位で出土している。16の紡錘車は、南西部の床面から出土している。

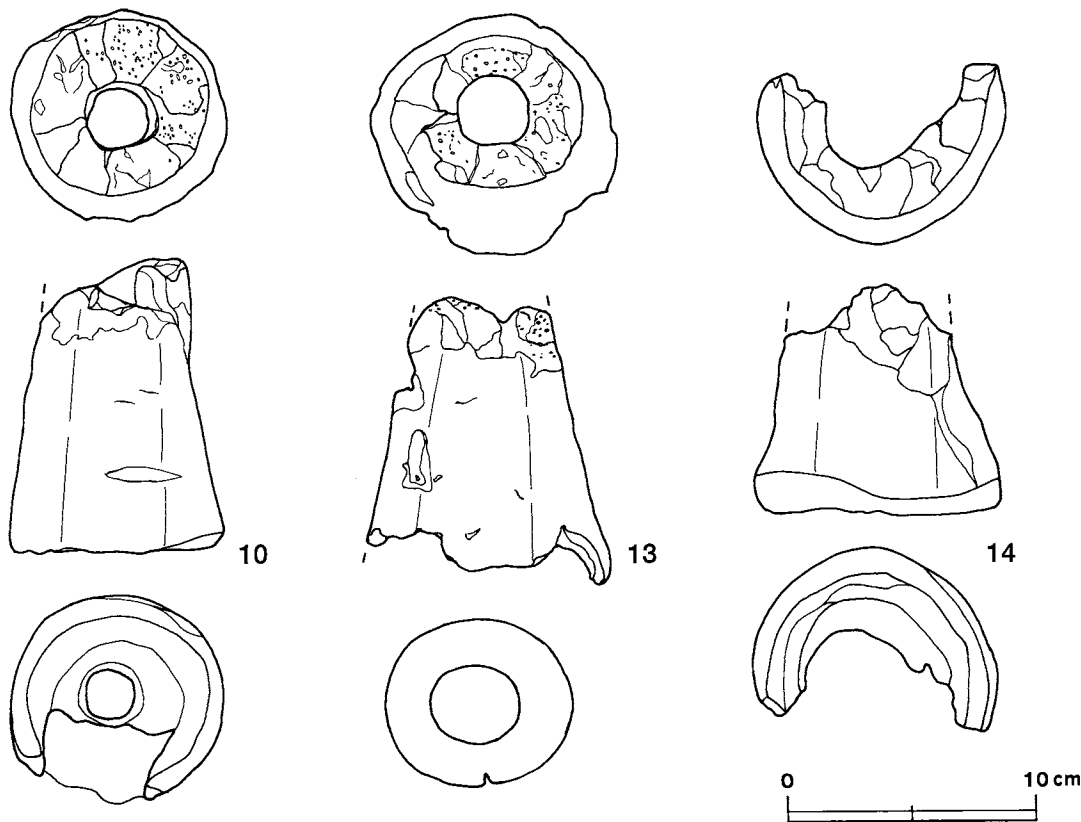
所見 本跡の時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。鞆羽口が出土しているが、鍛冶炉等は確認されていない。出土地点は、P2・P5の覆土中とその周辺に集中しており、本跡の廃絶直後に投棄されたものと考えられる。



第439図 第1219号住居跡出土遺物実測図 (1)



第440图 第1219号住居跡出土遺物実測図(2)



第441図 第1219号住居跡出土遺物実測図(3)

第1219号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第439図 1	坏 土師器	A [12.6] B (4.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後、ナデ。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・石英にぶい橙色普通	P 8268 10%
2	坏 土師器	A [14.8] B (3.5)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は内彎気味に直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後、ナデ。内面へら磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石にぶい黄橙色普通	P 8269 10% P L 246
3	鉢 土師器	A [12.9] B 10.4 C [6.4]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位縦位のへら削り、下端横位のへら削り。内面へらナデ。	砂粒・石英・小礫 灰赤色普通	P 8270 50% P L 245
4	甕 土師器	A [14.6] B 14.7 C 6.6	底部から口縁部の破片。平底。体部は球形で、頸部から口縁部にかけて緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位摩滅により調整不明、下位横位のへら削り。内面へらナデ。	砂粒・雲母・長石にぶい黄橙色普通	P 8271 50% P L 246
第440図 5	甕 土師器	A 19.6 B 23.3 C [8.4]	底部から口縁部の破片。平底。体部は長胴形を呈し、頸部から口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り、内面輪積み痕を残すナデ。	砂粒・雲母・長石にぶい黄褐色普通	P 8272 50% P L 245
6	甌 土師器	A 26.8 B 26.1 C [8.8]	底部一部欠損。無底式。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後、輪積み痕を残すへら磨き。内面縦位のへら磨き。	砂粒・長石・石英・赤色粒子・小礫 橙色、普通	P 8273 70% P L 245
7	甌 土師器	A 27.4 B 31.1 C [9.4]	底部から口縁部の破片。無底式。体部は外傾して立ち上がり、頸部から口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半部ナデ、下半部縦位のへら磨き。内面横位のナデ。	砂粒・雲母・長石・石英にぶい橙色、普通	P 8274 50% P L 245

図版番号	器種	計測値				特徴	胎土・色調	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第440図8	球状土錘	3.0	2.5	0.6	19.1	球体、ナデ、外面黒斑有。	砂粒・長石、にぶい褐色	DP 8204 100% P L 253

図版番号	器種	計測値				特徴	胎土・色調	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第440図9	紡錘車	(4.75)	(2.55)	(0.5)	(30.6)	断面逆台形。外面黒斑有。	砂粒・石英、にぶい褐色	D P 8213 50% P L 253
第441図10	鞆羽口	8.5	11.7	2.2~6.8	(440)	鞆側がラッパ状に開く。先端部黒色ガラス質滓附着。	砂粒・長石・石英・小礫、にぶい橙色	D P 8205 80% P L 253
第440図11	鞆羽口	6.6	(7.8)	2.0~2.9	(212)	先端部破片。黒色ガラス質滓附着。ナデ。	砂粒・石英・小礫にぶい黄橙色	D P 8206 40% P L 253
12	鞆羽口	6.4	(9.5)	1.7~2.1	(193)	先端部破片。黒色ガラス質滓附着。ナデ。	砂粒・石英・小礫橙色	D P 8207 40% P L 253
第441図13	鞆羽口	9.6	(11.4)	2.7~3.4	(313)	鞆側欠損。黒色ガラス質滓附着。ナデ。	砂粒・長石・小礫にぶい橙色	D P 8208 70% P L 253
14	鞆羽口	9.6	(9.1)	(3.5)	(222)	先端部欠損。鞆側がラッパ状に開く。ナデ。	砂粒・石英・小礫にぶい橙色	D P 8209 40% P L 253
第440図15	鞆羽口	5.8	(8.1)	2.1~2.5	(116)	先端部破片。黒色ガラス質滓附着。ナデ。	砂粒・小礫にぶい橙色	D P 8211 30% P L 253
16	鞆羽口	(6.2)	(10.8)	—	(149)	先端部破片。内面摩滅で口径不明。外面ナデ。	砂粒・長石・石英・小礫、橙色	D P 8212 30% P L 253

第1224号住居跡 (第442~444図)

位置 調査8区の南西部, O8d2区。

重複関係 北部が第1225号住居と第71号掘立柱建物に, 東部が第1226・1230号住居に, 南部が第70号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸9.26mである。短軸は, 東部の大半が第1226・1230号住居に掘り込まれているため, 掘り込まれていない床の残存部分から8.00mであり, 平面形は長方形と推定した。

主軸方向 N-12°-E

壁 確認できた北壁と西壁・南壁の壁高は7~34cmで, 外傾して立ち上がる。東壁は確認できなかった。

壁溝 西壁際の一部と南壁際の一部で検出された。規模は上幅12~26cm, 下幅4~10cm, 深さ5cmで, 断面形はU字形をしている。北部及び東部は, 重複する住居に掘り込まれているため確認できなかった。

床 確認できた西部は, ほぼ平坦で, 全面が踏み固められている。

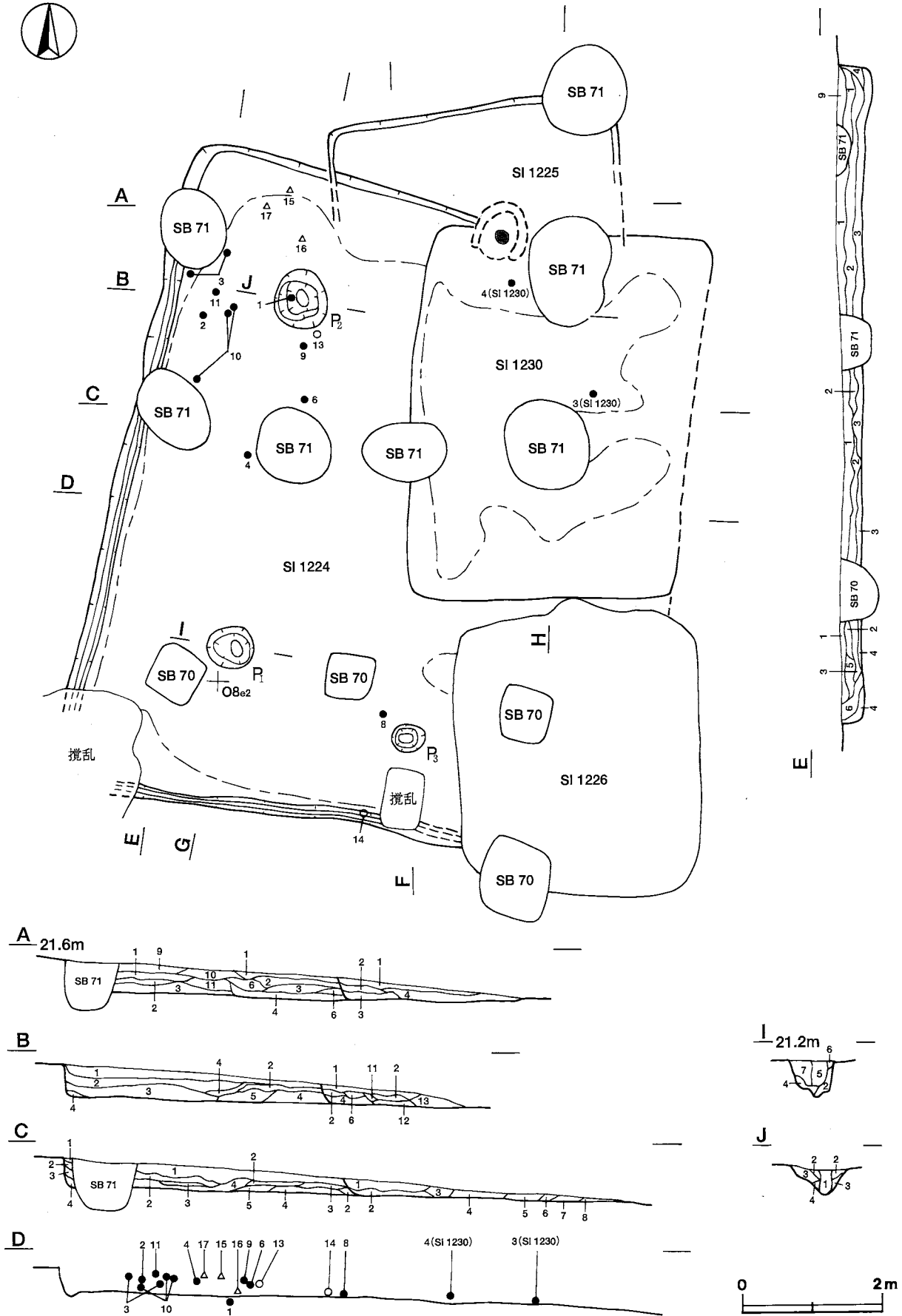
竈 北壁中央やや東寄りで, 赤変硬化した火床部と袖部の痕跡と思われる砂質粘土が検出された。火床部は, 現状で約25cmの円形をしている。

ピット 3か所 (P1~P3)。P1・P2は, 径63・80cmの円形で, 深さ76・70cmである。P1は南西コーナー寄りに, P2は北西コーナー寄りにそれぞれ位置しており, 規模と配置から主柱穴と考えられる。P3は, 長軸44cm, 短軸39cmの隅丸方形で, 深さ54cmである。南壁際の中央部に位置していることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。P2の第1層は柱を抜き取った痕と思われる。P1・P3では確認できなかった。

P1~P3土層解説

- | | |
|---------------------------|--------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック微量 | 5 褐色 ローム小ブロック中量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化物微量 | 6 褐色 ローム小ブロック少量 |
| 3 褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量 | 7 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量 |
| 4 暗褐色 ローム小ブロック少量 | 8 暗褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック少量 |

覆土 11層からなる。土層断面図中, 第1・2層は層位に乱れがなく, 自然的な堆積状況である。それ以外の層はブロック状の堆積状況をしており, 人為堆積と考えられる。



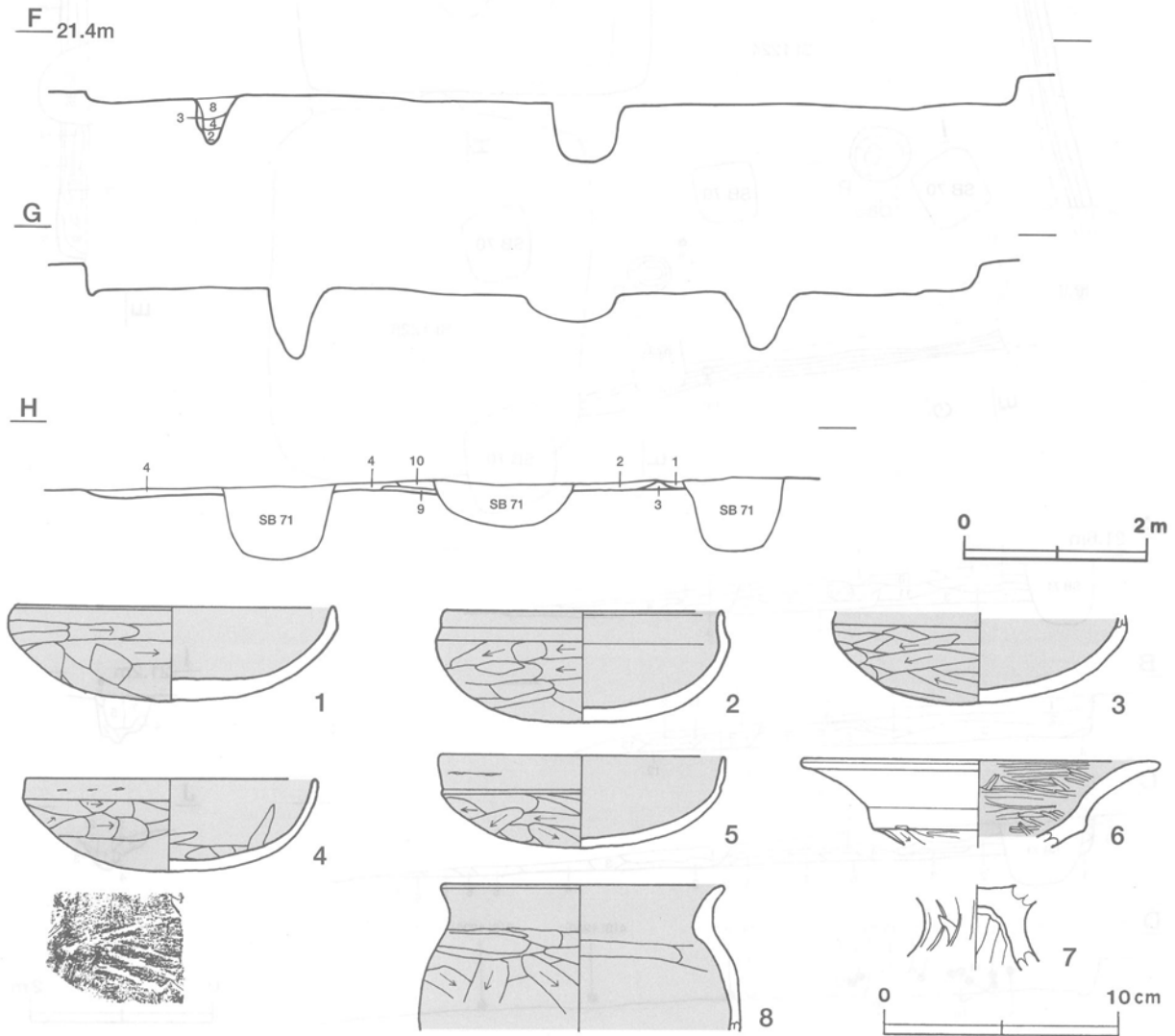
第442图 第1224·1225·1230号住居跡実測图

土層解説

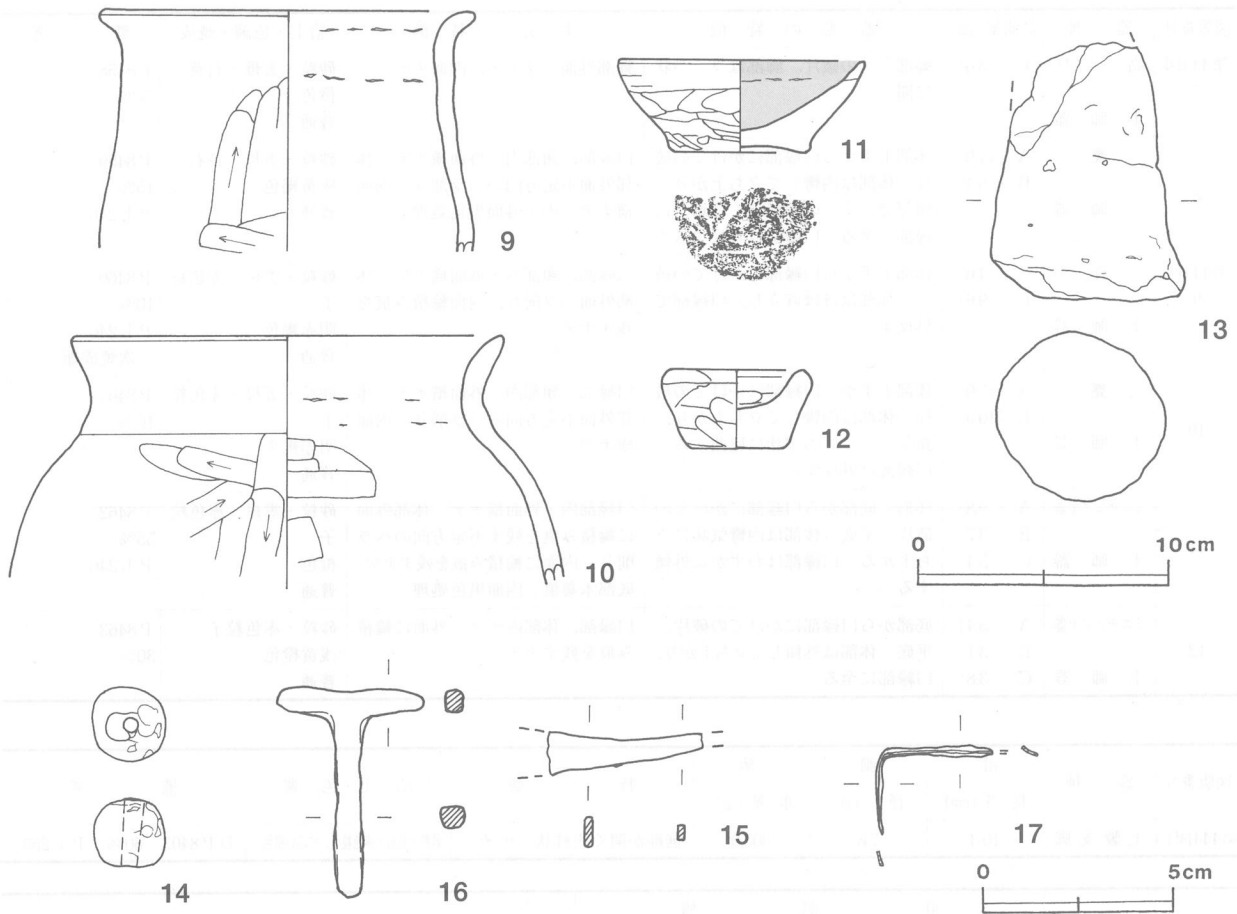
- | | | | |
|-------|---|--------|-------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量, 焼土小ブロック微量 | 7 褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック少量, 焼土粒子・炭化物少量 | 8 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量, 炭化物微量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量 |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック中量, 焼土粒子少量 | 10 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量, 炭化物微量 |
| 6 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック少量 | | |

遺物 土師器片1087点, 須恵器片45点, 土製品2点(支脚1, 土玉1), 鉄器・鉄製品3点(刀子1, 不明鉄製品2)が出土している。図示したものはすべて土師器である。第443図1の坏は, P2の覆土中から逆位で出土している。2・3の坏は, 北西コーナー部の覆土下層から, 2が逆位で, 3が正位で出土している。5の坏, 7の高坏, 12のミニチュア土器は覆土中から出土している。4の坏, 11のミニチュア土器は, 西部の覆土下層から出土している。6の高坏, 9の甕, 10の甕, 13の土製支脚は, 北西部の覆土下層から出土している。8の甕片は, 南部の床面から出土している。14の土玉は, 南壁際の中央部の床面から出土している。15の刀子・17の不明鉄製品は北西コーナー覆土下層から, 16の不明鉄製品は北西コーナー部の床面から, それぞれ出土している。須恵器片は, 覆土上層から出土しており, 攪乱による混入と考えられる。

所見 本跡の時期は, 出土土器から7世紀前半と考えられる。



第443図 第1224・1225・1230号住居跡実測図, 第1224号住居跡出土遺物実測図



第444図 第1224号住居跡出土遺物実測図

第1224号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第443図 1	坏	A 13.7	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面不定方向のヘラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子にふい橙色普通	P 8452 60% P L 246
	土師器	B 3.9				
2	坏	A [10.5]	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り、内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子にふい赤褐色普通	P 8453 60% P L 246
	土師器	B 4.6				
3	坏	B (3.8)	底部から口縁部にかけての破片。端部破損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母赤褐色普通	P 8454 60%
	土師器					
4	坏	A 12.2	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	石英・雲母・赤色粒子にふい橙色普通	P 8456 50% P L 246
	土師器	B 3.9				
5	坏	A 12.0	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面不定方向のヘラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子にふい橙色普通	P 8455 70% P L 246
	土師器	B 3.9				
6	高坏	A [14.8]	坏部片。坏部下端に稜をもつ。口縁部は外反して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部外面横ナデ、内面横位のヘラ磨き。体部外面ヘラナデ、内面横位のヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子にふい橙色普通	P 8457 10%
	土師器	B (3.6)				

図版番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第443図 7	高 坏 土 師 器	B (3.6)	脚部上半の破片。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面ヘラナデ、内面ナデ。	砂粒・雲母・石英 橙色 普通	P 8458 5%
8	甕 土 師 器	A [11.6] B (6.4)	体部上半から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部で「く」の字状にくびれ、口縁部に至る。口縁部は外反する。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面不定方向のヘラ削り、内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 灰黄褐色 普通	P 8459 15% P L 246
第444図 9	鉢 土 師 器	A [14.6] B (9.6)	体部上半から口縁部にかけての破片。体部はほぼ直立し、口縁部で外反する。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面輪積み痕を残すナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 明赤褐色 普通	P 8460 10% P L 246 二次焼成甌カ
10	甕 土 師 器	A [17.0] B (10.0)	体部上半から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部で「く」の字状に屈曲する。口縁部は外反する。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面不定方向のヘラ削り、内面横ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 明赤褐色 普通	P 8461 10%
11	ミニチュア土器 土 師 器	A [9.8] B 3.7 C 5.4	坏形。底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面に輪積み痕を残す不定方向のヘラ削り、内面に輪積み痕を残すナデ。底部木葉痕。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色 普通	P 8462 55% P L 246
12	ミニチュア土器 土 師 器	A [5.4] B 3.1 C 3.8	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内ナデ、外面に輪積み痕を残すナデ。	砂粒・赤色粒子 浅黄褐色 普通	P 8463 30%

図版番号	器 種	計 測 値			特 徴	胎 土 ・ 色 調	備 考
		長さ (cm)	径 (cm)	重量 (g)			
第444図13	土製支脚	10.3	7.8	308.0	裾部が開く円柱状。ナデ。	砂粒・長石・赤色粒子、にぶい褐色	D P 8403 60% P L 253

図版番号	器 種	計 測 値				特 徴	胎 土 ・ 色 調	備 考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第444図14	土 玉	2.0	1.9	0.5	(6.3)	球体。ナデ。	砂粒・長石・赤色粒子 にぶい褐色	D P 8406 100% P L 253

図版番号	器 種	計 測 値					材 質	特 徴	備 考
		全長 (cm)	茎長 (cm)	幅 (cm)	重ね (cm)	重量 (g)			
第444図15	刀 子	(4.2)	(4.2)	(1.3)	(0.3)	(3.5)	鉄	茎部の破片。	M 8422 10% P L 254

図版番号	器 種	計 測 値				材 質	特 徴	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第444図16	不明鉄製品	5.6	3.9	0.6~0.7	12.8	鉄	T字形で、断面は正方形。	M 8407 P L 254
17	不明鉄製品	2.3	(3.1)	0.1	(1.2)	鉄	中央部で屈曲し、端部は尖る。	M 8408

第1230号住居跡 (第442・443・445図)

位置 調査8区の南西部，O8d3区。

重複関係 第1224号住居跡を掘り込み，北部が第1225号住居，第71号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と平面形 東部は床面が露出した状態で確認され，北東コーナー部ではわずかに壁が検出できた。確認できた規模は，長軸5.20m，短軸4.00mであり，平面形は，北東コーナー部の壁の痕跡と床質から長方形と推定した。

主軸方向 N - 7° - W

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

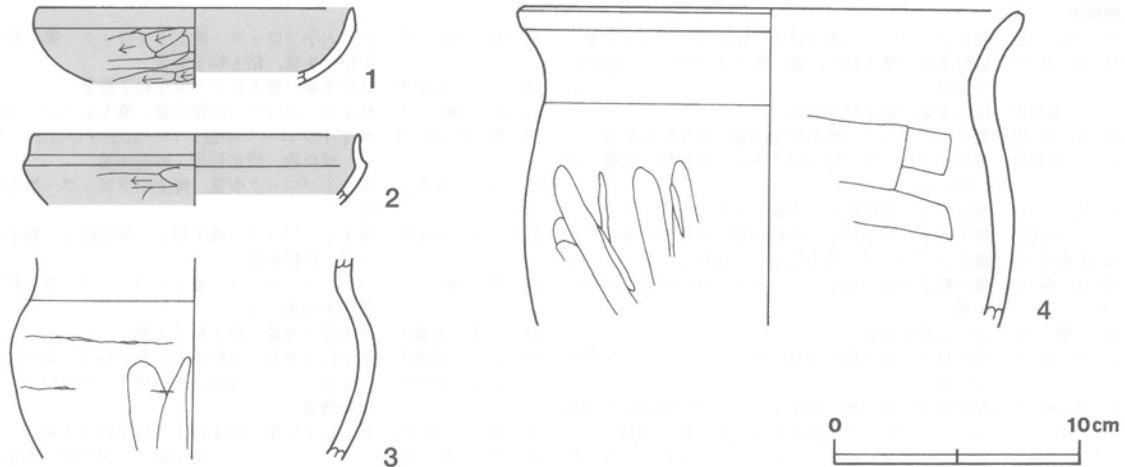
覆土 13層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物少量, 焼土小ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック少量
- 5 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 7 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 9 暗赤褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・粘土粒子少量
- 10 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 11 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 12 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
- 13 暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量

遺物 土師器片179点, 須恵器片16点が出土している。図示した土器はすべて土師器である。第445図1の坏片は北東部の覆土中から, 2の坏片は南東部の覆土中から出土している。3の甕片は中央部の床面から, 4の甕片は, 南西部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土土器から7世紀前半と考えられる。竈は検出されなかったが, 位置的に重複している掘立柱建物に掘り込まれている可能性がある。また, 床面を精査したが, ピットは検出されなかった。



第445図 第1230号住居跡出土遺物実測図

第1230号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第445図 1	坏 土師器	A [12.6] B (3.0)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り, 内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母にぶい橙色普通	P8479 5%
2	坏 土師器	A [12.8] B (2.8)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り, 内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子にぶい橙色普通	P8480 5%
3	甕 土師器	B (8.0)	体部上位から頸部にかけての破片。 体部は内彎して立ち上がり, 頸部でくびれ, 口縁部は外反気味に立ち上がる。	頸部内・外面横ナデ。体部外面に輪積み痕を残すヘラ削り, 内面横ナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 褐灰色普通	P8482 5%
4	甕 土師器	A [19.6] B (12.6)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎して立ち上がり, 頸部でくびれ, 口縁部は外反する。	口縁部, 頸部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラナデ, 内面横ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 褐色, 普通	P8483 5%

第1235号住居跡 (第446・447図)

位置 調査8区の南西部, N8i4区。

重複関係 南部が第1221号住居に, 東部が第1071・1083号土坑に掘り込まれている。また, 第102・103・104・106号掘立柱建物にも掘り込まれている。

規模と平面形 長軸6.41m, 短軸6.10mの方形である。

主軸方向 N-44° -W

壁 壁高は18~45cmで, 外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦であり, 全体的に踏み固められている。

竈 北西壁の中央部を壁外に36cmほど掘り込み, 砂質粘土で構築されている。規模は, 焚口部から煙道部まで113cm, 両袖部幅は120cmである。天井部は崩落しており, 土層断面図中第2・3・14・18層が砂粒を多量に含むことから, 崩落土と考えられる。袖部の内側は, 火熱を受け赤変している。火床部は, 床面を15cmほど掘りくぼめた後, 褐色土を貼り, 造られている。火床面は火熱を受け, 赤変硬化している。袖部や火床部の埋土には, 焼土ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子が含まれており, 造り替えの可能性が考えられる。煙道はほぼ直立する。

竈土層解説

1 黒褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック少量	17 暗褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量, 粘土粒子微量
2 暗赤褐色	砂粒多量, 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量	18 にぶい黄褐色	砂粒多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
3 にぶい黄褐色	砂粒多量, 粘土粒子少量	19 暗褐色	粘土小ブロック・砂粒少量, 焼土小ブロック微量
4 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子少量	20 暗赤褐色	焼土小ブロック中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂粒少量
5 にぶい赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子多量, 炭化粒子中量, 炭化物少量	21 にぶい赤褐色	焼土小ブロック中量, 焼土中ブロック・炭化粒子少量
6 暗赤灰色	焼土粒子・炭化物・灰中量, 焼土小ブロック少量	22 にぶい赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・砂粒少量
7 にぶい赤褐色	焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量, 炭化物少量	23 黒褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
8 極暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量	24 にぶい赤褐色	粘土粒子多量, 焼土粒子少量
9 明赤褐色	焼土粒子多量, 焼土小ブロック・砂粒中量, 炭化物少量	25 にぶい黄褐色	粘土粒子多量, 砂粒中量, 焼土粒子・炭化物少量
10 明褐色	ローム粒子多量	26 にぶい赤褐色	粘土小ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 炭化物微量
11 暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量	27 暗赤褐色	粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
12 暗赤褐色	粘土粒子・灰中量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量	28 黒褐色	ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
13 黒褐色	ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	29 褐色	ローム粒子多量, 炭化粒子少量, 焼土小ブロック・炭化物微量
14 にぶい赤褐色	粘土粒子多量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	30 赤褐色	焼土粒子多量, 粘土粒子・砂粒中量, 炭化粒子少量
15 黒褐色	粘土粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量		
16 黒褐色	粘土粒子少量, 焼土粒子微量		

ピット 4か所 (P1~P4)。P1~P3は各コーナーからやや中央部寄りに位置し, 径65~100cmの円形で, 深さ63~66cmである。規模と位置から支柱穴と考えられる。P4は中央部からやや南壁寄りに位置し, 径35cmの円形で, 深さは41cmである。性格は不明である。

P1~P3土層解説

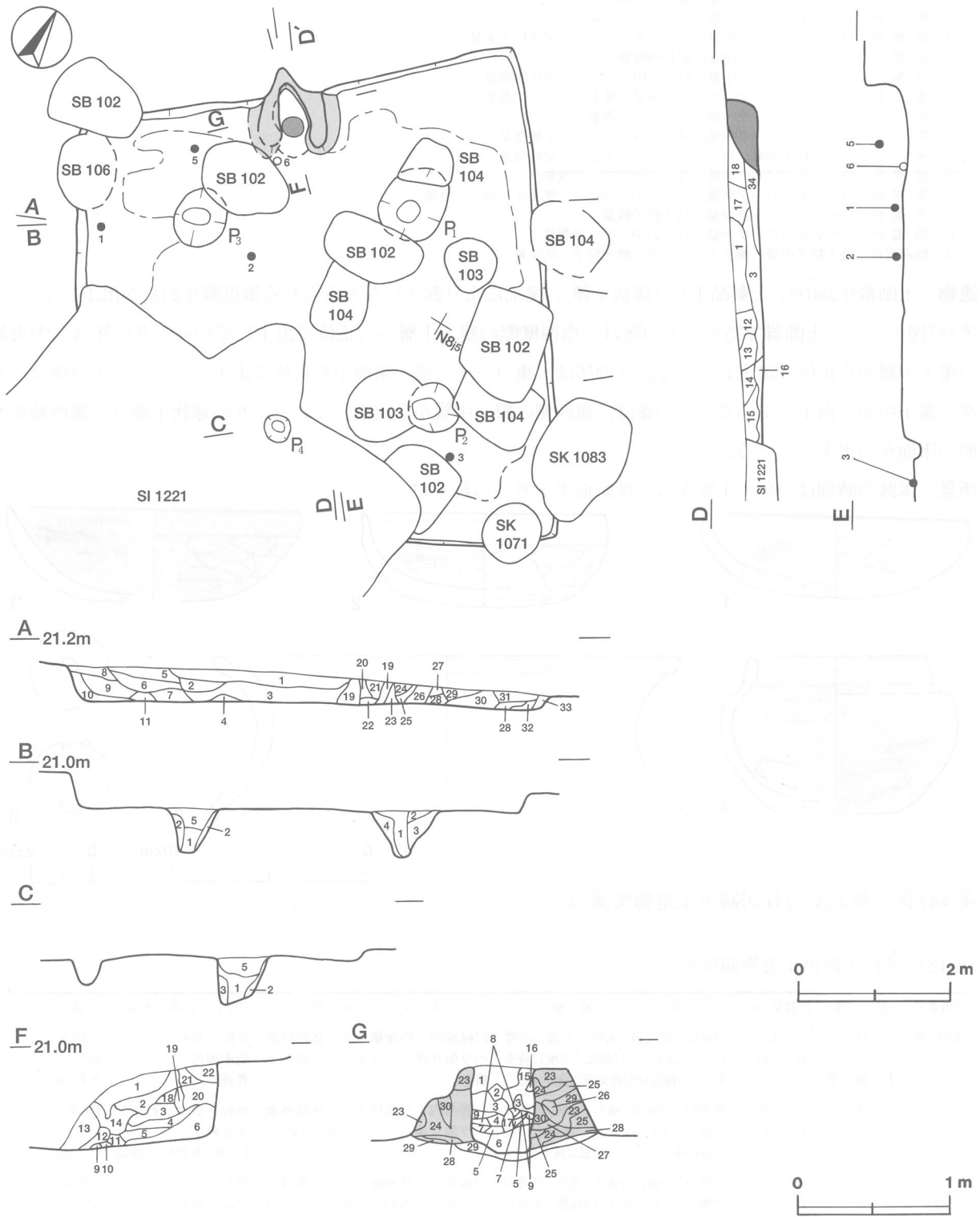
1 黒褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック少量
2 暗褐色	ローム小ブロック少量
3 褐色	ローム中ブロック中量
4 明褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
5 黒褐色	ローム小ブロック, 焼土粒子少量

覆土 34層からなる。ブロック状の堆積状況から, 人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土小ブロック少量
2 黒褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
3 黒褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック少量
4 黒褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量

- 5 黒褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 7 黒褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土小ブロック少量
- 8 黒褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量, 焼土中ブロック微量
- 9 黒褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量

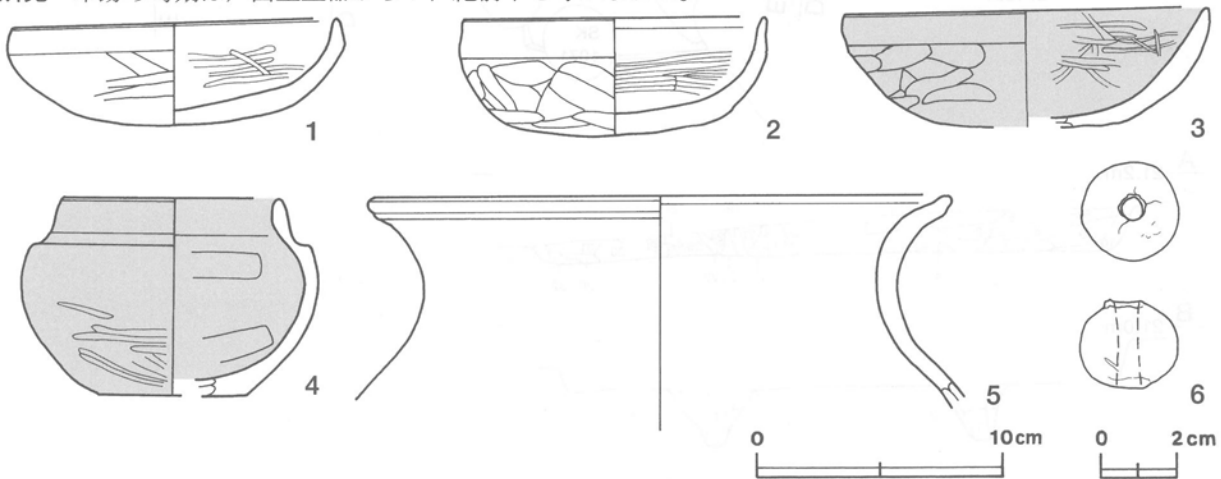


第446図 第1235号住居跡実測図

- 10 黒色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量
- 11 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・焼土粒子少量
- 12 暗褐色 ローム小ブロック多量, ローム中ブロック少量
- 13 黒色 炭化粒子中量, ローム小ブロック・炭化物少量
- 14 黒色 ローム小ブロック・炭化粒子少量, 炭化物微量
- 15 黒色 ローム小ブロック・粘土小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 16 黒色 ローム小ブロック・粘土小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 17 暗褐色 粘土小ブロック中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
- 18 暗褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック少量, 粘土小ブロック微量
- 19 黒褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子・粘土小ブロック少量
- 20 暗褐色 ローム小ブロック・粘土小ブロック中量, 焼土粒子微量
- 21 褐色 ローム小ブロック中量, 焼土粒子微量
- 22 褐色 ローム小ブロック・粘土小ブロック中量
- 23 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・炭化粒子少量
- 24 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化物微量
- 25 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・炭化物微量
- 26 黒色 ローム小ブロック・炭化粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 27 黒色 ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
- 28 黒色 ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化物微量
- 29 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化物微量
- 30 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック微量
- 31 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・焼土小ブロック微量
- 32 黒褐色 ローム小ブロック少量, 粘土粒子微量
- 33 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック微量
- 34 暗赤褐色 粘土粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・灰少量

遺物 土師器片260点, 土製品1点(球状土錘), 攪乱により混入したとみられる須恵器片23点が出土している。第447図1～5は土師器である。1の坏は, 南西壁際の覆土下層から正位で出土している。2の坏は, 中央部の覆土下層から正位で出土している。3の坏は, 東コーナー部の床面から正位で出土している。4の壺は, 西部の覆土中から出土している。5の甕は, 竈西側の覆土中層から出土している。6の球状土錘は, 竈西袖部南側の床面から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土土器から7世紀前半と考えられる。



第447図 第1235号住居跡出土遺物実測図

第1235号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第447図 1	坏 土師器	A 12.9 B 4.1	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内彎気味に直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後, へらナデ。内面へら磨き。	砂粒・長石 明赤褐色 普通	P 8300 98% P L 246
2	坏 土師器	A [12.0] B 4.7	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後, ナデ。内面へら磨き。	砂粒・雲母・石英・ 赤色粒子 にぶい黄橙色, 普通	P 8301 60% P L 246
3	坏 土師器	A [14.6] B (4.4)	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り, 内面へら磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P 8302 50% P L 246

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第447図 4	壺 土師器	A [8.6] B 7.8 C [5.8]	底部から口縁部の破片。小形。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に段をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ磨き、内面へラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石にぶい黄色普通	P 8303 30% P L 246
5	甕 土師器	A [23.0] B (8.4)	頸部から口縁部にかけての破片。頸部から口縁部は緩やかに外反する。端部は軽くつまみ上げている。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子・長石・石英にぶい橙色、普通	P 8304 10%

図版番号	器種	計測値				特徴	胎土・色調	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第447図 6	球状土錘	2.6	2.3	0.7	12.7	球体。外面黒色処理。	砂粒、にぶい褐色、普通	D P 8215 100% P L 253

第1243号住居跡 (第448図)

位置 調査8区の南西部、O8b4区。

重複関係 北部を第1221号住居に掘り込まれている。また、北東部と南部を第102号掘立柱建物に、北東部を第1070号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.80m、短軸3.67mの方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は15~25cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 南東コーナー部から西壁際にかけて確認できた。規模は上幅9~16cm、下幅4~6cm、深さ約6cmで、断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦であり、全体的に踏み固められている。

竈 出土土器から竈を持つ時期と考えられるが、第1221号住居に掘り込まれているため確認できなかった。

ピット 1か所。P1は南壁際に位置し、径25cmの円形で、深さ30cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

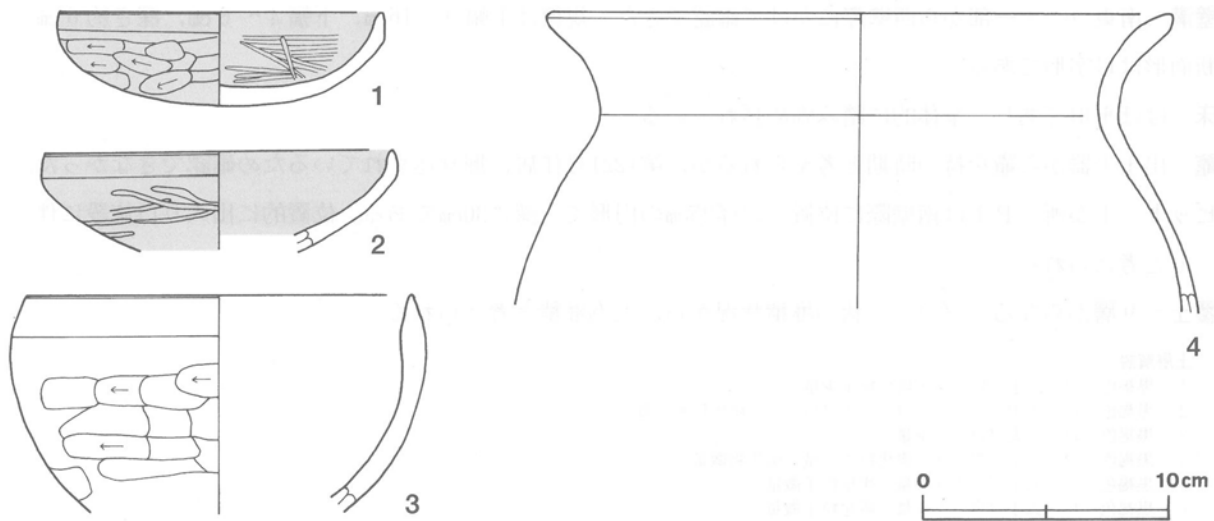
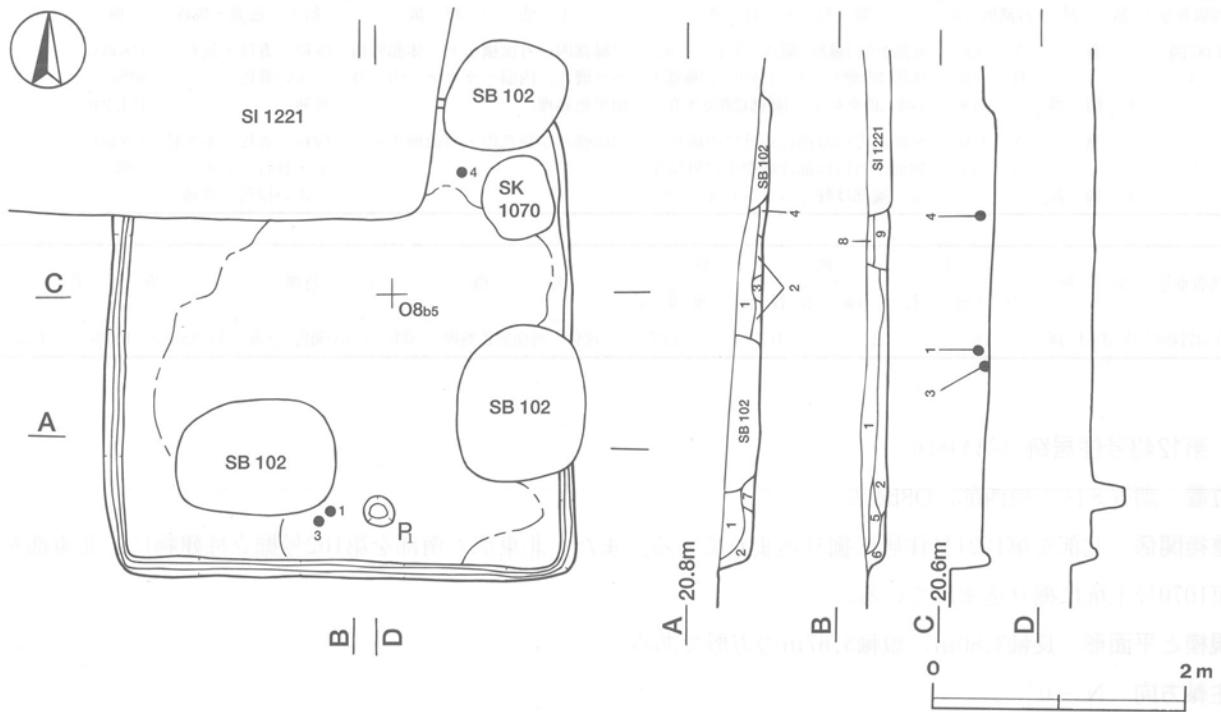
覆土 9層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ローム大ブロック少量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量、炭化物微量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 7 黒褐色 ローム小ブロック・炭化物少量、炭化粒子微量
- 8 黒褐色 ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
- 9 黒褐色 ローム小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック少量、炭化物微量

遺物 土師器片47点、土製品1点(支脚片)、須恵器片7点が出土している。第448図1の土師器坏は、南部の覆土下層から出土した破片と南東部の覆土中から出土した破片が接合したものである。2の土師器坏は、南東部の覆土中から出土した破片が接合したものである。3の土師器碗は、南部の床面から正位で出土している。4の土師器甕は、北東コーナー部の覆土下層から出土した破片数点が接合したものである。須恵器片は攪乱により混入したものと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。



第448図 第1243号住居跡・出土遺物実測図

第1243号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第448図 1	坏 土師器	A 12.8	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り、内面へら磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英にぶい橙色普通	P8344 50% P L 246
		B 3.7				
2	坏 土師器	A [13.8]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後、へら磨き。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英にぶい赤褐色普通	P8345 60% P L 246
		B (3.9)				
3	碗 土師器	A [15.4]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は内彎気味に直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のへら削り、内面横ナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子にぶい橙色普通	P8346 20% P L 246
		B (8.6)				

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第448図 4	甕 土師器	A [24.8] B (11.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部でくびれ、口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ、内面横ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 橙色、普通	P 8347 15%

第1401号住居跡 (第449～451図)

位置 調査8区の北部, L9f5区。

規模と平面形 長軸6.98m, 短軸6.90mの方形である。

主軸方向 N-37° -W

壁 壁高は16～18cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。規模は上幅15～36cm, 下幅5～13cm, 深さ5～8cmで、断面形は逆台形状をしている。

床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。南東部の出入口施設に伴うと考えられるP5・P6の周囲が高まり踏み固められている。形状は馬蹄形状を呈し、規模は上幅10～30cm, 下幅18～56cmで、床面からの高さは3～6cmである。

竈 北西壁の中央部を壁外へ34cmほど掘り込んで、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで120cm, 両袖幅117cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、第1～5・9・10層には粘土粒子・砂粒が多量に含まれていることから、これらの層が天井部の崩落土と考えられる。袖部は良好に遺存しており、内側は火熱を受けて赤変硬化している。第25層には、焼土粒子・灰が多量に含まれ、下面が火床面と考えられる。第25層の厚みが4～8cmであることから、長期間使用されたと考えられる。火床部は、床面から約3cm掘りくぼめられており、皿状をしている。煙道は火床面から緩やかに立ち上がる。第26～37層は、火床部の構築時に埋め土した層と考えられ、大半の層に焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒が含まれている。また、袖部の第17・18層にも焼土粒子・炭化粒子が含まれていることから、再利用された竈材の可能性はある。

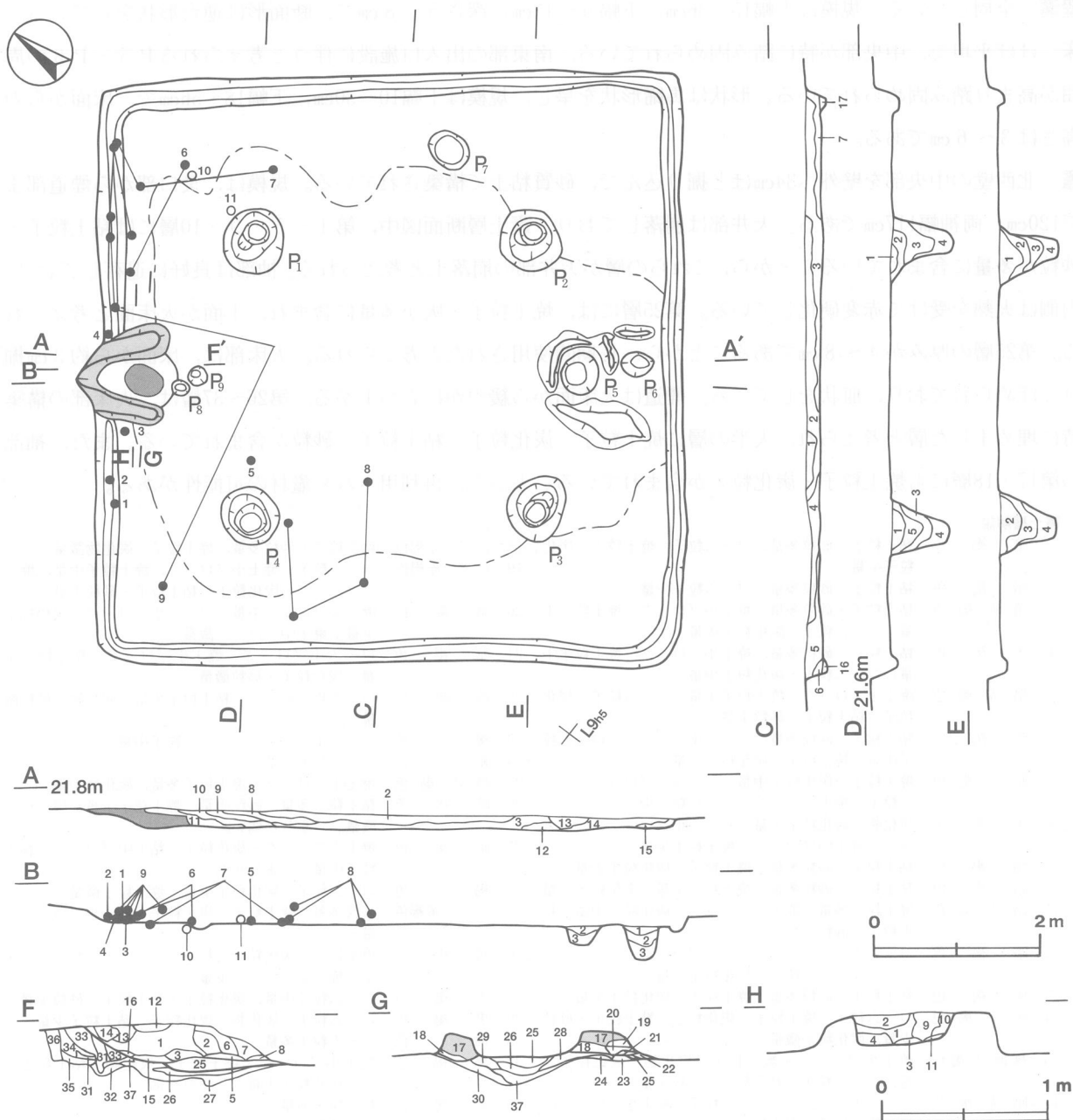
竈土層解説

1	暗褐色	粘土粒子・砂粒多量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	18	にぶい赤褐色	粘土粒子・砂粒多量, 焼土粒子・炭化物微量
2	暗褐色	粘土粒子・砂粒多量, ローム粒子少量	19	にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土大ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
3	暗赤褐色	粘土粒子・砂粒多量, 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量	20	暗褐色	焼土小ブロック中量, ローム小ブロック・炭化粒子少量, 焼土中ブロック微量
4	灰褐色	粘土粒子・砂粒多量, 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量	21	暗褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子・砂粒微量
5	暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量	22	暗褐色	ローム小ブロック・粘土粒子少量, 炭化物・砂粒微量
6	暗褐色	粘土粒子・砂粒多量, ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量	23	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量
7	暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量	24	褐色	ローム粒子中量
8	黒褐色	炭化物・炭化粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土粒子少量	25	暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子多量, 炭化物中量
9	暗褐色	粘土粒子・砂粒多量, 焼土粒子・炭化粒子少量	26	暗褐色	粘土粒子多量, 砂粒中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量。しまりが弱い。
10	暗褐色	粘土粒子・砂粒多量, 焼土粒子中量, 炭化粒子少量	27	暗褐色	焼土小ブロック・炭化粒子・粘土中ブロック・粘土粒子中量。しまりが弱い。
11	暗赤褐色	焼土粒子多量, 焼土小ブロック・炭化粒子中量, 粘土粒子・砂粒少量	28	褐色	ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
12	暗褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量	29	にぶい黄褐色	砂粒多量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量
13	灰褐色	粘土粒子・砂粒多量, 焼土粒子・炭化粒子少量	30	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・粘土粒子中量, 焼土小ブロック少量
14	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量, 炭化粒子微量	31	黒褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
15	極暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子多量, ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量	32	黒褐色	ローム粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子少量
16	暗赤褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量	33	褐色	ローム粒子多量
17	にぶい赤褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック中量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量	34	黒褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・粘土粒子中量, 炭化粒子少量。しまりが弱い。
			35	灰褐色	粘土粒子多量
			36	暗褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック・炭化粒子少量。しまりが弱い。
			37	黒褐色	粘土粒子多量, 炭化粒子少量

ピット 9か所 (P1~P9)。P1~P4は、径70~80cmのほぼ円形で、深さ69~79cmである。いずれも各コーナー寄りに位置し、規模と配置から支柱穴と考えられる。P5・P6は、径43cm・35cmの円形で、深さ25cm・42cmであり、いずれも南東壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。北東壁際で検出されたP7は、径40cmの円形で、深さ19cmであり、竈前で検出されたP8・P9は、径20cm・24cmの円形で、深さ8cm・9cmである。P7~P9の性格については不明である。

P1~P6土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・炭化粒子少量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量



第449図 第1401号住居跡実測図

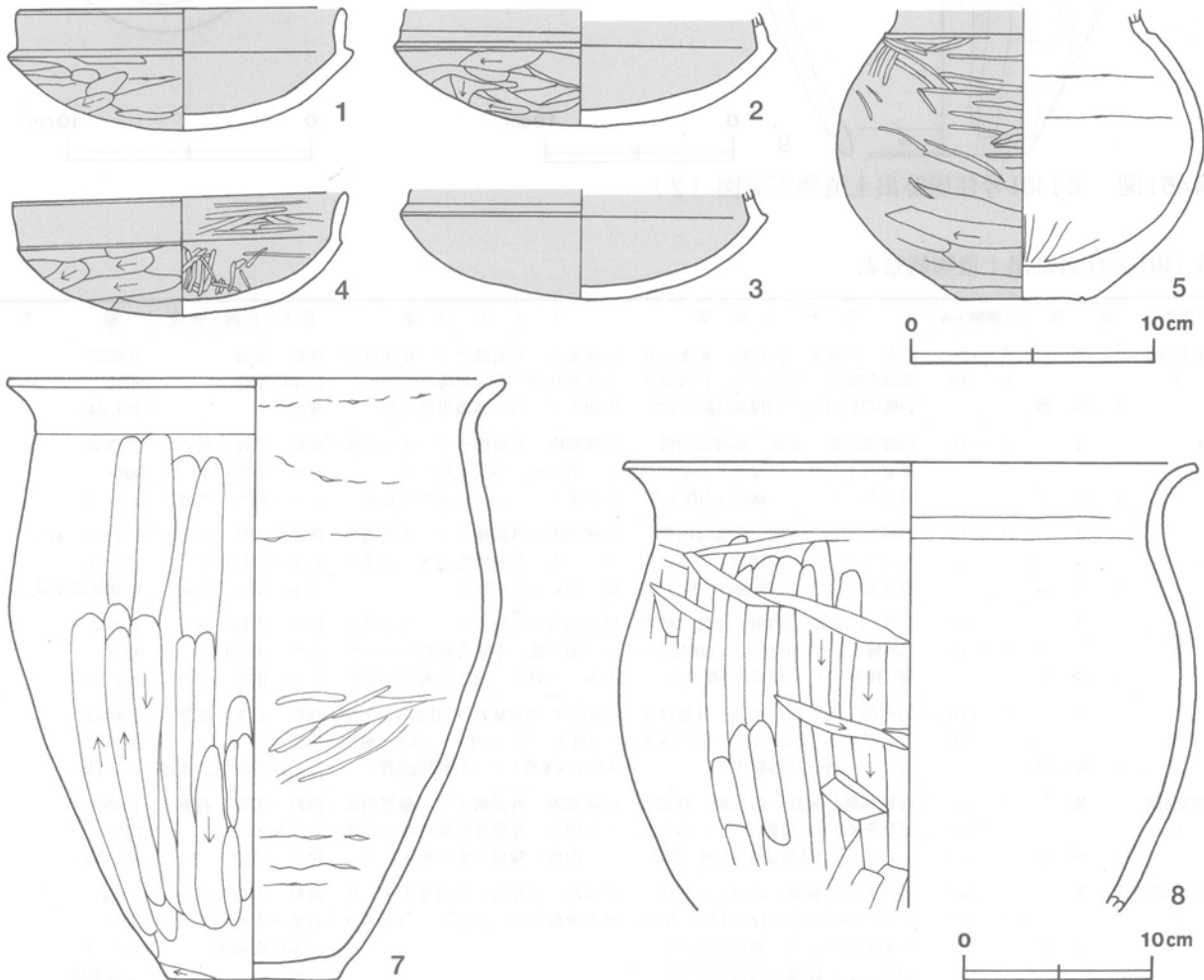
覆土 17層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。第16・17層は壁溝の覆土である。

土層解説

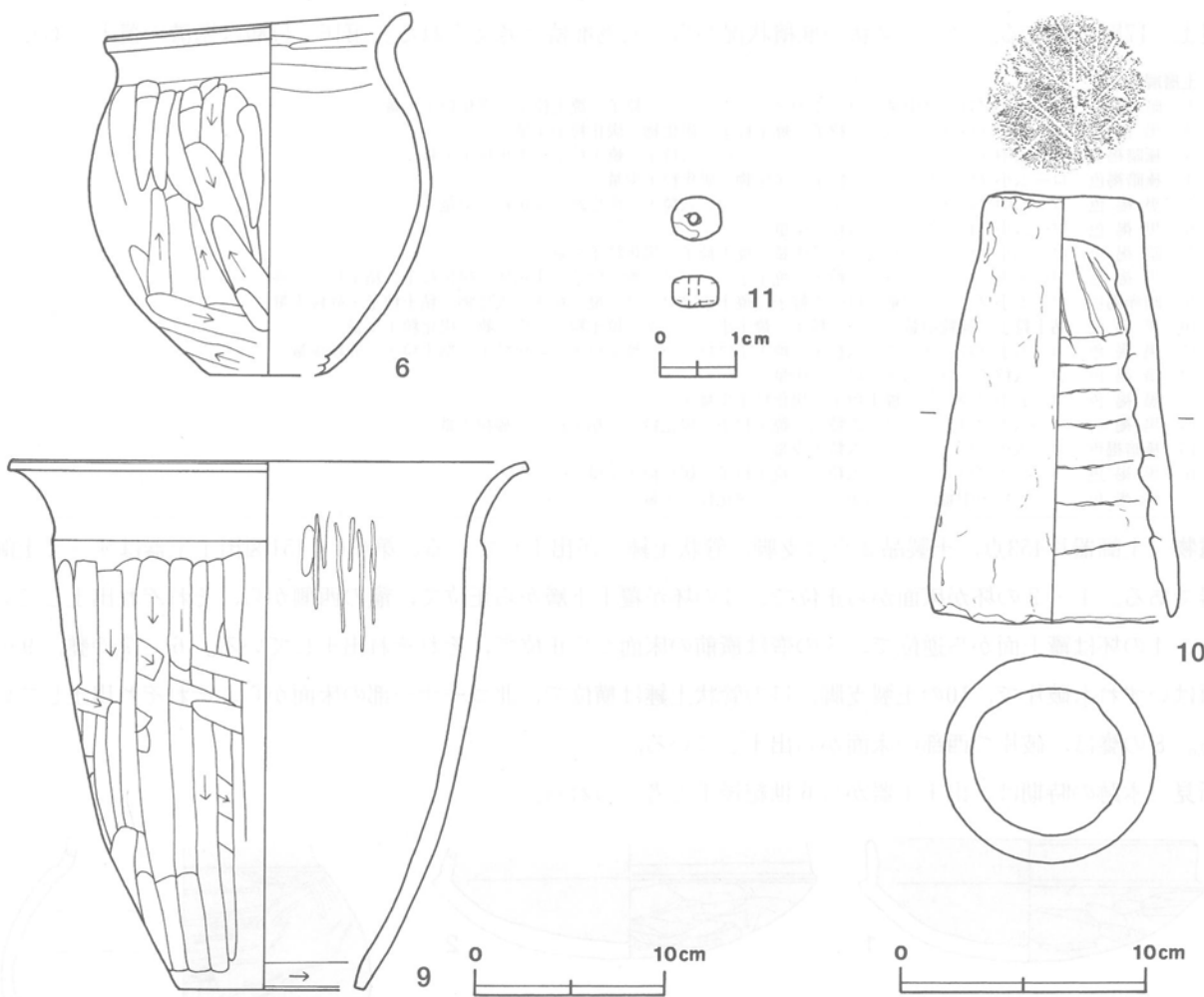
- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 3 極暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 5 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 8 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
- 9 暗赤褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・粘土粒子・砂粒少量
- 10 黒褐色 粘土粒子・砂粒中量, ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 11 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
- 12 暗褐色 ローム粒子, ローム小ブロック中量
- 13 黒褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 14 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
- 15 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 16 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 17 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子少量

遺物 土師器片453点, 土製品2点(支脚, 管状土錘)が出土している。第450・451図出土土器はすべて土師器である。1・2の坏が床面から正位で, 3の坏が覆土下層から正位で, 竈の西側から, それぞれ出土している。4の坏は竈上面から逆位で, 5の壺は竈前の床面から正位で, それぞれ出土している。6・7の甕, 9の甑はいずれも破片で, 10の土製支脚, 11の管状土錘は横位で, 北コーナー部の床面から, それぞれ出土している。8の甕は, 破片で西部の床面から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土土器から6世紀後半と考えられる。



第450図 第1401号住居跡出土遺物実測図(1)



第451図 第1401号住居跡出土遺物実測図(2)

第1401号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第450図 1	坏 土師器	A 12.9 B 4.9	底部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、不定方向のヘラナデ、内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母にぶい褐色普通	P 8557 90% P L 246
2	坏 土師器	B (4.6)	口縁部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、不定方向のヘラナデ、内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子にぶい褐色、普通	P 8558 90% P L 247
3	坏 土師器	B (4.4)	口縁部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。内・外面黒色処理。体部外面に輪積み痕が残る。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子にぶい褐色、普通	P 8559 90% P L 247 体部外面摩滅
4	坏 土師器	A 13.4 B 4.8	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、不定方向のヘラナデ、内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子にぶい橙色、普通	P 8560 90% P L 247
5	壺 土師器	B (11.6) C 5.0	口縁部一部欠損。平底。体部は球形を呈する。口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ヘラ磨き、下位ヘラ削り、内面に輪積み痕を残す横ナデ。外面黒色処理。	砂粒・石英・雲母・赤色粒子にぶい黄橙色、普通	P 8563 90% P L 246
第451図 6	甕 土師器	A 15.6 B 18.9 C [6.2]	底部、体部、口縁部一部欠損。体部は球形を呈する。頸部は「く」の字状にくびれ、口縁部は外反気味に開く。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内面ヘラ削り。体部外面縦位のヘラ削り、内面に輪積み痕を残すナデ。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子橙色、普通	P 8564 70% P L 246
第450図 7	甕 土師器	A [26.3] B 31.7 C 9.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は最大径を上位にもつ、長胴形を呈する。頸部は緩やかに屈曲し、口縁部は外反気味に開く。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り、内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子にぶい赤褐色普通	P 8565 55% P L 247 二次焼成

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第450図 8	甕 土師器	A 29.9 B (22.4)	体部上半から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は外反気味に開く。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り、内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい褐色 普通	P 8566 40% P L 247 二次焼成
第451図 9	甗 土師器	A 27.2 B 27.5 C [9.9]	体部、口縁部一部欠損。無底式。体部は外傾して立ち上がり、上半はほぼ直立し、頸部に至る。口縁部は外反気味に開く。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り、内面縦位のヘラナデ、下端ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 にぶい褐色 普通	P 8567 60% P L 246

図版番号	器種	計測値			特徴	胎土・色調	備考
		長さ (cm)	径 (cm)	重量 (g)			
第451図10	土製支脚	17.0	10.1	806.0	断面台形状の円錐台状。ナデ。天井部に木葉痕。	雲母、にぶい橙色	D P 8412 100% P L 253

図版番号	器種	計測値				特徴	胎土・色調	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第451図11	土玉	0.6	0.4	0.2	0.2	扁平な円柱状。ナデ。	砂粒・雲母、黒色	D P 8413 100% P L 253

第1404号住居跡 (第452・453図)

位置 調査8区の北部, M9d2区。

規模と平面形 長軸4.14m, 短軸3.96mの方形である。

主軸方向 N-18° -W

壁 壁高は12~30cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。規模は上幅11~20cm, 下幅4~7cm, 深さ4~11cmで、断面形はU字形をしている。

床 西部はほぼ平坦であり、硬化した部分は認められない。中央部から東部にかけて凹凸があり、特に踏み固められている。中央部で検出されたP6と出入口施設と思われるP4の周囲の床面が、踏み固められわずかに高まっている。中央部のP7を中心とする周囲は、東西軸125cm, 南北軸95cmの隅丸形状に3~5cmくぼんでおり、その底面は踏み固められている。掘り方は、ローム粒子主体の褐色土が埋め土し、踏み固めて厚さ3~5cmのほぼ均一の貼床としている。土層断面図中、第1層がこの層である。第4層は柱を建てるために突き固めた埋土である。第5・6層は、褐色のハードローム層の地山の層である。

貼り床土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量。硬くしまっている。
- 2 暗褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量。しまっている。
- 3 褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量。しまっている。
- 4 暗褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量。やや軟らかい。
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量。やや軟らかい。
- 6 暗褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量。やや軟らかい。

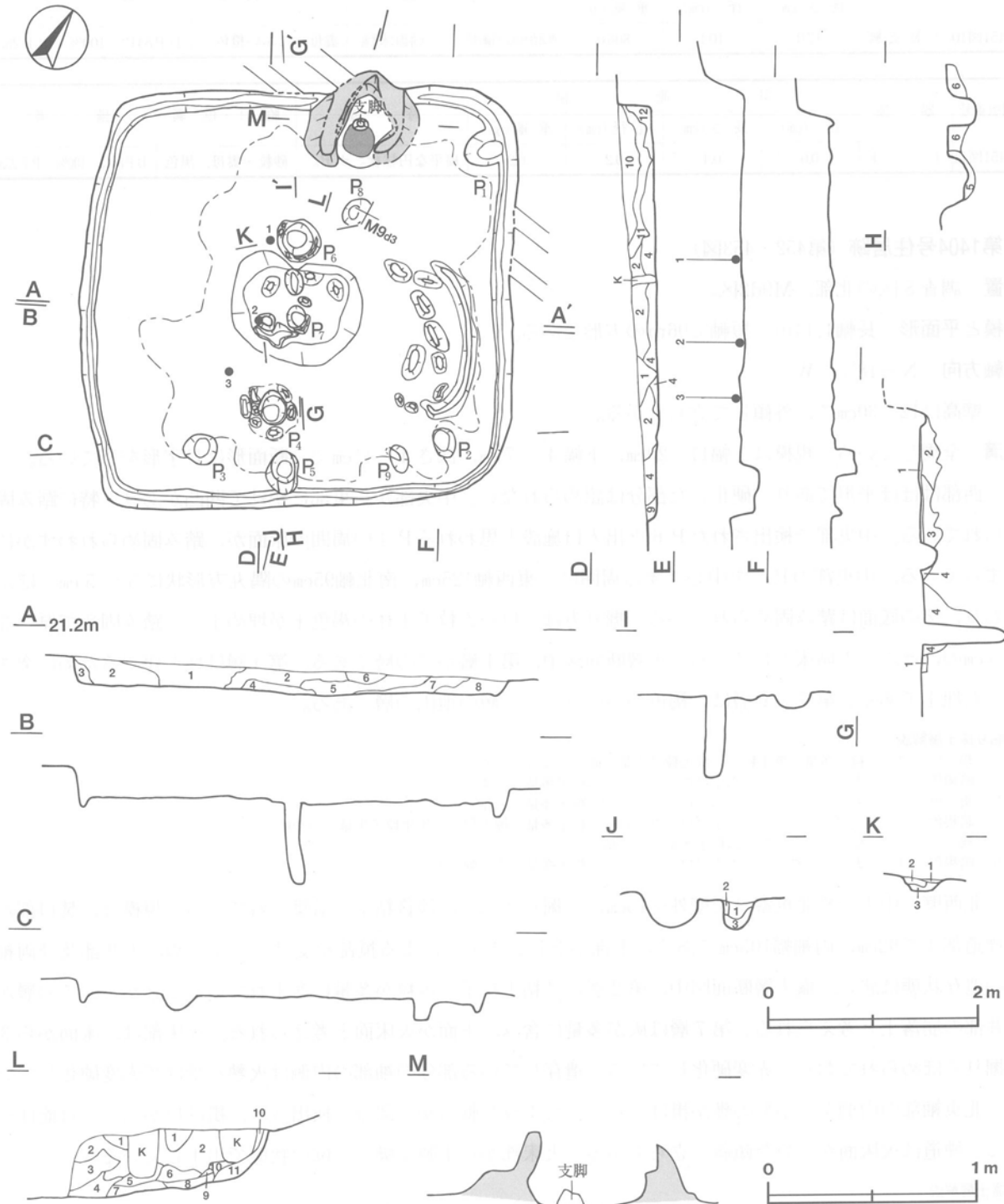
竈 北西壁の中央やや北東寄りを壁外へ15cmほど掘り込んで、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで92cm, 両袖幅105cmである。上部がトレンチャーによる攪乱を受けているため、天井部及び両袖部の遺存状態は悪い。竈土層断面図中、第2層には粘土粒子・砂粒が多量に含まれていることから、この層が天井部の崩落土と考えられる。第7層は灰が多量に含み、下面が火床面と考えられる。火床部は、床面から3cm掘りくぼめられており、赤変硬化している。遺存している部分の袖部の内側は火熱を受けて赤変硬化している。北東袖部の内側で、小形の甕が掛けられていたような軟らかい部分が検出され、掛け口が二つの可能性がある。煙道は火床面から急な傾斜で立ち上がる。火床部から土製支脚が立位状態で出土している。

竈土層解説

- 1 灰褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量, ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 2 にぶい赤褐色 粘土粒子・砂粒多量, ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量

- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・炭化粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・粘土粒子・砂粒少量
- 4 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子少量
- 6 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・砂粒少量
- 7 灰褐色 灰多量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 8 極暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子少量
- 9 にぶい赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
- 10 暗赤褐色 ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒中量, ローム粒子少量
- 11 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

ピット 9か所 (P1~P9)。P1~P3は径23~33cmのほぼ円形で、深さ10~19cmであり、各コーナー寄りに位置している。規模的には小さいが、配置から支柱穴と考えられる。北西コーナー部では、ピットは検出



第452図 第1404号住居跡実測図

されなかった。P 4 は径30cmの円形、深さ28cmで、P 5 は長径42cm、短径30cmの楕円形で、深さ21cmである。いずれも南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。中央部から、ほぼ軸上に並んでP 6・P 7が検出された。P 6 は径30cmの円形、深さ13cmで、P 7 は径19cmの円形、深さ77cmである。P 7 の性格は、規模やその周囲の床面が踏み固められた状態であることから、何らかの道具を設置したピットの可能性がある。P 6 はP 7 の補助的なピットと思われる。竈前で検出されたP 8 は、長径30cm、短径20cmの楕円形で、深さ7cmであり、南東コーナー部で検出されたP 9 は、長径26cm、短径18cmの楕円形で、深さ29cmである。P 8・P 9 の性格については不明である。P 1～P 3・P 5・P 7 の覆土は、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子を少量含む暗褐色土である。

P 4・P 6 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
- 3 暗褐色 ローム大ブロック・ローム粒子少量

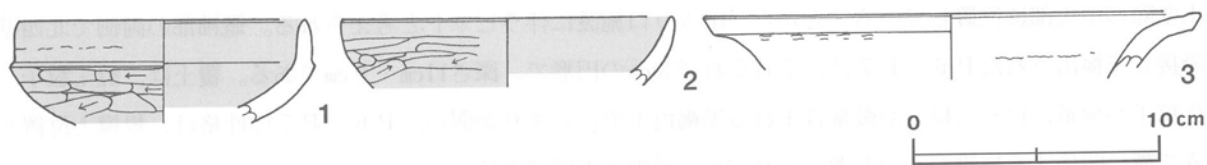
覆土 12層からなる。ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 5 暗褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
- 6 暗褐色 粘土粒子・砂粒多量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 7 暗赤褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子中量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物・粘土粒子・砂粒少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 10 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
- 11 暗赤褐色 ローム小ブロック・焼土粒子中量、ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
- 12 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量

遺物 土師器片303点、須恵器片11点、土製品1点（支脚）が出土している。図示した土器はすべて土師器である。第453図1・2の坏片、3の甕片は、中央部の覆土下層から出土している。北東コーナー部の床面からベンガラと思われる赤色粒子が少量検出されている。土製支脚は、遺存状態が悪く、図示はできなかった。

所見 本跡の時期は、出土土器から7世紀前半と考えられる。踏み固められてきたような床面の凸凹や中央部の窪み部分、P 6・P 7 の規模と位置、さらにベンガラと思われる赤色粒子の検出などから、工房的な要素が考えられる。



第453図 第1404号住居跡出土遺物実測図

第1404号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第453図 1	坏 土師器	A [11.4] B (4.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部外面に輪積み痕を残す。体部外面横位のヘラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 灰褐色 普通	P 8572 10%

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第453図 2	坏 土師器	A [13.2] B (2.7)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面不定方向のヘラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母にぶい橙色普通	P8573 5%
3	甕 土師器	A [19.8] B (2.6)	頸部から口縁部にかけての破片。口縁部は外反気味に開き、端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面輪積み痕を残す横ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子にぶい褐色、普通	P8574 5%

第1405号住居跡 (第454・455図)

位置 調査8区北西部, M8d0区。

重複関係 竈の西袖部の一部から煙道部にかけてが第1347号土坑に、北東部が第931号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.70m, 短軸4.64mの方形である。

主軸方向 N-42° -W

壁 壁高は22~56cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。規模は上幅18~26cm, 下幅3~15cm, 深さ4~14cmで、断面形は緩やかなU字形をしている。

床 ほぼ平坦であり、中央部が特に踏み固められている。南東壁際の中央部に位置する出入り口施設と思われるP5の周囲が、馬蹄形状に高まり踏み固められている。規模は、下幅18~32cm, 上幅5~11cmで、高さ1.5~2.5cmである。

竈 北西壁の中央部に砂質粘土で構築された、東袖部と西袖部の一部が検出された。確認できた規模は、両袖幅122cmである。天井部は確認できなかった。竈土層断面図中、第2層には焼土ブロック・焼土粒子・灰が多量に含まれることから下面が火床面と考えられ、火床部は、床面から約3cm掘りくぼられており、皿状をしている。東袖部は良好に遺存し、内側は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は確認できなかった。

竈土層解説

- 1 灰褐色 粘土粒子・砂粒中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子・灰多量, 焼土小ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量

ピット 7か所 (P1~P7)。P1~P4は、径23~32cmのほぼ円形で、深さ37~61cmである。いずれも各コーナー寄りに位置しており、規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は径45cmの円形で、深さ24cmであり、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。竈袖部の両側に北西壁に隣接して検出されたP6・P7は、それぞれ径30cmの円形で、深さ11cm・9cmである。覆土は、焼土粒子・炭化粒子が少量、ローム粒子が微量含まれる黒褐色土で、しまりが弱い。P6・P7の性格は、規模と位置からみて竈に関係する施設のものと考えられるが、詳細は不明である。

P1~P5土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量

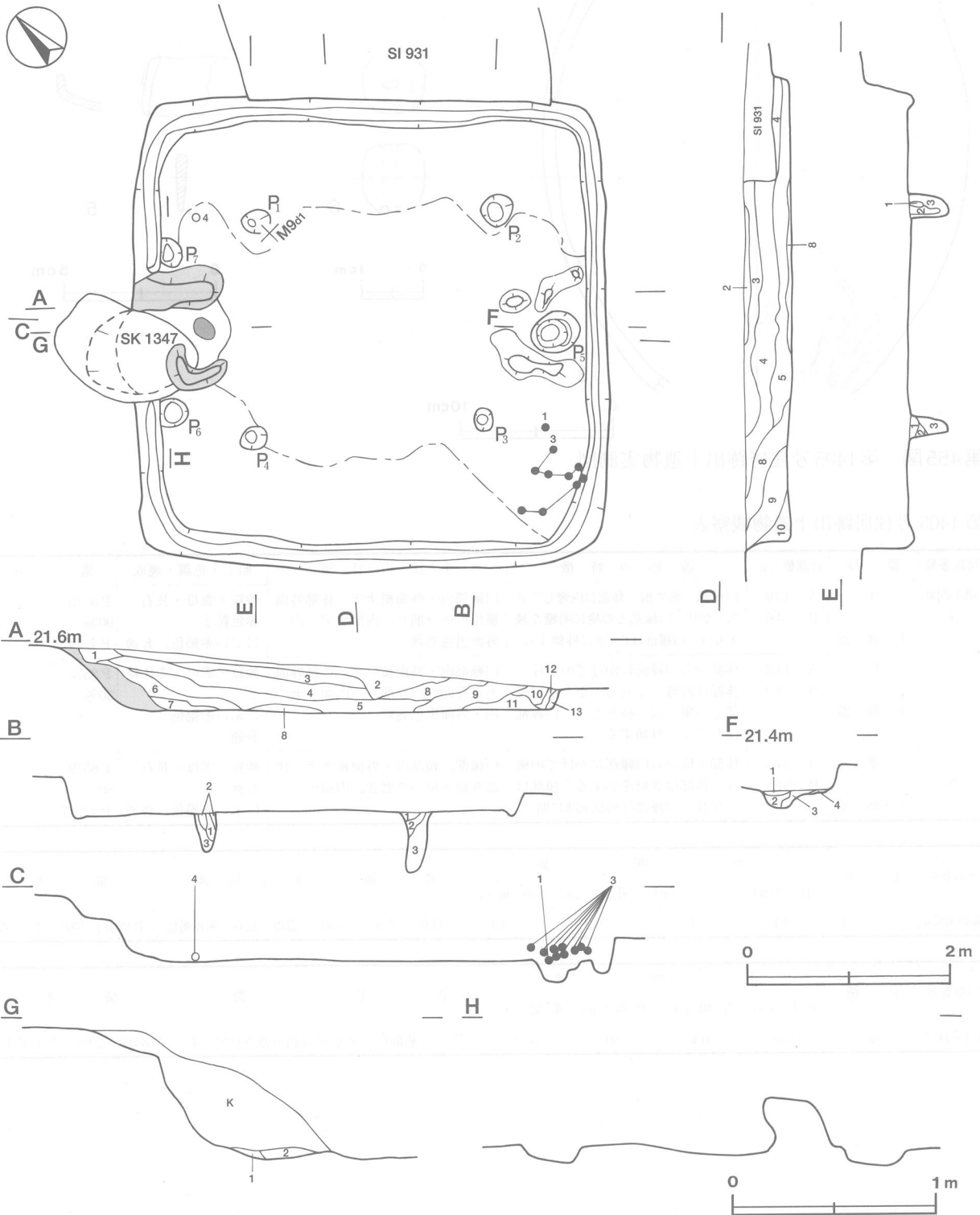
覆土 13層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

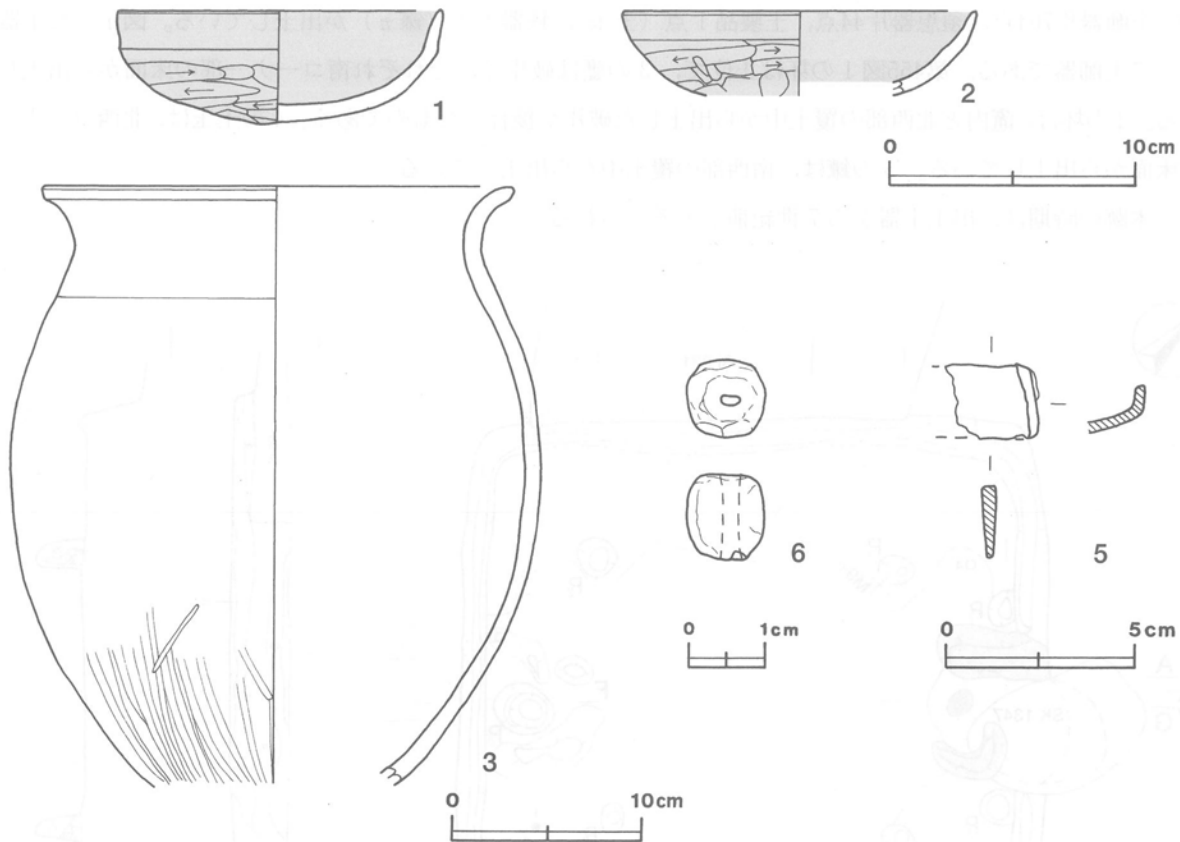
- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
- 3 暗褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
- 5 暗褐色 粘土粒子・砂粒中量, ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 6 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子少量
- 8 黒褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 9 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 10 黒褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 11 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 12 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子少量
- 13 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量

遺物 土師器片764点, 須恵器片44点, 土製品1点(土玉), 鉄器1点(鎌カ)が出土している。図示した土器はすべて土師器である。第455図1の坏は正位で, 3の甕は破片で, それぞれ南コーナー部の床面から出土している。2の坏は, 竈内と北西部の覆土中から出土した破片が接合したものである。4の土玉は, 北西コーナー部の床面から出土している。5の鎌は, 南西部の覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土土器から7世紀前半と考えられる。



第454図 第1405号住居跡実測図



第455図 第1405号住居跡出土遺物実測図

第1405号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第455図 1	坏 土師器	A 13.0 B 4.6	口縁部一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子にぶい赤褐色、普通	P 8575 90% P L 247
2	坏 土師器	A [14.2] B (3.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面不定方向のヘラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子にぶい赤褐色普通	P 8578 30%
3	甕 土師器	A 24.8 B (31.1)	体部下位から口縁部にかけての破片。体部は球形を呈する。頸部はくびれ、口縁部は外反気味に開く。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ磨き、内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英にぶい赤褐色、普通	P 8579 50% P L 247

図版番号	器種	計測値				特徴	胎土・色調	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第455図4	土玉	1.1	1.1	0.2	1.4	球体。ナデ。	砂粒・雲母・長石、明赤褐色	DP 8414 100% P L 253

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	背幅(cm)	刃幅(cm)	重量(g)			
第455図5	鎌	(2.5)	0.4	2.0	(5.5)	鉄	基部片。着柄部は折り返されている。	M 8419 20% P L 254

第1409号住居跡（第456図）

位置 調査8区西部，M8g5区。

重複関係 中央部から東部にかけてが第1420号住居に，西部が第1408号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.85m，短軸5.50mの方形である。

主軸方向 N-15° -W

壁 壁高は7～18cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 第1420号住居に掘り込まれている東部の一部と第1408号住居に掘り込まれている西部の一部では確認できないが，それ以外では巡っている。規模は上幅12～21cm，下幅4～7cm，深さ4～6cmで，断面形は緩やかなU字形をしている。

床 全面にトレンチャーによる攪乱を受けているが，確認できる合間の床面は，ほぼ平坦である。第1420号住居に掘り込まれている中央部から東部にかけては確認できなかったが，西部では踏み固められた床面が検出できた。

竈 北西壁の中央部を壁外へ約46cm掘り込んで，砂質粘土で構築されている。両袖部にトレンチャーによる攪乱を受けているが，遺存している部分から，規模は両袖幅が130cmで，火床部から煙道部までが105cmである。天井部は確認できなかった。袖部の遺存している部分の内側は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部は，赤変硬化している。竈土層断面図中，第21層には焼土粒子が多量に含まれることから，下面が火床面と考えられる。煙道は，火床面から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	14 暗赤褐色	焼土粒子多量，粘土粒子中量，炭化粒子少量
2 灰褐色	粘土粒子中量，砂粒少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	15 黒褐色	焼土小ブロック・炭化粒子中量，焼土粒子少量，粘土粒子微量
3 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量	16 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
4 暗赤褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	17 灰赤色	粘土粒子・砂粒多量，焼土粒子中量，炭化粒子少量
5 暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック微量	18 にぶい赤褐色	焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量，炭化粒子少量
6 暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化物・砂粒微量	19 暗褐色	焼土粒子多量，粘土粒子・砂粒中量
7 灰褐色	粘土粒子多量，焼土粒子少量，ローム粒子微量	20 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
8 暗赤褐色	焼土粒子多量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量	21 暗赤褐色	焼土粒子多量，焼土中ブロック・焼土小ブロック少量
9 灰褐色	焼土粒子多量，灰中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量	22 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
10 暗赤褐色	焼土粒子多量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量	23 にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
11 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量	24 褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
12 暗赤褐色	焼土粒子中量，粘土粒子少量	25 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
13 暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子中量，炭化粒子少量		

ピット 5か所（P1～P5）。P1～P4は，径40～48cmのほぼ円形で，深さ61～69cmである。いずれも各コーナー寄りに位置しており，規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は，径32cmの円形で，深さ26cmであり，南東壁際の中央部に位置し，やや南東壁側に傾斜している。位置と形状から，出入口施設に伴うピットと考えられる。

P1～P5土層解説

1 褐色	ローム小ブロック中量，ローム小ブロック中量，炭化粒子少量	4 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子少量
2 黒褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	5 褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
3 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量		

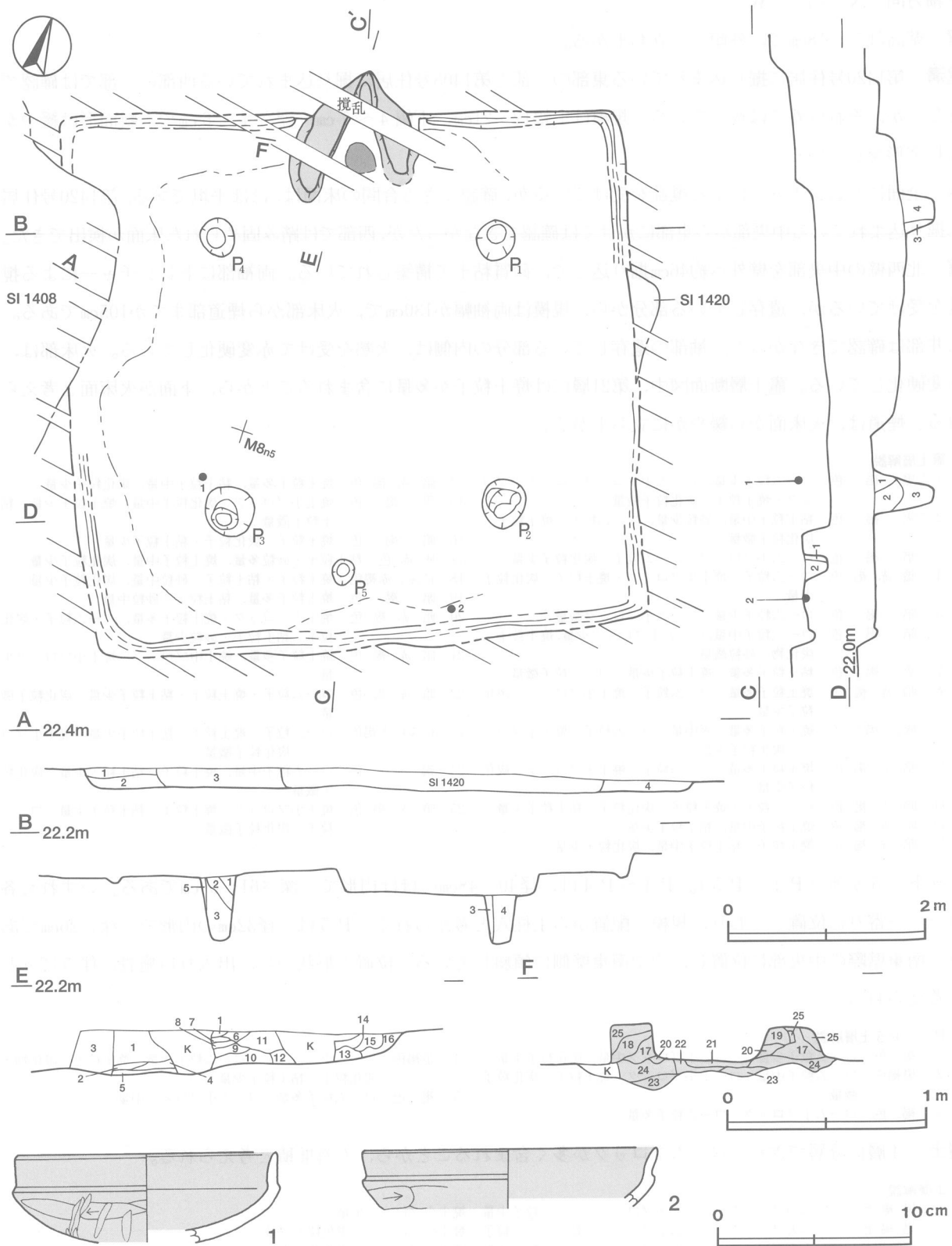
覆土 4層に分層できた。ロームブロックが多く含まれることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック少量
2 黒褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
3 極暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
4 褐色	ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量

遺物 土師器片319点，須恵器片2点が出土している。第456図1の土師器坏片は南西部の床面から，2の土師器坏片は南東部の床面から，それぞれ出土している。須恵器片は，攪乱により混入したものと思われる。

所見 本跡の時期は，出土土器から6世紀後半と考えられる。



第456図 第1409号住居跡・出土遺物実測図

第 1409 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第456図 1	坏 土 師 器	A [13.2] B (4.6)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ、内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	P 8598 20% P L 247 二次焼成
2	坏 土 師 器	A [15.2] B (3.5)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	P 8600 5%

第1416号住居跡 (第457図)

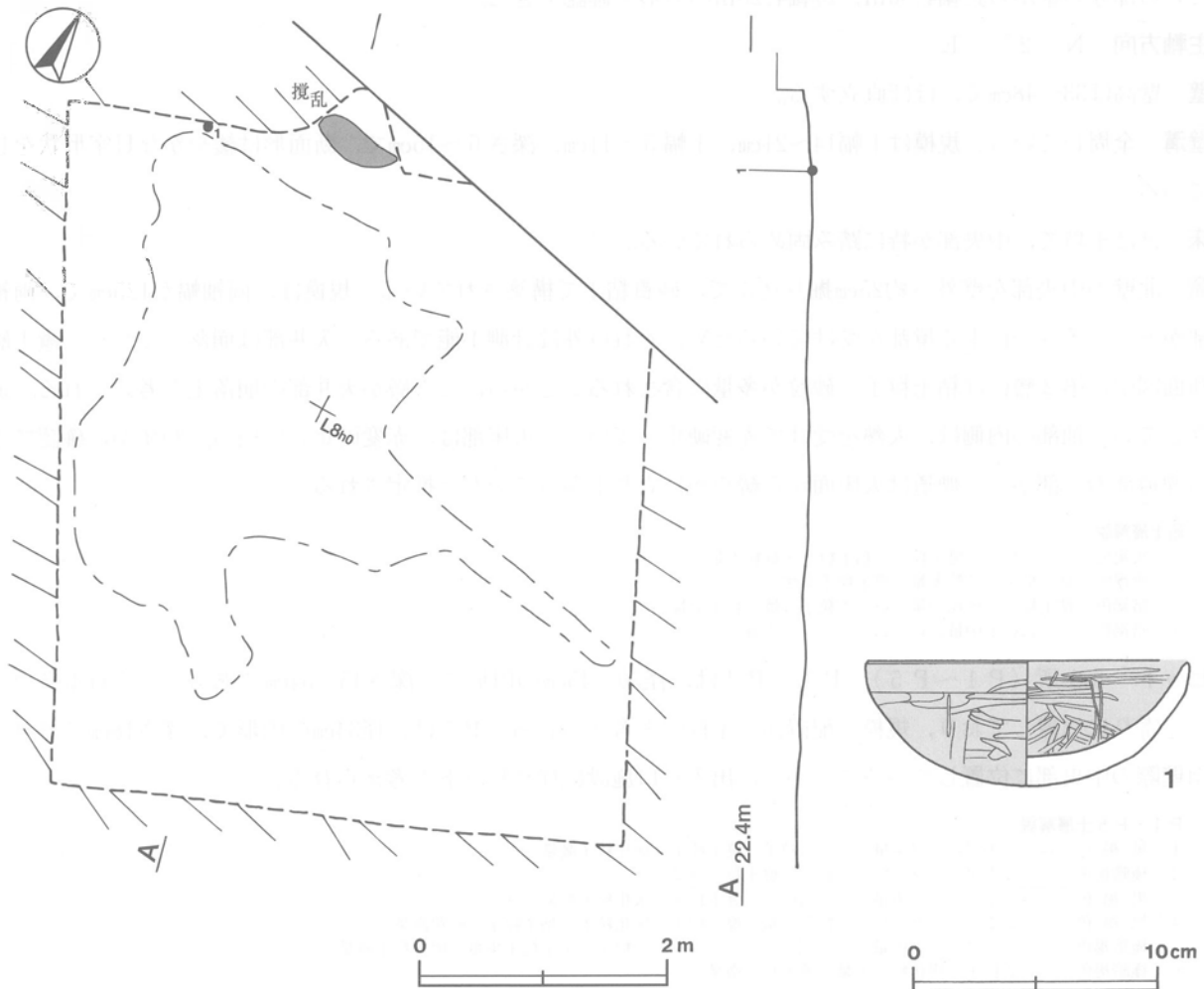
位置 調査8区北西部, L8h0区。

規模と平面形 床面が露出した状態で検出され、全面がトレンチャーによる攪乱を受けている。そのため、トレンチャーの合間の床質から長軸5.40m、短軸4.70mの長方形と推定した。

主軸方向 南北軸を主軸とみなし、N-14°-Eと推定した。

床 全面にトレンチャーによる攪乱を受けているが、確認できる合間の床面は、ほぼ平坦であり、中央部が踏み固められている。

竈 北西壁の中央部で、袖部の構築材と思われる砂質粘土と赤変硬化した火床部が検出された。確認できた火



第457図 第1416号住居跡・出土遺物実測図

床部の規模は、東西幅70cmで、南北幅25cmの楕円形である。

遺物 土師器片48点、須恵器片3点が出土している。第457図1の土師器坏片は、竈西側の床面から出土している。

所見 本跡は、出土遺物が少なく細片であるために、時期を判断するのは難しいが、図示した土師器坏から7世紀前半と考えられる。壁溝、ピットは検出されず、堆積状況についても確認できなかった。

第1416号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第457図 1	坏 土師器	A 13.0 B 5.0	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ、内面不定方向のヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P 8607 65% P L 247

第1417号住居跡（第458・459図）

位置 調査8区西部，M8h6区。

重複関係 南東部で第1421号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 全面にトレンチャーによる攪乱を受けているが、床面までは達していない。遺存している部分の壁から長軸4.30m、短軸4.20mの方形と確認できた。

主軸方向 N - 2° - E

壁 壁高は33～48cmで、ほぼ直立する。

壁溝 全周している。規模は上幅14～21cm、下幅5～11cm、深さ6～15cmで、断面形は緩やかなU字形状をしている。

床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外へ約25cm掘り込んで、砂質粘土で構築されている。規模は、両袖幅が125cmで、両袖部がトレンチャーによる攪乱を受けているため、それ以外は計測不能である。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、第2層には粘土粒子・砂粒が多量に含まれることから、この層が天井部の崩落土と考えられる。遺存している袖部の内側は、火熱を受けて赤変硬化している。火床部は、赤変硬化している。わずかに確認できる煙道部の一部から、煙道は火床面から緩やかに立ち上がっていたと推定される。

竈土層解説

- 1 灰褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
- 2 灰褐色 粘土粒子・砂粒多量、焼土粒子少量
- 3 暗褐色 粘土粒子・砂粒中量、ローム粒子・焼土粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

ピット 5か所（P1～P5）。P1～P4は、径30～45cmの円形で、深さ45～54cmである。いずれも各コーナー寄りに位置しており、規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は、径34cmの円形で、深さ18cmであり、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P1～P5土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
- 5 極暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 6 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量

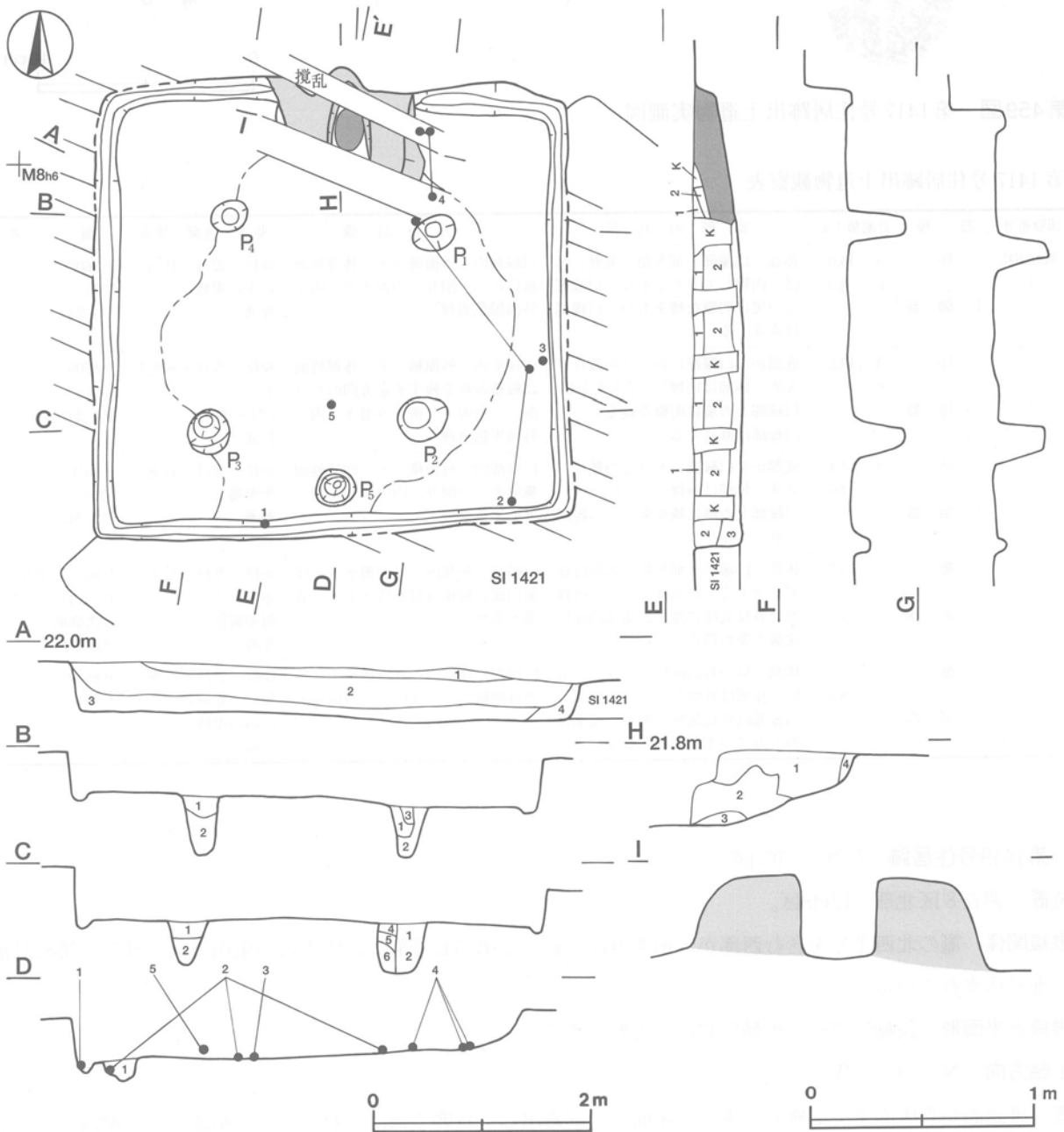
覆土 4層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

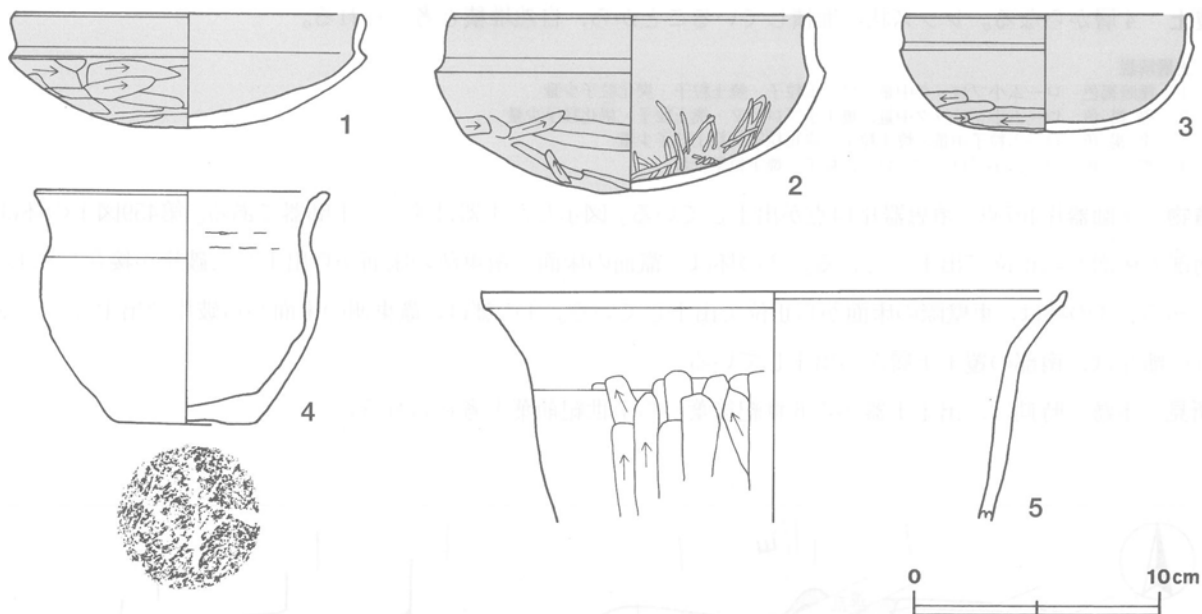
- 1 極暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 4 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量

遺物 土師器片467点, 須恵器片14点が出土している。図示した土器はすべて土師器である。第459図1の坏は, 南部の床面から正位で出土している。2の坏は, 竈前の床面と南東部の床面から出土した破片が接合したものである。3の坏は, 東壁際の床面から正位で出土している。4の甕は, 竈東側の床面から破片で出土している。5の甕片は, 南部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土土器から6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。



第458図 第1417号住居跡実測図



第459図 第1417号住居跡出土遺物実測図

第1417号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第459図 1	坏 土師器	A [14.0] B 4.5	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石にぶい褐色普通	P 8608 70% P L 247
2	坏 土師器	A [14.2] B 7.0	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面に輪積み痕を残す不定方向のヘラ削り、内面ナデ後ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子にぶい橙色普通	P 8609 55% P L 247
3	坏 土師器	A [11.4] B 4.6	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英明赤褐色普通	P 8610 60% P L 247
4	甕 土師器	A [13.7] B 9.3 C 5.6	体部、口縁部一部欠損。体部は球形を呈する。頸部はくびれ、口縁部は外反気味に開き、端部内面に沈線1条が巡る。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部内面に輪積み痕を残すナデ。底部木葉痕。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子明赤褐色普通	P 8611 60% P L 247 二次焼成 外面剥離
5	甕 土師器	A [23.4] B (9.2)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反気味に開く。端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り、内面横ナデ。	砂粒・雲母・石英・長石・赤色粒子にぶい橙色普通	P 8612 5%

第1419号住居跡 (第460・461図)

位置 調査8区北部, L9d8区。

重複関係 竈の北西半分を含む西部が、南北方向に延びる第35B号溝に、中央部が東西方向に延びる第82号溝に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.55m, 短軸5.33mの方形である。

主軸方向 N-23°-W

壁 確認面から床面までが極めて浅く、床面が一部露出した状態で検出されている。確認できた壁高は4~6cmである。

壁溝 第35B・82号溝に掘り込まれている部分は確認できなかったが、それ以外の部分の壁溝が、途切れることなく巡っていることから、全周していたと考えられる。規模は上幅11～31cm、下幅4～14cm、深さ4～8cmで、断面形は緩やかなU字形をしている。

床 第35B・82号溝に掘り込まれている部分は確認できなかったが、ほぼ平坦であり、全面が踏み固められている。南東壁際の中央部に位置する、出入口施設と思われるP5・P6の両側の床面が踏み固められ、わずかに高まっている。規模は東側の高まり部分が、長径60cm、短径40cmの楕円形で、床面からの高さ3cmであり、西側の高まり部分が、長径60cm、短径38cmの楕円形で、床面からの高さ4.5cmである。

竈 北西壁の中央部に、砂質粘土で構築されている。西袖部の一部を残して北西半分の西袖部から煙道部にかけてが、第35B号溝に掘り込まれている。そのため、規模は、遺存している東袖部と西袖部の一部から判断するしかないが、袖幅が120cm程度であったと推定される。天井部は確認できなかった。遺存している袖部の内側は、火熱を受けて赤変硬化している。火床部は、掘り方を掘り、竈土層断面中、第7～12層を埋め土して構築している。第2・3層には焼土粒子・焼土ブロックが多量に含まれることから、下面が火床面と考えられ、皿状をしている。煙道部は確認できなかった。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------------------|----------|---|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子少量 | 8 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、炭化物・炭化粒子・砂粒少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、焼土中ブロック中量 | 9 灰褐色 | 粘土粒子・砂粒多量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量 | 10 にぶい褐色 | 粘土粒子多量、砂粒中量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、粘土粒子・砂粒中量 | 11 灰褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子少量 | 12 灰褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量、ローム小ブロック少量 |
| 6 赤灰色 | 焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量、炭化粒子少量 | | |
| 7 にぶい赤褐色 | 焼土粒子多量 | | |

ピット 9か所(P1～P9)。P1～P3は、径50～55cmのほぼ円形で、深さ50～58cmである。P4は、上部を第35B号溝に掘り込まれているため、第35B号溝の底面で径20cmの円形で、深さ8cmのくぼみとして検出された。いずれも各コーナー寄りに位置しており、規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は長径70cm、短径45cmの楕円形で、深さ18cmであり、P6は径40cmの円形で、深さ18cmである。いずれも南東壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P7は径36cmの円形で、深さ21cmである。竈の南側に位置しているが、性格は不明である。P8・P9は、それぞれ径30cm・34cmの円形で、深さはいずれも25cmである。貯蔵穴の前に位置していることからみて、貯蔵穴と関連するピットの可能性があるが、性格は不明である。

P1～P6土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|-------|---------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、炭化粒子少量 | 4 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量 | | |

P8・P9土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|-------|---------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、炭化粒子少量 | 4 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量 | 6 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量 |

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。規模は、長軸105cm、短軸80cmの隅丸長方形で、深さ55cmであり、断面形は逆台形状をしている。貯蔵穴の北西側から南東側にかけての2辺を、逆L字状に囲む硬化した土手状の高まりが検出された。規模は、幅10～18cm、長さ180cmで、床面からの高まりは2～3cmである。

貯蔵穴土層解説

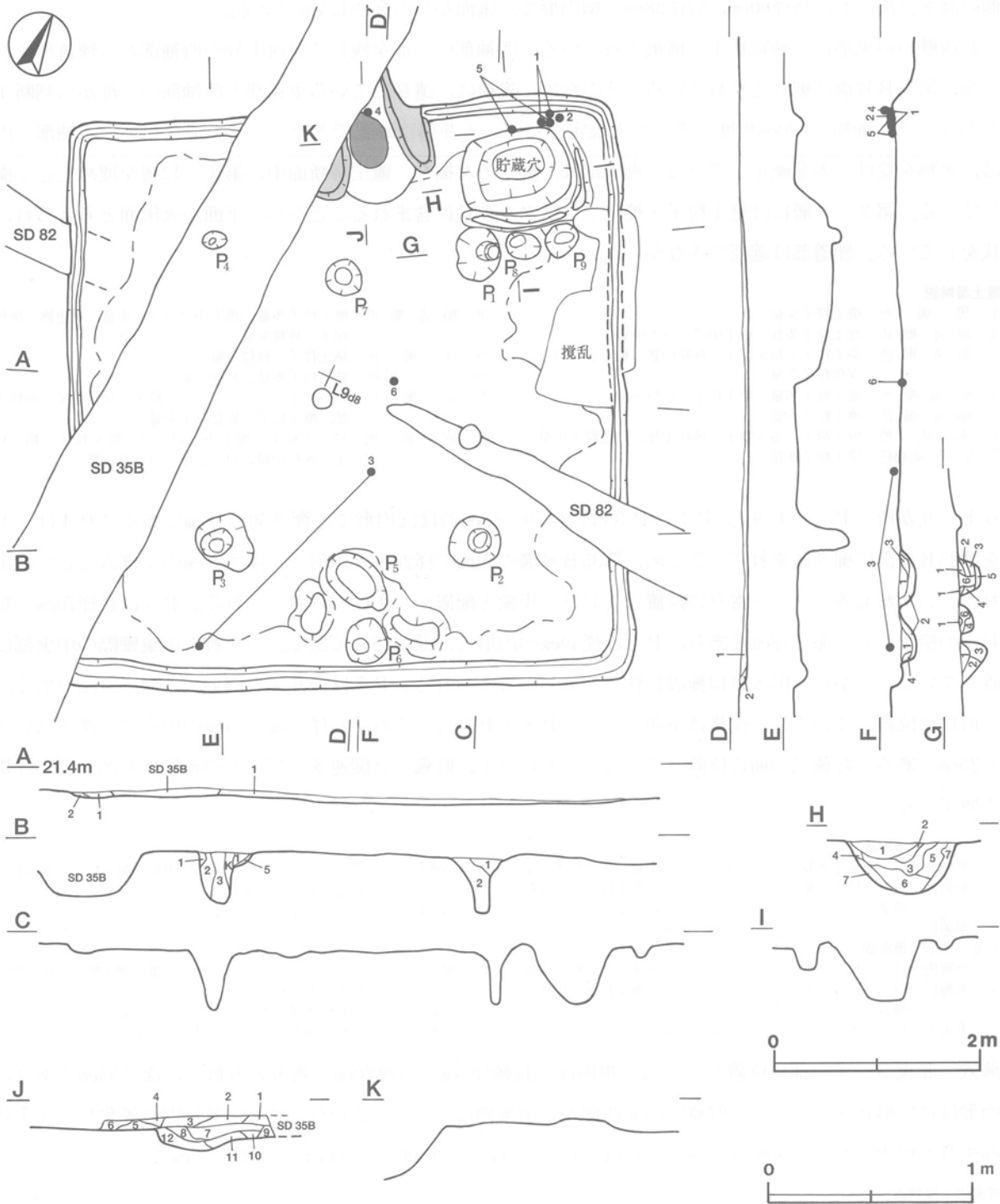
- | | |
|-------|---------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒少量 |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・砂粒少量 |

- 5 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
- 6 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
- 7 黒褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量

覆土 2層に分層できた。確認できた覆土が薄いため、堆積状況は確認できない。

土層解説

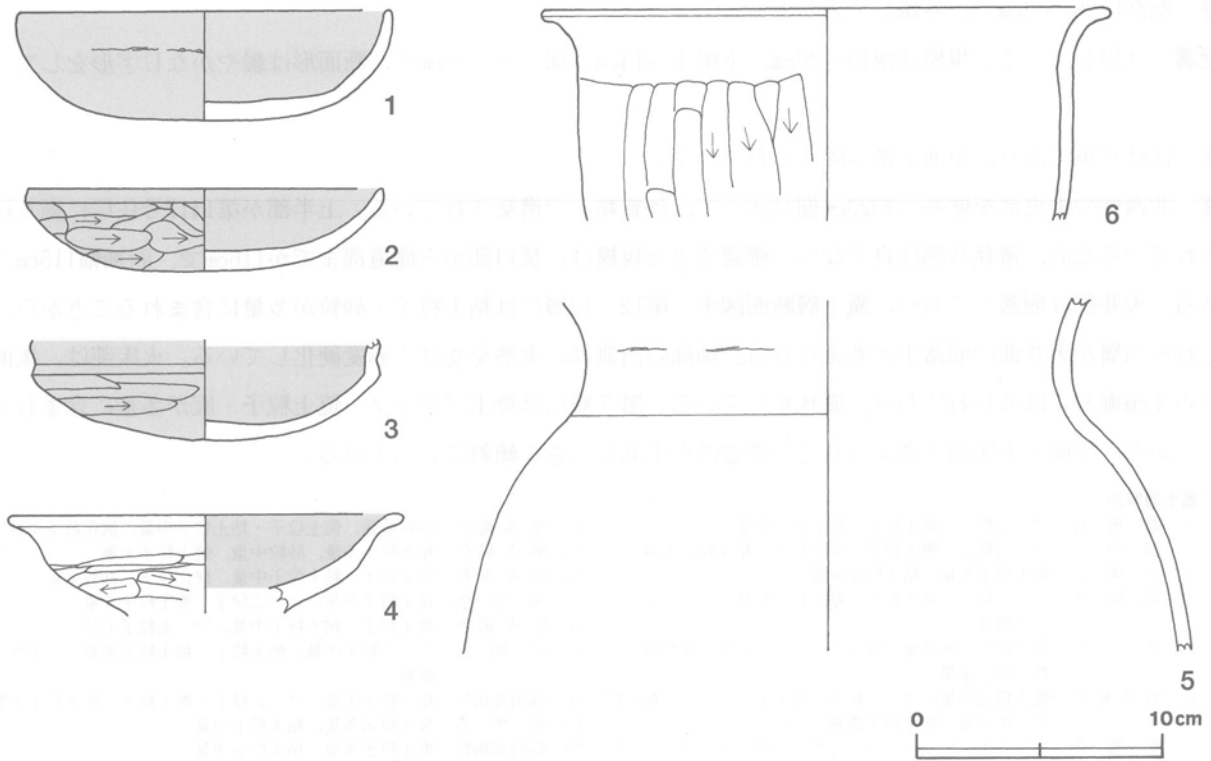
- 1 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量



第460図 第1419号住居跡実測図

遺物 土師器片193点が出土している。図示した土器は、すべて土師器である。第461図1・2の坏と5の甕は、北東コーナー部の床面と貯蔵穴から出土した破片が接合したものである。3の坏は、南西コーナー部の床面と中央部の床面から出土した破片が接合したものである。4の高坏片は、竈内から出土している。6の甕片は、中央部の床面と遺構確認面で採集された破片が接合したものである。

所見 本跡の時期は、出土土器から7世紀前半と考えられる。



第461図 第1419号住居跡出土遺物実測図

第1419号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第461図 1	坏 土師器	A [14.7] B 4.3	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい黄橙色、普通	P8664 65% P L247 内・外面剥離
2	坏 土師器	A 14.2 B 3.2	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色、普通	P 8665 90% P L247
3	坏 土師器	B (4.0)	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のへら削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P 8667 60% P L247
4	高坏 土師器	A [15.8] B (3.9)	坏片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反気味に開く。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のへら削り、内面ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい赤褐色、普通	P 8668 15% P L247
5	甕 土師器	B (14.0)	体部上位から頸部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部でくびれ、口縁部は緩やかに外反する。	頸部内・外面横ナデ。体部上位内・外面ナデ。	砂粒・雲母・石英 にぶい橙色 普通	P 8669 5%
6	甕 土師器	A [22.6] B (8.4)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部はほぼ直立し、口縁部は外反気味に開く。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面縦位のへら削り、内面ナデ。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 橙色、普通	P 8671 5%

第1421号住居跡 (第462~464図)

位置 調査8区の西部, M8h7区。

重複関係 第1439号住居跡・第120号掘立柱建物跡を掘り込み, 竈を含む北西部が第1417号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸6.72m, 短軸6.62mの方形である。

主軸方向 N-43° -W

壁 壁高は28~43cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。規模は幅16~26cm, 下幅4~14cm, 深さ4~8cmで, 断面形は緩やかなU字形をしている。

床 ほぼ平坦であり, 全面が踏み固められている。

竈 北西壁の中央部を壁外へ約23cm掘り込んで, 砂質粘土で構築されている。上半部が第1417号住居に掘り込まれているため, 遺存状態は良くない。確認できた規模は, 焚口部から煙道部までが116cmで, 両袖幅115cmである。天井部は崩落しており, 竈土層断面図中, 第12・13層には粘土粒子・砂粒が多量に含まれることから, これらの層が天井部の崩落土と考えられる。袖部の内側は, 火熱を受けて赤変硬化している。火床部は, 床面から4cm掘りくぼめられており, 皿状をしている。第5層には焼土ブロック・焼土粒子・灰が多量に含まれることから, 下面が火床面と考えられる。煙道は火床面から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量	12 暗赤褐色	砂粒多量, 焼土粒子・粘土粒子中量, 炭化粒子少量
2 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量	13 暗赤褐色	粘土粒子多量, 砂粒中量, 焼土粒子少量
3 赤褐色	焼土粒子多量, 粘土粒子少量	14 暗赤灰色	焼土粒子・粘土粒子中量, 炭化粒子・砂粒少量
4 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量, ローム小ブロック微量	15 褐灰色	粘土粒子多量, ローム粒子・焼土粒子少量
5 灰赤色	焼土粒子・灰多量, 焼土小ブロック中量, 炭化粒子・粘土粒子少量	16 暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子中量, ローム粒子少量
6 暗赤褐色	焼土粒子中量, ローム粒子・焼土小ブロック・粘土粒子・灰少量, 炭化粒子微量	17 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量
7 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量	18 極暗赤褐色	粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
8 灰褐色	灰多量, 焼土粒子少量	19 赤黒色	焼土粒子多量, 粘土粒子中量
9 黒褐色	焼土粒子・粘土粒子中量, 粘土小ブロック・灰少量	20 極暗赤褐色	焼土粒子多量, 粘土粒子中量
10 極暗赤褐色	焼土粒子中量, 炭化粒子・粘土粒子少量	21 極暗赤褐色	焼土粒子多量, 炭化粒子・粘土粒子少量
11 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量, 砂粒微量	22 極暗赤褐色	粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量
		23 黒褐色	粘土粒子中量, ローム粒子少量
		24 黒褐色	ローム粒子・粘土粒子少量

ピット 6か所 (P1~P6)。P1~P4は, 径55~70cmのほぼ円形で, 深さ62~64cmである。いずれも各コーナー寄りに位置しており, 規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は径40cmの円形で, 深さ46cmであり, P6は長径55cm, 短径45cmの楕円形で, 深さ21cmである。いずれも南東壁際の中央部に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。ピット土層断面図中の第1・2層は, 柱の抜き取り痕と考えられる。

P1~P6土層解説

1 極暗褐色	ローム小ブロック少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
3 極暗褐色	ローム小ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子中量, ローム大ブロック少量

貯蔵穴 竈と北東壁の中間の北西壁際に位置している。規模は長軸67cm, 短軸60cm, 深さ39cmの, 平面形は隅丸長方形で, 断面形は逆台形状をしている。堆積状況は, ほぼレンズ状であることから自然堆積と考えられる。貯蔵穴の南東側を土手状に囲む硬化した高まりが検出された。規模は幅7~19cm, 長さ230cmで, 床面からの高さは3~4cmである。

貯蔵穴土層解説

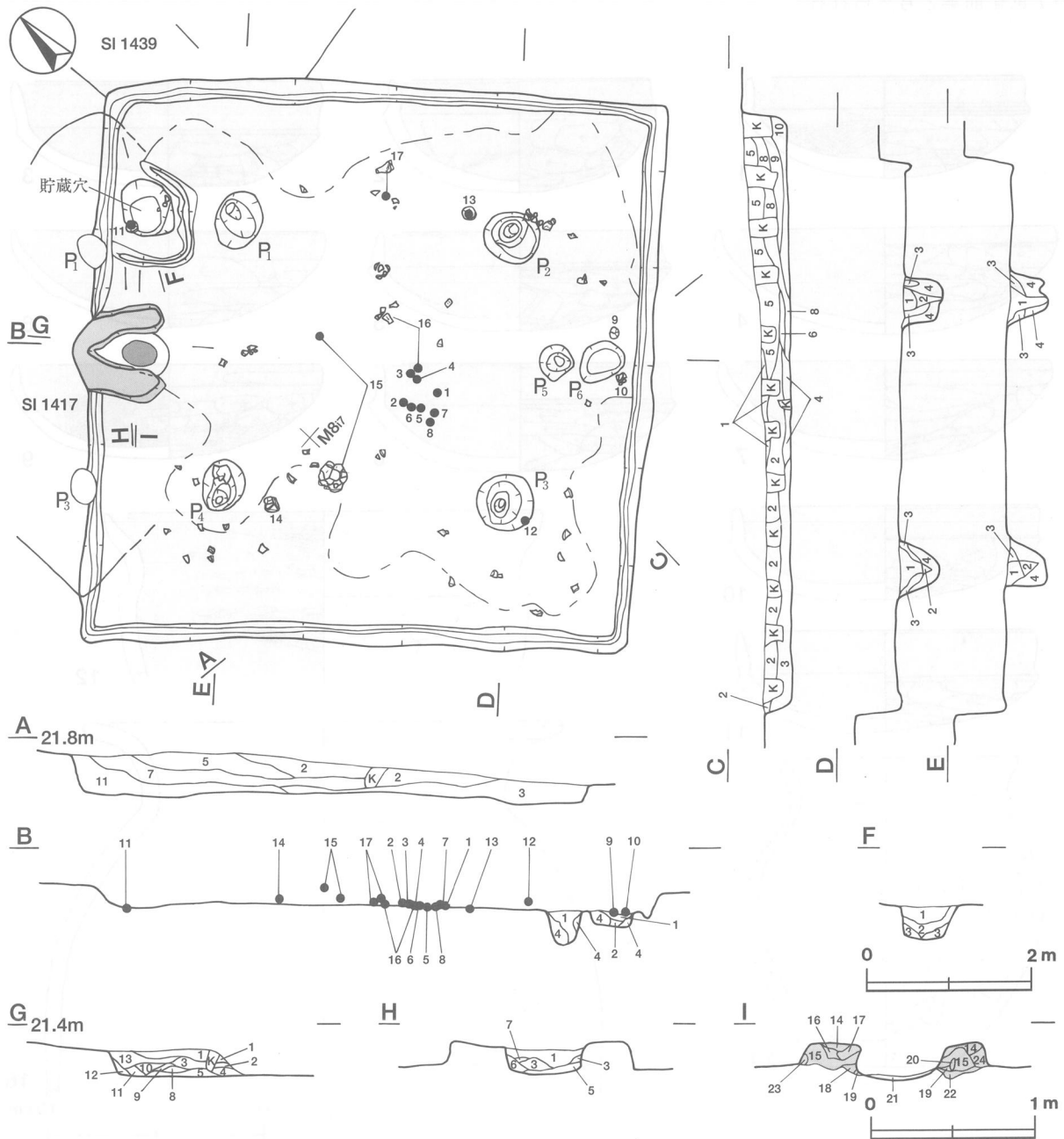
1 黒褐色	ローム小ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子少量	3 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
2 極暗褐色	ローム小ブロック中量, ローム粒子少量		

覆土 11層からなる。ほぼレンズ状をした堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 7 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 8 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 10 暗褐色 ローム粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 11 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量

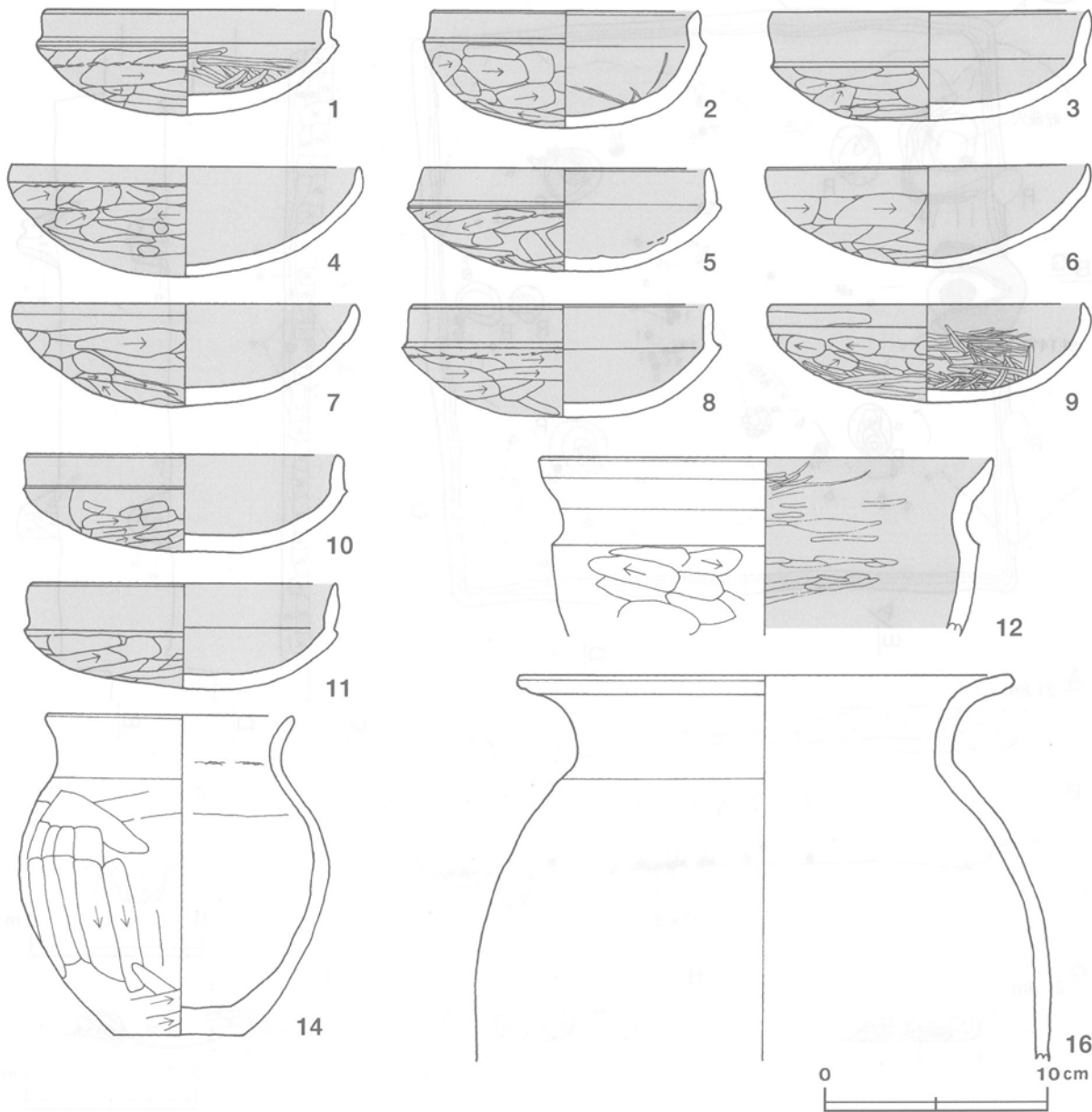
遺物 土師器片1263点 (坏302, 甕950, 高坏11), 土製品1点 (土錘), 須恵器片16点, 陶器片6点が出土している。図示した土器は, すべて土師器である。第463・464図1~8の坏は正位で, 15・16の甕はつぶれた状態



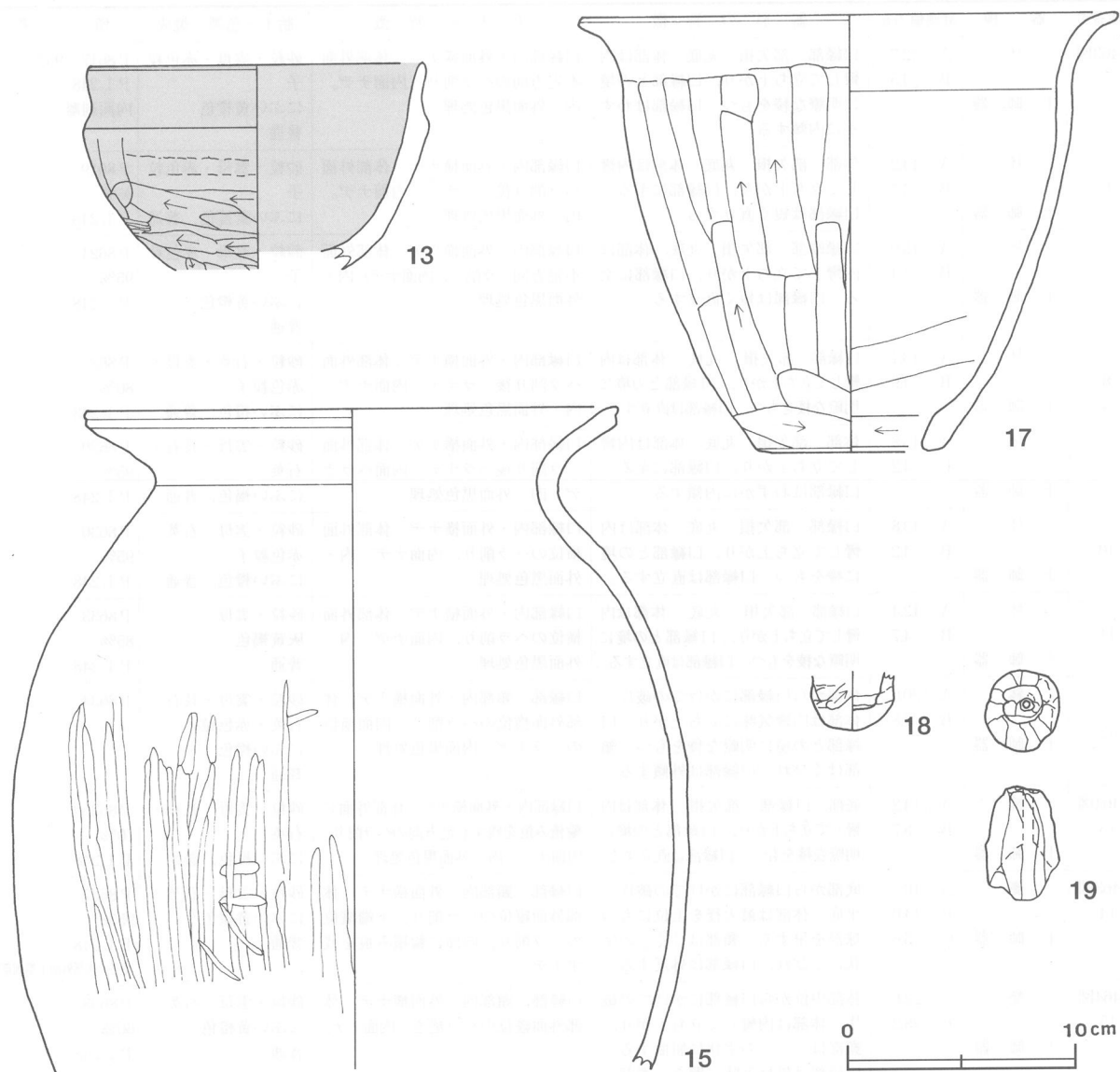
第462図 第1421号住居跡実測図

の逆位で、中央部の床面からまとまって出土している。3は4に重なり出土している。その他の坏も破片のため図示はできなかったが2～3点が重なり合った状態で出土しており、5・6とも同様である。南東壁際の出入り口ピット付近の床面からは、9・10の坏が、9は逆位で、10は正位で出土している。11の坏は貯蔵穴の覆土中層から斜位で、12の鉢片と19の土錘は、南西コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。東部の床面からは、13の碗が逆位で、17の甔が破片で出土している。14の甕は、北西コーナー部の床面から土圧でつぶれた状態の横位で出土している。18のミニチュア土器は、北部の覆土中から出土している。須恵器片と陶器片は、攪乱により混入したものと思われる。

所見 本跡の出土土器のほとんどが、床面及び覆土下層から出土している。特に、中央部の床面からは、土師器坏が21点、土師器甕が2点出土しており、一括で遺棄されたように思われる。その他の土器の出土状態もそれに類似していることから、住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。時期は、出土土器から6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。



第463図 第1421号住居跡出土遺物実測図(1)



第464図 第1421号住居跡出土遺物実測図(2)

第1421号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第463図 1	坏 土師器	A 12.4 B 4.6	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面に輪積み痕を残す横位のヘラ削り、内面ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子にぶい褐色普通	P 8613 95% P L 248
2	坏 土師器	A 11.8 B 5.1	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ、内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子褐色普通	P 8614 85% P L 248
3	坏 土師器	A 14.0 B 4.8	体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ、内面ナデ。体部外面に輪積み痕を残す。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母にぶい黄橙色普通	P 8615 95% P L 247
4	坏 土師器	A 15.3 B 4.8	体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面に輪積み痕を残す不定方向のヘラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子にぶい黄橙色、普通	P 8616 95% P L 248

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第463図 5	坏 土師器	A 12.7 B 4.5	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面不定方向のヘラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	P 8617 95% P L 248 内面剥離
6	坏 土師器	A 14.2 B 4.4	体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ、内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい黄橙色、普通	P 8619 95% P L 248
7	坏 土師器	A 15.0 B 4.4	口縁端部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面不定方向ヘラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	P 8624 95% P L 248
8	坏 土師器	A 13.1 B 4.9	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ、内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・石英・雲母・赤色粒子 にぶい橙色、普通	P 8625 80% P L 248
9	坏 土師器	A 13.8 B 4.2	体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ、内面ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい褐色、普通	P 8629 95% P L 248
10	坏 土師器	A 13.8 B 4.2	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい橙色、普通	P 8630 95% P L 248
11	坏 土師器	A 13.4 B 4.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 灰黄褐色 普通	P 8633 85% P L 248
12	鉢 土師器	A [20.0] B (7.8)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜をもつ。頸部はくびれ、口縁部は外傾する。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り、内面横位のヘラナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P 8634 5%
第464図 13	椀 土師器	A [14.2] B (8.7)	底部、口縁部一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面に輪積み痕を残す不定方向のヘラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色、普通	P 8635 70% P L 248
第463図 14	甕 土師器	A 10.7 B 14.0 C 5.6	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は最大径を上位にもつ球形を呈する。頸部は「く」の字状にくびれ、口縁部は外反する。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り、下端横位のヘラ削り、内面に輪積み痕を残すナデ。	砂粒・雲母・石英 にぶい黄橙色 普通	P 8637 95% P L 248 底部・体部外面下端剥離
第464図 15	甕 土師器	A 22.6 B (28.2)	体部中位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部は「く」の字状に屈曲する。口縁部は外反気味に開き、端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ磨き、内面ナデ。	砂粒・雲母・石英 にぶい黄橙色 普通	P 8638 60% P L 248
第463図 16	甕 土師器	A 21.6 B (16.8)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部は「く」の字状に屈曲する。口縁部は外反気味に開き、端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい褐色 普通	P 8639 40% P L 248
第464図 17	甕 土師器	A 23.0 B 18.5 C [8.0]	体部下端から口縁部にかけての破片。無底式。体部は外傾して立ち上がり、頸部に至る。口縁部は外反気味に開く。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り、内面ナデ。体部内・外面下端横位ヘラ削り。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	P 8642 40% P L 248
18	ミニチュア土器 土師器	B (2.5)	小形の椀形。底部から体部にかけての破片。丸底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ヘラ削り、凹凸あり、体部内面に輪積み痕を残すナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P 8643 40% P L 248

図版番号	器種	計 測 値				特 徴	胎土・色調	備 考
		径 (cm)	厚 さ (cm)	孔 径 (cm)	重 量 (g)			
第464図19	管状土錘カ	3.2	4.9	0.4	33.9	端部がすばまる円柱状。ヘラ削り。	砂粒・長石、にぶい橙色	D P 8416 40%

第1422号住居跡（第465・466図）

位置 調査8区の東部，M10j3区。竈の東袖部から南西コーナー部にかけての東半が，調査区域外に位置しているため確認できなかった。

重複関係 北西コーナー部から竈前にかけてが，東西方向に延びる第16号溝に床面まで掘り込まれている。さらに，竈の東袖部から南西コーナー部にかけての東半が，調査区域の境界線に沿って南北方向に延びる第9号道路状遺構に掘り込まれている。

規模と平面形 規模は南北軸が8.76mで，東西軸が4.50mだけが確認された。平面形は方形または長方形と考えられる。

主軸方向 N-14° - W

壁 壁高は22～48cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 確認できた北壁から西壁・南壁にかけての壁際を巡っている。規模は上幅12～30cm，下幅5～14cm，深さ3～12cmで，断面形は緩やかなU字形状をしている。

床 ほぼ平坦であり，中央部が特に踏み固められている。

竈 北壁を壁外へ約40cm掘り込んで，砂質粘土で構築されている。位置は，北壁の中央部と考えられる。東袖部が第9号道路状遺構に掘り込まれているため，検出できた部分は，西袖部と火床部から煙道部にかけてである。規模は，焚口部から煙道部までが117cmで，西袖部から火床部の中心までが70cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第1～5層には粘土粒子・砂粒が多量に含まれ，中でも第5層は粘土・山砂が赤変硬化していることから，これらの層が天井部の崩落土と考えられる。西袖部の内側は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部は皿状をしており，赤変硬化している。第6層には灰が多量，その下層の第9層には焼土小ブロック・焼土粒子が多量に含まれることから，第9層の下面が火床面と考えられる。煙道は火床面から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1 暗褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量	6 赤黒色	灰多量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
2 暗褐色	焼土粒子多量，焼土小ブロック・粘土粒子中量，ローム大ブロック・砂粒少量	7 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子中量，砂粒少量
3 暗褐色	炭化粒子多量，焼土粒子中量，焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒少量	8 暗赤褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土中ブロック少量
4 暗褐色	焼土小ブロック・焼土粒子多量，砂粒中量，粘土粒子少量	9 にぶい赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子多量
5 暗褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒多量，炭化粒子・粘土粒子中量，炭化物少量	10 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・炭化物・粘土粒子少量

ピット 5か所（P1～P5）。P1・P2は，それぞれ径62cm・58cmの円形で，深さ75cm・48cmである。いずれも各コーナー寄りに位置しており，規模と配置から主柱穴と考えられる。P3は，径35cmの円形で，深さ51cmであり，P1とP2の中間に位置し，P1・P2より規模が小さいことから，補助的な性格をもつ柱穴と考えられる。P4は長径134cm，短径55cmの楕円形で，深さ38cmである。P5は径60cmの円形で，深さ25cmである。P4・P5とも，第16号溝に掘り込まれている部分があり，覆土の堆積状況は不明である。性格は，P4については不明であるが，P5は竈の西部に位置し，P5と竈との間の床面から土器が多数出土していることから，甕等を伏せて置いた場所の可能性がある。

P1～P3土層解説

1 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
2 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック中量
3 褐色	ローム大ブロック・ローム粒子多量，ローム小ブロック中量

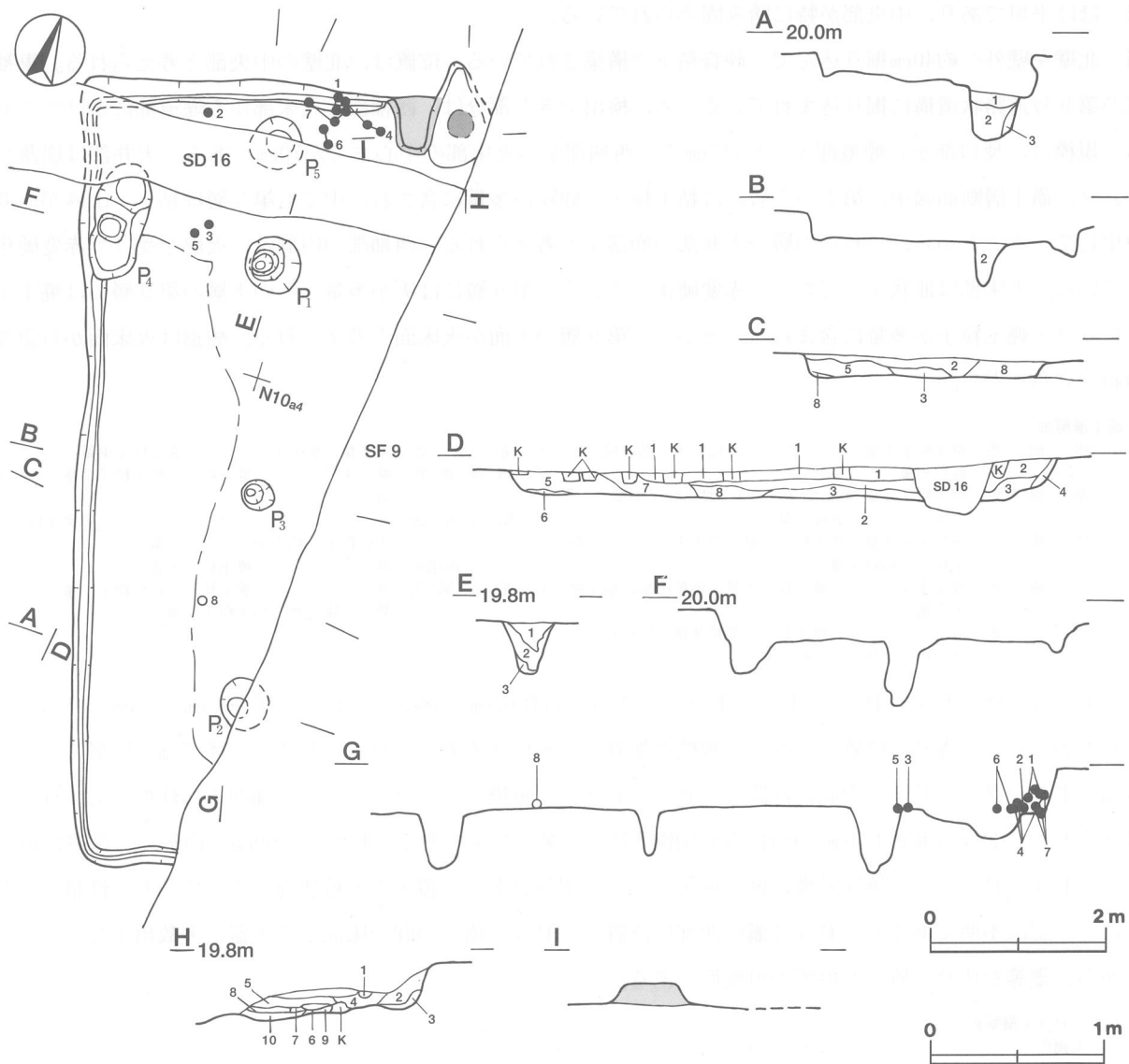
覆土 8層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

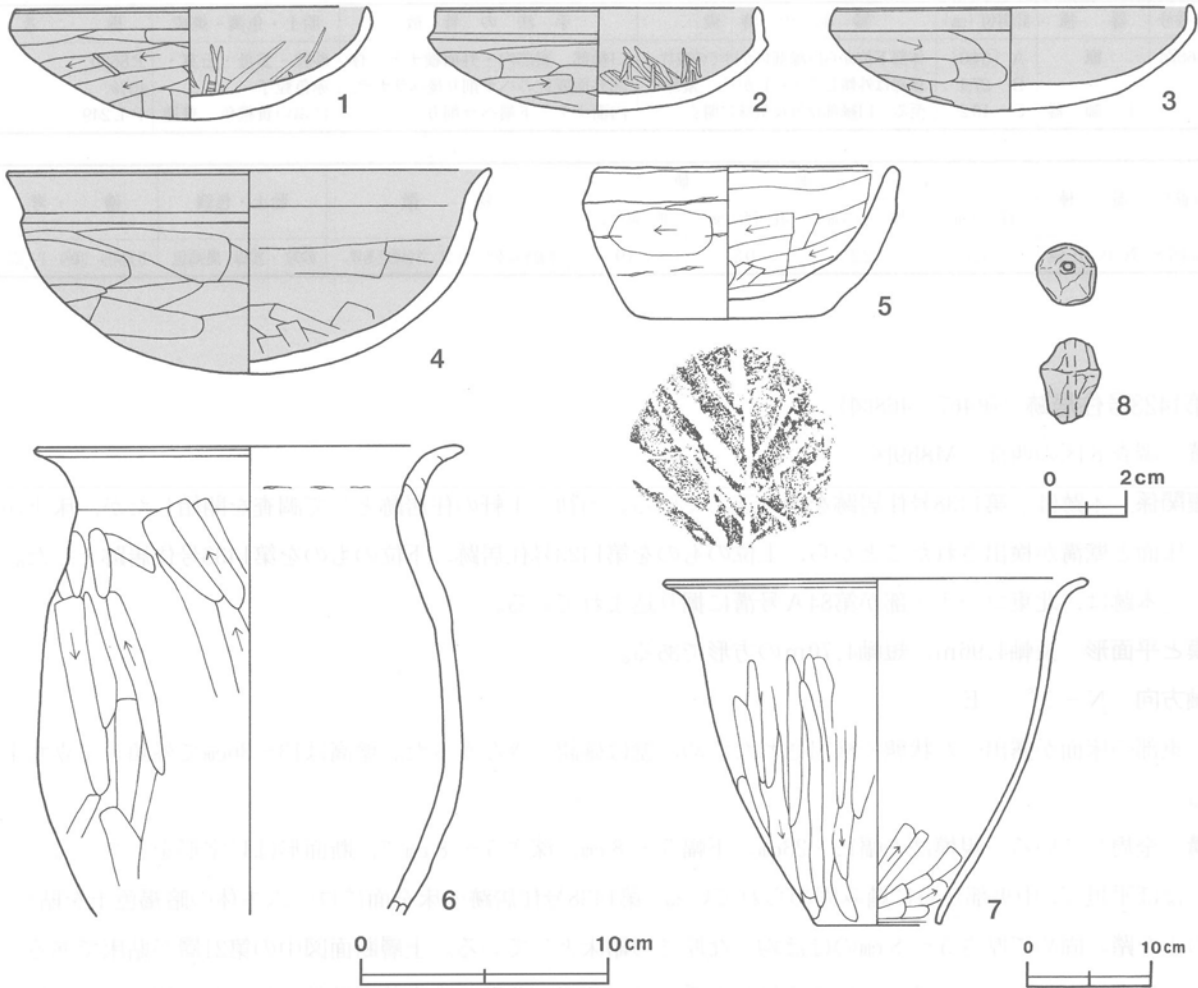
- | | | | |
|--------|----------------------------------|-------|--|
| 1 暗赤褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, ローム粒子・焼土小ブロック少量, 粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| | | 7 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量 |
| | | 8 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量 |

遺物 土師器片248点, 土製品1点(土錘), 須恵器片24点, 陶器片1点が出土している。図示した土器は, すべて土師器である。第466図1・2の坏と7の甗は, 竈西側の覆土下層から1が正位で, 2と7が破片で出土している。3の坏と5の鉢は, 北西コーナー部の床面から3が逆位で, 5が正位で出土している。4の鉢は, 竈西側の床面と竈内から出土した破片が接合したものである。6の甗は, 竈西側の覆土下層とP5の覆土中から出土した破片が接合したものである。8の土錘は, 南部の床面から出土している。須恵器片と陶器片は, 攪乱により混入したと思われる。

所見 本跡の時期は, 出土土器から6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。



第465図 第1422号住居跡実測図



第466図 第1422号住居跡出土遺物実測図

第1422号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第466図 1	坏 土師器	A 14.2 B 4.4	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り、内面放射状のヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子にぶい黄橙色普通	P 8672 70% P L 249
2	坏 土師器	A 13.0 B 4.1	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り、内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子にぶい橙色、普通	P 8675 90% P L 248
3	坏 土師器	A 14.2 B 5.1	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子にぶい黄橙色普通	P 8676 75% P L 248
4	鉢 土師器	A 19.4 B 8.0	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は外反気味に開く。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面不定方向のヘラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子にぶい黄橙色普通	P 8677 60% P L 249
5	鉢 土師器	A 12.0 B 6.0 C 7.3	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面に輪積み痕を残すヘラ削り、内面ヘラナデ。底部木葉痕。	砂粒・雲母にぶい褐色普通	P 8678 85% P L 249
6	甕 土師器	A [17.2] B (18.7)	体部下位から口縁部にかけての破片。体部は最大径を中位にもつ長胴形を呈する。頸部は「く」の字状にくびれ、口縁部は外反気味に開く。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。口縁部内面に輪積み痕が残る。体部外面斜位のヘラ削り、内面横ナデ。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子にぶい橙色普通	P 8679 15% P L 248

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第466図 7	甌 土師器	A [34.0] B 27.4 C 10.2	体部下位から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、頸部に至る。口縁部は外反気味に開く。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り後ヘラナデ、内面ナデ、下端ヘラ削り。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい黄褐色、普通	P 8680 40% P L 249

図版番号	器種	計測値				特徴	胎土・色調	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第466図8	管状土錘	1.6	2.2	0.3	3.9	断面形は菱形。ナデ。外面黒色処理。	砂粒・雲母、黒褐色	DP8419 100% P.L.253

第1423号住居跡 (第467・468図)

位置 調査8区の西部，M8h9区。

重複関係 本跡は，第1438号住居跡を掘り込んでいる。当初，1軒の住居跡として調査を開始したが，床下からも床面と壁溝が検出されたことから，上位のものを第1423号住居跡，下位のものを第1438号住居跡とした。また，本跡は，北東コーナ一部が第84A号溝に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.96m，短軸4.70mの方形である。

主軸方向 N-5°-E

壁 東部の床面が露出した状態で検出されたため，壁は確認できなかった。壁高は13～36cmで外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。規模は上幅12～23cm，下幅5～8cm，深さ5～8cmで，断面形はU字形をしている。

床 ほぼ平坦で，中央部が特に踏み固められている。第1438号住居跡の床全面にローム主体の暗褐色土を貼り，その土を踏み固めて厚さ5～8cmのほぼ均一な厚さの貼床としている。土層断面図中の第21層が貼床である。

竈 両袖部の上部がトレンチャーによる攪乱を受けているが，北壁の中央部を壁外へ24cmほど掘り込んで構築されていることが確認できた。規模は，焚口部から煙道部まで130cm，両袖幅90cmである。天井部は崩落している。袖部は攪乱を受けているため遺存状態は悪いが，貼床の上面に砂質粘土を積み上げて構築されている。

袖部の内側及び火床部は赤変硬化している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・粘土粒子・砂粒微量
- 4 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子・炭化物・炭化粒子・砂粒・灰微量
- 5 黒褐色 ローム粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子・砂粒微量
- 7 灰褐色 粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 8 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック・粘土粒子微量
- 9 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒微量
- 10 暗赤褐色 焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量，粘土大ブロック少量

ピット 6か所 (P1～P6)。P1～P3は，径30～46cmのほぼ円形で，深さ20～30cmである。いずれもコーナー寄りに位置し，規模と配置から支柱穴と考えられる。P4は径25cmの円形で，深さ24cmであり，P3に隣接している位置と規模から，P3の補助柱穴の可能性はある。P5は径30cmの円形で，深さ20cmであり，P1とP2のほぼ中間に位置していることから，補助的な役割の柱穴と考えられる。P6は，長径32cm，短径20cmの楕円形で，深さ28cmであり，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。南西コーナ一部からは柱穴は検出できなかった。

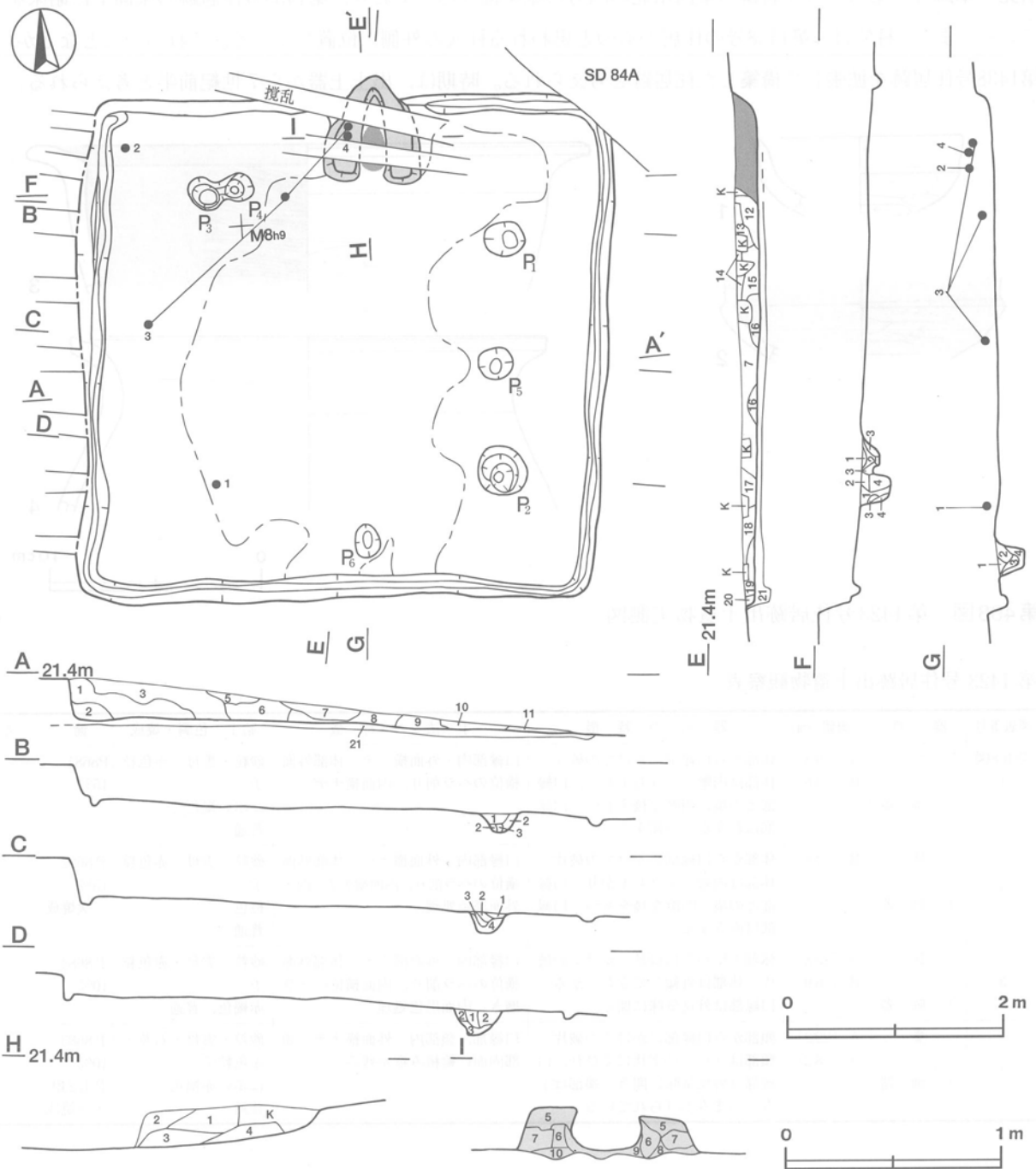
P1～P6土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

覆土 20層からなる。ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。第21層は貼床の層である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 7 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 9 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 10 黒褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 11 暗褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 12 暗褐色 ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・砂粒微量
- 13 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック・粘土小ブロック・砂粒微量
- 14 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・砂粒微量

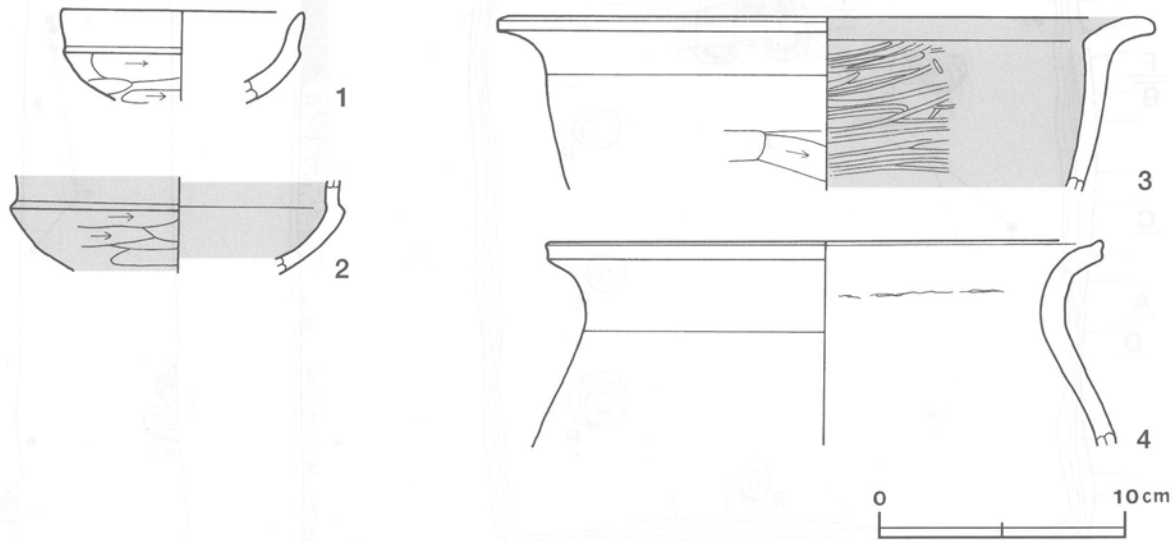


第467図 第1423号住居跡実測図

- 15 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
- 16 暗褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
- 17 黒褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量
- 18 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 19 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 20 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 21 暗褐色 ローム大ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量。しまりが強い。

遺物 土師器片214点, 須恵器16点が出土している。図示した土器は, すべて土師器である。第468図1の坏片は南西コーナー部の覆土下層から, 2の坏は北西コーナー部の覆土中層から, それぞれ出土している。3の鉢は竈西側の覆土下層と西部の覆土下層から出土した破片とが接合したものである。4の甕片は, 竈西側の覆土下層から出土している。須恵器片は, 攪乱により混入したものと考えられる。

所見 本跡は, 第1438号住居跡の東西南北の四方の壁を掘り込んでおり, 第1438号住居跡の床面上に貼床をしている。また, 柱穴は, 第1438号の住居のものと思われる柱穴の外側に位置している。これらのことなどから, 第1438号住居跡を拡張して構築した住居跡と考えられる。時期は, 出土土器から7世紀前半と考えられる。



第468図 第1423号住居跡出土遺物実測図

第1423号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第468図 1	坏 土師器	A [9.8] B (3.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り, 内面横ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子にぶい褐色普通	P8681 15%
2	坏 土師器	B (3.8)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り, 内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子にぶい褐色普通	P 8682 15% 二次焼成
3	鉢 土師器	A [25.8] B (6.9)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がる。口縁部は外反気味に開く。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り, 内面横位のヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子にぶい褐色, 普通	P 8684 10%
4	甕 土師器	A [22.2] B (8.2)	頸部から口縁部にかけての破片。頸部は「く」の字状にくびれ, 口縁部は外反気味に開き, 端部は上方につまみ上げられている。	口縁部, 頸部内・外面横ナデ。頸部内面に輪積み痕が残る。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子にぶい赤褐色普通	P 8683 10% P L 249 二次焼成

第1424号住居跡（第469・470図）

位置 調査8区の中央部，M9i1区。

規模と平面形 長軸3.70m，短軸3.40mの方形である。

主軸方向 N-60°-E

壁 壁高は29～42cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。規模は上幅15～22cm，下幅5～13cm，深さ5～8cmで，断面形はU字形をしている。

床 ほぼ平坦で，竈前面から中央部にかけてが特に踏み固められている。全面貼床で，地山をほぼ平坦に確認面から48cmほど平坦に掘り込み，ロームブロック・ローム粒子を主体とする暗褐色土を入れ，その土を踏み固めてつくっている。貼床の厚さは中央部で4cm，それぞれの壁側で6cmほどの厚さの貼床としている。土層断面図中，第17層がこれにあたる。竈の南部の南東コーナー部の床面が，長軸7.2cm，短軸4.5cmの楕円形で，床面からの高さ8～10cmの高まりが検出された。この高まり部は，ロームブロック・ローム粒子を含む暗褐色土を突き固めて構築されている。この部分からは遺物の出土数は少ないが，位置と形状から棚状施設の可能性がある。竈土層断面図中，第19～21層がこれにあたる。

竈 北東壁の南東コーナー寄りを壁外へ13cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで103cm，両袖幅101cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第5・6層には粘土粒子が多量に含まれていることから，これらの層が天井部の崩落土と考えられる。袖部は良好に遺存しており，内側は火熱を受けて赤変硬化している。第12層には灰が多量，焼土粒子が中量含まれ，第13層には焼土粒子が多量に含まれていることから，第13層下面が火床面と考えられる。火床部は床面から約4cm掘りくぼめられており，赤変硬化している。煙道は火床面から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1	黒褐色	色	粘土粒子中量，ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
2	暗褐色	色	粘土中ブロック・粘土小ブロック少量
3	黒褐色	色	ローム粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
4	暗褐色	色	粘土粒子中量，焼土粒子・粘土中ブロック・粘土小ブロック少量，炭化粒子微量
5	灰褐色	色	粘土粒子多量，粘土中ブロック中量，焼土粒子・粘土大ブロック少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量，しまり強。
6	灰褐色	色	粘土小ブロック・粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子・粘土中ブロック少量，ローム粒子・焼土小ブロック微量，しまり強。
7	黒褐色	色	粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・粘土小ブロック微量
8	灰褐色	色	粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土中ブロック微量
9	にぶい赤褐色	色	粘土粒子中量，焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック微量
10	黒褐色	色	粘土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
11	黒褐色	色	焼土小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量，焼土粒子微量
12	黒褐色	色	灰多量，焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量
13	にぶい灰褐色	色	焼土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
14	灰褐色	色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量
15	灰褐色	色	粘土粒子中量，粘土小ブロック・砂粒少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
16	黒褐色	色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
17	灰褐色	色	粘土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
18	暗褐色	色	ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・粘土粒子微量
19	灰褐色	色	粘土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子少量，しまり強。
20	暗褐色	色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量，しまり強。
21	暗褐色	色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量，しまり強。

ピット 3か所（P1～P3）。P1～P3は，径25～35cmのほぼ円形で，深さ19～22cmである。いずれもコーナー寄りに位置し，規模と配置から主柱穴と考えられる。その他のピットは確認できなかった。ピット土層断面図中，第1層は柱の抜き取り痕と考えられる。

P1～P3土層解説

1	暗褐色	色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
2	褐色	色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
3	暗褐色	色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

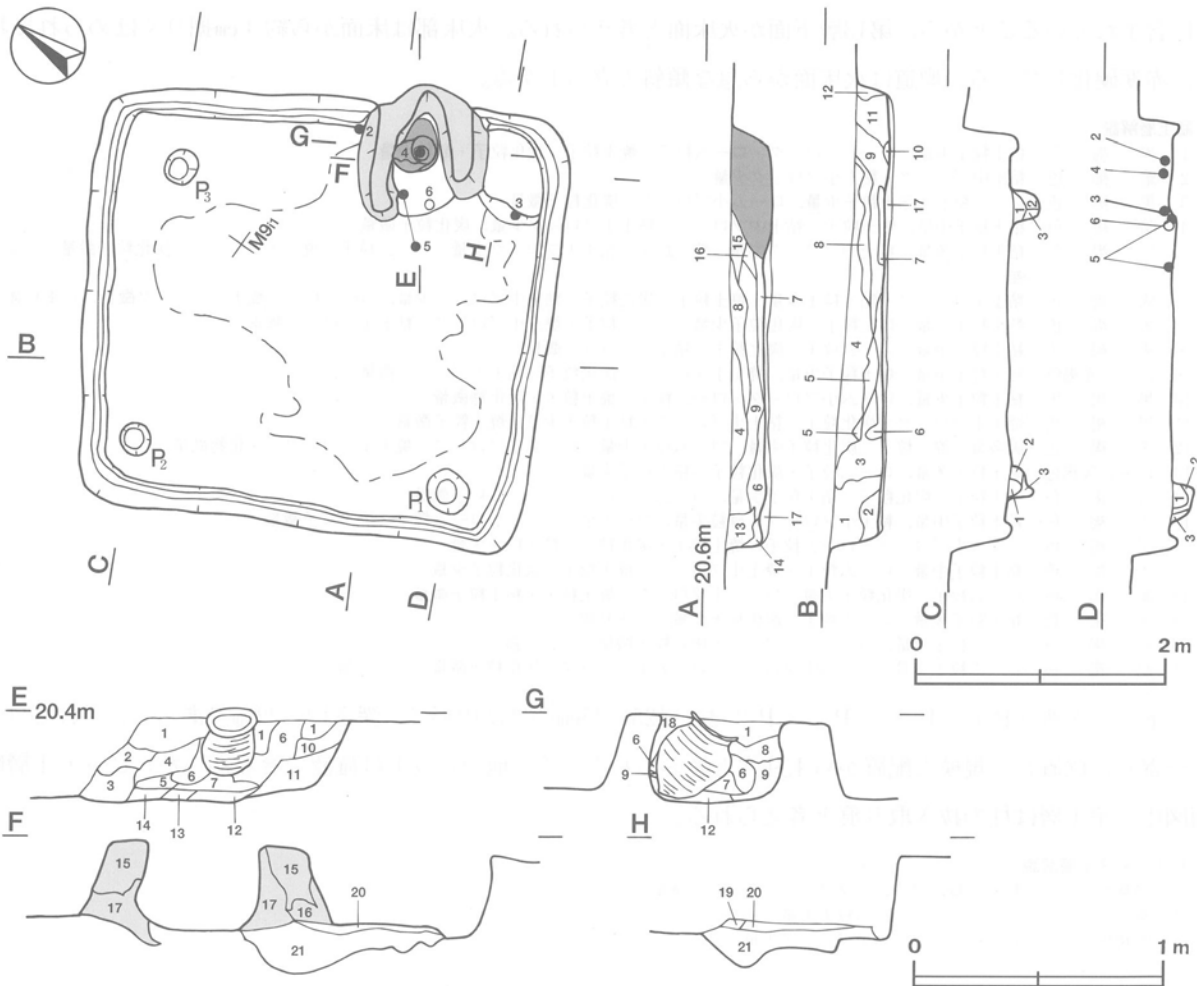
覆土 17層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

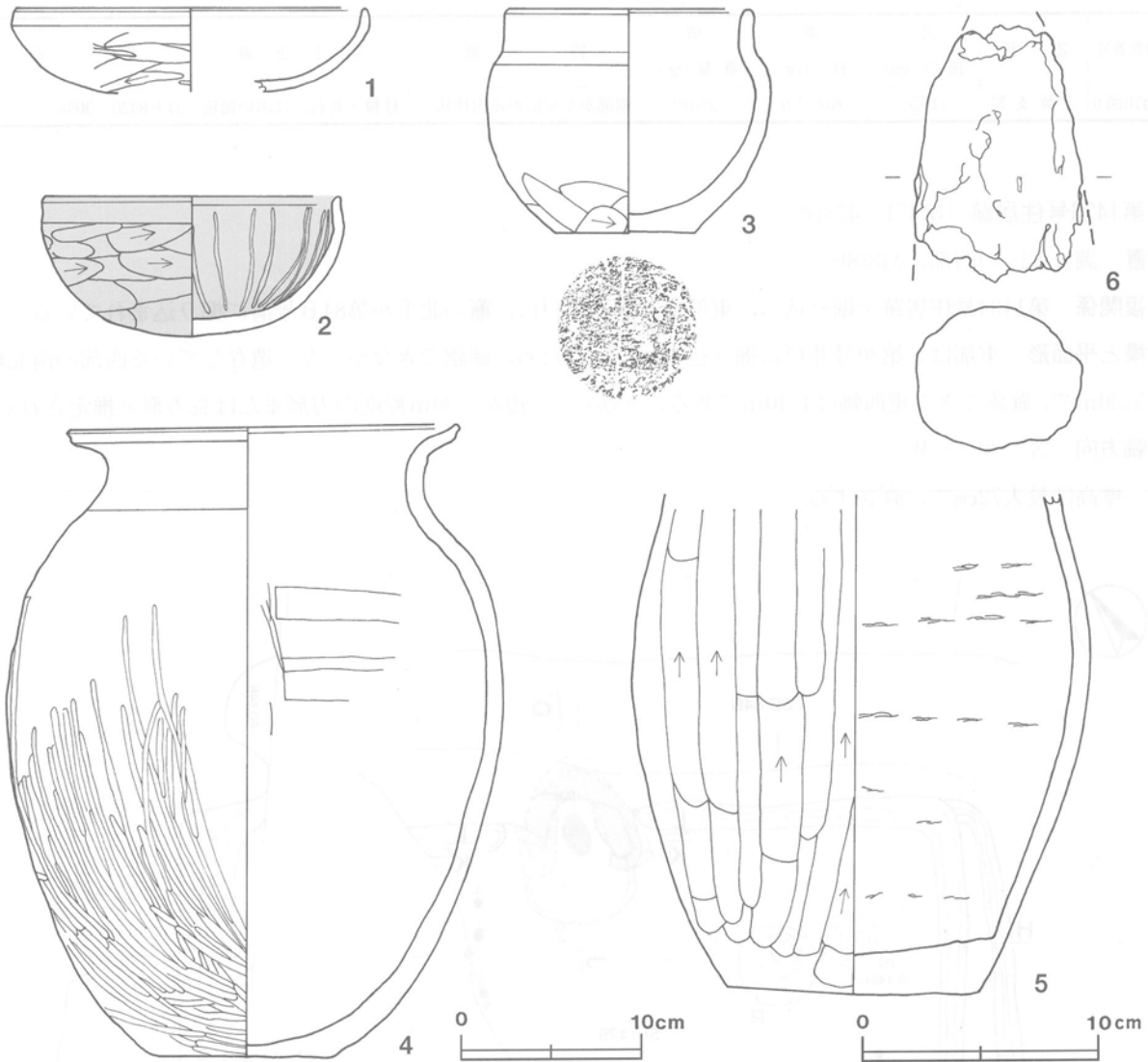
- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 炭化物少量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
- 7 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 8 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 9 黒褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 10 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化物微量
- 11 黒褐色 ローム大ブロック・ローム粒子・炭化物微量
- 12 暗褐色 ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
- 13 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 14 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 15 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・粘土粒子微量
- 16 黒褐色 ローム粒子・粘土小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 17 暗褐色 ローム粒子多量, ローム大ブロック・ローム中ブロック中量, しまり強。

遺物 土師器片177点, 須恵器3点, 土製品1点(支脚)が出土している。図示した土器は, すべて土師器である。第470図1の坏片は, 北西部の覆土中層から出土している。2の坏は, 北側の床面から正位で出土している。3の甕は, 南東コーナー部の床面から横位で出土している。4の甕は, 竈内からやや斜位の状態で出土している。ほぼ竈に据えられたままの状態と思われる。5の甕は, 竈内からと竈前面の床面から出土した破片が接合したものである。6の支脚は, 竈の焚口部から立位の状態で出土している。

所見 本跡の時期は, 出土土器から7世紀前半と考えられる。



第469図 第1424号住居跡実測図



第470図 第1424号住居跡出土遺物実測図

第1424号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第470図 1	坏 土師器	A [14.6] B (3.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り、内面横ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色 普通	P 8686 20%
2	坏 土師器	A 12.3 B 5.8	口縁部一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り、内面放射状のヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 灰褐色、普通	P 8687 90% P L 249
3	碗 土師器	A [10.0] B 9.2 C 5.8	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面横ナデ。底部木葉痕。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 にぶい赤褐色、普通	P 8689 75% P L 249 二次焼成
4	甕 土師器	A 20.9 B 34.6 C 9.4	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は卵形を呈し、頸部でゆるやかにくびれ、口縁部に至る。口縁部は外反気味に開き、端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ磨き、内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 にぶい褐色 普通	P 8690 95% P L 249
5	甕 土師器	B (20.6) C 10.5	底部から体部上位にかけての破片。平底。体部は倒卵形を呈する。	体部外面縦位のヘラ削り、内面に輪積み痕を残すナデ。底部一方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい橙色、普通	P 8691 70% P L 249

図版番号	器種	計測値			特徴	胎土・色調	備考
		長さ(cm)	径(cm)	重量(g)			
第470図6	土製支脚	(10.5)	6.0~7.0	(270.0)	裾部がやや広がる円柱状。	砂粒・長石, にぶい褐色	D P 8420 30%

第1426号住居跡 (第471~473図)

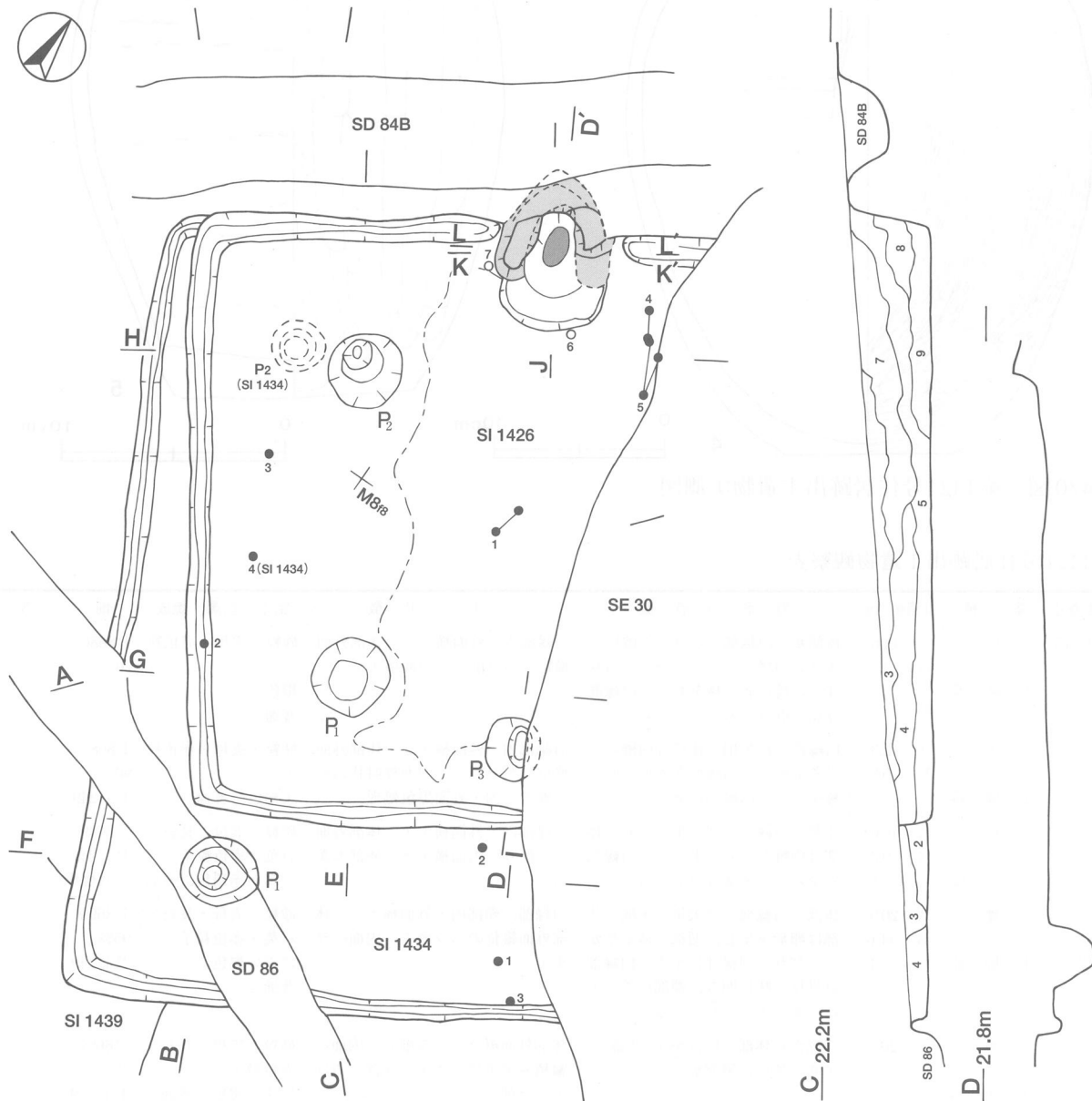
位置 調査8区の西部, M8f8区。

重複関係 第1434号住居跡を掘り込み, 東部が第30号井戸に, 竈の北半が第84B号溝に掘り込まれている。

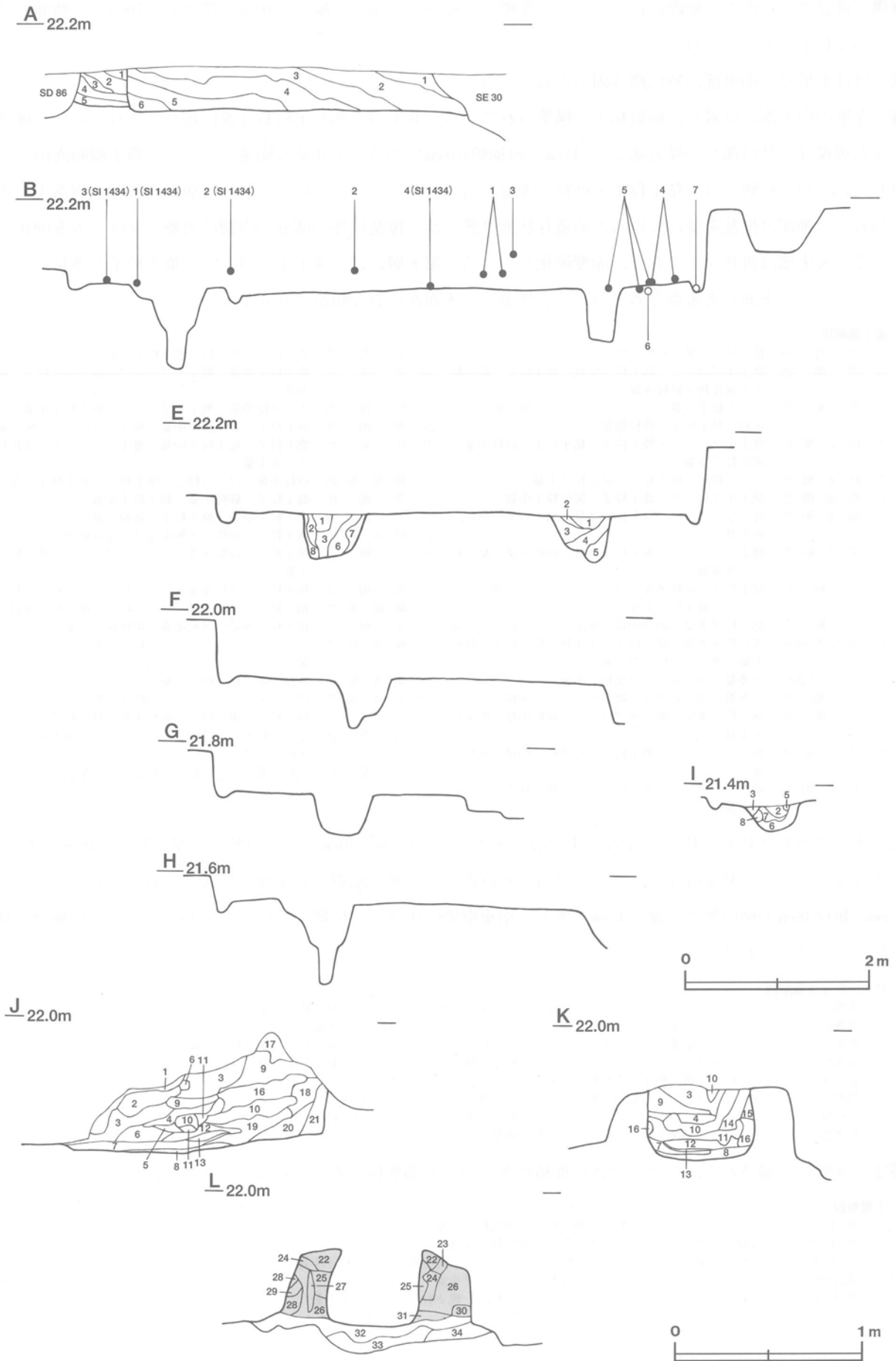
規模と平面形 東部は, 第30号井戸に掘り込まれているため, 確認できなかった。遺存している西部の南北軸が5.30mで, 確認できた東西軸は4.40mであることから, 一辺が5.30m程度の方形または長方形と推定される。

主軸方向 N-30° -W

壁 壁高は最大72cmで, 直立する。



第471図 第1426・1434号住居跡実測図(1)



第472图 第1426・1434号住居跡実測图 (2)

壁溝 確認できた西部の壁際に巡っている。規模は上幅18～25cm, 下幅5～10cm, 深さ6～10cmで, 断面形は緩やかなU字形をしている。

床 ほぼ平坦で, 中央部が特に踏み固められている。

竈 北壁の中央部に位置し, 砂質粘土で構築されている。北半の上部が第84B号溝に掘り込まれており, 確認できた規模は, 焚口部から煙道部まで141cm, 両袖幅101cmである。天井部は崩落している。竈土層断面図中, 第9・10・14・15層には, 粘土粒子・砂粒が多量に含まれていることから, これらの層が天井部の崩落土と考えられる。袖部は攪乱を受けているため遺存状態は悪いが, 攪乱以外の部分の内側は火熱を受けて赤変硬化している。火床部は皿状をしており, 赤変硬化している。第8層には, 焼土小ブロック・焼土粒子が多量に含まれることから, 下面が火床面と考えられる。煙道は火床面から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1 灰 褐色	粘土粒子多量, 砂粒中量	17 灰 褐色	焼土粒子・炭化物・粘土粒子少量
2 黒 褐色	焼土小ブロック・粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・炭化物・砂粒少量	18 灰 赤色	焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 炭化粒子・灰少量
3 黒 褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・粘土粒子・砂粒微量	19 灰 褐色	灰・砂粒多量, 焼土小ブロック・焼土粒子中量
4 暗 赤 褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量, 炭化粒子少量	20 黒 褐色	焼土粒子・炭化粒子中量, 焼土小ブロック・灰少量
5 暗 赤 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	21 灰 褐色	焼土粒子・粘土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・灰少量
6 暗 赤 褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量	22 極 暗 褐色	砂粒中量, ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量
7 暗 赤 褐色	焼土小ブロック・焼土粒子多量, 粘土粒子・砂粒・灰中量	23 黒 褐色	焼土粒子・砂粒中量, 粘土粒子少量
8 暗 赤 褐色	焼土小ブロック・焼土粒子多量, 砂粒中量, 粘土粒子・灰少量	24 黒 褐色	粘土粒子中量, 焼土粒子・砂粒少量
9 黒 褐色	粘土粒子・砂粒多量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量	25 暗 赤 褐色	粘土粒子・砂粒。火熱を受けて赤変硬化している。
10 灰 褐色	粘土粒子多量, 砂粒中量, 焼土粒子・炭化粒子少量	26 灰 褐色	粘土粒子・砂粒多量, ローム小ブロック・焼土粒子少量
11 極 暗 赤 褐色	炭化粒子多量, 焼土粒子・炭化物・粘土粒子・砂粒中量, 焼土小ブロック少量	27 暗 褐色	粘土粒子・砂粒多量, ローム粒子・炭化粒子少量
12 にぶい赤褐色	灰多量, 炭化物中量, 焼土小ブロック少量	28 極 暗 褐色	粘土粒子・砂粒中量, ローム粒子・焼土粒子少量
13 灰 褐色	灰多量, 炭化物中量, 焼土小ブロック少量	29 灰 褐色	粘土粒子多量, 砂粒中量, 炭化粒子少量
14 灰 褐色	粘土粒子多量, 焼土小ブロック・砂粒中量, 焼土粒子少量	30 極 暗 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量
15 暗 赤 褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子中量, 砂粒少量	31 暗 赤 褐色	砂粒中量, 粘土粒子少量
16 暗 赤 褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・粘土粒子・砂粒中量	32 暗 赤 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒中量, 粘土粒子少量
		33 暗 褐色	ローム粒子・砂粒中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
		34 暗 褐色	砂粒中量, ローム粒子・粘土粒子少量

ピット 3か所 (P1～P3)。P1・P2は, それぞれ径65cm・70cmのほぼ円形で, 深さ51cm・46cmである。P1は南コーナー, P2は北コーナーにそれぞれ位置し, 規模と配置から支柱穴と考えられる。P3は, 長径53cm, 短径48cmの楕円形で, 深さ45cmであり, 南東壁際の中央部に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P1～P3土層解説

1 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, ローム粒子・焼土小ブロック・粘土粒子少量
2 黒褐色	ローム小ブロック中量, ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
3 暗褐色	ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
4 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
5 暗 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
6 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
7 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量
8 暗褐色	ローム小ブロック・焼土粒子少量, ローム粒子微量

覆土 9層に分層された。ブロック状の堆積状況から, 人為堆積と考えられる。

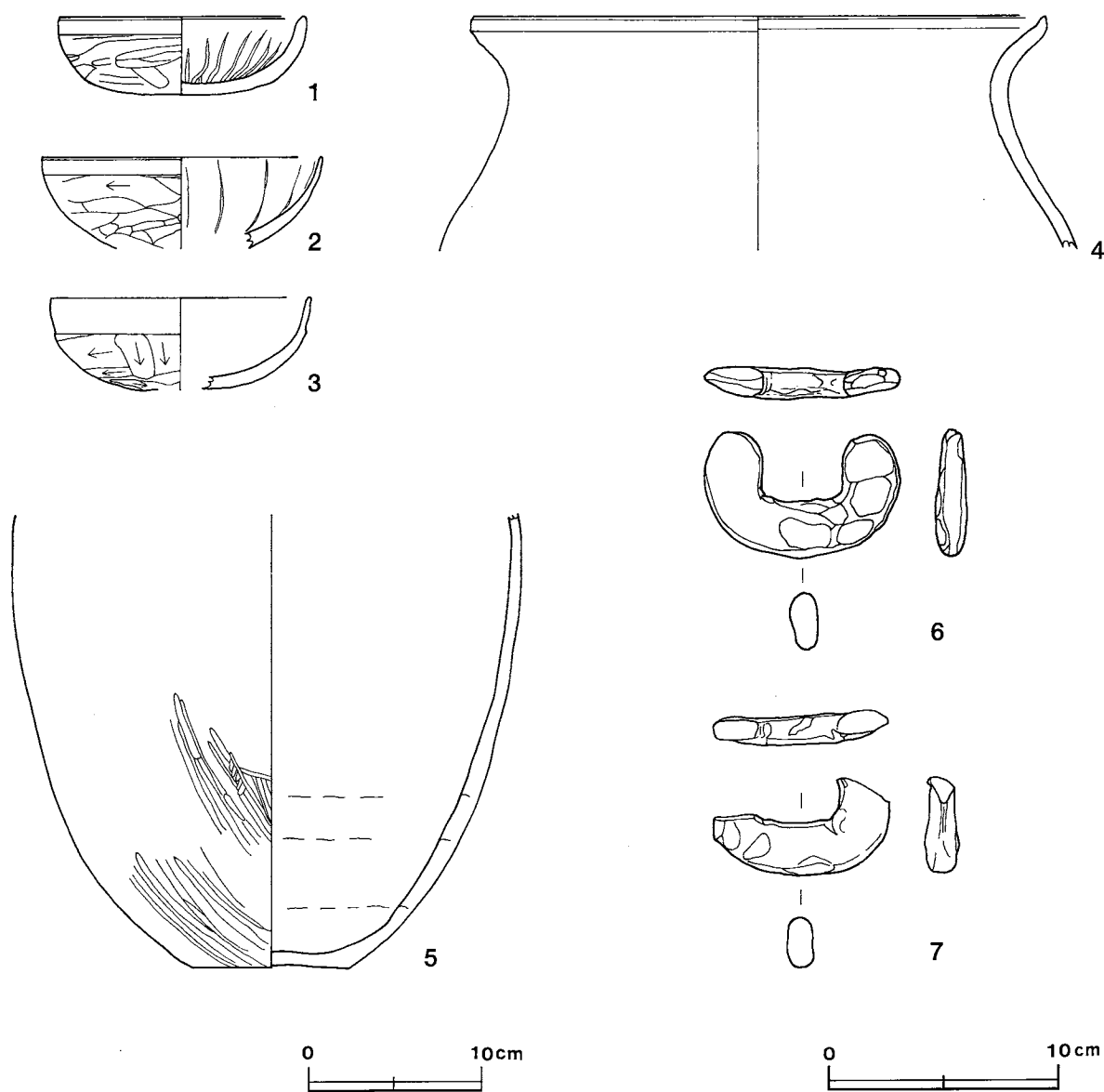
土層解説

1 黒 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2 黒 褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3 暗 褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
4 極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5 黒 褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 7 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 8 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 9 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量

遺物 土師器片1889点, 土製品2点(鋤先形土製品), 須恵器65点, 陶器片1点が出土している。図示した土器は, すべて土師器である。第473図1の坏片は中央部の覆土下層から, 2の坏片は南西部の覆土下層から, 3の坏片は西部の覆土下層から, それぞれ出土している。4の甕片は, 竈前の床面から出土している。5の甕片は, 竈内と竈前の床面から出土した破片が接合したものである。6・7の鋤先形土製品は, 竈前面の掘り方の埋土中から出土している。須恵器片と陶器片は, 攪乱により混入したものと思われる。

所見 本跡からは, 鋤先形土製品が出土している。当遺跡での出土は2例目となり, 第510号住居跡から出土したものとほぼ同様である。時期は, 出土土器から7世紀後半と考えられる。



第473図 第1426号住居跡出土遺物実測図

第 1426 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第473図 1	坏 土師器	A [10.6] B 3.3	体部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ、内面放射状のヘラ磨き。	砂粒・雲母・長石・石英 明赤褐色、普通	P 8693 40% P L 249
2	坏 土師器	A [12.0] B (3.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り、内面放射状のヘラ磨き。	砂粒・雲母・赤色粒子 赤褐色、普通	P 8694 20%
3	坏 土師器	A [11.2] B (3.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ、内面ナデ。	砂粒・赤色粒子 橙色 普通	P 8695 20% P L 249
4	甕 土師器	A [24.6] B (10.0)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部で緩やかにくびれ、口縁部に至る。口縁部は外反気味に開き、端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ、内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい褐色 普通	P 8697 10% P L 249
5	甕 土師器	B (25.5) C 8.8	底部から体部下半にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面斜位のヘラ磨き、内面に輪積み痕を残すナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰褐色、普通	P 8698 30% P L 249 外面一部剥離

図版番号	器種	計測値				特徴	胎土・色調	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第473図 6	鋤先形土製品	5.5	8.5	1.3	43.3	完形。ナデ。コの字状を呈す。	雲母・石英にぶい橙色	D P 8421 100% P L 254
7	鋤先形土製品	(4.2)	7.6	1.5	(31.4)	一部欠損。ナデ。コの字状を呈す。	雲母・石英にぶい褐色	D P 8422 60% P L 254

第1427号住居跡 (第474・475図)

位置 調査 8 区の西部, M8e0区。

重複関係 南西コーナー部が第1428号住居に掘り込まれ、また、中央部が攪乱を受けている。

規模と平面形 長軸3.80m、短軸3.40mの長方形である。

主軸方向 N-13° -W

壁 壁高は15~28cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北東コーナー部では検出できなかったが、それ以外の壁際では巡っている。規模は上幅16~26cm、下幅5~10cm、深さ5~8cmで、断面形は緩やかなU字形をしている。

床 中央部が攪乱を受け、床面まで掘り込まれているが、攪乱以外の部分はほぼ平坦で、踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外へ10cmほど掘り込んで、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで83cmで、両袖幅80cmである。天井部は崩落している。竈土層断面図中、第2・5層には、粘土粒子・砂粒が含まれていることから、これらの層が天井部の崩落土と考えられる。東袖部は攪乱を受けているため北壁と分離した状態で検出されたが、それ以外は両袖部とも遺存しており、内側は火熱を受けて赤変硬化している。火床部は、皿状をしており、赤変硬化している。第3層には、焼土小ブロック・焼土粒子が多量に含まれていることから、下面が火床面と考えられる。煙道は火床面から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 極暗赤褐色 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子中量, 炭化粒子少量
- 3 極暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 粘土粒子少量
- 4 黒褐色 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量, ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
- 6 暗赤褐色 炭化粒子中量, ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量

ピット 5か所 (P1~P5)。P1・P2はそれぞれ径40cm・62cmのほぼ円形で、深さ37cm・25cmであり、

P 3・P 4は径24cm・30cmの円形で、深さはどちらも39cmである。いずれも各コーナー寄りに位置し、規模と配置から支柱穴と考えられる。P 5は、南半が第1428号住居に掘り込まれているが、北半の部分から径52cmの円形で、深さ20cmであると推定され、南壁際の中央部に位置していることから、出入口口施設に伴うピットと考えられる。

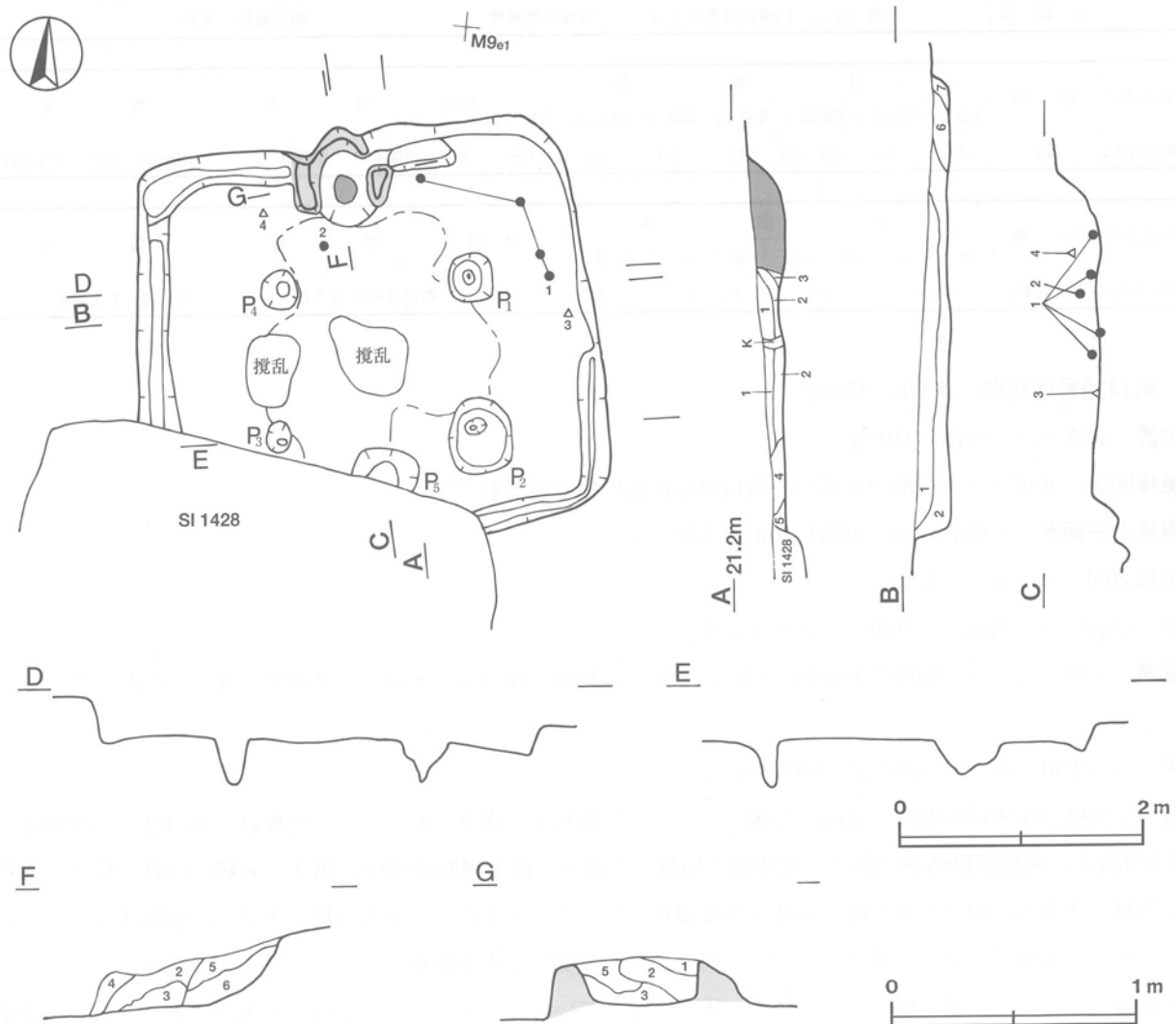
覆土 7層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

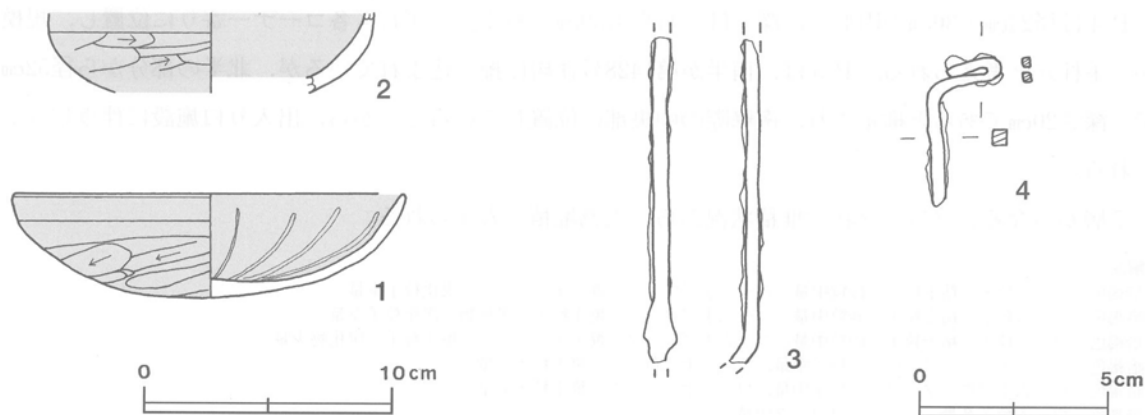
- 1 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・焼土粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・焼土粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 7 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック中量

遺物 土師器片242点, 鉄器・鉄製品2点(鏃, 不明鉄製品), 須恵器14点が出土している。第475図1の土師器坏は、北東コーナー部の床面と竈の東側の床面から出土した破片が接合したものである。2の土師器坏片は、竈の前面の覆土下層から出土している。3の鉄鏃は東部の床面から、4の不明鉄製品は竈の西側の覆土中層から出土している。須恵器片は、攪乱により混入したと思われる。

所見 本跡の時期は、出土土器から7世紀前半と考えられる。



第474図 第1427号住居跡実測図



第475図 第1427号住居跡出土遺物実測図

第1427号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第475図 1	坏 土師器	A 15.4 B 4.0	口縁端部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り、内面放射状のヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英 橙色、普通	P 8705 95% P L 249
2	坏 土師器	B (3.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り、内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 明赤褐色、普通	P 8706 10%

図版番号	器種	計測値							材質	特徴	備考
		全長(cm)	腕部長(cm)	腕部幅(cm)	茎長(cm)	茎幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第475図3	鉄	(8.6)	(8.0)	0.4~0.5	(0.6)	0.4	0.3	(6.8)	鉄	両関有り。長頸鎌カ。	M8424 50% P L 254

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第475図4	不明鉄製品	(4.0)	2.0	0.2~0.5	(4.3)	鉄	端部は折り返されている。	M8425 P L 254

第1429号住居跡 (第476~479図)

位置 調査8区の西部, M9f2区。

重複関係 北東コーナー部の上部が, 第1431号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.53m, 短軸4.40mの方形である。

主軸方向 N-36° - E

壁 壁高は24~44cmで, 外傾して立ち上がる。

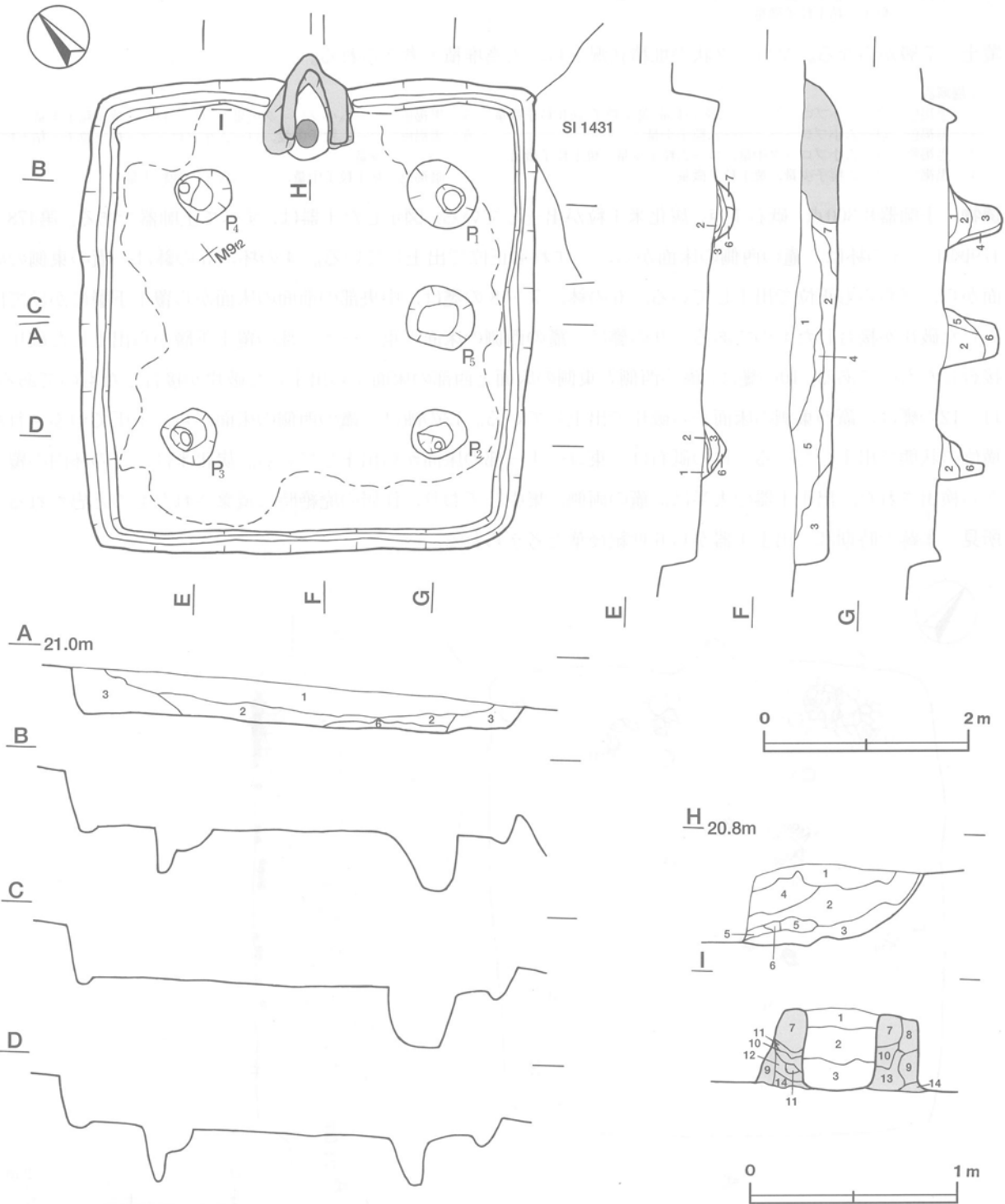
壁溝 全周している。規模は上幅19~33cm, 下幅5~12cm, 深さ5~8cmで, 断面形は緩やかなU字形をしている。

床 ほぼ平坦であり, 全面が踏み固められている。

竈 北東壁の中央部を壁外へ34cmほど掘り込んで, 砂質粘土で構築されている。規模は, 焚口部から煙道部まで102cmで, 両袖部幅85cmである。天井部は崩落しており, 竈土層断面図中, 第4~6層には粘土粒子・砂粒が多量に含まれ, 中でも第6層は山砂が赤変硬化していることから, これらの層が天井部の崩落土であると考えられる。両袖部は良好に遺存しており, 内側は火熱を受けて赤変硬化している。火床部は皿状をしており, 赤変硬化している。第3層には焼土粒子・灰が含まれていることから, その下面が火床面と考えられる。煙道は火床面から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--|---------|---|
| 1 灰褐色 | 粘土粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 7 灰褐色 | 粘土粒子・砂粒多量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子・粘土粒子少量 | 8 灰褐色 | 粘土粒子・砂粒多量, ローム小ブロック・焼土粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・灰中量, ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 9 灰褐色 | 粘土粒子・砂粒多量, ローム中ブロック・焼土粒子少量 |
| 4 暗褐色 | 粘土粒子・砂粒多量, ローム粒子・炭化粒子微量, しまり強 | 10 暗赤褐色 | 粘土粒子・砂粒中量. 火熱を受け, 赤変硬化。 |
| 5 灰褐色 | 粘土粒子・砂粒多量, ローム小ブロック少量, ローム粒子微量, しまり強 | 11 暗赤褐色 | 粘土粒子・砂粒多量. 火熱を受け, 赤変硬化。 |
| 6 暗赤褐色 | 粘土粒子・砂粒多量, 焼土粒子中量. 火熱を受け, 赤変硬化。 | 12 灰褐色 | 粘土粒子多量, 砂粒中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量 |
| | | 13 暗赤褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量 |
| | | 14 黒褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック少量 |



第476図 第1429号住居跡実測図

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は、径52~63cmの円形で、深さ47~56cmである。いずれも各コーナー寄りに位置しており、規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は長径66cm、短径55cmの楕円形で、深さ58cmであり、P1とP2の中間に位置するが、南東壁際の中央部で検出されており、位置的に出入口施設に伴うピットと考えられる。土層断面中、P1・P2・P5の第1・2層は、柱の抜き取り痕と考えられる。

P1~P5土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------------------|-------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子中量、ローム中ブロック少量 | 4 褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子中量、ローム大ブロック少量 |
| | | 7 黒褐色 | ローム粒子中量、粘土粒子少量 |

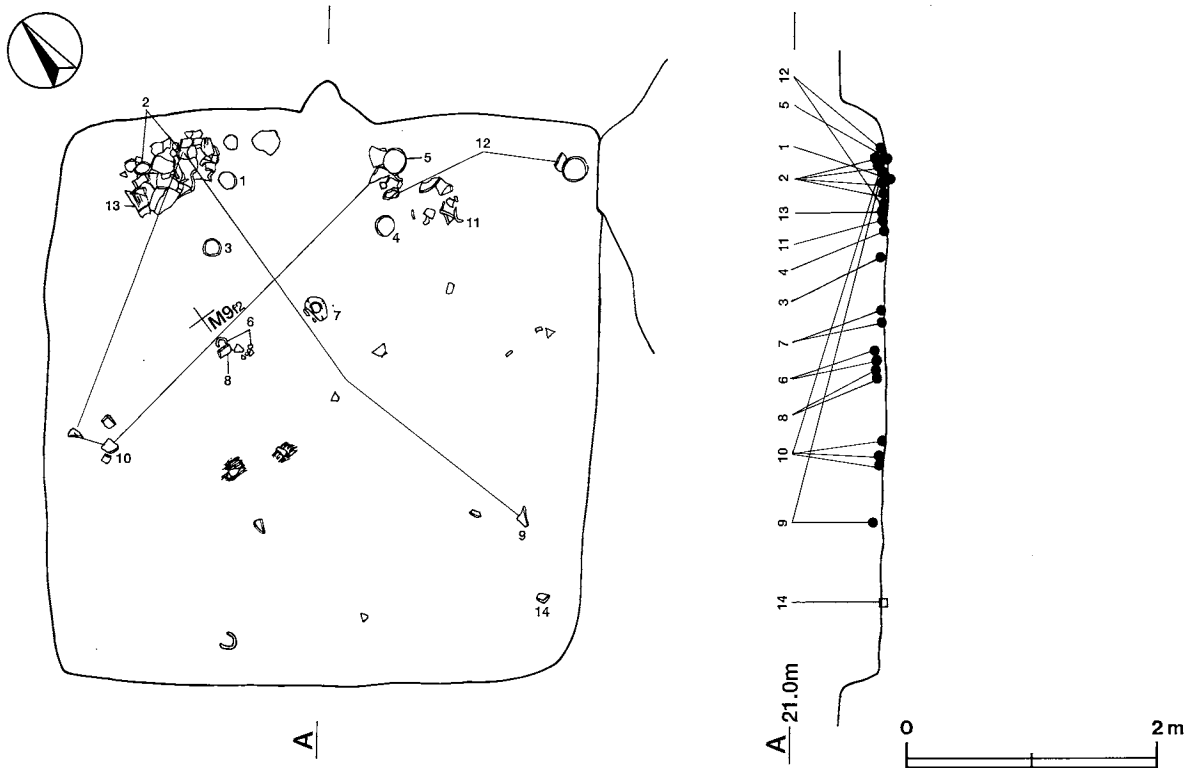
覆土 7層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

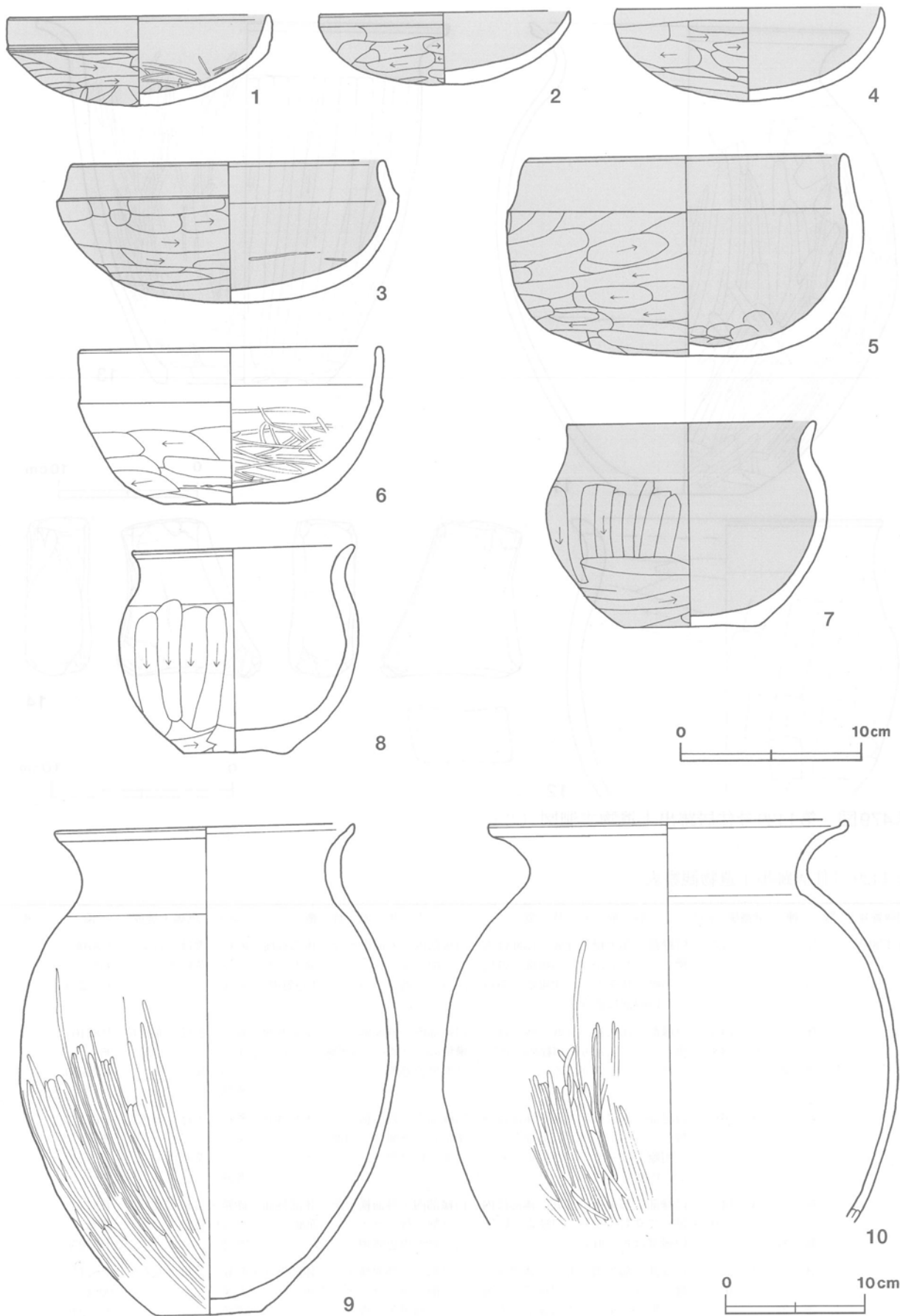
- | | | | |
|-------|------------------------------|-------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム小ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 6 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | 粘土粒子中量、ローム粒子・砂粒少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | | |

遺物 土師器片300点、砥石1点、炭化米1粒が出土している。図示した土器は、すべて土師器である。第478・479図1~3の坏は、竈の西側の床面から、いずれも正位で出土している。4の坏、5の鉢は、竈の東側の床面から、どちらも正位で出土している。6の鉢、7・8の甕は、中央部の前面の床面から覆土下層にかけて出土した破片が接合したものである。9の甕は、竈の西側の床面と東コーナー部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。10の甕は、竈の西側と東側の床面と西部の床面から出土した破片が接合したものである。11・12の甕は、竈の東側の床面から破片で出土している。13の甕は、竈の西側の床面から、土圧でつぶされた横位の状態で出土している。14の砥石は、東コーナー部の床面から出土している。炭化米は、4の坏内の覆土から検出された。出土土器の大半は、竈の両側に集中しており、住居の廃絶時に遺棄されたものと思われる。

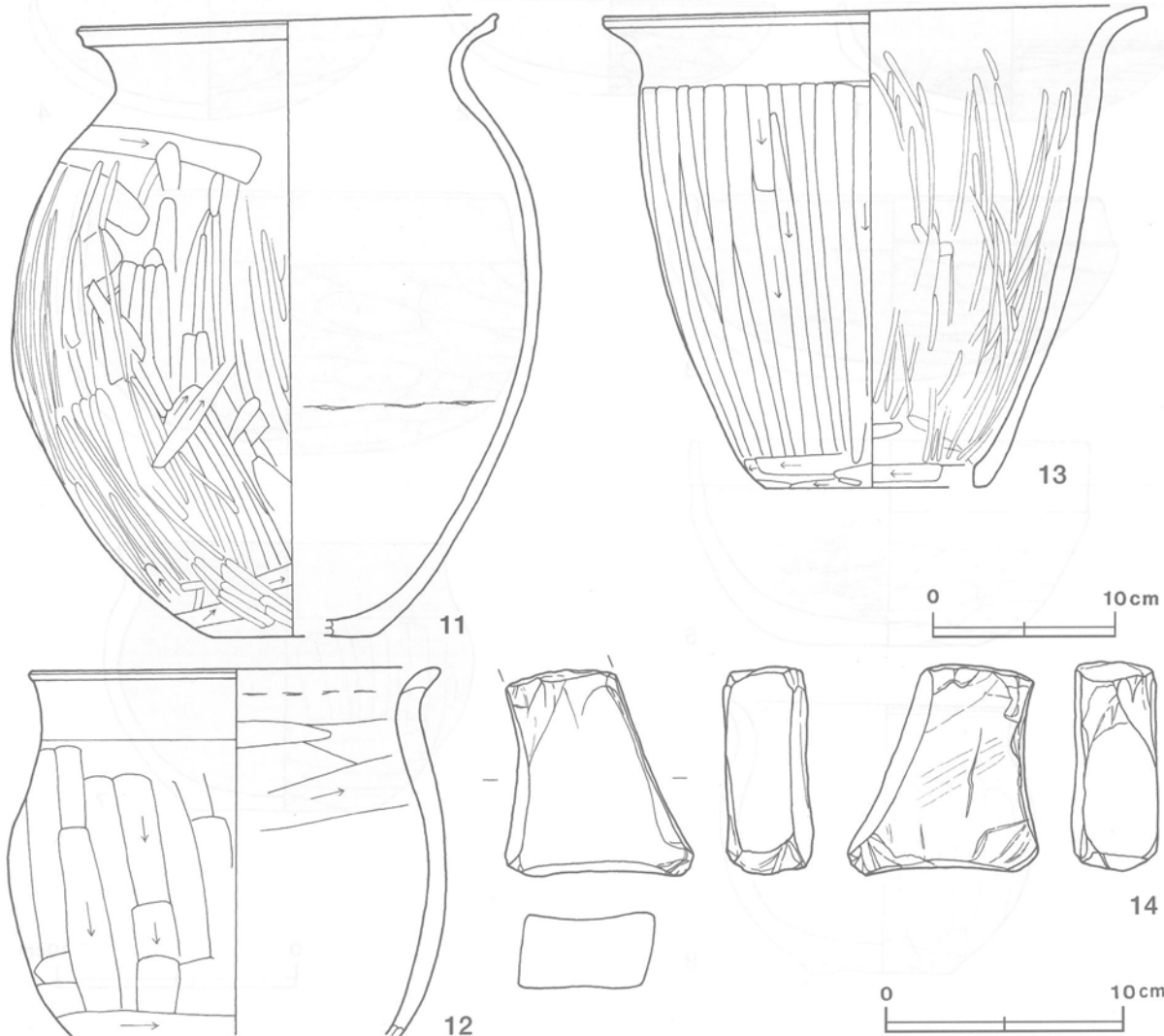
所見 本跡の時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第477図 第1429号住居跡遺物出土状況図



第478图 第1429号住居跡出土遺物実測図(1)



第479図 第1429号住居跡出土遺物実測図(2)

第1429号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第478図 1	坏 土師器	A 14.0 B 4.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜をもち、沈線が一条巡る。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ、内面不定方向のヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英にふい黄橙色 普通	P 8708 95% P L 249
2	坏 土師器	A 13.6 B 3.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り、内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子にふい褐色 普通	P 8710 95% P L 250
3	坏 土師器	A 16.9 B 7.6	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜をもち。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子にふい黄橙色 普通	P 8714 95% P L 250
4	坏 土師器	A 14.3 B 5.0	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ、内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石にふい褐色 普通	P 8713 95% P L 250
5	鉢 土師器	A 17.1 B 10.9	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜をもち。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ、内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英 橙褐色 普通	P 8715 90% P L 249

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第478図 6	鉢 土師器	A [15.1] B 8.5 C 7.2	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後へらナデ、内面不定方向のへら磨き。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P 8716 40% P L 250
7	甕 土師器	A 13.5 B 11.0 C 7.2	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は倒卵形を呈する。頸部は緩やかにくびれ、口縁部は外反気味に開く。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面上位縦位のへら削り、下位横位のへら削り、内面ナデ。底部1方向のへら削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P 8722 70% P L 249
8	甕 土師器	A 12.0 B 11.1 C 5.8	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は球形を呈する。頸部は緩やかにくびれ、口縁部は外反気味に開く。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面縦位のへら削り、下端横位のへら削り、内面横ナデ。底部1方向のへら削り。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P 8723 80% P L 249
9	甕 土師器	A 21.4 B 34.3 C 7.4	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は倒卵形を呈する。頸部は緩やかにくびれ、口縁部は外反気味に開き、端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面縦位のへら磨き、内面ナデ。	砂粒・雲母・石英 褐色 普通	P 8717 60% P L 250
10	甕 土師器	A [25.6] B (28.5)	体部中位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部で「く」の字状に屈曲する。口縁部は外反して開き、端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面縦位のへら磨き、内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 灰褐色 普通	P 8718 30% P L 250
第479図 11	甕 土師器	A 22.6 B 33.3 C [8.2]	底部・体部一部欠損。平底。体部は倒卵形を呈する。頸部は「く」の字状に屈曲する。口縁部は外反気味に開き、端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面縦位のへら磨き、内面に輪積み痕を残すへらナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 橙色 普通	P 8719 80% P L 250
12	甕 土師器	A 16.8 B (15.0)	体部下位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部は緩やかにくびれ、口縁部に至る。口縁部は外反気味に開く。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。口縁部内面に輪積み痕が残る。体部外面縦位のへら削り、内面へらナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	P 8721 40% P L 250 二次焼成 外面煤付着
13	甗 土師器	A 29.1 B 25.8 C 12.1	口縁部一部欠損。無底式。体部は外傾して立ち上がり、頸部に至る。頸部はわずかにくびれ、口縁部は外反気味に開く。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面縦位のへら削り後へらナデ、内面縦位のへらナデ。体部下端内・外面横位のへら削り。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい褐色 普通	P 8725 95% P L 250

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第479図14	砥石	(8.6)	7.8	3.5	(325.0)	点紋粘板岩	砥面4面、中央部が薄くなっている。	Q 8406 50% P L 254

第1430号住居跡 (第480・481図)

位置 調査8区の西部、M9e3区。

重複関係 南コーナー部が第1431・1432号住居に掘り込まれ、さらに、北東壁の一部が第1357号土坑に、南東壁の一部が第1358号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 規模は、長軸5.20m、短軸5.13mの方形である。

主軸方向 N-30°-W

壁 壁高は6~24cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 検出できた壁際には巡っている。規模は上幅10~30cm、下幅5~20cm、深さ7~14cmで、断面形は緩やかなU字形をしている。

床 ほぼ平坦であり、中央部が特に踏み固められている。

竈 北西壁の中央部を壁外へ18cmほど掘り込んで、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部ま

で102cmで、両袖部幅が110cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、第2～7層には粘土粒子・砂粒が多量に含まれ、特に第5～7層は粘土・砂粒が火熱を受けて赤変硬化していることから、これらの層が天井部の崩落土と考えられる。両袖部は良好に遺存しており、内側は火熱を受けて赤変硬化している。火床部は、確認面から46cmの深さで径50cmの不整楕円形に掘り込み、第28・29、31～34層のロームブロック・ローム粒子を多量に含んだ暗赤褐色土及び褐色土を埋め土して構築されている。火床面は、床面から約6cm掘りくぼられており、皿状をしている。第15層には灰が多量に含まれ、その下層の第18層には焼土小ブロック・焼土粒子が含まれていることから、第18層の下面が火床面と考えられる。煙道は火床面から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1 黒褐色	焼土粒子・粘土粒子中量, ローム粒子少量	17 黒褐色	焼土粒子・灰中量, ローム粒子・炭化粒子少量
2 黒褐色	粘土粒子多量, 砂粒中量, ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量	18 赤褐色	焼土粒子多量
3 暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量	19 暗赤褐色	焼土粒子多量, 粘土粒子少量, 炭化粒子微量
4 暗赤褐色	焼土粒子中量, ローム粒子・粘土粒子少量	20 黒褐色	焼土粒子・粘土粒子中量, 炭化粒子微量
5 にぶい赤褐色	粘土粒子多量, 焼土粒子・砂粒中量, ローム粒子少量	21 暗赤褐色	焼土中ブロック・焼土粒子・粘土粒子中量
6 暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子多量, ローム粒子少量	22 極暗赤褐色	粘土粒子中量, ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量, ローム小ブロック微量
7 暗赤褐色	粘土粒子多量, 焼土粒子中量, ローム粒子少量	23 灰褐色	粘土粒子・砂粒多量
8 黒褐色	粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量	24 暗褐色	砂粒中量, 粘土粒子少量
9 黒褐色	ローム粒子・粘土粒子少量	25 灰褐色	砂粒多量, 粘土粒子中量
10 暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子中量, ローム粒子少量	26 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, 粘土粒子少量, 砂粒微量
11 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量	27 赤褐色	粘土粒子・砂粒多量。火熱を受け赤変硬化している。
12 暗褐色	焼土粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック微量	28 暗赤褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子中量, 砂粒少量
13 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量, 粘土粒子微量	29 赤褐色	焼土粒子多量
14 黒褐色	ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	30 暗褐色	ローム粒子多量, ローム中ブロック中量
15 灰褐色	焼土粒子・灰中量, ローム粒子少量	31 褐色	ローム粒子多量
16 極暗赤色	焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量	32 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子中量
		33 暗褐色	ローム粒子多量
		34 黒褐色	ローム中ブロック・ローム粒子中量

ピット 7か所 (P1～P7)。P1～P3は、径23～35cmのほぼ円形で、深さ54～83cmである。いずれもコーナー寄りに位置しており、規模と配置から支柱穴と考えられる。P4は、径31cmのほぼ円形で、深さ31cmであり、P1に隣接していることから、P1の補助的な柱穴の可能性がある。P5は、径42cmの円形で、深さ48cmであり、南東壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は径32cmの円形で、深さ30cmであるが、性格は不明である。P7は、長径87cm、短径67cmの楕円形で、深さ36cmである。P7は竈の南西部に位置し、その付近の床面から多数の土器片が出土していることから、一時的に甕等を置いたピットの可能性がある。

P1～P5・P7土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	6 黒褐色	ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
2 黒褐色	焼土粒子少量, 炭化粒子微量	7 暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子中量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量	8 極暗赤褐色	ローム粒子・粘土粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
4 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量		
5 黒褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量		

覆土 3層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

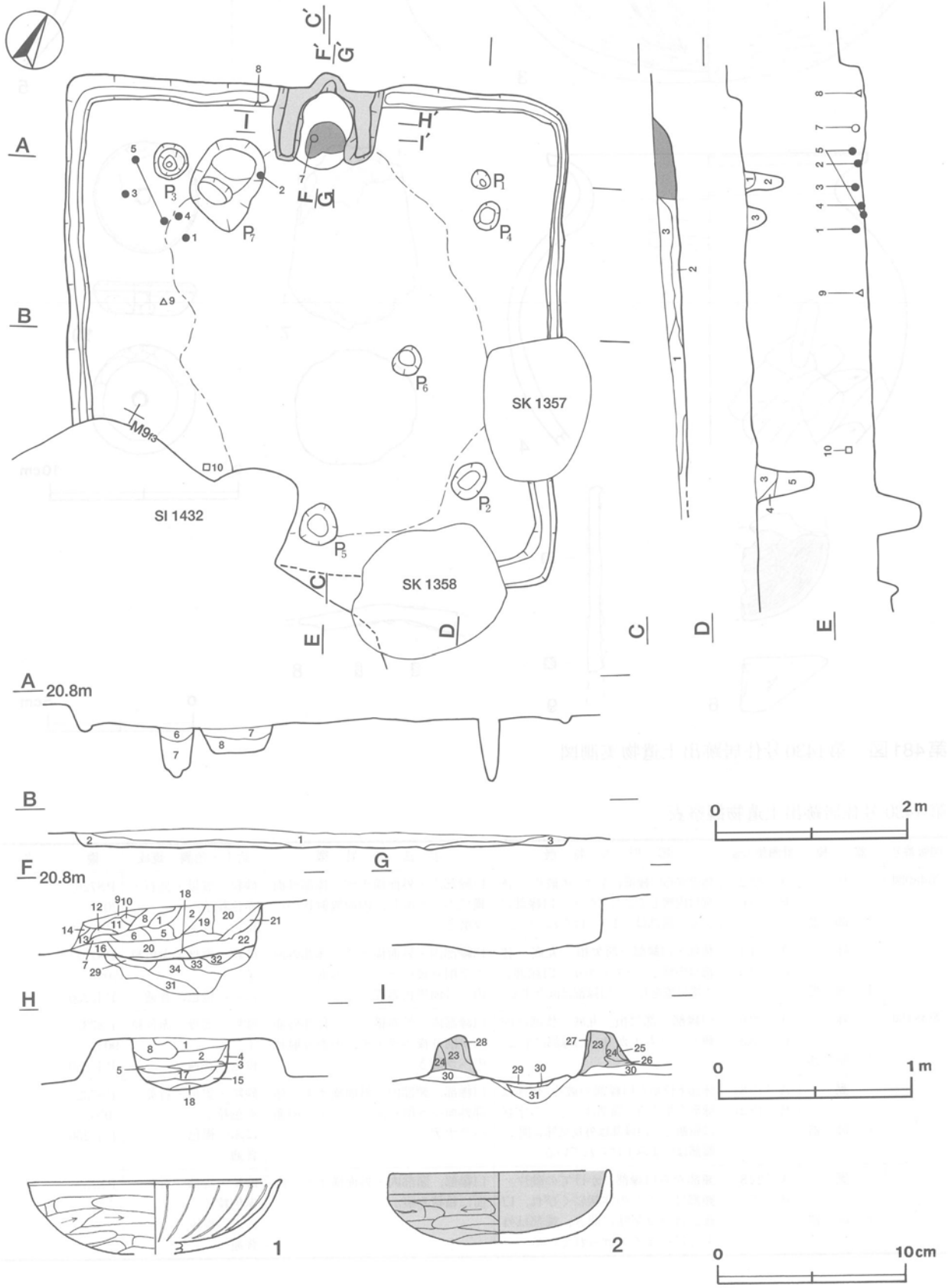
土層解説

1 黒褐色	ローム小ブロック中量, 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色	ローム小ブロック・焼土粒子少量, ローム粒子微量
3 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量

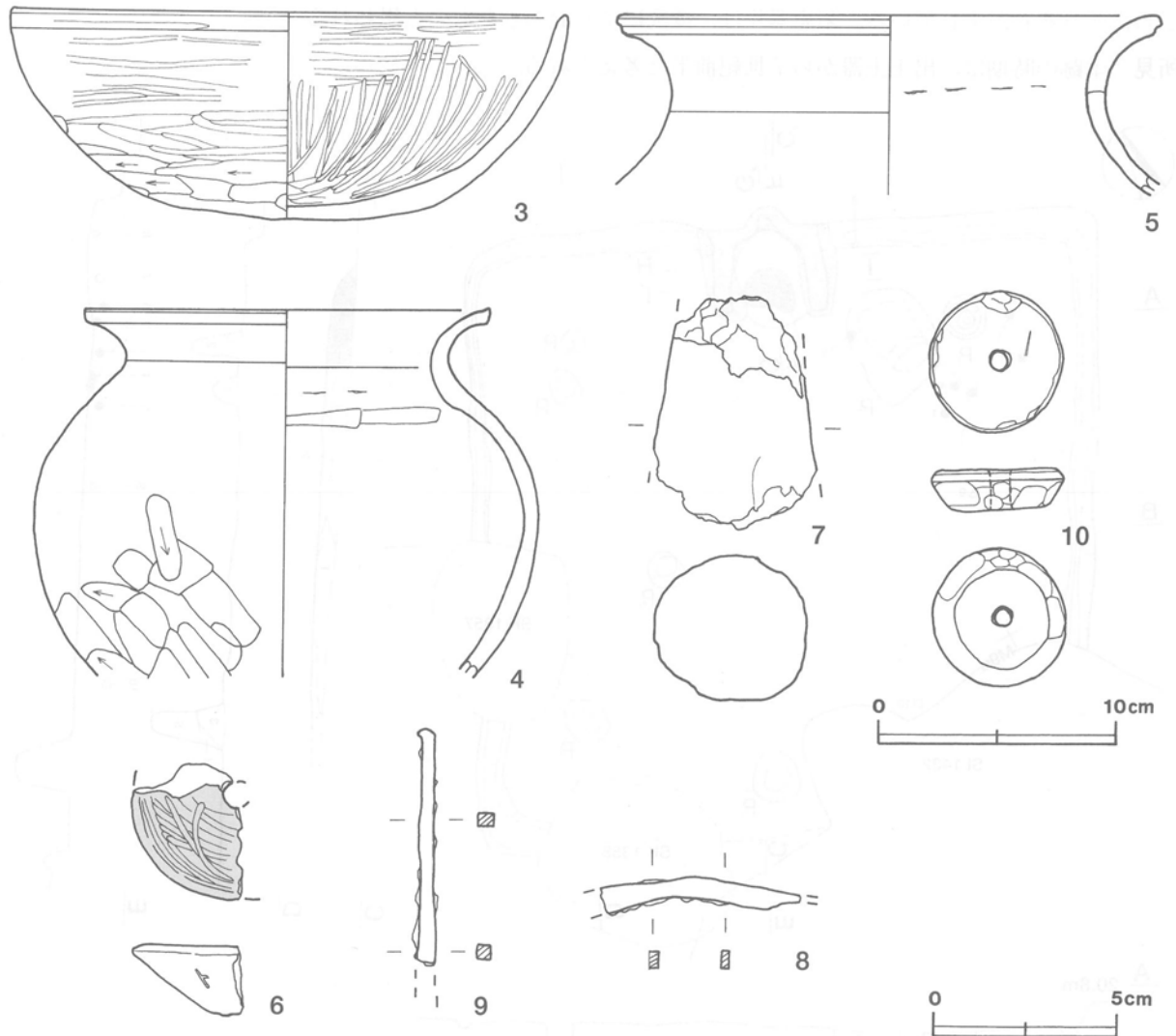
遺物 土師器片613点, 土製品2点 (紡錘車・支脚), 鉄器・鉄製品2点 (刀子, 釘), 石製品1点 (紡錘車) 須恵器片9点が出土している。図示した土器は、すべて土師器である。第480・481図1の坏片は、北西部の覆土下層から出土している。2の坏は、竈前面の床面から正位で出土している。3の鉢, 4・5の甕は、いずれも北西コーナー部の床面から、破片の状態で出土している。6の紡錘車は覆土中から、7の支脚は竈内から出土している。8の刀子は竈西側の覆土下層から、9の釘は西部の覆土下層から、10の紡錘車は南部の覆土中層

から、それぞれ出土している。須恵器片は、攪乱により混入したものと思われる。

所見 本跡の時期は、出土土器から7世紀前半と考えられる。



第480図 第1430号住居跡・出土遺物実測図



第481図 第1430号住居跡出土遺物実測図

第1430号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第480図 1	坏 土師器	A [13.2] B (3.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り、内面放射状のヘラ磨き。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 橙色、普通	P 8726 20% P L 250
2	坏 土師器	A 11.4 B 3.6	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ、内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色、普通	P 8727 70% P L 250
第481図 3	鉢 土師器	A 22.9 B 8.5	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ、内面放射状のヘラ磨き。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色、普通	P 8731 90% P L 250
4	甕 土師器	A [16.8] B (15.2)	体部下位から口縁部の破片。体部は球形を呈する。頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁部は外反気味に開く、端部はつまみ上げられている。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ、内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい褐色 普通	P 8732 30% P L 250
5	甕 土師器	A [22.8] B (7.3)	頸部から口縁部にかけての破片。頸部は「く」の字状にくびれ、口縁部は外反気味に開き、端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。内面に輪積み痕。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P 8733 5%

図版番号	器種	計測値				特徴	胎土・色調	備考	
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)				
第481図6	土製紡錘車	[6.0]	2.0	(0.7)	(138)	断面逆台形。上面ヘラ磨き、側面ナデ。	雲母、黒色	DP8423 30%	
図版番号	器種	計測値			特徴	胎土・色調	備考		
		長さ (cm)	径 (cm)	重量 (g)					
第481図7	土製支脚	(9.7)	6.0	(208.0)	やや裾広がりの円柱状。ナデ。	雲母・長石、にぶい橙色	DP8424 40%		
図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考	
		全長 (cm)	重ね (cm)	幅 (cm)	重量 (g)				
第481図8	刀子	(5.5)	0.2~0.3	(1.0)	(4.3)	鉄	基部の破片。	M8426 30% PL254	
図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考	
		全長 (cm)	筥被部長 (cm)	筥被部幅 (cm)	重量 (g)				
第481図9	鉄カ	(6.5)	(6.5)	0.3~0.4	(4.7)	鉄	筥被部片カ。	M8427 40% PL254	
図版番号	器種	計測値					石質	特徴	備考
		最大径 (cm)	最小径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第481図10	紡錘車	5.5	4.0	1.7	0.9	71.0	粘板岩	断面逆台形。無文。	Q8422 100% PL254

第1434号住居跡 (第471・472・482図)

位置 調査8区の西部, M8f8区。

重複関係 南西壁の一部と南東壁の一部を残し、大半が第1426号住居に掘り込まれ、東部が第30号井戸に、南コーナ一部が第86号溝に掘り込まれている。また、南コーナ一部で第1439号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 重複が激しく全容は不明であるが、遺存している南西壁が6.90mで、南東壁は4.45mだけが確認された。一辺が6.90m程度の方形または長方形と推定される。

主軸方向 遺存する南西壁の方向を主軸とすれば、N-26°-Wである。

壁 壁高は14~62cmで、やや外傾して立ち上がる。

壁溝 確認できた南西壁から南東壁際に巡っている。規模は上幅15~25cm、下幅5~8cm、深さ7~12cmで、断面形は緩やかなU字形をしている。

床 大半が第1426号住居に掘り込まれており、南西部から南東部にかけての一部が検出された。その部分はほぼ平坦で、南部で踏み固められている面が検出できた。

ピット 2か所 (P1・P2)。P1・P2は、それぞれ径62cm・50cmのほぼ円形で、深さ93cm・62cmである。いずれもコーナ寄りに位置し、規模と配置から支柱穴と考えられる。

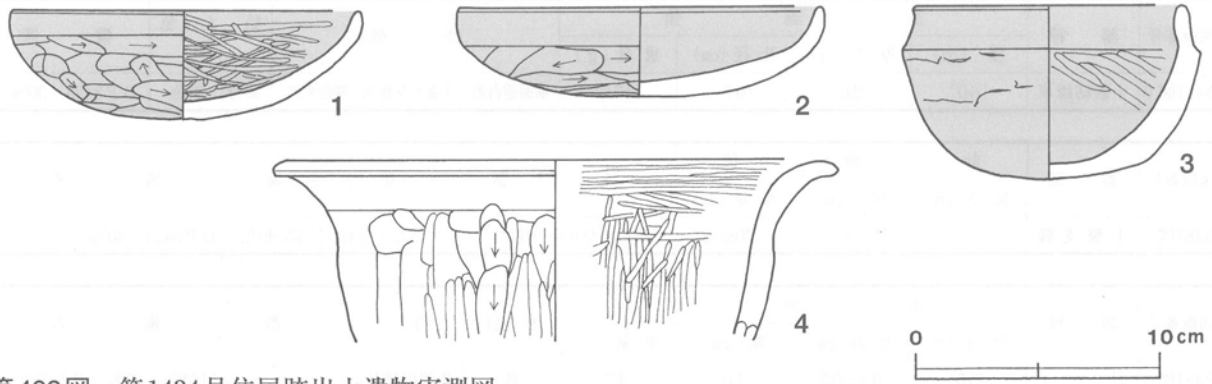
覆土 5層に分層できた。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | | | |
|---|------|---|---|-----|--------------------------------------|
| 1 | 極暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 | 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 | 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 4 | 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、焼土粒子少量 |
| | | | 5 | 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量 |

遺物 土師器片58点が出土している。図示した土器は、すべて土師器である。第482図1の坏と3の碗は、いずれも南部の床面から、2の坏は覆土下層から、いずれも正位で出土している。4の甑片は、西部の床面から出土している。

所見 本跡では、竈は確認できなかった。竈を含むの大半が、第1426号住居に掘り込まれているためと考えられる。時期は、出土土器から6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。



第482図 第1434号住居跡出土遺物実測図

第1434号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第482図 1	坏 土師器	A 13.9 B 4.3	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ、内面不定方向のヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 灰褐色 普通	P 8700 95% P L 250
2	坏 土師器	A [14.4] B 3.5	体部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ、内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 赤褐色 普通	P 8701 25% P L 250
3	椀 土師器	A 10.8 B 6.9	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面に輪積み痕を残すヘラナデ、内面不定方向のヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい黄橙色 普通	P 8703 95% P L 250 体部外面摩滅
4	甌 土師器	A [22.8] B (7.2)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、頸部に至る。頸部は緩やかにくびれ、口縁部は外反気味に開く。	口縁部、頸部外面横ナデ、内面横位のヘラ磨き。体部外面縦位のヘラ削り、内面縦位のヘラ磨き。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 普通	P 8704 5%

第1438号住居跡 (第483図)

位置 調査8区の西部、M8h9区。

重複関係 当初、第1423号住居跡を1軒の住居跡として調査を開始したが、床下からも床面と壁溝が検出されたことから、上位のものを第1423号住居跡、下位のものを第1438号住居跡とした。

規模と平面形 本跡は、第1423号住居跡の床面のわずかに下から検出されたため、壁は確認できなかった。規模と平面形は、壁溝から長軸3.80m、短軸3.20mの長方形である。

主軸方向 N-4°-E

壁溝 全周している。規模は上幅10~25cm、下幅4~6cm、深さ4~6cmで、断面形は緩やかなU字形をしている。

床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。

竈 袖材の砂質粘土と火床部が、北辺のほぼ中央部で検出された。火床部の規模は、長径35cm、短径25cmの楕円形であり、火熱を受けて赤変硬化している。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は、径30~42cmのほぼ円形で、深さ14~30cmである。いずれも各コーナー寄りに位置し、規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は長径43cm、短径28cmの楕円形で、深さ12cmであり、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P1~P5の堆積状況は、ブロック状に堆積しており、人為的に埋め戻されたと考えられる。

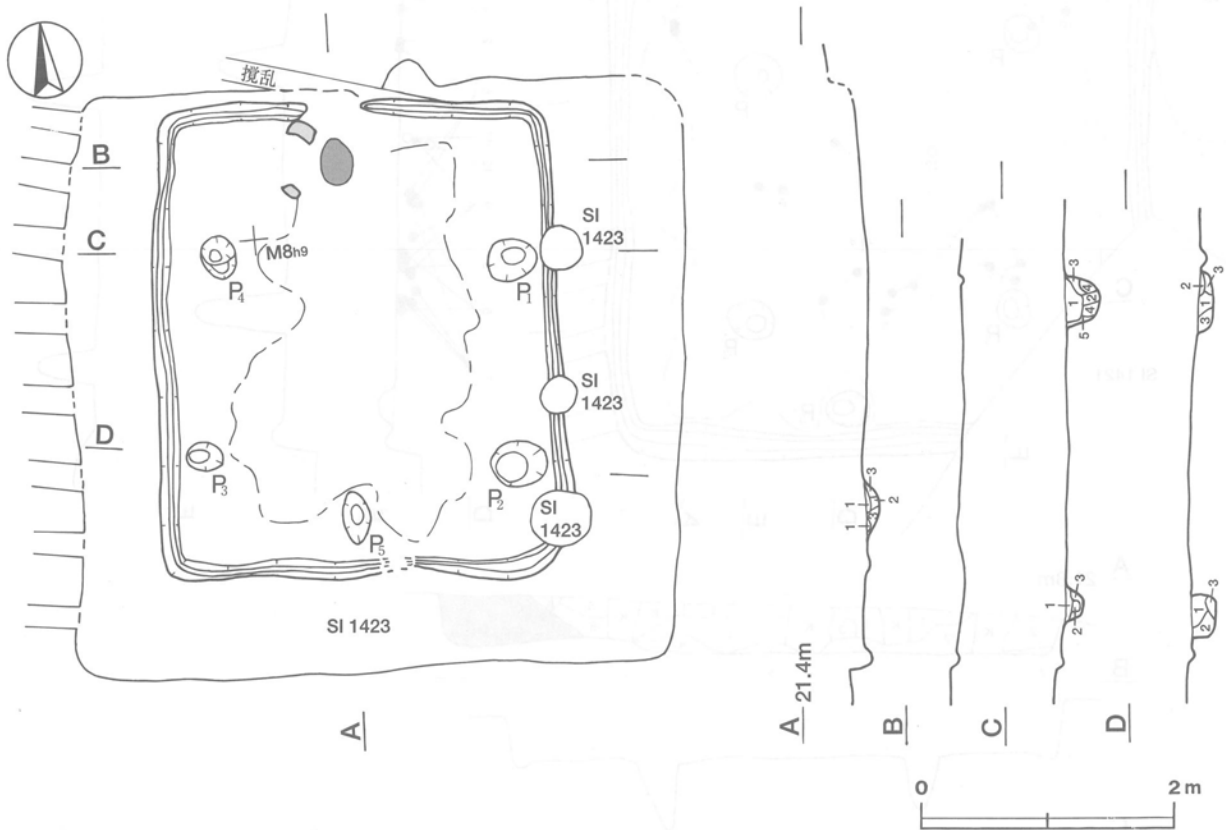
P1~P5土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量

- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量

遺物 土師器片21点が出土している。いずれも細片であるため図示はできなかった。

所見 本跡は、第1423号住居に掘り込まれていることから、第1423号住居に拡張する以前の住居跡であると考えられる。時期は、第1423号住居跡が7世紀前半であることから、それ以前と推定される。



第483図 第1438号住居跡実測図

第1439号住居跡 (第484～486図)

位置 調査8区の西部, M8g7区。

重複関係 南西コーナー部が第1421号住居に、北東コーナー部の上面が第1434号住居に、北西コーナー部が第1440号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.50m, 短軸4.33mの方形である。

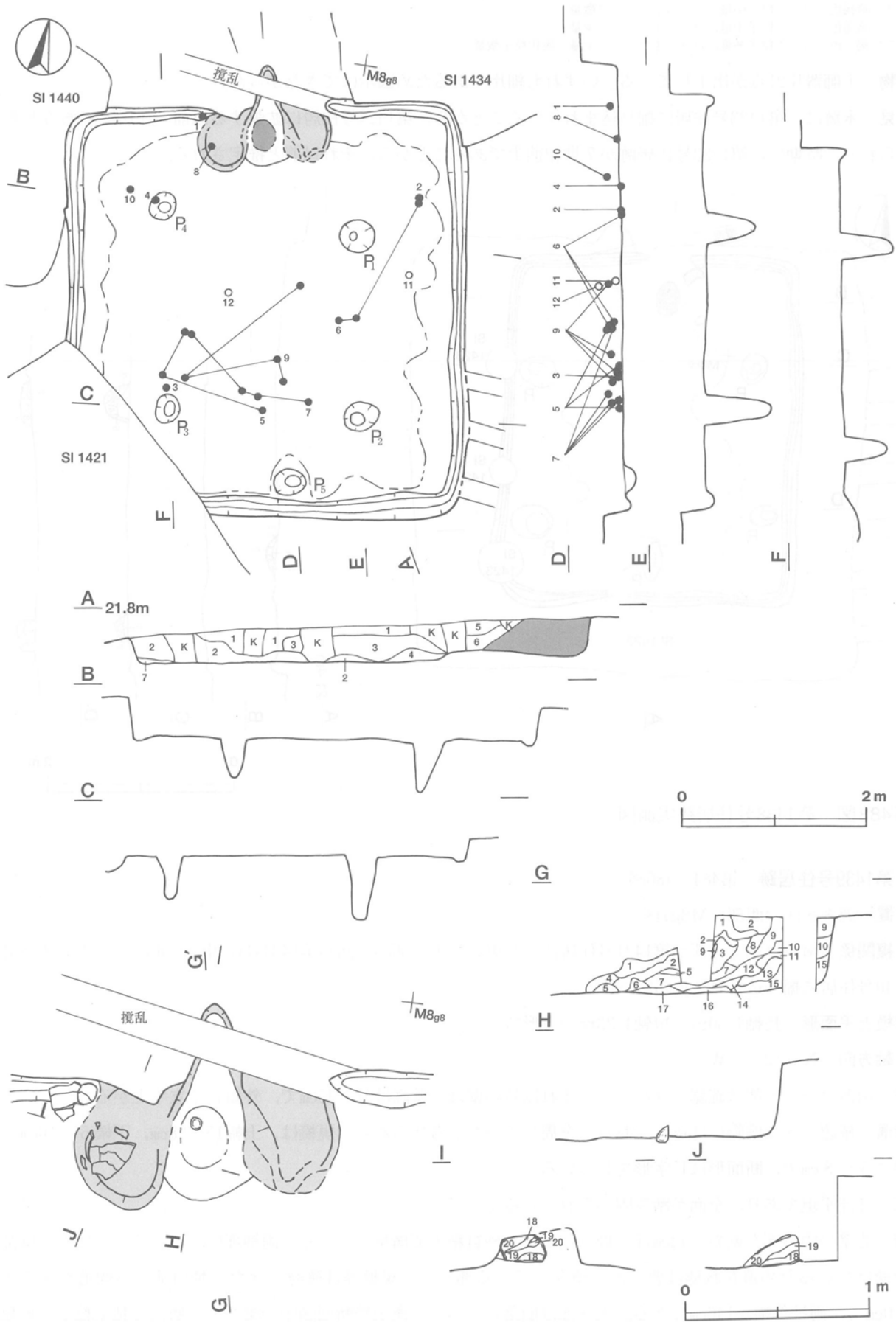
主軸方向 N-12° -W

壁 南西コーナー部は確認できないが、それ以外の壁は、壁高は37~45cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 確認できた壁際には巡っており、全周していたと考えられる。規模は、上幅15~28cm, 下幅5~10cm, 深さ5~8cmで、断面形はU字形をしている。

床 ほぼ平坦であり、全面が踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外へ42cmほど掘り込んで、砂質粘土で構築している。両袖部にトレンチャーによる攪乱を受けているため遺存状態は悪いが、遺存している部分から規模等は確認できた。焚口部から煙道部までが110cmで、両袖部幅が146cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図中の第2・3層には粘土粒子・砂粒が多量に含まれていることから、これらの層が天井部の崩落土と考えられる。西袖部は、粘土粒子や砂粒を詰



第484图 第1439号住居跡实测图

めた土師器甕を芯材とし、砂粒を多く含む砂質粘土を積み上げて構築している。第18～20層が、袖部の芯材として使用された甕の内部の土層である。第16層には炭化粒子・灰が多量に含まれていることから、下面が火床面と考えられる。火床面は、赤変硬化している。煙道は火床面から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1 黒褐色	粘土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物少量	11 灰褐色	焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物少量
2 灰褐色	粘土粒子・砂粒多量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量，粘性強	12 暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子少量
3 にぶい赤褐色	砂粒多量，粘土粒子中量，焼土粒子少量，しまり強	13 暗赤褐色	焼土粒子多量，粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物少量
4 にぶい褐色	砂粒多量，粘土粒子少量	14 にぶい赤褐色	粘土粒子多量，砂粒中量，炭化物少量
5 灰褐色	粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量，しまり強	15 にぶい赤褐色	砂粒多量，ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
6 暗赤褐色	ローム小ブロック多量，ローム粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子少量	16 暗赤灰色	炭化粒子・灰多量，焼土粒子少量
7 暗褐色	砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量	17 暗赤褐色	砂粒多量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
8 暗赤褐色	砂粒多量，粘土粒子中量	18 暗褐色	粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子少量
9 黒褐色	砂粒多量，粘土粒子中量，炭化物少量	19 にぶい褐色	粘土粒子多量，砂粒中量，焼土粒子少量
10 暗赤褐色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量	20 暗褐色	ローム粒子少量

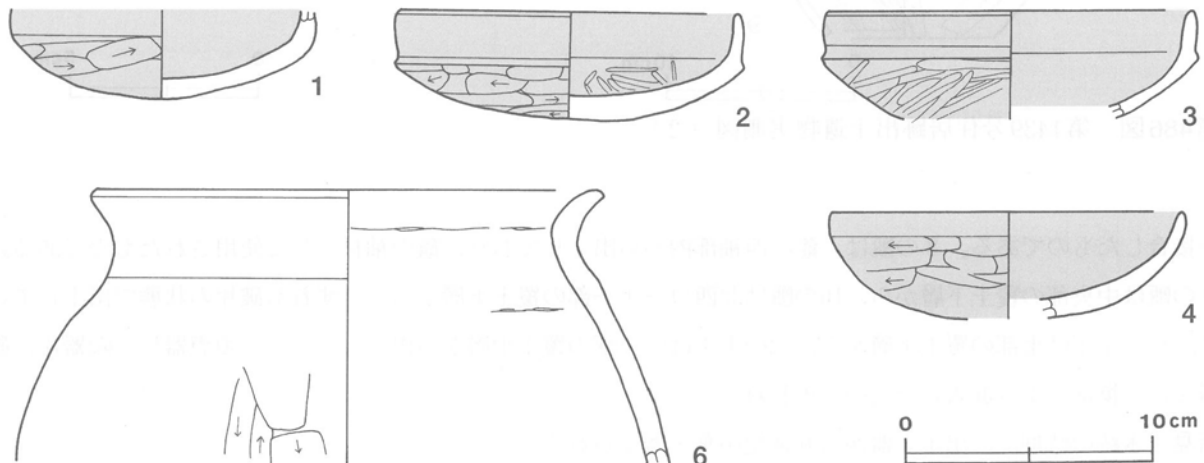
ピット 5か所 (P1～P5)。P1～P4は、径30～38cmのほぼ円形で、深さ45～73cmである。いずれも各コーナー寄りに位置しており、規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は、径30cmの円形で、深さ15cmであり、南東壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 7層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

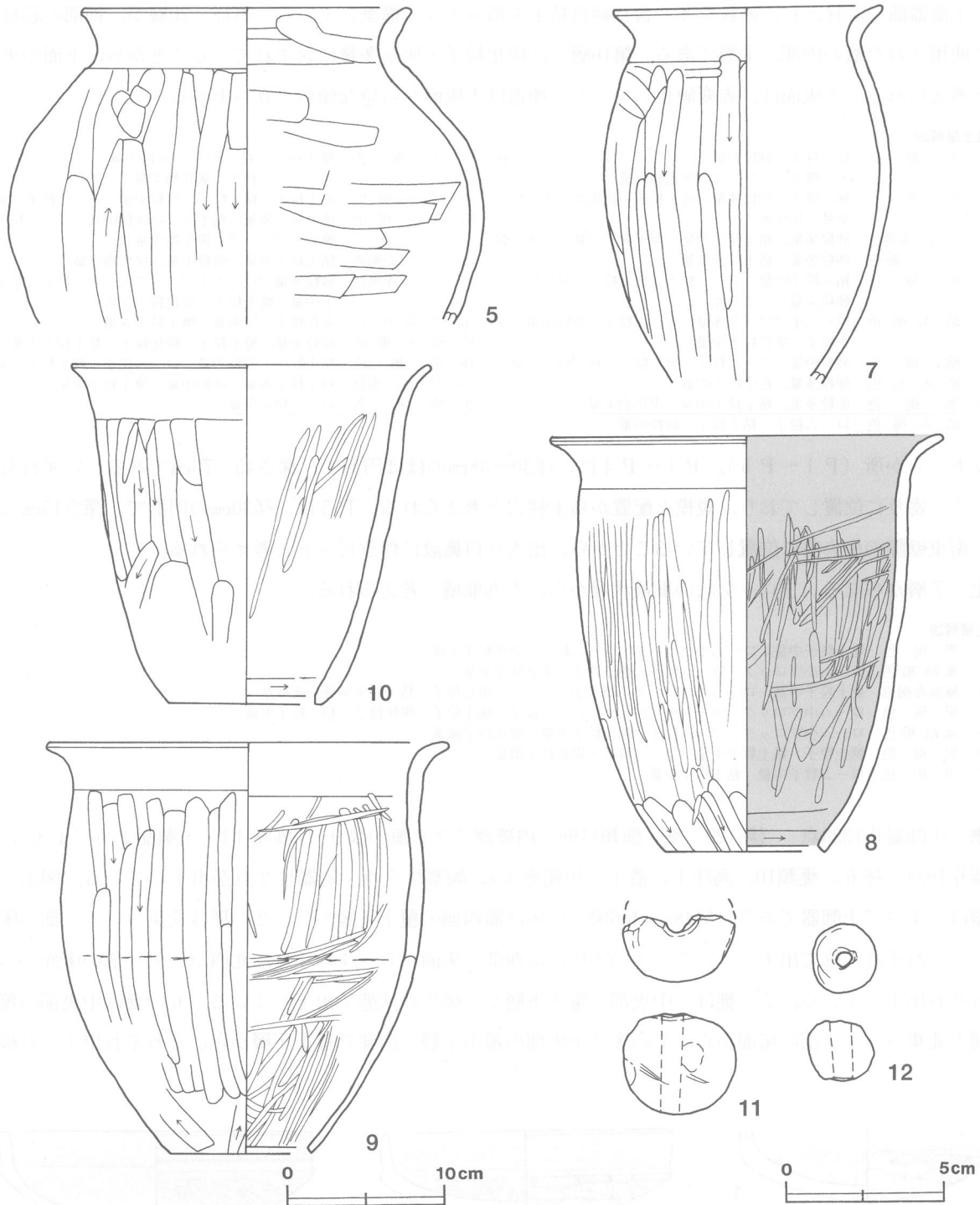
土層解説

1 黒褐色	焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
2 極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3 極暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量，灰微量
4 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
5 極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
6 黒褐色	焼土粒子・粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
7 黒褐色	ローム粒子中量，粘土粒子少量

遺物 土師器片1329点 {坏129, 甕・甕類1196 (内確認できた甕の数9), 高坏4}, 土製品2点 (土玉), 須恵器片19点 (坏6, 甕類10, 高坏1, 蓋1, 短頸壺1), 陶器片3点, 磁器片2点が出土している。図示した土器は、すべて土師器である。第485・486図1の坏は竈西側の覆土下層から、2の坏は北東コーナー部の床面から、それぞれ正位で出土している。3の坏片は南西部の床面から、4の坏片は北西コーナー部の床面から、それぞれ出土している。5の甕は、中央部の覆土下層から破片の状態出土している。6の甕は中央部の覆土下層と北東コーナー部の床面から、7の甕は中央部の覆土下層と南部の覆土下層から、それぞれ出土した破片



第485図 第1439号住居跡出土遺物実測図 (1)



第486図 第1439号住居跡出土遺物実測図（2）

が接合したものである。8の甑は、竈の西袖部内から出土しており、竈の袖材として使用されたものである。9の甑は中央部の覆土下層から、10の甑は北西コーナー部の覆土下層から、いずれも破片の状態で出土している。11の土玉は東部の覆土下層から、12の土玉は中央部の覆土中層から出土している。須恵器片、陶器片、磁器片は、攪乱により混入したものと思われる。

所見 本跡の時期は、出土土器から6世紀中葉と考えられる。

第1439号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第485図 1	坏 土師器	B (3.6)	口縁部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面に輪積み痕を残すヘラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母にぶい褐色普通	P8644 95% P L 251
2	坏 土師器	A [13.6] B 4.2	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り後ヘラナデ、内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子にぶい橙色普通	P8645 65% P L 251
3	坏 土師器	A [14.6] B (4.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面斜位のヘラナデ、内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子にぶい橙色普通	P8646 10%
4	坏 土師器	A [14.2] B (4.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ、内面ナデ。内・外面黒色処理。	石英・雲母・赤色粒子にぶい橙色普通	P8647 20% P L 250
第486図 5	甕 土師器	A [20.4] B (19.7)	体部中位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部に至る。頸部は「く」の字状にくびれ、口縁部は外反気味に開く。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り、内面ヘラナデ。	砂粒・小礫・雲母・赤色粒子にぶい橙色普通	P8649 30% P L 251
第485図 6	甕 土師器	A [20.2] B (10.9)	体部上部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部に至る。頸部は「く」の字状にくびれ、口縁部は短く外反気味に開く。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り、内面に輪積み痕を残す横ナデ。	砂粒・雲母・石英にぶい褐色普通	P8651 30% P L 251 体部外面一部剥離
第486図 7	甕 土師器	A 16.8 B (23.6)	底部、体部下半一部欠損。体部は最大径を中位にもつ長胴形を呈する。頸部は「く」の字状にくびれ、口縁部は外反気味に開く。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り、内面横ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 橙色普通	P8654 70% P L 251 二次焼成
8	甗 土師器	A [24.8] B 26.0 C 10.0	頸部、口縁部一部欠損。無底式。体部は外傾して立ち上がり、上半はほぼ直立し、頸部に至る。口縁部は外反気味に開く。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後縦位のヘラナデ、内面ヘラ磨き。体部外面下縁斜位のヘラ削り、内面ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英にぶい橙色普通	P8658 85% P L 251
9	甗 土師器	A 25.0 B 25.7 C [8.9]	底部、体部、口縁部一部欠損。無底式。体部は外傾して立ち上がり、上半はほぼ直立し、頸部に至る。口縁部は外反気味に開く。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り、内面ヘラ磨き。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子にぶい黄褐色普通	P8659 70% P L 251
10	甗 土師器	A [22.5] B 21.2 C [9.6]	底部、体部、口縁部一部欠損。無底式。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反気味に開く。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り後ヘラナデ、内面ヘラナデ。体部下端内・外面ヘラ削り。	砂粒・小礫・雲母・赤色粒子 橙色、普通	P8661 70% P L 251 二次焼成

図版番号	器種	計測値				特徴	胎土・色調	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第486図11	球状土錘	3.4	3.2	0.8	(22.0)	球体。ナデ。	砂粒にぶい黄褐色	D P 8417 50% P L 253
12	球状土錘	2.0	1.9	0.5~0.8	5.9	球体。ナデ。	完形。砂粒・長石、にぶい黄褐色	D P 8418 100% P L 253

第1440号住居跡 (第487図)

位置 調査8区の西部, M8g6区。

重複関係 北西コーナー一部で第1441号住居跡を、東部で第1439号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸3.20m, 短軸2.83mの長方形である。全面にトレンチャーによる床面まで達する攪乱を受けている。

主軸方向 N-2°-E

壁 壁高は24~27cmで、外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦であり、中央部が特に踏み固められている。

竈 北壁の中央やや東寄りに、砂質粘土で構築されている。煙道の突端部と両袖部にトレンチャーによる攪乱を受けており、遺存状態は悪い。遺存している部分の規模は、焚口部から煙道部まで75cmで、両袖部幅96cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、第2層には粘土粒子・砂粒が多量に含まれていることから、この層が天井部の崩落土と考えられる。両袖部は、内側が火熱を受けて赤変硬化している。火床部はトレンチャーによる攪乱のため確認できないが、竈土層断面図中の第4層には、焼土粒子・炭化粒子が多量、灰が少量に含まれていることから、下面が火床面と考えられる。煙道は火床面から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 2 暗赤褐色 粘土粒子多量、焼土粒子・砂粒中量、ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 極暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子・粘土粒子少量
- 4 暗赤色 焼土粒子多量、炭化粒子・灰中量

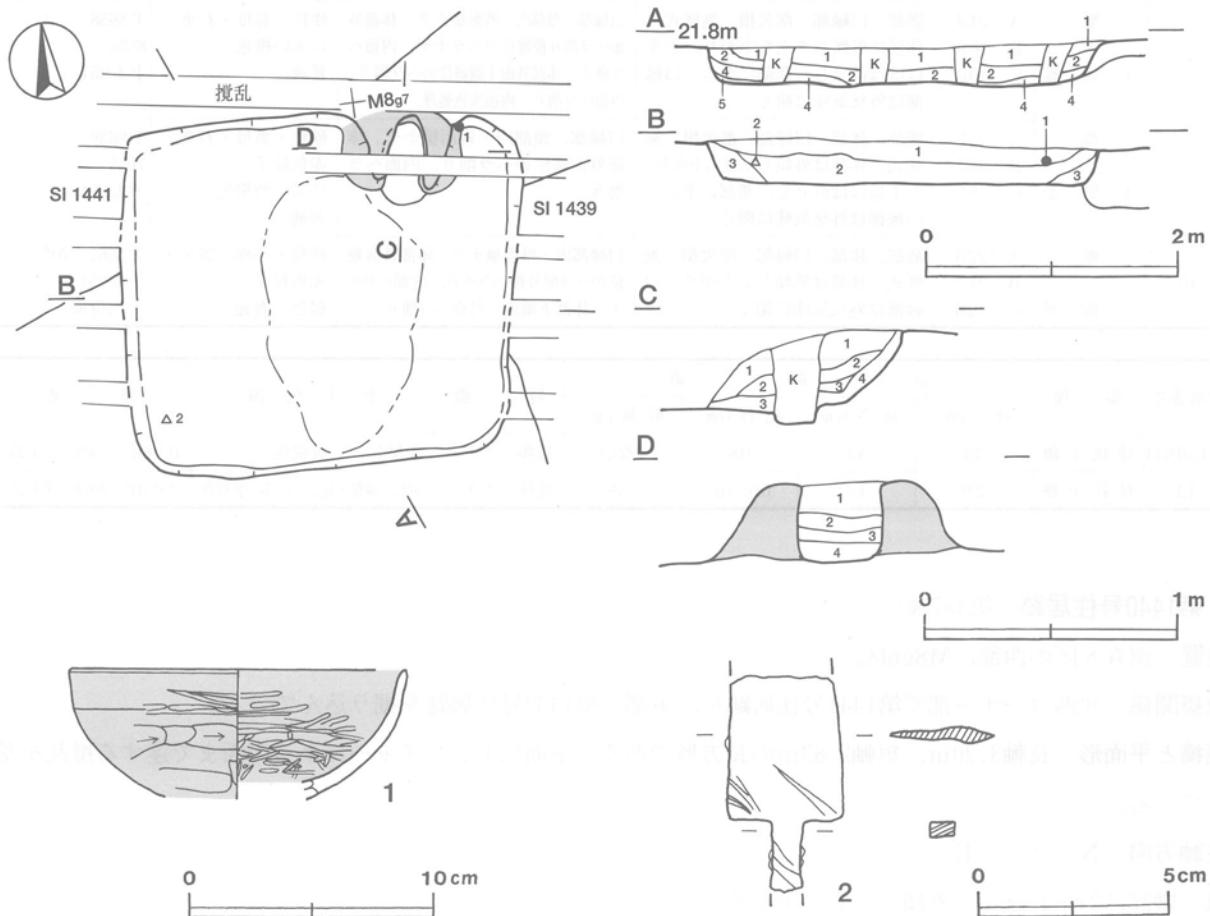
覆土 5層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量、焼土小ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量

遺物 土師器片181点、鉄器1点（鏃）、須恵器片9点が出土している。第487図1の土師器坏片は、竈内から出土している。2の鉄鏃は、南西コーナー部の覆土中層から出土している。須恵器片は、攪乱により混入したものである。

所見 本跡からは、壁溝、ピットは検出できなかった。時期は、出土土器から7世紀後半と考えられる。



第487図 第1440号住居跡・出土遺物実測図

第 1440 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第487図 1	坏 土 師 器	A [13.4] B (5.1)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り、内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 灰黄褐色 普通	P 8734 10%

図版番号	器 種	計 測 値							材 質	特 徴	備 考
		全長(cm)	鎌身長	鎌身幅	筭部長(cm)	筭部幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第487図2	鎌	(5.7)	(3.8)	(3.1)	(1.9)	(0.8)	0.4	(18.6)	鉄	鎌身先端欠損。関部は直角。三角形鎌カ	M8428 50% P L 254

第1441号住居跡 (第488・489図)

位置 調査8区の西部, M8f6区。

重複関係 竈の袖部を含む北部が第84A・84B号溝に, 南部が第1440号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.65m, 短軸5.40mの方形である。

主軸方向 N-23° - W

壁 壁高は12~36cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 第84A・84B号溝, 第1440号住居に掘り込まれている部分については検出できなかったが, 遺存している部分には巡っている。規模は上幅16~25cm, 下幅4~8cm, 深さ5~8cmで, 断面形は緩やかなU字形をしている。

床 ほぼ平坦であり, 中央部が特に踏み固められている。

竈 第84A・84B号溝に掘り込まれているため, 両袖部の一部と火床部の一部及び煙道部が, 北西壁の中央部で検出された。壁外へは約23cm掘り込んで, 砂質粘土で構築されている。規模は, 火床部の南端部から煙道部までが82cmで, 確認できた両袖幅は78cmである。天井部は確認できなかった。火床部は, わずかに掘りくぼめられており, 皿状をしている。煙道は火床面から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

- 1 灰褐色 粘土粒子多量, 砂粒中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 灰褐色 粘土粒子・砂粒多量, 焼土粒子微量
- 3 褐灰色 粘土粒子多量, 砂粒中量, ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 灰褐色 粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂粒少量
- 5 暗赤褐色 炭化粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化物・粘土粒子・砂粒少量
- 6 極暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・粘土粒子少量

ピット 4か所 (P1~P4)。P1・P2は, それぞれ長径53cm・49cm, 短径41cm・29cmの楕円形で, 深さ41cm・28cmであり, P3・P4は, 径39cm・32cmの円形で, 深さ31cm・42cmである。いずれも各コーナー寄りに位置しており, 規模と配置から主柱穴と考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。規模は, 長径60cm, 短径55cmの楕円形で, 深さ53cmであり, 断面形は逆台形状をしている。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量

覆土 3層からなる。覆土が薄いので断定することは難しいが, ほぼレンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

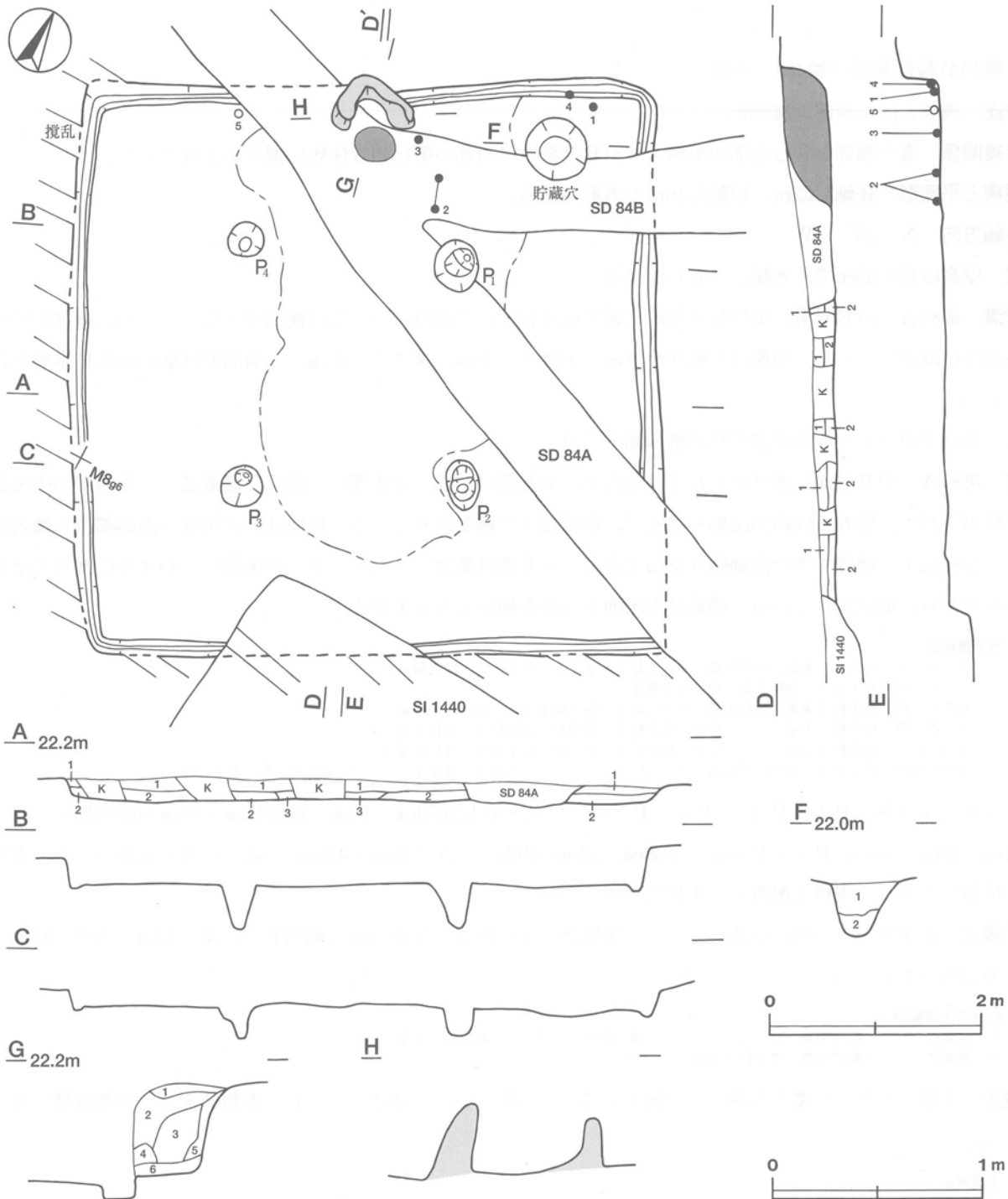
土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量

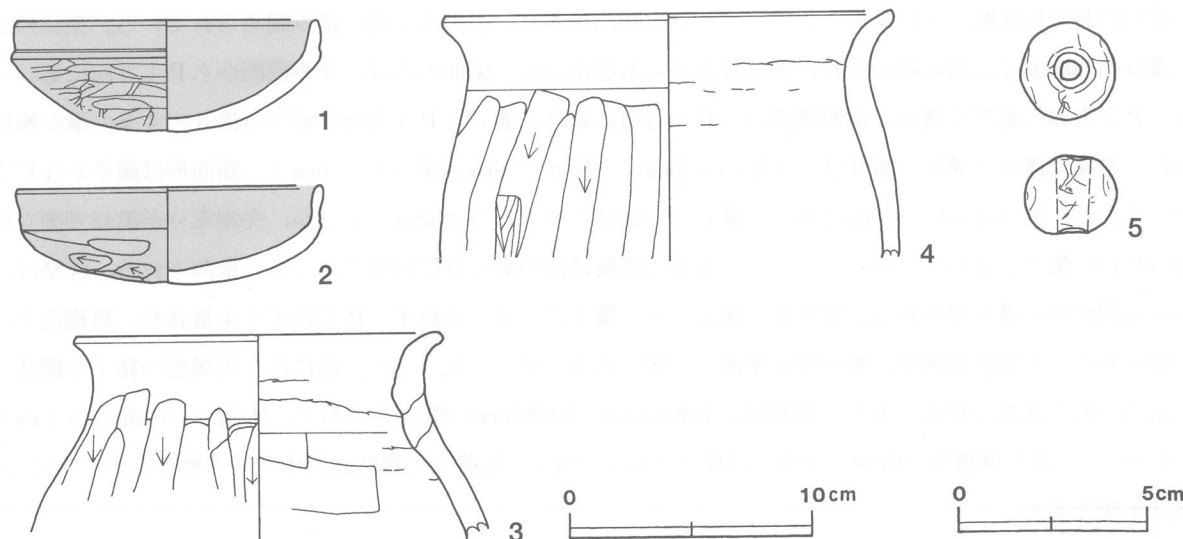
遺物 土師器片284点, 土製品1点(球状土錘), 炭化種子1点(桃カ), 須恵器片1点が出土している。図示した土器は, すべて土師器である。第489図1の坏は, 北東コーナー部の床面から正位で出土している。2の坏は, 竈前面の床面から破片で出土している。3の甕片は竈東袖前の床面から, 4の甕片は北東コーナー部の覆土下層から出土している。5の球状土錘は北壁際の床面から出土している。炭化種子は, 北西コーナー部の覆土下層から出土している。破片のため種別は不明である。須恵器片は, 攪乱により混入したものと思われる。

所見 本跡の南部が第1440号住居に掘り込まれているため, 出入り施設に伴うピット等は検出されなかった。

時期は, 出土土器から7世紀前半と考えられる。



第488図 第1441号住居跡実測図



第489図 第1441号住居跡出土遺物実測図

第1441号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第489図 1	坏 土師器	A 12.1 B 4.4	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後不定方向のへらナデ、内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色 普通	P 8735 90% P L 251
2	坏 土師器	A [12.2] B 3.9	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後へらナデ、内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英 にぶい褐色 普通	P 8736 25% P L 251
3	甕 土師器	A [14.6] B (8.2)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部に至る。頸部は緩やかにくびれ、口縁部は短く外反気味に開く。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面縦位のへら削り、内面に輪積み痕を残すへらナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色 普通	P 8740 10% P L 252
4	甕 土師器	A [17.9] B (9.7)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部に至る。頸部は緩やかにくびれ、口縁部は外反気味に開く。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のへら削り、内面に輪積み痕を残す横ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色 普通	P 8741 5% P L 251

図版番号	器種	計測値				特徴	胎土・色調	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第489図5	球状土錘	2.6	2.0	0.8	12.3	球体。ナデ。	砂粒・雲母、にぶい黄橙色	D P 8434 100% P L 253

第1445A号住居跡 (第490~494図)

位置 調査8区の北部, L10j4区。

重複関係 当初, 1軒の住居として調査を開始したが, 貼床の下からも床面と柱穴, 壁溝, 貯蔵穴が検出されたことから, 上位のものを第1445A号住居跡, 下位のものを第1445B号住居跡とした。南西部は第1447号住居, 第42号掘立柱建物に, 北西部は第127号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸6.40m, 短軸6.08mの方形である。

主軸方向 N-43°-W

壁 壁高は25~36cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。規模は上幅21~25cm, 下幅5~11cm, 深さ6~10cmで, 断面形はU字形をしている。

床 第1445B号住居跡の上に貼床をしている。やや凹凸があり、中央部が特に踏み固められている。東部の溝 a・溝 b 間の床面では踏み固められた部分は認められなかった。床面からは、北東壁際から P 1 方向に延びる溝 a と P 2 方向に延びる溝 b、南西壁際から P 3 方向に延びる溝 c と P 4 方向に延びる溝 d の 4 条の溝が検出された。規模は溝 a・溝 b・溝 d は、上幅 15~25cm、下幅 6~10cm、深さ 8~16cm で、断面形は緩やかな U 字形をしており、長さは 113~140cm である。溝 c は、確認できる長さは 62cm であるが、先端部分が第 42 号掘立柱建物の P12 に掘り込まれているためであり、本来の規模は他の溝とほぼ同様であったと推測される。性格は、いわゆる間仕切り溝と思われる。壁溝及び溝 a~d の覆土は、ローム粒子・粘土粒子を少量含む、黒褐色土の単一層である。土層断面図中、第 24 層が壁溝の土層である。また、北コーナー一部には、灰褐色の粘土が棚状に敷き詰められた状態で検出された。規模は、長軸 152cm、短軸 90cm の隅丸長方形で、床面からの高さが 7cm ある。北コーナー一部の壁溝及び貯蔵穴上面では検出されていない。貯蔵穴土層断面図中の第 6 層がこれであるが、性格は不明である。

竈 北西壁の中央部やや西寄りを壁外へ 34cm 掘り込んで、砂質粘土で構築されている。東袖部の一部が第 127 号掘立柱建物に掘り込まれているが、その他の部分の遺存状態は良好である。規模は、焚口部から煙道部までが 97cm で、両袖幅 130cm である。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、第 1~3・19・20・24・25 層が粘土粒子・砂粒を多量に含み、特に第 2・20 層は火熱を受けて赤変していることから、これらの層が天井部の崩落土と考えられる。袖部は粘土小ブロック・粘土粒子・砂粒を含む灰褐色土及び暗褐色土を版築状に積み上げて構築されており、内側は火熱を受けて赤変硬化している。西袖部内から土師器片が 14 片出土しており、補強のためのものと考えられる。火床部は、確認面から 38cm の深さで径 56cm の不整楕円形に掘り込まれ、ローム小ブロック・ローム粒子を含んだ褐色土を下層に、その上層に粘土粒子・砂粒を含んだにぶい赤褐色土を埋め土して構築されている。火床面は、床面からを 5cm ほど掘りくぼめられており、皿状をしている。竈土層断面図中、第 13・14 層は粘性の強い灰の層であり、その下層の第 16・17 層には焼土ブロック・焼土粒子が多量、炭化材・炭化粒子が少量含まれていることから、下面が火床面と考えられる。煙道は火床面から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1 灰 褐色	粘土粒子・砂粒多量	20 暗 赤 褐色	粘土粒子・砂粒多量。火熱を受けて赤変硬化している。
2 暗 赤 褐色	粘土粒子多量、砂粒中量	21 暗 赤 褐色	粘土粒子多量、砂粒中量、炭化物少量。粘土粒子・砂粒が火熱を受けて赤変硬化している。
3 暗 赤 褐色	粘土粒子・砂粒多量	22 暗 赤 褐色	粘土粒子中量、炭化物・砂粒少量。粘土粒子・砂粒が火熱を受けて赤変硬化している。
4 にぶい赤褐色	砂粒多量、粘土粒子中量、粘土中ブロック少量	23 灰 褐色	粘土粒子多量
5 黒 褐色	焼土粒子・ローム中ブロック・粘土中ブロック・粘土粒子・砂粒中量、焼土中ブロック少量	24 にぶい赤褐色	粘土粒子・砂粒多量、焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化物少量
6 黒 褐色	焼土粒子・砂粒中量、ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・粘土中ブロック・粘土粒子少量	25 灰 褐色	粘土粒子・砂粒多量、焼土粒子中量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物少量
7 暗 褐色	砂粒多量、粘土粒子中量、ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土中ブロック少量	26 黒 褐色	炭化粒子多量、ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
8 黒 褐色	ローム中ブロック・焼土中ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量	27 極暗赤褐色	粘土粒子・砂粒中量、ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
9 黒 褐色	ローム中ブロック・焼土中ブロック・焼土粒子中量、ローム粒子・粘土中ブロック・粘土粒子・砂粒少量	28 暗 赤 褐色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
10 黒 褐色	焼土中ブロック・粘土中ブロック・粘土粒子・砂粒中量、ローム小ブロック・焼土粒子少量	29 灰 褐色	粘土粒子多量、砂粒少量
11 灰 褐色	焼土粒子・粘土粒子・砂粒多量、焼土小ブロック少量	30 灰 褐色	粘土粒子多量、砂粒中量
12 暗 赤 褐色	焼土粒子・粘土粒子・砂粒多量、焼土小ブロック中量。粘土粒子・砂粒が、火熱を受けて赤変硬化している。	31 灰 褐色	粘土粒子多量、砂粒中量、焼土小ブロック少量。
13 灰 赤 色	灰多量。粘性が強い。	32 にぶい赤褐色	粘土粒子・砂粒多量。火熱を受けて赤変硬化している。
14 暗 赤 褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・灰中量。粘性が強い。	33 暗 褐色	砂粒多量、粘土粒子中量、焼土小ブロック少量
15 黒 褐色	砂粒中量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量	34 灰 褐色	粘土粒子多量、焼土粒子中量、砂粒少量
16 暗 赤 褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・灰中量、炭化材・炭化粒子少量	35 にぶい赤褐色	焼土小ブロック・粘土粒子中量、砂粒少量
17 暗 赤 褐色	焼土小ブロック・焼土粒子多量	36 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、粘土小ブロック・粘土粒子少量
18 暗 赤 褐色	焼土粒子多量、粘土粒子中量、焼土小ブロック・砂粒少量。粘土粒子・砂粒が、火熱を受けて赤変硬化している。	37 暗 褐色	粘土小ブロック・粘土粒子多量、砂粒中量
19 暗 赤 褐色	粘土粒子多量、砂粒中量。粘土粒子・砂粒が、火熱を受けて赤変硬化している。	38 暗 赤 褐色	粘土小ブロック・粘土粒子多量、焼土小ブロック・砂粒中量
		39 灰 褐色	粘土粒子多量
		40 黒 褐色	焼土粒子・炭化粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量

41 暗褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 粘土粒子少量	45 褐色	ローム粒子多量, 砂粒少量
42 にぶい赤褐色	焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量	46 暗褐色	粘土中ブロック多量
43 にぶい赤褐色	ローム粒子多量, 砂粒中量, 粘土粒子少量	47 暗赤褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子多量, 粘土粒子中量
44 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子多量, 炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量	48 暗赤褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒中量

ピット 10か所 (P1～P10)。P1は径65cmの円形, 深さ71cmで, P2～P4は長径68～80cm, 短径50～55cmの楕円形, 深さ57～63cmである。いずれも各コーナー寄りに位置しており, 規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は径33cmの円形で, 深さ38cmであり, P6は長径35cm, 短径25cmの楕円形で, 深さ15cmである。いずれも南東壁際の中央部に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。P7は径40cmの円形で, 深さ44cmである。P7はP3に隣接していることから, P3の補助柱穴の可能性もある。南西コーナー部の壁際に位置しているP9・P10は, 径21・30cmの円形で, 深さはP8が61cm, P9が17cm, P10が57cmであり, 位置的に壁柱穴の可能性もある。

P1～P7土層解説

1 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量	5 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・砂粒少量
2 黒褐色	ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量	6 黒褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量
3 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, 粘土粒子・砂粒少量	7 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量
4 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック少量	8 黒褐色	ローム粒子中量
		9 暗褐色	粘土小ブロック多量

貯蔵穴 北コーナー部に位置している。長軸90cm, 短軸85cmの隅丸方形で, 深さ81cmである。底面は平坦で, 下部で内彎し, 上部は直立している。覆土は, 人為堆積である。

貯蔵穴土層解説

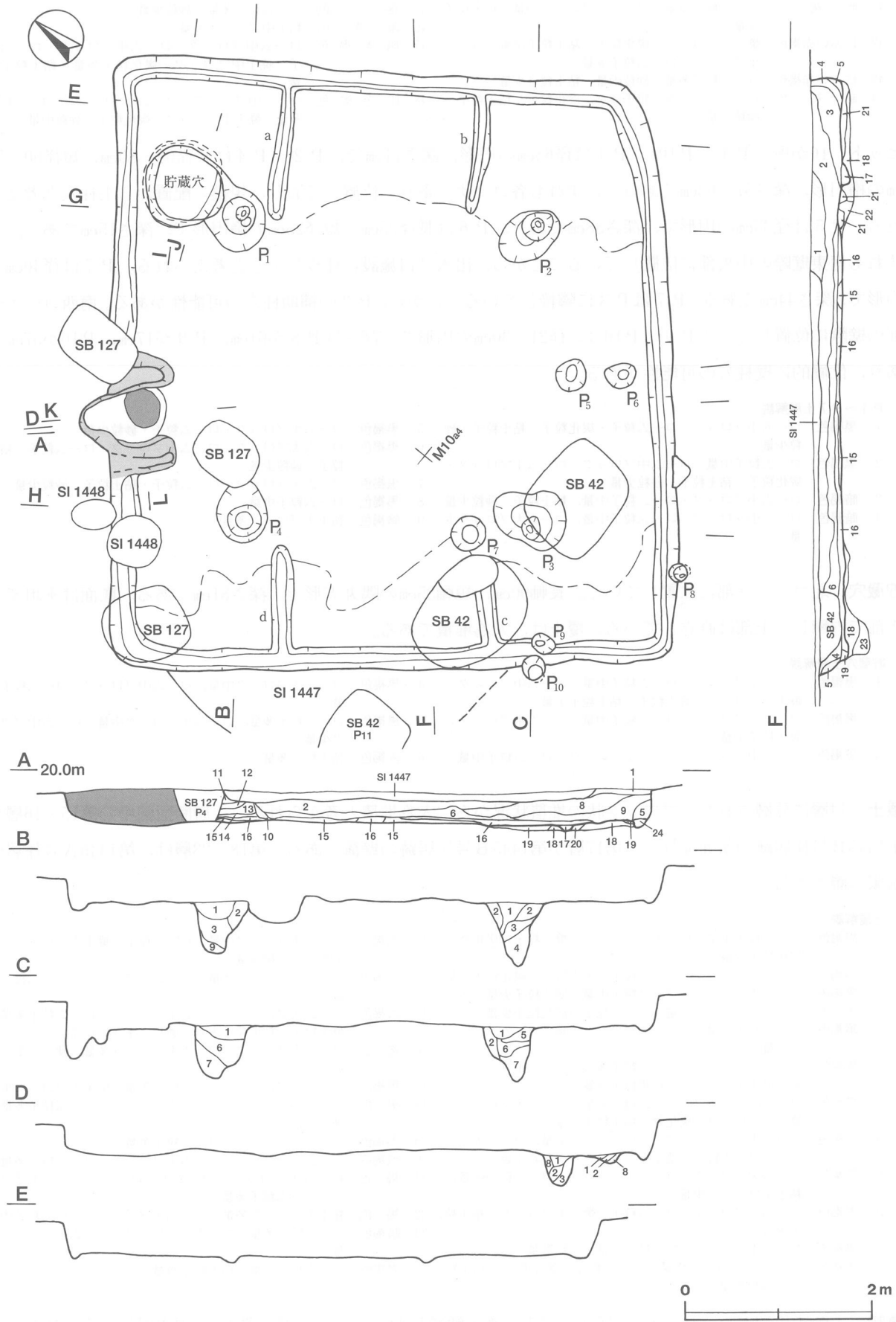
1 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量	4 黒褐色	ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・ローム粒子少量
2 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・炭化粒子少量	5 黒褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量
3 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量	6 灰褐色	粘土粒子多量

覆土 14層に分層された。ブロック状の堆積状況から, 人為堆積と考えられる。土層断面図中の第15・16層が第1445B号住居跡の床面部分で, 第17層が第1445B号住居跡の壁溝である。第18～23層は, 第1445A号住居の貼床の層である。

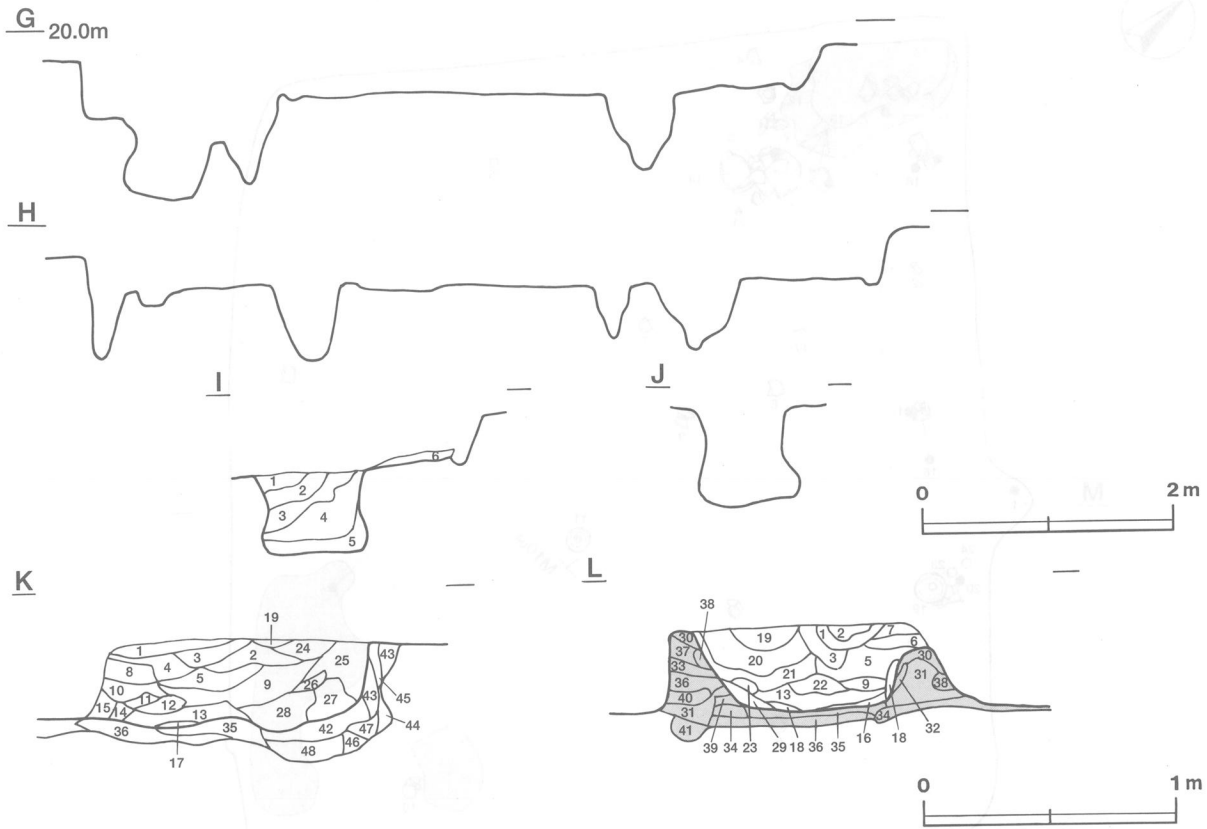
土層解説

1 黒褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量	13 黒褐色	ローム小ブロック中量, ローム粒子・焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒少量
2 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	14 黒褐色	ローム中ブロック多量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
3 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量	15 暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土粒子・粘土粒子少量。硬くしまっている。
4 黒色	ローム小ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量	16 褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック多量。硬くしまっている。
5 暗褐色	ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, ローム大ブロック少量	17 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土小ブロック少量
6 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量	18 褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量。硬くしまっている。
7 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック・焼土小ブロック・炭化物・粘土粒子少量	19 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量
8 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物少量	20 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量
9 黒褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量, 粘土中ブロック少量	21 褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量
10 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・粘土粒子少量	22 褐色	粘土大ブロック多量, ローム大ブロック・ローム粒子中量
11 黒褐色	ローム小ブロック・粘土粒子少量, 砂粒微量	23 暗褐色	ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック中量
12 黒褐色	ローム小ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量	24 黒褐色	ローム粒子少量, 粘土粒子微量

遺物 土師器片1307点 (坏116, 高坏4, 壺1, 甕・甑類1182, 鉢3, 手捏土器1), 須恵器片94点 (坏48, 高台付坏4, 蓋3, 甕・甑類39), 土製品3点 (支脚1, 土玉2), 軽石1点が出土している。第493図21は須恵



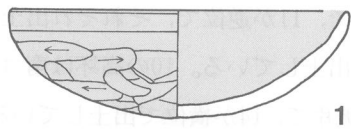
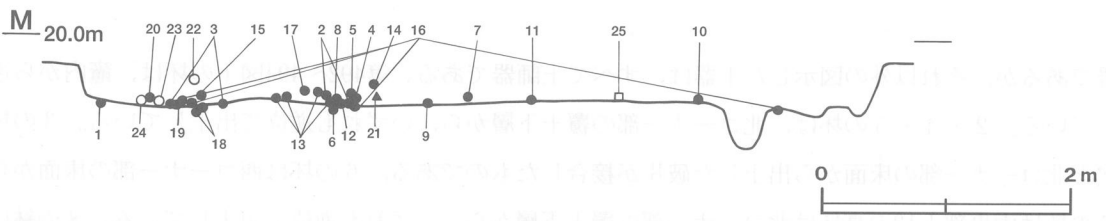
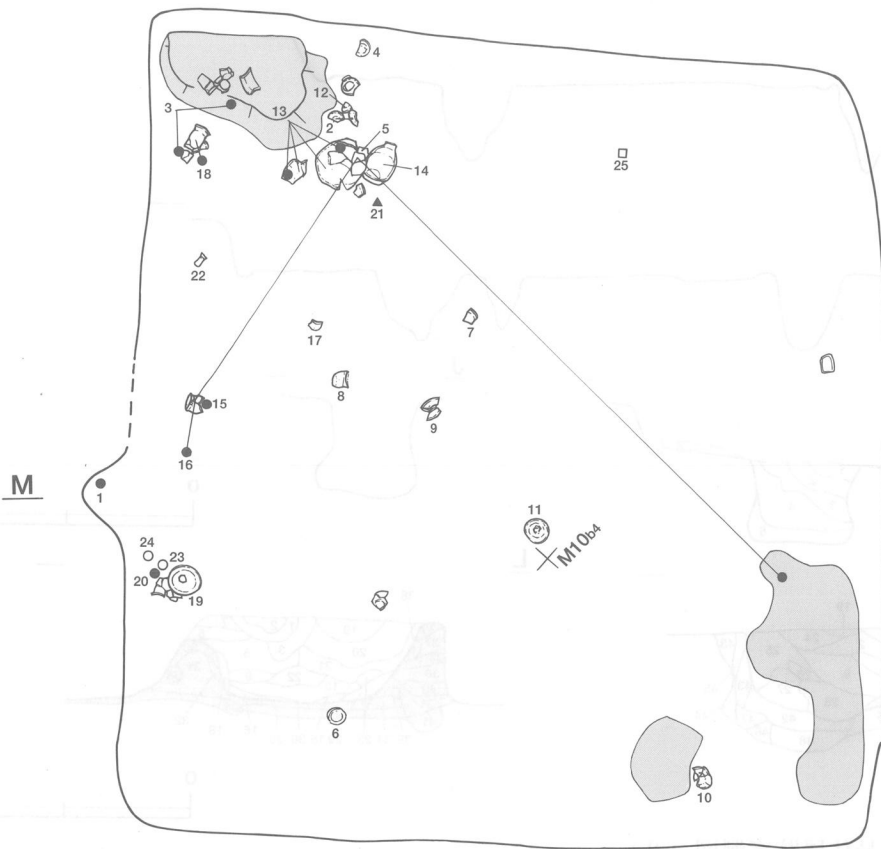
第490図 第1445 A号住居跡実測図(1)



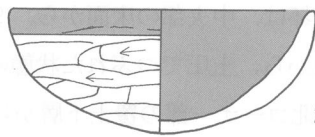
第491図 第1445A号住居跡実測図(2)

器であるが、それ以外の図示した土器は、すべて土師器である。第492～494図1の坏は、竈内から逆位で出土している。2・4・5の坏は、北コーナー部の覆土下層から、いずれも逆位で出土している。3の坏は、貯蔵穴と北コーナー部の床面から出土した破片が接合したものである。6の坏は西コーナー部の床面から正位で、7の坏は中央部と12の高坏は北コーナー部の覆土下層から、いずれも逆位で出土している。8の鉢は、竈前の覆土下層から出土している。9・11の高坏は、中央部の床面から、9が横位で、11が逆位で、それぞれ出土している。18の甗は、北コーナー部の床面から、土圧でつぶれた状態の横位で出土している。10の高坏は南コーナー部の床面から正位で、13・14の甗は北コーナー部の覆土下層から、13が破片で、14が横位で出土している。15の甗は、竈東側の床面から横位で出土している。16の甗は、南コーナー部の床面と竈東側の床面から、それぞれ破片で出土している。17の壺片は竈前の覆土下層から、19の甗は竈の西側の床面から逆位で、20の手捏土器は竈西側の覆土下層から、それぞれ出土している。22の支脚は北コーナー部の覆土中層から横位で、23・24の土玉は西袖部内から、それぞれ出土している。25の軽石は、東部の床面から出土している。21の須恵器鉢片は、体部下端から底部にかけての破片であり、北コーナー部の覆土下層から出土している。

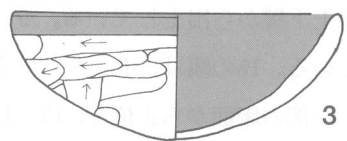
所見 本跡は、第1445B号住居跡の上面に貼床をして構築されていること、支柱穴及び貯蔵穴は第1445B号住居跡のものより北東側に位置していること、北東壁・南東壁は第1445B号住居跡のそれぞれの壁を北東側・南東側に105～115cm掘り込み、その壁際には壁溝を巡らしていることから、第1445B号住居跡を東側に拡張して構築した住居跡と考えられる。また、北西壁際の壁溝の一部、南西壁際の壁溝の一部は、第1445B号のものを延長している。時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。



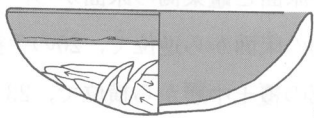
1



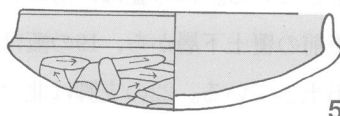
2



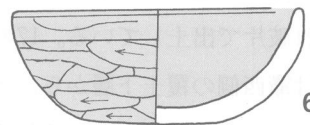
3



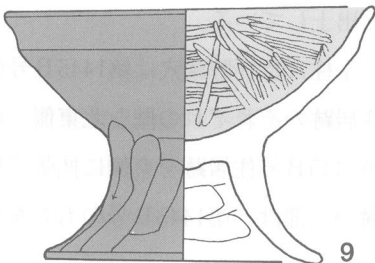
4



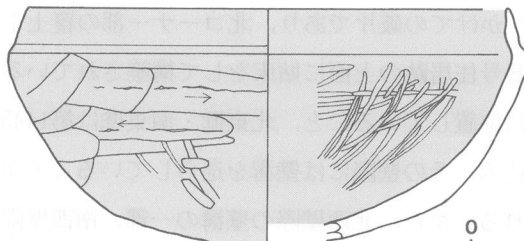
5



6



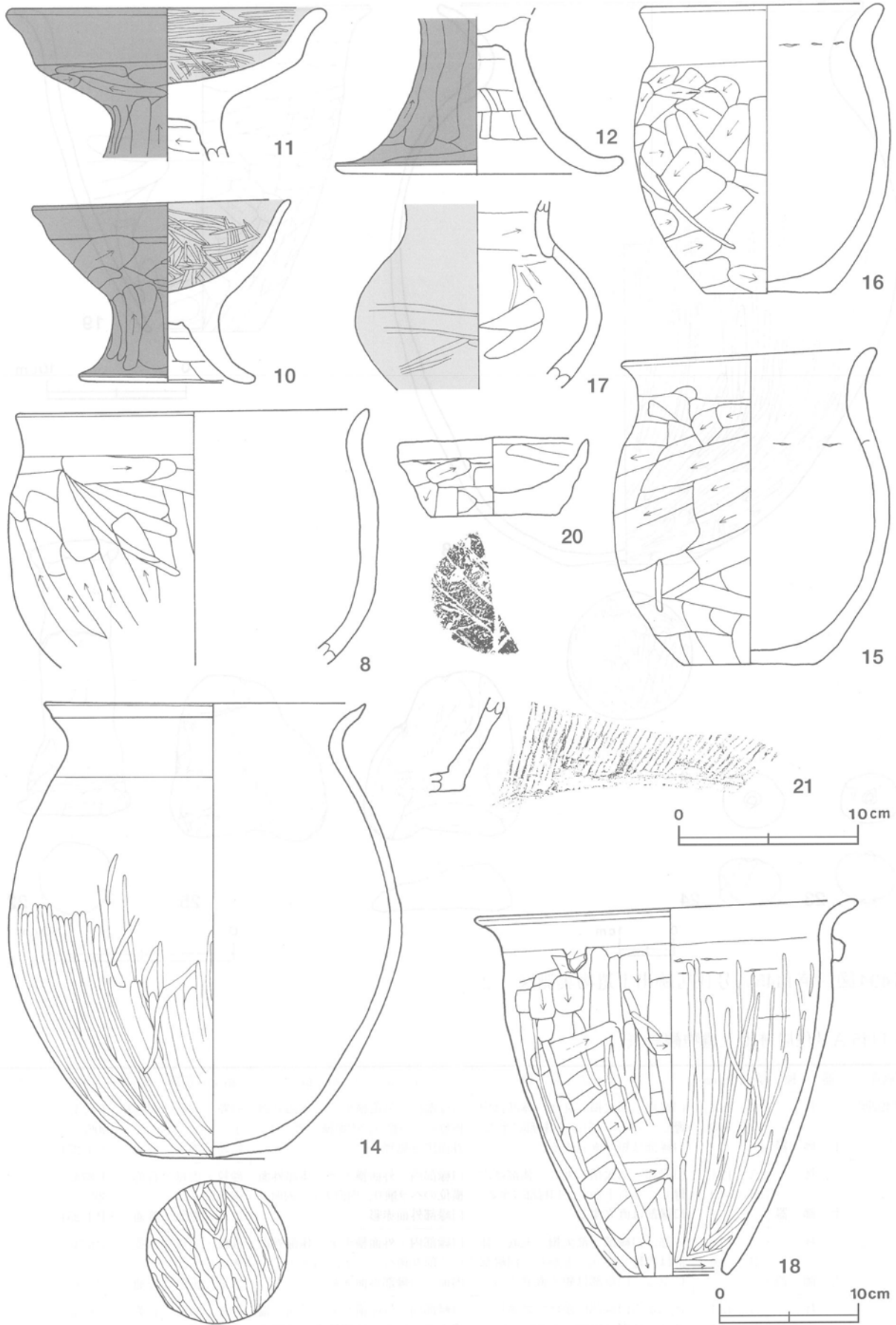
9



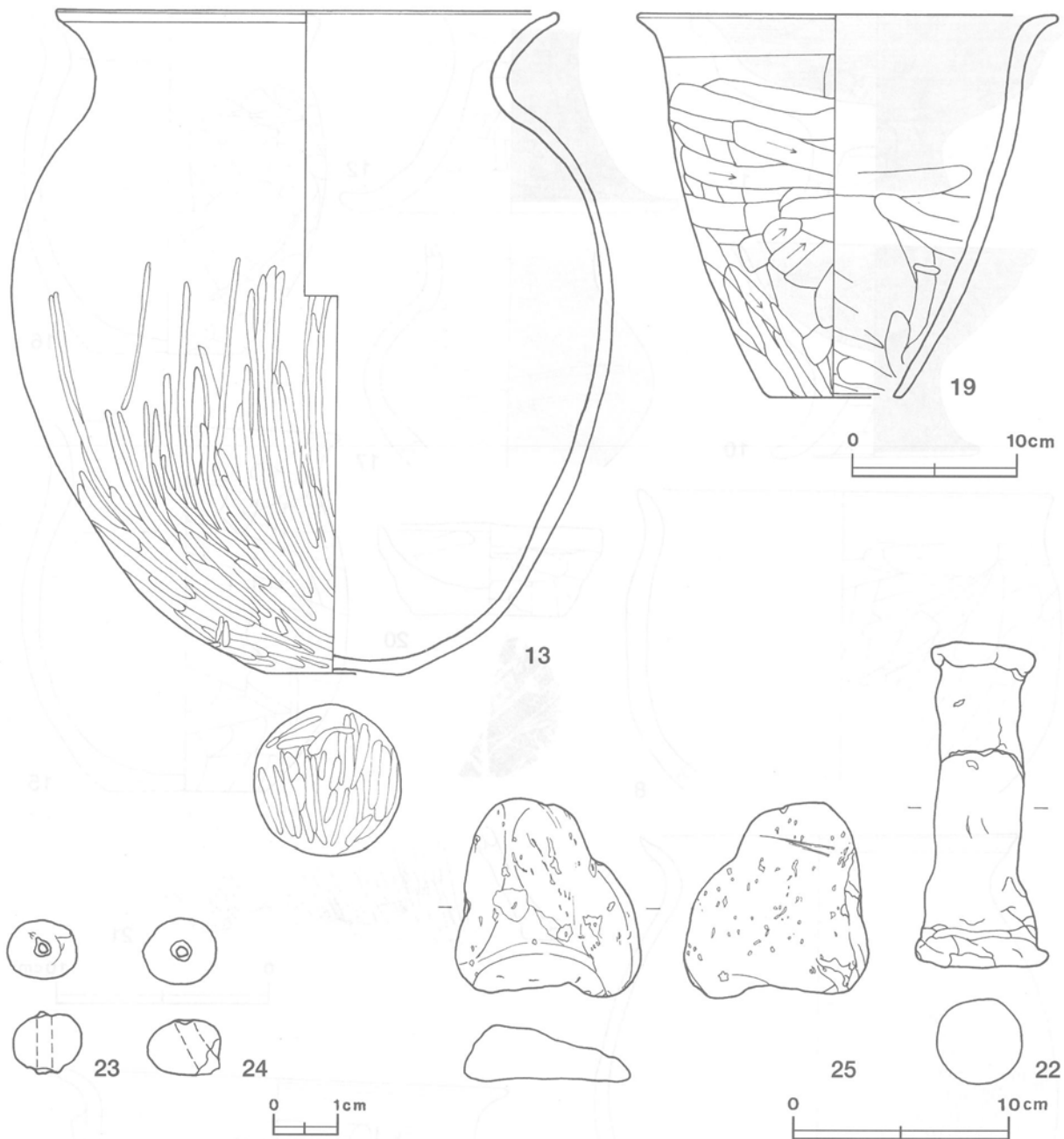
7



第492図 第1445A号住居跡遺物出土状況・出土遺物実測図



第493图 第1445A号住居跡出土遺物実測図(1)



第494図 第1445 A号住居跡出土遺物実測図(2)

第1445 A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第492図 1	坏 土師器	A 13.4 B 4.3	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り、内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子にぶい褐色、普通	P 8742 90% P L 251
2	坏 土師器	A 12.1 B 4.9	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り、内面ナデ。内面・口縁部外面赤彩。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子にぶい橙色、普通	P 8745 99% P L 251
3	坏 土師器	A 13.2 B 5.0	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ、内面ナデ。内面・口縁部外面赤彩。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子にぶい橙色、普通	P 8746 75% P L 251
4	坏 土師器	A 12.1 B 4.1	体部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。外面に輪積み痕が残る。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ、内面ナデ。内面・口縁部外面赤彩。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子明褐色普通	P 8748 65% P L 251

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第492図 5	坏 土師器	A [12.4] B 3.9	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面不定方向のヘラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英 にぶい橙色 普通	P 8751 35% P L 252
6	坏 土師器	A 11.5 B 4.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り、内面ナデ。外面に輪積み痕が残る。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 普通	P 8749 99% P L 252
7	坏 土師器	A [19.2] B (9.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ、内面ヘラ磨き。体部外面に輪積み痕が残る。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・ 赤色粒子 橙色 普通	P 8753 30% P L 252
第493図 8	鉢 土師器	A [18.8] B (13.5)	体部下位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部に至る。頸部は緩やかにくびれ、口縁部は短く外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面斜位のヘラ削り、内面ナデ。	砂粒・雲母・石英・ 赤色粒子 にぶい橙色 普通	P 8755 30% P L 252
第492図 9	高坏 土師器	A 14.7 B 10.3 D 11.0	口縁部一部欠損。脚部はラッパ状に開く。坏部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面ヘラ削り後ナデ、内面ヘラ磨き。脚部外面ヘラ削り後ナデ、内面ヘラ削り。裾部内・外面横ナデ。脚部、坏部外面赤彩。坏部内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・ 石英・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P 8756 95% P L 252
第493図 10	高坏 土師器	A 13.8 B 9.9 D 9.6	坏部、脚部一部欠損。脚部はラッパ状に開く。坏部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面ヘラ削り後ナデ、内面ヘラ磨き。脚部外面縦位のヘラ削り後ナデ、内面横位のヘラ削り。裾部内・外面横ナデ。脚部、坏部外面赤彩、坏部内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・ 石英・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P 8757 85% P L 252
11	高坏 土師器	A 16.5 B (8.1)	脚部上位から坏部にかけての破片。坏部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面ヘラ削り後ナデ、内面ヘラ磨き。脚部外面縦位のヘラ削り後ナデ、内面横位のヘラ削り。脚部、坏部外面赤彩、坏部内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英 灰褐色 普通	P 8758 60% P L 252
12	高坏 土師器	B (8.5) D 15.6	脚部片。脚部はラッパ状に開き、裾部は大きく開く。	脚部外面縦位のヘラ削り後ナデ、内面横位のヘラ削り。裾部内・外面横ナデ。外面赤彩。	砂粒・雲母・石英・ 赤色粒子 明赤褐色、普通	P 8759 50% P L 252
第494図 13	甕 土師器	A 30.2 B 39.4 C 9.0	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は球状を呈する。頸部は「く」の字状にくびれ、口縁部は外反気味に開く。口縁端部は外上方にわずかにつまみ上げられている。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ磨き、内面ナデ。底部ヘラ磨き。	砂粒・雲母・石英 にぶい橙色 普通	P 8760 80% P L 252
第493図 14	甕 土師器	A [22.4] B 32.2 C 10.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は球状を呈する。頸部は「く」の字状にくびれ、口縁部は外反気味に開く。端部は外上方にわずかにつまみ上げられている。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面上位横ナデ、中位から下位にかけてヘラ磨き、内面ナデ。底部外面ヘラ磨き。	砂粒・雲母・赤色粒 子 にぶい黄褐色 普通	P 8761 55% P L 252
15	甕 土師器	A 13.5 B 16.9 C 7.4	底部、体部一部欠損。平底。体部は球形を呈する。頸部は緩やかにくびれ、口縁部は外反気味に開く。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面斜位のヘラ削り、内面に輪積み痕を残すナデ。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英・ 長石 にぶい橙色、普通	P 8762 80% P L 252 二次焼成
16	甕 土師器	A 12.7 B 15.5 C 6.7	体部一部欠損。平底。体部は球形を呈する。頸部は緩やかにくびれ、口縁部は外反気味に開く。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面不定方向のヘラ削り、内面に輪積み痕を残すナデ。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・赤色粒 子 明赤褐色、普通	P 8764 60% P L 251 二次焼成
17	壺 土師器	B (10.1)	体部から頸部にかけての破片。体部はやや扁平気味の球形を呈する。頸部は直立する。	頸部外面横ナデ、内面ヘラナデ。体部外面横位のヘラナデ、内面ヘラナデ。輪積み痕。外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい黄褐色 普通	P 8771 40% P L 252
18	甗 土師器	A 26.5 B 26.4 C 7.5	体部、口縁部一部欠損。無底式。体部は外傾して立ち上がり、上半はほぼ直立し、頸部に至る。頸部外面に三方に突起が付く。口縁部は外反気味に開く。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面不定方向のヘラ削り後、縦位のヘラナデ、内面縦位のヘラ磨き。体部下端内面横位のヘラ削り。体部内面に輪積み痕が残る。	砂粒・雲母・石英 にぶい橙色 普通	P 8772 85% P L 252
第494図 19	甗 土師器	A 25.3 B 22.8 C 8.0	口縁部一部欠損。無底式。体部は外傾して立ち上がり、頸部に至る。口縁部は外反気味に開く。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面不定方向のヘラ削り、内面ヘラナデ。体部下端内面横位のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英・ 赤色粒子 橙色、普通	P 8773 90% P L 252

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第493図 20	手捏土器 土師器	A 10.2	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。体部に輪積み痕が残る。底部木葉痕。	砂粒・雲母 黄灰色 普通	P 8754 40% P L 252
		B 4.2				
		C 7.0				
21	鉢 須恵器	B (4.7)	底部から体部下端にかけての破片。体部は外反して立ち上がる。	体部下端斜位の平行叩き。	砂粒・長石・石英・赤色粒子 暗灰色、普通	T P 8406 5% P L 252

図版番号	器種	計測値			特徴	胎土・色調	備考
		長さ(cm)	径(cm)	重量(g)			
第494図22	土製支脚	14.7	4.1~6.1	386.0	裾部がやや開く円柱状。ナデ。	雲母・長石・石英、にぶい橙色	D P 8425 100% P L 253

図版番号	器種	計測値				特徴	胎土・色調	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第494図23	土玉	1.1	0.9	0.2	0.8	球体。ナデ。	砂粒、にぶい橙色	D P 8426 100% P L 253
24	土玉	1.1	0.9	0.2	0.9	球体。ナデ。黒色処理。	砂粒・雲母、褐灰色	D P 8427 100% P L 253

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第494図25	浮子カ	8.9	8.5	2.6	24.6	軽石	1面が平坦であり、3条の筋がある。既石に転用カ。	Q 8407 100% P L 254

第1445B号住居跡 (第495・496図)

位置 調査8区の北部、L10j3区。

重複関係 本跡は第1445A号住居跡の貼床の下から検出されたことから、第1445B号住居跡とした。北西壁の一部と南西壁の一部は、第1445A号住居跡と一致し、その部分の壁溝も同様である。第1445A号住居の貼床の下から検出された北東部の壁溝と南東部の壁溝は、第1445A号住居跡のものより約100cm内側に位置し、貯蔵穴も同様に内側で検出されている。また、支柱穴とみられるP1~P4も、第1445A号住居の貼床の下から検出され、第1445A号住居のものより、北西側に位置している。このことから、内側に位置している北東部・南東部の壁溝、貯蔵穴及び北西側に位置しているP1~P4を本跡のものとした。なお、南部を第1447号住居、第42号掘立柱建物に、北西部を第127号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.38m、短軸5.15mの方形である。

主軸方向 N-43°-W

壁溝 北コーナー部が第1445A号住居の貯蔵穴に掘り込まれているため、確認できないが、それ以外の部分は巡っていることから、全周していたと考えられる。北東壁溝及び南東壁溝の規模は、上幅18~24cm、下幅5~11cm、深さ9~12cmで、断面形は緩やかなU字形をしている。

床 ほぼ平坦であり、中央部が特に踏み固められているが、北東部の溝aと溝bの間及び南西部の溝cと溝dの間の床面では、踏み固められた部分は認められなかった。北東壁溝からP1・P5方向に延びる溝aとP2方向に延びる溝b、南西壁際からP3方向に延びる溝cとP4方向に延びる溝dの4条の溝が検出された。規模は、いずれも上幅12~23cm、下幅5~11cm、深さ9~14cmで、長さは80~120cmである。断面形は緩やかなU字形をしている。溝aと溝bは、北東壁側の一部が第1445A号住居の溝a・溝bに掘り込まれている。性格は、位置的にいわゆる間仕切り溝と思われる。

ピット 9か所(P1~P9)。P1は長径39cm、短径28cmの楕円形、深さ32cm、P2・P3はそれぞれ径50cm・40cmの円形、深さ60cm・46cmで、P4は長径76cm、短径42cmの楕円形、深さ70cmである。いずれも各コーナー寄りに位置しており、規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は径26cmの円形で、深さ41cmであり、P

1に隣接していることから、P1の補助柱穴の可能性はある。P6は径25cmの円形で、深さ12cmであり、P3とP4の中間に位置していることから、補助柱穴の可能性はある。P7は径21cmの円形で、深さ18cmであり、P8は長径52cm、短径40cmの楕円形で、深さ27cmである。いずれも南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P9は長径62cm、短径42cmの楕円形で、深さ56cmである。性格は不明である。各ピットとも覆土は埋め戻された状態であり、上面は踏み固められて硬化していることから、第1445A号住居の床面として使用されたと考えられる。

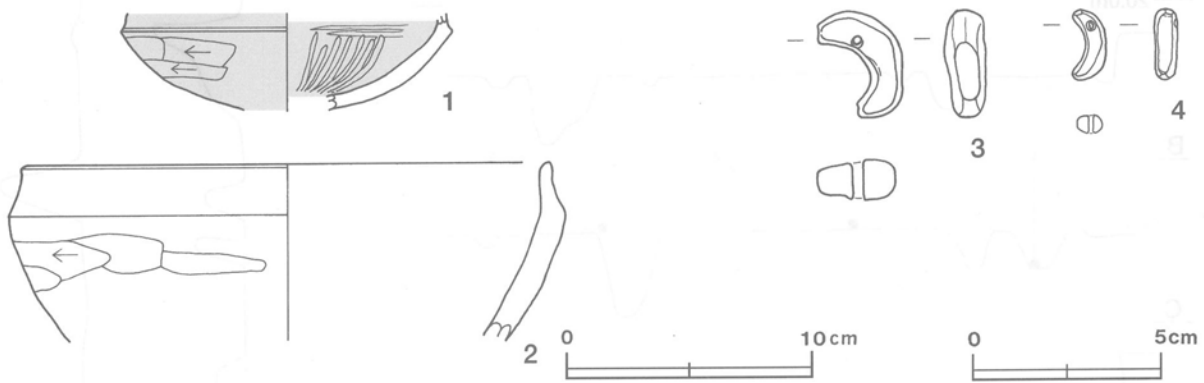
貯蔵穴 竈と北東壁の中間で、北西壁際に位置している。長軸65cm、短軸50cmの楕円形で、深さ34cmであり、断面形は逆台形状をしている。覆土は、埋め戻された状態であり、上面は踏み固められて硬化していることから、第1445A号住居の床面として使用されたと考えられる。貯蔵穴土層断面図中の第1・2層がこれである。

貯蔵穴土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、焼土粒子・粘土小ブロック粒子少量。しまりが強い。
- 2 黒褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、粘土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量。しまりが強い。
- 3 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・粘土小ブロック少量
- 5 黒色 ローム粒子・ローム中ブロック少量、ローム大ブロック・ローム小ブロック微量

遺物 土師器片15点、土製品2点(勾玉)が出土している。第496図1の土師器坏片は、貯蔵穴から、2の土師器鉢は、東部の床面から出土している。3・4は土製勾玉で3は南コーナーの壁溝内から、4は覆土中から出土している。

所見 本跡は、第1445A号住居跡の貼床の下から検出されたこと、北東壁と南東壁は第1445A号住居に掘り込まれていること、壁溝は第1445A号住居跡の北東壁際と南東壁際に巡っている壁溝より内側105~115cmの位置に巡っていること、また、支柱穴及び貯蔵穴も第1445A号のそれより北西側に位置していることから、第1445A号住居を拡張する以前の住居跡と考えられる。時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。



第496図 第1445B号住居跡出土遺物実測図

第1445B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第496図1	坏 土師器	B (3.8)	体部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。	体部外面横位のヘラ削り、内面放射状のヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 灰褐色 普通	P8774 20%
2	鉢 土師器	A [21.0] B (7.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り、内面横ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色 普通	P8775 10%

図版番号	器種	計測値				特徴	胎土・色調	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第496図3	土製勾玉	2.8	2.3	0.3	4.5	完形。頭部に穿孔。ナデ。	砂粒、にぶい褐色	DP8428 100% PL254
4	土製勾玉	1.9	0.6	0.2	0.8	完形。頭部に穿孔。ナデ。	砂粒、にぶい橙色	DP8429 100% PL254

② 奈良・平安時代

第504号住居跡 (第410図)

位置 調査8区の西部, M8i3区。平成8年度と平成11年度の調査区にまたがって位置しており, そのため, 調査も南東コーナー部は平成8年度, 北東コーナー部は平成11年度と, 調査も両年度にわたった。さらに, 中央部から西部にかけての大半が調査区域外に位置している。

重複関係 東部で第508号住居跡を掘り込み, 北東コーナー部が第1341号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 第1341号土坑に掘り込まれている北東コーナー部の壁は確認できなかった。さらに, 西部の大半が調査区域外に位置しているため全容は不明である。規模は, 南北軸が3.35m, 東西軸が2.55m以上である。

主軸方向 南北軸を主軸方向とみなして, N-2°-Wと推定した。

壁 壁高は6~18cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 南東コーナー部の壁際で確認された。規模は上幅25~50cm, 下幅4~19cm, 深さ7cmで, 断面形はU字形をしている。

床 確認できた部分はほぼ平坦で, 住居の中央部と推定される部分が特に踏み固められている。

ピット 1か所。P1は, 平成8年度の調査区で検出されている。規模と位置から支柱穴と考えられる。今回の調査では検出できなかった。

覆土 平成8年度の調査では7層に分層できた。各層ともほぼレンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。今回の調査では第5~7層は検出できなかった。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量, ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量

遺物 今回の調査で土師器片13点, 須恵器片1点が出土している。いずれも細片のため, 図示はできなかった。

所見 本跡は中央部から西部にかけての大半が調査区域外に位置しているため, 竈等については確認できなかった。本跡の南東コーナー部は平成8年度に調査が終了しており, その部分については、『茨城県教育財団文化財調査報告』第133集を参照されたい。時期は, 細片ではあるものの出土土器から8世紀中葉と考えられる。

第514号住居跡 (第497図)

位置 調査8区の中央部, N9e4区。平成8年度と平成10年度の調査区にまたがって位置しており, そのため, 調査も北部は平成8年度, 南部は平成10年度と, 両年度にわたった。

規模と平面形 長軸3.75m, 短軸3.15mの長方形である。

主軸方向 N-101°-E

壁 南東コーナー部から東壁にかけて攪乱のため壁の立ち上がりは確認できなかった。確認できた壁高は4cm~11cmで外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦であり, 全体的に踏み固められている。

竈 壁が遺存している部分では確認できなかったが, 出土土器からも竈を持つ時期であることから, 攪乱を受けている東壁に付設されていた可能性がある。

ピット 1か所。P1は南壁際やや東寄りに位置し, 長径73cm, 短径60cmの楕円形で, 深さ29cmである。性格は不明である。

覆土 平成8年度の調査では5層に分層できた。レンズ状の堆積状況から, 自然堆積と考えられる。今回の調

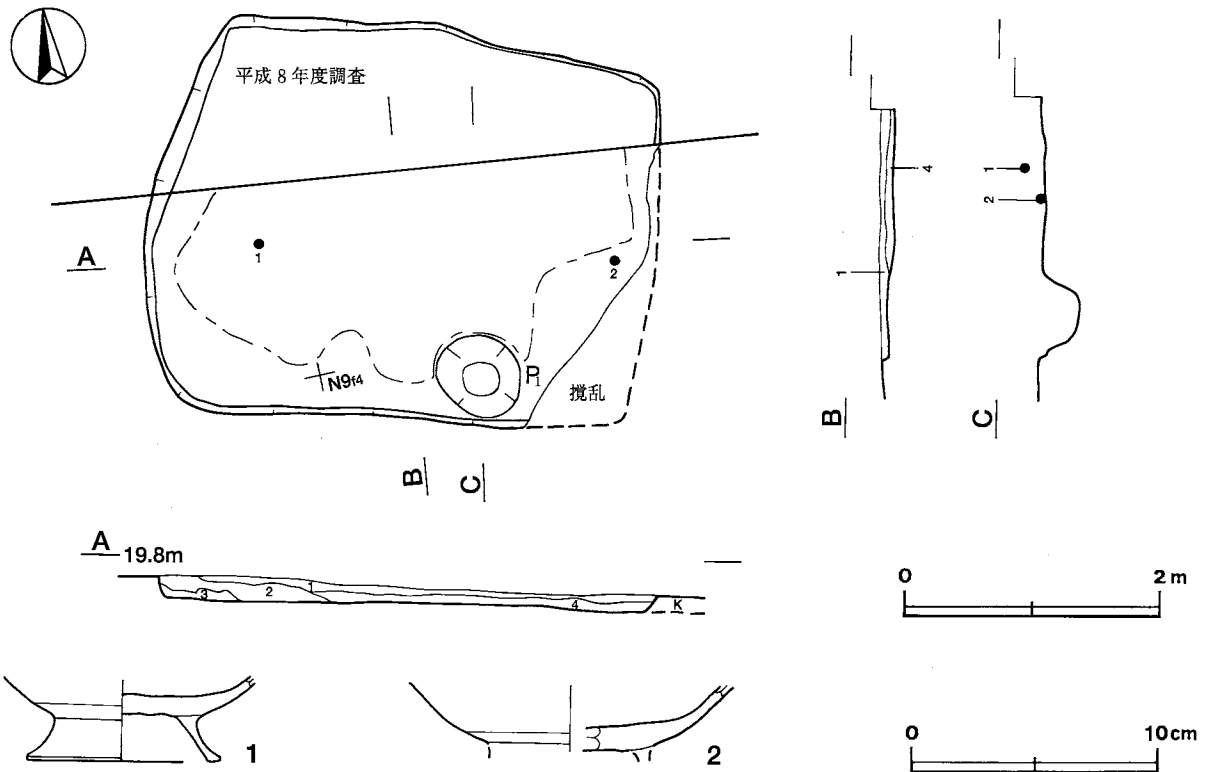
査では第5層は検出できなかった。

土層解説

- 1 黒色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量，ローム中ブロック・炭化物微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量，炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 平成10年度調査では，土師器片53点，混入したとみられる須恵器片7点が出土している。第497図1の土師器高台付坏は，西部の覆土上層から逆位で出土している。2の土師器高台付坏は，東部の床面から逆位で出土している。

所見 本跡の北部は平成8年度に調査が終了しており，その部分については『茨城県教育財団文化財調査報告』第133集を参照されたい。時期は，出土土器から10世紀後半と考えられる。



第497図 第514号住居跡・出土遺物実測図

第514号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第497図 1	高台付坏	B (3.3)	高台部から体部の破片。高台はやや高くハの字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け，ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色，普通	P 8201 50% P L 255
	土師器	D 7.8 E 1.9				
2	高台付坏	B (2.6)	底部から体部の破片。高台部欠損。体部下端は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け，ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒 子 にぶい褐色，普通	P 8202 15%

第520号住居跡 (第498・499図)

位置 調査8区の東部，N9b9区。平成8年度と平成11年度の調査区にまたがって位置しており，そのため，調査も南半分は平成8年度，竈を含む北半分は平成11年度と両年度にわたった。

規模と平面形 長軸3.25m，短軸3.16mの方形である。

主軸方向 N-4°-W

壁 壁高は43~49cmで、外傾して立ち上がる。

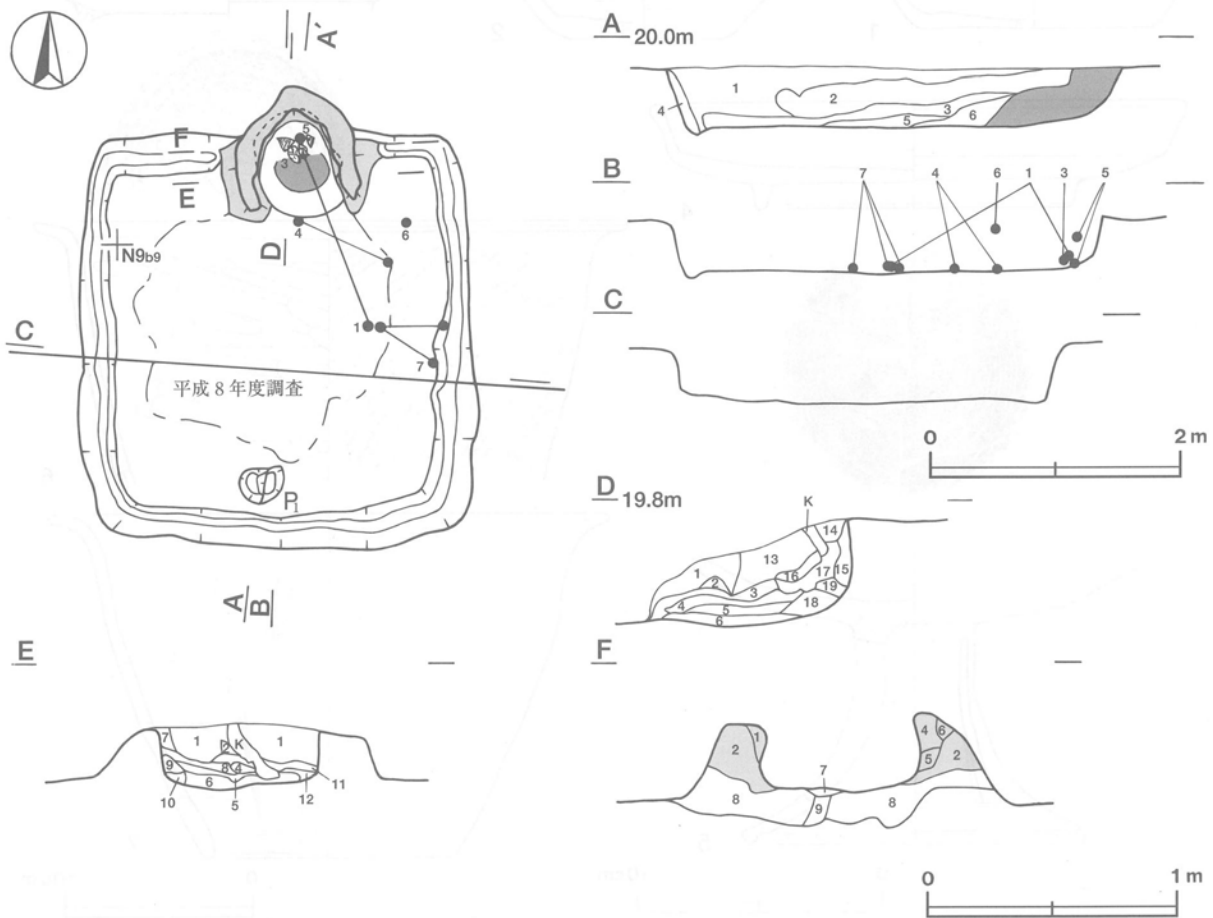
壁溝 全周している。規模は上幅16~32cm、下幅3~12cm、深さ6~11cmで、断面形はU字形をしている。

床 ほぼ平坦で、全面が踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外へ40cm掘り込んで、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで105cm、両袖幅120cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、第3・4・16・17層から粘土粒子・砂粒が検出されることから、これらの層が天井部の崩落土と考えられる。袖部は良好に遺存しており、内側は火熱を受けて赤変硬化している。火床部は、床面から約3cm掘りくぼめられて、皿状をしている。多量の焼土粒子・灰が含まれる第6層の下面が、火床面と考えられる。煙道は火床面から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化材・粘土粒子・砂粒少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 3 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗赤褐色 赤変硬化した粘土粒子・砂粒多量, 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土中ブロック・炭化粒子少量
- 5 暗赤褐色 炭化粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・灰粒子少量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子・灰粒子多量, 焼土小ブロック中量, 炭化粒子少量
- 7 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
- 8 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量, ローム粒子微量
- 9 暗褐色 粘土粒子・砂粒中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 10 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒・灰粒子少量
- 11 暗赤褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 12 暗赤褐色 灰粒子中量, ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 13 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 14 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 15 にぶい赤褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量



第498図 第520号住居跡実測図

- 16 暗 褐 色 粘土粒子多量, 砂粒中量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 17 暗 赤 褐 色 焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量, ローム中ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 18 暗 赤 褐 色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量, ローム粒子・炭化物・灰粒子少量
- 19 灰 褐 色 灰粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

ピット 1か所。P1は径20cmの円形で、深さ約14cmであり、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

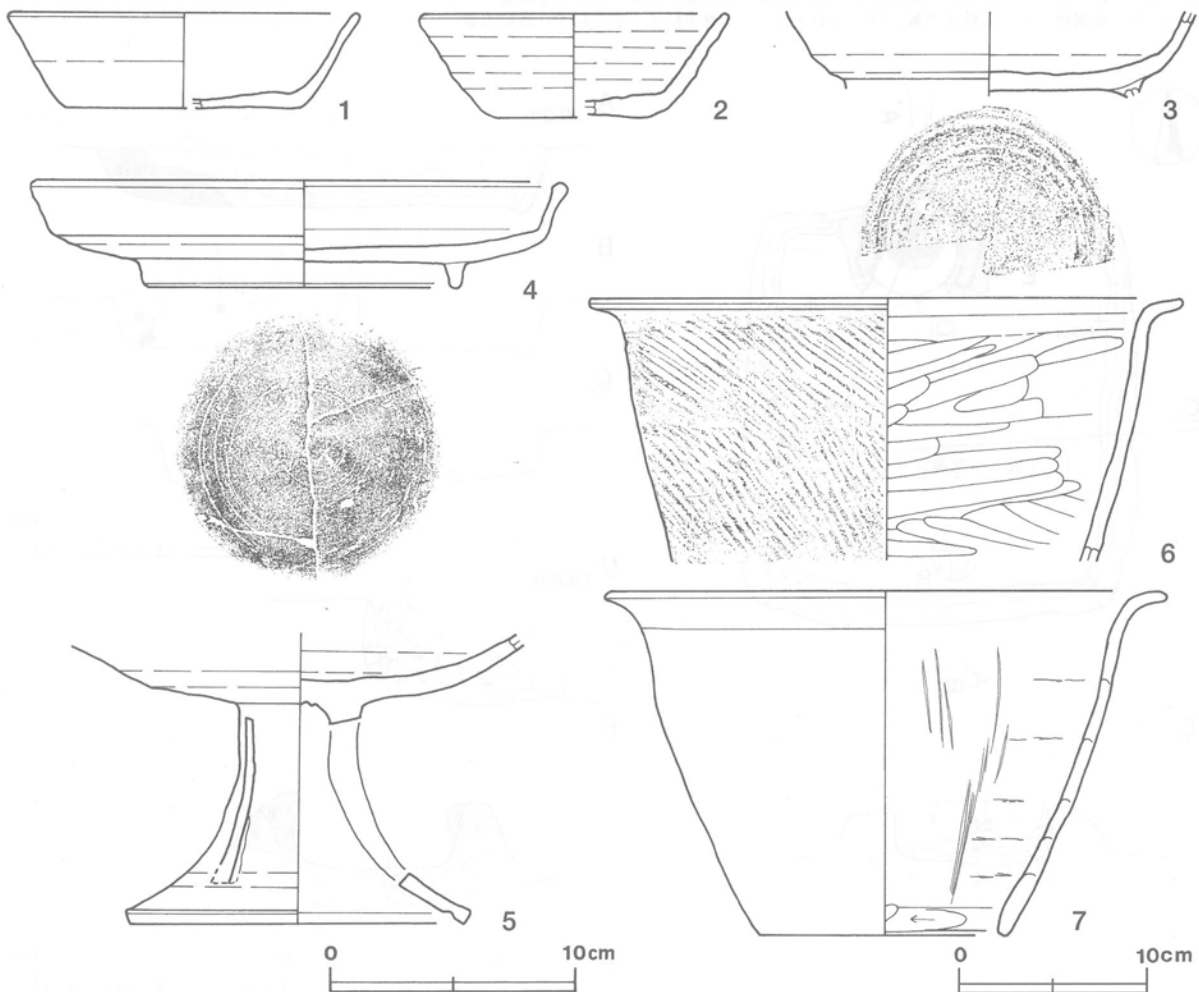
覆土 平成8年度の調査では、8層に分層できた。各層ともほぼレンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。今回の調査では、第4・7・8層については確認できなかった。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 5 暗褐色 ローム大ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 6 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 今回の調査では、土師器片159点、須恵器片62点が出土している。竈の火床部からは、第499図1の須恵器杯と5の須恵器高杯が逆位で、2の須恵器杯と3の須恵器高台付杯が破片で、出土している。4の須恵器盤は、竈前の覆土下層と北東コーナー部の床面から出土した破片が接合したものである。6の須恵器鉢は、北東コーナー部の覆土中層から出土している。7の土師器甑片は、東部の床面から出土している。

所見 本跡の南半分は平成8年度に調査が終了しており、その部分については、『茨城県教育財団文化財調査報告』第133集を参照されたい。時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第499図 第520号住居跡出土遺物実測図

第 520 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 499 図 1	坏 須恵器	A [13.8] B 3.8 C [9.4]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部不定方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい褐色、普通	P 8401 55% P L 255
2	坏 須恵器	A [12.4] B 4.2 C [7.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部 1 方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 黄灰色 普通	P 8402 10% P L 255
3	高台付坏 須恵器	B (3.4) E (0.8)	高台部から体部にかけての破片。平底。体部は下位に稜を有し、外傾して立ち上がる。高台は底部外周にあり、わずかに「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後、ナデ。	砂粒・雲母・石英 黄灰色 普通	P 8403 15% 高台部摩滅
4	盤 須恵器	A [21.1] B 4.3 D 12.4 E 1.0	口縁部一部欠損。平底。体部は外方に開き、屈曲して口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。高台はほぼ垂下する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後、ナデ。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 灰褐色 普通	P 8404 85% P L 255
5	高盤 須恵器	B (11.4) D [13.4]	脚部から体部にかけての破片。脚部はラッパ状に開き、裾部下端には 1 条の沈線が巡り、短く垂下する。3 方に長方形の透かし孔をもつ。体部は内彎気味に大きく開く。	体部、脚部内・外面ロクロナデ。透かし孔ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 黄灰色 普通	P 8406 30% P L 255
6	鉢 須恵器	A [31.2] B (14.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して直線的に立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面ロクロナデ。口縁部外面に叩き目が残る。体部外面斜位の平行叩き、内面横ナデ。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	P 8405 15% P L 255
7	甌 土師器	A [29.4] B 18.0 C [13.0]	体部下端から口縁部にかけての破片。無底式。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ、内面に輪積み痕を残すナデ。体部下端内面ヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 にぶい橙色 普通	P 8407 35% P L 255

第918号住居跡（第500・501図）

位置 調査 8 区の北東部、L10h3区。平成 9 年度と平成11年度の調査区にまたがって位置しており、そのため、調査も竈を含む北部の大半は平成 9 年度、南部は平成11年度と両年度にわたった。

重複関係 南西部で第919号住居跡を、南部で第118・127号掘立柱建物跡を掘り込み、北東部が第917号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸6.50m、短軸6.32mの方形である。

主軸方向 N-10° - W

壁 壁高は18~23cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。規模は上幅25~31cm、下幅10~16cm、深さ 4 cmで、断面形は緩やかなU字形をしている。

床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。

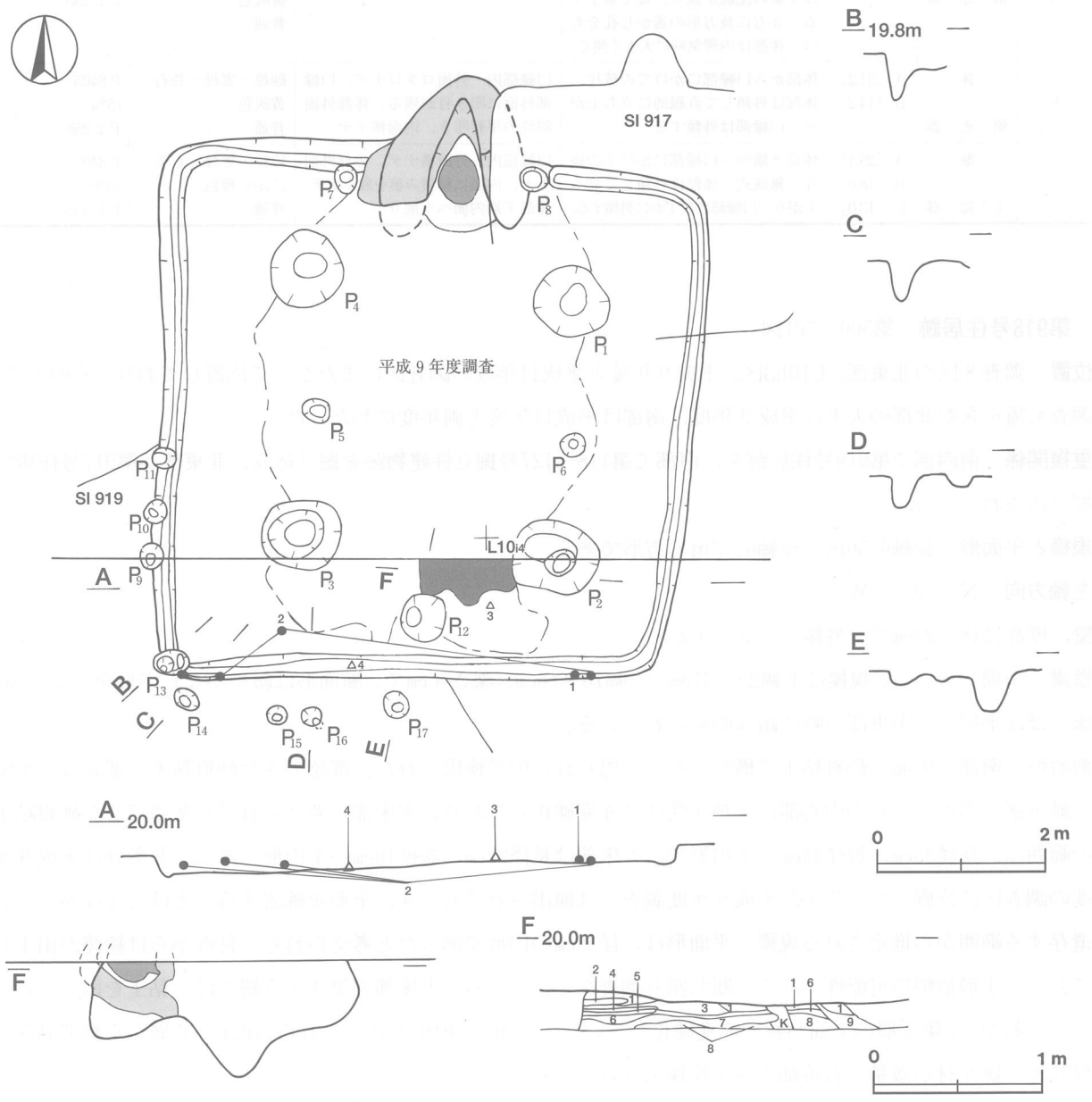
鍛冶炉 南部の床面に砂質粘土で構築されたと思われる炉が検出された。確認できた砂質粘土の部分は、炉壁の最下部と思われ、その中心部は火熱を受けて赤変硬化しており、火床部と考えられる。確認できた砂質粘土の範囲は、長径35cm、短径24cmの半円形で、火床部は長径22cm、短径10cmの半円形である。北半分は平成 9 年度の調査区に位置しているが、平成 9 年度調査では検出されておらず、全形を確認することはできなかった。遺存する範囲から推定される規模と平面形は、径35cmの円形であったと考えられる。付近からは鉄滓が出土しており、小鍛冶炉の可能性はある。断ち割り調査をしたところ、火床部の第 4・5 層では、粘土を貼っていることがわかり、第 5 層の上面が特に赤変硬化していることから、炉床と考えられる。第 4~6 層から鍛造剥片・粒状滓・炭化材が微量、石英細片が 1 片検出されている。

鍛冶炉土層解説

- | | | | |
|-------|---|-------|---|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子少量 | 6 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量, 炭化材・鍛造剥片・粒状滓微量 |
| 2 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量 | 7 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量 | 8 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 4 黒褐色 | 焼土粒子・粘土粒子中量, ローム粒子少量, 鍛造剥片・粒状滓微量, 石英細片1片, しまり有り | 9 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 5 黒褐色 | 焼土粒子・粘土粒子多量, ローム粒子少量, 鍛造剥片・粒状滓微量, しまり有り | | |

ピット 17か所 (P1~P17)。P1~P11は平成9年度の調査区に位置している。P12は径55cmの円形で、深さ50cmであり、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P13は南西コーナーの壁際、P14~P17は南西コーナー部の壁外12~35cmで検出されている。P13~P17の規模は、径24~40cmの円形で、深さ18~43cmである。平成9年度の調査区に位置するP9~P11を含めてP9~P17の性格は不明であるが、いずれも重複部分で検出されており、そのほとんどが住居内側にやや傾斜している。

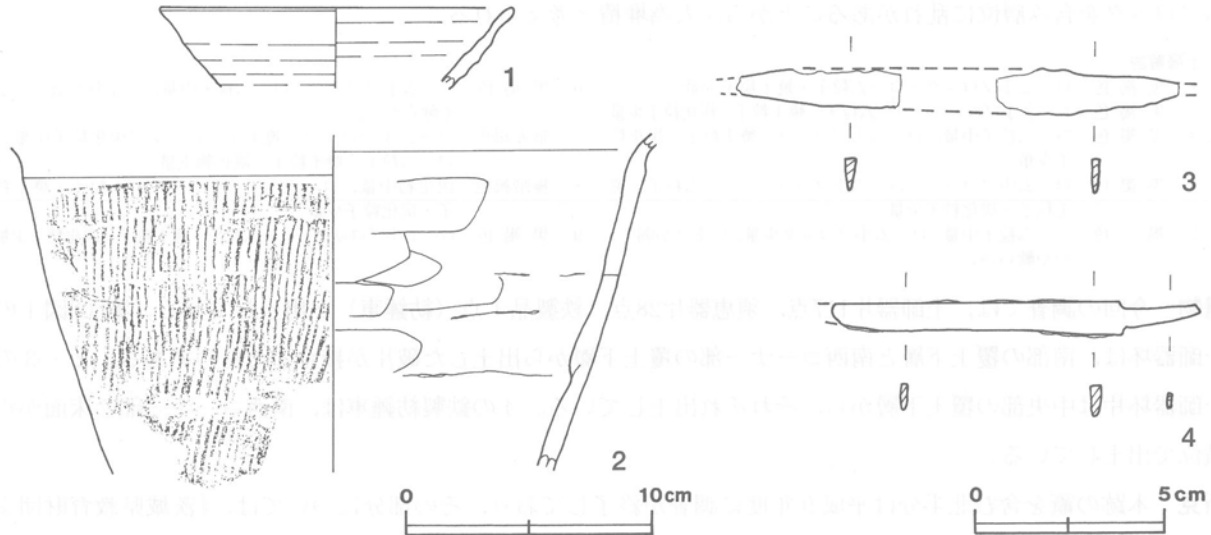
遺物 今回の調査では、土師器片188点、須恵器片108点、鉄器2点(刀子)、石英細片1点、鉄滓1点、粒状



第500図 第918号住居跡実測図

滓、鍛造剥片が出土している。第501図1の須恵器坏片は、南東コーナー部の壁溝底面から出土している。2の須恵器鉢は、南部の覆土下層で出土した破片が接合したものである。3の刀子は、南部の鍛冶炉付近の床面から、4の刀子は南部の壁溝底面から、それぞれ出土している。鉄滓は23gで、粒状滓は合計で0.11g、鍛造剥片は同じく合計で0.32gが出土している。鍛造剥片の計測値は長さ2.4~4.1mm、幅1.5~2.0mmである。

所見 本跡の竈を含む北部の大半は平成9年度に調査が終了しており、その部分については、『茨城県教育財団文化財調査報告』第166集を参照されたい。本跡の時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第501図 第918号住居跡出土遺物実測図

第918号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第501図 1	坏 須恵器	A [14.2] B (3.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・石英・ 褐灰色 普通	P 8408 10%
2	鉢 須恵器	B (13.4)	体部から頸部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、頸部に至る。	頸部内・外面横ナデ。体部外面縦位の平行叩き、内面横ナデ。体部内・外面に輪積み痕が残る。	砂粒・雲母・石英 灰色 普通	P 8409 10% P L 255

図版番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
第501図3	刀子	(9.1)	(6.5)	(1.3)	0.3	(2.6)	(7.4)	鉄	刃部一部欠損。棟区有り。	M8401 40% P L 280
4	刀子	(9.7)	(7.6)	(0.8)	(0.3)	(2.1)	(6.3)	鉄	刃部、基部一部欠損。両区有り。	M8464 80% P L 280

第931号住居跡 (第502図)

位置 調査8区の北部、M9c1区。平成9年度と平成11年度の調査区にまたがって位置しており、そのため、調査も竈を含む北半分は平成9年度、南半分は平成11年度と両年度にわたった。

重複関係 北部で第942号住居跡を、南西部で第1405号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸3.10m、短軸2.88mの方形である。

主軸方向 N-22° - E

壁 壁高は14~42cmで、外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

ピット 1か所。P1は、径26cmの円形で、深さ19cmであり、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P1土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 焼土小ブロック・炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

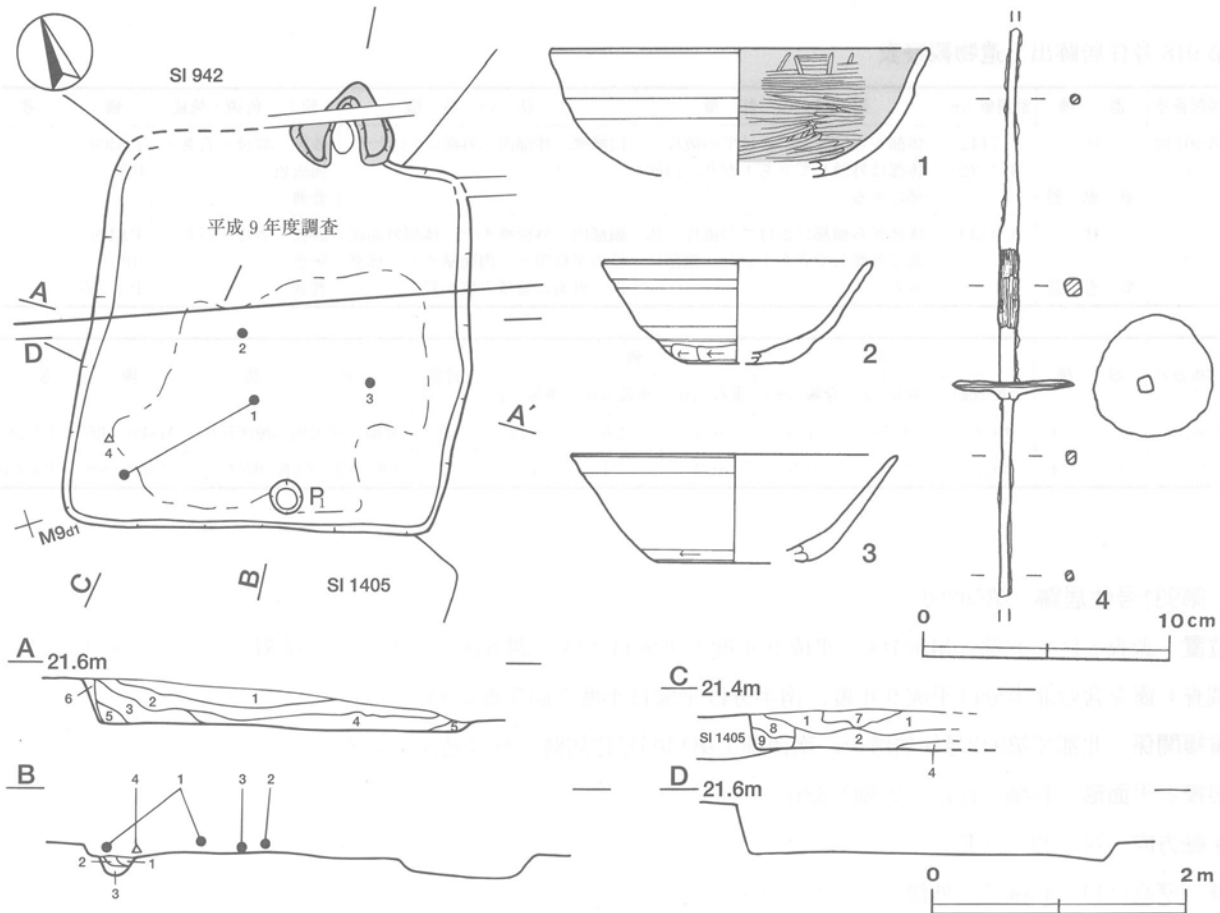
覆土 9層からなる。第1～6層はほぼレンズ状の堆積状況であり、自然堆積とみられる。第7～9層は、ロームブロックを含み層位に乱れがあることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，しまりが弱く，やや軟らかい。
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，しまりが弱く，やや軟らかい。
- 7 暗赤褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
- 8 極暗褐色 炭化物中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 9 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物 今回の調査では、土師器片117点、須恵器片28点、鉄製品1点（紡錘車）が出土している。第502図1の土師器坏は、南部の覆土下層と南西コーナー部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。2・3の土師器坏片は中央部の覆土下層から、それぞれ出土している。4の鉄製紡錘車は、南西コーナー部の床面から横位で出土している。

所見 本跡の竈を含む北半分は平成9年度に調査が終了しており、その部分については、『茨城県教育財団文化財調査報告』第166集を参照されたい。本跡の時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第502図 第931号住居跡・出土遺物実測図

第 931 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第 502 図 1	坏 土 師 器	A [15.0] B (4.9)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎気味に立ち上がり、口 縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部内面横位のヘラ磨き。内面黒 色処理。	砂粒・雲母・赤色粒 子 にぶい黄橙色、普通	P 8416 20% P L 255
2	坏 土 師 器	A [10.6] B 4.1 C [3.8]	底部、体部、口縁部一部欠損。平 底。体部下端に稜を有し、外傾し て立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部下端手持ちヘラ削り。底部 方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英・ 赤色粒子 橙色、普通	P 8417 15% P L 255
3	坏 土 師 器	A [12.8] B 4.3 C [6.4]	体部から口縁部にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がり、口縁 部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部下端手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・石英・ 赤色粒子 橙色、普通	P 8418 15%

図版番号	器 種	計 測 値					材質	特 徴	備 考
		全長 (cm)	軸断面径 (cm)	紡錘車径 (cm)	紡錘車厚さ (cm)	重量 (g)			
第502図 4	紡 錘	(22.5)	0.4~0.7	(4.8)	(0.2)	(35.9)	鉄	軸部に篠竹付着。	M8402 P L 282

第936号住居跡 (第503・504図)

位置 調査 8 区の北東部、M10d2区。平成 9 年度と平成11年度の調査区にまたがって位置しており、そのため、調査も竈を含む北部の大半は平成 9 年度、南部は平成11年度と両年度にわたった。

重複関係 南部が第690号土坑に、北東部壁が第41号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.10m、短軸3.94mの方形である。

主軸方向 N-25° - E

壁 壁高は25~35cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 竈東側の北東壁際では検出できなかったが、それ以外は巡っている。規模は上幅12~28cm、下幅 4~6 cm、深さ 6~10cmで、断面形はU字形をしている。

床 はほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。南東コーナー部の床面で、多量の焼土粒子・粘土粒子を含んだ焼土塊が検出された。規模は、長軸128cm、短軸55cmの不定形で、床面からの高まりは、5~10cmである。付近から鉄滓が出土していることから、小鍛冶をした痕跡の可能性はある。さらに、床面を精査したところ、竈前の床面で竈の袖材と思われる砂質粘土と火床部と思われる焼土小ブロック・焼土粒子が検出された。旧竈の痕跡と考えられる。さらに、北東壁前30~35cmで溝 a・溝 b が検出された。溝 a は西壁下から、溝 b は東壁下から、それぞれ旧竈まで延びている。規模は、溝 a・溝 b ともに上幅14~16cmで、深さ 5~8 cm であり、断面形はU字形をしている。住居拡張以前の壁溝と思われる。

焼土塊土層解説

- 1 黒 褐 色 焼土粒子中量, 炭化粒子少量
- 2 黒 褐 色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黒 褐 色 炭化粒子多量, 焼土粒子少量
- 4 黒 褐 色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 5 赤 褐 色 焼土小ブロック・焼土粒子多量
- 6 暗 褐 色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子少量
- 7 にぶい赤褐色 粘土粒子多量, 焼土粒子少量
- 8 暗 赤 褐 色 焼土粒子中量, 炭化粒子・粘土粒子少量

ピット 3 か所 (P 1~P 3)。P 1・P 2 は、径38・45cmの円形で、深さ18・15cmであり、いずれもコーナーに寄った位置で検出されている。P 1・P 2 の性格は規模と位置から、P 1 は拡張後の柱穴の可能性があり、P 2 は拡張以前からの柱穴の可能性はある。P 3 は、径28cmの円形で、深さ46cmであり、南西壁際の中央部に位置しており、南西壁側にやや傾斜していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P 1 土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量, ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量

P 2 土層解説

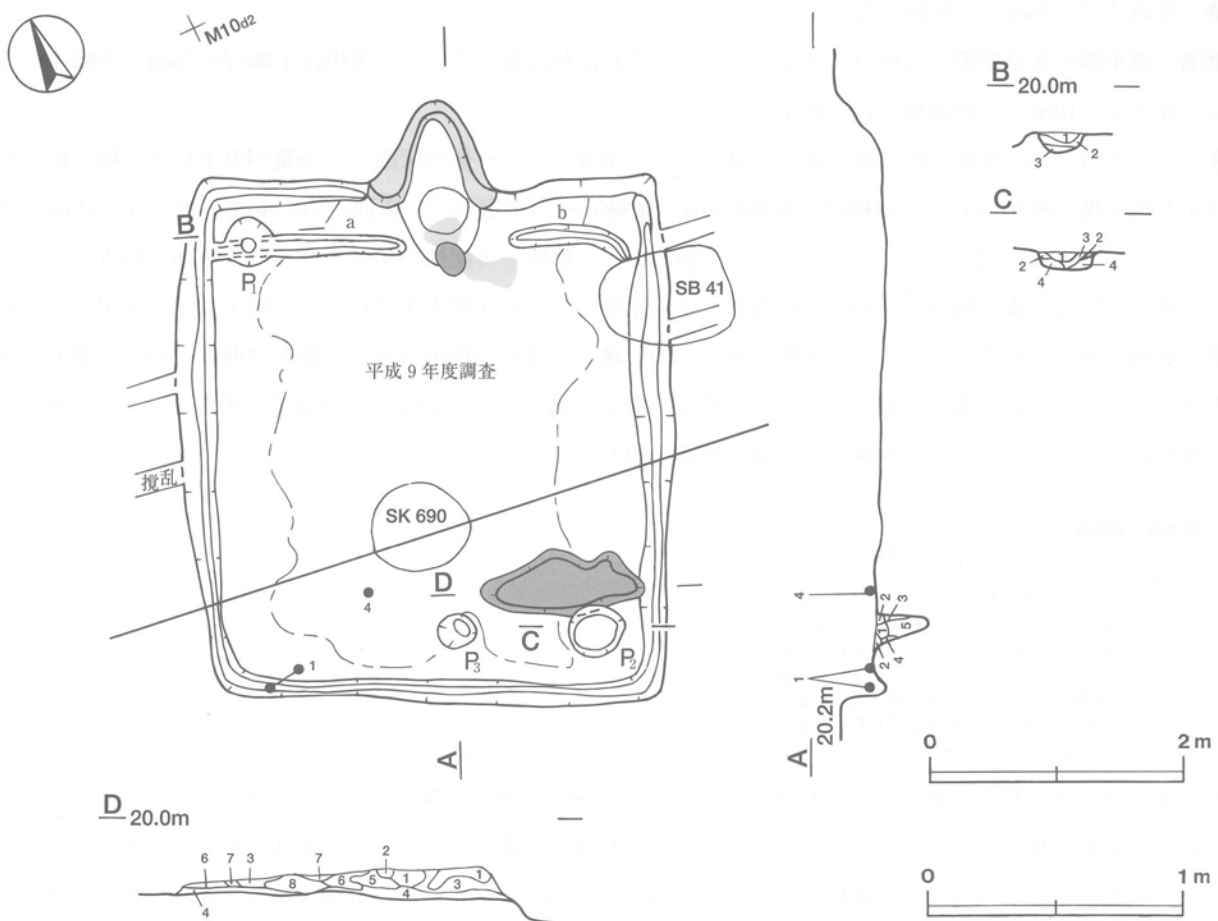
- 1 暗褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子中量, ローム中ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム大ブロック少量

P 3 土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量
- 4 灰褐色 ローム粒子中量, しまりが弱く, やや軟らかい。
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, しまりが弱く, やや軟らかい。

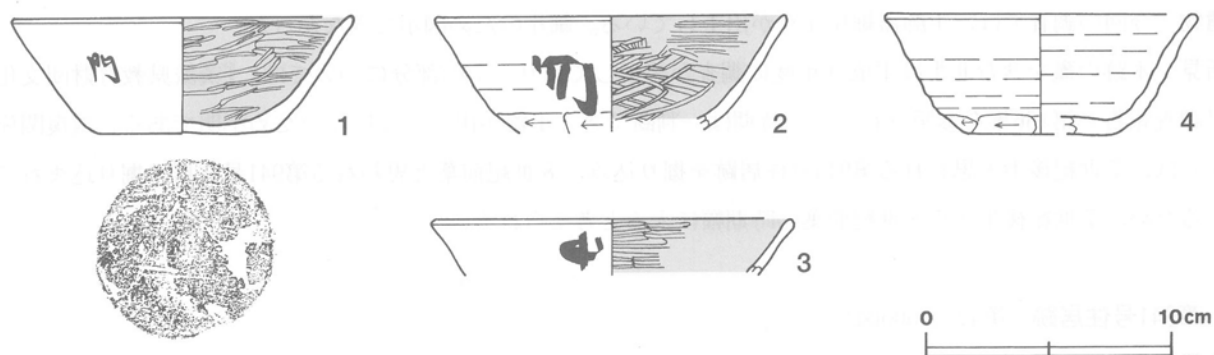
遺物 今回の調査では, 土師器片108点, 須恵器片33点, 緑釉陶器片3点, 鉄滓1点が出土している。第504図1の土師器坏は, 南西コーナー部の貼り床中から破片で出土しており, 体部外面に「門」と墨書されている。2の土師器坏片は覆土中から, 3の土師器坏片は南部の貼り床中から出土しており, いずれも体部外面に墨書されている。3は判読不能であるが, 2は「明」と判読できる。4の須恵器坏片は, 南西コーナー部の覆土下層から逆位で出土している。鉄滓は, 南東コーナー部の覆土下層から出土しており, 重量は31.8gである。緑釉陶器片は, 覆土上層から出土しているが, 細片であるため図示はできなかった。3片とも猿投窯黒笹90号窯式のものと思われる。この他に, 体部外面に墨書された内面黒色処理の土師器坏片1点, 覆土中から出土している。細片のため図示はできず, 判読は不能である。

所見 本跡の竈を含む北半は平成9年度に調査が終了しており, その部分については、『茨城県教育財団文化



第503図 第936号住居跡実測図

財調査報告』第166集を参照されたい。本跡は、旧竈の痕跡や北東壁前の床面から壁溝が検出されることから、北東壁側を拡張したことが考えられる。拡張後の時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第504図 第936号住居跡出土遺物実測図

第936号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第504図 1	坏 土師器	A [13.6] B 4.5 C 7.2	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ後、ヘラ磨き。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転切り離し痕を残す1方向のヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 橙色 普通	P 8425 60% P L 255 体部外面に墨書「門」
2	坏 土師器	A [13.8] B (4.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ後、内面ヘラ磨き。体部下端手持ちヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 明赤褐色 普通	P 8426 10% P L 255 体部外面に墨書「明」
3	坏 土師器	A [14.0] B (2.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ後、内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P 8427 5% P L 255 外面に墨書。判読不能。則天文字カ
4	坏 須恵器	A [12.4] B 4.7 C [6.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 灰黄褐色 普通	P 8428 15% P L 255

第939号住居跡 (第420図)

位置 調査8区の北西部，M8c7区。平成9年度と平成11年度の調査区にまたがって位置しており，そのため，調査も竈を含む北半は平成9年度，南半は平成11年度と両年度にわたった。

重複関係 第943・944号住居跡を掘り込み，第941号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 一辺3.48mの方形である。

主軸方向 N-5°-E

壁 壁高は19~26cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 北西コーナー部壁際から西壁際にかけて検出できた。規模は上幅12~18cm，下幅4~6cm，深さ5cmで，断面形はU字形をしている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏め固められている。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1・P2は，平成9年度の調査区に位置している。P3・P4は，径42・33cmの円形で，深さ28・16cmであり，規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は，径25cmの円形で，深さ26cmであり，南東壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P 3～P 5 土層解説

- 1 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，粘土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量，粘土粒子微量

遺物 今回の調査では，土師器細片 4 点が出土している。細片のため図示できなかった。

所見 本跡の竈を含む北半は平成 9 年度に調査が終了しており，その部分については、『茨城県教育財団文化財調査報告』第166集を参照されたい。時期は，判断できる土器が出土していないため不明である。重複関係からは，7 世紀後半と思われる第944号住居跡を掘り込み，8 世紀前葉と思われる第941号住居に掘り込まれているため，7 世紀後半から 8 世紀前葉の時期幅に入ると考えられる。

第941号住居跡（第422・505図）

位置 調査 8 区の北西部，M8c7区。平成 9 年度と平成11年度の調査区にまたがって位置しており，そのため，調査も竈を含む北半は平成 9 年度，南半は平成11年度と両年度にわたった。

重複関係 第939・943・944号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸3.30m，短軸3.20mの方形である。

主軸方向 N - 2° - E

壁 壁高は12～20cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 南壁際の一部を除き，巡っている。規模は上幅11～20cm，下幅 4～8 cm，深さ 5 cm で，断面形はU字形をしている。

床 確認できる南部の床面はほぼ平坦で，南部の壁際から中央部にかけてが踏み固められている。

ピット 3 か所（P 1～P 3）。P 1・P 2 は，径25・30cmの円形で，深さ19・30cmであり，規模と配置から支柱穴と考えられる。P 3 は，径40cmの円形で，深さ40cmであり，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 1・P 2 の覆土は，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子を少量含む暗褐色土である。

P 3 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック・粘土粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
- 3 褐色 ローム小ブロック中量，ローム粒子多量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・粘土粒子微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量

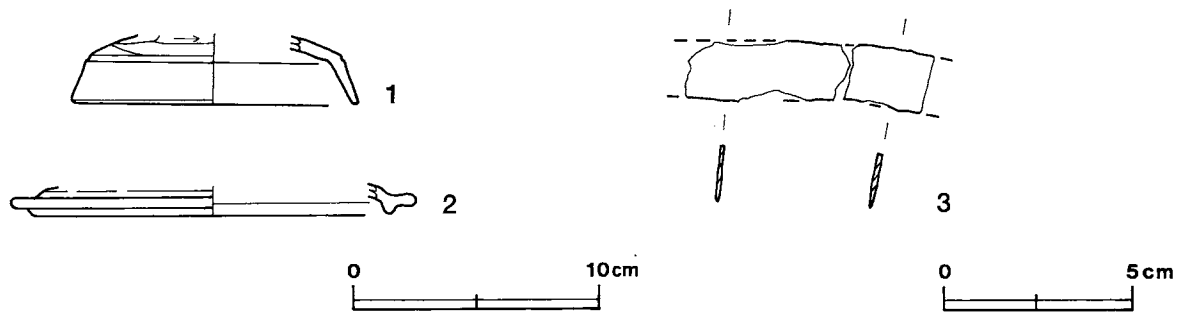
覆土 2 層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック多量，ローム粒子少量

遺物 今回の調査では，土師器片108点，須恵器片 4 点，鉄器 1 点（手鎌），鉄滓 1 点が出土している。第505 図 1 の須恵器坏蓋片は，南東コーナー部の床面から出土している。2 の須恵器蓋片は，西部の覆土下層から出土している。3 の手鎌は，中央部の覆土下層から出土している。鉄滓は，南東コーナー部の覆土下層から出土している。重量は20 g である。鍛冶炉等は検出されなかった。

所見 竈を含む北半は平成 9 年度に調査が終了しており，その部分については、『茨城県教育財団文化財調査報告』第166集を参照されたい。時期は，出土土器から 8 世紀前葉と考えられる。



第505図 第941号住居跡出土遺物実測図

第941号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第505図 1	環蓋 須恵器	A [11.2] B (2.7)	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は丸く、口縁部との境に沈線1条が巡る。口縁部は屈曲し、外方に垂下する。	天井部ヘラ削り。口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・長石 黄灰色 普通	P 8429 10%
2	蓋 須恵器	A [16.0] B (1.2)	外周部から口縁部にかけての破片。外周部はなだらかに下降し、内側にかえりをもつ。	外周部・口縁部ロクロナデ。ロクロ目弱い。	砂粒・雲母 にぶい黄褐色 普通	P 8430 5%

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第505図3	手鎌	(6.5)	(1.7)	0.1~0.15	(4.0)	鉄	刃部の破片。	M8403 80% P L283

第1201号住居跡 (第506図)

位置 調査8区の南東部, N10i3区。

重複関係 南部で第1202号住居跡を掘り込み、西部を第850・855号土坑に、中央部やや北側を第858号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 東部が調査区域外に位置しているため、全容は不明である。南北軸は3.68mで、東西軸は3.54mだけが確認できた。

主軸方向 N - 7° - E

壁 北部と南西コーナー部で立ち上がり確認できた。壁高は24cm~28cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。ピットは確認されなかった。

竈 北壁の中央部を壁外に58cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで84cmである。東袖部は攪乱を受けている。天井部は崩落しており、竈土層断面図中第4・6~8層が砂粒や粘土粒子を多く含むことから、崩落土と考えられる。第9層の下部が焼土ブロックでごつごつして赤変硬化しているため、火床部と考えられる。煙道は急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------|----------|---------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 暗赤褐色 | 砂粒中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック少量 | 8 にぶい赤褐色 | 砂粒多量, ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子微量 | 9 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 炭化粒子少量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂粒中量, ローム小ブロック少量 | | |
| 5 黒褐色 | ローム小ブロック・砂粒少量, 焼土粒子微量 | | |
| 6 暗赤褐色 | 砂粒中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | | |

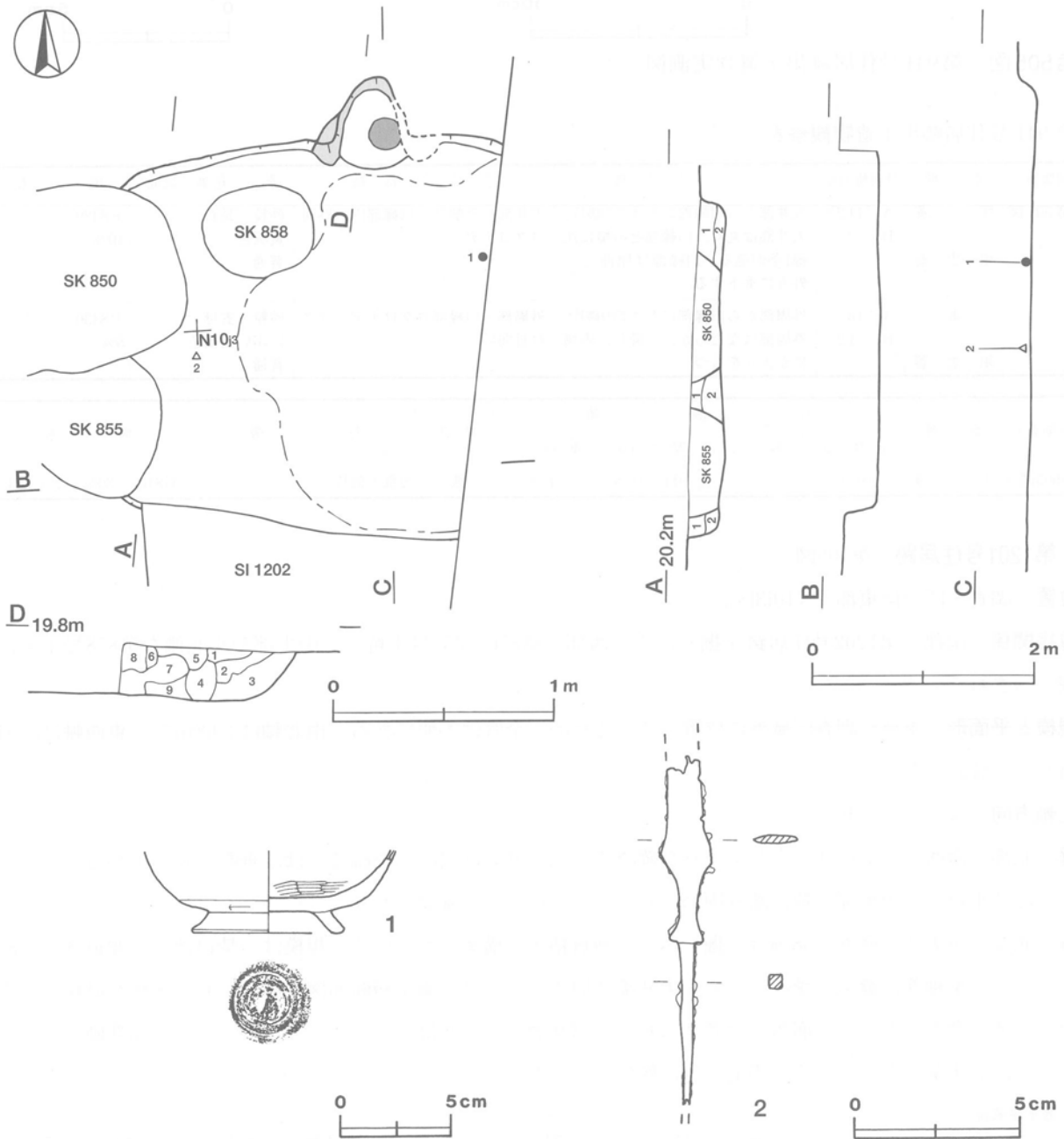
覆土 2層からなる。一部しか残存していないが、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量

遺物 土師器片69点, 須恵器片5点, 鉄器1点(鉄鏃), 陶器片2点が出土している。第509図1の土師器高台付坏は, 中央部から北東寄りの床面直上から出土している。2の鉄鏃は, 中央部やや西寄りの覆土下層から出土している。陶器片は攪乱により混入したものと考えられる。

所見 本跡の時期は, 出土土器から10世紀前半と考えられる。



第506図 第1201号住居跡・出土遺物実測図

第1201号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第506図 1	高台付坏 土師器	B (3.8) D 6.8 E 0.9	高台部から体部の破片。高台はハの字状に開く。体部下端は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け、ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい黄橙色、普通	P 8211 40% P L 255

図版番号	器種	計 測 値								材質	特 徴	備 考	
		全長 (cm)	釜身長 (cm)	釜身幅 (cm)	腕部長 (cm)	腕部幅 (cm)	茎長 (cm)	茎幅 (cm)	厚さ (cm)				重量 (g)
第506図2	鉢	(10.5)	(3.8)	1.5	1.8	0.4	(4.9)	0.4	0.2~0.4	(10.8)	鉄	柳葉状, 台形状の関。	M8201 70% PL282

第1203号住居跡 (第507図)

位置 調査8区の南東部, O10b1区。

重複関係 中央部から東部を第1204号住居に, 南部から南東コーナ一部を第1205号住居と第856号土坑に, 南西コーナ一部を第984号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.85m, 短軸3.70mの方形である。

主軸方向 N-3°-E

壁 壁高は54~58cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。規模は上幅10cm~28cm, 下幅4~10cm, 深さ約8cmで, 断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦であり, 中央部が特に踏み固められている。

竈 北壁中央部を壁外に30cmほど掘り込み, 砂質粘土で構築されている。規模は, 焚口部から煙道部まで156cm, 両袖部幅143cmである。袖部は砂粒を多量に含んだ粘土で芯を作り, それに暗褐色土を貼り付けて構築している。内面は赤変硬化している。火床部は床面を16cmほど掘りくぼめた後, 暗褐色土を貼り, 造られている。火床面は火熱を受け, 赤変硬化している。煙道は外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1 暗赤褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量	18 暗赤褐色	砂粒中量, ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量, ローム中ブロック・粘土粒子微量
2 暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量	19 暗赤褐色	粘土粒子・砂粒中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
3 にぶい赤褐色	焼土粒子・砂粒少量, ローム小ブロック微量	20 灰褐色	粘土粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量, 焼土小ブロック・炭化物微量
4 暗褐色	砂粒・粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量	21 暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量, ローム小ブロック・炭化物少量
5 暗赤褐色	焼土粒子・砂粒中量, ローム小ブロック・粘土粒子少量	22 暗褐色	砂粒中量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
6 暗赤褐色	焼土粒子・砂粒多量, 炭化物・炭化粒子微量	23 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
7 赤黒色	炭化粒子多量, 焼土粒子・炭化物・砂粒中量, ローム粒子・粘土大ブロック少量	24 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
8 赤褐色	焼土粒子・砂粒多量, ローム粒子・粘土粒子少量	25 赤褐色	焼土粒子多量, 焼土小ブロック・砂粒中量, 炭化粒子少量
9 赤褐色	焼土粒子多量, 砂粒中量, 粘土粒子少量, 炭化粒子微量	26 赤黒色	焼土粒子・炭化粒子多量, 粘土粒子・砂粒中量
10 暗褐色	粘土粒子・砂粒中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	27 暗褐色	砂粒多量, 焼土粒子・粘土粒子少量
11 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量, 炭化粒子微量	28 黒褐色	炭化粒子中量, ローム小ブロック少量
12 暗褐色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量	29 褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
13 暗褐色	粘土粒子・砂粒少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	30 暗赤褐色	焼土粒子・炭化物・砂粒中量, ローム小ブロック・炭化粒子少量
14 暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量	31 暗赤褐色	ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
15 暗褐色	ローム小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量	32 暗褐色	焼土粒子・炭化物・砂粒少量
16 暗褐色	砂粒中量, 炭化粒子・粘土粒子少量	33 暗赤褐色	焼土粒子多量, ローム小ブロック・炭化粒子中量
17 暗赤褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量	34 赤褐色	焼土粒子多量
		35 暗褐色	ローム小ブロック中量, ローム粒子少量

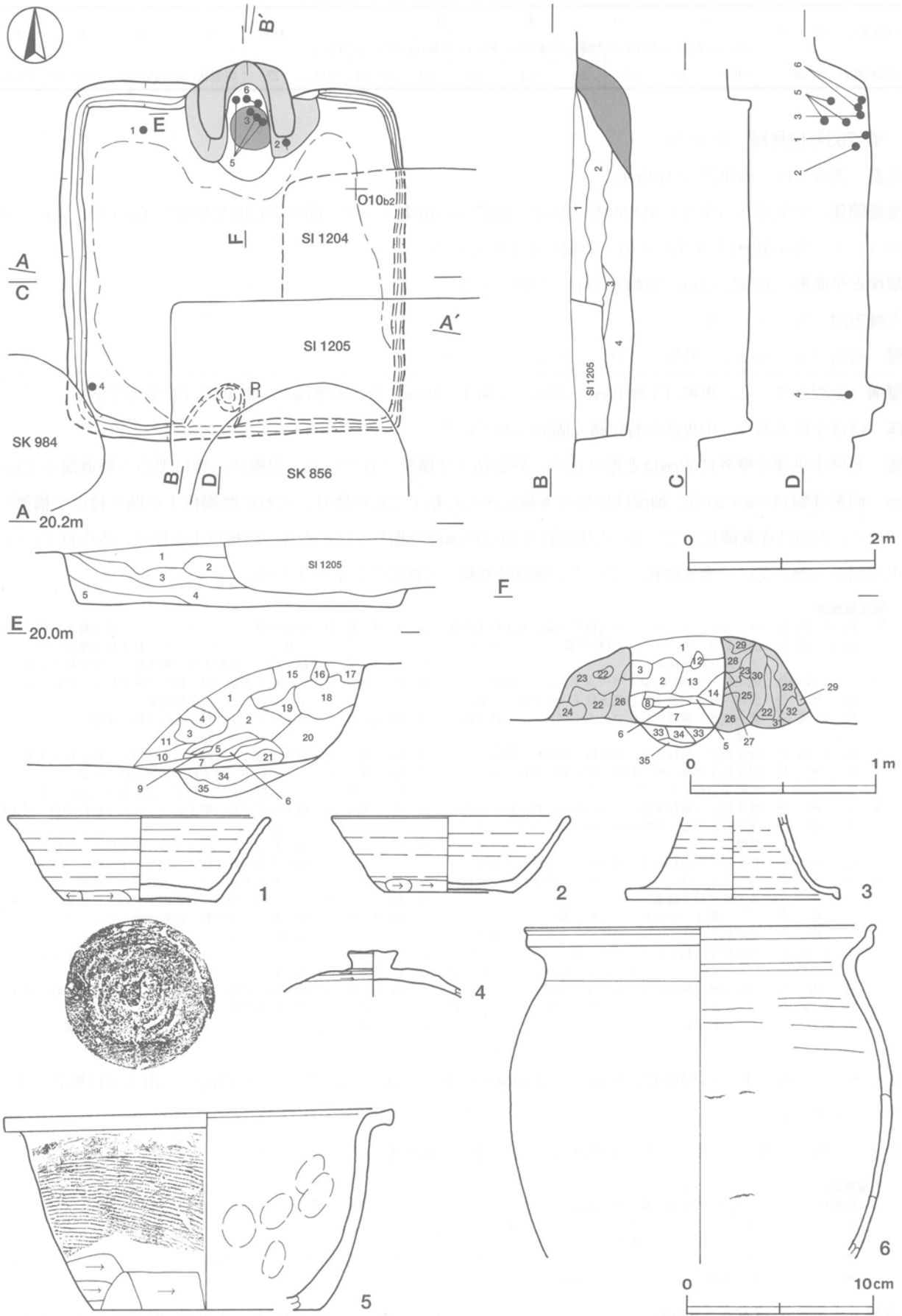
ピット 1か所。P1は南壁際に位置し, 径30cmの円形で, 深さ18cmである。位置的に, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5層からなる。レンズ状の堆積状況から, 自然堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
2 褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
3 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
4 褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・砂粒中ブロック微量
5 褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

遺物 土師器片232点, 須恵器片70点が出土している。第507図1の須恵器坏は, 竈西側の床面直上から斜位で出土している。2の須恵器坏は, 竈東袖部の覆土下層から斜位で出土している。3の須恵器高坏と5の須恵器



第507图 第1203号住居跡・出土遺物実測図

鉢は、竈内から出土した数片が接合したものである。4の須恵器蓋は、南西コーナー部寄りの覆土下層から出土している。6の土師器甕は、竈内から出土した数片が接合したものである。

所見 本跡の時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。

第1203号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第507図 1	坏 須恵器	A 14.0	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はやや外反する。端部は丸く収めている。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、2方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色、普通	P8215 70% P L 256
		B 4.6				
		C 8.2				
2	坏 須恵器	A 13.0	体部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰オリーブ色、普通	P8216 60% P L 256
		B 4.1				
		C 7.0				
3	高坏 須恵器	B (4.5)	脚部片。脚部はラッパ状に開き、裾部は屈曲して短く垂下する。	脚部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 灰色、普通	P8217 15% P L 256
		D 11.6				
4	蓋 須恵器	B (2.5)	天井部片。天井部に腰高のボタン状のつまみが付く。	天井頂部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け、ナデ。	砂粒・雲母・長石・灰色 普通	P8218 20%
		F 2.8				
		G 1.0				
5	鉢 須恵器	A 21.0	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部で屈曲する。口縁端部は上下に突出させている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面中位以上横位の平行叩き、下位横位のヘラ削り。内面ナデ、指頭による押さえ痕有り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色 普通	P8219 50% P L 255
		B 10.7				
		C [12.4]				
6	甕 土師器	A [19.0]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部でくびれ、口縁部は外反する。端部は外上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ、内面ヘラナデ。輪積み痕。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 橙色 普通	P8214 15% P L 255
		B (18.0)				

第1204号住居跡 (第508・509図)

位置 調査8区の南東部、O10b2区。

重複関係 北西コーナー部で第1203号住居跡を掘り込み、中央部から南西コーナー部を第1205号住居に、南東部を第857号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 南部が第1205号住居、第857号土坑と重複しているため、全容は不明である。東西軸は4.00mで、南北軸は3.50mだけが確認できた。北東コーナー部が直角であることから、方形または長方形と推定される。

主軸方向 N-90° - E

壁 壁高は40~46cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北壁下に巡っている。規模は上幅23~29cm、下幅7~10cm、深さ約4cmで、断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦であり、中央部付近から竈にかけてよく踏み固められている。

竈 東壁の中央部からやや南寄りを壁外に58cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで110cm、両袖部幅81cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図中第2~5層が砂粒や粘土粒子を含むことから、崩落土と考えられる。袖部内側は、火熱を受け赤変硬化している。火床部はほぼ平坦で、赤変硬化している。煙道はほぼ直立する。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|------|-----------------------------------|
| 1 褐色 | ローム小ブロック少量 | 5 褐色 | 粘土粒子多量、砂粒中量、焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | 粘土粒子中量、砂粒少量 | | |
| 3 灰褐色 | 炭化物・粘土小ブロック・粘土粒子・砂粒少量 | | |
| 4 赤褐色 | 焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量、炭化粒子微量 | | |

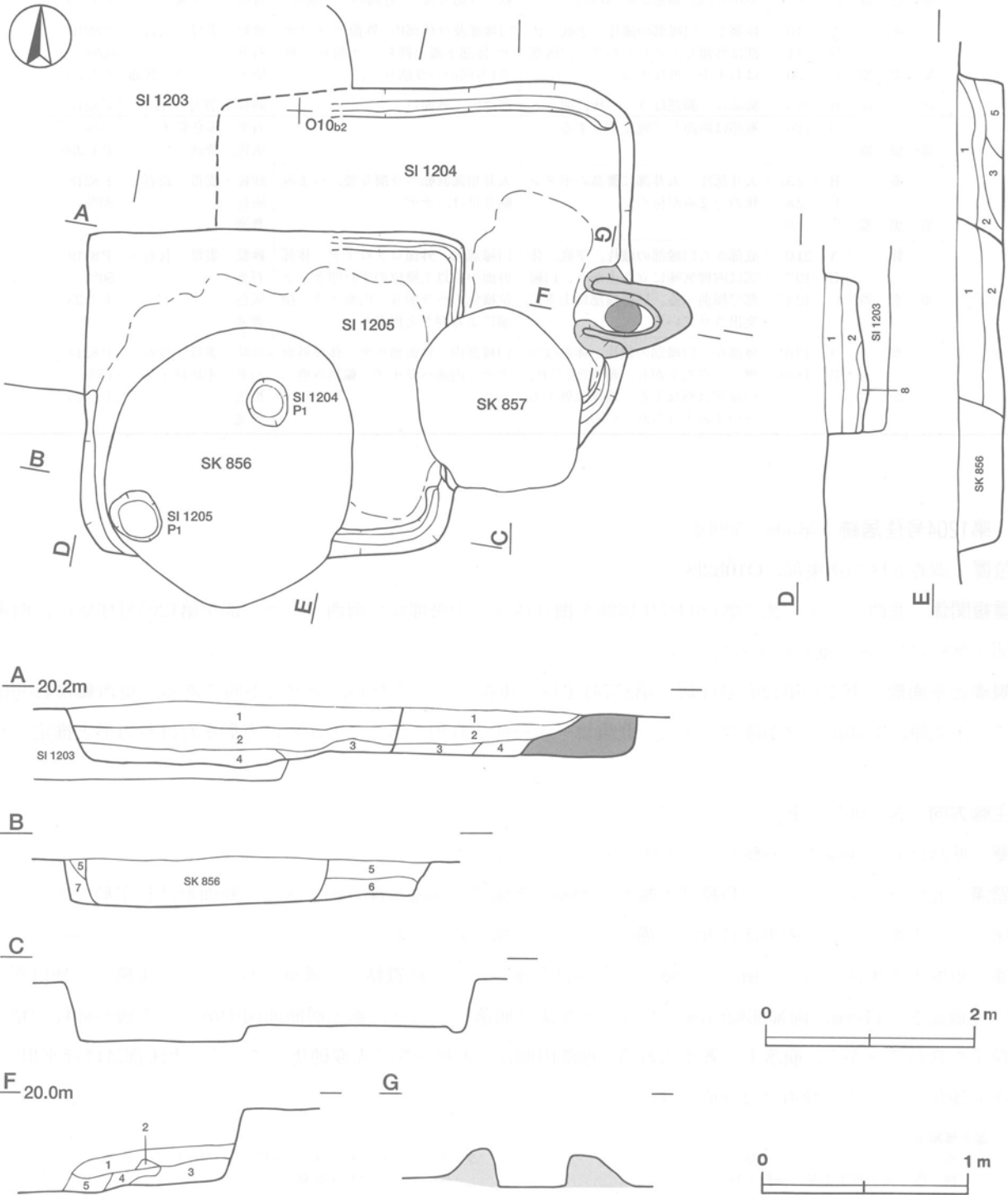
ピット 1か所、南西コーナー部で確認された。径45cmの円形で、深さ18cmである。性格は不明である。

覆土 5層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。4層は粘土粒子・砂粒を中量含んでいることから、竈材あるいは竈の覆土の流出物と考えられる。

土層解説

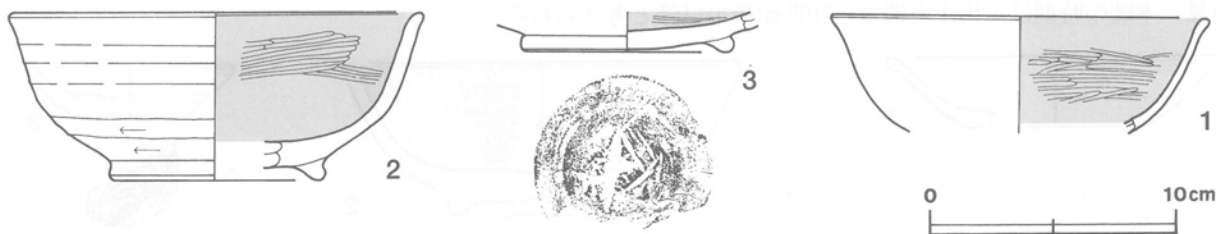
- | | |
|---------------------------------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 ローム小ブロック・焼土粒子少量 | 4 暗褐色 ローム小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量 | 5 暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量 | |

遺物 土師器片162点が出土している。第509図1の土師器坏，2・3の土師器高台付坏は覆土中から出土している。



第508図 第1204・1205号住居跡実測図

所見 本跡の時期は、出土土器から10世紀後半と考えられる。



第509図 第1204号住居跡出土遺物実測図

第1204号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第509図 1	坏 土師器	A 14.6 B (4.6)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部外面ロクロナデ。ロクロ目は弱い。内面横位のヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい黄橙色、普通	P 8220 30% P L 256
2	高台付坏 土師器	A 16.6 B 6.6 D [8.6] E 0.9	高台部から口縁部の破片。高台は短くハの字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部外面ロクロナデ。内面横位のヘラ磨き。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P 8221 50% P L 256
3	高台付坏 土師器	B (1.6) D 8.6 E 0.7	底部片。高台は短くハの字状に開く。	底部内面ロクロナデ後、横位のヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 橙色、普通	P 8222 15%

第1205号住居跡 (第508・510図)

位置 調査8区の南東部, O10b1区。

重複関係 第1203・1204号住居跡を掘り込み、中央部から南部を第856号土坑に、東部を第857号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.60m, 短軸3.05mの長方形である。

主軸方向 N-90° - E

壁 壁高は32~42cmで、ほぼ直立する。

壁溝 北東コーナー部と南東コーナー部で確認できた。規模は上幅12~24cm, 下幅5~9cmで、深さ約6cmで、断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦であり、中央部が特に踏み固められている。

竈 東壁の中央部やや南寄りに付設されている。第857号土坑により大部分が破壊され、砂質粘土で構築された南袖の一部だけが残存している。

ピット 1か所、南西コーナー部で確認された。径50cmの円形で、深さ20cmである。性格は不明である。

覆土 8層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。

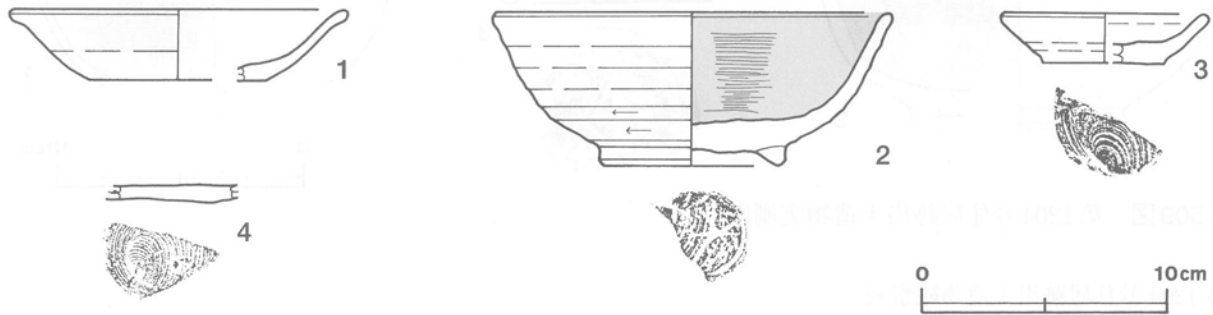
土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 にぶい褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック中量
- 7 暗褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック少量
- 8 褐色 ローム粒子中量

遺物 土師器片114点, 混入したとみられる須恵器片14点が出土している。第510図に示した土器はいずれも土師器である。1の坏と3の皿は覆土中から出土している。2の高台付坏は覆土中から出土して。底部外面に

篋記号が施されている。4の皿の底部片は、北東部の覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から10世紀後半以降と考えられる。



第510図 第1205号住居跡出土遺物実測図

第1205号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第510図 1	坏 土師器	A [13.2] B 2.9 C [7.0]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色、普通	P 8223 15%
2	高台付坏 土師器	A [15.6] B 6.1 D [7.0] E 0.8	高台部から口縁部の破片。高台は短くハの字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部はやや外反する。	口縁部及び体部外面ロクロナデ。内面横位のヘラ磨き。体部下端回転ヘラ削り。底部回転糸切り後、高台貼り付け、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英 浅黄橙色 普通	P 8296 30% 底部外面篋記号「×」P L 256
3	皿 土師器	A [8.6] B 2.0 C [4.8]	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・石英・ 橙色 普通	P 8224 30% P L 256
4	皿 土師器	C (4.5)	底部片。平底。	底部回転糸切り	砂粒・雲母 にぶい黄橙色、普通	T P 8201 20%

第1208号住居跡 (第511・512図)

位置 調査8区の南東部, O9a8区。

重複関係 中央部から南部を第1209号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 第1209号住居に掘り込まれているため、全容は不明である。東西軸は3.34mで、南北軸は1.00mだけが確認できた。北西コーナー部が直角であることから、方形または長方形と推定される。

主軸方向 N-22°-E

壁 壁高は16~22cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 第1209号住居に掘り込まれている部分を除き、巡っている。規模は上幅10~15cm、下幅5~10cm、深さ約6cmで、断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦である。第1209号住居に掘り込まれている部分を除き、全体的に踏み固められている。

竈 2か所。竈1は北壁の中央部から東寄りに、竈2は北東コーナー部に付設されている。竈1は壁外に51cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。両袖部が遺存していないので詳細は不明である。竈土層断面図中第8層は焼土粒子を多量に含むことから、火床部と考えられる。煙道はほぼ直立する。竈2は壁外に25cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで103cm、南袖の一部が第1209号住居に掘り込まれているが、両袖部幅は85cmと推定される。天井部は崩落しており、土層断面図中第1・6層は粘土粒子を中量含むことから、崩落土と考えられる。火床部は床面とほぼ同じ高さで、焼土が薄く堆積している。煙道はほぼ直立する。竈の遺存状況から判断すると、竈1を廃絶した後、竈2を付設したのと考えられる。

竈1土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・粘土小ブロック少量
- 3 にぶい黄褐色 粘土粒子中量, ローム小ブロック少量
- 4 にぶい黄褐色 粘土粒子多量, 砂粒少量
- 5 暗赤褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 にぶい赤褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 7 赤黒色 炭化粒子多量, 焼土粒子少量
- 8 赤褐色 焼土粒子多量, ローム粒子少量

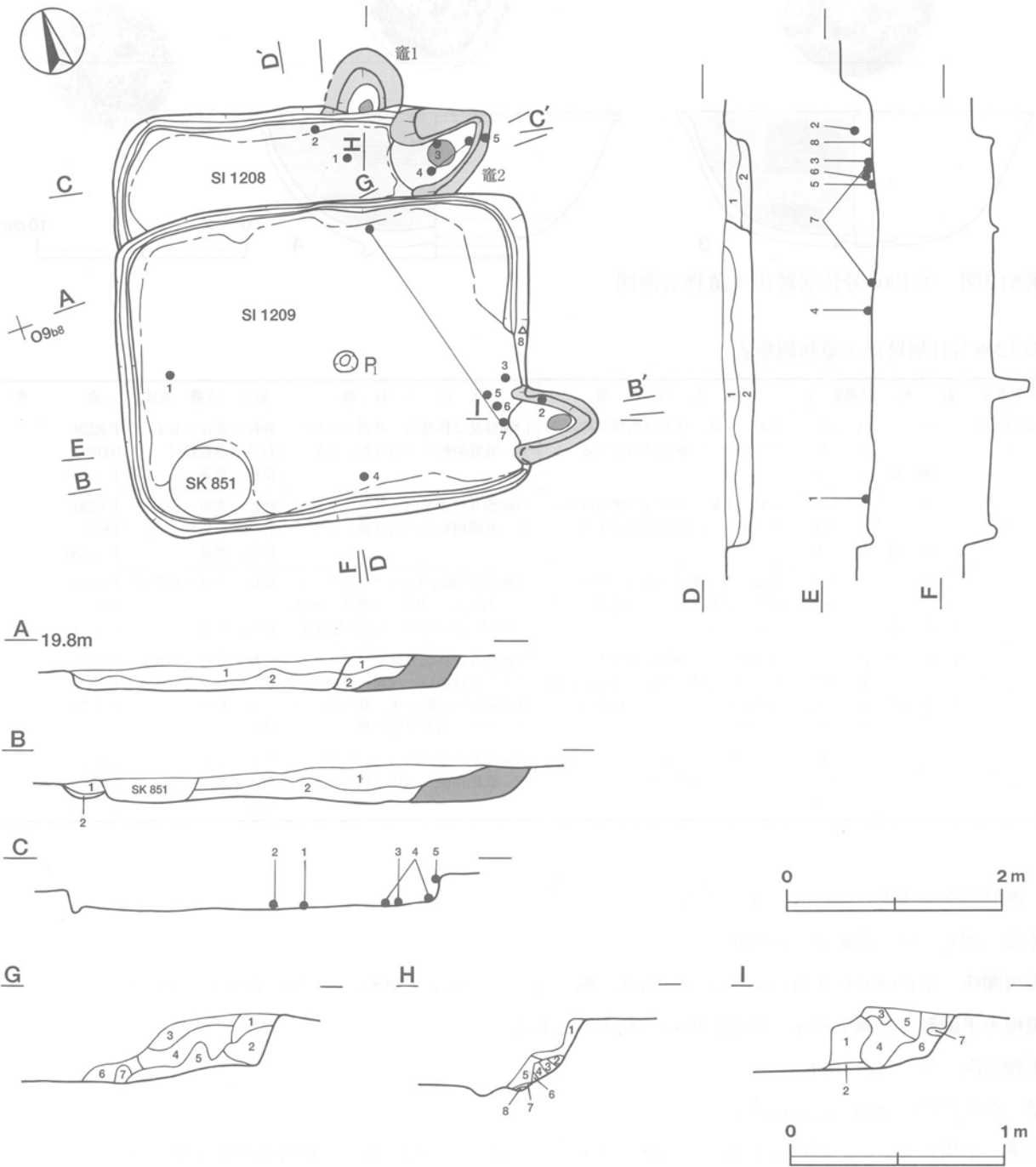
竈2土層解説

- 1 にぶい黄褐色 粘土粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子少量
- 2 黒褐色 粘土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子・粘土粒子微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック少量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量
- 6 にぶい黄褐色 粘土粒子中量, ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量

覆土 2層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

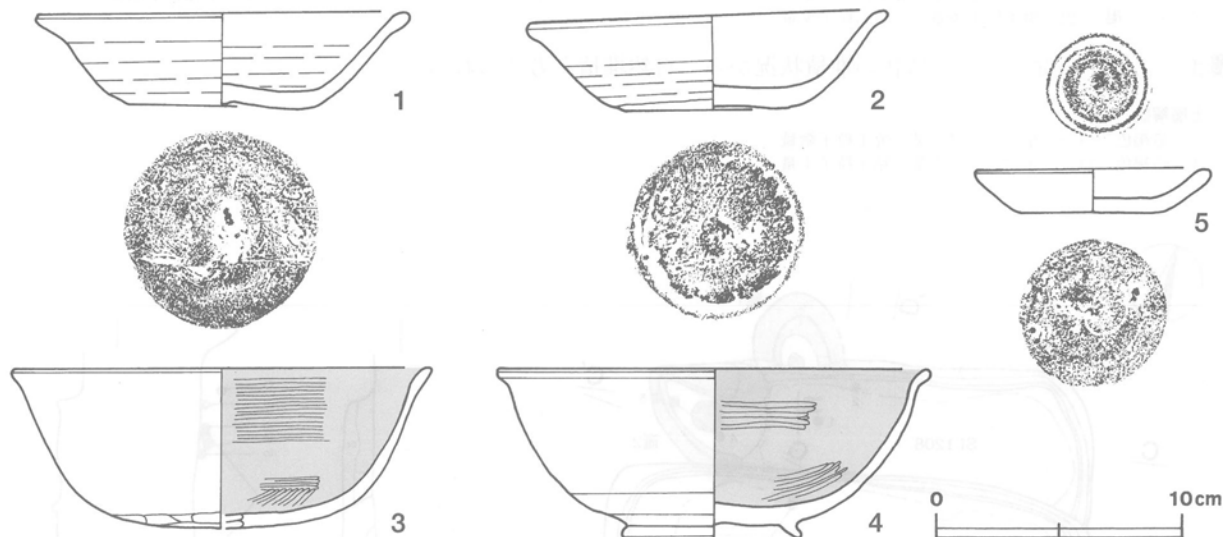
- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量, 粘土粒子少量



第511図 第1208・1209号住居跡実測図

遺物 土師器片164点、混入したとみられる須恵器片4点が出土している。第512図に示した土器はいずれも土師器である。1の坏は北壁際の床面から正位で、2の坏は北壁際の床面直上から正位で出土している。3の坏と4の高台付坏は竈内から出土している。5の皿は竈内から斜位で出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から10世紀後半以降と考えられる。



第512図 第1208号住居跡出土遺物実測図

第1208号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第512図 1	坏 土師器	A 15.0 B 3.9 C 7.8	完形。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 橙色、普通	P 8229 100% P L 256
2	坏 土師器	A 14.4 B 3.8 C 7.0	完形。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 橙色、普通	P 8230 100% P L 256
3	坏 土師器	A [16.4] B 6.3	底部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部外面ロクロナデ。ロクロ目は弱い。内面ヘラ磨き。体部下端手持ちヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色、普通	P 8231 30% P L 256
4	高台付坏 土師器	A [17.0] B 6.8 D [7.0] E 0.6	高台部から口縁部の破片。高台は短くハの字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部外面ロクロナデ。ロクロ目は弱い。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P 8232 40% P L 256
5	皿 土師器	A 9.2 B 1.7 C 5.8	完形。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、ナデ。	砂粒・雲母・長石・明赤褐色 普通	P 8233 100% P L 256

第1209号住居跡 (第511・513・514図)

位置 調査8区の南東部、O9b8区。

重複関係 第1208号住居跡の中央部から南部を掘り込み、南西部を第851号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.87m、短軸2.98mの長方形である。

主軸方向 N-110° - E

壁 壁高は15~28cmで、ほぼ直立する。

壁溝 全周している。規模は上幅8~21cm、下幅3~7cm、深さ約8cmで、断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦であり、中央部が特に踏み固められている。

竈 東壁の中央部から南寄りを壁外に65cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで94cm、両袖部幅73cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図中第1・6層が砂粒や粘土粒子を多く含むことから、崩落土と考えられる。第2層は焼土粒子を多量に含み、下部が赤変硬化していることから、火床部と考えられる。煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- 1 にぶい黄褐色 粘土粒子多量、砂粒中量、焼土小ブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 焼土粒子多量、砂粒中量、炭化粒子・粘土粒子少量
- 3 暗褐色 粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・焼土粒子微量
- 6 暗褐色 粘土粒子中量、焼土粒子微量
- 7 にぶい赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、炭化粒子微量

ピット 1か所、中央部で確認された。径20cmの円形で、深さ35cmである。規模と位置から主柱穴の可能性も考えられる。

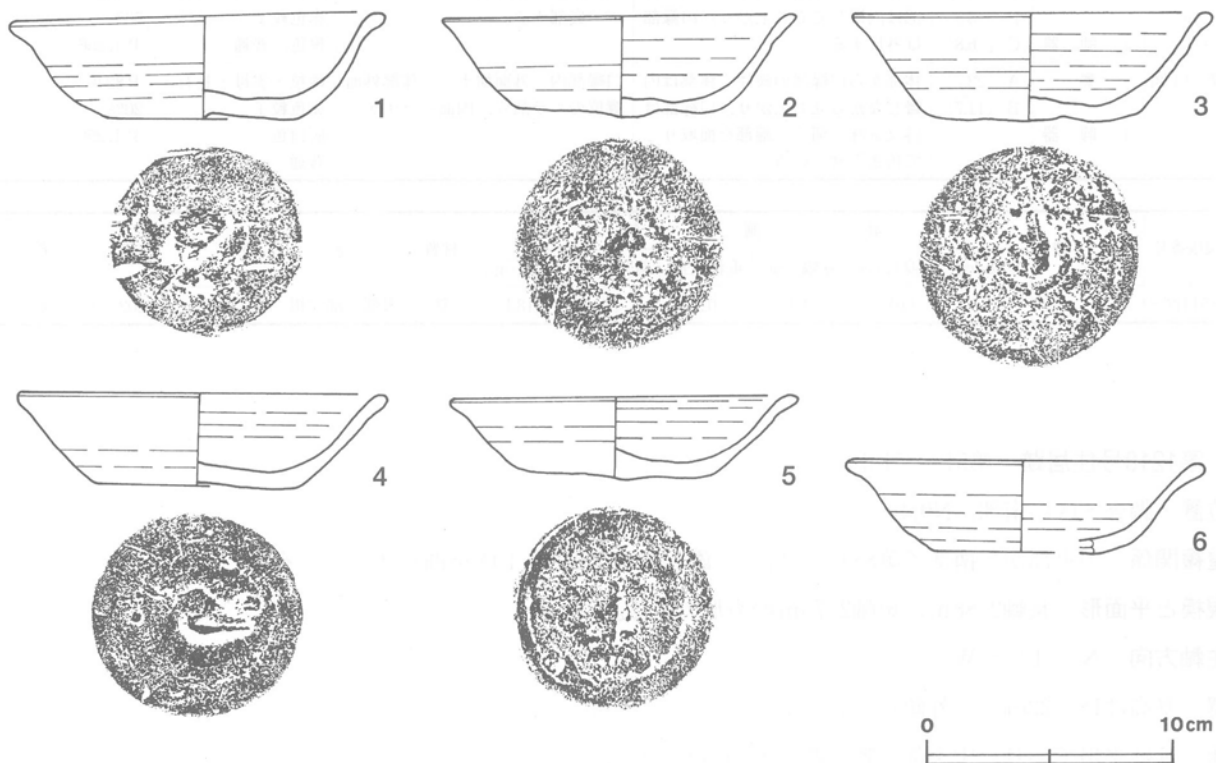
覆土 2層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

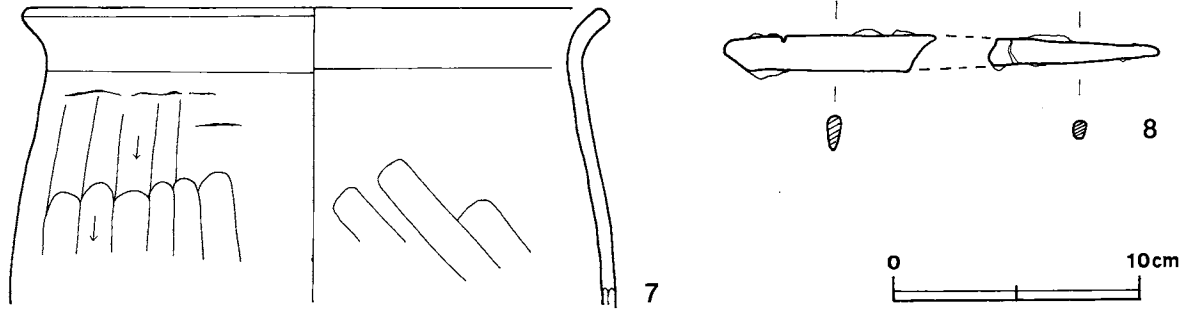
- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量

遺物 土師器片127点、鉄器1点（刀子）、混入したとみられる須恵器片19点が出土している。第513・514図に示した土器はいずれも土師器である。1～6は坏で、1は西壁際の床面から正位で、2は竈内から逆位で、3は竈北側の床面直上から正位で、4は南壁際の床面から正位で、5は竈西側の床面から逆位で、6は竈西側の床面直上から逆位で出土している。7の甕は、竈西側の床面と北壁際の床面から出土した破片が接合したものである。8の刀子は、東壁際の床面から出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から10紀後半以降と考えられる。



第513図 第1209号住居跡出土遺物実測図（1）



第514図 第1209号住居跡出土遺物実測図(2)

第1209号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第513図 1	坏 土師器	A 14.6	完形。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 明赤褐色、普通	P 8234 100% P L 256
		B 4.3				
		C 7.4				
2	坏 土師器	A 14.1	完形。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、ナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 橙色、普通	P 8235 100% P L 256
		B 4.2				
		C 8.4				
3	坏 土師器	A 14.0	完形。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色、普通	P 8236 100% P L 256
		B 4.4				
		C 8.8				
4	坏 土師器	A 14.4	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色、普通	P 8237 80% P L 256
		B 3.7				
		C 8.2				
5	坏 土師器	A [13.8]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色、普通	P 8238 50% P L 256
		B 3.3				
		C 7.6				
6	坏 土師器	A [13.8]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部ナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 橙色、普通	P 8239 50% P L 256
		B 3.5				
		C [6.8]				
第514図 7	甕 土師器	A [22.7] B (11.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は外反気味に開く。端部を面取りして角張らせている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り、内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 灰白色 普通	P 8240 20% P L 256

図版番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
第514図8	刀子	(15.1)	(10.6)	1.4	0.5	4.5	(18.1)	鉄	刃部一部欠損。棟区有り。	M8202 P L 280

第1210号住居跡(第515・516図)

位置 調査8区の南部、N9j4区。

重複関係 中央部から南部で第884号土坑を、竈北部で第885号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸2.88m、短軸2.75mの方形である。

主軸方向 N-4°-W

壁 壁高は18~22cmで、外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦であり、中央部が特に踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外に65cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで104cm、両袖部幅103cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図中第4・6・8層が砂粒を多量に含むこ

とから、崩落土と考えられる。火床部は床面とほぼ同じ高さで、焼土粒子が薄く堆積している。火床面から赤く焼けた土製支脚が立位の状態出土している。煙道はほぼ直立する。

竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土小ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック少量
- 4 にぶい黄褐色 砂粒多量, 焼土小ブロック少量
- 5 黒褐色 焼土小ブロック・砂粒少量
- 6 にぶい赤褐色 砂粒多量, 焼土小ブロック中量
- 7 黒褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
- 8 黄褐色 砂粒多量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 9 暗赤褐色 焼土小ブロック・砂粒少量

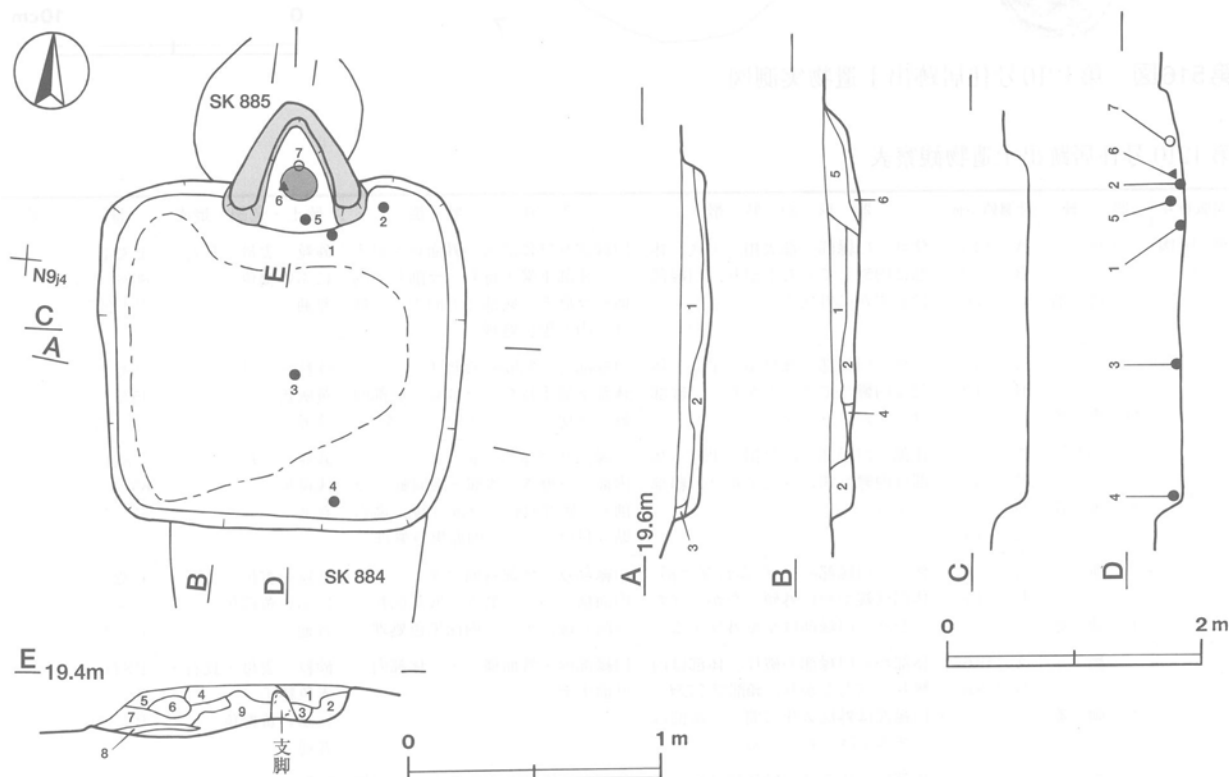
覆土 6層からなる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

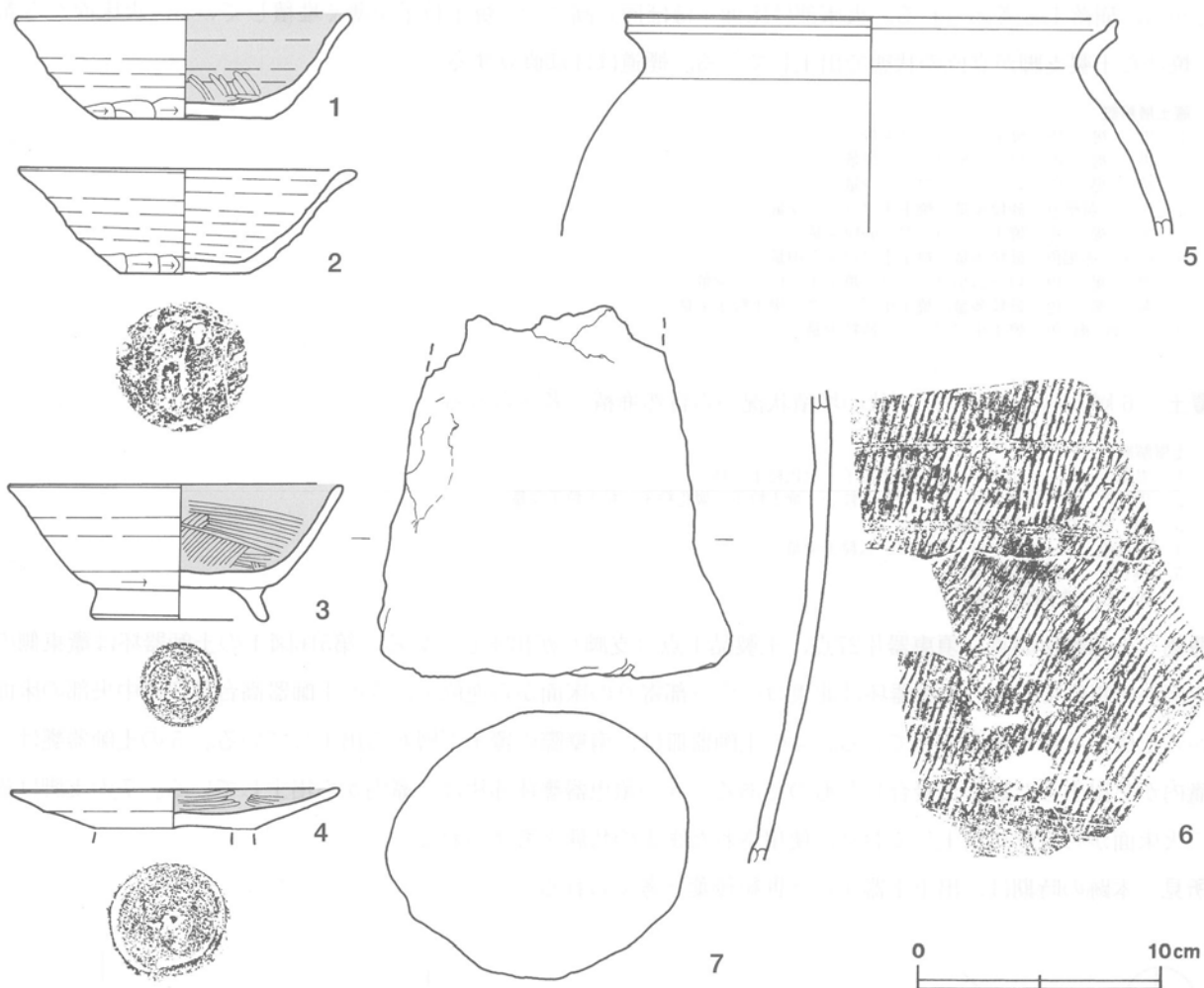
- 1 黒褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 黒色 ローム粒子微量
- 6 黒色 粘土粒子少量

遺物 土師器片33点, 須恵器片27点, 土製品1点(支脚)が出土している。第516図1の土師器坏は竈東側の床面から正位で, 2の須恵器坏は北東コーナー部寄りの床面から逆位で, 3の土師器高台付坏は中央部の床面から正位でそれぞれ出土している。4の土師器皿は, 南壁際の覆土下層から出土している。5の土師器甕は, 竈内から出土した数片が接合したものである。6の須恵器甕体部片は, 竈内から出土している。7の支脚は竈の火床面から立位で出土しており, 使用されたままの状態と考えられる。

所見 本跡の時期は, 出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第515図 第1210号住居跡実測図



第516図 第1210号住居跡出土遺物実測図

第1210号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第516図 1	坏 土師器	A 13.3 B 4.2 C 7.0	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。内面ヘラ磨き。底部2方向のヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 普通	P 8241 80% P L 257
2	坏 須恵器	A 13.4 B 4.2 C 5.2	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・ 黄灰色 普通	P 8245 45% P L 257
3	高台付坏 土師器	A 13.4 B 5.5 D 7.2 E 1.4	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり口縁部に至る。	口縁部及び体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母 浅橙色 普通	P 8242 65% P L 257
4	皿 土師器	A 13.0 B (1.7)	体部・口縁部の一部。高台部欠損。体部は緩やかに外傾しながら立ち上がり、口縁部はやや外反する。	口縁部及び体部外面ロクロナデ。内面横位のヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい黄橙色 普通	P 8243 70% P L 257
5	甕 土師器	A [19.6] B (8.6)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部でくびれ、口縁部は外反気味に開く。端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・長石・ 赤色粒子 にぶい黄褐色 普通	P 8244 5% P L 256
6	甕 須恵器	B (18.9)	体部片。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面縦位の平行叩き、下端横位のヘラ削り。体部外面に平行した2条のナデ痕有り。	砂粒・雲母・石英 灰色 普通	T P 8202 5% P L 257

図版番号	器種	計測値			特徴	胎土・色調	備考
		長さ (cm)	径 (cm)	重量 (g)			
第516図7	土製支脚	(15.0)	9.3~14.1	(1800.0)	裾部がハの字状に広がる。	砂粒・雲母・小礫、にぶい赤褐色。	D P 8201 P L 280

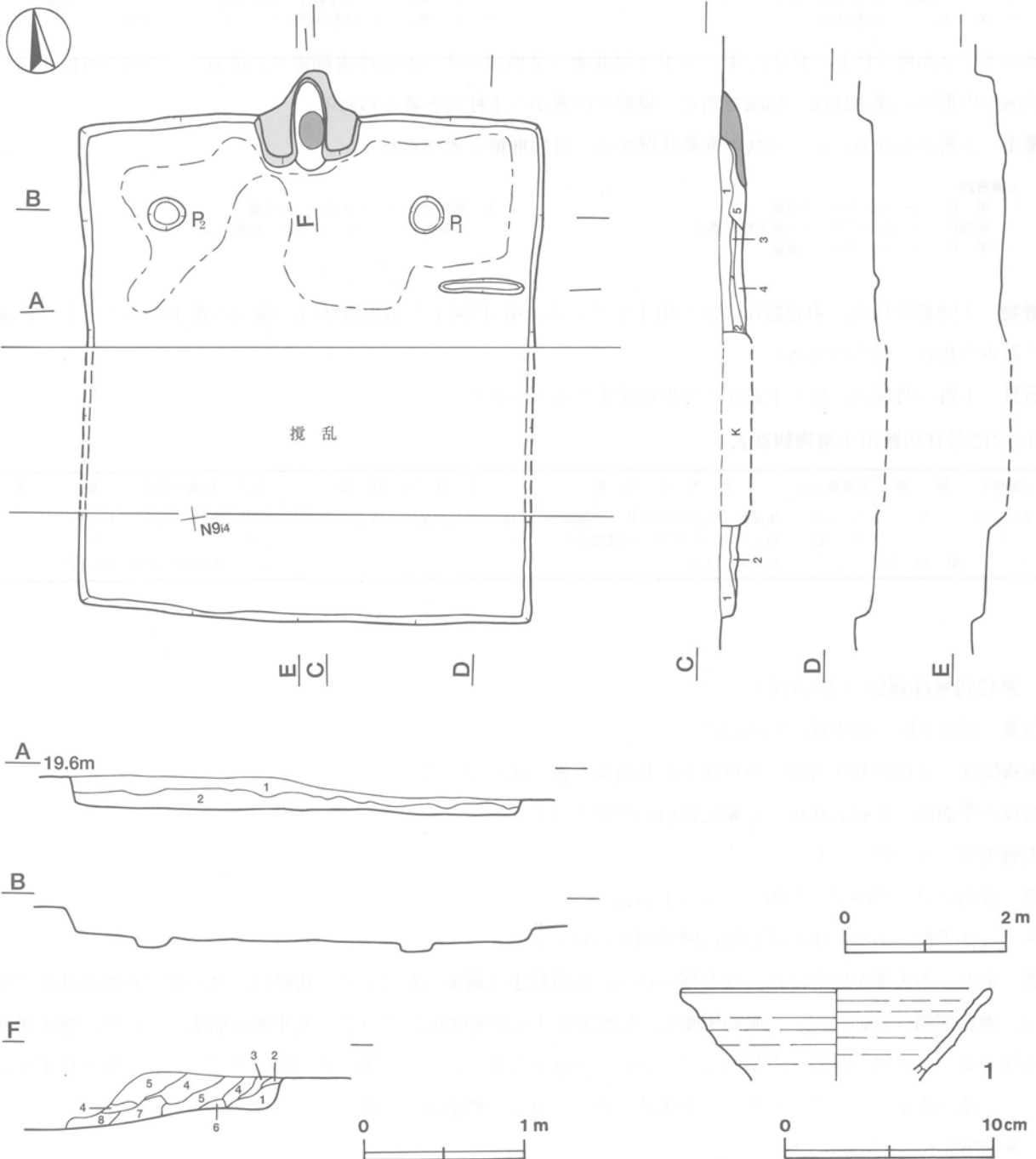
第1212号住居跡 (第517図)

位置 調査8区の中央部, N9h4区。

規模と平面形 長軸6.14m, 短軸5.54mの長方形である。

主軸方向 N-8°-E

壁 壁高は17~28cmで, 外傾して立ち上がる。



第517図 第1212号住居跡・出土遺物実測図

床 攪乱により確認できなかった中央部以外はほぼ平坦であり、中央部から竈にかけて踏み固められている。東壁下からP1の南側に延びる溝が確認された。上幅15~20cm、下幅7~9cm、深さ約6cmで、断面はU字形をしている。性格は不明である。

竈 北壁の中央部を壁外に55cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで120cm、両袖部幅124cmである。袖部は良好に遺存しており、内側は火熱を受けて赤変硬化している。天井部は崩落しており、竈土層断面図中第4層が砂粒を多量に含むことから、崩落土と考えられる。第6層は焼土粒子を中量含む、下面が赤変していることから、火床部と考えられる。煙道は急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

- | | |
|----------------------|----------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子・砂粒少量 | 5 黒褐色 砂粒少量 |
| 2 黒色 砂粒少量 | 6 暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子少量 |
| 3 にぶい赤褐色 砂粒多量、焼土粒子中量 | 7 黒褐色 焼土粒子・砂粒少量、ローム小ブロック微量 |
| 4 黄褐色 砂粒多量 | 8 黒褐色 砂粒中量、ローム小ブロック微量 |

ピット 2か所(P1・P2)。P1・P2は北東・北西コーナーから中央部寄りに位置し、それぞれ径40cm・45cmの円形で、深さ10cm・13cmである。規模と位置から支柱穴と考えられる。

覆土 5層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1 黒色 ローム小ブロック少量 | 4 暗褐色 ローム小ブロック少量 |
| 2 黒褐色 ローム小ブロック・焼土粒子微量 | 5 黒褐色 ローム小ブロック・砂粒少量 |
| 3 黒色 ローム小ブロック微量 | |

遺物 土師器片10点、須恵器片7点が出土している。第517図1の須恵器坏は、竈内の覆土中から出土した破片数点が接合したものである。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀後半と考えられる。

第1212号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第517図 1	坏 須恵器	A [144]	体部から口縁部の破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい黄橙色、普通	P 8256
		B (43)				P L 257

第1213号住居跡(第518図)

位置 調査8区の南東部、N10g2区。

重複関係 第1200号住居跡の中央部から北西部を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸3.86m、短軸3.74mの方形である。

主軸方向 N-91°-E

壁 壁高は21~25cmで、外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦であり、中央部が特に踏み固められている。

竈 東壁の中央部を壁外に15cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで98cm、両袖部幅101cmである。袖部内側は、火熱を受けて赤変硬化している。天井部は崩落しており、竈土層断面図中第1・3層が砂粒を中量含むことから、崩落土と考えられる。第6層は焼土小ブロック・焼土粒子を含み、下部が赤変していることから、火床部と考えられる。煙道はほぼ直立する。

竈土層解説

- | |
|-------------------------------|
| 1 褐色 砂粒中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量 |

- 3 暗褐色 砂粒中量, ローム粒子・焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 4 にぶい赤褐色 ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子・砂粒少量
- 5 暗赤褐色 ローム小ブロック・焼土粒子少量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 7 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量

ピット 2か所 (P1・P2)。P1は北壁からやや中央部寄りに位置し、長径33cm、短径29cmの楕円形で、深さ23cmである。P2は南壁からやや中央部寄りに位置し、長径41cm、短径35cmの楕円形で、深さ22cmである。P1・P2は、規模と位置から支柱穴と考えられる。

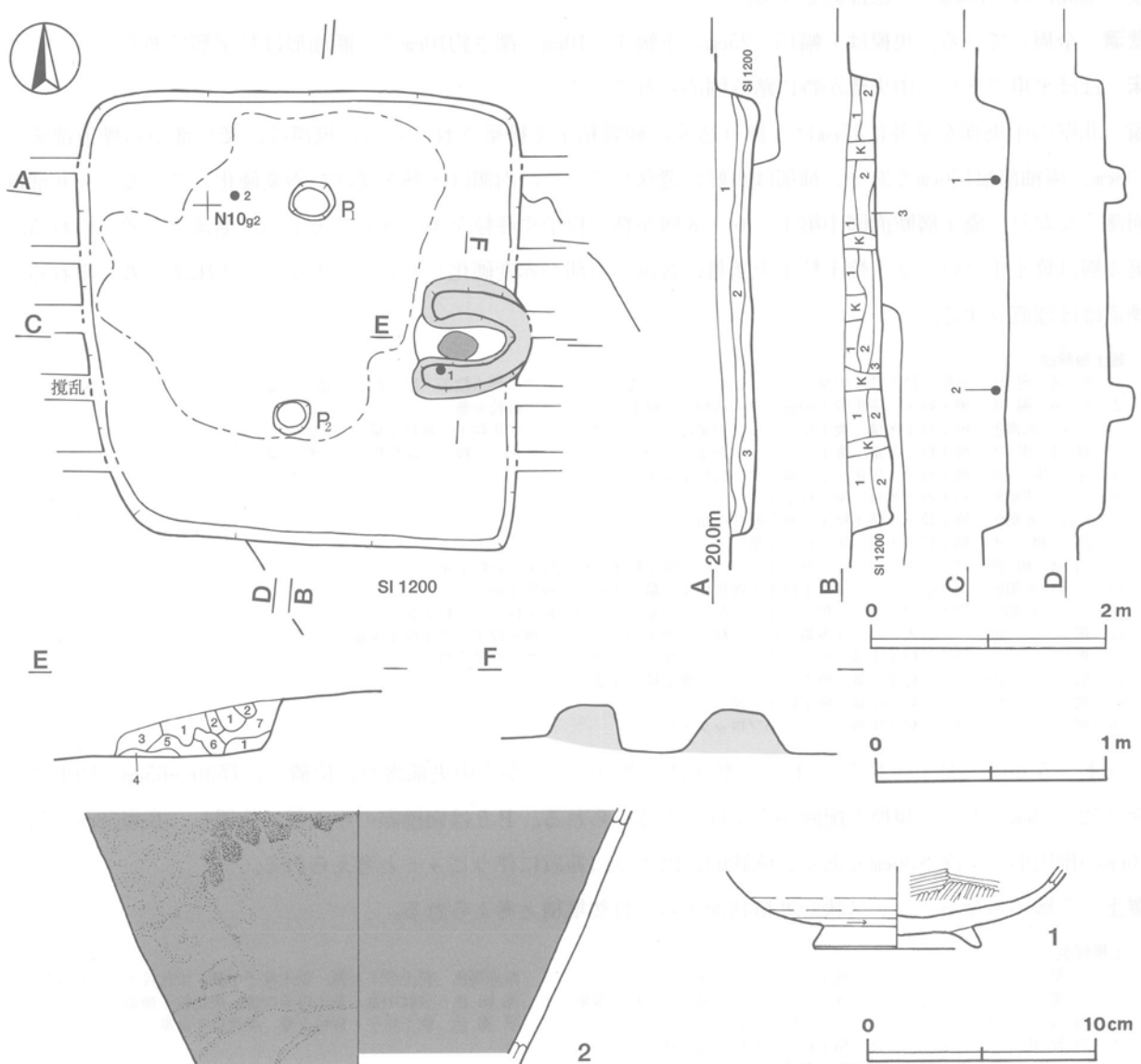
覆土 3層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量

遺物 土師器片134点, 須恵器片14点, 灰釉陶器1点が出土している。第518図1の土師器高台付坏は、竈内から逆位の状態で出土している。2の灰釉陶器鉢体部片は、北西コーナー部やや中央部寄りの覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から10世紀前半と考えられる。



第518図 第1213号住居跡・出土遺物実測図

第 1213 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 518 図 1	高台付 坏 土 師 器	B (3.5) D 7.0 E 1.0	高台部から体部の破片。高台は短くハの字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け、ナデ。	砂粒・雲母・細礫 橙色 普通	P 8257 30% P L 257
2	鉢 灰釉陶器	B (11.0)	体部片。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ後、釉刷毛塗り。	砂粒、胎土：灰色 灰釉：オリープ灰色 普通	P 8258 15% P L 256

第1214号住居跡 (第519・520図)

位置 調査 8 区の南西部, N8h3区。

重複関係 南西コーナー部を第1220号住居に掘り込まれている。また、第74・100・101号掘立柱建物にも掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.35m, 短軸5.25mの方形である。

主軸方向 N - 1° - E

壁 壁高は17~50cmで、ほぼ直立する。

壁溝 全周している。規模は上幅15~25cm, 下幅 4~10cm, 深さ約10cmで、断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦であり、中央部が特に踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外に47cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで138cm, 両袖部幅136cmである。袖部は良好に遺存しており、内側は火熱を受けて赤変硬化している。天井部は崩落しており、竈土層断面図中第1・6・8層が粘土粒子や砂粒を多く含むことから、崩落土と考えられる。第4層は焼土小ブロック・焼土粒子を多量に含み、下部が赤変硬化していることから、火床部と考えられる。煙道はほぼ直立する。

竈土層解説

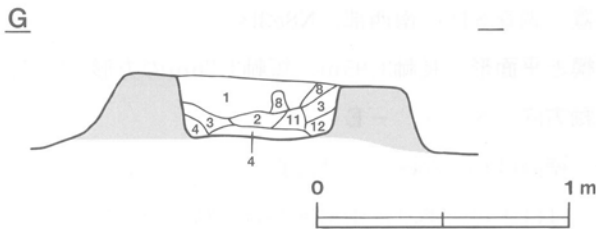
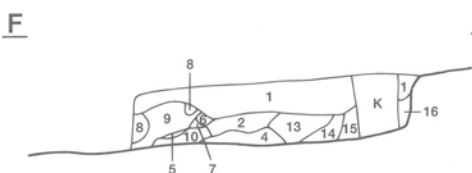
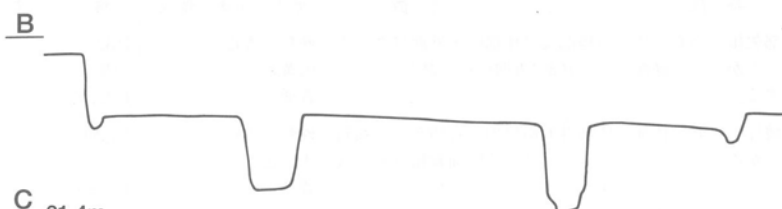
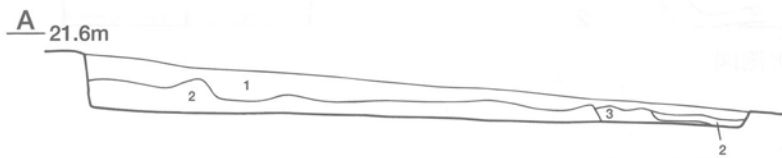
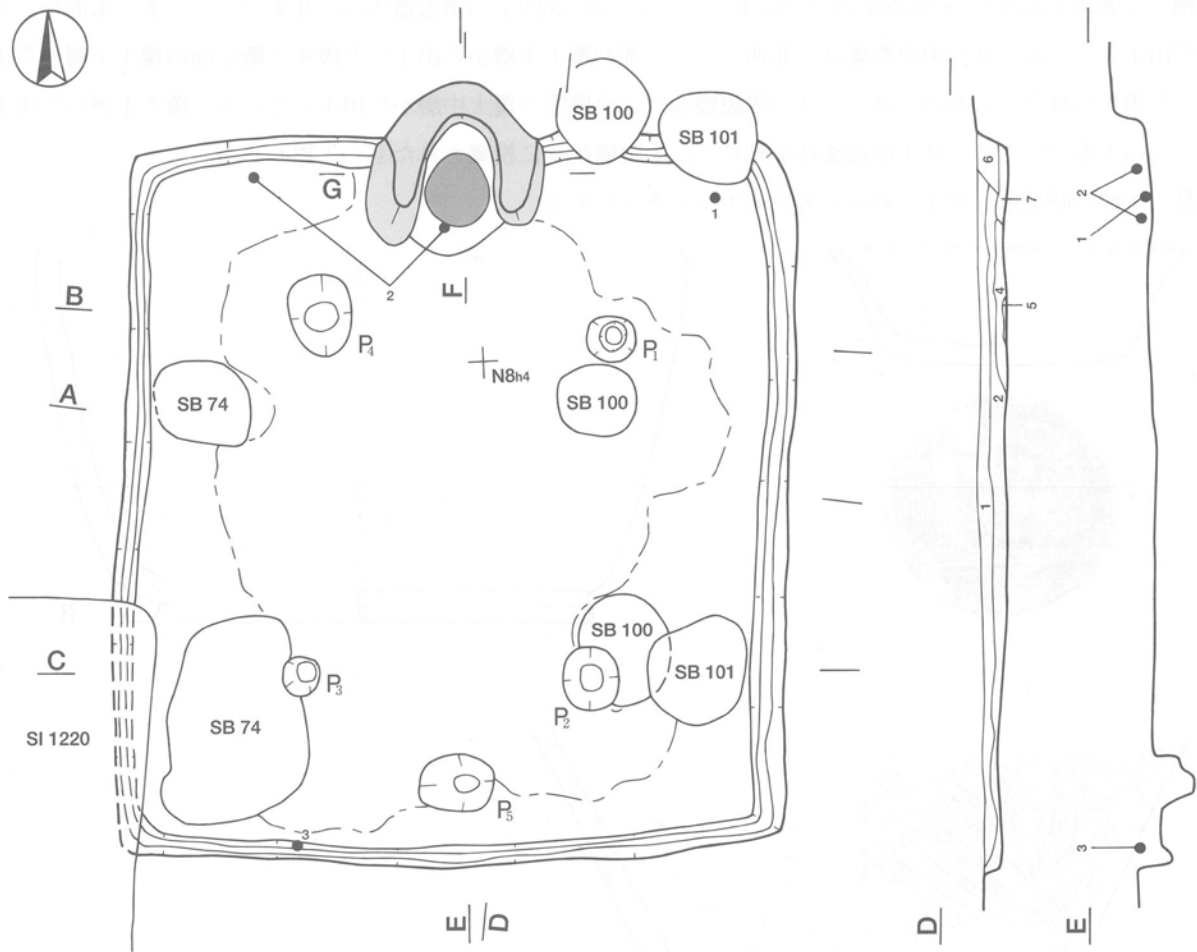
- 1 暗赤褐色 砂粒・粘土粒子中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子中量, ローム粒子・焼土小ブロック・砂粒少量
- 3 にぶい赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, ローム小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量
- 5 赤黒色 焼土粒子・炭化粒子多量, ローム粒子少量
- 6 にぶい黄褐色 粘土粒子多量, 焼土粒子少量
- 7 にぶい赤褐色 焼土粒子・粘土粒子多量, 砂粒中量
- 8 暗褐色 粘土粒子中量, 炭化粒子少量
- 9 暗赤褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
- 10 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量, 炭化物・砂粒少量
- 11 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量, 炭化物・粘土粒子・砂粒少量
- 12 褐色 ローム大ブロック多量, ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 13 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 14 褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 15 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量
- 16 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

ピット 5か所 (P 1~P 5)。P 1~P 4は、各コーナーから中央部寄りに位置し、径30~65cmの円形で、深さ52~73cmである。規模と配置から支柱穴と考えられる。P 5は南壁際の中央部に位置し、長径58cm, 短径46cmの楕円形で、深さ36cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 7層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

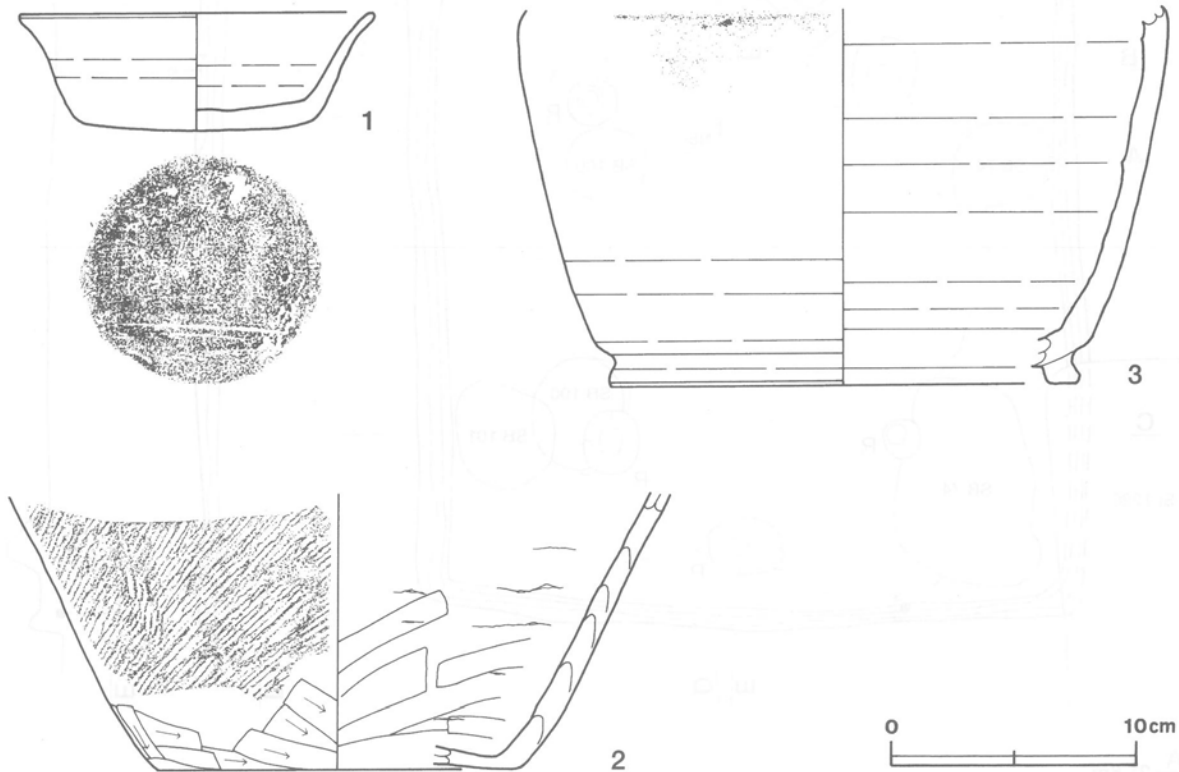
- 1 暗褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・粘土粒子・砂粒少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗赤褐色 粘土粒子多量, 焼土粒子中量, 炭化粒子・砂粒少量
- 6 黒褐色 砂粒中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 7 黒褐色 焼土粒子・砂粒少量, 炭化粒子微量



第519图 第1214号住居跡实测图

遺物 土師器片322点、須恵器片59点が出土している。第520図1の須恵器坏は、北東コーナー部の床面から正位で出土している。2の須恵器甕は、北西コーナー部の覆土下層から出土した破片と竈正面の覆土下層から出土した破片が接合したものである。3の須恵器壺は、南壁際の覆土中層から出土している。覆土上層から出土している土器のほとんどは土師器甕体部細片で、本跡廃絶後に投棄されたものと思われる。

所見 本跡の時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第520図 第1214号住居跡出土遺物実測図

第1214号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第520図 1	坏 須恵器	A 13.9 B 4.7 C 9.0	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母 灰黄色 普通	P 8259 70% P L 257
2	甕 須恵器	B (10.9) C [14.4]	底部から体部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面斜位の平行叩き、下端斜位のヘラ削り。内面輪積み痕を残すヘラナデ。	砂粒・雲母 灰白色 普通	P 8260 30% P L 257
3	壺 須恵器	B (14.8) D [18.4] E 1.3	高台部から体部にかけての破片。高台は短くハの字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。高台貼り付け後、ロクロナデ。体部外面一部自然釉。	砂粒 黄灰色 良好	P 8261 20% P L 257

第1215号住居跡 (第521図)

位置 調査8区の南西部、N8e3区。

規模と平面形 長軸3.95m、短軸3.76mの方形である。

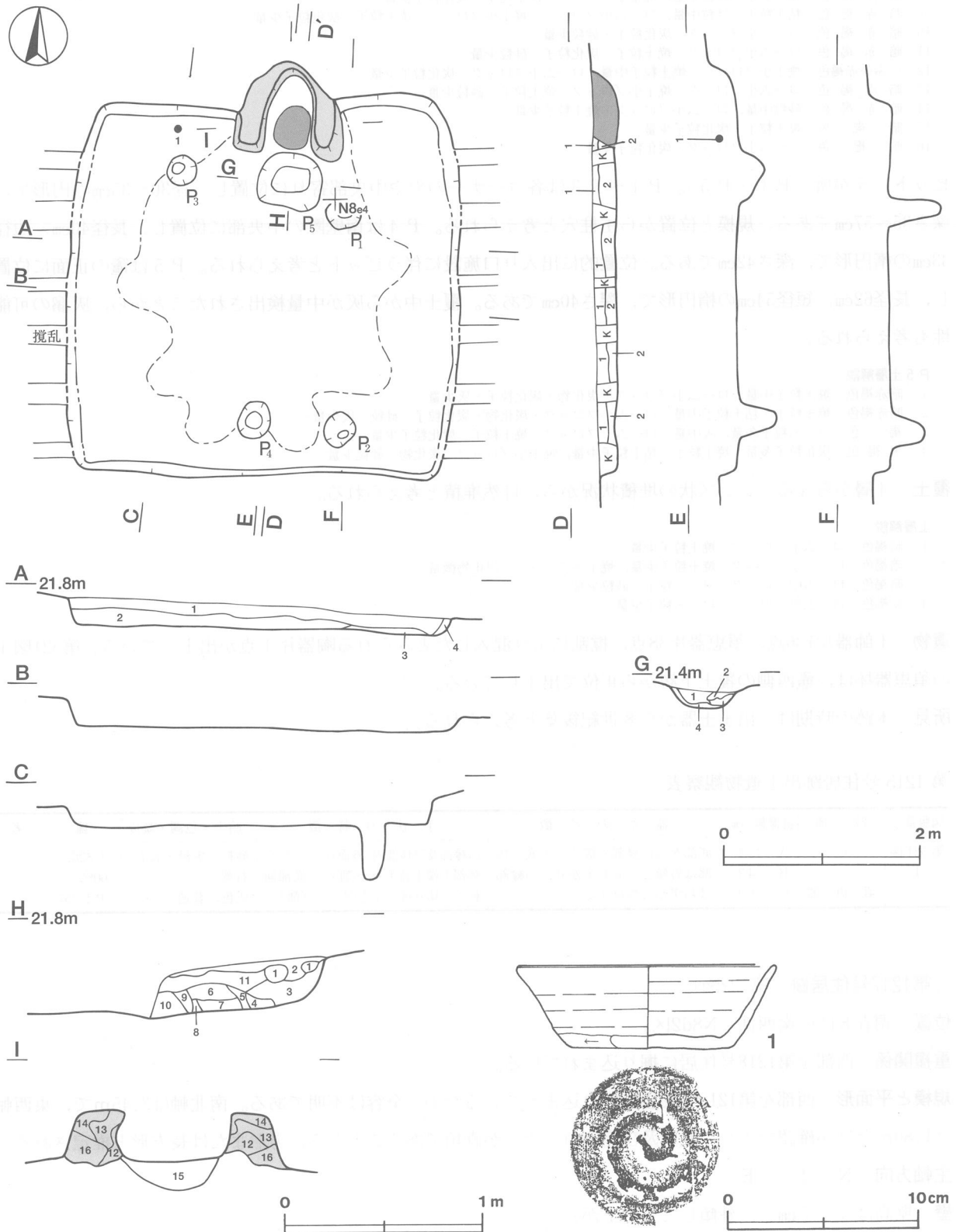
主軸方向 N-5°-E

壁 壁高は15~26cmで、ほぼ直立する。

床 ほぼ平坦であり、中央部が特に踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外に43cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで95

cm, 両袖部幅113cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図中第6・8・9層が粘土粒子や砂粒を含むことから、崩落土と考えられる。袖部は良好に遺存しており、内側は火熱を受けて赤変硬化している。火床部は、床面を16cmほど掘りくぼめた後、暗褐色土を貼り、造られている。火床面は火熱を受け、赤変硬化している。煙道はほぼ直立する。



第521図 第1215号住居跡・出土遺物実測図

竈土層解説

- 1 にぶい赤褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 2 黒 褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 にぶい赤褐色 焼土粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
- 4 暗 赤 褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 黒 褐色 炭化粒子中量, 焼土粒子少量
- 6 暗 赤 褐色 砂粒中量, ローム小ブロック・焼土粒子少量, ローム中ブロック・焼土小ブロック微量
- 7 にぶい赤褐色 焼土粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
- 8 暗 赤 褐色 粘土粒子・砂粒中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 9 暗 赤 褐色 粘土粒子・砂粒中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 10 暗 赤 褐色 ローム小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
- 11 暗 赤 褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
- 12 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 13 暗 赤 褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量
- 14 暗 赤 褐色 砂粒中量, ローム小ブロック・焼土粒子少量
- 15 暗 褐色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 16 暗 褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量

ピット 5か所 (P1～P5)。P1～P3は各コーナーのやや中央部寄りに位置し、径30～35cmの円形で、深さ35～57cmである。規模と位置から支柱穴と考えられる。P4は南壁際の中央部に位置し、長径40cm、短径33cmの楕円形で、深さ42cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。P5は竈の正面に位置し、長径62cm、短径54cmの楕円形で、深さ40cmである。覆土中から灰が中量検出されたことから、灰溜の可能性も考えられる。

P5土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子・灰少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子中量, ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒・灰少量
- 3 褐色 ローム粒子多量, 灰中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 黒褐色 炭化粒子多量, 焼土粒子・粘土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物・砂粒少量

覆土 4層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化物微量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子・砂粒少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片136点、須恵器片38点、攪乱により混入したとみられる陶器片1点が出土している。第521図1の須恵器坏は、竈西側の覆土下層から正位で出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。

第1215号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第521図 1	坏 須恵器	A 13.4	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナア。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色、普通	P8262 60% PL257
		B 4.3				
		C 8.2				

第1217号住居跡 (第522図)

位置 調査8区の南西部, N8d2区。

重複関係 西部を第1218号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 西部を第1218号住居に掘り込まれているため、全容は不明である。南北軸は3.45mで、東西軸は1.80mだけが確認できた。北東及び南西コーナーが直角であることから、方形または長方形と推定される。

主軸方向 N-2°-E

壁 壁高は5～7cmで、外傾して立ち上がる。

床 はほぼ平坦である。

竈 北壁に付設されており、砂質粘土で構築されている。規模は焚口部から煙道部まで32cm、西袖の一部が第1218号住居に掘り込まれているが、両袖部幅は60cmと推定される。火床部は床面とほぼ同じ高さで、わずかに焼けて赤変している。

竈土層解説

- 1 にぶい赤褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック少量

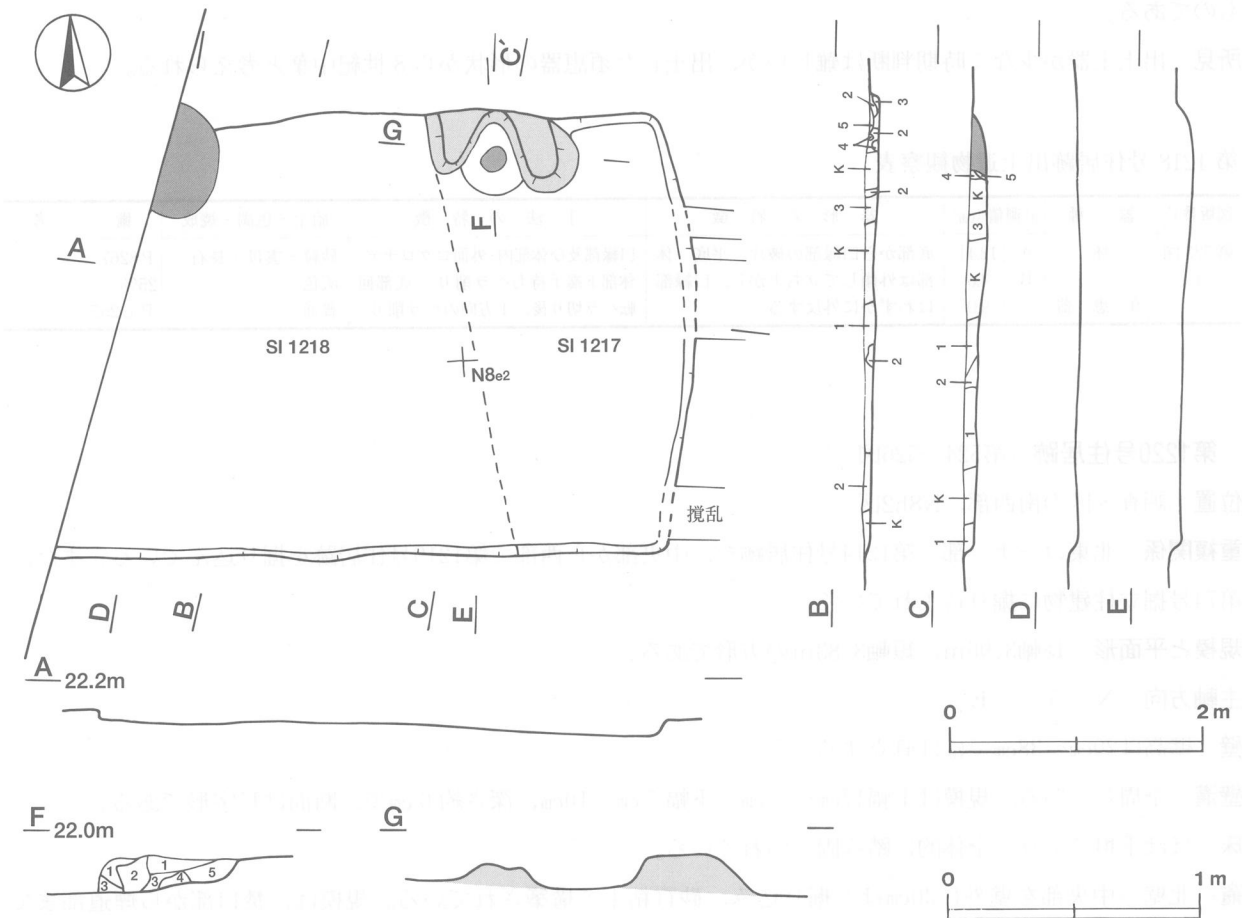
覆土 5層からなる。耕作による攪乱が激しいため、堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 4 明褐色 ローム粒子多量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量

遺物 土師器片16点, 須恵器片4点が出土している。

所見 出土土器が細片で時期を限定することはできないが、須恵器片が見られることや、本跡の西部を8世紀中葉と考えられる第1218号住居が掘り込んでいることから、本跡は8世紀と考えられる。

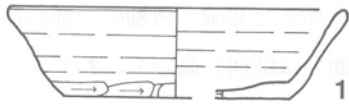


第522図 第1217・1218号住居跡実測図

第1218号住居跡 (第522・523図)

位置 調査8区の南西部, N8d1区。

重複関係 第1217号住居跡の西部を掘り込んでいる。



第523図 第1218号住居跡
出土遺物実測図

規模と平面形 西部が調査区域外へ延びているため全容は不明である。南北軸は3.50mで、東西軸は3.60mだけが確認できた。平面形は長方形と推定される。

主軸方向 N - 0°

壁 壁高は3～5cmで、外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦である。

竈 北壁に付設されていたと推定される。耕作による攪乱を受けており、火床部の一部が確認されただけである。

覆土 5層からなる。耕作による攪乱が激しいため、堆積状況は不明である。

土層解説

- | | | | |
|------|------------------------------|--------|-------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量 | 4 暗赤褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 | 5 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量, ローム小ブロック少量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量 | | |

遺物 土師器片2点, 須恵器片4点が出土している。第523図1の須恵器坏は、南東部の覆土中から出土したものである。

所見 出土土器が少なく時期判断は難しいが、出土した須恵器の形状から8世紀中葉と考えられる。

第1218号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第523図 1	坏 須恵器	A [13.4]	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	P 8267 25% P L 257
		B 4.6				
		C [9.0]				

第1220号住居跡 (第524～526図)

位置 調査8区の南西部, N8h2区。

重複関係 北東コーナー部で第1214号住居跡を、中央部から西部で第1219号住居跡を掘り込んでいる。また、第74号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.96m, 短軸3.83mの方形である。

主軸方向 N - 5° - E

壁 壁高は20cm～38cmでほぼ直立する。

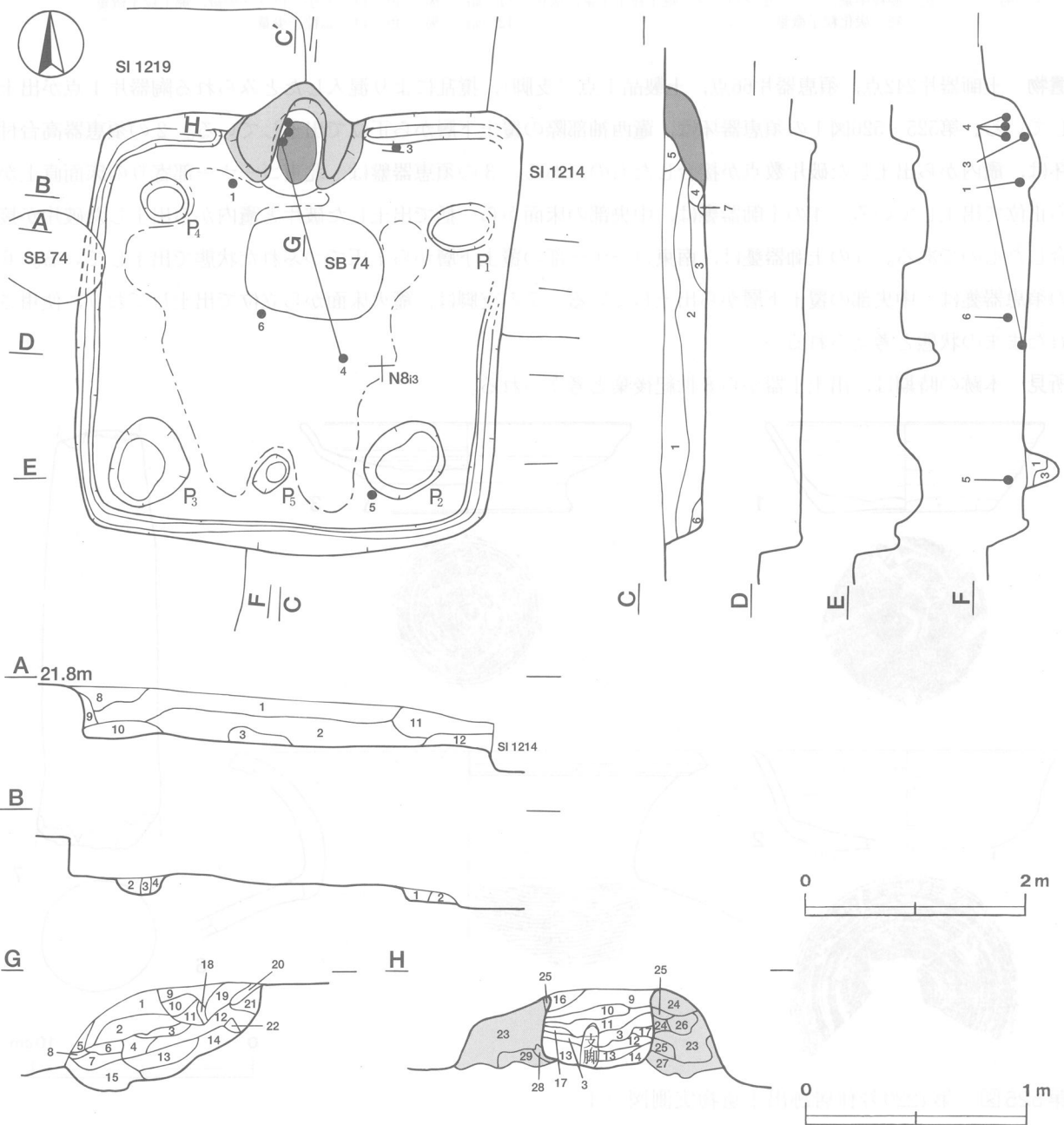
壁溝 全周している。規模は上幅17cm～25cm, 下幅5cm～10cm, 深さ約6cmで、断面はU字形である。

床 ほぼ平坦であり、全体的に踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外に30cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで105cm, 両袖部幅116cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図中第1～3層, 第10～12層が砂粒を多量に含むことから、崩落土と考えられる。袖部は砂粒を多量に含んだ粘土で芯を作り、それに粘土粒子と暗褐色土を貼り付けて構築している。内側は火熱を受けて赤変している。火床部は、床面を14cmほど掘りくぼめており、火熱を受け赤変している。焚口部から52cm奥の火床部中央やや北寄りから土製支脚が立位の状態で出土している。煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|-----------|------------------------------------|-----------|------------------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 砂粒多量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 14 にぶい赤褐色 | 砂粒中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | 砂粒多量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 15 暗赤褐色 | 炭化粒子中量, ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒・灰少量 |
| 3 灰赤褐色 | 砂粒多量, 焼土粒子中量, 炭化粒子少量 | 16 黒褐色 | 焼土粒子・砂粒少量 |
| 4 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・砂粒中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量 | 17 灰赤褐色 | 焼土粒子・砂粒中量, 炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 | 砂粒中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 18 赤褐色 | 焼土粒子多量, 砂粒中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量 |
| 6 赤褐色 | 焼土粒子多量, 砂粒中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量 | 19 にぶい赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量, 炭化粒子・粘土小ブロック微量 |
| 7 極暗赤褐色 | 炭化粒子多量, 焼土粒子・炭化物・砂粒中量, 焼土小ブロック少量 | 20 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂粒多量, 炭化粒子中量 |
| 8 にぶい赤褐色 | 焼土小ブロック・砂粒中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 21 にぶい赤褐色 | 砂粒多量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 9 暗赤褐色 | 砂粒多量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 22 にぶい赤褐色 | 砂粒多量, 焼土粒子中量 |
| 10 にぶい赤褐色 | 砂粒多量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 23 暗褐色 | 砂粒・粘土粒子多量, 焼土粒子少量 |
| 11 にぶい赤褐色 | 砂粒多量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 24 極暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 |
| 12 にぶい赤褐色 | 砂粒中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 25 極暗褐色 | 焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 13 灰褐色 | 灰中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量 | 26 暗褐色 | 砂粒多量, 焼土粒子少量 |
| | | 27 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量 |
| | | 28 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| | | 29 暗褐色 | ローム粒子少量 |



第524図 第1220号住居跡実測図

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は各コーナー寄りに位置し、径45cm~75cmのはぼ円形で、深さ12cm~20cmである。規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は南壁際の中央部に位置し、長径40cm、短径29cmの楕円形で、深さは37cmである。位置的に入出口施設に伴うピットと考えられる。

P1・P4・P5土層解説

- 1 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量

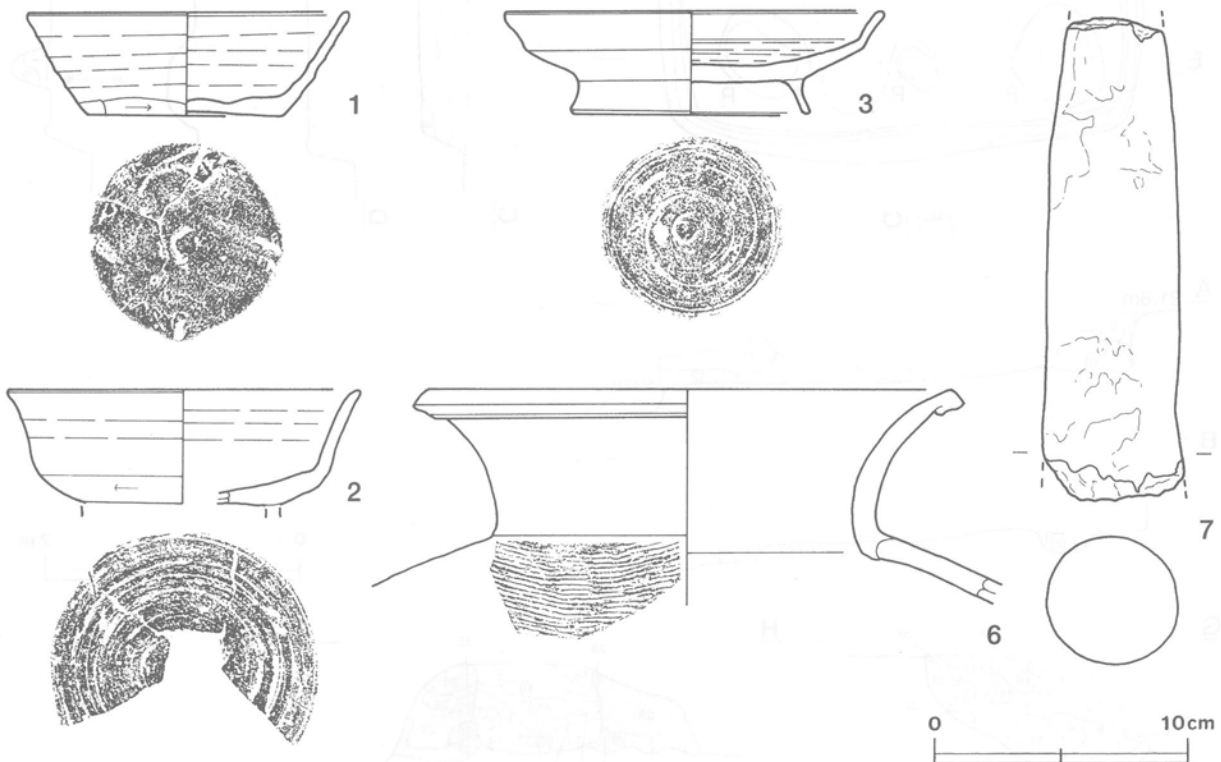
覆土 12層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

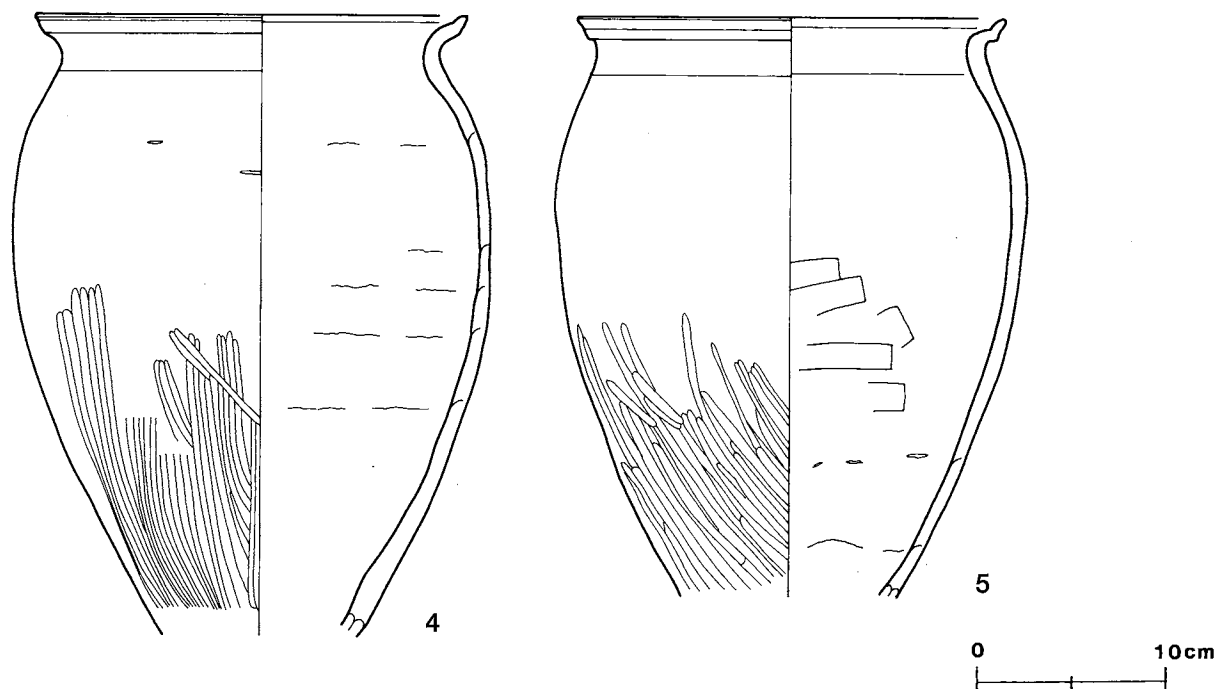
- | | | | |
|----------|--------------------------------------|--------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック微量 | 6 褐色 | ローム中ブロック中量, ローム小ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック少量 | 7 赤褐色 | 焼土粒子多量, ローム小ブロック少量 |
| 3 褐色 | ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量 | 8 黒褐色 | ローム小ブロック少量 |
| 4 にぶい黄褐色 | 砂粒多量, ローム粒子中量 | 9 褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子少量 |
| 5 褐色 | 砂粒中量, ローム小ブロック・焼土粒子少量, 炭化物・炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | 焼土粒子・ローム小ブロック少量 |
| | | 11 暗褐色 | ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量 |
| | | 12 暗褐色 | ローム粒子少量 |

遺物 土師器片242点, 須恵器片66点, 土製品1点 (支脚), 攪乱により混入したとみられる陶器片1点が出土している。第525・526図1の須恵器坏は、竈西袖部際の覆土下層から正位で出土している。2の須恵器高台付坏は、竈内から出土した破片数点が接合したものである。3の須恵器盤は、北東コーナー一部寄りの床面直上から正位で出土している。4の土師器甕は、中央部の床面から一括で出土した破片と竈内から出土した破片が接合したものである。5の土師器甕は、南東コーナー部の覆土下層から土圧でつぶれた状態で出土している。6の須恵器甕は、中央部の覆土下層から出土している。7の支脚は、竈火床面から立位で出土しており、使用されたままの状態と考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第525図 第1220号住居跡出土遺物実測図 (1)



第526図 第1220号住居跡出土遺物実測図(2)

第1220号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第525図 1	坏 須恵器	A 12.7	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁端部は丸く収めている。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰黄褐色 普通	P 8278 70% P L 257
		B 4.2				
		C 7.7				
2	高台付坏 須恵器	A [14.0]	高台部欠損。底部から口縁部にかけての破片。体部は下位に稜を有し、やや外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端及び底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・ 石英 黄灰色 普通	P 8279 70% P L 257
		B (4.5)				
3	盤 須恵器	A [15.0]	体部・口縁部一部欠損。高台はハの字状に開く。体部は内彎気味に大きく開き、屈曲して口縁部に至る。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	砂粒・雲母・長石・ 石英・細礫 灰色 普通	P 8280 60% P L 257
		B 4.3				
		D 9.0				
		E 1.5				
第526図 4	甕 土師器	A 22.2	体部一部欠損。底部欠損。体部は長胴形を呈し、頸部でくびれ、口縁部は外反する。端部は外上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ、下位ヘラ磨き。内面輪積み痕を残すナデ。	砂粒・雲母・長石・ 石英 橙色 普通	P 8276 70% P L 257
		B (32.5)				
5	甕 土師器	A [22.0]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部でくびれ、口縁部は外反する。端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ、下位ヘラ磨き。内面輪積み痕を残すヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・ 石英・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P 8277 30% P L 257
		B (30.4)				
第525図 6	甕 須恵器	A [20.9] B (8.6)	体部上位から口縁部の破片。体部は内傾し、頸部でくびれ、口縁部は強く外反する。端部は短く折り返されている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面横位の平行叩き。内面ナデ。	砂粒・雲母 灰色 普通	P 8281 5% P L 258

図版番号	器種	計測値			特徴	胎土・色調	備考
		長さ(cm)	径(cm)	重量(g)			
第525図7	土製支脚	(19.1)	4.1~5.7	(6400)	裾部がわずかに広がる円柱状。ナデ。	砂粒・長石・小礫、にぶい橙色	D P 8214 P L 280

第1221号住居跡（第527・528図）

位置 調査8区の南西部，O8a4区。

重複関係 北部で第1235号住居跡を，南東部で第1243号住居跡を，北東コーナー部から東壁で第102～104号掘立柱建物跡をそれぞれ掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸5.35m，短軸5.25mの方形である。

主軸方向 N-4°-E

壁 壁高は20cm～32cmで，ほぼ直立する。

壁溝 全周している。規模は上幅20cm～39cm，下幅8cm～15cm，深さ約10cmで，断面はU字形である。

床 ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外に86cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで145cm，両袖部幅150cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中第4層が砂粒を多量に含むことから崩落土と考えられる。火床部は，床面を20cmほど掘りくぼめた後，黒褐色土を貼り，造られている。火床面は火熱を受け赤変している。東袖部内から，第528図8の須恵器甕が逆位の状態で出土している。袖部の補強材として使用されたと考えられる。煙道は外傾して急に立ち上がる。

竈土層解説

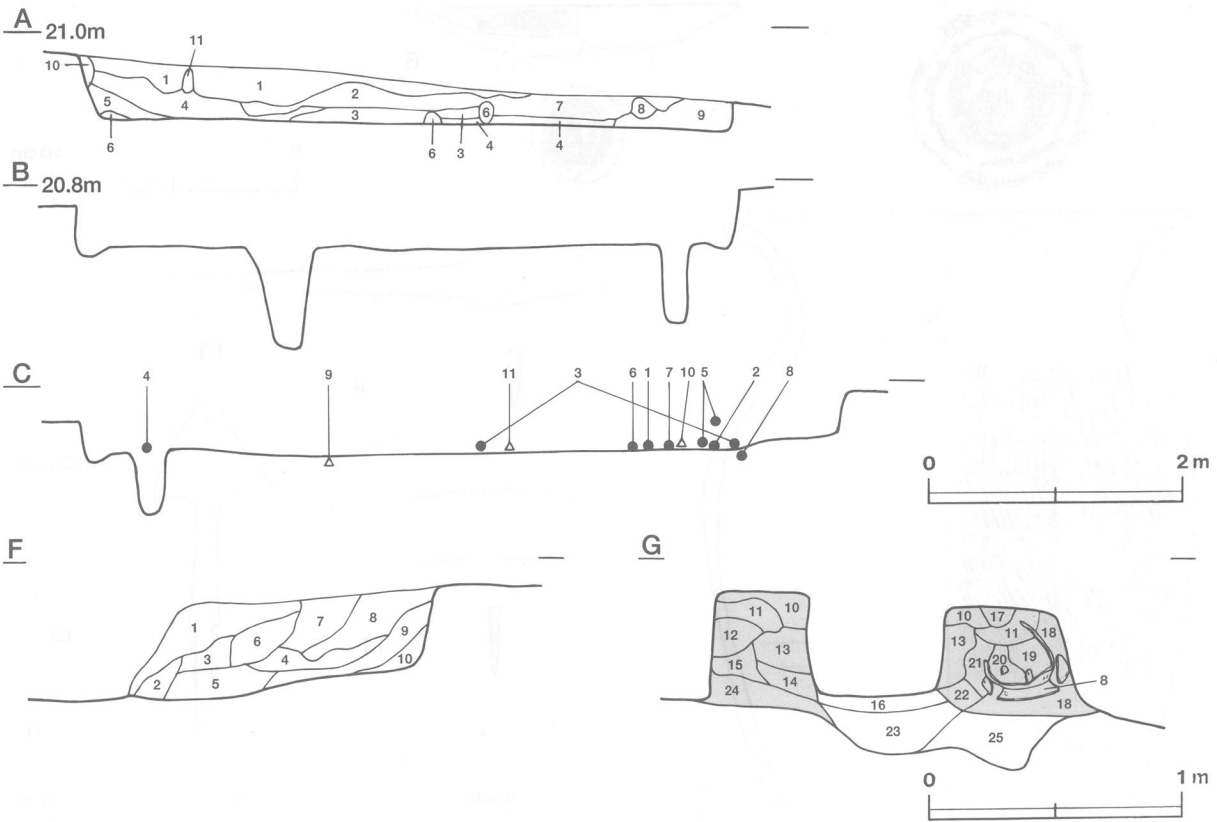
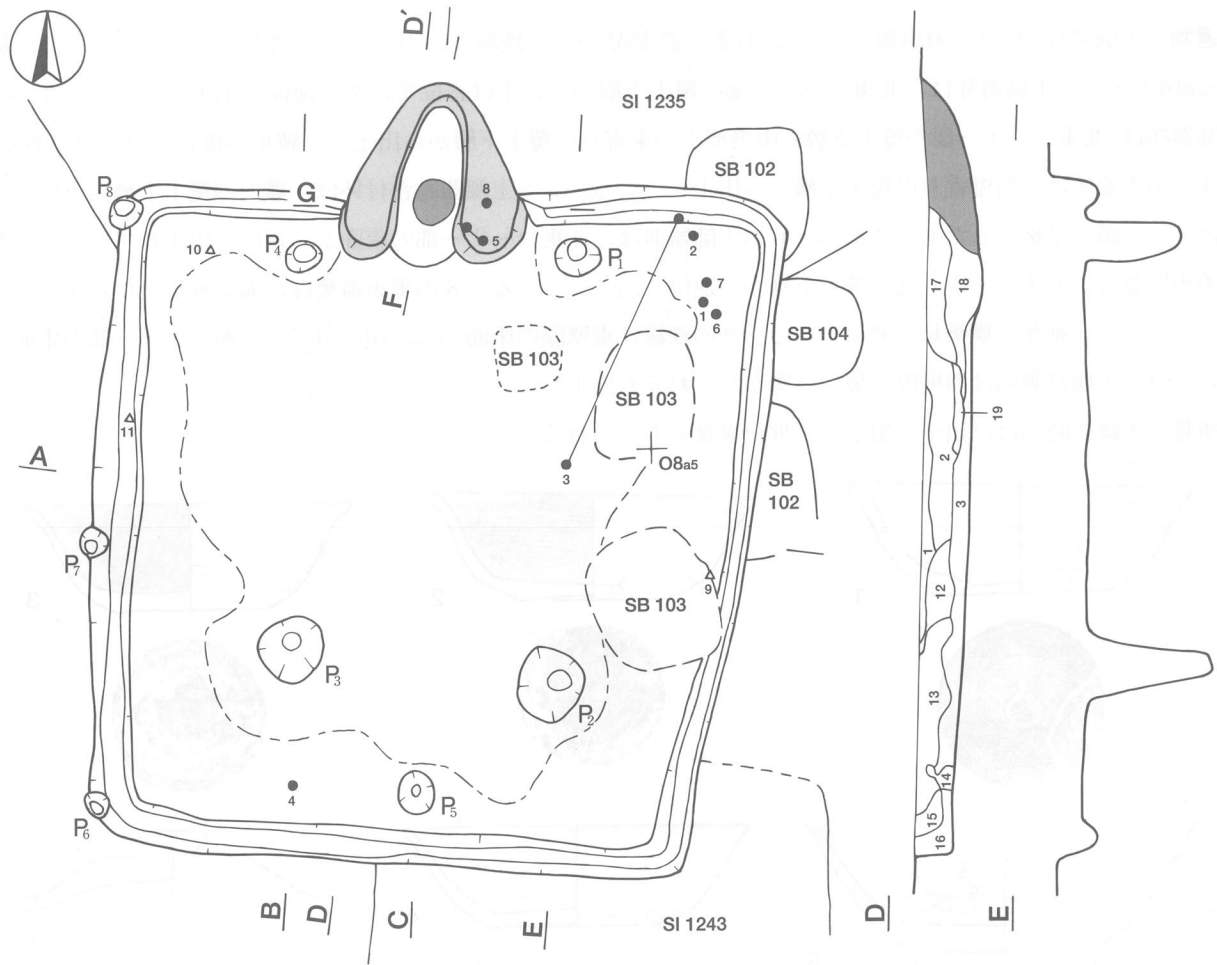
1 黒褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量	13 灰黄褐色	粘土粒子・砂粒多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
2 黒褐色	炭化粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量	14 にぶい黄褐色	粘土粒子・砂粒多量，焼土粒子・炭化粒子微量
3 にぶい赤褐色	焼土粒子・砂粒中量，炭化粒子・粘土粒子少量	15 黒褐色	粘土粒子・砂粒多量，焼土粒子微量
4 赤褐色	焼土粒子・砂粒多量，炭化材・炭化粒子少量	16 黒褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
5 灰褐色	灰中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量	17 黒褐色	粘土粒子・砂粒少量
6 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	18 黒褐色	粘土粒子・砂粒多量，焼土粒子・炭化粒子中量
7 にぶい赤褐色	砂粒中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量	19 黒褐色	粘土小ブロック多量，焼土小ブロック・砂粒少量
8 暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量	20 暗褐色	粘土小ブロック多量，焼土粒子・砂粒少量
9 暗赤灰色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量，炭化物・砂粒少量	21 にぶい黄褐色	粘土粒子・砂粒多量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
10 暗褐色	粘土粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量	22 黒褐色	焼土小ブロック・粘土小ブロック中量，炭化粒子・砂粒少量
11 にぶい黄褐色	粘土粒子・砂粒多量，焼土粒子・炭化粒子少量	23 黒褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・砂粒少量
12 黒褐色	粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子微量	24 黒色	粘土小ブロック・砂粒中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
		25 黒色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

ピット 8か所（P1～P8）。P1・P4は，竈の両袖部寄りに位置し，それぞれ径35cm・25cmの円形で，深さ78cm・66cmである。P2・P3は，南東・南西各コーナーのやや中央部寄りに位置し，それぞれ径58cm・52cmの円形で，深さ102cm・80cmである。P1～P4は，規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は，南壁際の中央部に位置し，長径35cm，短径29cmの楕円形で，深さは52cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6～P8は西壁沿いに位置し，径20cm～34cmの円形で，深さ39cm～78cmである。ほぼ等間隔に検出されており，位置的に壁柱穴の可能性はある。

覆土 19層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

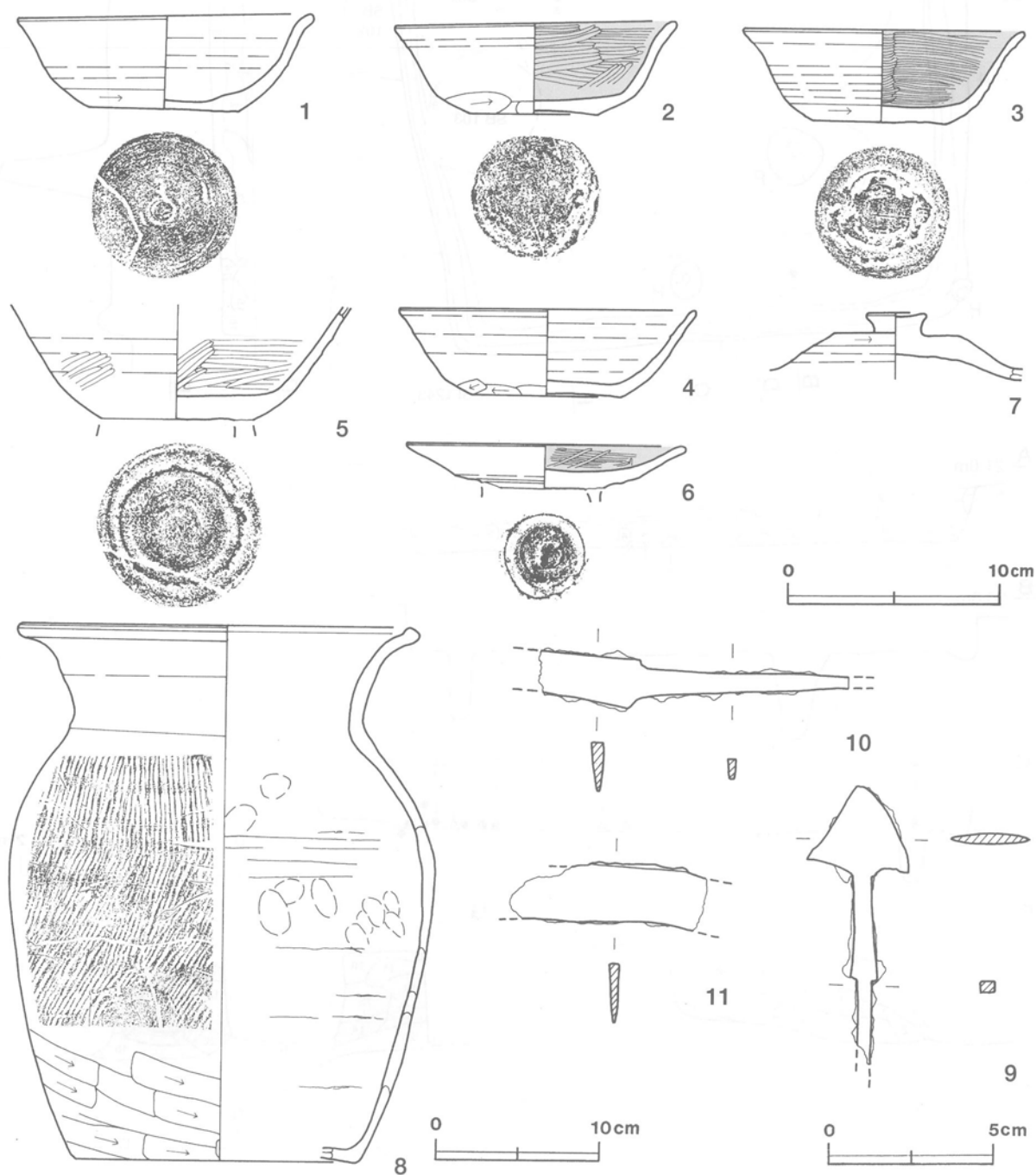
1 黒褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	10 黒色	ローム小ブロック少量
2 黒褐色	ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	11 暗褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
3 黒褐色	ローム小ブロック中量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック少量	12 黒褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・粘土小ブロック少量
4 黒褐色	ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・粘土小ブロック少量	13 黒褐色	ローム小ブロック中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
5 黒褐色	ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量	14 にぶい黄褐色	砂粒多量，ローム小ブロック少量
6 褐色	ローム粒子中量，炭化粒子少量	15 暗赤褐色	焼土小ブロック中量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
7 黒褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量	16 黒褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量
8 黒褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土大ブロック・粘土小ブロック少量	17 黒褐色	焼土小ブロック・粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
9 黒褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量	18 黒褐色	粘土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
		19 黒褐色	ローム小ブロック中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量



第527图 第1221号住居跡实测图

遺物 土師器片192点、須恵器片193点、鉄器・鉄製品3点（鉄鎌1、刀子1、不明1）が出土している。第528図1・2の土師器坏は、北東コーナー部の覆土下層から、1は正位で、2は逆位で出土している。3の土師器坏は、北東コーナー部の覆土下層と中央部やや東寄りの覆土下層から出土した破片が接合したものである。4の須恵器坏は、南壁寄りの覆土下層から出土している。5の土師器高台付坏は、竈内の覆土上層と下層から出土した破片が接合したものである。6の土師器皿は、北東コーナー部の床面から逆位で出土している。7の須恵器蓋は、北東コーナー部の覆土下層から逆位で出土している。8の須恵器甕は、竈東袖部内から逆位で出土している。袖部の構築材と考えられる。9の鉄鎌は東壁際の床面から、10の刀子は北西コーナー部の床面から、11の不明鉄製品は西壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第528図 第1221号住居跡出土遺物実測図

第 1221 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第 528 図 1	坏 土 師 器	A 13.4	完形。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後、ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子にぶい橙色、普通	P 8282 100% P L 257
		B 4.6				
		C 6.8				
2	坏 土 師 器	A 12.8	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き、下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後1方向のヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 橙色 普通	P 8283 80% P L 258
		B 4.3				
		C 5.8				
3	坏 土 師 器	A 12.8	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び、体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。内面ヘラ磨き。底部切り離し痕を残す1方向のヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子にぶい橙色 普通	P 8284 70% P L 258
		B 4.3				
		C 6.0				
4	坏 土 師 器	A [13.5]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部はやや外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英にぶい橙色 普通	P 8287 70% P L 258
		B 4.0				
		C 6.9				
5	高台付坏 土 師 器	B (5.3)	高台部欠損。底部から体部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ロクロナデ、一部ヘラ磨き。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け、ナデ。	砂粒・雲母・長石 橙色 普通	P 8285 60% P L 258
6	皿 土 師 器	A 12.7	高台部及び体部・口縁部の一部。体部は緩やかに外傾して立ち上がり、口縁部はやや外反する。	口縁部及び体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色、普通	P 8286 30% P L 258
		B (2.0)				
7	蓋 須 恵 器	B (3.1)	口縁部欠損。天井部は笠形で、腰高のボタン状のつまみが付く。	外周部内・外面ロクロナデ。天井部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け。	砂粒・雲母 灰白色 普通	P 8288 30% P L 258
		F 2.8				
		G 1.1				
8	甕 須 恵 器	A 23.2	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、頸部でくびれ、口縁部は外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面中位以上縦位の平行叩き、下位斜位のヘラ削り。内面輪積み痕を残すナデ、指頭圧痕。	砂粒・雲母・石英 黄灰色 普通	P 8289 50% P L 258
		B 32.5				
		C [17.3]				

図版番号	器 種	計 測 値									材質	特 徴	備 考
		全長 (cm)	鎌身長 (cm)	鎌身幅 (cm)	腕部長 (cm)	腕部幅 (cm)	茎長 (cm)	茎幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第528図9	鎌	(8.6)	2.8	3.0	3.1	0.6	(2.7)	0.4	0.4	(12.8)	鉄	三角形、台形状の関。	M8204 P L 281

図版番号	器 種	計 測 値						材質	特 徴	備 考
		全長 (cm)	刀身長 (cm)	身幅 (cm)	重ね (cm)	茎長 (cm)	重量 (g)			
第528図10	刀 子	(9.5)	(3.2)	1.5	0.4	(6.3)	(13.9)	鉄	刃部・茎一部欠損。	M8205 P L 280

図版番号	器 種	計 測 値				材質	特 徴	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第528図11	不 明	(6.1)	(1.9)	(0.25)	(13.4)	鉄	板状。両側欠損。	M8206 P L 282

第1222号住居跡 (第529・530図)

位置 調査 8 区の南西部, N8j1区。

重複関係 北部で第1219号住居跡を掘り込み、東壁際を第73号掘立柱建物に、南西コーナー部を第72号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.00m、短軸4.68mの方形である。

主軸方向 N - 0°

壁 壁高は 8cm~16cmで、外傾して立ち上がる。

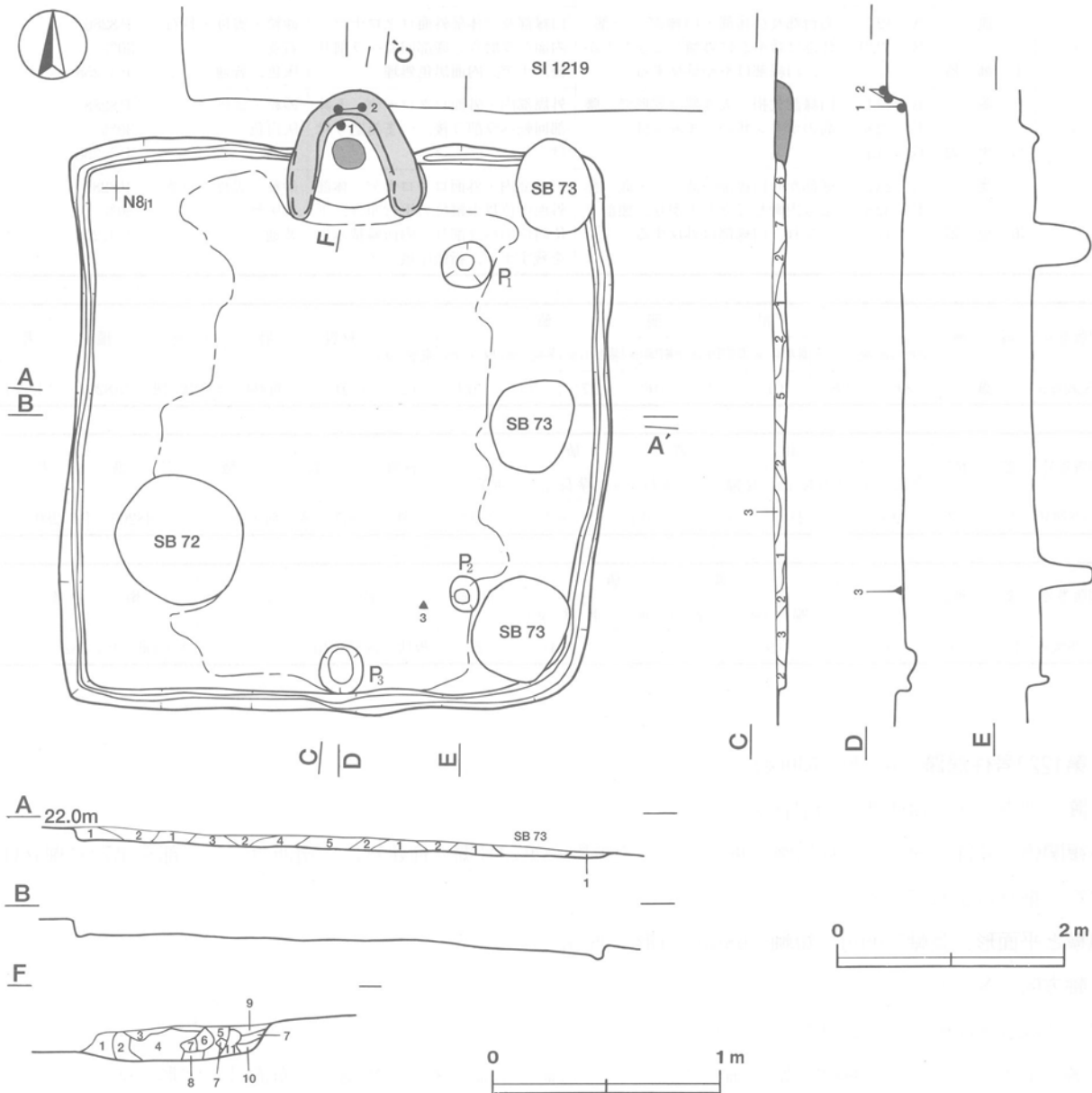
壁溝 全周している。規模は上幅10cm~22cm、下幅 4cm~11cm、深さ約 8cmで、断面はU字形である。

床 ほぼ平坦であり、全体的に踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外に45cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで123cm、両袖部幅115cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図中第1～3層が砂粒を中量含むことから、崩落土と考えられる。第4層は焼土小ブロック・焼土粒子を中量含み、下面が赤変していることから、火床部と考えられる。煙道は急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 砂粒中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 2 暗赤褐色 砂粒中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・砂粒中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック・砂粒少量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
- 6 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・砂粒中量, ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 7 にぶい赤褐色 焼土小ブロック多量, 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量
- 8 にぶい赤褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 9 にぶい赤褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 10 にぶい赤褐色 ローム小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子少量
- 11 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量



第529図 第1222号住居跡実測図

ピット 3か所 (P1~P3)。P1は北東コーナーのやや中央部寄りに位置し、径45cmの円形で、深さ51cmである。P2は南東コーナーのやや中央部寄りに位置し、長径31cm、短径25cmの楕円形で、深さ51cmである。P1・P2は規模と位置から支柱穴と考えられる。P3は南壁際の中央部に位置し、長径44cm、短径37cmの楕円形で、深さ20cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

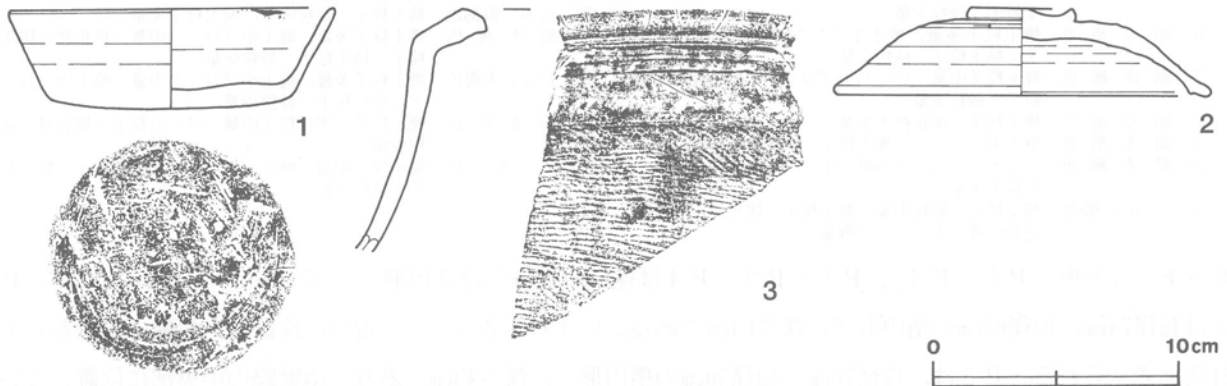
覆土 7層からなる。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------|-------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム小ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック・粘土小ブロック少量 | | |

遺物 土師器片119点、須恵器片12点が出土している。第530図1の須恵器坏は、竈内の覆土下層から逆位で出土している。2の須恵器蓋は、竈内の覆土下層から出土した破片数点が接合したものである。3の須恵器鉢口縁部片は、南東コーナー部の床面から出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第530図 第1222号住居跡出土遺物実測図

第1222号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第530図 1	坏 須恵器	A 12.8	完形。平底。体部下端は丸みを帯び、外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色、普通	P 8290 100% P L 258 口縁部内面油煙付着
		B 4.0				
		C 9.6				
2	蓋 須恵器	A [14.5]	口縁部から天井部の破片。天井部は伏せ皿形で、扁平なボタン状のつまみが付く。口縁部内面には短いかえりが付く。	口縁部・外周部内・外面ロクロナデ。天井部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色 普通	P 8291 15% P L 258
		B 3.5				
		F 4.0				
		G 0.5				
3	鉢 須恵器	B (9.2)	体部から口縁部の破片。頸部はくの字状に屈曲し、口縁部に至る。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面横位の平行叩き。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色、普通	T P 8205 10% P L 259

第1223号住居跡 (第531・532図)

位置 調査8区の南西部、O7b0区。

重複関係 西壁の上部が第1054号土坑に、東壁の上部が第1048号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.23m、短軸4.96mの方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は30~40cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。規模は上幅20~35cm、下幅4~8cm、深さ6~8cmで、断面形は緩やかなU字形をして

いる。

床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外へ42cmほど掘り込んで、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで151cm、両袖幅122cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、第2・3・5～7・11～19層から粘土粒子・砂粒が検出されることから、これらの層が天井部崩落土と考えられる。袖部は良好に遺存しており、内側は火熱を受けて赤変硬化している。第4層には多量の焼土小ブロック・焼土粒子が含まれており、下面が火床面と考えられる。火床部は、床面を10cm掘りくぼめられており、皿状をしている。煙道は火床面から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1 暗赤褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量	12 にぶい褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
2 暗赤褐色	粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂粒少量	13 にぶい黄褐色	砂粒中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・砂粒少量
3 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量	14 暗褐色	砂粒中量，焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
4 にぶい赤褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック少量	15 にぶい赤褐色	焼土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
5 にぶい赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量	16 にぶい黄褐色	粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子少量
6 暗赤褐色	焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量	17 暗赤褐色	焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化物・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
7 暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量	18 にぶい赤褐色	焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，焼土中ブロック・炭化粒子・砂粒少量
8 暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子少量	19 暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・炭化材・砂粒少量
9 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	20 灰褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
10 暗赤褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量		
11 にぶい褐色	粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量		

ピット 5か所（P1～P5）。P1・P2・P4は径55～60cmのほぼ円形で、深さ59・65・56cmであり、P3は長径74cm、短径65cmの楕円形で、深さ64cmである。いずれも各コーナー寄りに位置し、規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は、長径70cm、短径50cmの楕円形で、深さ43cmであり、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P1～P5土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	4 暗褐色	ローム小ブロック・粘土小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・粘土小ブロック少量，粘土大ブロック微量	5 暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
3 褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量		

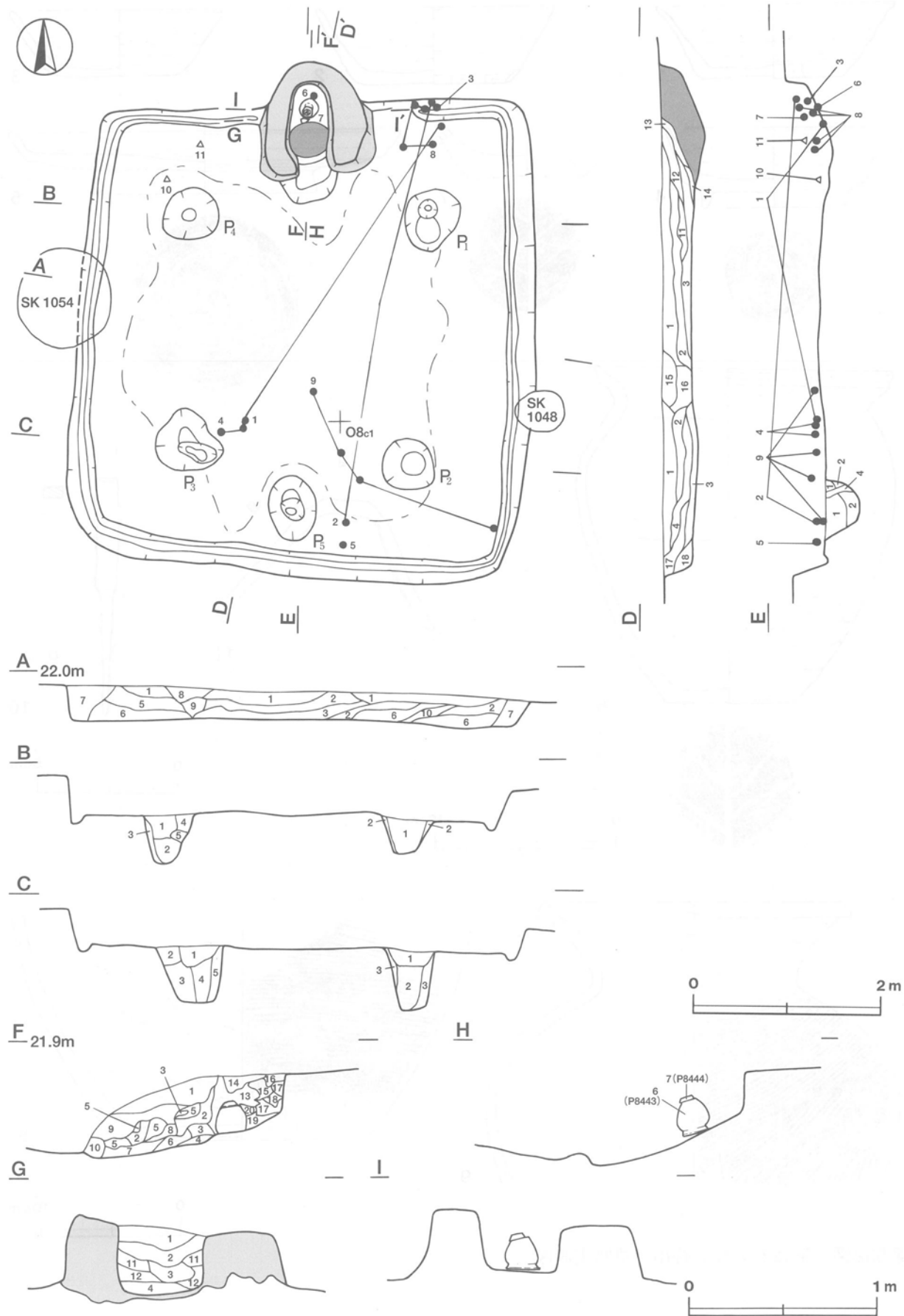
覆土 18層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

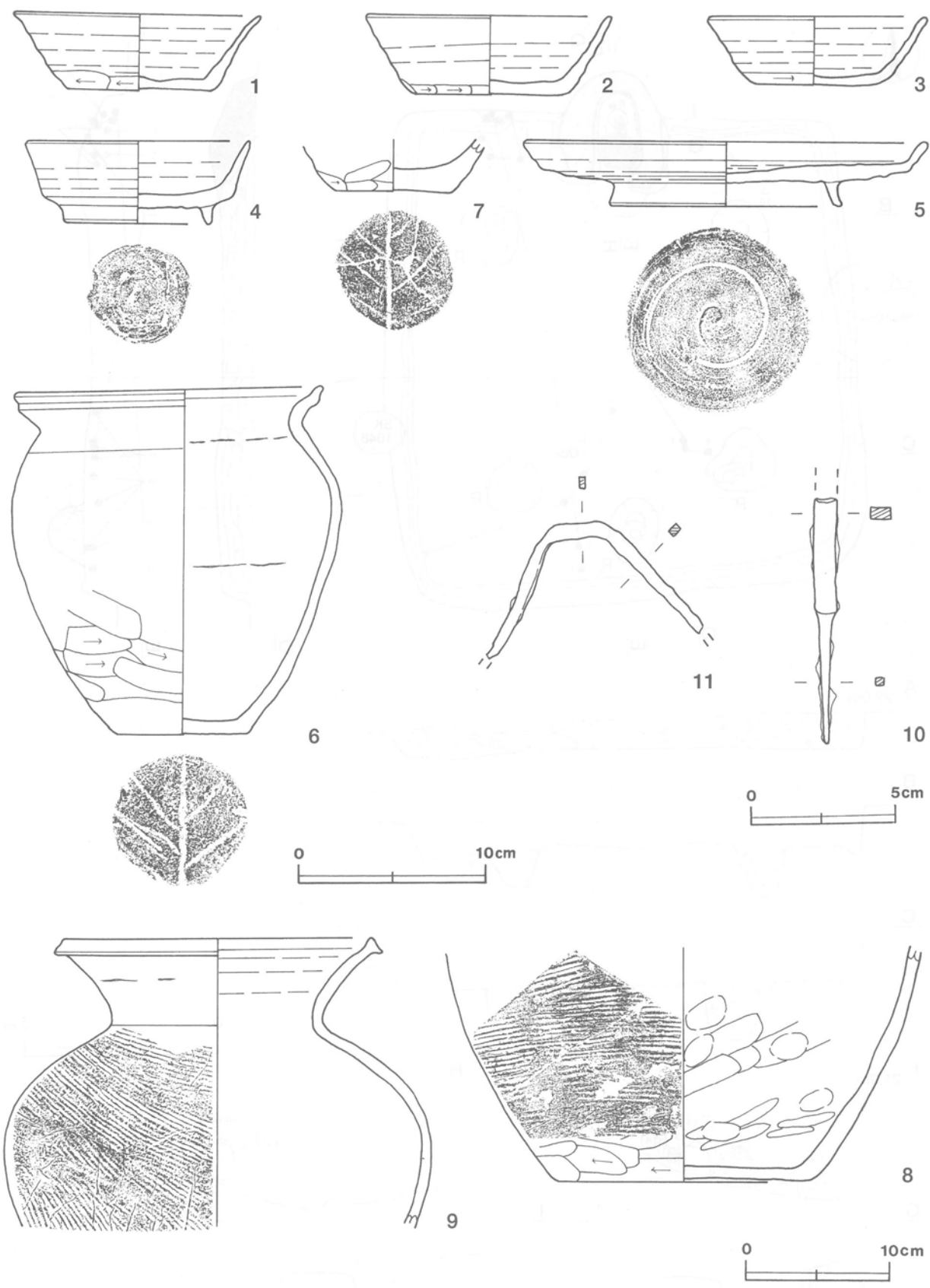
1 暗褐色	ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	11 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土小ブロック・砂粒少量
2 暗褐色	ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量	12 暗褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量
3 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子少量	13 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量
4 暗褐色	ローム小ブロック・焼土粒子少量	14 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
5 暗褐色	ローム小ブロック・炭化粒子少量	15 暗褐色	焼土粒子少量，焼土中ブロック微量
6 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子少量	16 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
7 褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量	17 暗褐色	ローム小ブロック・焼土粒子少量
8 暗褐色	ローム小ブロック少量	18 暗褐色	ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9 黒褐色	ローム小ブロック少量		
10 暗褐色	焼土粒子少量		

遺物 土師器片285点、須恵器片161点、鉄器・鉄製品2点（鏃、門金具）が出土している。第532図1・2の須恵器坏は、竈東側の床面と南部の床面から出土した破片が接合したものである。3の須恵器坏は正位で、8の須恵器鉢は斜位で、竈東側の覆土下層から出土している。4の須恵器高台付坏は南部の床面から、5の須恵器盤は出入り口施設付近の床面から正位で、それぞれ出土している。6・7の土師器甕は、竈の火床面からいずれも逆位で、7が6の上に重なった状態で出土している。6・7は支脚として転用されたものと考えられる。9の須恵器甕は、南部の覆土下層から出土している。10の鏃、11の門金具は、竈西側の下層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第531图 第1223号住居跡実測図



第532图 第1223号住居跡出土遺物実測図

第 1223 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第 532 図 1	坏 須 恵 器	A [12.9]	底部、体部、口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 褐灰色 普通	P 8445 65% P L 258
		B 4.0				
		C 7.6				
2	坏 須 恵 器	A 12.8	体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転切り離し痕を残す1方向のヘラナデ。	砂粒・雲母・石英 褐灰色 普通	P 8446 65% P L 258
		B 4.2				
		C 8.0				
3	坏 須 恵 器	A 11.4	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部2方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 褐灰色 普通	P 8447 95% P L 258
		B 3.6				
		C 6.6				
4	高台付坏 須 恵 器	A [11.6]	高台部から口縁部にかけての破片。体部は下位に稜を有し、やや外傾して立ち上がり、口縁部に至る。高台はほぼ垂下する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後、ナデ。	砂粒・雲母・石英 灰黄色 普通	P 8448 55% P L 258
		B 4.4				
		D [7.6]				
		E 1.0				
5	盤 須 恵 器	A 20.7	高台部、体部、口縁部一部欠損。平底。体部は外方に開き、屈曲して口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後、ナデ。	砂粒・雲母・長石・ 石英 灰色 普通	P 8449 80% P L 258
		B 3.4				
		D 12.0				
		E 1.3				
6	甕 土 師 器	A 15.9	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は倒卵形を呈する。頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁部は外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面下半横位のヘラ削り、内面に輪積み痕を残すナデ。底部木葉痕。	砂粒・雲母・長石・ 石英・赤色粒子 にふい赤褐色 普通	P 8443 75% P L 258 二次焼成
		B 18.2				
		C 6.9				
7	甕 土 師 器	B (2.8)	底部から体部下端にかけての破片。平底。	体部下端ヘラ削り。底部木葉痕。	砂粒・雲母・石英 明赤褐色 普通	P 8444 5% 二次焼成
		C 6.2				
8	鉢 須 恵 器	B (16.2)	底部から体部下半にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面平行叩き、下端横位のヘラ削り、内面横ナデ。指頭による押さえ痕あり。	砂粒・雲母・長石・ 石英・赤色粒子 灰色、普通	P 8450 35% P L 258
		C 17.4				
9	甕 須 恵 器	A [21.0]	体部上半から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部は「く」の字状に屈曲する。口縁部は外反し、端部は上下に突出している。	口縁部、頸部外面平行叩き後、内・外面横ナデ。体部外面平行叩き、内面横位のヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・ 石英 灰色 良好	P 8451 15%
		B (21.2)				

図版番号	器 種	計 測 値							材質	特 徴	備 考
		全長 (cm)	口径部長 (cm)	口径部幅 (cm)	茎長 (cm)	茎幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第532図10	鉢	(8.6)	(4.0)	0.8	4.6	0.4	0.3~0.45	(9.9)	鉄	長頸鉢カ。両関有り。	M8405 50% P L 282

図版番号	器 種	計 測 値				材質	特 徴	備 考
		全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第532図11	門 金 具	(7.2)	(11.4)	0.4	(21.7)	鉄	形状は「コ」の字形で、断面は方形。	M8406 90% P L 281

第1225号住居跡 (第442・443・533図)

位置 調査 8 区の南西部, O8c3区。

重複関係 南部で第1224・1230号住居跡を掘り込み、東部が第71号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と平面形 本跡は、覆土が薄く、南部は攪乱を受けているため、北部のみが調査できた。そのため全容は不明であるが、確認できた部分の規模は、東西軸は4.13mで、南北軸1.80mで、平面形は方形または長方形と推定される。

主軸方向 東西軸を主軸とみなして、N-80° - Eと推定した。

壁 北壁の壁高は30cmで、外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦である。踏み固められた面は認められない。

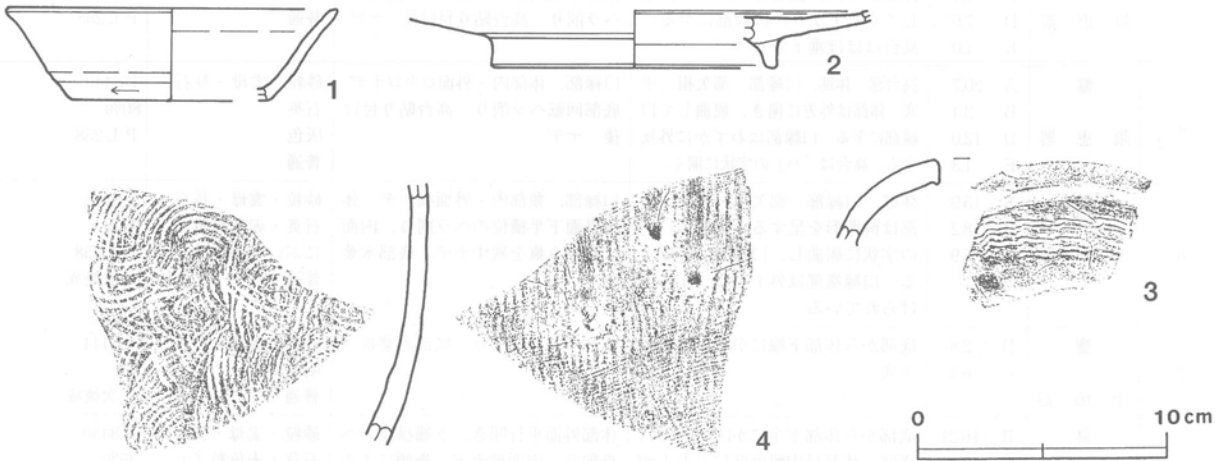
覆土 4層に分層された。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量
- 3 暗褐色 焼土粒子中量, 焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量

遺物 土師器片34点, 須恵器片23点が出土している。第533図1の須恵器坏片は, 北西部の覆土中から出土している。2の須恵器盤片は, 北東部の覆土中から出土している。3の須恵器甕の口縁部片と4の須恵器甕の体部片は, 覆土中から出土している。

所見 本跡からは, 竈, 壁溝, 柱穴は検出されなかった。時期は, 出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第533図 第1225号住居跡出土遺物実測図

第1225号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第533図 1	坏 須恵器	A [13.2] B 3.6 C [8.0]	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色, 普通	P 8922 15%
2	盤 須恵器	B (2.3) D [11.2] E 1.1	高台部から体部にかけての破片。体部は外傾する。高台はほぼ垂下する。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後, ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 褐灰色, 普通	P 8923 15%
3	甕 須恵器	B (3.9)	口縁部片。口縁部は外反して開く, 端部は下方に突出する。	口縁部内・外面ロクロナデ。外面に6条1単位の櫛描波状文が1段施されている。	砂粒・雲母・長石 黒色 普通	T P 8427 5% P L 259 自然釉
4	甕 須恵器	B (10.5)	体部片。	体部外面縦位の平行叩き後, 横位のヘラナデ, 内面同心円状の当て具痕が残る。	砂粒・雲母・長石 灰色 良好	T P 8428 5% P L 259 自然釉

第1226号住居跡 (第534・535図)

位置 調査8区の南西部, O8e3区。

重複関係 北西部で第1224号住居跡を掘り込み, 西部が第70号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.02m, 短軸3.55mの長方形である。

主軸方向 N - 0°

壁 壁高は28~40cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。規模は上幅18~32cm, 下幅4~10cm, 深さ4~8cmで, 断面形は緩やかなU字形をして

いる。

床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外へ32cmほど掘り込んで、砂質粘土で構築している。規模は、焚口部から煙道部まで118cm、両袖幅120cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、第1層には砂粒が、第2層には赤変硬化した粘土粒子・砂粒が含まれていることから、これらの層が天井部の崩落土と考えられる。袖部は良好に遺存しており、内側は火熱を受けて赤変硬化している。火床部は、床面から5cm掘りくぼめられており、皿状をしている。煙道は火床面から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子・砂粒中量, ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂粒多量, 焼土小ブロック・炭化粒子中量, 焼土中ブロック少量
- 3 暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量, 砂粒少量
- 4 灰褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土中ブロック少量
- 5 暗赤褐色 粘土粒子・砂粒中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 6 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子, 砂粒中量, 炭化粒子微量

ピット 5か所(P1~P5)。P1・P4は径30cmの円形で、深さ29cmであり、P2・P3は長径53cm、短径35cmの楕円形で、深さはそれぞれ39cm・51cmである。いずれも各コーナー寄りに位置し、規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は径25cmの円形で、深さ38cmであり、南壁際の中央部に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。覆土は、下層では粘土粒子が中量、上層ではローム粒子、焼土粒子、炭化粒子が少量含まれる暗褐色土である。

貯蔵穴 北東コーナー部で検出された。長軸70cm、短軸52cmの隅丸長方形で、深さ31cmであり、断面形は逆台形状をしている。

貯蔵穴土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子少量
- 2 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 褐色 粘土粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量, 炭化物微量
- 4 暗赤褐色 粘土粒子多量, ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
- 5 暗赤褐色 粘土粒子多量, 粘土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

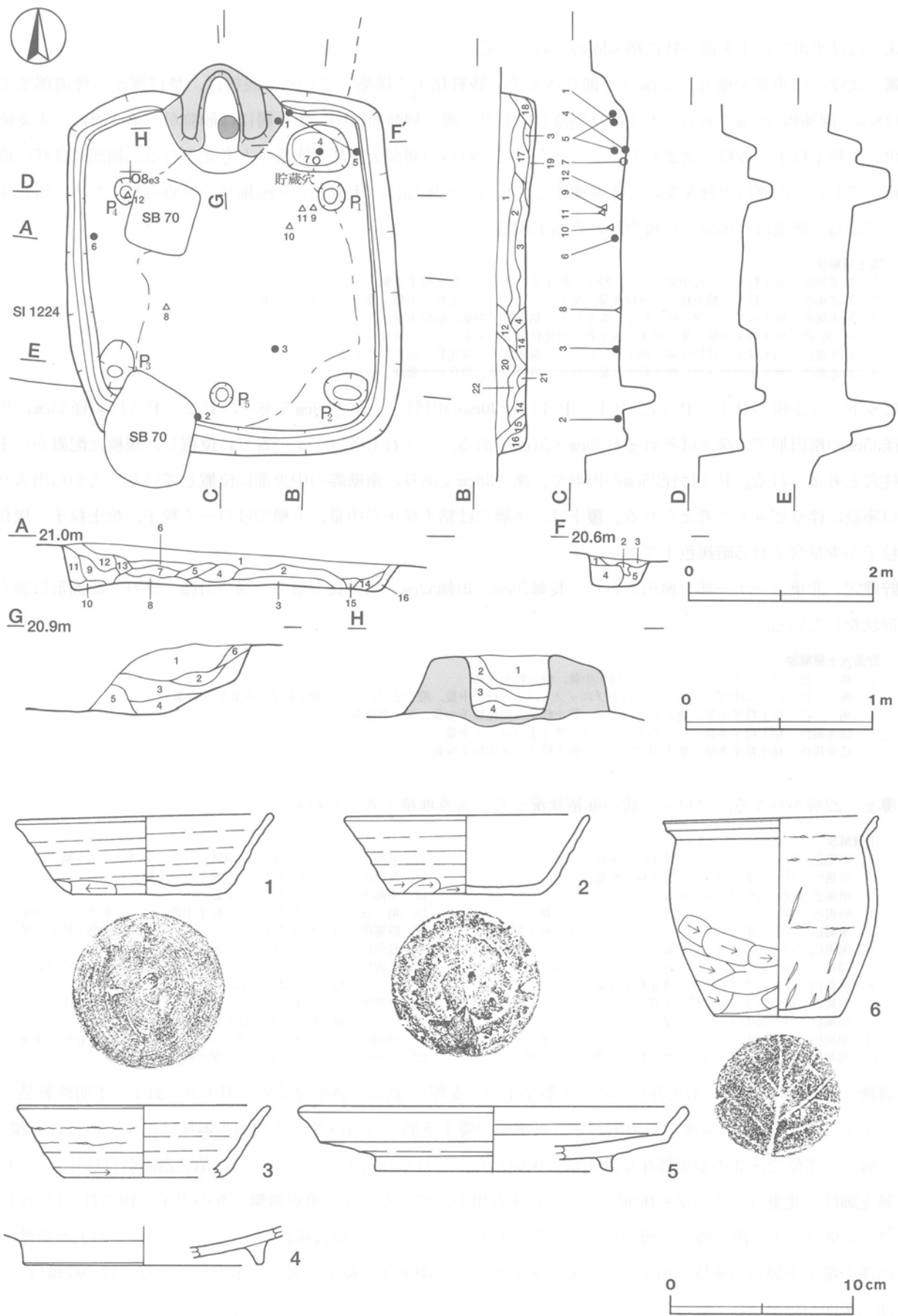
覆土 22層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

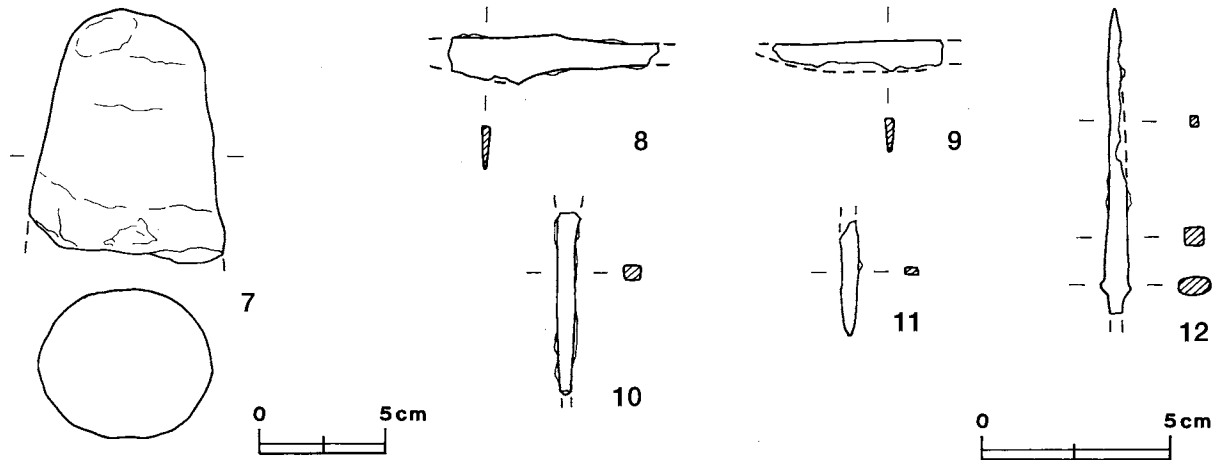
- | | | | |
|--------|--------------------------|--------|---------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子少量 | 13 黒褐色 | ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子少量 | 14 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック少量 | 15 黒褐色 | ローム小ブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック少量 | 16 褐色 | ローム小ブロック・粒子中量, ローム中ブロック少量 |
| 5 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量 | 17 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量 |
| 6 黒褐色 | ローム小ブロック少量 | 18 暗褐色 | ローム中ブロック・焼土粒子少量 |
| 7 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック少量 | 19 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土小ブロック少量 |
| 8 黒褐色 | ローム小ブロック・炭化粒子少量 | 20 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 9 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量 | 21 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量 |
| 10 暗褐色 | ローム中ブロック少量 | 22 暗褐色 | ローム小ブロック・炭化粒子少量 |
| 11 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック少量 | | |
| 12 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | | |

遺物 土師器片118点、須恵器片33点、土製品1点(支脚)、鉄器・鉄製品5点(刀子2、釘1、不明鉄製品2)が出土している。第534図1の須恵器杯は竈東側の覆土下層から斜位で、2の須恵器杯は出入口付近の覆土下層から正位で、3の須恵器杯片は南部の床面から、それぞれ出土している。4の須恵器高台付坏片、7の土製支脚は、北東コーナー部の床面から、それぞれ出土している。5の須恵器盤、9の刀子、10の釘、11の釘は、北東コーナー部の覆土下層から、それぞれ出土している。5の盤は逆位で出土している。6の土師器甕は、西部の覆土下層から横位で出土している。8の刀子は、中央部の覆土下層から出土している。12の鉄鏃は、西部の床面から出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第534図 第1226号住居跡・出土遺物実測図



第535図 第1226号住居跡出土遺物実測図

第1226号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第534図 1	坏 須恵器	A 13.7 B 4.4 C 8.4	完形。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，ヘラナデ。	砂粒・雲母・石英 灰黄色 普通	P 8466 100% P L 259
2	坏 須恵器	A 13.4 B 4.3 C 8.0	体部，口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・石英 黄灰色 普通	P 8467 85% P L 260
3	坏 須恵器	A [13.6] B 3.9 C [8.6]	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・ 赤色粒子 黄灰色 普通	P 8468 10% P L 258
4	高台付坏 須恵器	B (2.1) D [12.9] E 1.3	高台部から体部にかけての破片。体部は外傾する。高台は「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。ロクロ目弱い。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母・石英 にぶい褐色 普通	P 8469 5%
5	盤 須恵器	A [20.8] B 3.5 D [12.8] E 0.9	高台部から体部にかけての破片。体部は外傾して開き，屈曲して口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。高台はわずかに外方へふんばる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	P 8470 30% P L 259
6	甕 土師器	A 11.6 B 10.9 C 6.8	体部，口縁部一部欠損。平底。体部は球形を呈する。頸部は「く」の字状にくびれ，口縁部は外反する。端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部外面下半横位のヘラ削り，内面に輪積み痕を残すヘラナデ。底部木葉痕。	砂粒・雲母・長石・ 石英 明赤褐色 普通	P 8471 75% P L 259

図版番号	器種	計測値			特徴	胎土・色調	備考
		長さ(cm)	径(cm)	重量(g)			
第535図7	土製支脚	(10.1)	7.9	(339.0)	裾部がやや広がる円柱状。ナデ。	砂粒・長石・石英，明褐色	D P 8407 40% P L 280

図版番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	莖長(cm)	重量(g)			
第535図8	刀子	(5.5)	(2.7)	1.3	0.2	(2.8)	(7.3)	鉄	刃部基部一部欠損。稜区有り。	M8409 40% P L 281
9	刀子	(4.5)	(4.5)	(0.7)	0.3	-	(2.7)	鉄	刃部の破片。両区有り。	M8412 30% P L 280

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第535図10	釘	(4.8)	0.6	0.4	(3.9)	鉄	両端部欠損。断面方形。	M8411 40% P L 281
11	釘カ	(3.1)	(0.6)	0.2	(0.9)	鉄	脚先端部の破片。断面方形。	M8410 5%

図版番号	器種	計測値							材質	特徴	備考
		全長(cm)	釜身長(cm)	釜身幅(cm)	茎長(cm)	茎幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第535図12	鉢	(8.0)	7.5	0.6	(0.5)	0.8	0.3~0.5	(5.5)	鉄	両関棘状。	M8413 40% P L 282

第1227号住居跡 (第536・537図)

位置 調査8区の南西部, O8c5区。

重複関係 北東コーナー一部が第1234号住居, 第882号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 一辺6.40mの方形である。

主軸方向 N-10° -W

壁 壁高は18~32cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 北東コーナー部は確認できないが, 全周していると推定される。規模は, 上幅25~55cm, 下幅10~18cm, 深さ10~14cmで, 断面形は緩やかなU字形をしている。

床 ほぼ平坦で, 全面が踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外へ35cmほど掘り込んで, 砂質粘土で構築している。規模は, 焚口部から煙道部まで140cm, 両袖幅120cmである。天井部は崩落しており, 竈土層断面図中, 第1~3層には粘土小ブロック・粘土粒子・砂粒が多量に含まれ, 粘性がやや強いことから, これらの層が天井部の崩落土と考えられる。袖部は良好に遺存しており, 内側は火熱を受けて赤変硬化している。第5層には多量の焼土粒子・灰が含まれ, 下面が火床面と考えられる。火床部は, 床面から約5cm掘りくぼめられており, 皿状をしている。煙道は火床面から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土小ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量, 粘性強, しまりやや強
- 2 にぶい赤褐色 粘土粒子・砂粒多量, 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子少量, 粘性強, しまりやや強
- 3 暗赤褐色 粘土粒子・砂粒多量, 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化物・炭化粒子少量, 粘性強
- 4 灰褐色 焼土粒子・粘土粒子・灰中量, 炭化物・炭化粒子少量
- 5 灰赤色 焼土粒子・灰多量, 炭化材・炭化物・粘土粒子・砂粒少量
- 6 褐色 粘土小ブロック・粘土粒子・砂粒中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 7 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・粘土小ブロック・砂粒少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 9 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量, 炭化物・粘土小ブロック少量
- 10 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土小ブロック少量
- 11 にぶい赤褐色 粘土粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 12 明褐色 ローム小ブロック多量
- 13 にぶい褐色 ローム粒子・砂粒中量, 焼土粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 14 極暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
- 15 オリーブ黄褐色 ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量, 焼土粒子少量
- 16 にぶい黄褐色 粘土粒子多量, ローム粒子・砂粒中量, 焼土粒子少量
- 17 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量, 炭化粒子・粘土粒子・黒色土大ブロック微量
- 18 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・砂粒・黒色土大ブロック少量, 炭化粒子・粘土粒子微量
- 19 暗赤褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・砂粒中量, ローム小ブロック・粘土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量, しまりやや強
- 20 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量, 炭化粒子微量, しまりやや強
- 21 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・砂粒少量, ローム中ブロック微量, しまり強
- 22 灰褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量, 焼土小ブロック少量, ローム小ブロック微量
- 23 黒褐色 ローム粒子・砂粒中量, ローム小ブロック・焼土粒子少量

ピット 5か所 (P1~P5)。P1は, 第1234号住居に掘り込まれており, 円形で確認できる規模は径56cm, 深さ13cmである。P2~P4は, 径85~95cmのほぼ円形で, 深さ57~61cmである。いずれも各コーナー寄りに位置し, 規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は, 長径70cm, 短径55cmの楕円形で, 深さ40cmであり, 南壁際の中央部に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P2~P5土層解説

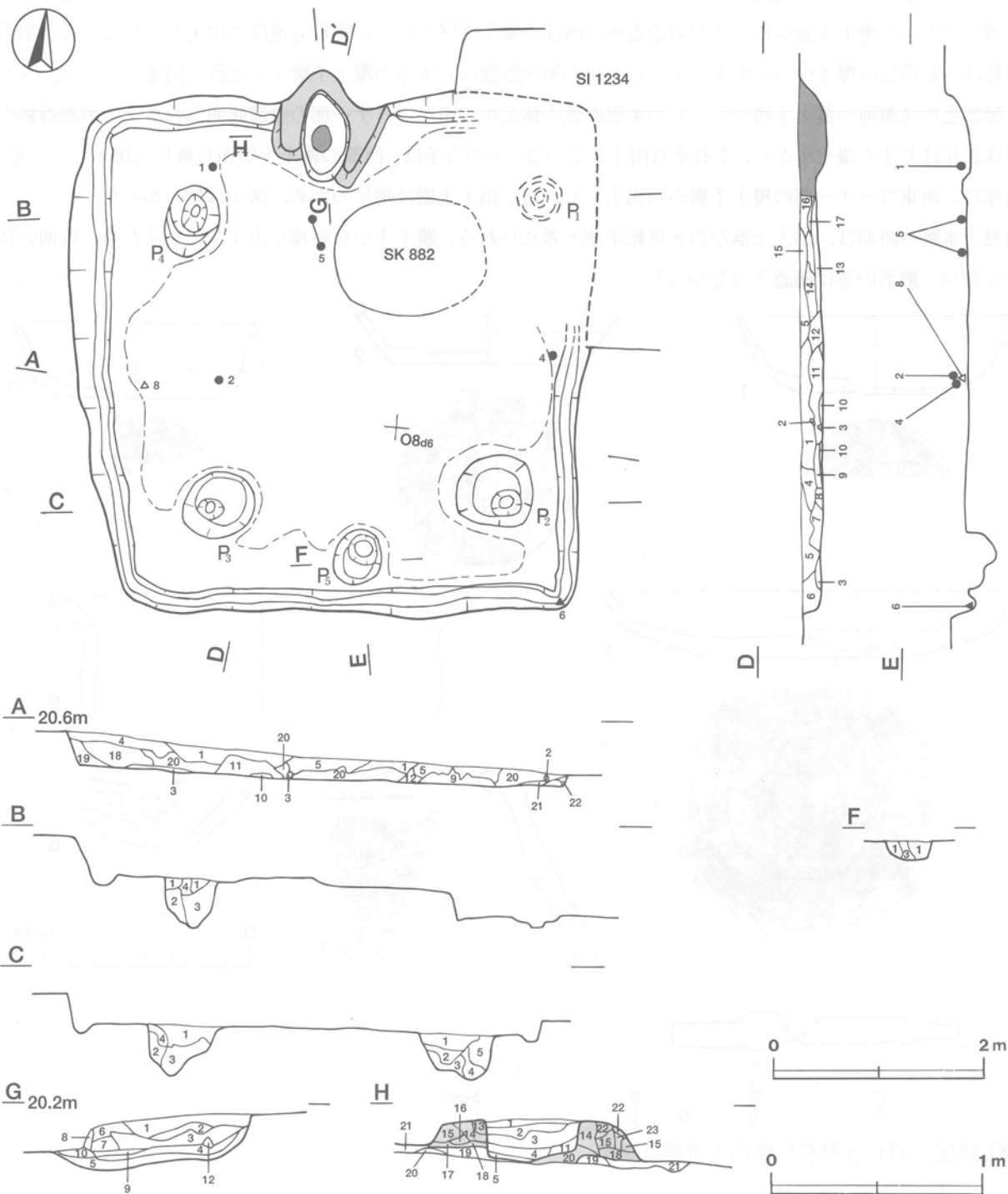
- 1 暗褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量, ローム中ブロック微量

- 3 褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 4 にぶい褐色 ローム中ブロック中量, 粘土小ブロック少量
- 5 褐色 ローム小ブロック中量, 粘土粒子少量, 焼土小ブロック微量

覆土 22層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------|-------|---------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量 | 5 暗褐色 | ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 明褐色 | ローム粒子多量 | 6 暗褐色 | ローム小ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック中量 | 7 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量 | 8 黒褐色 | ローム小ブロック少量 |

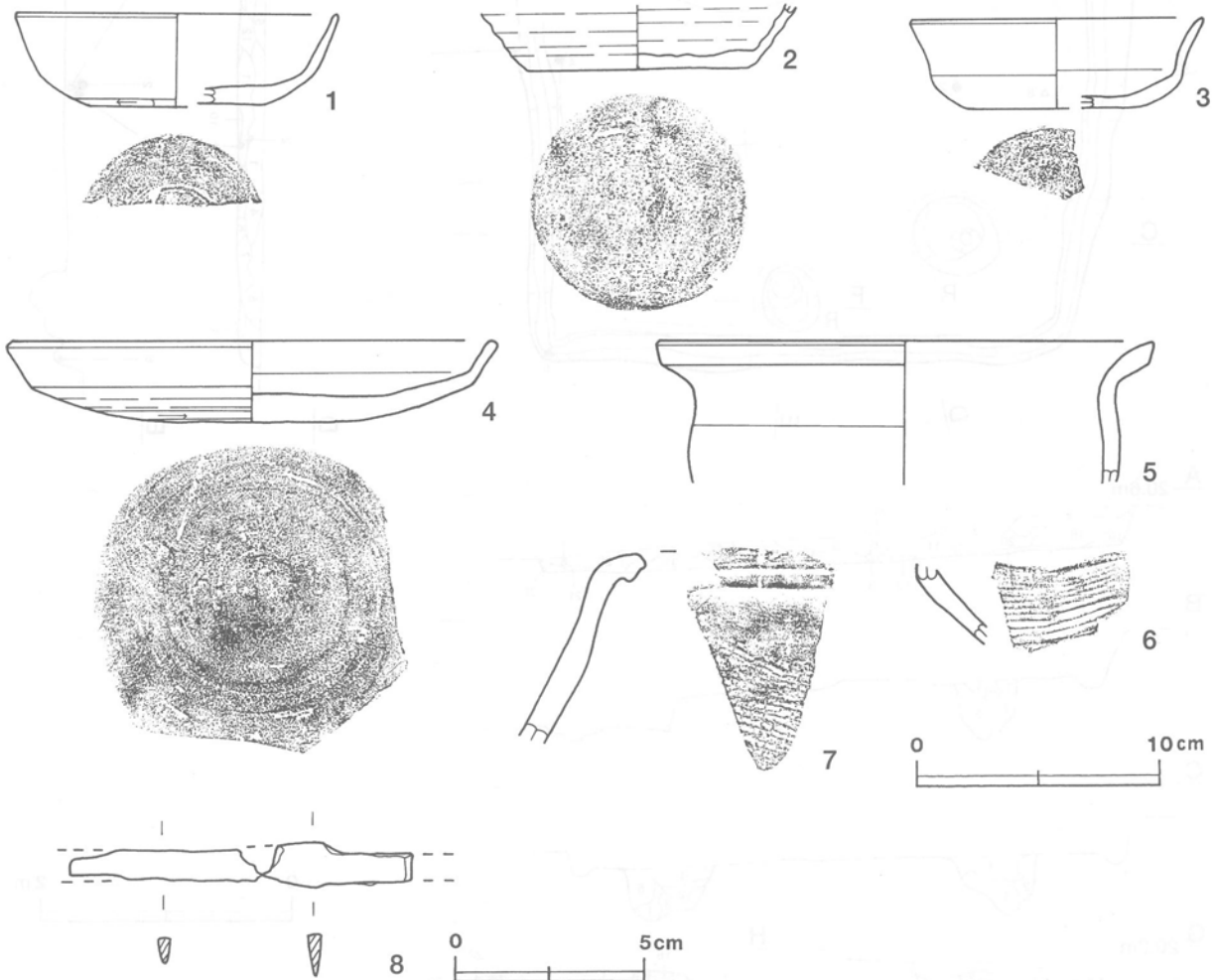


第536図 第1227号住居跡実測図

9	暗褐色	ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子・粘土小ブロック少量	16	暗褐色	焼土小ブロック中量, 焼土粒子・炭化物・粘土小ブロック・粘土粒子少量
10	黒色	炭化粒子多量, ローム小ブロック・炭化物・粘土粒子少量	17	にぶい黄褐色	粘土粒子中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
11	暗褐色	焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量	18	暗褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
12	暗褐色	ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量	19	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量
13	暗褐色	粘土小ブロック中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	20	暗褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
14	暗褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量	21	黒褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
15	暗褐色	粘土小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量	22	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片511点, 須恵器片110点, 鉄器1点(刀子), 鉄滓8点が出土している。第537図1の須恵器坏は北西コーナーの覆土下層から, 2の須恵器坏は西部の覆土下層から, いずれも逆位で出土している。3の須恵器坏は, 北西部の覆土中から出土している。4の須恵器盤は, 東部の覆土下層から逆位で出土している。5の土師器甕片は竈前の覆土下層から, 6の須恵器甕の体部片は南東コーナー部の壁溝底面から, 7の須恵器鉢の口縁部片はP4の覆土中から, それぞれ出土している。8の刀子は, 西部の覆土下層から破片で出土している。鉄滓は, 南東コーナー部の覆土下層から出土している。出土土器は細片のため, 図示は難しかった。

所見 本跡の時期は, 出土土器から8世紀中葉と考えられる。覆土中から鉄滓が出土しているため, 床面の精査したが, 鍛冶炉等は確認されなかった。



第537図 第1227号住居跡出土遺物実測図

第 1227 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 537 図 1	坏 須恵器	A [12.8] B 3.7 C [7.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。ロクロ目弱い。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母 黄灰色 普通	P 8472 15%
2	坏 須恵器	B (2.5) C 8.8	底部から体部下端にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色、普通	P 8473 30%
3	坏 須恵器	A [11.8] B 3.6 C [6.8]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部下端は丸味を帯び、内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反気味に立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	P 8474 10% P L 259
4	盤 須恵器	A [19.2] B 3.2	底部から口縁部にかけての破片。無台。体部は内彎気味に開き、屈曲して口縁部に至る。口縁部は外傾する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部、底部外面回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 黄灰色 普通	P 8475 30% P L 259
5	甕 土師器	A [19.6] B (5.7)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、頸部はくびれ、口縁部に至る。端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・石英 橙色 普通	P 8476 5%
6	甕 須恵器	B (2.4)	体部上位の破片。	体部外面横位の平行叩き、内面横ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 普通	T P 8401 5% P L 259
7	鉢 須恵器	B (7.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して直線的に立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は屈曲する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面格子目叩き、内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 灰黄色 普通	T P 8402 5% P L 259

図版番号	器種	計測値					材質	特徴	備考
		全長 (cm)	刀身長 (cm)	身幅 (cm)	重ね (cm)	茎長 (cm)			
第537図8	刀子	(9.1)	(6.8)	1.3	0.3	(2.3)	(7.2)	鉄	刃部、基部一部欠損。両区。M8414 40% P L 281

第1228号住居跡 (第538・539図)

位置 調査 8 区の南西部, O8g5区。

重複関係 北西壁部で第1236号住居跡を掘り込み, 第83・84・87号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.90m, 短軸4.65mの方形である。

主軸方向 N-90° - E

壁 壁高は 6 ~ 27cm で, 外傾して立ち上がる。

壁溝 北壁際と西壁際の一部で検出できた。上幅15~25cm, 下幅 3 ~ 18cm, 深さ10~14cm で, 断面形はU字形をしている。

床 ほぼ平坦で, 全面が踏み固められている。

竈 東壁の中央部やや南寄り, 袖部の残存と思われる砂質粘土と火床部が検出された。北袖部を第83号掘立柱建物の P 5 に掘り込まれているため, 遺存状態は悪く, 確認できた部分は袖部の下部である。確認できた規模は, 焚口部から煙道部まで75cm で, 両袖幅80cm である。火床部は赤変硬化している。天井部は確認できなかった。

竈土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 2 赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・灰中量, 炭化粒子少量
- 3 暗赤褐色 炭化粒子・灰中量, 焼土粒子・炭化物少量
- 4 赤褐色 焼土粒子・灰中量, 炭化材・炭化粒子少量
- 5 にぶい赤色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・灰中量, 焼土中ブロック少量

ピット 4か所 (P1~P4)。P1~P3は、径20~30cmの円形で、深さ16~23cmである。いずれも各コーナー寄りに位置し、規模と配置から主柱穴と考えられる。P4は、長径35cm、短径25cmの楕円形で、深さ26cmである。南壁からやや離れてはいるものの、位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 15層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 ローム小ブロック少量

2 黒褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

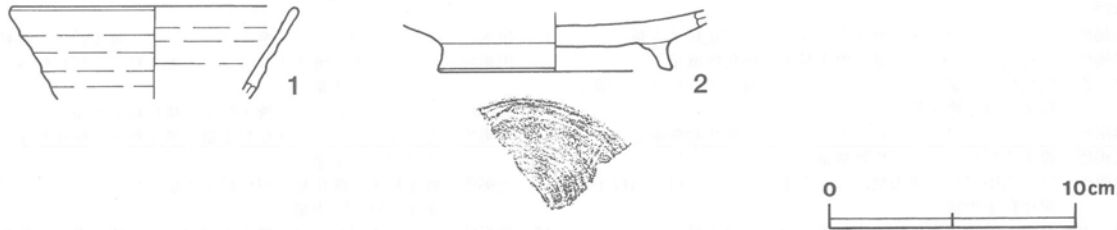


第538図 第1228号住居跡実測図

- | | | | |
|-------|------------------------------|---------|-----------------------------|
| 3 明褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック中量 | 9 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・砂質粘土小ブロック少量 | 10 黒褐色 | ローム小ブロック中量, 炭化物少量 |
| 5 黒色 | ローム小ブロック少量 | 11 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子少量 | 12 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子少量 |
| 7 黒褐色 | ローム小ブロック・炭化粒子少量 | 13 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, 焼土粒子少量 |
| 8 黒褐色 | 焼土粒子少量 | 14 暗褐色 | ローム小ブロック少量 |
| | | 15 黒褐色 | ローム小ブロック中量 |

遺物 土師器片91点, 須恵器片10点が出土している。第539図1の須恵器坏片, 2の須恵器盤片は, 竈北部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第539図 第1228号住居跡出土遺物実測図

第1228号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第539図 1	坏 須恵器	A [11.2] B (3.6)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	P8477 5%
2	盤 須恵器	B (2.4) D [9.4] E 1.2	高台部から体部にかけての破片。 体部は外傾して大きく開く。高台は「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付後, ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 暗灰褐色, 普通	P8478 10%

第1231号住居跡 (第540・541図)

位置 調査8区の南西部, O8a6区。

規模と平面形 長軸3.66m, 短軸2.90mの長方形である。

主軸方向 N-11° - E

壁 壁高は38~42cmで外傾して立ち上がる。

床 はほぼ平坦であり, 全体的に踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外に30cmほど掘り込み, 砂質粘土で構築されている。規模は, 焚口部から煙道部まで115cm, 両袖部幅113cmである。袖部は砂粒を多く含む粘土で芯を作り, それに砂質粘土と黒褐色土を貼り付けて構築している。天井部は崩落しており, 竈土層断面図中第9層が砂粒や粘土ブロックを多く含むことから, 崩落土と考えられる。火床部は, 床面を20cmほど掘りくぼめた後, 黒色土を貼り, 造られている。火床面は火熱を受け, 赤変硬化している。煙道はほぼ直立する。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------------------|---------|--------------------------------------|
| 1 黒色 | 焼土粒子少量, ローム小ブロック微量 | 7 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・砂粒少量 |
| 2 黒色 | 焼土小ブロック中量, 炭化粒子少量, 粘土小ブロック微量 | 8 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・砂粒・灰少量 |
| 3 黒褐色 | 焼土粒子中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・灰少量 | 9 黒褐色 | 砂粒多量, 粘土小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 にぶい赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 炭化粒子・粘土小ブロック少量 | 10 黒褐色 | 焼土粒子中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 5 黒褐色 | 焼土小ブロック中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 11 暗赤灰色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂粒・灰中量 |
| 6 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量 | 12 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量 |

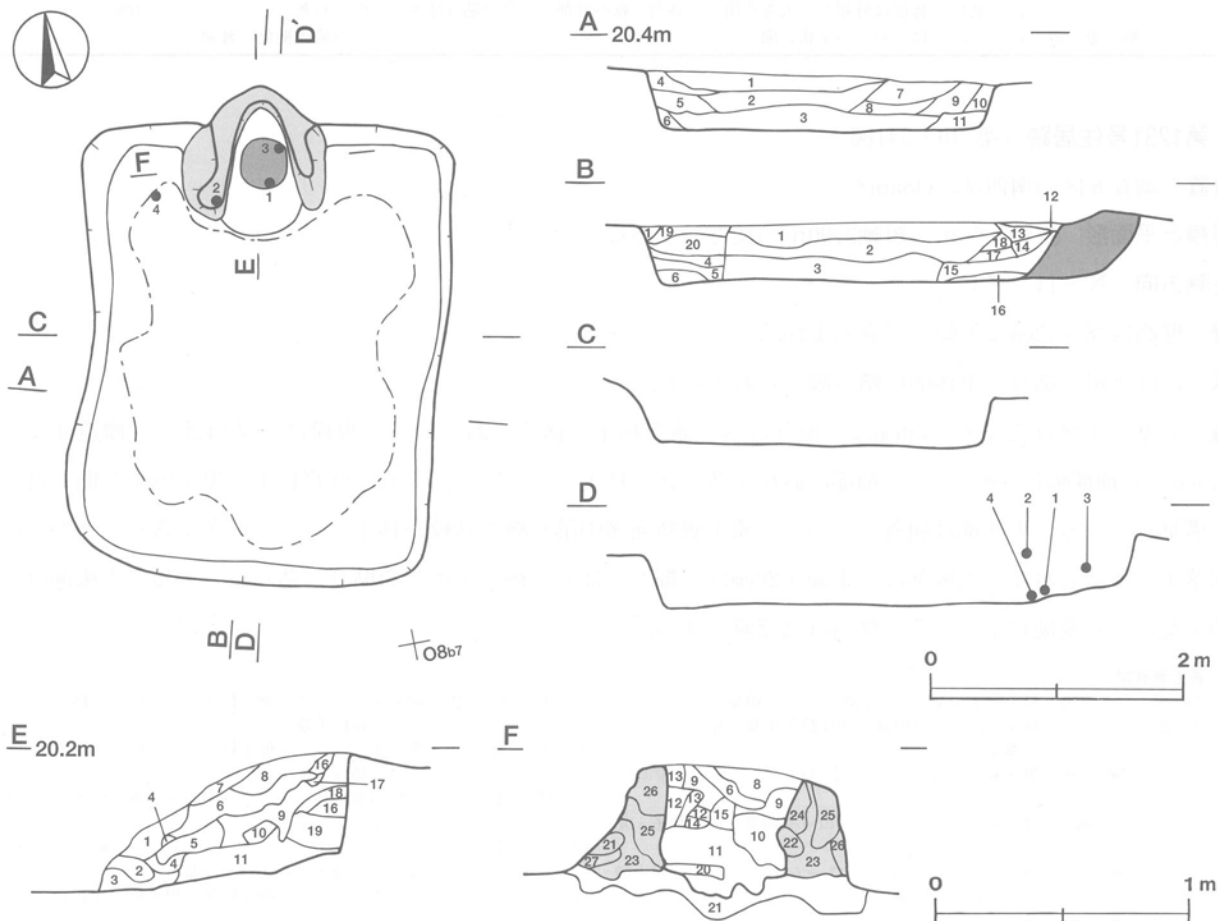
- | | | | |
|---------|------------------------------------|-----------|-----------------------------------|
| 13 赤黒色 | 焼土粒子・炭化粒子中量, 焼土小ブロック少量 | 20 にぶい赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・灰中量, 炭化物・炭化粒子少量 |
| 14 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量, 焼土小ブロック少量 | 21 黒色 | 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 15 黒褐色 | 炭化粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・粘土粒子・砂粒少量 | 22 にぶい赤褐色 | 砂粒多量, 焼土粒子中量 |
| 16 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂粒中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量 | 23 褐色 | 砂粒多量, 粘土粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 17 暗褐色 | 粘土粒子・砂粒中量, 焼土粒子少量 | 24 赤褐色 | 焼土粒子多量, 砂粒中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量 |
| 18 黒褐色 | 焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量, 炭化粒子微量 | 25 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量, 焼土小ブロック微量 |
| 19 黒褐色 | 砂粒中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量 | 26 黒褐色 | 焼土小ブロック・粘土粒子少量 |
| | | 27 にぶい黄褐色 | 砂粒多量 |

覆土 20層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------------------|--------|-------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量 | 12 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化物微量 | 13 黒褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量 |
| 3 黒色 | 炭化粒子中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量 | 14 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量 | 15 黒褐色 | 焼土小ブロック・炭化物中量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量 |
| 5 黒褐色 | 焼土小ブロック・炭化物微量 | 16 黒褐色 | 焼土粒子・炭化物・炭化粒子中量, ローム小ブロック・粘土小ブロック少量 |
| 6 暗褐色 | ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 17 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 7 黒色 | ローム粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量 | 18 黒褐色 | 焼土粒子・炭化物微量 |
| 8 黒色 | 焼土小ブロック微量 | 19 黒褐色 | ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 9 黒色 | ローム小ブロック・炭化物少量 | 20 黒褐色 | ローム小ブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化物微量 |
| 10 黒色 | ローム小ブロック少量 | | |
| 11 黒色 | ローム小ブロック・粘土小ブロック少量 | | |

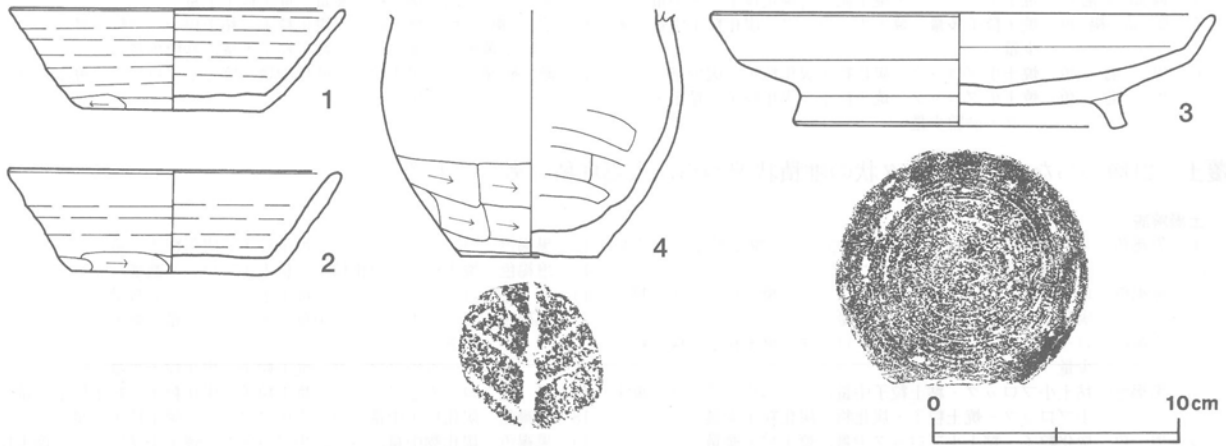
遺物 土師器片142点, 須恵器片70点, 鉄滓1点が出土している。第541図1の須恵器坏は, 竈内の覆土下層から正位で出土している。2の須恵器坏は, 竈西側の覆土上層から逆位で出土している。3の須恵器盤は, 竈内の覆土中層から斜位で出土している。4の土師器甕は, 北西コーナー部の床面から横位で出土している。鉄滓



第540図 第1231号住居跡実測図

1点が覆土中から出土しているが、鍛冶炉などは確認されなかった。

所見 本跡の時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第541図 第1231号住居跡出土遺物実測図

第1231号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第541図 1	坏 須恵器	A 13.2	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁端部は丸く収めている。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 黄灰色 普通	P 8293 70% P L 259
		B 4.1				
		C 7.0				
2	坏 須恵器	A 13.0	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁端部は丸く収めている。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色、普通	P 8294 60% P L 259
		B 4.1				
		C 8.0				
3	盤 須恵器	A 19.9	体部・口縁部一部欠損。高台はハの字状に開く。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色 普通	P 8295 65% P L 259
		B 4.5				
		D 13.2				
		E 1.4				
4	甕 土師器	B (9.8)	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	体部外面上位ナデ，下位横位のヘラ削り。内面ヘラナデ。底部木葉痕。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい赤褐色，普通	P 8292 60% P L 258
		C 5.4				

第1232号住居跡 (第542・543図)

位置 調査8区の南西部，O8a7区。

重複関係 北壁際で第108号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 床面の広がり及び土層断面中の壁の立ち上がりから，南北軸は3.30mで，東西軸は3.25mだけが確認できた。西北コーナー部が直角であることから方形または長方形と推定される。

主軸方向 N-10° - E

壁 壁高は46~52cmで，ほぼ直立する。

壁溝 西壁際で確認できた。規模は上幅14~20cm，下幅3~14cm，深さ約3cmで，断面はU字形である。

床 ほぼ平坦であり，中央部から竈付近にかけて踏み固められている。

竈 北壁の中央部を15cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで95cm，両袖部幅85cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中第3層が砂粒を多く含むことから，崩落土と考えられる。第4層は焼土小ブロックや焼土粒子を中量含み，下部が赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

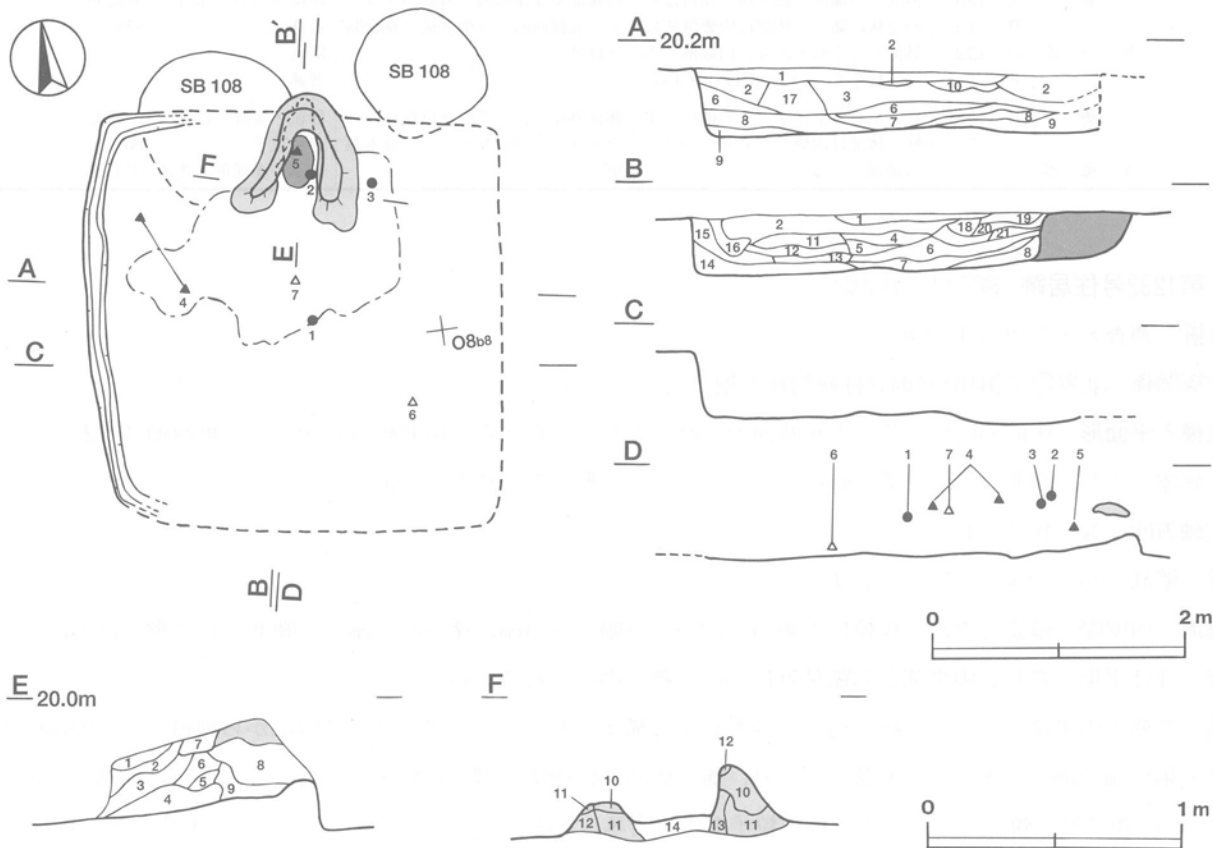
- | | | | |
|---------|--|-----------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化物・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土大ブロック・粘土中ブロック・砂粒少量 | 9 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子少量 |
| 3 黒褐色 | 砂粒多量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 10 黒褐色 | 粘土小ブロック・砂粒中量, 焼土粒子少量 |
| 4 極暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・灰中量 | 11 褐色 | 粘土粒子多量, 焼土粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・炭化粒子中量, 灰少量 | 12 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 |
| 6 黒褐色 | 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・灰少量 | 13 にぶい黄褐色 | 焼土粒子・粘土粒子中量, 砂粒少量 |
| 7 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土大ブロック・砂粒少量 | 14 暗赤褐色 | 炭化粒子・砂粒中量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量 |

覆土 21層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|--|--------|------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量 | 12 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土小ブロック少量 | 13 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 14 黒色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・灰微量 |
| 4 黒褐色 | 粘土小ブロック・粘土粒子中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量 | 15 黒褐色 | ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土小ブロック・灰微量 |
| 5 黒色 | 炭化粒子・粘土小ブロック少量, 焼土粒子微量 | 16 黒色 | ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 6 黒褐色 | 炭化粒子・粘土小ブロック少量 | 17 黒色 | ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 7 黒色 | 粘土粒子・灰中量, 焼土粒子少量 | 18 黒褐色 | 炭化粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子少量 |
| 8 黒褐色 | ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量 | 19 黒褐色 | 炭化物中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量 |
| 9 黒褐色 | 焼土粒子微量 | 20 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量, 粘土小ブロック微量 |
| 10 黒褐色 | 焼土粒子・砂粒中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量 | 21 黒褐色 | 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量, 粘土小ブロック微量 |
| 11 黒褐色 | 炭化粒子少量, 焼土粒子・ローム小ブロック・粘土小ブロック微量 | | |

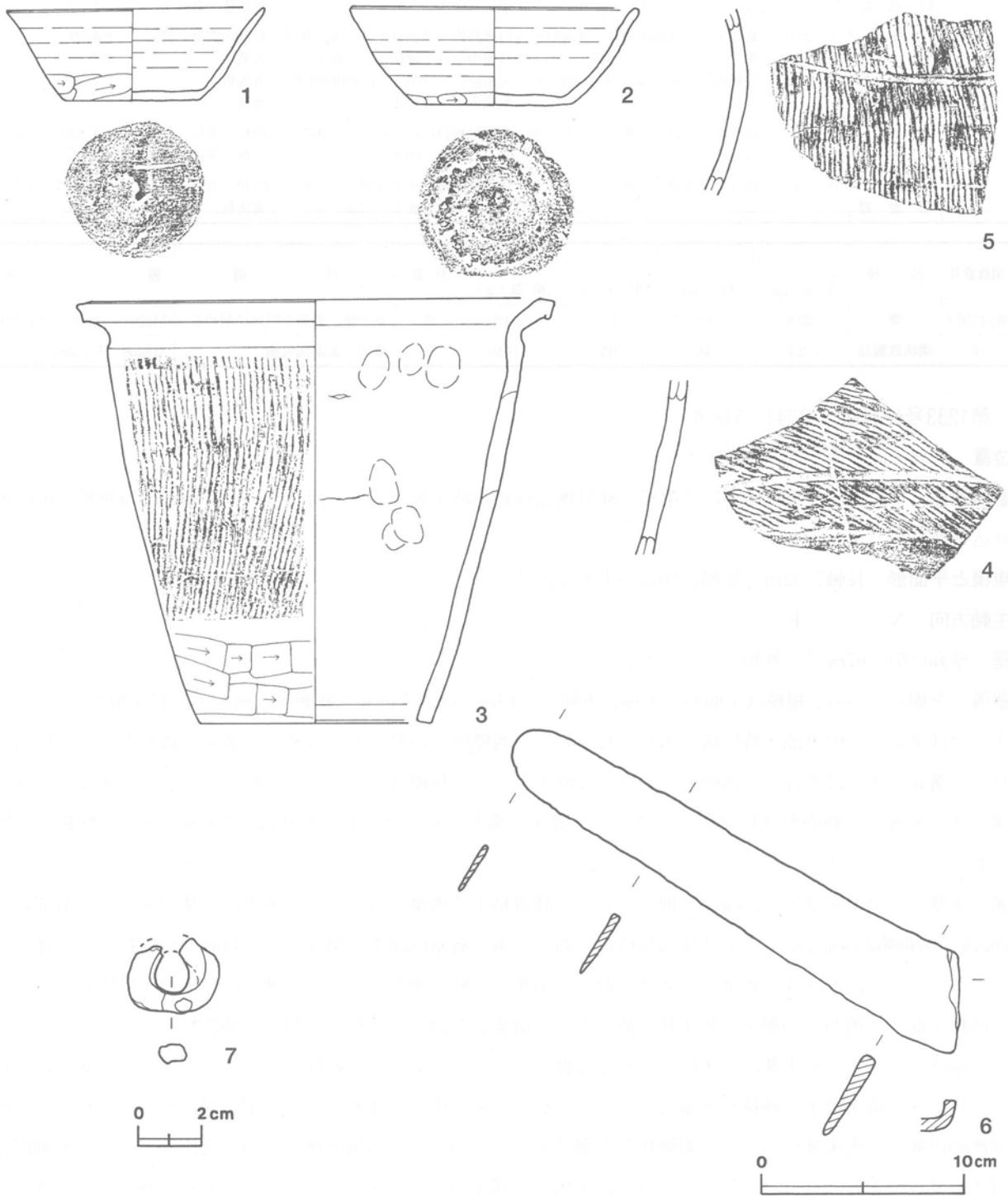
遺物 土師器片266点, 須恵器片262点, 鉄製品2点(鎌1, 環状鉄製品1)が出土している。第543図1の須恵器坏は, 中央部の覆土中層から斜位で出土したものと覆土中から出土した破片が接合したものである。2の須恵器坏は, 竈内から逆位で出土している。3の須恵器甕は, 竈東側の覆土上層から出土した破片数点が接合



第542図 第1232号住居跡実測図

したものである。4の須恵器甕体部片は、北西コーナー部の覆土上層から、5の須恵器甕体部片は、竈内からそれぞれ出土している。6の鎌は、南東コーナー部の覆土下層から出土している。7の環状鉄製品は、中央部の覆土上層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第543図 第1232号住居跡出土遺物実測図

第 1232 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第543図 1	坏 須恵器	A 12.3 B 4.5 C 6.6	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色、普通	P 8297 70% P L 260
2	坏 須恵器	A [13.6] B 4.7 C 7.5	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色、普通	P 8298 60% P L 259
3	甗 須恵器	A [21.6] B 20.4 C [11.2]	底部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部でくびれ、口縁部は外反する。端部は短く折り返されている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面中位以上縦位の平行叩き。下位横位のヘラ削り。内面指頭圧痕、輪積み痕を残すナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色 普通	P 8299 20% P L 259
4	甗 須恵器	B (8.3)	体部片。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面斜位の平行叩き。体部下端ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・雲母 灰色、普通	T P 8206 10% P L 259
5	甗 須恵器	B (8.3)	体部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面縦位の平行叩き。平行した2条のナデ痕有。内面ナデ。	砂粒・雲母 黄灰色、普通	T P 8207 10% P L 259

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第543図6	鎌	25.8	4.8	0.7	204.0	鉄	直刃鎌。先端を円頭に収める。	M8207 100% P L 281
7	環状鉄製品	(2.4)	3.0	0.7	(9.9)	鉄	環状。先端部欠損。	M8209 P L 283

第1233号住居跡 (第544~548図)

位置 調査8区の南西部, O8e7区。

重複関係 中央部から東部にかけて第85・86号掘立柱建物跡を掘り込み、南西コーナー一部が第1238号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸7.22m, 短軸7.10mの方形である。

主軸方向 N - 2° - E

壁 壁高は64~67cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。規模は上幅32~53cm, 下幅5~15cm, 深さ5cmで、断面形は緩やかなU字形をしている。

床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。西壁際からP4方向に延びる溝a・溝bの2条が検出された。溝a・溝bは並行で、西壁に対してほぼ直角である。規模は、いずれも上幅13~18cm, 下幅5~8cm, 深さ4~8cmで、断面形はU字形をしている。溝a・溝bの長さはそれぞれ80cm・110cmである。性格は不明である。

竈 北壁の中央部を壁外へ70cmほど掘り込んで、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで202cm, 両袖幅253cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、第3・4・11層は砂質粘土が主体の層であることから、天井部の崩落土と考えられる。袖部は良好に遺存している。袖部は、黒色土に灰褐色の粘土と砂粒を混ぜた第25~29層を、版築状に積み上げて構築し、内側にはにぶい褐色の砂質粘土ブロックを貼り付けて補強している。火床部は、床面から約12cm掘りくぼめられており、皿状をしている。第30・31層では、焼土ブロック・焼土粒子・砂粒が多量で、どちらの層にも灰が中量含まれている。第32層は厚さ5~12cmで、西袖部の内側から火床部にかけて赤変硬化した層である。このことから第32層の下面が火床面であり、長期間使用されていたと考えられる。第33・34層は、火床部の構築時に埋め土した層と考えられる。煙道は火床面から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 黒色 砂粒中量, 炭化物・炭化粒子・粘土粒子少量
- 2 黒褐色 焼土小ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化材・炭化物・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量

3	黒 褐 色	焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
4	暗 赤 褐色	粘土粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・砂粒少量
5	にぶい赤褐色	粘土粒子・砂粒中量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子・灰少量
6	黒 褐 色	炭化粒子・灰多量, 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物少量
7	灰 褐 色	灰多量, 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
8	灰 褐 色	灰多量, 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
9	にぶい褐色	砂粒多量, 焼土粒子・炭化物少量
10	暗 赤 褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・灰中量, 砂粒少量
11	褐 色	砂粒多量, 粘土粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
12	にぶい赤褐色	焼土粒子・砂粒多量, 粘土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
13	にぶい赤褐色	砂粒多量, 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・粘土粒子少量
14	にぶい赤褐色	砂粒多量, 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量
15	暗 赤 褐色	砂粒多量, 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子少量
16	暗 赤 褐色	焼土粒子・炭化粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物・粘土小ブロック・粘土粒子少量
17	黒 褐 色	焼土粒子中量, 炭化粒子・砂粒少量
18	にぶい赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒中量, 炭化物・粘土粒子少量
19	にぶい赤褐色	砂粒多量, 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
20	にぶい赤褐色	焼土粒子多量, 砂粒中量, 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・粘土粒子・灰少量
21	灰 赤 色	焼土粒子・灰多量, 焼土小ブロック・砂粒中量, 炭化物・炭化粒子少量
22	にぶい赤褐色	焼土粒子多量, 砂粒・灰中量, 炭化物・粘土粒子少量
23	にぶい褐色	粘土粒子多量, 砂粒中量, 炭化物・炭化粒子少量
24	にぶい褐色	粘土粒子多量, 砂粒中量, 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
25	黒 褐 色	粘土粒子多量, 炭化物・炭化粒子中量, 焼土粒子・砂粒少量
26	黒 褐 色	炭化粒子・粘土粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・砂粒少量
27	褐 色	砂粒多量, 粘土粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
28	黒 褐 色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
29	暗 褐 色	砂粒中量, 焼土中ブロック・焼土小ブロック・粘土大ブロック・粘土小ブロック少量
30	にぶい赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒・灰中量
31	暗 赤 褐色	焼土粒子・砂粒多量, 焼土小ブロック中量, 焼土中ブロック・灰少量
32	にぶい赤褐色	焼土粒子多量, 焼土小ブロック・砂粒・灰中量, 焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子少量
33	にぶい赤褐色	焼土粒子多量, 焼土小ブロック・砂粒・灰中量, 炭化物・炭化粒子少量
34	灰 赤 色	灰多量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量, 焼土中ブロック・炭化物・粘土中ブロック・粘土小ブロック少量
35	灰 褐色	粘土粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂粒少量
36	にぶい黄褐色	粘土粒子多量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂粒少量
37	暗 褐 色	粘土粒子多量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土大ブロック少量
38	灰 褐 色	ローム粒子・粘土粒子中量, 炭化粒子少量
39	暗 赤 褐色	砂粒多量, 焼土粒子中量, 炭化粒子少量

ピット 20か所 (P1～P20)。P1～P4は、径45～60cmのほぼ円形で、深さ38～63cmである。いずれも各コーナー寄りに位置し、規模と配置から支柱穴と考えられる。P5・P6は、径55・35cmの円形で、深さ43・48cmであり、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P7・P8は、径40・36cmの円形で、深さ18・31cmであり、位置的にP4の補助柱穴の可能性はある。各壁際にほぼ等間隔に検出されたP9～P20は、径20～30cmで、深さ15～30cmであり、位置的に壁柱穴の可能性はある。P1～P5の土層断面中の第1・2層は、しまりがやや弱く、規模と形状から、柱の抜き取り痕と思われる。また、P1～P8の埋土から、粘土ブロック・粘土粒子が検出されている。用途は不明である。

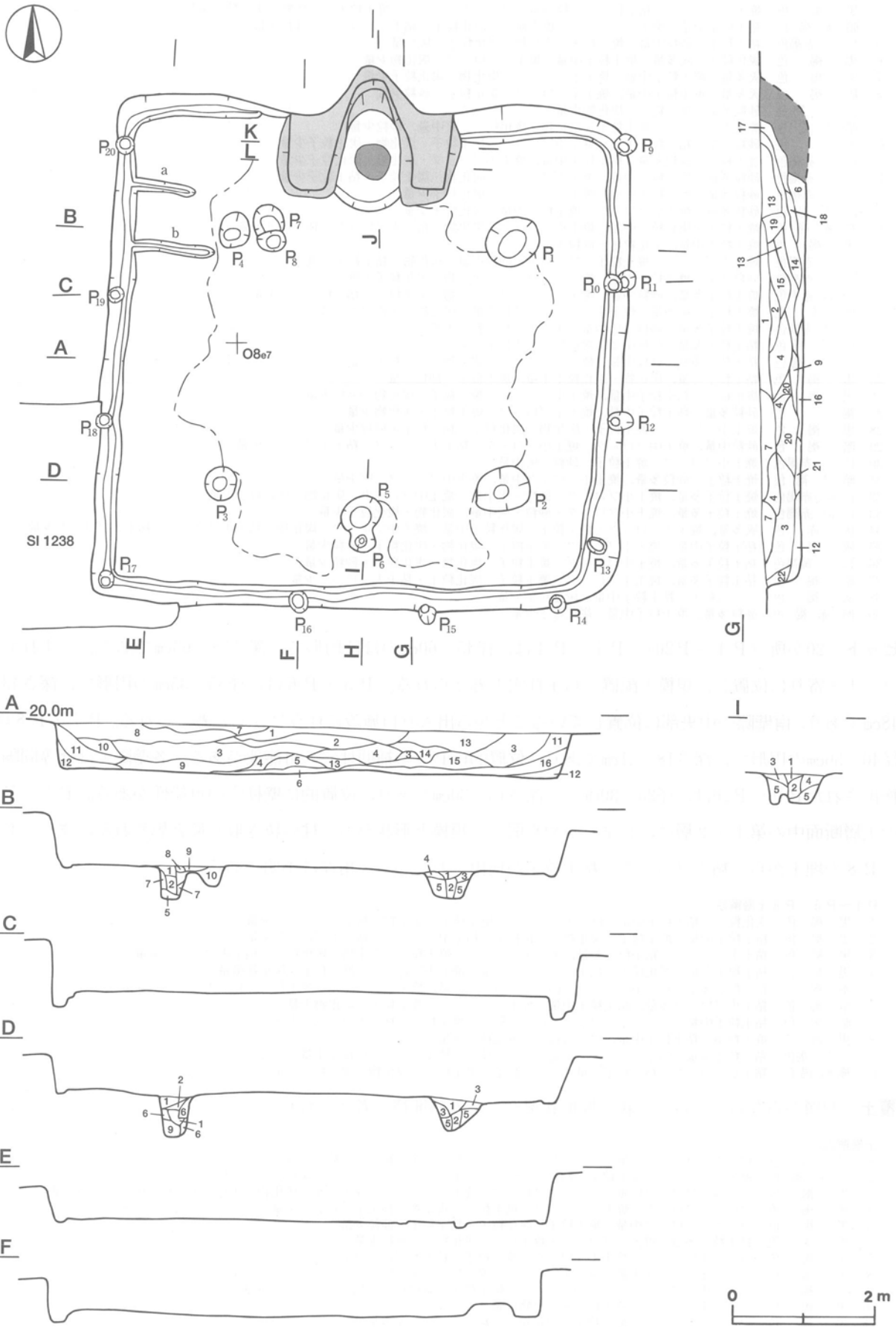
P1～P6・P8土層解説

1	黒 褐 色	炭化粒子・粘土粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・粘土小ブロック少量
2	黒 褐 色	粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土中ブロック・粘土小ブロック少量
3	黒 褐 色	粘土小ブロック・粘土粒子多量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土中ブロック少量
4	黒 褐 色	粘土粒子多量, 炭化粒子・粘土小ブロック少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
5	暗 褐 色	粘土粒子多量, 粘土中ブロック・粘土小ブロック中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土大ブロック少量
6	暗 褐 色	粘土小ブロック多量, 粘土粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
7	暗 褐 色	粘土粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・粘土小ブロック少量
8	黒 褐 色	焼土粒子・粘土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量
9	にぶい褐色	粘土粒子多量, 粘土小ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
10	極 暗 褐色	粘土小ブロック・粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量

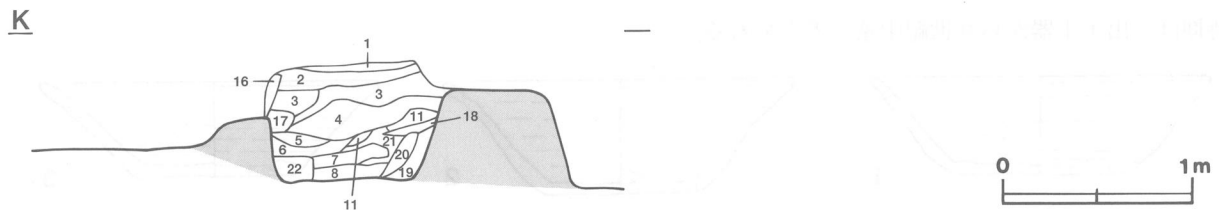
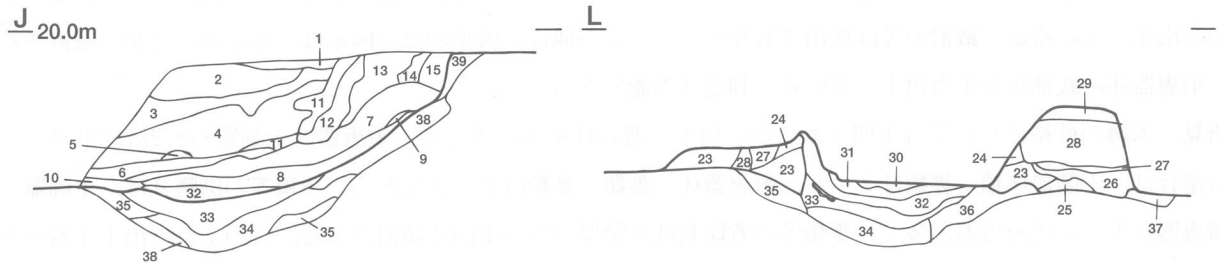
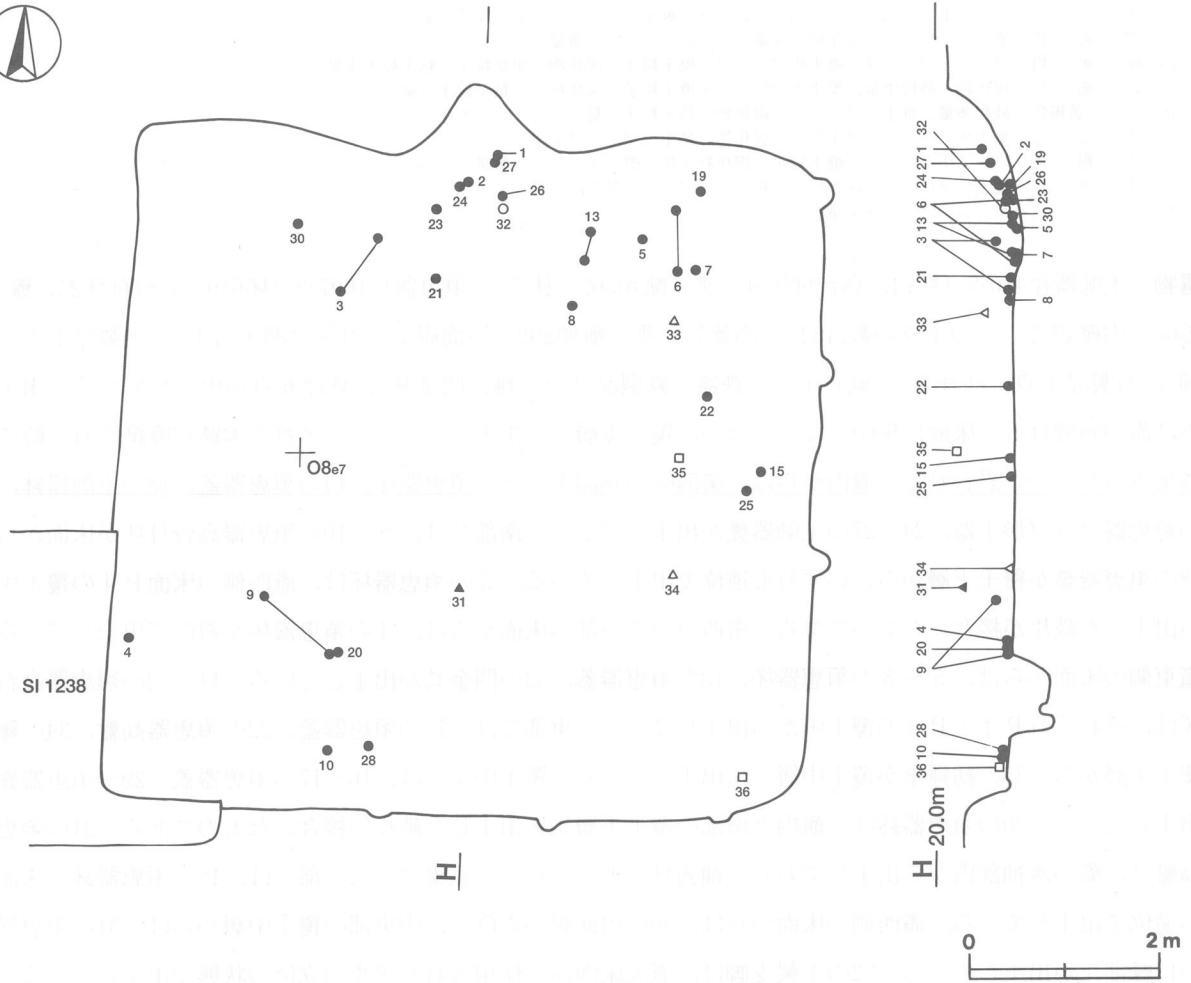
覆土 22層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒 褐 色	ローム小ブロック・焼土小ブロック中量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
2	暗 赤 褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック中量, ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
3	黒 褐 色	ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土中ブロック少量
4	黒 褐 色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・粘土小ブロック少量
5	黒 褐 色	ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
6	黒 褐 色	粘土粒子多量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
7	黒 褐 色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック少量
8	黒 褐 色	ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量
9	黒 褐 色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量
10	黒 褐 色	ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
11	黒 褐 色	ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量
12	黒 褐 色	ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化物・粘土小ブロック少量
13	黒 褐 色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・粘土粒子少量



第544图 第1233号住居跡实测图(1)

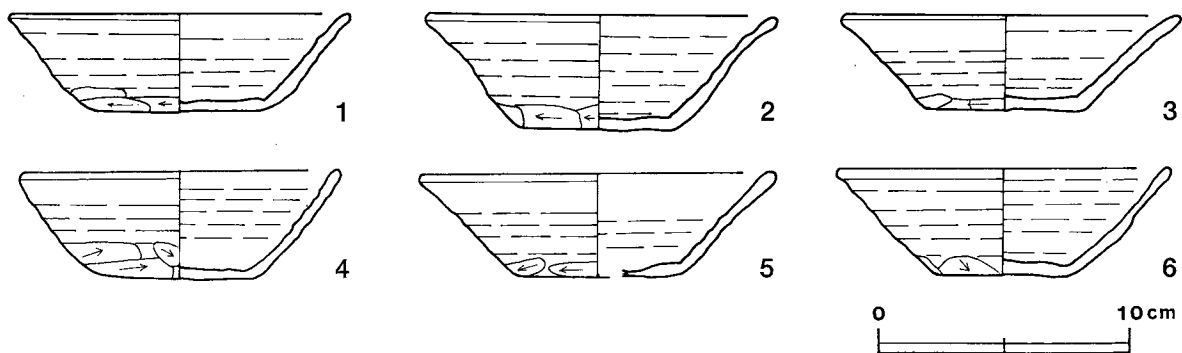


第545图 第1233号住居跡实测图(2)

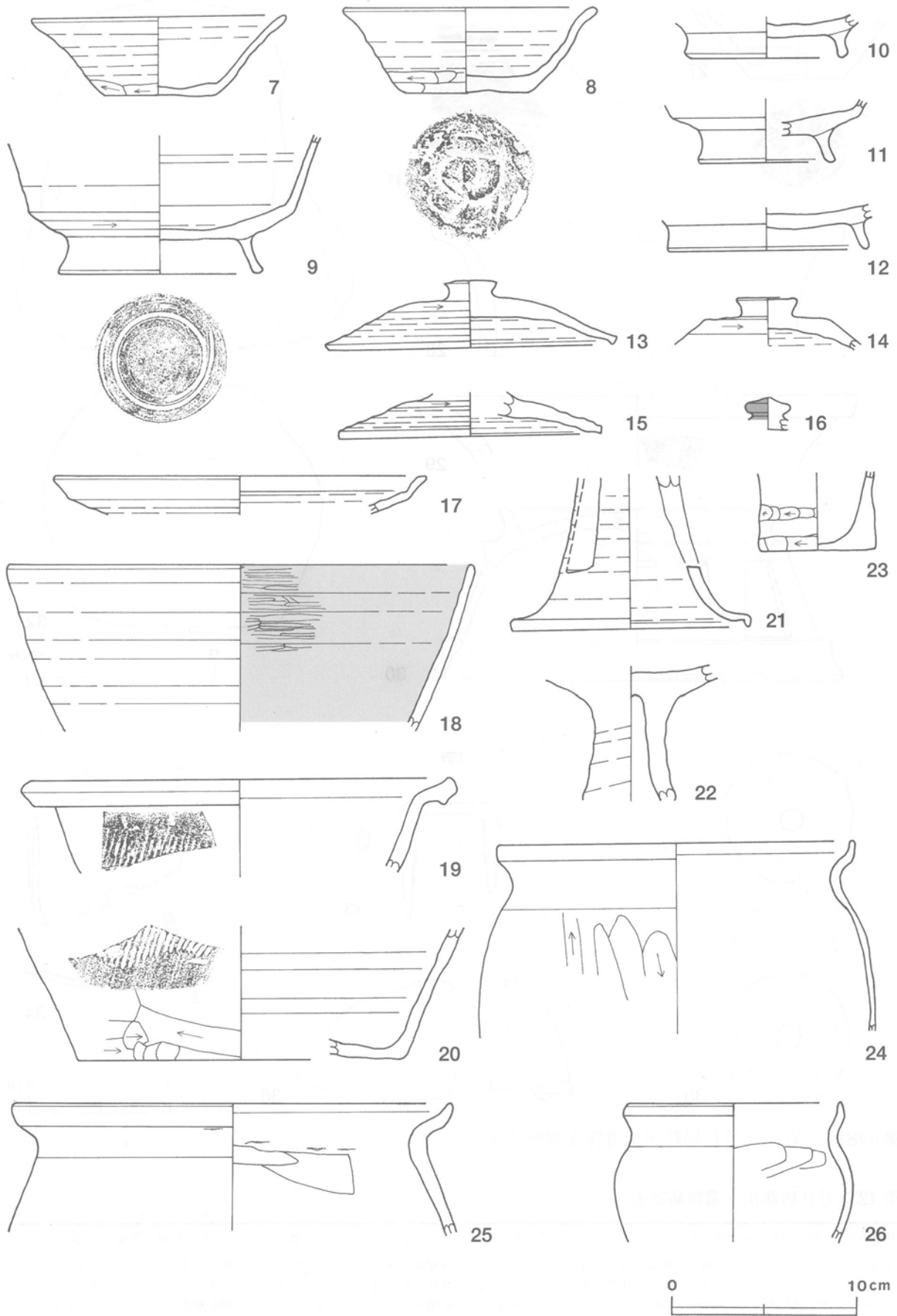
- 14 黒 褐 色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 15 黒 褐 色 焼土小ブロック・炭化粒子少量、ローム小ブロック微量
- 16 暗 褐 色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子少量
- 17 暗 褐 色 炭化物・砂粒中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 18 にぶい黄褐色 砂粒多量、焼土小ブロック・炭化物・粘土粒子少量
- 19 黒 褐 色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・粘土小ブロック少量
- 20 黒 褐 色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量、焼土小ブロック微量
- 21 黒 褐 色 焼土小ブロック・炭化粒子・粘土大ブロック・粘土小ブロック少量
- 22 黒 色 ローム小ブロック少量

遺物 土師器片450点（坏74，高台付坏9，甕・甌類362，鉢5），須恵器片1007点 {坏610，高台付坏25，盤6，蓋60（内確認できたつまみの数は11），高盤12，甕・甌類292，円面硯2，コップ形土器1}，土製品1点（支脚），石製品1点（紡錘車），砥石1点，鉄器・鉄製品2点（鎌，門金具），鉄滓6点が出土している。出土遺物は竈の両側付近の床面に集中しているほか，覆土下層から出土している。いずれも本跡が廃絶される時に，遺棄されたものと思われる。竈内からは，第546～548図1・2の須恵器坏，14の須恵器蓋，18の土師器鉢，23の須恵器コップ形土器，24～27の土師器甕が出土している。南部では，9・10の須恵器高台付坏が床面から，28の須恵器甕が覆土下層から，いずれも逆位で出土している。3の須恵器坏は，竈西側の床面P4の覆土中から出土した破片が接合したものである。南西コーナー部の床面からは，4の須恵器坏が斜位で出土している。竈東側の床面からは，5～8の須恵器坏，13の須恵器蓋，33の門金具が出土している。11・12の須恵器高台付坏は，それぞれP4・P3の覆土中から出土している。東部では，15の須恵器蓋，22の須恵器高盤，34の鎌が覆土下層から，35の紡錘車が覆土中層から出土している。覆土中からは，16・17の須恵器蓋，29の須恵器甕が出土している。20の須恵器鉢は，竈内と南部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。21の須恵器高盤は，竈の西袖部内から出土しており，補強材と考えられる。北東コーナー部では，19の須恵器鉢が床面から逆位で出土している。竈西側の床面からは，30の円面硯が正位で，中央部の覆土中層からは，31の須恵器甕の口縁部片が出土している。32の土製支脚は，竈火床面から使用されたままの立位の状態で出土している。36の砥石は，南東コーナー部の床面から出土している。鉄滓は竈東袖部前の覆土下層から1点，その他は覆土中から出土しているが，鍛冶炉等は検出されなかった。その他に，破片のため図示はできなかったが，墨書された須恵器坏の底部片が1点出土している。判読は不能である。

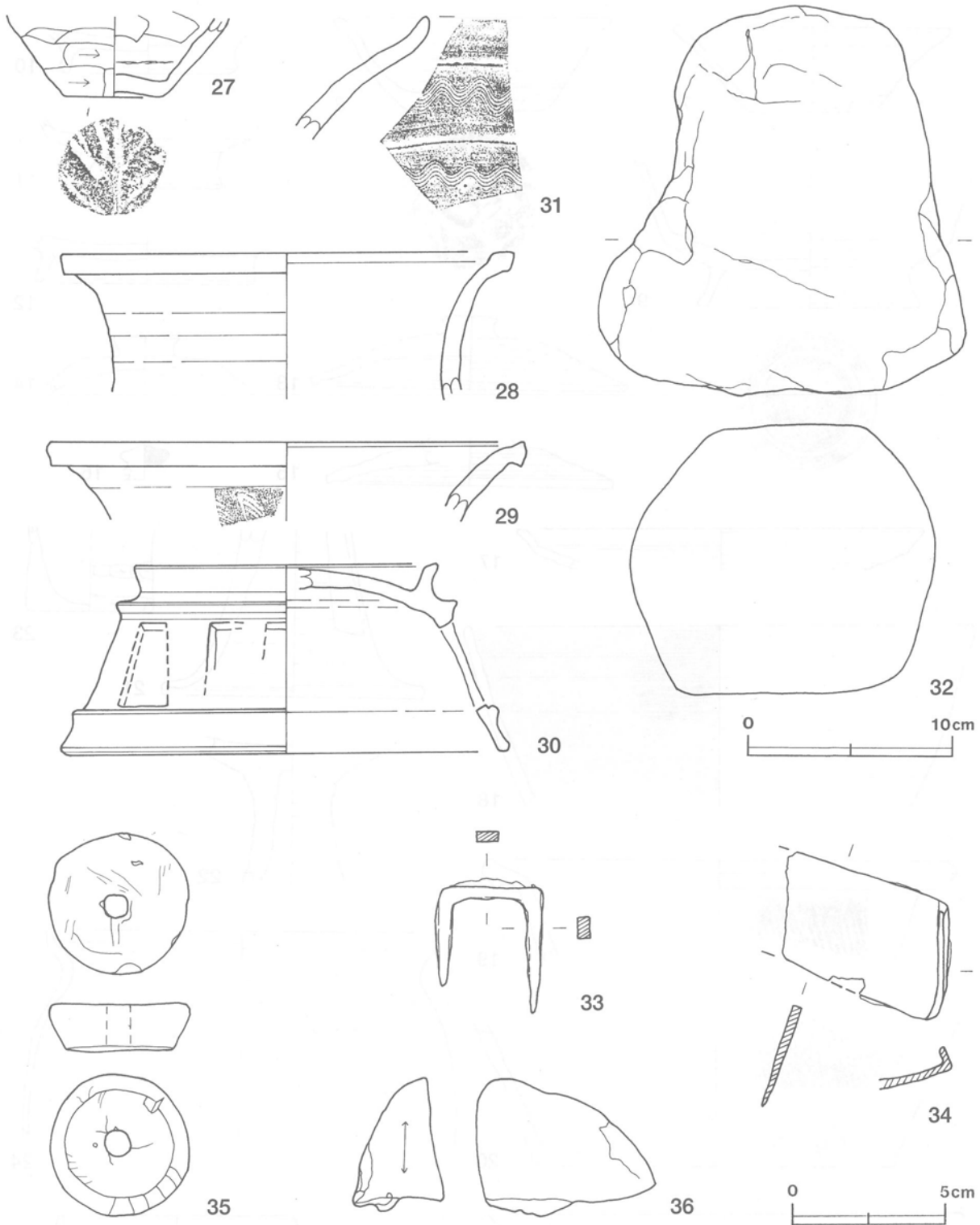
所見 本跡の性格については不明であるが，出土土器の比率からみると，須恵器は土師器の2.2倍であり，その割合は，土師器坏類：甕類は2：8，須恵器坏・蓋類：甕類は7：3である。坏類等の供膳具は，土師器：須恵器が1：8で須恵器が多く，甕類等の煮炊具は土師器がやや上回る傾向がある。このように出土土器が多量であり，供膳具の割合が高いことから一般の住居とは言い難い。また，隣接している掘立柱建物跡群とは，主軸方向がほぼ一致していることから，ほぼ同時期に存在したと考えられ，本跡とも係わりがあると思われる。時期は，出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第546図 第1233号住居跡出土遺物実測図（1）



第547图 第1233号住居跡出土遺物実測図(2)



第548図 第1233号住居跡出土遺物実測図(3)

第1233号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第546図 1	坏 須恵器	A [13.6] B 3.9 C [6.6]	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部下端にやや丸味をもち、 外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロナデ。 体部下端手持ヘラ削り。底部回 転切り離し痕を残す1方向のヘラ 削り。	砂粒・雲母・長石・ 石英 明赤褐色 普通	P 8485 40% P L 260

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考					
第546図 2	坏 須恵器	A [14.0]	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は外傾して立ち上がり、 口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。 体部下端手持ちヘラ削り。底部回 転切り離し痕を残すヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・ 石英 灰黄褐色 普通	P8484 60% P L 260					
		B 4.6									
		C [6.2]									
		3					A 13.2	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は外傾して立ち上がり、 口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。 体部下端手持ちヘラ削り。底部回 転切り離し痕を残す1方向のヘラ 削り。	砂粒・雲母・長石・ 石英 灰色 普通	P8486 70% P L 260
		B 3.9									
C 6.3											
4	A 12.8	完形。平底。体部は外傾して立ち 上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。 体部下端手持ちヘラ削り。底部回 転切り離し痕を残す1方向のヘラ 削り。	砂粒・雲母・長石・ 石英 褐灰色 普通	P8487 100% P L 260						
B 4.4											
C 6.0											
5	A [14.2]					底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は外傾して立ち上がり、 口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。 体部下端手持ちヘラ削り。底部1 方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・ 石英 黄灰色，普通	P8488 45% P L 260		
B 4.1											
C [6.4]											
6	A 13.4	口縁部一部欠損。平底。体部は外 傾して立ち上がり，口縁部はわず かに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。 体部下端手持ちヘラ削り。底部回 転切り離し痕を残す1方向のヘラ 削り。	砂粒・雲母・石英 黄灰色 普通	P8489 90% P L 260						
B 4.3											
C 5.4											
第547図 7	A 13.9					体部，口縁部一部欠損。平底。体 部は外傾して立ち上がり，口縁部 はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。 体部下端手持ちヘラ削り。底部回 転切り離し痕を残す1方向のヘラ ナデ。	砂粒・雲母・長石・ 石英 黄灰色 普通	P8490 85% P L 260		
B 4.4											
C 6.0											
8	A [13.3]	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は外傾して立ち上がり、 口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。 体部下端手持ちヘラ削り。底部回 転切り離し痕を残す回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・ 石英 灰白色，普通	P8491 50% P L 260						
B 4.6											
C 6.7											
9	B (7.5)					口縁部欠損。体部は下位に稜を有 し外傾して立ち上がり，口縁部に 至る。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。 底部回転ヘラ削り。高台貼り付け 後，ナデ。	砂粒・雲母・長石・ 石英 黄灰色，普通	P8492 80% P L 260		
D 10.8											
E 2.0											
10	B (2.2)	高台部から体部下端にかけての破 片。高台はわずかに「ハ」の字状 に開く。	底部回転ヘラ削り。高台貼り付け 後，ナデ。	砂粒・雲母・長石・ 石英 灰黄色，普通	P8493 15%						
D [8.2]											
E 1.5											
11	B (3.3)					高台部から体部下端にかけての破 片。体部は底部から屈曲して立ち 上がる。高台は「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回 転ヘラ削り。高台貼り付け後，ナ デ。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	P8494 10% P L 260		
D [7.2]											
E 1.8											
12	B (2.4)	高台部から体部下端にかけての破 片。高台はわずかに「ハ」の字状 に開く。	底部回転ヘラ削り。高台貼り付け 後ナデ。	砂粒・雲母・石英 褐灰色 普通	P8495 5%						
D [10.6]											
E 1.3											
13	A [15.4]					体部，口縁部一部欠損。天井部は 丸珠を帯び，外周部はなだらかに 下降する。口縁部は屈曲し，端部 は短く垂下する。つまみは腰高の 擬宝珠状を呈する。	天井部は回転ヘラ削り。外周部・ 口縁部ロクロナデ。ロクロ目弱い。	砂粒・雲母・長石・ 石英 灰色 普通	P8496 65% P L 260		
B 3.6											
F 2.9											
G 1.1											
14	B (2.9)	天井部から外周部にかけての破片。 天井部は頂部が平坦で，外周部は なだらかに下降する。つまみは腰 高の擬宝珠状を呈する。	天井部は回転ヘラ削り。外周部ロ クロナデ。	砂粒・雲母・長石・ 石英 灰色 普通	P8497 10% P L 260						
F 2.8											
G 1.1											
15	A [14.2]					天井部から口縁部にかけての破片。 天井部からなだらかに下降し，口 縁部に至る。口縁部は短く垂下する。	天井部は回転ヘラ削り。外周部ロ クロナデ。	砂粒・雲母・石英 灰色 普通	P8498 10%		
B (2.3)											
16	B (1.8)	つまみの破片。擬宝珠状を呈する。	ロクロナデ。	緻密 胎土 灰白色 釉 灰オリーブ色 良好	P8500 5%						
F 2.4											
G 1.1											
17	A [20.0]					体部から口縁部にかけての破片。体 部は外傾して開き，屈曲して口縁部 に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母 灰色 普通	P8499 5%		
B (2.1)											

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第547図 18	鉢 土師器	A [25.0] B (9.0)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラナデ、内面横位のヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子にぶい橙色、普通	P 8502 5%
19	鉢 須恵器	A [22.6] B (5.2)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部で屈曲する。口縁端部は角張る。	口縁部、頸部内・外面口クロナデ。体部外面縦位の平行叩き、内面横ナデ。	砂粒・雲母 灰色 普通	P 8512 5%
20	鉢 須恵器	B (7.2) C [17.6]	底部から体部下端にかけての破片。平底。体部は外傾して直線的に立ち上がる。	体部外面縦位平行叩き、下端横位のヘラ削り、内面横ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色、普通	P 8503 10%
21	高盤 須恵器	B (8.2) D [12.7]	脚部片。脚部はラッパ状に開き、裾部は屈曲して下方へ垂下し、端部は尖る。三方に長方形の透かし孔。	脚部内・外面口クロナデ。透かし孔はヘラ切り。	砂粒・雲母・石英 灰黄褐色 普通	P 8504 10% P L 260
22	高盤 須恵器	B (7.3)	脚部片。脚部は筒状を呈する。	脚部内・外面口クロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色、普通	P 8505 15% P L 260
23	コップ形土器 須恵器	B (4.2) C 6.3	底部から体部下半にかけての破片。平底。体部は直立する。	体部外面横位のヘラ削り、内面横ナデ。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色、普通	P 8506 5% P L 260
24	甕 土師器	A [19.0] B (10.2)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、頸部でゆるやかにくびれ、口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り、内面横ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 橙色 普通	P 8507 5% P L 259
25	甕 土師器	A [23.4] B (6.9)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、頸部でゆるやかにくびれ、口縁部は外反する。端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部内・外面に輪積み痕を残す。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P 8508 5% P L 260
26	甕 土師器	A 11.4 B (7.5)	体部上半の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、頸部でゆるやかにくびれ、口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・石英 明赤褐色 普通	P 8509 20%
第548図 27	甕 土師器	B (4.0) C 4.8	底部から体部下端にかけての破片。	体部外面下端横位のヘラ削り、内面ヘラナデ。底部木葉痕。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい赤褐色、普通	P 8510 5%
28	甕 須恵器	A [22.2] B (7.2)	頸部から口縁部にかけての破片。頸部は外反して立ち上がり、口縁部に至る。口縁端部は角張る。	口縁部、頸部内・外面口クロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰褐色、普通	P 8511 5%
29	甕 須恵器	A [23.4] B (3.9)	頸部から口縁部にかけての破片。頸部は外反して立ち上がり、口縁部に至る。口縁端部は下方に突出する。	口縁部、頸部内・外面口クロナデ。頸部外面に櫛描波状文が施されている。	砂粒・雲母・長石 灰色 良好	P 8513 5%
30	円面碗 須恵器	A [14.8] B [9.3] C [21.2]	脚部、硯面部一部欠損。脚部は「ハ」の字状に開き、台形状の透かし孔が不規則に並ぶ。裾部は折り返され、隆帯1条が巡る。縁部は脚部との境に稜を有し、「く」の字状に外傾して立ち上がる。硯面は扁平のドーム形を呈する。	硯面ナデ。海から縁部内・外面、脚部口クロナデ。透かし孔はヘラ切り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色 普通	P 8515 35% P L 260 内面に自然釉
31	甕 須恵器	B (6.1)	口縁部片。口縁部は外反して開き、端部は外上方に外傾する。	口縁部内・外面口クロナデ。外面に2条の隆線で区画された、6条1単位の櫛描波状文が2段施されている。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 良好	T P 8410 5% P L 260

図版番号	器種	計測値			特徴	胎土・色調	備考
		長さ (cm)	径 (cm)	重量 (g)			
第548図32	土製支脚	19.1	15.1	3490.0	裾部がやや広がる円柱状。ナデ。	砂粒・雲母・長石、にぶい褐色	DP 8411 100% P L 280

図版番号	器 種	計 測 値				材 質	特 徴	備 考	
		全長 (cm)	幅 (cm)	厚み (cm)	重量 (g)				
第548図33	門 金 具	(4.2)	3.4	0.3~0.7	(9.8)	鉄	形状は「コ」の字形で、断面は長方形。	M8415 80% P L281	
図版番号	器 種	計 測 値				材 質	特 徴	備 考	
		全長 (cm)	背幅 (cm)	刃幅 (cm)	重量 (g)				
第548図34	鎌	(6.3)	0.3	3.9	(27.1)	鉄	刃部一部欠損。着柄部は全体が折り曲げられている。	M8416 20% P L283	
図版番号	器 種	計 測 値					石 質	特 徴	備 考
		最大径 (cm)	最小径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第548図35	紡 錘 車	4.6	3.5	1.5	0.8	54.9	蛇紋岩	断面逆台形。無文で表面は研磨。	Q8402 100% P L284
図版番号	器 種	計 測 値				石 質	特 徴	備 考	
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)				
第548図36	砥 石	4.4	6.0	3.0	53.7	凝灰岩	破片。砥面1面。	Q8403 30%	

第1234号住居跡 (第549・550図)

位置 調査8区の南西部, O8c6区。

重複関係 西部で第1227号住居跡を掘り込み、南西部が第882号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.03m, 短軸3.56mの長方形である。

主軸方向 N-6°-W

壁 壁高は49~56cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。規模は上幅15~25cm、下幅4~12cm、深さ4~6cmで、断面形はU字形をしている。

床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外へ73cmほど掘り込んで、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで105cm, 両袖幅115cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、第5~7層には赤変硬化した粘土粒子・砂粒が含まれていることから、これらの層が天井部の崩落土と考えられる。袖部は良好に遺存しており、内側は火熱を受けて赤変硬化している。火床部は、床面から約4cm掘りくぼめられており、皿状をしている。煙道は火床面から内彎気味に立ち上がる。

竈土層解説

1 暗 褐 色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量	7 暗 赤 褐 色	粘土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒少量
2 にぶい黄褐色	砂粒中量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 炭化物微量	8 暗 赤 褐 色	炭化粒子・粘土粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量
3 黒 褐 色	焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒少量	9 褐 灰 色	砂粒中量, 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・灰少量
4 暗 赤 褐 色	焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量	10 黒 褐 色	炭化粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・砂粒・灰少量
5 にぶい赤褐色	焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量	11 暗 赤 褐 色	炭化粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量
6 暗 赤 褐 色	焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量, 炭化物・炭化粒子・灰少量		

ピット 1か所。P1は、長径50cm, 短径42cmの楕円形で、深さ28cmである。南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 14層からなる。第1層から第3層は、ほぼレンズ状の堆積をしていることから、自然堆積と考えられる。

第4層以下はブロック状の堆積状況をしており、人為堆積と考えられる。

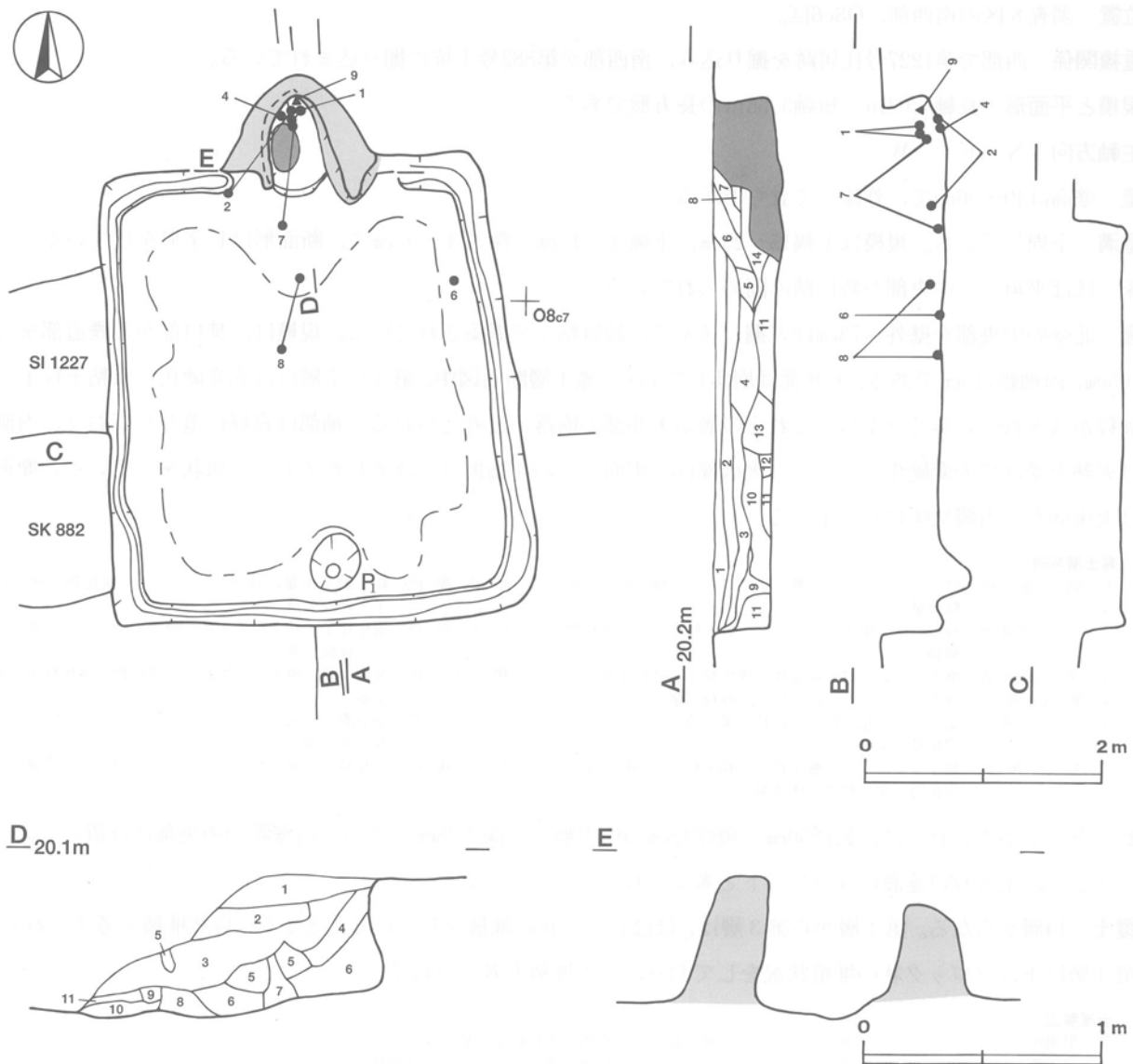
土層解説

1 黒褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
2 黒褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量, 粘土小ブロック微量
3 黒褐色	焼土小ブロック中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量, 炭化物微量
4 黒褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・粘土小ブロック少量, 焼土粒子微量

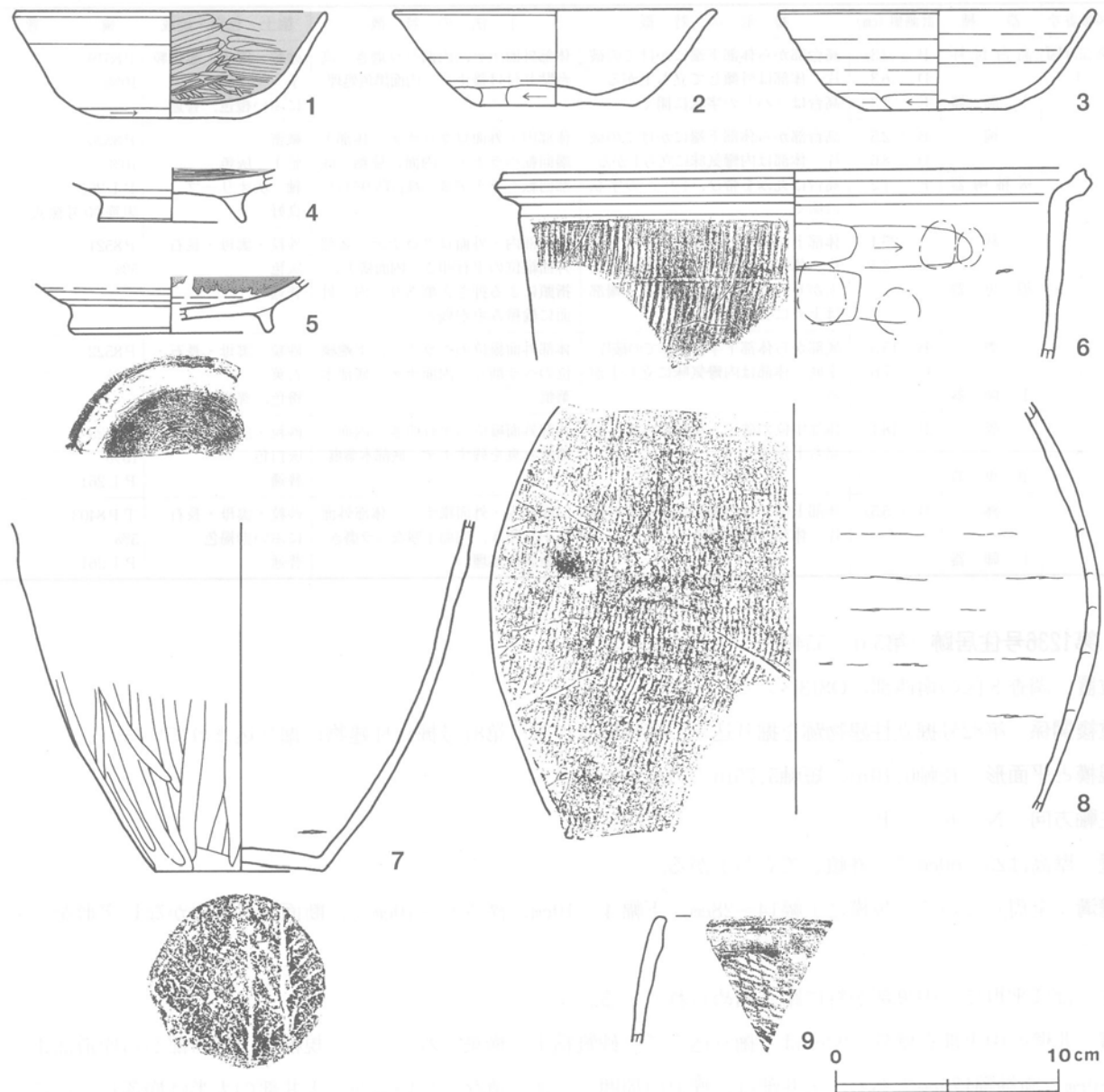
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・焼土粒子少量, ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土小ブロック・砂粒少量
- 7 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量, 炭化物微量
- 8 暗褐色 粘土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック少量, 炭化物・砂粒微量
- 9 黒褐色 粘土小ブロック・粘土粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 炭化物微量
- 10 黒褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土小ブロック少量
- 11 黒褐色 粘土粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 12 暗褐色 粘土粒子多量, 焼土粒子少量
- 13 黒褐色 粘土小ブロック多量, 粘土中ブロック中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 14 黒褐色 砂粒中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量, 炭化物微量

遺物 土師器片272点, 須恵器片79点, 灰釉陶器1点, 椀形滓1点が出土している。第550図1の土師器坏, 2・3の須恵器坏, 4の土師器高台付坏, 7の土師器甕は, 竈内から破片の状態出土している。5の灰釉陶器椀は北東コーナー部の覆土中層から, 6の須恵器鉢片は東部の床面から, それぞれ出土している。8の須恵器甕片は中央部の床面から, 9の土師器鉢の口縁部片は竈内から, それぞれ出土している。椀形滓は, 北西コーナー部の覆土中から出土している。鍛冶炉等は検出されておらず, 椀形滓は攪乱により混入したものと思われる。

所見 本跡の時期は, 出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第549図 第1234号住居跡実測図



第550図 第1234号住居跡出土遺物実測図

第1234号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第550図 1	坏 土師器	A [13.8] B 4.7 C 6.3	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部下端に丸味をもち、外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部外面ロクロナデ後ナデ、内面ロクロナデ後、横位のヘラ磨き。底部回転ヘラ削り、内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 橙色 普通	P 8516 45% P L 261
2	坏 須恵器	A [14.2] B 4.2 C 6.8	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反し、端部は丸味を帯びる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転切り離し痕を残す1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰黄褐色 普通	P 8517 40%
3	坏 須恵器	A [13.8] B 4.4 C [6.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反し、端部は丸味を帯びる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部切り離し痕を残す1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P 8518 35% P L 260

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第550図 4	高台付 土師器	B (2.3) D 6.3 E 1.3	高台部から体部下端にかけての破片。体部は外傾して立ち上がる。高台は「ハ」の字状に開く。	体部外面ナデ、内面ヘラ磨き。高台貼り付け後ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒 にぶい橙色、普通	P 8519 10%
5	椀 灰釉陶器	B (2.5) D [8.6] E 1.2	高台部から体部下端にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がる。高台は丸みを帯び、「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラナデ、内面に施釉。底部回転ヘラナデ後、高台貼り付け。	緻密 胎土 灰色 釉 灰オリーブ 良好	P 8520 10% P L 261 黒笹 90号窯式
6	鉢 須恵器	A [25.4] B (8.5)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は外傾して直線的に立ち上がり、口縁部で屈曲する。端部は上方に突出している。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面縦位の平行叩き、内面横ナデ。指頭による押さえ痕あり。内・外面に輪積み痕が残る。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	P 8521 5%
7	甕 土師器	B (15.5) C 7.6	底部から体部下半にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面縦位のヘラナデ、下端横位のヘラ削り、内面ナデ。底部木葉痕。	砂粒・雲母・長石・ 石英 橙色、普通	P 8522 20%
8	甕 須恵器	B (18.1)	体部中位の破片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面縦位の平行叩き、内面に輪積み痕を残すナデ。底部木葉痕。	砂粒・雲母・石英 灰白色 普通	P 8523 15% P L 261
9	鉢 土師器	B (5.5)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面格子目叩き、内面丁寧なヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい赤褐色 普通	T P 8403 5% P L 261

第1236号住居跡（第551～554図）

位置 調査8区の南西部，O8f3区。

重複関係 第82号掘立柱建物跡を掘り込み，第1228号住居，第87号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸6.10m，短軸5.75mの方形である。

主軸方向 N - 6° - E

壁 壁高は23～60cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。規模は上幅14～28cm，下幅4～10cm，深さ6～10cmで，断面形は緩やかなU字形をしている。

床 ほぼ平坦で，中央部が特に踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外へ92cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで180cm，両袖幅175cmである。天井部は，煙道の周囲の一部が遺存しているが，天井部の大半は崩落している。竈土層断面図中，第3～5・7～9層は，砂質粘土が主体の層であることから，天井部の崩落土と考えられる。袖部は良好に遺存しており，黒色土に灰褐色の粘土と砂粒を混ぜ構築している。第21層には焼土小ブロック・焼土粒子が多量，灰が中量含まれることから，下面が火床面と考えられる。火床部は，床面から約10cm掘りくぼめられており，皿状をしている。煙道は火床面から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量
- 3 黄褐色 ローム粒子・砂粒多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量，ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子少量
- 5 赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土小ブロック中量，炭化物・砂粒少量
- 6 暗褐色 焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 7 暗赤褐色 焼土粒子多量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒中量
- 8 にぶい赤褐色 焼土粒子多量，ローム粒子・焼土小ブロック・砂粒中量，ローム小ブロック・焼土中ブロック少量
- 9 赤褐色 ローム粒子・焼土粒子多量，焼土小ブロック・砂粒中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 10 極暗赤褐色 炭化材・炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・砂粒少量
- 11 黒色 ローム粒子・焼土粒子・炭化材・炭化粒子中量，焼土小ブロック・砂粒少量
- 12 にぶい橙色 灰多量，焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化物・炭化粒子少量
- 13 赤褐色 焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，灰少量
- 14 赤褐色 粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 15 暗褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 16 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化物・炭化粒子少量

- 17 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子少量, 炭化物微量
- 18 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック中量, 炭化粒子・砂粒少量
- 19 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 炭化物・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
- 20 橙色 灰多量, 焼土小ブロック・焼土粒子中量
- 21 明赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・灰中量
- 22 にぶい赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
- 23 にぶい赤褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量, 炭化物・炭化粒子少量, 焼土小ブロック微量, 粘土粒子・砂粒が赤変硬化している。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は、径50~70cmのほぼ円形で、深さはP1・P4が38cm・32cm、P2・P3が54cm・56cmである。南部に位置するP2・P3は、北部に位置するP1・P4と比較して、16~24cm深くなる。いずれも各コーナー寄りに位置し、規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は、長径64cm、短径43cmの楕円形で、深さ41cmである。南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

P1~P5 土層解説

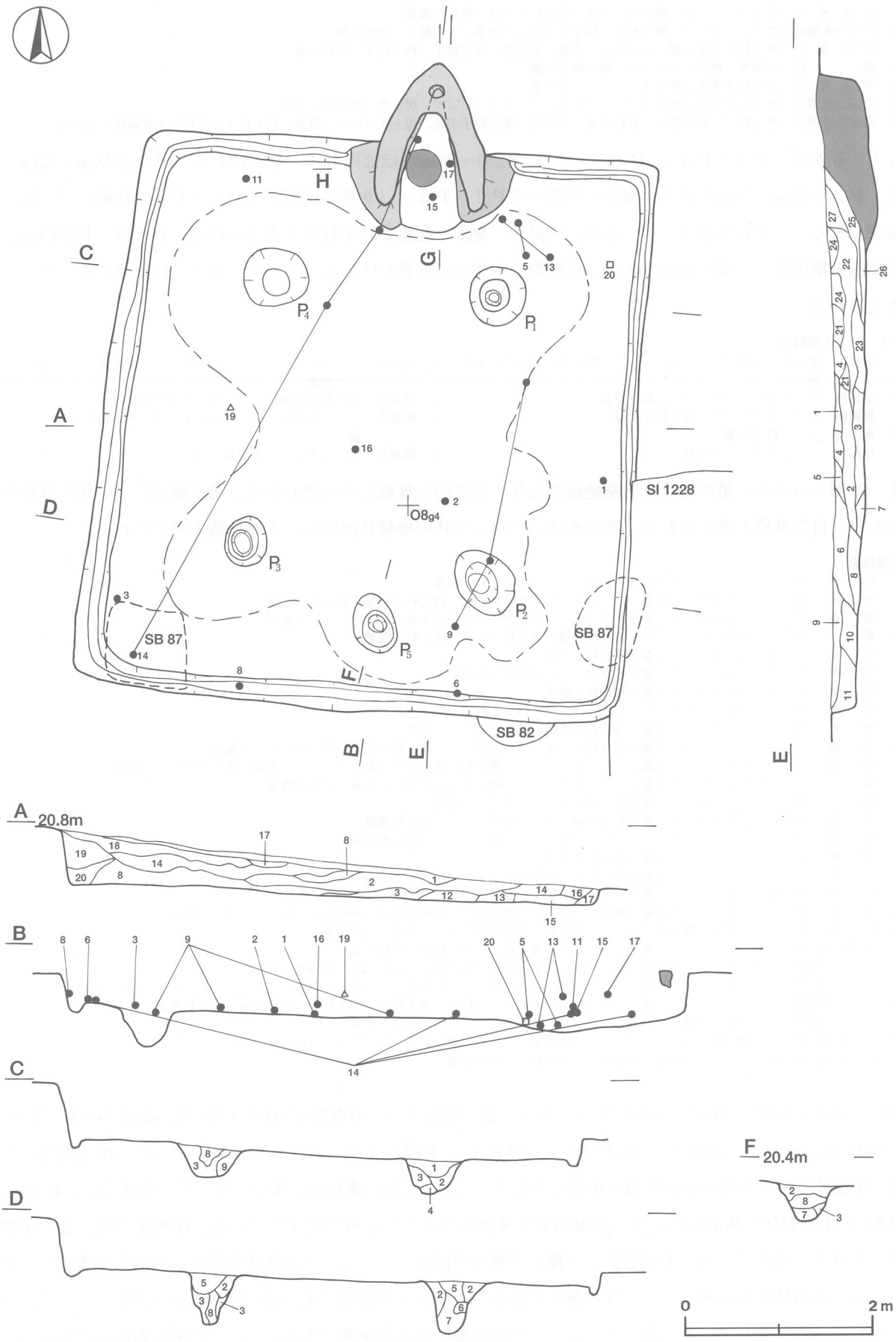
- | | |
|------------------------------------|---------------------------------------|
| 1 暗褐色 焼土粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, ローム大ブロック微量 |
| 2 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量 | 7 暗褐色 粘土粒子中量, ローム小ブロック少量 |
| 3 黒褐色 ローム小ブロック・焼土粒子少量 | 8 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・粘土小ブロック少量 |
| 4 褐色 ローム粒子中量 | 9 暗褐色 ローム小ブロック少量 |
| 5 黒褐色 ローム小ブロック中量 | |

覆土 27層からなる。第25層は住居廃絶後間もなく自然的に堆積したと思われる。第1層はレンズ状に堆積しており、自然堆積と考えられる。その他は、ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量, 粘土小ブロック微量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子微量
- 8 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量
- 9 黒褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 10 黒褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子・粘土中ブロック微量
- 11 黒褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子・粘土小ブロック少量, 焼土小ブロック微量
- 12 褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量, 炭化物微量
- 13 褐色 ローム小ブロック・炭化物少量, ローム中ブロック微量
- 14 黒褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量, ローム中ブロック・炭化物微量
- 15 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・炭化物微量
- 16 黒褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量
- 17 黒褐色 ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 18 暗褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 19 黒褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量, 炭化粒子・粘土小ブロック微量
- 20 暗褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・砂粒少量, ローム中ブロック微量
- 21 暗赤褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
- 22 にぶい赤褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量, 炭化物・炭化粒子少量
- 23 暗赤褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック中量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土小ブロック・粘土粒子・砂粒少量
- 24 にぶい赤褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量, 炭化物微量
- 25 にぶい赤褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 26 暗赤褐色 炭化物中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒・灰少量
- 27 暗赤褐色 焼土小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量

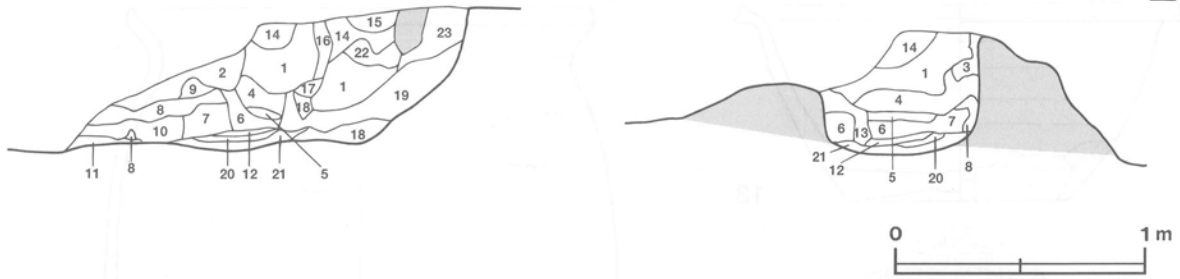
遺物 土師器片593点 (坏65, 高台付坏5, 皿4, 甕・甑類519), 須恵器片344点 (坏154, 高台付坏8, 蓋9, 甕・甑類162, 鉢10, 長頸瓶1), 石製品1点 (紡錘車), 銅製品1点 (鉸具) が出土している。出土遺物の大半は、床面及び覆土下層を中心に覆土中層から出土しており、特に竈付近に集中している。東部では、第553・554図1の土師器坏が床面から、9の土師器皿が床面からともに正位で出土している。中央部では、2の土師器坏が床面から正位で、16の土師器甕片が覆土下層から出土している。2は体部外面に「田前」と墨書してある。3の土師器坏片は南西コーナー部の覆土下層から、4の土師器坏は南西部の覆土中から出土している。4の内面には漆が付着している。竈付近では、5の須恵器坏片は竈東側の床面から、7の須恵器高台付坏片・12の須恵器蓋は竈内から出土している。南部では、6の須恵器坏片が床面から、8の土師器皿片が下層から出土



第551图 第1236号住居跡実测图(1)

G 20.6m

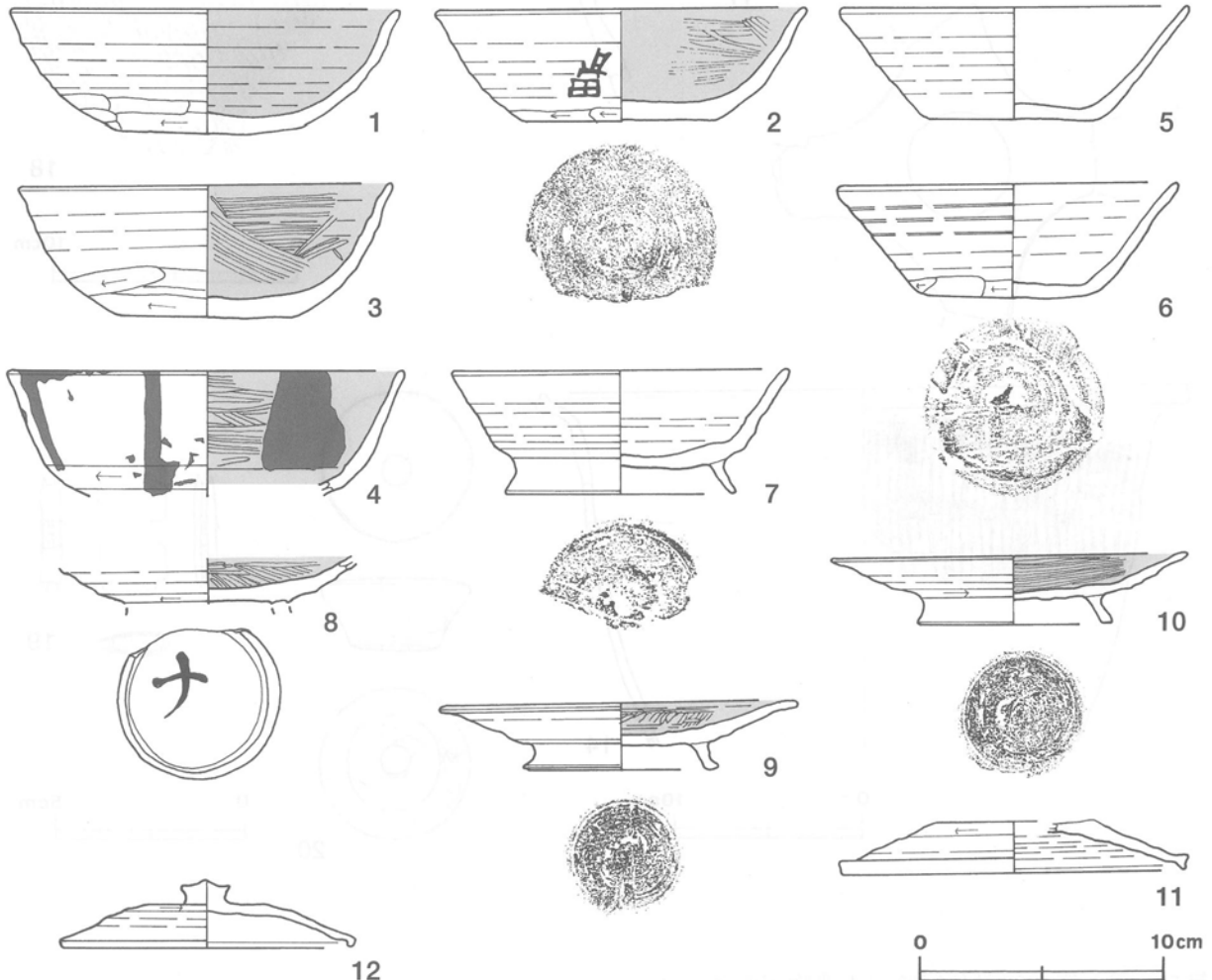
H



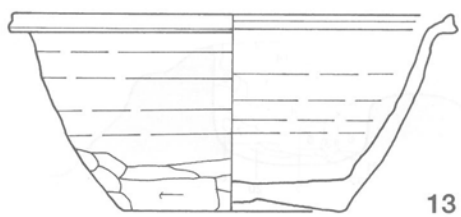
第552図 第1236号住居跡実測図(2)

している。8は底部に「ナカ」と墨書してある。10の土師器皿, 18の須恵器鉢は, 竈の袖部内から出土しており, 袖材として使用されたものと考えられる。11の須恵器蓋は, 北西コーナー部の覆土下層から出土している。北東コーナー部では, 13の須恵器鉢が覆土下層から斜位で, 20の紡錘車が床面から出土している。14の須恵器鉢は, 竈内と竈前面の床面と南西コーナー部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。15の土師器甕は, 竈内と南西部の覆土中から出土した破片が接合したものである。17の須恵器甑片は, 竈内と西部の覆土中から出土した破片が接合したものである。19の鉸具は, 西部の覆土中層から出土している。

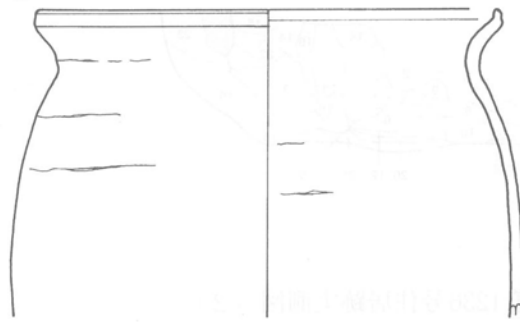
所見 本跡の時期は, 出土土器から9世紀中葉と考えられる。出土遺物の比率は, 土師器が須恵器の1.7倍であり, 種類別の割合は, 土師器坏:須恵器坏が1:3で, 土師器甕・甑類:須恵器甕・甑類が3:1となる。坏類等の供膳具は須恵器が多く, 甕類等の煮炊具は土師器が多いことになる。



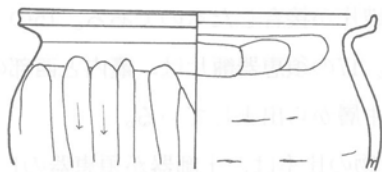
第553図 第1236号住居跡出土遺物実測図(1)



13



15



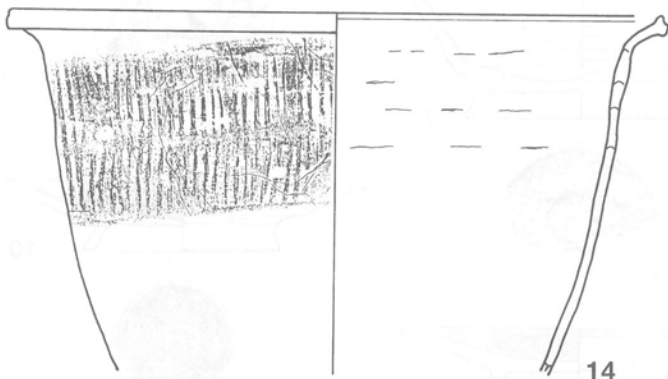
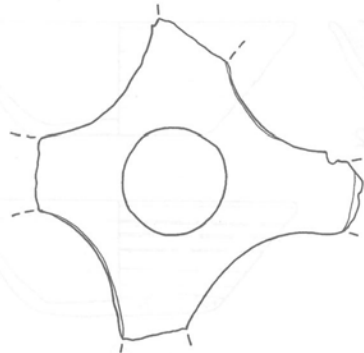
16



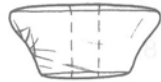
17



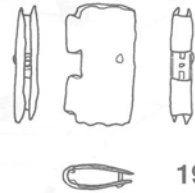
18



14



20



19



第554图 第1236号住居跡出土遺物実測図(2)

第 1236 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第 553 図 1	坏 土 師 器	A [15.6] B 5.1 C 7.7	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端横位のヘラ削り、内面丁寧なヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色 普通	P 8524 50% P L 261
2	坏 土 師 器	A [14.8] B 4.5 C 7.8	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端横位のヘラ削り、内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P 8525 45% P L 261 体部外面墨書「田前」
3	坏 土 師 器	A 15.0 B 5.5 C 7.0	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端横位のヘラ削り、内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 橙色、普通	P 8527 75% P L 261
4	坏 土 師 器	A [15.8] B (5.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端横位のヘラ削り、内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 普通	P 8528 10% 体部内・外面に漆付着
5	坏 須 恵 器	A 14.2 B 4.5 C 7.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転切り難し痕を残す1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 灰白色 普通	P 8529 60% P L 261
6	坏 須 恵 器	A 13.7 B 4.7 C 7.2	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部外面浅い沈線が巡る、下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色 普通	P 8531 60% P L 261
7	高台付坏 須 恵 器	A [13.8] B 5.0 D 9.4 E 1.5	高台部から口縁部にかけての破片。体部下端に稜を有し、外傾して立ち上がり、口縁部に至る。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部ヘラ削り。高台貼り付け後、ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色 普通	P 8532 25% P L 261
8	皿 土 師 器	B (1.9)	体部片。平底。体部は外傾して大きく開く。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り、内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 にぶい赤褐色、普通	P 8533 20% 底部墨書「ナカ」
9	皿 土 師 器	A [14.6] B 2.7 D 7.8 E 1.1	高台部、体部一部欠損。平底。体部は外傾して大きく開き、口縁部はわずかに外反する。高台は「ハ」の字状に開く。接地面は平ら。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り、内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 にぶい褐色 普通	P 8534 40% P L 261
10	皿 土 師 器	A 14.4 B 2.9 D 7.8 E 1.2	高台部、体部一部欠損。平底。体部は外傾して大きく開き、口縁部はわずかに外反する。高台は「ハ」の字状に開く。接地面は平ら。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り、内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 にぶい褐色 普通	P 8535 50% P L 261
11	蓋 須 恵 器	A [14.0] B (2.1)	天井部から口縁部にかけての破片。つまみ欠損。天井部は頂部が平坦で、外周部はなだらかに下降する。口縁部は屈曲し、短く垂下する。	天井頂部回転ヘラ削り。外周部・口縁部ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P 8536 20% P L 261
12	蓋 須 恵 器	A [11.8] B 2.7 F 2.0 G 0.9	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は頂部が平坦で、外周部はなだらかに下降する。口縁部は屈曲し、短く垂下する。つまみは腰高のボタン状を呈する。	天井頂部回転ヘラ削り。外周部・口縁部ロクロナデ。	砂粒・長石 灰白色 普通	P 8537 10%
第 554 図 13	鉢 須 恵 器	A [17.5] B 7.8 C 8.8	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部で屈曲する。端部は上方に突出している。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端横位のヘラ削り。底部回転切り難し痕を残す1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 灰黄色、普通	P 8538 70% P L 261
14	鉢 須 恵 器	A [34.0] B (18.9)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は外傾して直線的に立ち上がり、口縁部で屈曲する。端部は上方に突出している。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位の平行叩き、内面に輪積み痕を残す横ナデ。	砂粒・雲母・石英 にぶい黄褐色 普通	P 8539 15% P L 261
15	甕 土 師 器	A [18.4] B (12.3)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、頸部で緩やかにくびれ、口縁部は外反する。端部はつまみ上げられている。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部内・外面横ナデ。内・外面に輪積み痕が残る。	砂粒・雲母・長石・石英 橙色 普通	P 8542 5%

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第554図 16	甕 土師器	A [14.2] B (6.2)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、頸部で「く」の字状に屈曲し、口縁部は外反する。端部はつまみ上げられている。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラナデ、内面に輪積み痕を残す横ナデ。	砂粒・雲母・石英 明赤褐色 普通	P 8543 5%
17	甗 須恵器	B (1.1) C [14.4]	底部片。五孔式。	内・外面ナデ。穿孔部ヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 にぶい褐色 普通	P 8544 5%
18	甕 須恵器	B (14.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して直線的に立ち上がり、口縁部で屈曲する。端部は上方に突出する。	口縁部内・外面口クロナデ。体部外面縦位の平行叩き、内面横ナデ。内面に指頭による押さえ痕あり。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 普通	T P 8411 10% P L 261

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第554図19	鉸具	3.2	1.9	0.7	(9.9)	銅	短四角形。外縁1本有り。刺金可動式カ。	M8418 40% P L 281

図版番号	器種	計測値					石質	特徴	備考
		最大径 (cm)	最小径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第554図20	紡錘車	4.0	2.4	1.9	0.7	42.5	蛇紋岩	断面逆台形。無文。研磨されている。	Q 8404 100% P L 284

第1237号住居跡 (第555図)

位置 調査8区の南西部, O8e5区。

重複関係 第84号掘立柱建物跡を掘り込み、北東部を第1238号住居に、北西部を第1057土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 竈の最下部と北壁の一部が検出できたものの、その他はほぼ床面が露出した状態で確認された。そのため規模と平面形は床質から、長軸3.77m、短軸3.37mの長方形と推定した。

主軸方向 確認された北壁の一部と竈との位置関係から、N-0°と推定される。

壁 検出できた北壁高は4cmである。

床 竈の前面に硬化した床面が、わずかに検出された。

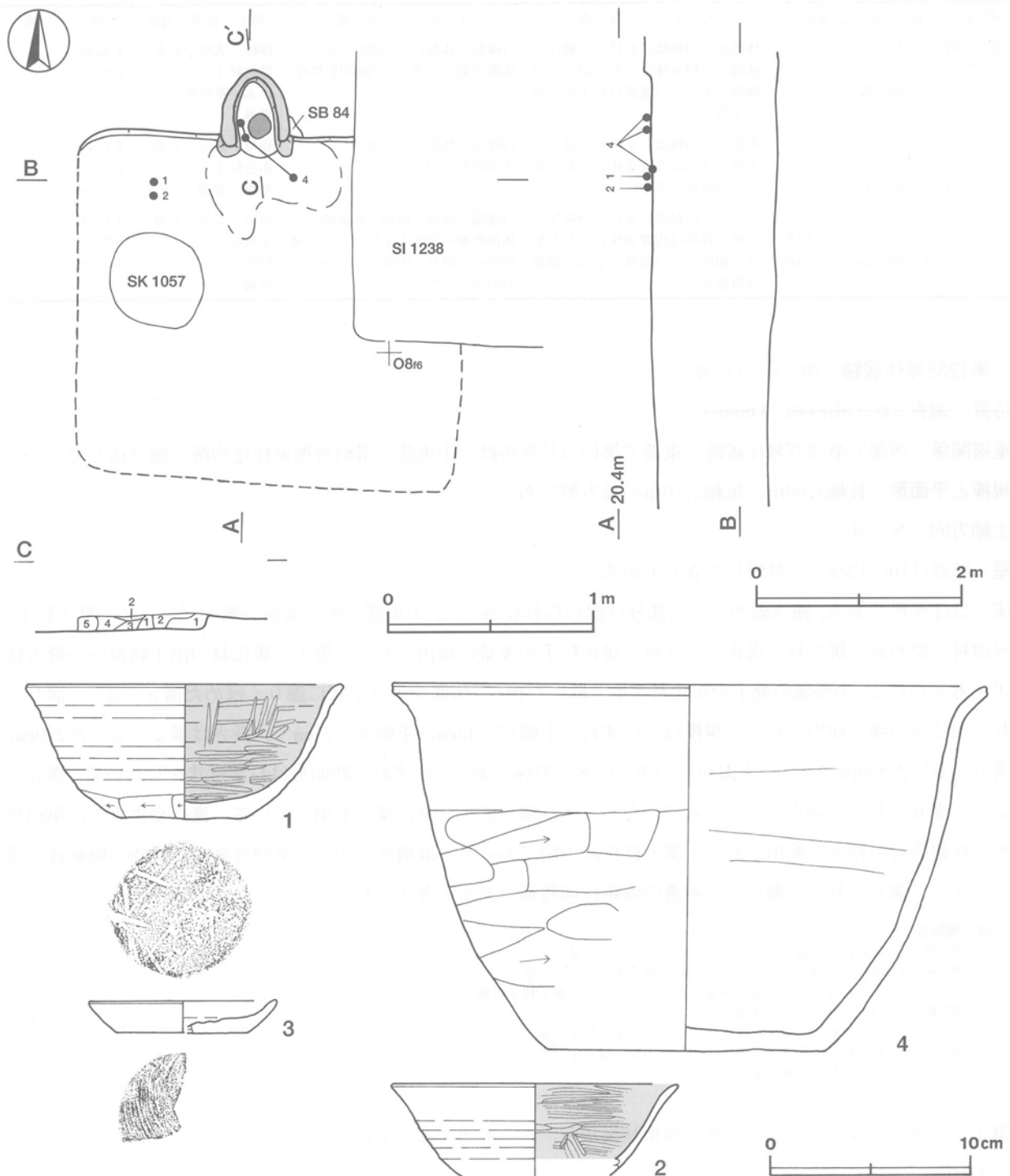
竈 北壁の中央部を壁外へ67cmほど掘り込んで、砂質粘土で構築している。規模は、焚口部から煙道部まで85cm、両袖幅65cmである。壁外への掘り込んだ部分が赤変硬化しており、火床部と考えられる。天井部は検出されなかった。袖部の遺存状態が悪く、詳細は不明であるものの、袖部が壁内には突出しておらず、壁外への掘り込みが深い形態のものである。

竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子少量
- 2 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 焼土粒子中量、焼土粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 5 黒褐色 炭化物中量、焼土粒子少量

遺物 土師器片64点、須恵器片10点が出土している。第555図1・2の土師器坏は、北西コーナー部の床面からいずれも正位で出土している。3の土師器皿は、覆土中から出土している。4の土師器鉢は、竈内と竈前の床面から出土した破片が接合したものである。

所見 本跡の時期は、出土土器から10世紀中葉と考えられる。壁溝、ピットは検出できなかった。



第555図 第1237号住居跡・出土遺物実測図

第1237号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第555図 1	坏 土師器	A [15.4] B 6.6 C 6.2	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部外面下端手持ちヘラ削り、内面ヘラ磨き。底部1方向のヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 橙色 普通	P 8545 70% P L 262

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第556図 2	土師器 坏	A [14.1] B (4.4)	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・黒色粒子にぶい黄橙色普通	P 8546 15%
3	土師器 皿	A [9.2] B 1.6 C [6.4]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 橙色、普通	P 8547 15%
4	土師器 鉢	A [29.2] B 17.8 C [13.6]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、屈曲して口縁部に至る。端部は角張る。	口縁部、体部上位内・外面横ナデ。体部外面中位から下位にかけて横位のヘラ削り、内面ナデ。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 橙色 普通	P 8548 10% P L 263

第1238号住居跡（第556・557図）

位置 調査8区の南西部，O8e6区。

重複関係 西部で第1237号住居跡，東部で第1233号住居跡，中央部で第84号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸3.60m，短軸3.10mの長方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は10～13cmで，外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦である。踏み固められた部分は認められなかった。中央部の床一面から焼土ブロック・焼土粒子，屋根材と思われる炭化材・炭化した茅材・炭化粒子が多量に検出された。焼土や炭化材の出土状況から焼失住居と考えられる。中央部の焼土や炭化材を取り除いた後に，床面を十文字状に掘りくぼめた溝 a・a'，溝 b・b' の2条の溝が検出された。規模は，いずれも上幅17～43cm，下幅8～21cmで，長さは溝 a・a' が260cm，溝 b・b' が230cmである。床面からの深さは8～31cmであり，いずれも断面形はU字形状をしている。溝 a・a'，溝 b・b' の交点に近くなるにしたがって，幅が広くなり，深さも増している。溝の交点直下に第84号掘立柱建物跡の柱穴が検出された。溝の性格は不明であるが，堆積状況から，第84号掘立柱建物が廃絶後に溝 a・a'，溝 b・b' が掘られ，両溝の廃絶は同時期であると考えられる。

溝土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量，ローム小ブロック・炭化材少量
- 2 黒褐色 炭化材中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
- 3 黒色 炭化材多量，炭化粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 4 明褐色 ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 6 暗赤灰色 焼土粒子・炭化材・炭化粒子・灰中量，焼土小ブロック少量
- 7 赤褐色 ローム粒子・灰中量

覆土 12層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

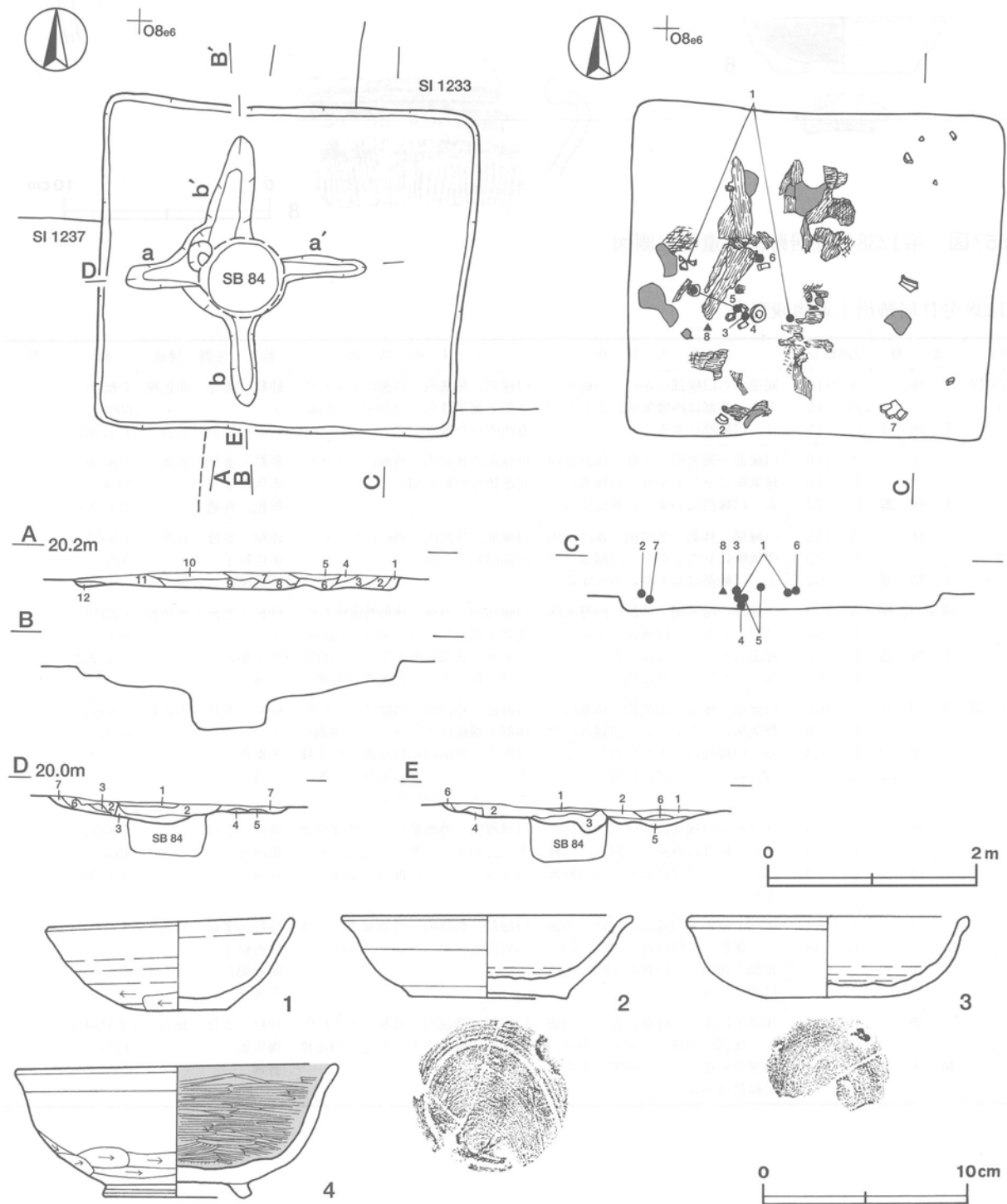
土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量，粘土小ブロック微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子中量，ローム小ブロック少量
- 5 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 7 黒褐色 炭化物中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化材少量
- 8 黒褐色 炭化物中量，ローム小ブロック・炭化材・炭化粒子少量
- 9 黒褐色 炭化物・炭化粒子中量，焼土粒子・粘土小ブロック少量，ローム小ブロック微量
- 10 黒褐色 ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
- 11 黒褐色 炭化粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物・粘土小ブロック少量
- 12 黒褐色 焼土粒子・灰中量，ローム小ブロック少量

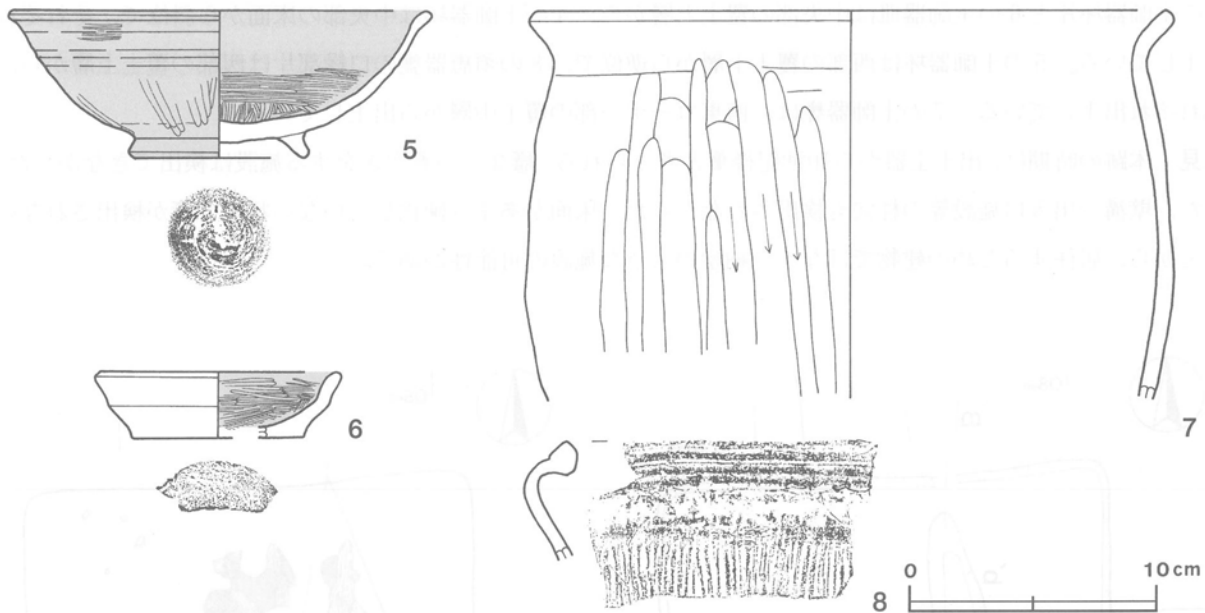
遺物 土師器片33点，須恵器片11点が出土している。第556図1の土師器坏は，中央部の覆土上層と西部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。2の土師器坏は，南部の覆土上層から逆位で出土している。

3の土師器坏片と6の土師器皿は中央部の覆土上層から、4の土師器坏は中央部の床面から斜位で、それぞれ出土している。5の土師器坏は西部の覆土上層から逆位で、8の須恵器甕の口縁部片は西部の覆土上層から、それぞれ出土している。7の土師器甕は、南東コーナー部の覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から10世紀後葉と考えられる。竈などの煮炊きをする施設は検出できなかった。また、壁溝や出入口施設等の柱穴も検出されなかった。床面があまり硬化していない状況や竈が検出されないことから、居住するための建物ではなく、納屋のような施設の可能性がある。



第556図 第1238号住居跡・出土遺物実測図



第557図 第1238号住居跡出土遺物実測図

第1238号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第556図 1	坏 土師器	A [11.8] B 4.5 C 4.7	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい褐色、普通	P 8549 60% P L 261
2	坏 土師器	A 14.0 B 4.0 C 7.7	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部雑な回転糸切り。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 橙色、普通	P 8550 75% P L 262
3	坏 土師器	A [13.6] B 3.9 C 6.2	口縁部、体部一部欠損。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 浅黄橙色、普通	P 8551 50% P L 262
4	高台付坏 土師器	A 15.3 B 6.4 D 6.6 E 0.7	口縁部一部欠損。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。高台は短く「ハ」の字状に開く。	口縁部内・外面、体部外面横ナデ。体部下端手持ちヘラ削り、内面ヘラ磨き。底部回転糸切り。高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 明赤褐色 普通	P 8552 95% P L 262
第557図 5	高台付坏 土師器	A [16.6] B 5.8 D 6.8 E 1.1	口縁部、体部一部欠損。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端縦位のヘラナデ、内面ヘラ磨き。底部回転切り離し痕を残す、ヘラナデ。高台貼り付け後、ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 黒褐色 普通	P 8553 60% P L 262
6	皿 土師器	A [9.5] B 2.6 C [7.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して開き、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ、内面ヘラ磨き。底部回転糸切り後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母 褐灰色 普通	P 8554 45% P L 262
7	甕 土師器	A [25.4] B (15.4)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、頸部で屈曲し、口縁部は外傾する。端部は角張る。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り、内面ナデ。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 明赤褐色 普通	P 8556 15% P L 261
8	甕 須恵器	B (4.6)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部で屈曲して、口縁部に至る。口縁部は外反する。	口縁部、頸部内・外面ロクロナデ。体部外面縦位の平行叩き、内面横ナデ。	砂粒・雲母・長石 褐灰色 普通	T P 8412 15% P L 261

第1239号住居跡（第558～560図）

位置 調査8区の南部，O9f1区。

重複関係 第1264号土坑と第77号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 南部が攪乱を受けているため，東西軸は5.88mで，南北軸は6.32mだけが確認できた。平面形は長方形と推定される。

主軸方向 N-2°-W

壁 壁高は18～32cmで，外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外に130cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで156cm，両袖部幅162cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中第1～4層が粘土粒子や砂粒を中量含むことから，崩落土と考えられる。火床部は，床面を32cmほど掘りくぼめた後，暗赤褐色土を貼り，造られている。火床面は，火熱を受け赤変している。袖部は，粘土粒子と砂粒を混ぜた第24～30層が版築状に積まれ構築されている。煙道はほぼ直立する。

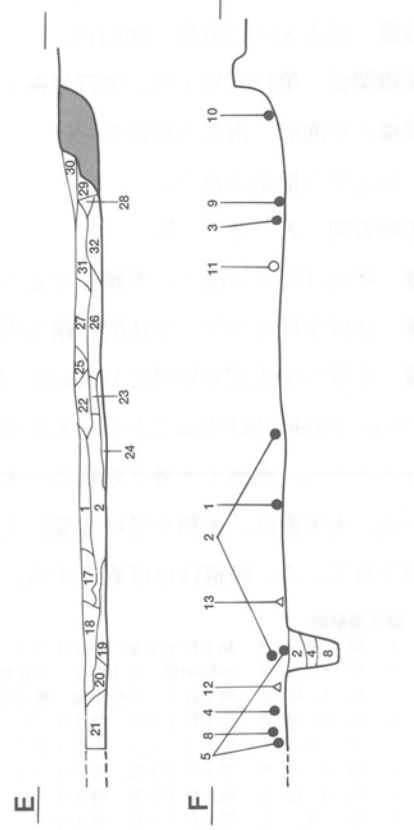
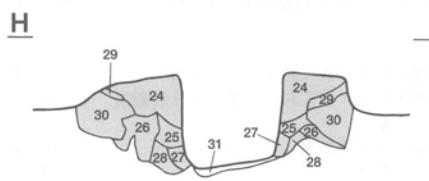
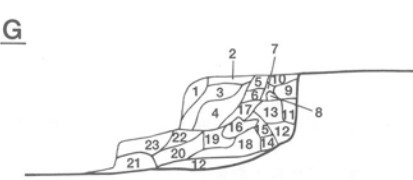
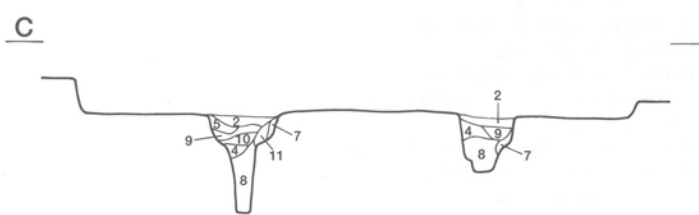
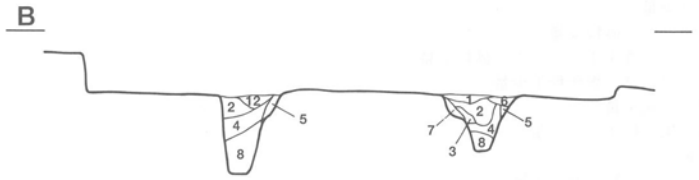
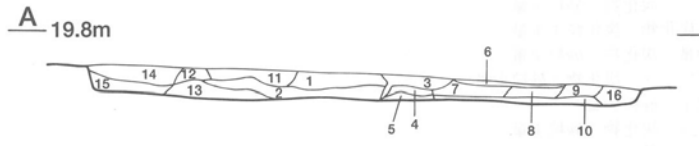
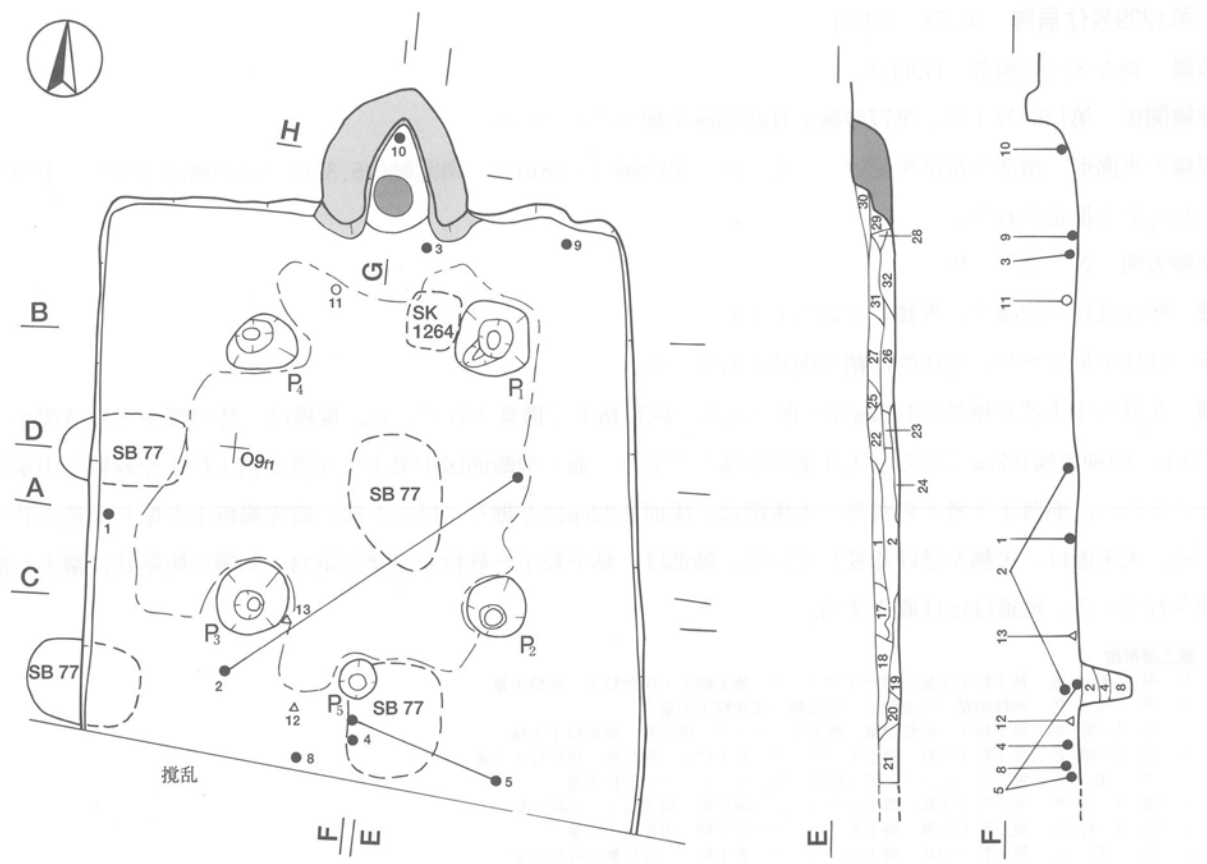
竈土層解説

- 1 黒褐色 粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
- 2 黒褐色 砂粒中量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
- 4 暗赤褐色 粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 5 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック・砂粒少量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒少量
- 7 暗赤褐色 焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
- 8 黒褐色 炭化粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・砂粒少量
- 9 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子中量，焼土小ブロック・炭化物・砂粒少量
- 10 暗赤褐色 砂粒中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 11 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量，炭化物・砂粒少量
- 12 黒褐色 炭化粒子多量，焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化物・砂粒少量
- 13 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子・砂粒少量
- 14 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子中量，焼土小ブロック・炭化物・砂粒少量
- 15 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子中量，焼土小ブロック少量
- 16 にぶい赤褐色 焼土粒子多量，炭化粒子中量，焼土小ブロック・砂粒少量
- 17 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・砂粒少量
- 18 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 19 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量，炭化粒子・灰少量
- 20 にぶい赤褐色 焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・灰少量
- 21 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・灰中量，炭化物少量
- 22 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子中量，焼土小ブロック・炭化物・砂粒少量
- 23 暗褐色 粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂粒少量
- 24 にぶい黄褐色 粘土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 25 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量，炭化物少量
- 26 暗赤褐色 砂粒多量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量，焼土小ブロック・炭化物少量
- 27 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・砂粒中量，炭化物・粘土粒子少量
- 28 褐色 砂粒多量，ローム粒子・粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 29 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック・炭化物少量
- 30 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 31 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量

ピット 5か所（P1～P5）。P1～P4は各コーナーから中央部寄りに位置し，径65～75cmのほぼ円形で，深さ60～103cmである。規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は南部の中央部に位置し，径43cmの円形で，深さは60cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P1～P5土層解説

- | | |
|--|----------------------------------|
| 1 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量 | 7 暗褐色 ローム小ブロック少量 |
| 2 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，炭化物微量 | 8 褐色 粘土粒子中量，炭化物少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量 | 9 暗褐色 焼土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 粘土小ブロック少量，炭化物微量 | 10 黒褐色 焼土粒子・炭化物微量 |
| 5 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量 | 11 黒褐色 焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土中ブロック微量 | 12 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 |



第558图 第1239号住居跡実测图

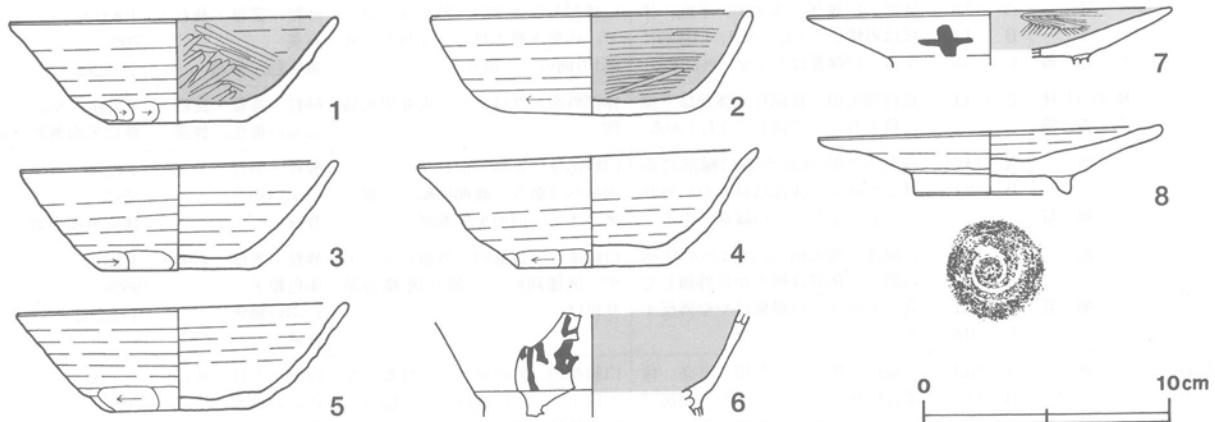
覆土 32層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

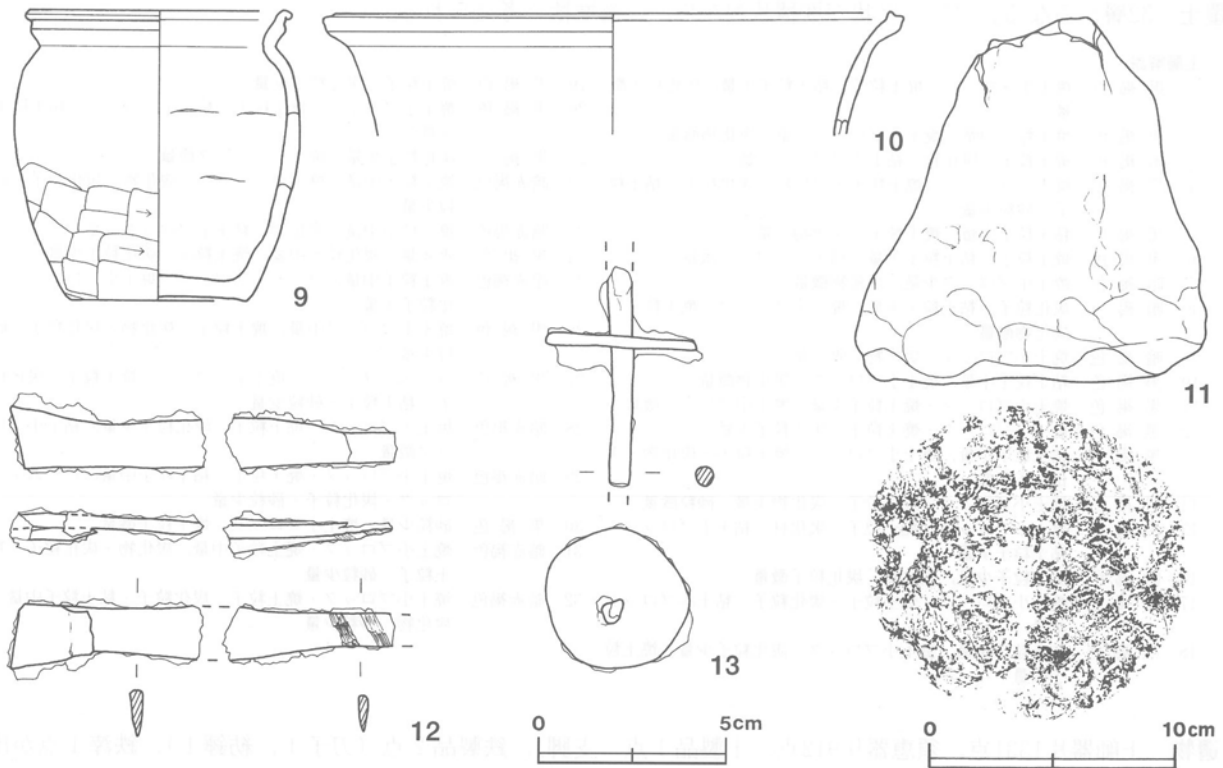
1 黒褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量	19 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子少量
2 黒褐色	焼土粒子中量, 焼土小ブロック少量, 炭化物微量	20 黒褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量
3 暗褐色	焼土粒子・炭化物・粘土小ブロック少量	21 黒褐色	炭化粒子少量, 焼土小ブロック微量
4 黒褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量	22 暗赤褐色	焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒少量
5 黒褐色	粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化物少量	23 暗赤褐色	焼土粒子中量, 炭化物・粘土小ブロック少量
6 黒褐色	焼土粒子・粘土粒子少量, 粘土小ブロック微量	24 黒褐色	灰多量, 炭化粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
7 暗褐色	焼土小ブロック少量, 炭化物微量	25 暗赤褐色	焼土粒子中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
8 暗褐色	炭化粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量	26 黒褐色	焼土小ブロック中量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂粒少量
9 暗褐色	焼土小ブロック・炭化物・灰少量	27 黒褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
10 黒褐色	粘土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物微量	28 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量, 粘土小ブロック微量
11 黒褐色	焼土小ブロック・焼土粒子少量, 焼土中ブロック微量	29 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
12 黒褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	30 黒褐色	砂粒少量, 焼土小ブロック・焼土粒子微量
13 黒褐色	粘土粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量	31 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化物・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
14 黒褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量, 砂粒微量	32 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量, 炭化物・砂粒少量
15 黒褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・粘土小ブロック・粘土粒子少量		
16 暗褐色	焼土粒子少量, 炭化物・炭化粒子微量		
17 黒褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量		
18 黒褐色	粘土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量		

遺物 土師器片1331点, 須恵器片912点, 土製品1点(支脚), 鉄製品2点(刀子1, 紡錘1), 鉄滓1点が出土している。第559・560図1の土師器坏は, 西壁際の床面から正位で出土している。2の土師器坏は, 中央部東側の覆土下層から出土した破片と中央部やや南西寄りの床面から出土した破片が接合したものである。3の須恵器坏は竈南側の床面から正位で, 4の須恵器坏は南部の覆土下層から逆位で, 5の須恵器坏は南東部の床面から逆位でそれぞれ出土している。6の土師器高台付坏体部片は, 南東部の覆土中から出土している。外面に「悔」と墨書されている。7の土師器皿の口縁部から底部片は, 南西部の覆土中から出土している。外面に墨書されているが, 判読不能である。8の須恵器皿は, 南部の覆土下層から正位で出土している。9の土師器甕は, 北東コーナー部の床面から正位で出土している。10の須恵器甕は, 竈内の覆土下層から出土している。11の支脚は, 竈西袖部の南側床面から横位で出土している。12の刀子は南側の床面から, 13の紡錘は中央部やや南側の床面から出土している。鉄滓1点が覆土中から出土しているが, 鍛冶炉等は確認されていない。

所見 本跡の時期は, 出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第559図 第1239号住居跡出土遺物実測図(1)



第560図 第1239号住居跡出土遺物実測図(2)

第1239号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第559図 1	坏 土師器	A 12.9	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。内面ヘラ磨き。底部ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 暗赤褐色 普通	P 8305 95% P L 262
		B 4.1				
		C 5.4				
2	坏 土師器	A 12.9	体部・口縁部一部欠損。平底。体部下端は丸みを帯び、内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 橙色、普通	P 8306 50% P L 262
		B 4.1				
		C 7.6				
3	坏 須恵器	A 12.6	完形。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁端部は丸く収めている。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色、普通	P 8311 100% P L 262
		B 4.3				
		C 5.8				
4	坏 須恵器	A 13.5	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 にぶい橙色、普通	P 8312 80% P L 262
		B 4.6				
		C 6.0				
5	坏 須恵器	A 13.2	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色、普通	P 8313 70% P L 262
		B 4.1				
		C 5.6				
6	高台付坏 土師器	B (4.1)	高台部欠損。体部片。体部は下位に稜を有し、外傾して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色、普通	P 8307 5% 体部外面墨書「梅」
		A [14.6] B (2.1)	高台部欠損。体部から口縁部にかけての破片。体部は緩やかに外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P 8308 5% 体部外面墨書
8	皿 土師器	A 13.6	口縁部一部欠損。高台はハの字状に開く。体部は緩やかに外傾して立ち上がり、口縁部はやや外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい褐色 普通	P 8314 95% P L 262
		B 2.7				
		D 6.1				
		E 0.8				
第560図 9	甕 土師器	A [10.4]	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、頸部でくびれ、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ、下位横位のヘラ削り、内面輪積み痕を残すナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P 8309 70% P L 262
		B 11.5				
		C 7.2				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第560図 10	甕 須恵器	A [22.2] B (4.9)	口縁部片。口縁部は外反する。内側に1条の沈線が巡る。端部は上方につまみ上げている。	口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色、普通	P 8315 5%

図版番号	器種	計測値			特徴	胎土・色調	備考
		長さ(cm)	径(cm)	重量(g)			
第560図11	土製支脚	(14.6)	14.0	(1660)	裾部はハの字状に広がる。基部木葉痕。	砂粒・長石・石英・小礫 灰黄色	D P 8216 P L 280

図版番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
第560図12	刀子	(9.7)	(5.8)	(1.7)	0.4	(3.9)	(18.3)	鉄	刀身部・基部一部欠損。木質付着。	M8210 P L 281

図版番号	器種	計測値					材質	特徴	備考
		全長(cm)	軸断面径(cm)	紡錘車径(cm)	紡錘車厚さ(cm)	重量(g)			
第560図13	紡錘	(5.8)	0.5	3.8	0.3	(20.6)	鉄	軸両端部欠損。	M8211 P L 283

第1241号住居跡（第561～564図）

位置 調査8区の南部，O8c0区。

重複関係 北東コーナー部やや南寄り，第81号溝を掘り込んでいる。また，第109・110号掘立柱建物跡も掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸7.90m，短軸7.60mの方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は25～60cmで，ほぼ直立する。

床 ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

竈 北壁中央部を壁外に75cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで146cm，両袖部幅248cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中第1～3層が粘土粒子や砂粒を多く含むことから，崩落土と考えられる。袖部は良好に遺存しており，内側は赤変硬化している。火床部は，床面を40cmほど掘りくぼめた後，黒色土と暗赤褐色土を貼り，造られている。火床面は火熱を受け，赤変硬化している。袖部や火床部の構築材には，焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子が含まれており，造り替えの可能性が考えられる。煙道は，外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗褐色 粘土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
- 2 暗赤褐色 粘土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量，粘土小ブロック微量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック少量，炭化物微量
- 4 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量，粘土粒子・砂粒・灰少量
- 5 にぶい赤褐色 灰中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 6 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・灰少量
- 7 赤褐色 焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒・灰少量
- 8 にぶい赤褐色 焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒・灰少量
- 9 暗赤褐色 焼土粒子中量，焼土小ブロック・灰少量，炭化粒子微量
- 10 にぶい赤褐色 焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化粒子・砂粒・灰少量
- 11 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化物・炭化粒子微量
- 12 にぶい赤褐色 焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 13 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量
- 14 暗赤褐色 焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
- 15 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック少量，焼土中ブロック・炭化粒子微量
- 16 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量，粘土粒子・砂粒・灰少量
- 17 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化物・炭化粒子少量
- 18 暗赤褐色 焼土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量

- | | | |
|----|--------|---------------------------------------|
| 19 | 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂粒中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 20 | 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂粒多量, 焼土小ブロック中量, 炭化物・炭化粒子少量 |
| 21 | 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・砂粒中量, 焼土小ブロック・炭化物少量 |
| 22 | 黒褐色 | 焼土粒子少量, 焼土小ブロック微量 |
| 23 | にぶい赤褐色 | ローム粒子・砂粒中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 24 | 褐色 | ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 25 | 褐色 | ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量 |
| 26 | にぶい赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量, 炭化物・炭化粒子少量 |
| 27 | 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 |
| 28 | 暗赤褐色 | 砂粒中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量 |
| 29 | 黒色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土小ブロック少量 |
| 30 | 黒褐色 | 砂粒中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 31 | 黒褐色 | 焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒中量, 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化物微量 |
| 32 | 黒褐色 | 焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒中量, 焼土粒子少量, 炭化物微量 |

ピット 4か所 (P1～P4)。P1～P4は各コーナーから中央部寄りに位置し、径73～85cmの円形で、深さ56～72cmである。規模と配置から支柱穴と考えられる。

P1～P4土層解説

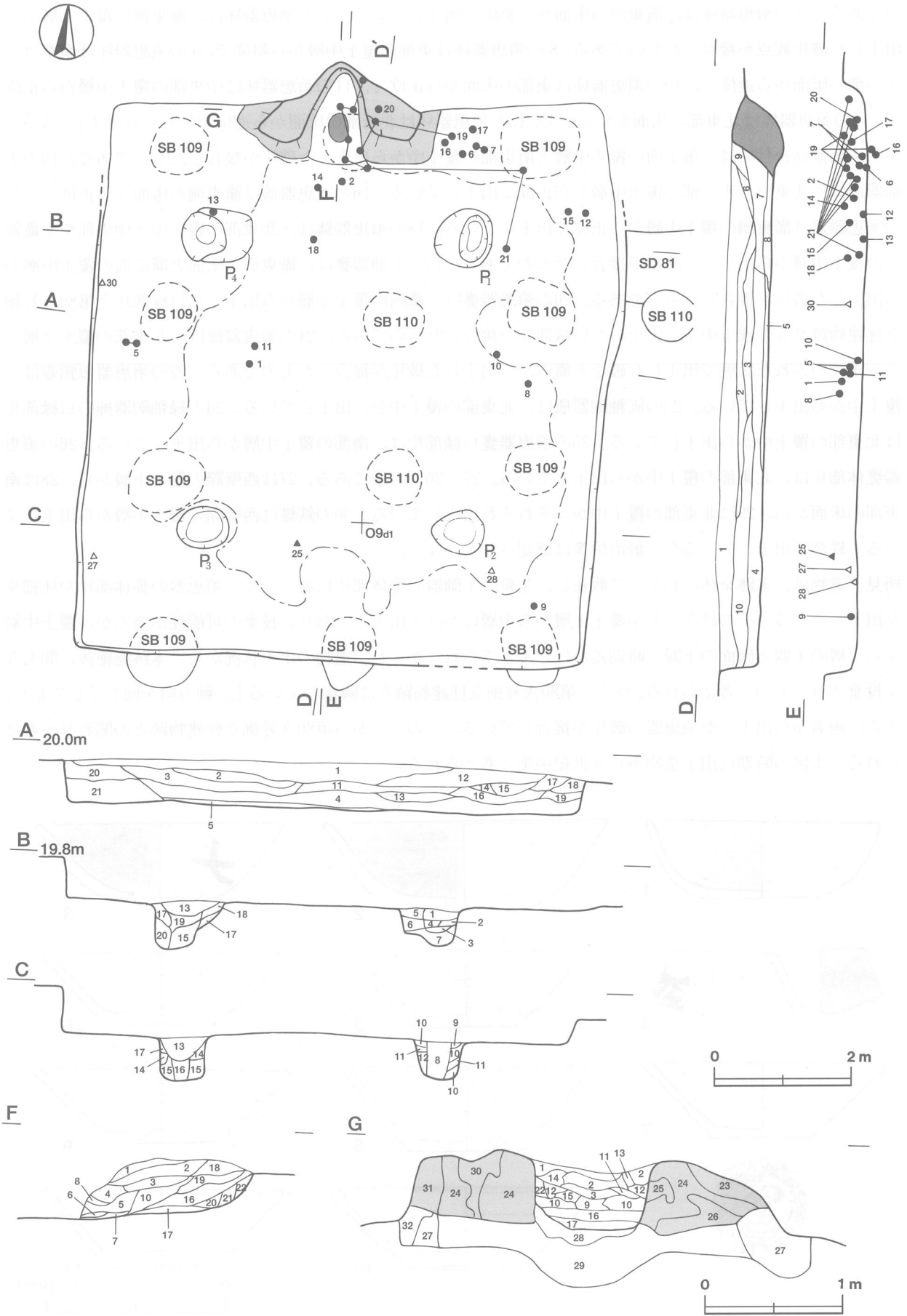
- | | | |
|----|--------|---|
| 1 | 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化物・粘土小ブロック中量, 炭化粒子・粘土中ブロック少量 |
| 2 | 暗赤褐色 | 焼土粒子・粘土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック少量 |
| 3 | 黒褐色 | 粘土粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土小ブロック少量 |
| 4 | 暗赤褐色 | 焼土粒子・粘土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物・粘土小ブロック少量 |
| 5 | 暗赤褐色 | 焼土粒子・粘土小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 6 | 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・粘土小ブロック少量 |
| 7 | 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック少量 |
| 8 | 黒褐色 | 粘土小ブロック中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量 |
| 9 | 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量 |
| 10 | にぶい黄褐色 | 粘土粒子多量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量 |
| 11 | 暗褐色 | 粘土粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量 |
| 12 | 黒褐色 | 粘土粒子中量, 焼土粒子少量 |
| 13 | 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量 |
| 14 | 黒褐色 | 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化物微量 |
| 15 | 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 16 | 黒褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック少量, 炭化物微量 |
| 17 | 黒褐色 | 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 18 | 黒褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量 |
| 19 | 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量 |
| 20 | 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |

覆土 21層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | |
|----|--------|--|
| 1 | 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量 |
| 2 | 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂粒少量, ローム中ブロック微量 |
| 3 | 褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 | 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土中ブロック・粘土小ブロック少量 |
| 5 | 黒褐色 | 焼土小ブロック・粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量 |
| 6 | 黒褐色 | 焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量 |
| 7 | 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量, 炭化物少量 |
| 8 | 黒褐色 | 粘土粒子多量, 砂粒中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量 |
| 9 | 黒褐色 | 砂粒中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量 |
| 10 | 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土小ブロック少量 |
| 11 | 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量 |
| 12 | 黒褐色 | 焼土小ブロック・炭化粒子中量, 焼土粒子・炭化物・粘土小ブロック少量 |
| 13 | 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土小ブロック・砂粒少量 |
| 14 | 黒褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 炭化物・炭化粒子・粘土小ブロック少量 |
| 15 | にぶい赤褐色 | 焼土小ブロック・炭化物中量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量 |
| 16 | 黒褐色 | 焼土小ブロック・炭化物中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 17 | 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物中量, 炭化粒子・粘土小ブロック・砂粒少量 |
| 18 | 黒褐色 | 焼土小ブロック中量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子・焼土小ブロック・砂粒少量 |
| 19 | 黒褐色 | 焼土粒子・炭化物・粘土小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 20 | 黒褐色 | 焼土小ブロック・粘土小ブロック少量, 炭化物微量 |
| 21 | 黒褐色 | 焼土粒子少量, 焼土小ブロック微量 |

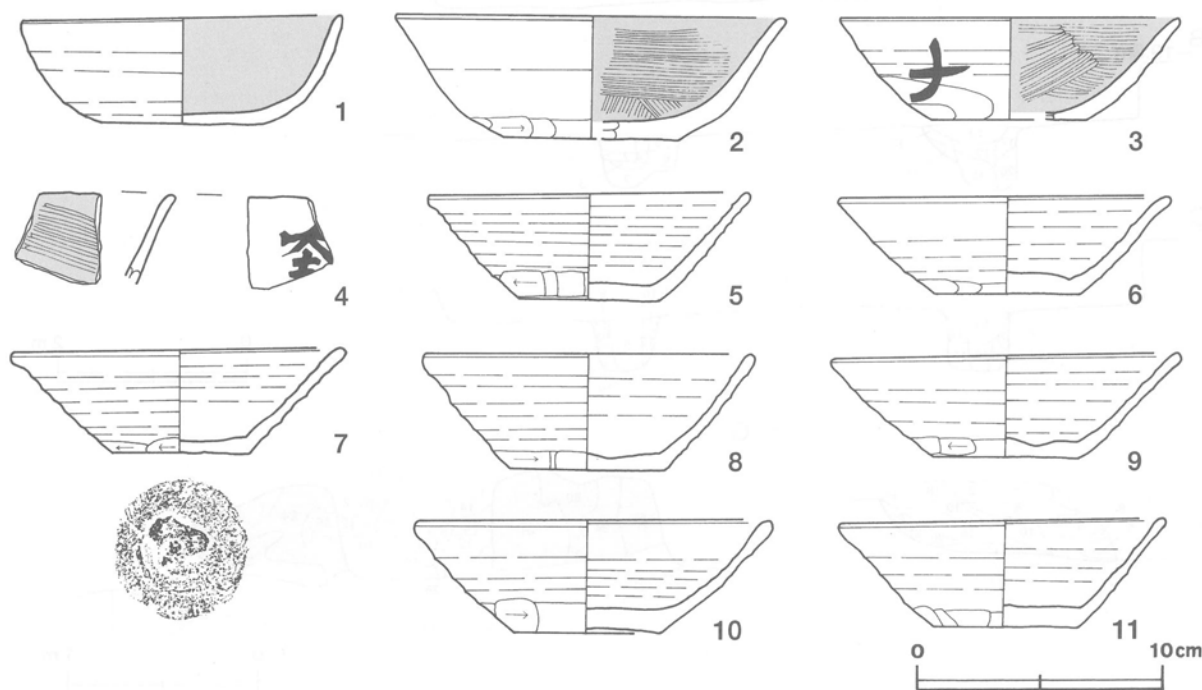
遺物 土師器片3292点, 須恵器片2721点, 灰釉陶器1点, 緑釉陶器片4点, 鉄器4点 (刀子3, 鉄鏝1), 鉄滓13点が出土している。第562～564図1の土師器坏は中央部の覆土中層から正位で、2の土師器坏は竈正面の覆土下層から横位で出土している。3の土師器坏の底部から口縁部片は、南東部の覆土中から出土している。外面に「ナカ」と墨書されている。4の土師器坏の体部から口縁部片は、南西部の覆土中から出土している。外面に正位で「空」と墨書されている。5の須恵器坏は、西部の覆土中層から出土した破片2点が接合したも



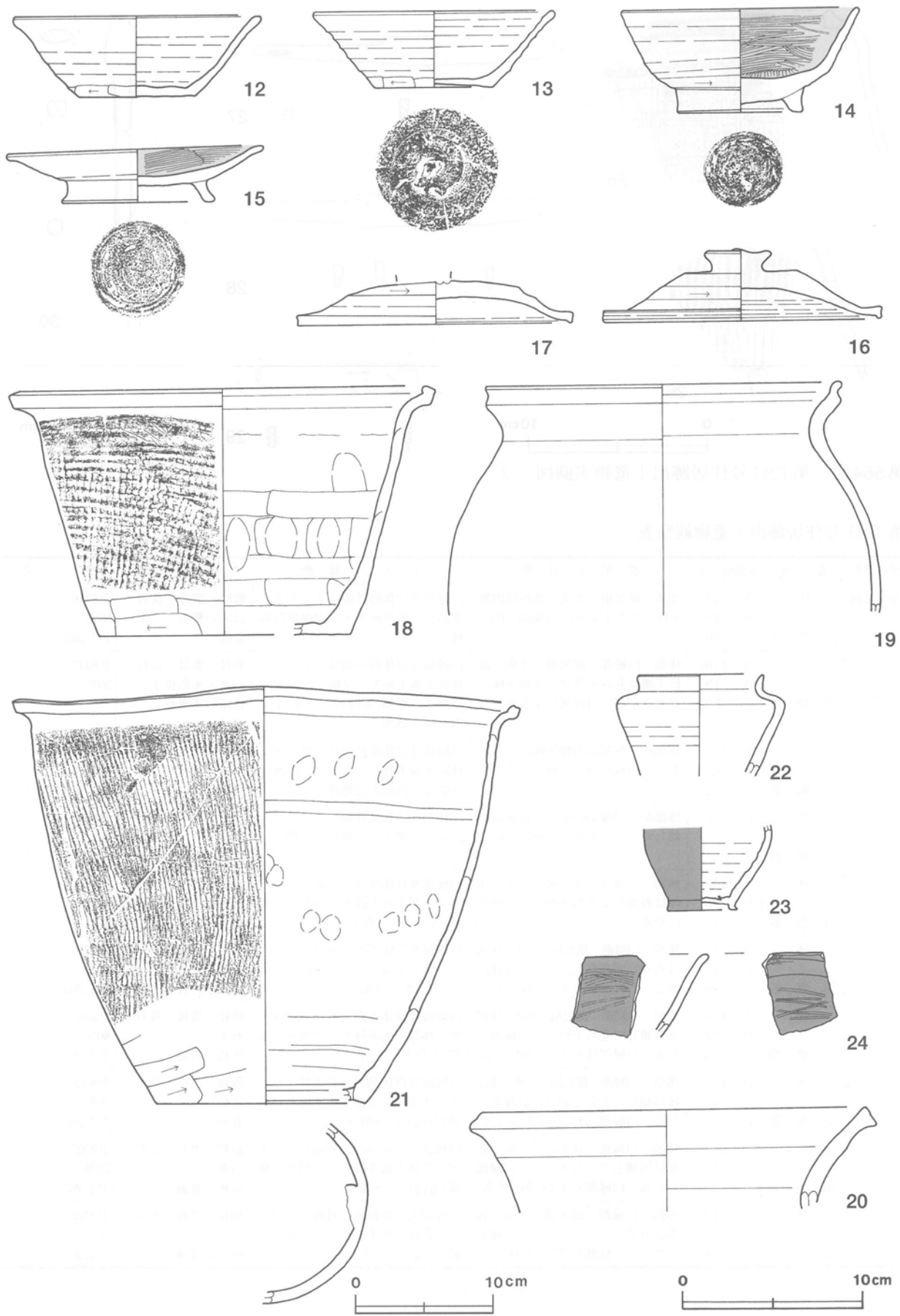
第561图 第1241号住居跡实测图

のである。6の須恵器坏は、竈東側の床面から斜位で出土している。7の須恵器坏は、竈東側の覆土下層から出土した破片数点が接合したものである。8の須恵器坏は東部の覆土中層から斜位で、9の須恵器坏は南東コーナー部の床面から逆位で、10の須恵器坏は東部の床面から正位で、11の須恵器坏は中央部の覆土中層から正位で、12の須恵器坏は北東部の床面から正位で、13の須恵器坏は北西部の床面から逆位でそれぞれ出土している。14の土師器高台付坏は、竈正面の覆土中層と南東部の覆土中から出土した破片が接合したものである。15の土師器皿は、北東コーナー部の覆土中層から正位で出土している。16の須恵器蓋は竈東側の床面から正位で、17の須恵器蓋は竈東側の覆土中層から正位で出土している。18の須恵器鉢は、北東部の覆土中と中央部やや竈寄りの覆土中層から出土した破片が接合したものである。19の土師器甕は、竈東側の床面と竈正面の覆土中層から出土した破片が接合したものである。20の須恵器甕は、竈内の覆土下層から出土した口縁部片と第80A号掘立柱建物跡P6の埋土中から出土した口縁部片が接合したものである。21の須恵器甕は、北東部の覆土下層から土圧でつぶれた状態で出土した破片と竈内から出土した破片が接合したものである。22の須恵器短頸壺は、覆土中から出土している。23の灰釉陶器瓶は、北東部の覆土中から出土している。24の緑釉陶器碗の口縁部片は北東部の覆土中から出土している。25の須恵器甕口縁部片は、南部の覆土中層から出土している。26の須恵器甕体部片は、北東部の覆土中から出土している。27～30は刀子である。27は西壁際の覆土下層から、28は南東部の床面から、29は北東部の覆土中からそれぞれ出土している。30の鉄鏃は西壁際の覆土中層から出土している。鉄滓が出土しているが、鍛冶炉等は確認されていない。

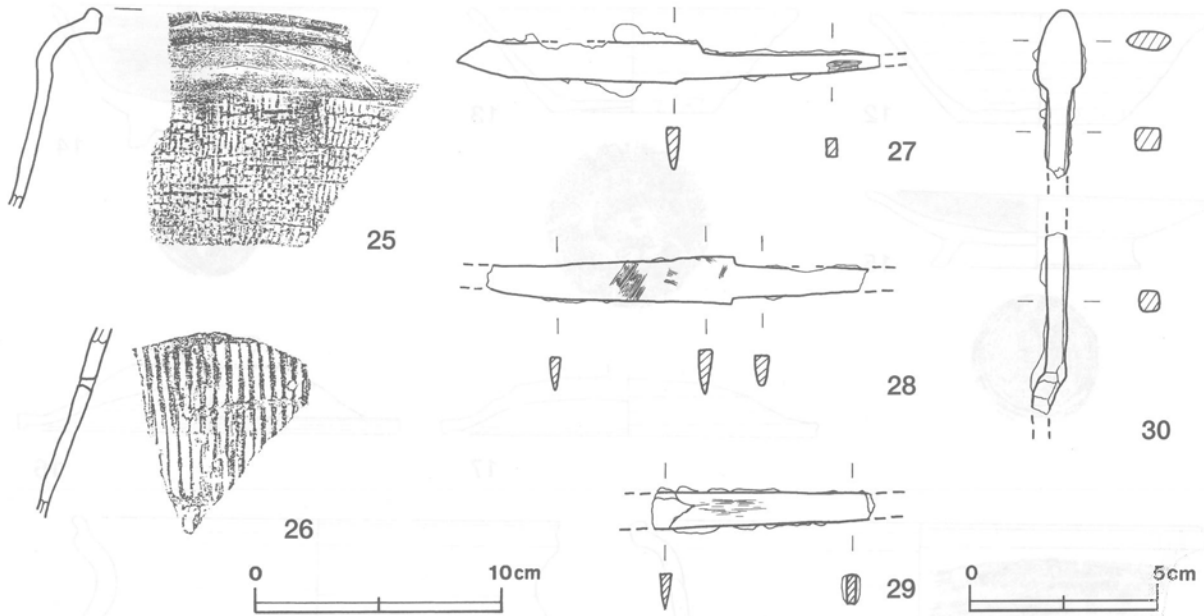
所見 遺物は、本跡全体にわたって散在し、多量の土師器の甕体部片に混じって、須恵器の甕体部片や坏細片が出土している。そのほとんどが覆土上層から中層にかけて出土しており、投棄の可能性はあるが、覆土中層から下層の土器と床面の土器と時期差がほとんどみられなかった。遺物の出土状況から、本跡廃絶後、間もなく投棄されたものと考えられる。また、第80A号掘立柱建物跡とは隣接している上、軸方向を同じくしており、さらに両者から出土した須恵器の破片が接合している。このことから第80A号掘立柱建物跡との関わりが考えられる。本跡の時期は出土遺物から9世紀中葉と考えられる。



第562図 第1241号住居跡出土遺物実測図(1)



第563图 第1241号住居跡出土遺物実測图(2)



第564図 第1241号住居跡出土遺物実測図(3)

第1241号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第562図 1	坏 土師器	A 12.8 B 4.3 C 6.6	体部一部欠損。平底。体部は内彎 気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部外面ロクロナデ。 底部ヘラ削り後ナデ。内面黒色処 理。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P 8316 60% P L 262
2	坏 土師器	A [15.6] B 4.9 C [7.0]	体部・口縁部一部欠損。平底。体 部下端は丸みを帯び、内彎気味に 立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部外面ロクロナデ。 体部下端手持ちヘラ削り、内面へ ラ磨き、底部1方向のヘラ削り。 内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・ 石英・赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	P 8317 30%
3	坏 土師器	A [13.6] B 4.0 C [6.2]	体部片。体部は内彎気味に立ち上 がり、口縁部はやや外反する。	口縁部及び体部外面ロクロナデ。 体部下端手持ちヘラ削り。内面へ ラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P 8318 20% P L 263 体部外面墨書「ナカ」
4	坏 土師器	B (3.6)	体部から口縁部の破片。体部は外 傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部外面ロクロナデ。 内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒 子 にぶい橙色、普通	P 8319 5% 体部外面墨書「空」
5	坏 須恵器	A 12.9 B 4.3 C 5.6	体部・口縁部一部欠損。平底。体 部は外傾して立ち上がり、口縁部 に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナ デ。体部下端手持ちヘラ削り。底 部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 暗灰色 普通	P 8323 90% P L 262
6	坏 須恵器	A 13.2 B 4.0 C 5.8	体部・口縁部一部欠損。平底。体部 は外傾して立ち上がり、口縁部に 至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナ デ。体部下端手持ちヘラ削り。底 部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・ 石英 褐灰色、普通	P 8324 85% P L 262
7	坏 須恵器	A 13.2 B 4.2 C 5.5	体部・口縁部一部欠損。平底。体部 は外傾して立ち上がり、口縁部に 至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナ デ。体部下端手持ちヘラ削り。底 部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・ 石英 灰色、普通	P 8325 80% P L 263
8	坏 須恵器	A 13.1 B 4.7 C 6.2	体部・口縁部一部欠損。平底。体部 は外傾して立ち上がり、口縁部に 至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナ デ。体部下端手持ちヘラ削り。底 部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	P 8326 70% P L 263
9	坏 須恵器	A 13.8 B 4.7 C 5.8	体部・口縁部一部欠損。平底。体部 は外傾して立ち上がり、口縁部 に至る。口縁部わずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナ デ。体部下端手持ちヘラ削り。底 部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・ 石英 灰色、普通	P 8327 70% P L 263
10	坏 須恵器	A 14.1 B 4.5 C 5.8	体部・口縁部一部欠損。平底。体部 は外傾して立ち上がり、口縁部 に至る。口縁部わずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナ デ。体部下端手持ちヘラ削り。底 部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・ 石英 灰色、普通	P 8328 60% P L 263

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第562図 11	坏 須恵器	A [12.9] B 4.5 C 4.8	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 灰色 普通	P 8329 50% P L 263 火襷
第563図 12	坏 須恵器	A [13.4] B 4.4 C 6.2	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰白色、普通	P 8330 40%
13	坏 須恵器	A [13.0] B 4.1 C 6.6	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はやや外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色、普通	P 8331 40% P L 263
14	高台付坏 土師器	A [12.8] B 5.7 D 6.7 E 1.4	体部・口縁部一部欠損。高台はわずかにハの字状に開く。体部は下端に稜を有し、やや外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 明赤褐色 普通	P 8320 60% P L 263
15	皿 土師器	A 14.2 B 3.0 D 8.4 E 1.2	体部・口縁部一部欠損。高台は底部外周にあり、ハの字状に開く。体部は緩やかに外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部及び体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 灰黄褐色 普通	P 8321 80% P L 263
16	蓋 須恵器	A [15.0] B 3.8 F 3.6 G 1.2	天井部から口縁部の破片。天井部は笠形で、腰高のボタン状のつまみが付く。口縁端部は屈曲し、短く垂下する。	天井部回転ヘラ削り。外周部及び口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色 普通	P 8332 50% P L 263
17	蓋 須恵器	A 15.0 B (2.4)	つまみ部欠損。天井部は笠形。口縁端部は屈曲し、短く垂下する。	天井部回転ヘラ削り。外周部及び口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英、灰色、普通	P 8333 90%
18	鉢 須恵器	A [22.2] B 12.9 C [13.8]	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部で屈曲する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面中位以上擬格子目叩き、下位横位のヘラ削り。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	P 8334 50% P L 263
19	甕 土師器	A 19.4 B (12.5)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部でくびれ、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 明赤褐色、普通	P 8322 10% P L 263
20	甕 須恵器	A [21.0] B (5.5)	口縁部片。口縁部は外反気味に開く。	口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・石英 暗灰色、普通	P 8378 5% P L 263
21	甗 須恵器	A 36.0 B 30.0 C [15.0]	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部で屈曲する。端部に1条の沈線が巡る。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面中位以上縦位の平行叩き、下位横位のヘラ削り。内面指頭押圧痕、輪積み痕を残すナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	P 8335 50% P L 262
22	短頸壺 須恵器	A [6.7] B (5.5)	体部から口縁部の破片。体部は外傾して立ち上がり、肩部に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色、普通	P 8336 20% P L 263 外面自然釉
23	瓶 灰釉陶器	B (4.6) D 3.8 E 0.6	高台部から体部の破片。小形。高台は短くハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。外面に灰釉を施釉。底部内面自然釉。	緻密 釉：灰白色 胎土：灰色、良好	P 8337 20% P L 263
24	碗 緑釉陶器	B (4.5)	体部上位から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部内・外面ヘラ磨き。内・外面釉刷毛塗り。	軟質 釉：浅黄色 胎土：灰白色、良好	P 8310 5%
第564図 25	甕 須恵器	B (8.1)	体部上位から口縁部の破片。頸部で屈曲し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面格子目叩き、内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英、灰色、良好	T P 8208 5% P L 263
26	甕 須恵器	B (7.4)	体部片。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面縦位の平行叩き。内面ナデ。貫通する径2mmの円孔が1つ穿たれている。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色、良好	T P 8209 5% P L 263

図版番号	器種	計 測 値						材質	特 徴	備 考
		全長 (cm)	刀身長 (cm)	身幅 (cm)	重ね (cm)	茎長 (cm)	重量 (g)			
第564図27	刀 子	(11.4)	6.6	1.1	0.4	(4.8)	(10.5)	鉄	両区有り。基部に木質付着。	M8213 P L 281
28	刀 子	(10.2)	(6.7)	1.3	0.4	(3.5)	(13.8)	鉄	両区有り。刀身部に木質付着。	M8215 P L 281
29	刀 子	(5.9)	(1.8)	(1.1)	0.5	(4.1)	(6.9)	鉄	刀身部から基部の破片。木質付着。	M8216 P L 280

図版番号	器種	計測値						材質	特徴	備考	
		全長(cm)	鎌身長(cm)	鎌身幅(cm)	筥数部長(cm)	筥数部幅(cm)	厚さ(cm)				重量(g)
第564図30	鎌	(9.4)	2.2	1.2	(7.2)	0.6	0.5~0.4	(11.0)	鉄	圭頭状。両丸造。茎部欠損。	M8214 P L281

第1242号住居跡 (第565・566図)

位置 調査8区の南部, N9j2区。

重複関係 第88号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸3.39m, 短軸3.10mの方形である。

長軸方向 N-100° - E

壁 壁高は12~27cmで外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で締まっている。

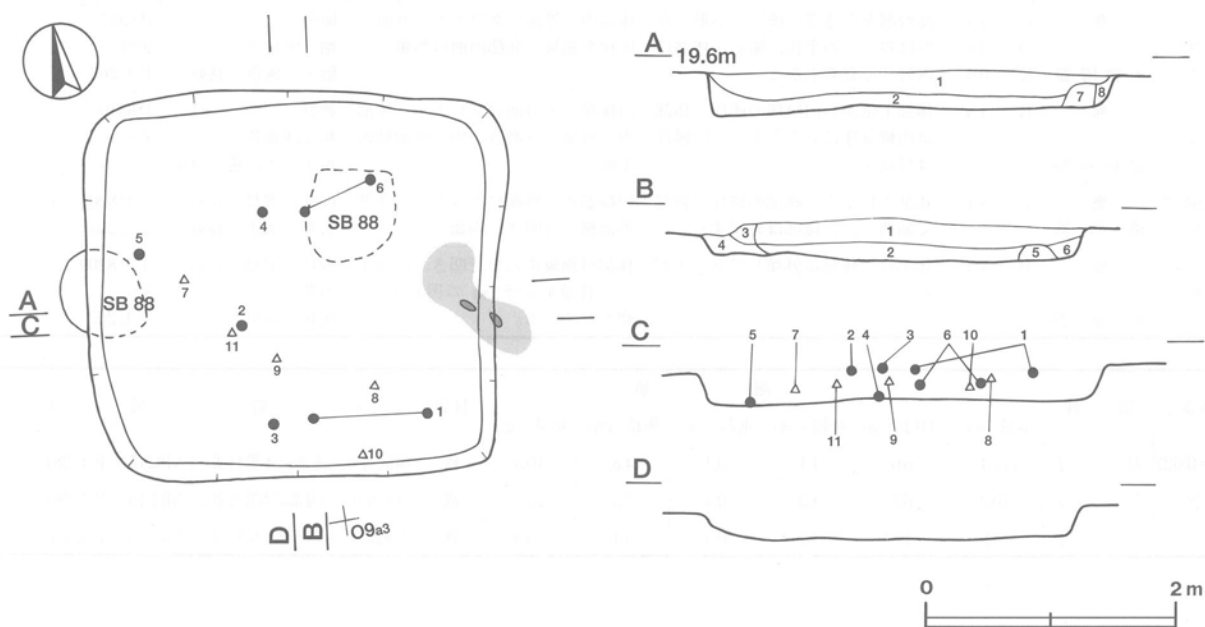
竈 東壁の中央部付近から, 粘土・砂・焼土が検出された。出土土器からも竈を持つ時期と考えられ, 東壁に付設されていたと考えられる。

覆土 8層からなる。ブロック状の堆積状況から, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土小ブロック・炭化物中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土小ブロック少量
- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子・粘土小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土小ブロック少量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック少量
- 7 にぶい黄褐色 ローム粒子・粘土小ブロック少量, 炭化物・炭化粒子微量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量

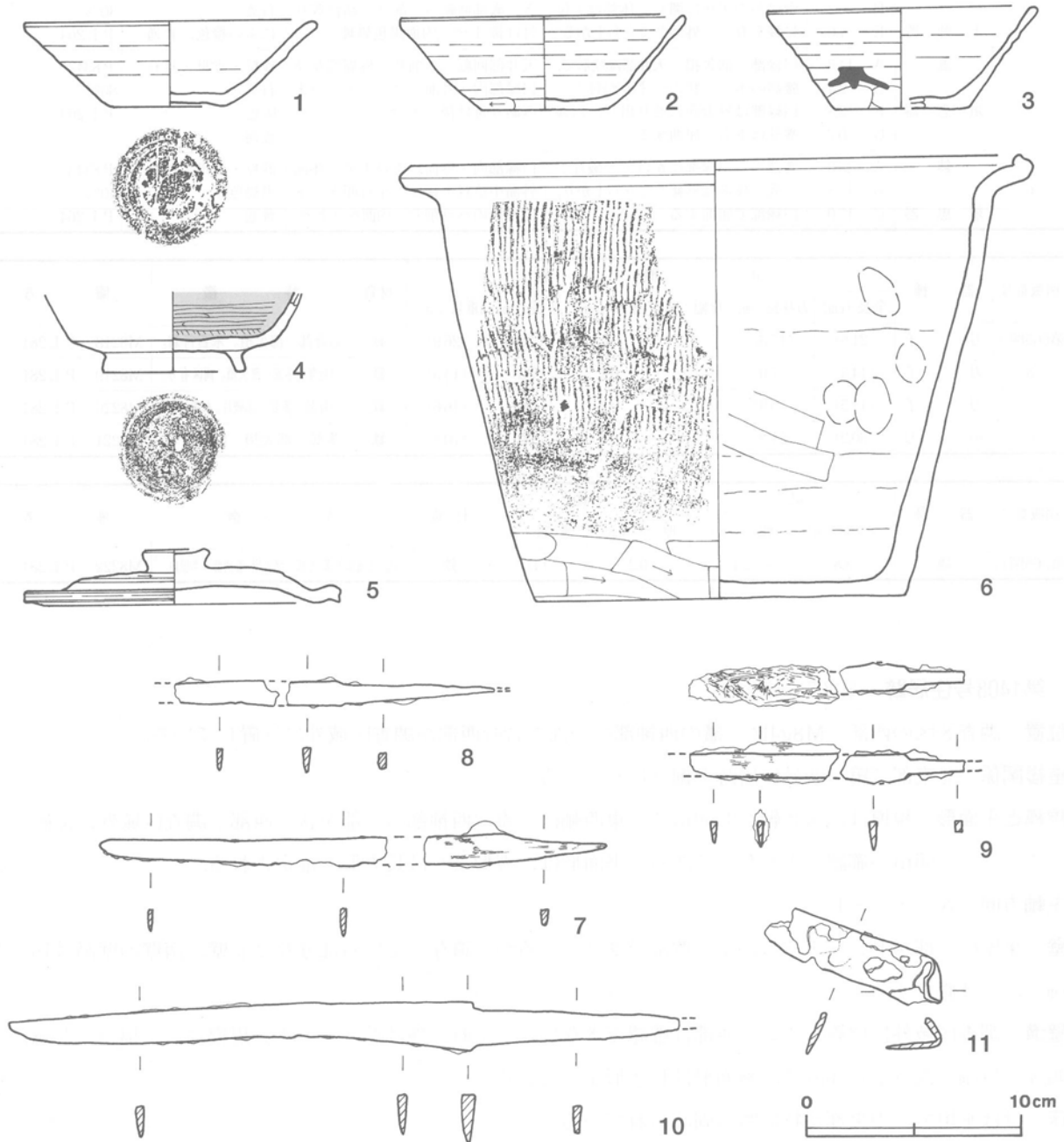
遺物 土師器片329点, 須恵器片363, 鉄器5点(刀子3, 小刀1, 鎌1)が出土している。第566図1の須恵器坏は, 南東部の覆土上層と南部の覆土上層から出土した破片が接合したものである。2の須恵器坏は, 中央部の覆土上層から逆位で出土している。3の須恵器坏は, 南部の覆土上層から出土している。体部外面に墨書されているが, 判読不能である。4の土師器高台付坏は, 中央部の床面から出土した破片数点が接合したものである。5の須恵器蓋は, 西部の床面から逆位で出土している。6の須恵器鉢は, 北東部の覆土下層と中央部



第565図 第1242号住居跡実測図

の覆土下層から出土した破片数点が接合したものである。7～9は刀子である。7は西部の覆土中層から、8は南東部の覆土中層から、9は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。10の小刀は南部の覆土中層から、11の鎌は中央部の覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第566図 第1242号住居跡出土遺物実測図

第1242号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第566図 1	須恵器	A 13.2	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面クロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部切り離し痕を残す1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	P8339 70% P L263
		B 3.8				
		C 5.2				

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第566図 2	坏 須恵器	A [13.0]	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部2方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色、普通	P8340 50% P L 263
		B 4.2				
		C 5.8				
3	坏 須恵器	A 12.2	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	P8341 40% P L 264 体部外面墨書「□」
		B 4.4				
		C 6.0				
4	高台付坏 土師器	B (3.6)	高台部から体部にかけての破片。高台はハの字状に開く。体部は下位に稜を有し、外傾して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ、内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台取り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色、普通	P8338 30% P L 264
		D 6.2				
		E 1.0				
5	蓋 須恵器	A 14.3	口縁部一部欠損。天井部は笠形で、腰高のボタン状のつまみが付く。口縁部は外方向にせり出し、口縁端部は下方へ屈曲する。	天井部回転ヘラ削り。外周部及び口縁部内・外面ロクロナデ。つまみ貼り付け後、ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色 普通	P8342 80% P L 264
		B 2.4				
		F 2.8				
		G 0.7				
6	鉢 須恵器	A [28.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部で屈曲する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面中位以上縦位の平行叩き、下位横位のヘラ削り。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石 黒褐色 普通	P8343 40% P L 264
		B 19.8				
		C 17.0				

図版番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長 (cm)	刀身長 (cm)	身幅 (cm)	重ね (cm)	茎長 (cm)	重量 (g)			
第566図7	刀子	(21.5)	(17.3)	1.3	0.4	(4.2)	(26.9)	鉄	刀身一部欠損。木質付着。	M8218 P L 281
8	刀子	(14.3)	(7.0)	1.2	0.4	(7.3)	(13.5)	鉄	刀身部・茎部一部欠損。両区有り。	M8219 P L 281
9	刀子	(12.5)	(9.9)	1.3	0.4	(2.6)	(16.6)	鉄	刀身部・茎部一部破片。木質付着。	M8220 P L 281
10	小刀	(30.2)	21.2	2.3	0.7	(9.0)	(70.1)	鉄	茎部一部欠損。両区有り。	M8221 P L 281

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第566図11	鎌	(8.8)	2.1	0.2	(14.0)	鉄	小形。先端部欠損。刃部一部欠損。着柄部上半屈曲。	M8222 P L 281

第1408号住居跡 (第567・568図)

位置 調査8区の西部、M8g4区。竈の西袖部の一部を含む西部が調査区域外に位置している。

重複関係 北東部で第1409号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 規模は、南北軸が3.50mで、東西軸は、竈の西袖部の一部を含む西部が調査区域外に位置しているため、2.66mが確認できただけである。平面形は、方形または長方形と推定される。

主軸方向 N-8°-E

壁 東壁の一部がトレンチャーによる攪乱を受けているが、遺存している部分及び北壁、南壁の壁高は19~36cmで、ほぼ直立する。

壁溝 調査区域外に位置している西部は確認できないが、それ以外は巡っている。規模は、上幅14~20cm、下幅5~11cm、深さ7~10cmで、断面形はU字形をしている。

床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。

竈 西袖部の一部を含む西部が、調査区域外に位置しているため、位置や全容は確認できなかった。北壁の中央部と推定される位置を壁外へ約52cm掘り込んで、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部までが100cmで、確認できた両袖幅は105cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、第2層には粘土粒子・砂粒が中量含まれていることから、この層が天井部の崩落土と考えられる。東袖部は良好に遺存し、内側は火熱を受けて赤変硬化している。火床部は、床面から5cmほど掘りくぼめられており、皿状をしている。第3層には焼土粒子が中量、炭化粒子・灰が少量含まれていることから、下面が火床面と考えられる。煙道は火

床面から緩やか立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
- 2 暗 褐 色 粘土粒子・砂粒中量, ローム粒子・焼土粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗 赤 褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子・灰少量, 焼土小ブロック微量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量, 炭化物微量
- 5 にぶい赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
- 6 暗 赤 褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 7 暗 赤 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 砂粒微量
- 8 暗 赤 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子・砂粒微量
- 9 暗 赤 褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 10 灰 褐 色 ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 11 暗 赤 褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量, ローム粒子・焼土小ブロック微量
- 12 暗 赤 褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量, ローム粒子・炭化物微量
- 13 暗 赤 褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量, 砂粒微量

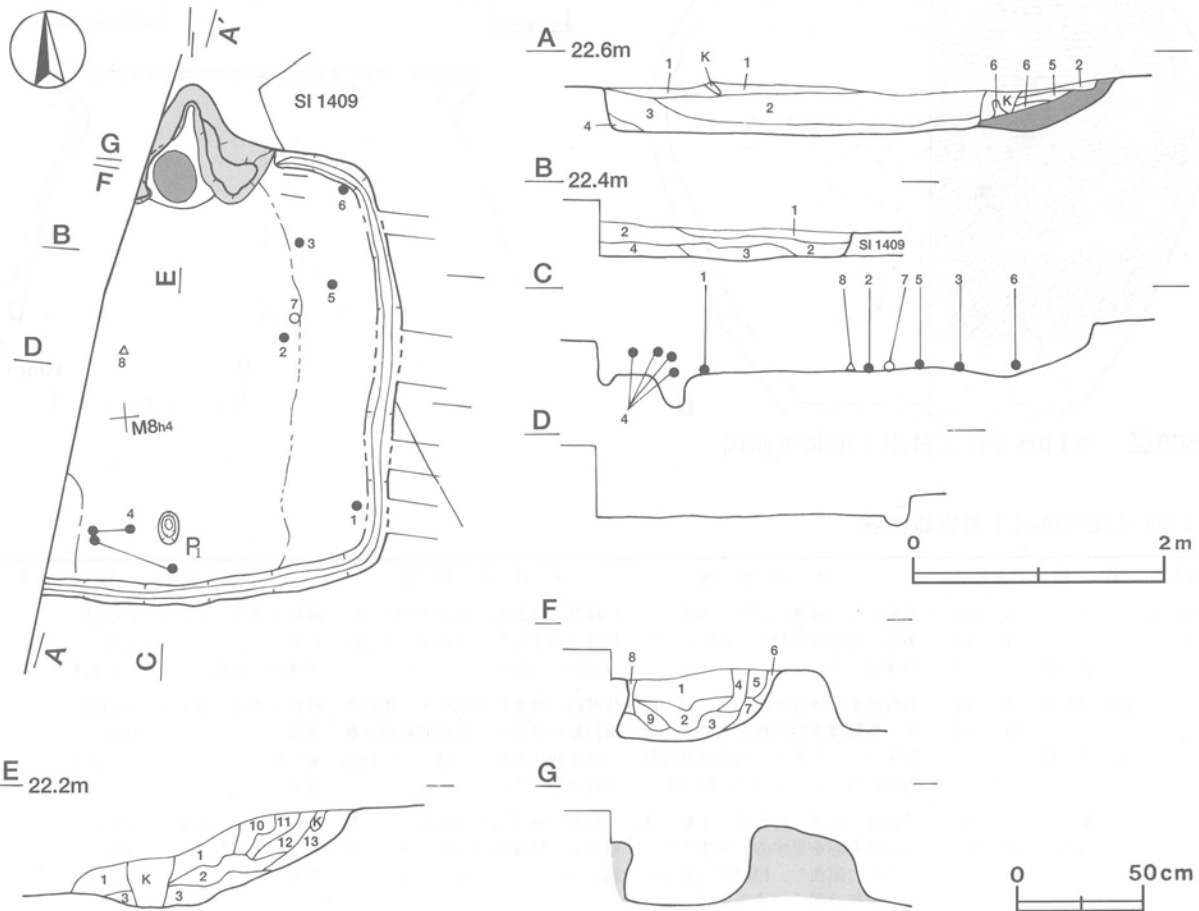
ピット 1か所。P1は、長径26cm、短径16cmの楕円形で、深さ27cmであり、南壁際の中央部に位置し、やや南壁側に傾斜していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 6層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒 褐色 ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック・ローム粒子微量
- 3 黒 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 4 暗 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量
- 6 灰 褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量

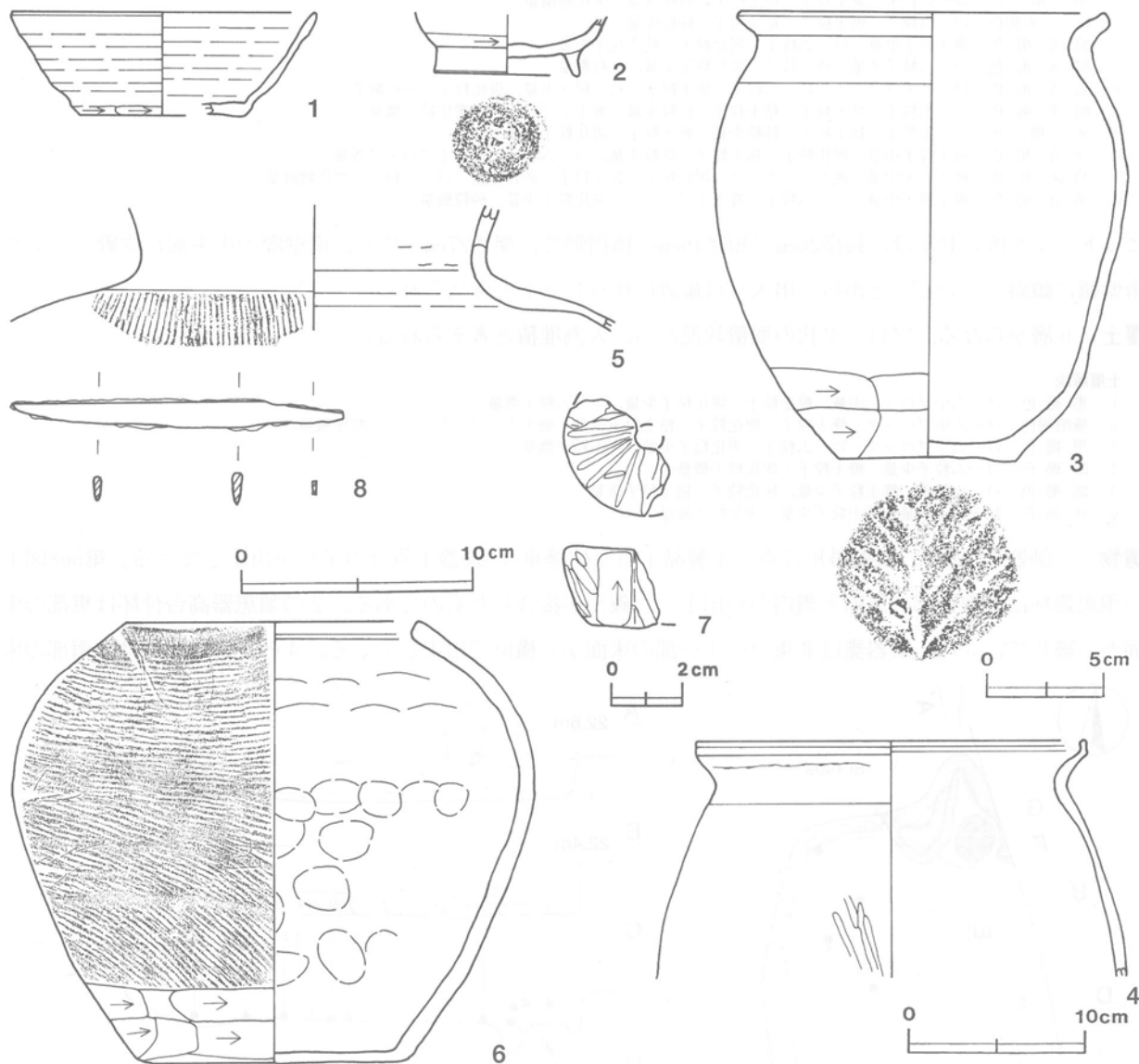
遺物 土師器片160点, 須恵器片77点, 土製品1点(紡錘車), 鉄器1点(刀子)が出土している。第568図1の須恵器坏は、南東部の床面と竈内から出土した破片が接合したものである。2の須恵器高台付坏は東部の床面から破片で、3の土師器甕は北東コーナー部の床面から横位で出土している。4の土師器甕片は、南部の床



第567図 第1408号住居跡実測図

面から出土している。5・6の須恵器甕は、北東コーナー部の床面から、5が破片で、6が正位で出土している。7の紡錘車は、東部の床面から出土している。8の刀子は、中央部の床面から出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀前半と考えられる。



第568図 第1408号住居跡出土遺物実測図

第1408号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第568図 1	坏 須恵器	A [13.0] B 4.4 C [7.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰黄色、普通	P 8591 15% P L 264
2	高台付坏 須恵器	B (2.6) D 6.2 E 1.1	高台部から体部下位にかけての破片。体部は下位に稜を有し、内彎気味に立ち上がる。高台は底部外周部にあり、「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転切り離し痕を残す回転ヘラ削り。高台貼り付け後、ナデ。	砂粒・雲母・長石・雲母 褐灰色 普通	P 8592 10% P L 264
3	甕 土師器	A [15.6] B 19.1 C 7.6	口縁部、体部一部欠損。平底。体部は倒卵形を呈する。頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁部は外反する。端部は弱くつまみ上げられている。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面上位縦位のヘラナデ、下位横位のヘラ削り。底部木葉痕。	砂粒・雲母・石英 にぶい赤褐色 普通	P 8593 60% P L 264

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第568図 4	甕 土師器	A [21.6] B (13.3)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部で「く」の字状に屈曲し、口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ磨き、内面ナデ。口縁部外面に輪積み痕が残る。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色 普通	P 8594 20% P L 265
5	甕 須恵器	B (5.3)	体部上位から頸部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、頸部で屈曲し、口縁部に至る。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面縦位の平行叩き。	砂粒・雲母 黄灰色 普通	P 8596 5%
6	甕 須恵器	A [16.4] B 24.8 C 15.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部下位は外傾して立ち上がり、上位は内彎して頸部に至る。頸部と体部との境で打ち欠いて丁寧に削られている。	体部外面横位の平行叩き、下端横位のヘラ削り、内面ナデ。内面上位当て具痕及び指頭による押さえ痕あり。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色 普通	P 8597 50% P L 264 底部摩滅

図版番号	器種	計測値					材質	特徴	備考
		最大径 (cm)	最小径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第568図7	土製紡錘車	[4.6]	[4.1]	2.2	[0.6]	20.8	断面澁台形。ヘラナデ。	砂粒・雲母、黒褐色	D P 8415 40%

図版番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長 (cm)	刀身長 (cm)	身幅 (cm)	重ね (cm)	茎長 (cm)	重量 (g)			
第568図8	刀子	(14.4)	11.1	1.3	0.4	(3.3)	(13.7)	鉄	茎部一部欠損。両区。	M8420 80% P L 281

第1410号住居跡 (第569・570図)

位置 調査8区の東部, M9e8区。

規模と平面形 長軸3.58m, 短軸3.10mの長方形である。

主軸方向 N-115° - E

壁 壁高は30~40cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 ほぼ全周している。規模は上幅16~22cm, 下幅3~8cm, 深さ8cmで、断面形はU字形をしている。

床 ほぼ平坦であり、中央部が特に踏み固められている。

竈 南東壁の中央部を壁外へ約50cm掘り込んで、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部までが120cmで、両袖幅が105cmである。天井部は煙道付近の一部が遺存しているほかは崩落しており、竈土層断面図中、第2層には粘土粒子・砂粒が多量に含まれることから、この層が天井部の崩落土と考えられる。両袖部は良好に遺存し、内側は火熱を受けて赤変硬化している。第10層には焼土粒子が多量、炭化粒子が中量含まれていることから、下面が火床面と考えられる。火床面は、壁外へ掘り込んだ部分が赤変硬化している。煙道は火床面から緩やか立ち上がる。

竈土層解説

- 黒褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
- 暗褐色 粘土粒子・砂粒多量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 暗赤褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
- 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量, ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量
- にぶい暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
- にぶい赤褐色 粘土粒子・砂粒多量, 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化物・炭化粒子少量
- 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 黒褐色 炭化物・炭化粒子中量, ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
- 暗赤褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
- 極暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量, ローム粒子・炭化物少量
- 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
- にぶい赤褐色 焼土粒子多量, 粘土粒子・砂粒中量, 炭化粒子少量
- 暗赤褐色 粘土粒子・砂粒多量, 火熱を受けて赤変硬化している。
- 黒褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子少量
- 灰褐色 粘土粒子多量, しまり強。
- 黒褐色 ローム粒子多量, しまりやや強。

ピット 3か所 (P1~P3)。P1は長径42cm, 短径30cmの楕円形, 深さ38cmで, 南西コーナー部に位置し, P2は径32cmの円形, 深さ16cmで, 北壁際に位置している。いずれも規模と配置から支柱穴と考えられる。P3は径24cmの円形で, 深さ7cmであり, 北西壁際の中央部に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

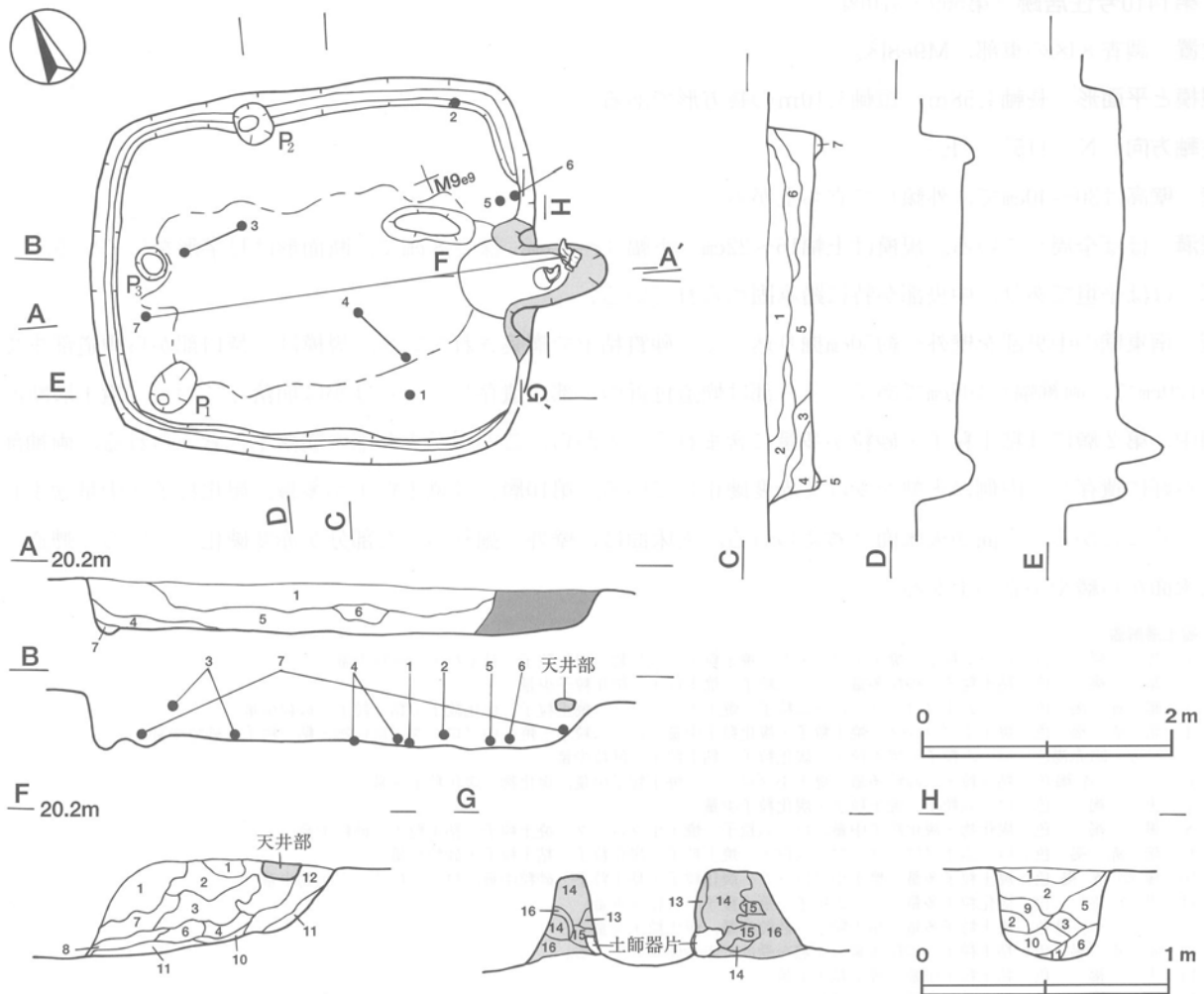
覆土 7層からなる。ブロック状の堆積状況から, 人為堆積と考えられる。第7層は壁溝の覆土である。

土層解説

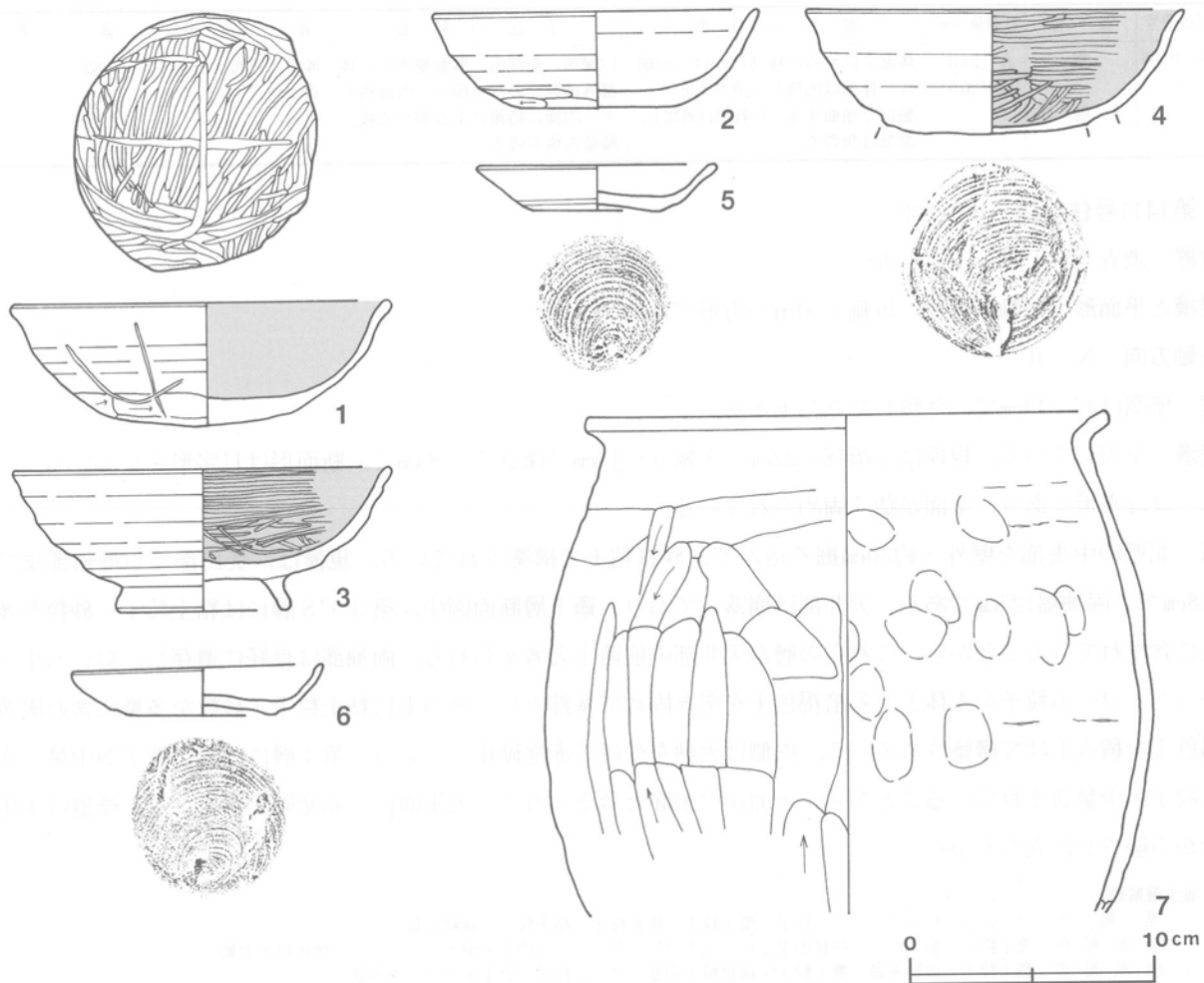
- | | | | |
|-------|---|--------|------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 4 黒色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子少量 | 5 極暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 |
| 3 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 黒色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| | | 7 褐色 | ローム粒子多量 |

遺物 土師器片555点, 須恵器片154点, 鉄滓1点が出土している。図示した土器は, すべて土師器である。第570図1の坏は南東コーナー部の床面から, 2の坏は北東コーナー部の覆土下層から, いずれも破片で出土している。3の高台付坏は, 西部の床面と南西部の覆土中から出土した破片が接合したものである。4の高台付坏は, 中央部の床面から破片で出土している。5・6の皿は, 竈北側の覆土下層から, いずれも正位で出土している。7の甕は, 竈内からと西部の床面から出土した破片が接合したものである。須恵器片と鉄滓は, 混入したものと考えられる。

所見 本跡の時期は, 出土土器から10世紀後葉と考えられる。



第569図 第1410号住居跡実測図



第570図 第1410号住居跡出土遺物実測図

第1410号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第570図 1	坏 土師器	A [15.1] B 4.8	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端から底部にかけてヘラ削り、内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P 8776 60% P L 264
2	坏 土師器	A [13.0] B 3.7 C [6.4]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端横位のヘラ削り。底部切り離し痕を残す不定方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 橙色 普通	P 8777 35%
3	高台付坏 土師器	A [15.0] B 5.6 D 6.8 E 1.4	体部、口縁部一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ロクロナデ後、外面横位のヘラナデ、内面ヘラ磨き。底部回転切り離し痕を残す、回転ヘラ削り。高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P 8778 40% P L 264
4	高台付坏 土師器	A [15.1] B (5.0)	底部から口縁部にかけての破片。高台部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。底部回転系切り。高台貼り付け痕。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい褐色 普通	P 8779 60% P L 264
5	皿 土師器	A 9.5 B 1.9 C 5.3	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して大きく開き、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転系切り。	砂粒・雲母・長石・石英 赤色粒子 にぶい橙色、普通	P 8780 70% P L 264
6	皿 土師器	A 10.1 B 2.0 C 6.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に大きく開き、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転系切り。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい黄橙色、普通	P 8781 90% P L 264

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第570図 7	甕 土師器	A [21.0] B (20.0)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部で屈曲する。口縁部は外傾し、端部は角張る。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り、内面横ナデ。内面に指頭による押さえ痕、輪積み痕が残る。	砂粒・雲母・石英 褐灰色 普通	P 8783 15% P L 265

第1411号住居跡（第571図）

位置 調査8区の東部，M9e0区。

規模と平面形 長軸3.85m，短軸3.50mの方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は37～43cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。規模は上幅18～22cm，下幅6～11cm，深さ5～8cmで，断面形はU字形をしている。

床 ほぼ平坦であり，全面が踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外へ約30cm掘り込んで，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで118cmで，両袖幅125cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第3・8層には粘土粒子・砂粒が多量に含まれていることから，これらの層が天井部の崩落土と考えられる。両袖部は良好に遺存し，ローム小ブロック・ローム粒子を主体とする暗褐色土を突き固めて基部とし，その上に粘土粒子・砂粒を多量に含む灰黄褐色土を積み上げて構築されている。内側は火熱を受けて赤変硬化している。第4層には焼土粒子が中量，炭化粒子が少量含まれていることから，下面が火床面と考えられる。火床面は，赤変硬化している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 3 暗赤褐色 粘土粒子・砂粒多量，焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量
- 4 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・灰中量，ローム粒子・炭化粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
- 7 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 8 暗褐色 粘土粒子・砂粒多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 9 黒褐色 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 10 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 11 灰黄褐色 粘土粒子・砂粒多量，ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
- 12 灰黄褐色 粘土粒子・砂粒多量，ローム粒子・焼土粒子少量
- 13 灰黄褐色 粘土粒子・砂粒多量
- 14 暗赤褐色 焼土粒子多量，焼土小ブロック中量
- 15 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土中ブロック少量
- 16 灰褐色 焼土小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒・灰少量
- 17 暗褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，粘土粒子・砂粒少量
- 18 黒褐色 粘土粒子・砂粒多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 19 にぶい赤褐色 焼土粒子・粘土粒子多量，炭化粒子少量

ピット 2か所（P1・P2）。P1は長径25cm，短径15cmの楕円形で，深さ18cmであり，P2は径40cmの円形で，深さ12cmである。いずれも南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 10層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

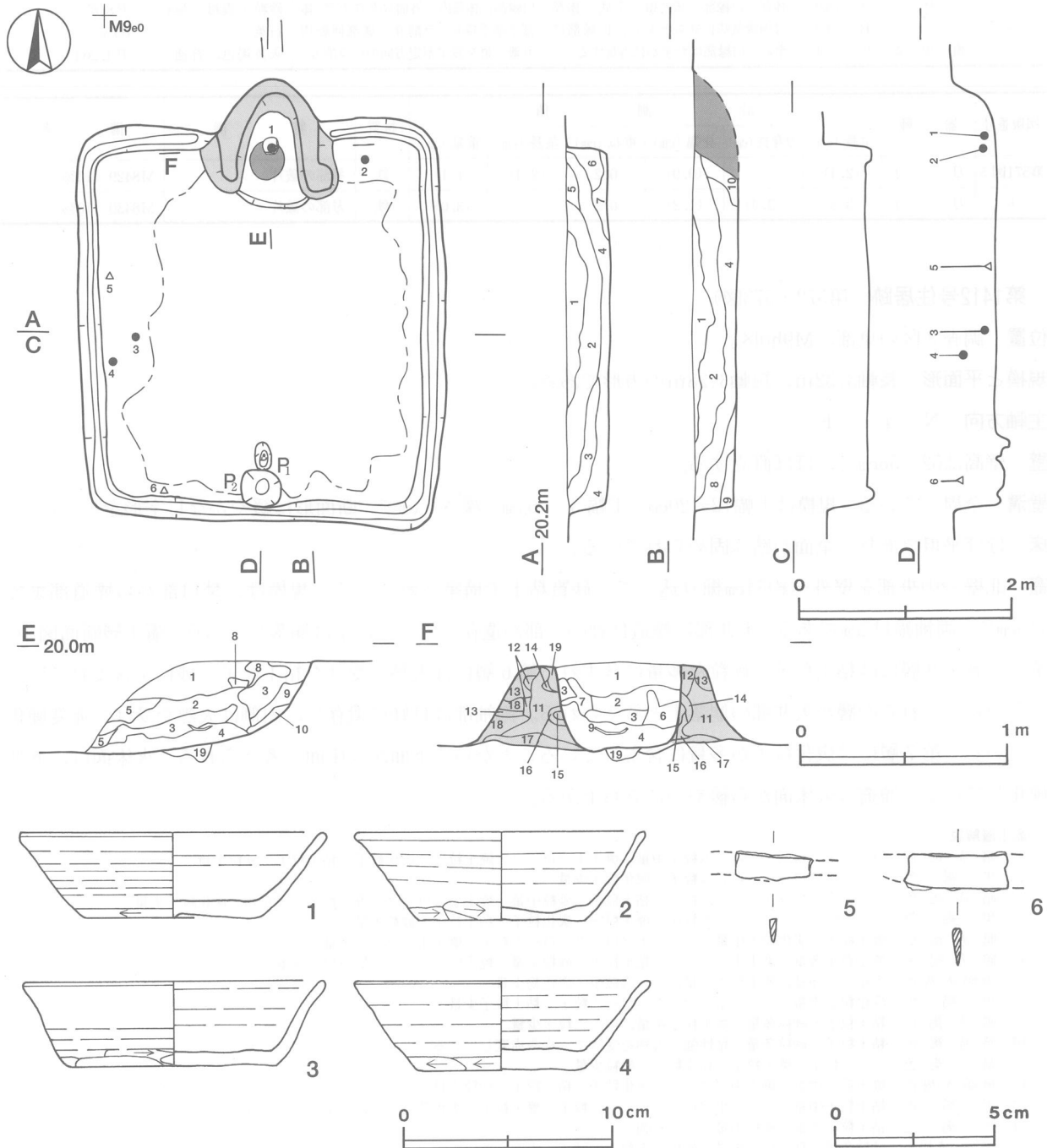
土層解説

- 1 黒色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 6 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 8 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量

- 9 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 10 黒褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量

遺物 土師器片97点, 須恵器片9点, 鉄器2点(刀子)が出土している。図示した土器はすべて須恵器である。第571図1の坏は竈の火床部から正位で, 2の坏は竈の東側の覆土下層から正位で, それぞれ出土している。3の坏は西部の覆土下層から正位で, 4の坏は西部の覆土中層から逆位で, 5の刀子は西部の床面から, 6の刀子は南西コーナー部の覆土中層から, それぞれ出土している。

所見 本跡の時期は, 出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第571図 第1411号住居跡・出土遺物実測図

第 1411 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第 571 図 1	坏 須 恵 器	A [14.4]	底部, 体部, 口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転切り離し痕を残す1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 褐灰色, 普通	P 8784 60% P L 264
		B 4.0				
		C 8.2				
2	坏 須 恵 器	A 13.6	体部, 口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転切り離し痕を残す1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 褐灰色 普通	P 8785 65% P L 264
		B 4.2				
		C 7.8				
3	坏 須 恵 器	A 14.1	体部, 口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり, 口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転切り離し痕を残す不定方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 黒褐色, 普通	P 8786 65% P L 264
		B 4.0				
		C 9.5				
4	坏 須 恵 器	A 13.9	体部, 口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり, 口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転切り離し痕を残す不定方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰黄褐色, 普通	P 8787 65% P L 264
		B 4.2				
		C 7.4				

図版番号	器 種	計 測 値						材質	特 徴	備 考
		全長 (cm)	刀身長 (cm)	身幅 (cm)	重ね (cm)	茎長 (cm)	重量 (g)			
第 571 図 5	刀 子	(2.4)	-	(0.9)	0.2	(2.4)	(1.1)	鉄	茎部の破片。	M8429 10%
6	刀 子	(3.3)	(3.3)	(1.2)	0.2	-	(3.0)	鉄	刃部の破片。	M8430 10%

第1412号住居跡 (第572・573図)

位置 調査 8 区の東部, M9h0区。

規模と平面形 長軸3.32m, 短軸3.28mの方形である。

主軸方向 N - 4° - E

壁 壁高は52~56cmで, ほぼ直立する。

壁溝 全周している。規模は上幅12~20cm, 下幅3~6cm, 深さ5cmで, 断面形は緩やかなU字形をしている。

床 ほぼ平坦であり, 全面が踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外へ約54cm掘り込んで, 砂質粘土で構築されている。規模は, 焚口部から煙道部まで115cmで, 両袖幅112cmである。天井部は煙道付近の一部が遺存しているほかは崩落しており, 竈土層断面図中, 第3・8・9層には粘土粒子・砂粒が多量に含まれ, 第6層には火熱を受けた粘土粒子・砂粒が含まれていることから, これらの層が天井部の崩落土と考えられる。両袖部は良好に遺存し, 内側は火熱を受けて赤変硬化している。第7層には炭化粒子が多量に含まれていることから, 下面が火床面と考えられる。火床面は, 赤変硬化している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗 赤 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
- 2 黒 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 暗 赤 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 4 黒 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
- 5 暗 赤 褐 色 焼土粒子・炭化粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量
- 6 暗 赤 褐 色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒中量, 焼土中ブロック・炭化粒子少量
- 7 極暗赤褐色 炭化粒子多量, 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化物少量
- 8 黒 褐 色 炭化粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量
- 9 暗 赤 褐 色 粘土粒子・砂粒多量, 焼土粒子中量, ローム粒子少量
- 10 暗 赤 褐 色 粘土粒子・砂粒多量, 粘性強。火熱を受けて, やや赤変している。
- 11 暗 赤 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
- 12 極暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土中ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
- 13 灰 褐 色 粘土粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量, しまり強
- 14 灰 褐 色 粘土粒子多量, 砂粒中量, しまり強。
- 15 にぶい赤褐色 砂粒多量, 粘土粒子中量。砂粒が火熱を受けて, 赤変している。
- 16 暗 赤 褐 色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 17 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 18 暗 赤 褐 色 ローム小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量, ローム粒子少量

- 19 暗赤褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 20 褐色 粘土粒子多量, ローム小ブロック中量

ピット 1か所。P1は径22cmの円形で、深さ16cmであり、南壁際の中央部に位置していることから、出入口口施設に伴うピットと考えられる。

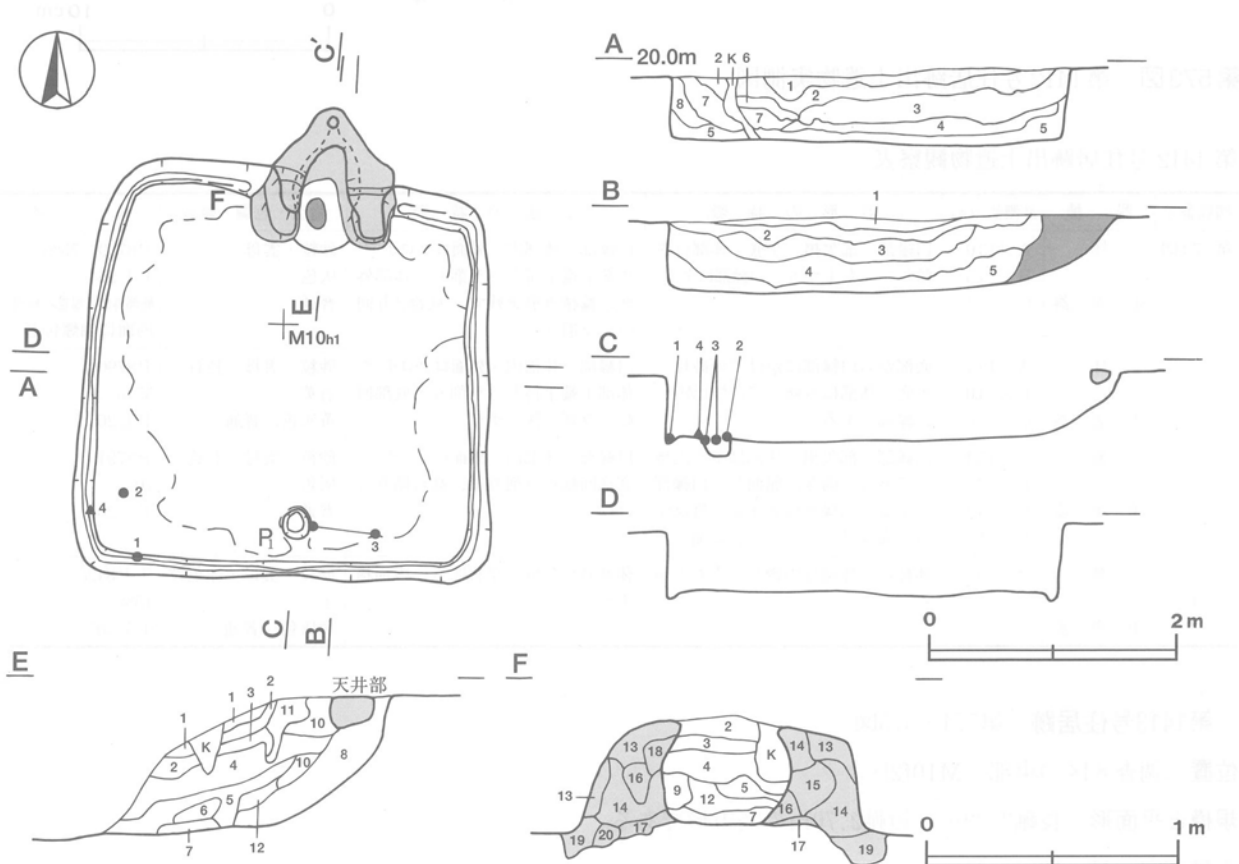
覆土 8層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

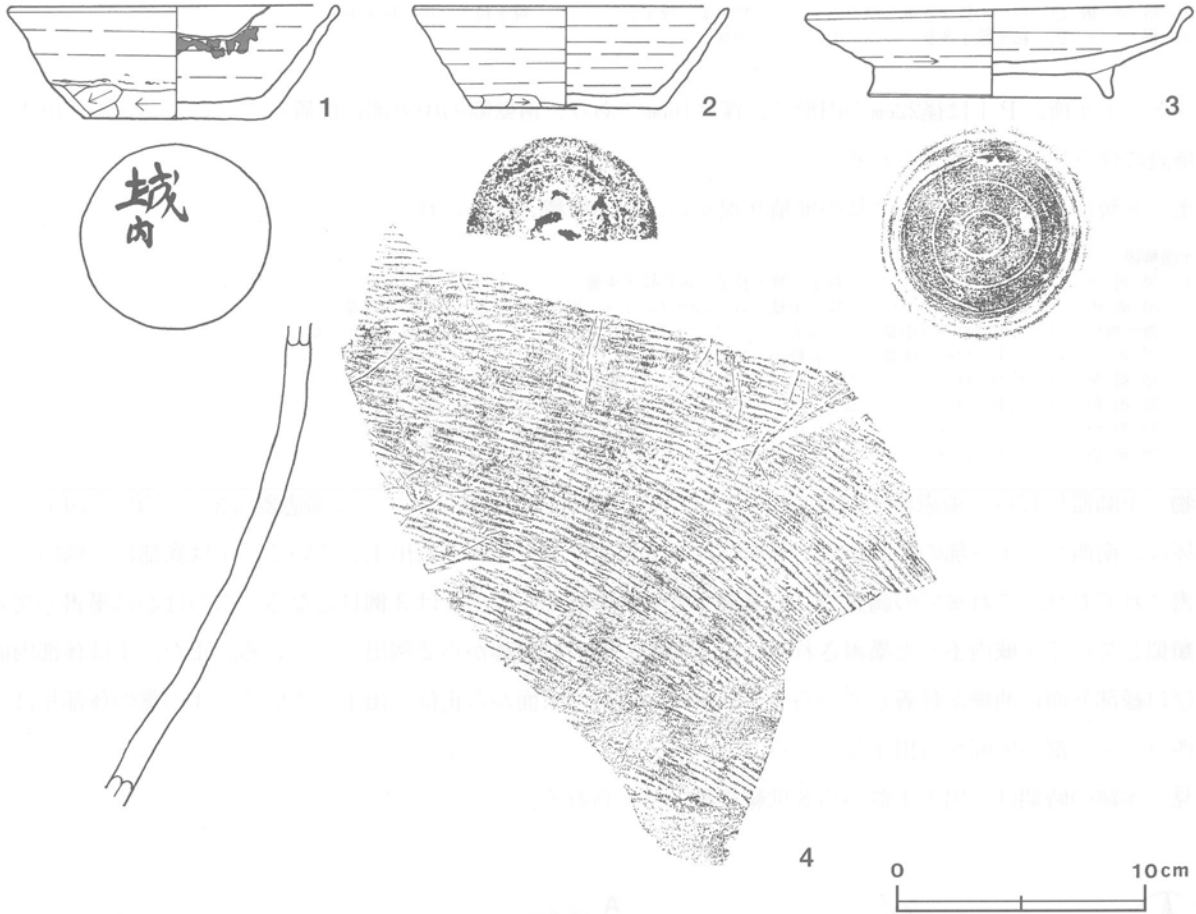
- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子・粘土粒子少量
- 5 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 6 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 8 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量

遺物 土師器片47点, 須恵器片24点が出土している。図示した土器は、すべて須恵器である。第573図1・2の坏は、南西コーナー部の床面から1が横位で、2が逆位で、それぞれ出土している。1は底部に「城内」と墨書されており、これまでの調査で、当遺跡の竪穴住居跡からの出土は3例目となる。このほかに墨書の文字が類似している「城内丕」と墨書されている土器が、竪穴住居跡から2例出土している。また、1は体部内面及び口縁部外面に油煙が付着している。3の盤は、南部の床面から正位で出土している。4の甕の体部片は、南西コーナー部の床面から出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第572図 第1412号住居跡実測図



第573図 第1412号住居跡出土遺物実測図

第1412号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第573図 1	坏 須恵器	A [13.0] B 4.5 C 7.4	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。体部外面に輪積み痕を残す。底部2方向のヘラ削り。	砂粒・雲母 灰色 普通	P 8789 75% P L 264 底部外面に墨書「城内」 内面に油煙付着
2	坏 須恵器	A [12.1] B 4.0 C 7.6	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色、普通	P 8790 55% P L 265
3	盤 須恵器	A 15.4 B 3.7 D 9.9 E 1.2	口縁部一部欠損。体部はやや内彎して外方に開き、屈曲して口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	砂粒・雲母・石英 灰色 普通	P 8791 70% P L 264
4	甕 須恵器	B (19.5)	体部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面斜位の平行叩き、内面横ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 黄灰色、普通	T P 8426 15% P L 265

第1413号住居跡 (第574・575図)

位置 調査8区の東部、M10f2区。

規模と平面形 長軸3.30m、短軸2.70mの長方形である。

主軸方向 N-10° - E

壁 壁高は30~33cmで、外傾して立ち上がる。竈の東側の北東コーナー部から、長軸50cm、短軸25cmの不定形で厚さ3~11cmの砂質粘土が検出された。性格は不明であるが、検出状況からみて北壁面に貼ってあった砂質

粘土が、壁面のロームとともにずり落ちたものと考えられる。

壁面粘土土層解説

- | | |
|---------------------|---|
| 1 灰 褐色 粘土粒子多量, 砂粒中量 | 3 黒褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒少量 |
| 2 暗 褐色 ローム粒子多量 | |

壁溝 全周している。規模は上幅10~23cm, 下幅4~15cm, 深さ4~11cmで、断面形は緩やかなU字形をしている。

床 やや凹凸があり、中央部が特に踏み固められている。

竈 北壁中央部のやや東寄りを壁外へ67cm掘り込んで、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで97cmで、両袖幅105cmである。天井部は煙道付近の一部が遺存しているほかは崩落している。竈土層断面図中、第2層には粘土粒子・砂粒が多量に含まれ、第6層には火熱を受けた粘土粒子・砂粒が多量に含まれていることから、これらの層が天井部の崩落土と考えられる。両袖部は住居内部には突出しておらず、地山のローム層を掘り込み、両内側に粘土粒子・砂粒を貼り付けて構築されている。内側は火熱を受けて赤変硬化している。火床部は、床面から約7cm掘りくぼめられており、皿状をしている。第13層には灰が多量、焼土粒子・炭化粒子が中量、第14層には焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子が多量に含まれていることから、第13層の下面、第14層の上面が火床面と考えられる。火床部の下層の第19層は炭化物・炭化粒子の層で、第20層は粘土粒子・砂粒の層であり、第21層は焼土小ブロック・焼土粒子の層である。このことから、以前使用していた火床部に粘土粒子・砂粒を埋め土して、新たに火床部を構築した可能性がある。煙道は火床面から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- | |
|--|
| 1 黒 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土中ブロック・砂粒少量 |
| 2 灰 褐色 粘土大ブロック・粘土粒子・砂粒多量, ローム粒子少量 |
| 3 灰 褐色 焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒中量, 焼土粒子・炭化材・炭化物少量 |
| 4 灰 褐色 粘土粒子中量, 焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・砂粒少量 |
| 5 灰 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・灰中量, 炭化物・炭化粒子・砂粒少量 |
| 6 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量, 粘土粒子・砂粒・灰少量 |
| 7 黒 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 |
| 8 褐 灰色 灰多量, 焼土粒子・炭化粒子中量, 焼土中ブロック少量 |
| 9 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土大ブロック・粘土粒子・灰少量 |
| 10 黒 褐色 粘土粒子・砂粒多量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量 |
| 11 黒 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 |
| 12 灰 褐色 焼土粒子・炭化粒子・灰中量, ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量 |
| 13 灰 赤 色 灰多量, 焼土粒子・炭化粒子中量 |
| 14 暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子多量 |
| 15 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量 |
| 16 暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子多量, 炭化材・粘土粒子・砂粒中量 |
| 17 暗赤褐色 粘土粒子・砂粒多量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 18 黒 褐色 炭化物・炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 19 赤 黒 色 炭化物・炭化粒子多量 |
| 20 灰 褐色 粘土粒子多量, 砂粒中量 |
| 21 暗赤灰色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・粘土粒子中量, 砂粒少量 |
| 22 黒 褐色 炭化物・炭化粒子多量 |
| 23 黒 色 炭化材多量 |
| 24 黄 褐色 粘土粒子・砂粒多量 |
| 25 黒 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 26 黒 褐色 粘土粒子中量, ローム粒子・砂粒少量 |
| 27 極暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量 |
| 28 黒 褐色 粘土粒子多量, 砂粒中量, ローム小ブロック少量 |
| 29 灰 褐色 粘土粒子・砂粒多量, ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 30 暗 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・砂粒少量 |
| 31 灰 褐色 粘土粒子・砂粒多量 |
| 32 暗赤褐色 粘土粒子多量, 砂粒中量 |
| 33 黒 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量 |

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は、径22~32cmの円形で、深さ36~54cmであり、いずれも各コーナー部に位置し、規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は径24cmの円形で、深さ20cmであり、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

P 5 土層解説

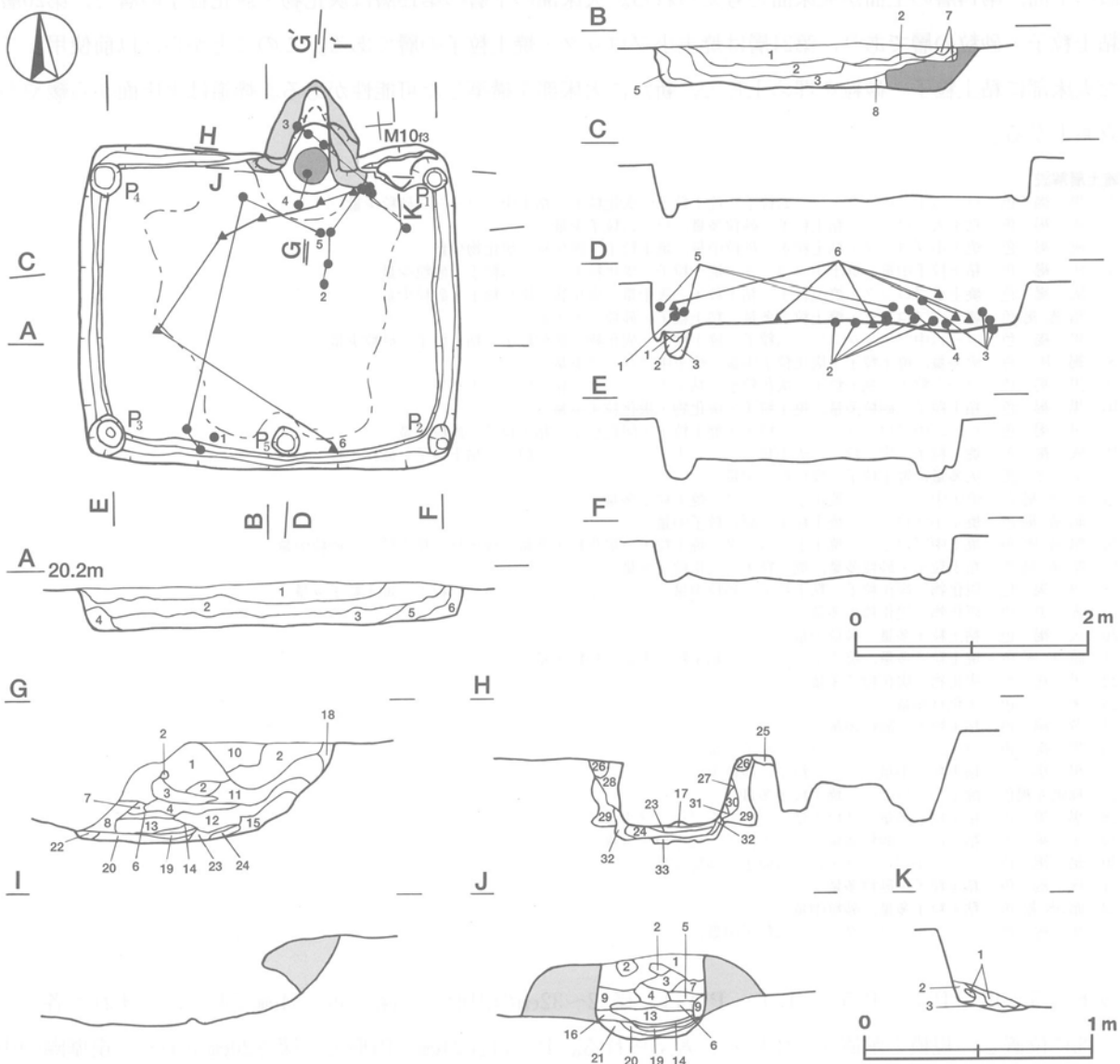
- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量

覆土 8層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 5 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子少量
- 7 黒褐色 粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量
- 8 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子・炭化材・粘土粒子少量

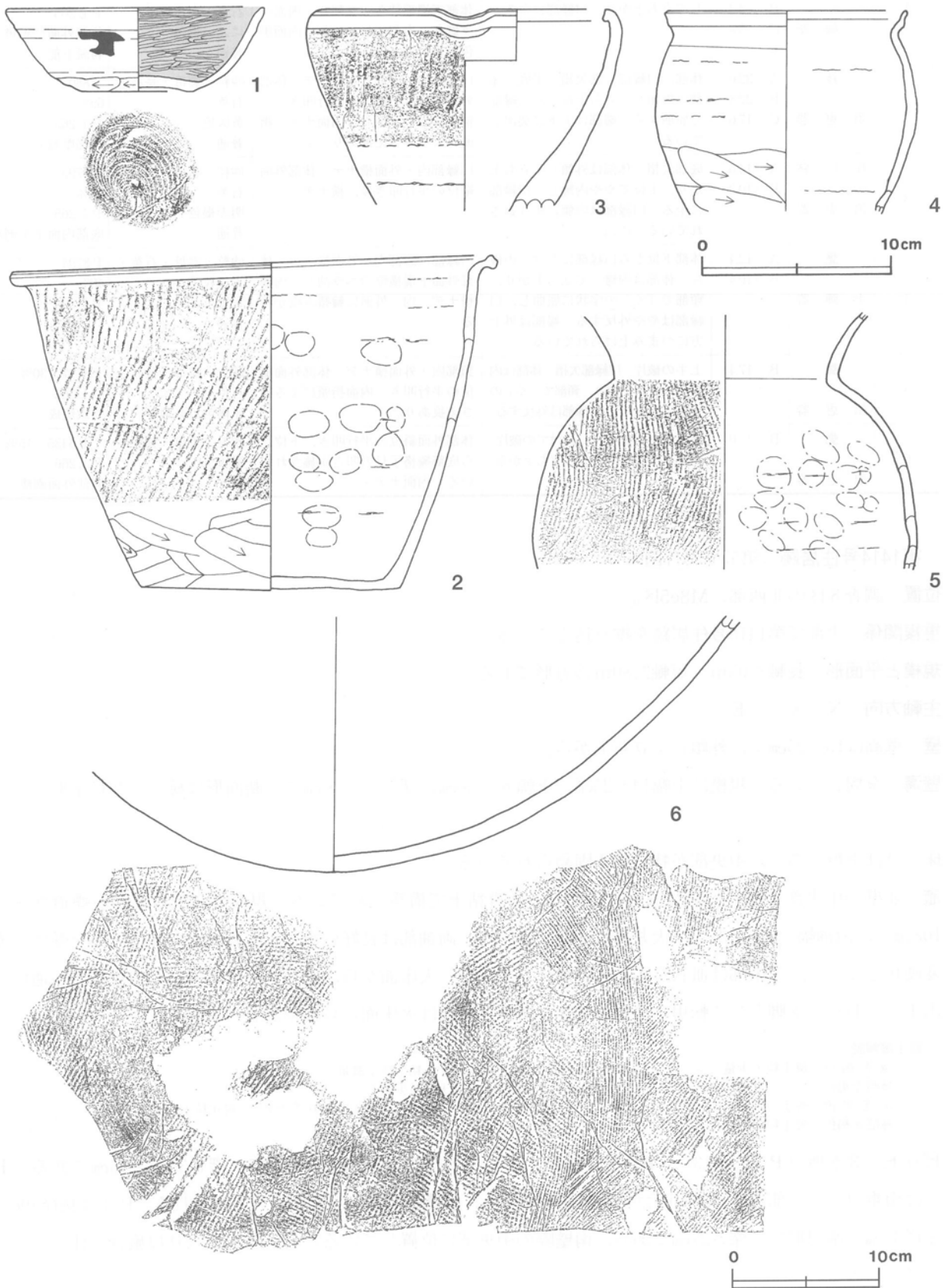
遺物 土師器片156点, 須恵器片88点, 陶器片3点が出土している。第575図1の土師器坏は, 南部の床面から正位で出土した破片と南西部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。2の土師器鉢は, 中央部の床面からと竈前の床面から出土した破片が接合したものである。3の須恵器片口鉢は, 竈内から横位で出土している。4の土師器甕は, 竈内と竈前の覆土下層から破片で出土している。5・6の須恵器甕は, 竈前と南壁



第574図 第1413号住居跡実測図

際の覆土下層から破片で出土している。陶器片は、攪乱により混入したものと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第575図 第1413号住居跡出土遺物実測図

第 1413 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 575 図 1	坏 土師器	A 13.2 B 4.3 C 5.8	体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り、内面ヘラ磨き。底部回転糸切り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 にぶい褐色 普通	P 8793 95% P L 265 体部外面に墨書 判読不能
2	鉢 須恵器	A 32.6 B 22.8 C 17.6	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部で屈曲する。端部は上下に突出している。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面中位以上縦位の平行叩き。下位横位のヘラ削り。内面ナデ。指頭による押さえ痕あり。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色 普通	P 8803 65% P L 265 底部摩滅
3	片口鉢 須恵器	A 14.6 B (10.3)	底部欠損。体部は外傾して立ち上がり、上位でやや内彎し、口縁部に至る。口縁部は内側に折り返されている。片口。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位の平行叩き後、横ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 明赤褐色 普通	P 8795 90% P L 265 底部内面下半剥離
4	甕 土師器	A [12.4] B (10.4)	体部下位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部で「く」の字状に屈曲し、口縁部はやや外反する。端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面下端横位のヘラ削り、内面横ナデ。内・外面に輪積み痕が残る。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 灰褐色 普通	P 8794 40% P L 266 二次焼成
5	甕 須恵器	B (17.4)	上半の破片。口縁部欠損。体部は内彎して立ち上がり、頸部で「く」の字状に屈曲し、口縁部は外反する。	頸部内・外面横ナデ。体部外面縦位の平行叩き、内面指頭による押さえ痕あり。	砂粒・雲母・長石・石英 赤褐色、普通	P 8797 30% P L 266 二次焼成
6	甕 須恵器	B (17.0)	底部から体部下位にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面斜位の平行叩き、下位から底部擬格子目の叩きが施されている。内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 褐灰色 良好	T P 8435 15% P L 266 底部外面剥離

第1414号住居跡 (第576・577図)

位置 調査 8 区の北西部, M8e5区。

重複関係 東部で第1415号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸3.05m, 短軸2.80mの方形である。

主軸方向 N - 8° - E

壁 壁高は15~25cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。規模は上幅14~25cm, 下幅 6~8 cm, 深さ 5~8 cmで、断面形は緩やかなU字形をしている。

床 ほぼ平坦であり、中央部が特に踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外へ約22cm掘り込んで、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで108cmで、両袖幅130cmである。天井部は崩落している。両袖部は良好に遺存しており、内側は火熱を受けて赤変硬化している。火床部は皿状をし、赤変硬化している。火床面から、火熱を受け赤変した須恵器坏が逆位で出土しており、支脚として転用された可能性がある。煙道は火床面から緩やか立ち上がる。

竈土層解説

- 1 極赤褐色 焼土粒子少量, ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 極暗赤褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子微量
- 4 極暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量

ピット 3か所 (P 1~P 3)。P 1・P 2は、それぞれ径22cm・25cmの円形で、深さ35cm・16cmである。P 1は南東コーナー部, P 2は南西コーナー部に位置し、規模と配置から主柱穴と考えられる。P 3は長径40cm, 短径35cmの楕円形で、深さ27cmであり、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

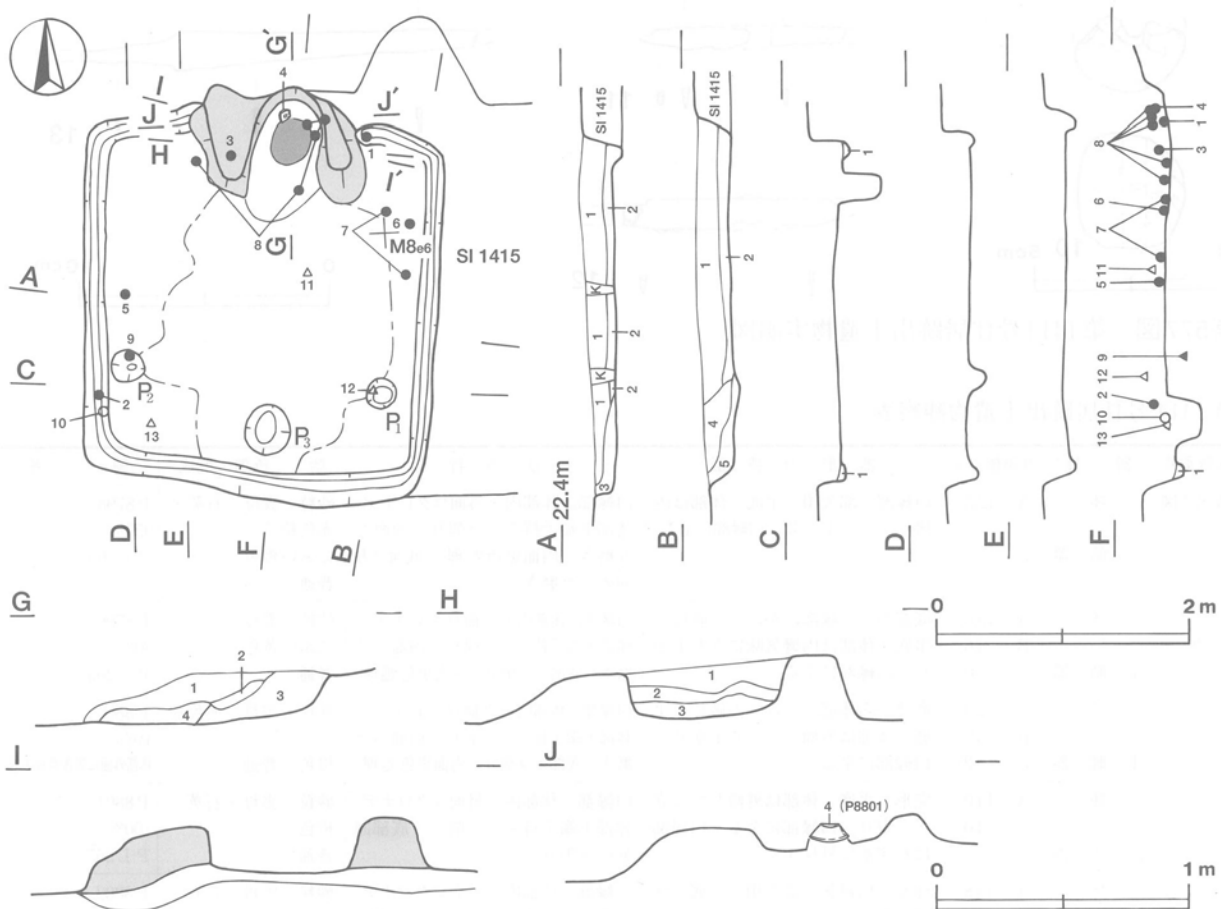
覆土 5層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

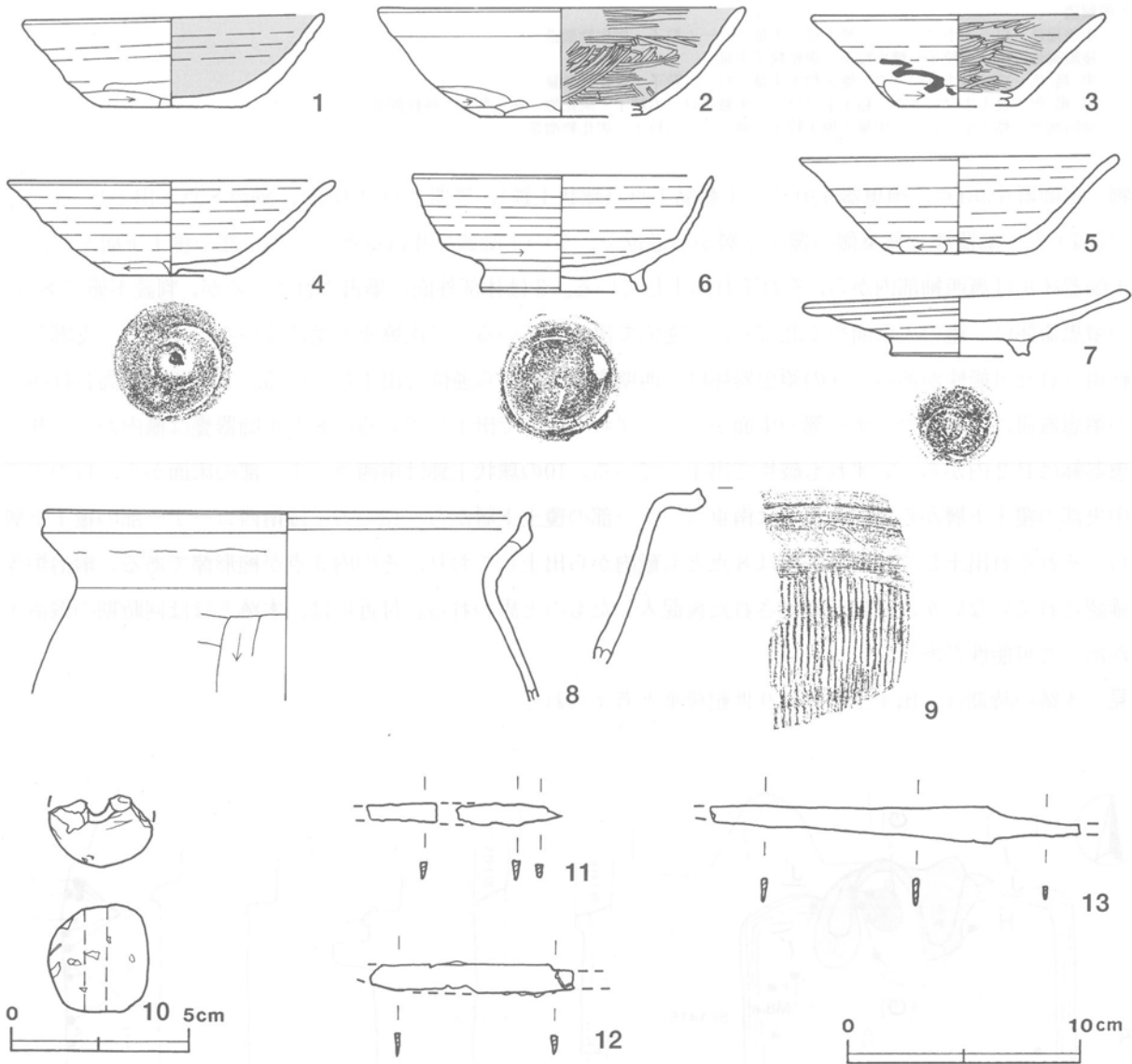
- 1 極暗褐色 ローム小ブロック・焼土粒子少量, ローム粒子・炭化物微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・焼土粒子少量, ローム粒子・炭化物微量
- 4 黒褐色 焼土小ブロック・粘土小ブロック少量, ローム粒子・炭化物・粘土粒子・砂粒微量
- 5 極暗褐色 粘土小ブロック中量, 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化物微量

遺物 土師器片361点, 須恵器片91点, 土製品1点(球状土錘), 鉄器3点(刀子), 鉄滓8点が出土している。第577図1の土師器坏は竈東側の覆土下層から逆位で, 2の土師器坏片は南西コーナー部の覆土下層から, 3の土師器坏片は竈西袖部内から, それぞれ出土している。3は体部外面に墨書されているが, 判読不能である。4の須恵器坏は, 竈の火床面やや北寄りから逆位で出土している。二次焼成を受けていることから, 支脚として転用された可能性がある。5の須恵器坏は, 西壁際の床面から逆位で出土している。6の須恵器高台付坏と7の須恵器皿は, 北東コーナー部の床面から, いずれも逆位で出土している。8の土師器甕は竈内から, 9の須恵器鉢はP2内から, いずれも破片で出土している。10の球状土錘は南西コーナー部の床面から, 11の刀子は中央部の覆土下層から, 12の刀子は南東コーナー部の覆土下層から, 13の刀子は南西コーナー部の覆土下層から, それぞれ出土している。鉄滓は8点とも竈内から出土しており, その内3点が碗形滓である。鍛冶炉等は確認されていないが, 住居が廃絶された後混入したものと思われる。付近には, 本跡とはほぼ同時期の鍛冶工房があった可能性がある。

所見 本跡の時期は, 出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第576図 第1414号住居跡実測図



第577図 第1414号住居跡出土遺物実測図

第1414号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第577図 1	坏 土師器	A 12.5 B 4.0 C 6.2	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り、内面ヘラ磨き。内面黒色処理。底部2方向のヘラ磨き。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P 8798 95% P L 265
2	坏 土師器	A [15.6] B 4.6 C [7.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り、内面ヘラ磨き。底部ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい黄色 普通	P 8799 30% P L 265
3	坏 土師器	A [12.3] B 3.9 C [5.2]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り、内面ヘラ磨き。底部ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色、普通	P 8800 10% 体部外面に墨書判読不能
4	坏 須恵器	A 14.0 B 4.0 C 5.0	完形。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 橙色 普通	P 8801 100% P L 265
5	坏 須恵器	A 13.8 B 4.2 C 6.0	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転削り難し痕を残す一方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色 普通	P 8802 60% P L 265

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第577図6	高台付坏 須恵器	A [12.8] B 5.0 D 7.0 E 1.0	高台部から口縁部にかけての破片。体部下端に稜を有し、外傾して口縁部に至る。高台は内側にあり、「ハ」の字状に開く。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り、底部切り離し痕を残す回転ヘラ削り、高台貼り付け後、ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 黒褐色 普通	P 8805 50% P L 265
7	皿 須恵器	A 13.5 B 2.8 C 5.7 E 0.7	口縁部、体部一部欠損。体部はやや内彎して外方に開き、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。高台は「ハ」の字状に開き、接地面は平ら。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい黄色 普通	P 8806 40% P L 265
8	甕 土師器	A [20.4] B (8.0)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、頸部で「く」の字状に屈曲し、口縁部は外傾する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。頸部外面に輪積み痕を残す。体部外面縦位のヘラ削り、内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 明赤褐色 普通	P 8808 15%
9	鉢 須恵器	B (7.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して直線的に立ち上がり、口縁部で屈曲する。端部は上方に突出する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面縦位の平行叩き、内面横ナデ。	砂粒・雲母・長石 黒褐色 普通	T P 8408 5% P L 265

図版番号	器種	計測値				特徴	胎土・色調	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第577図10	球状土錘	(2.9)	3.1	0.6	(14.3)	球体。ナデ。	砂粒・雲母、にぶい黄褐色	D P 8430 40%

図版番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長 (cm)	刀身長 (cm)	身幅 (cm)	重ね (cm)	茎長 (cm)	重量 (g)			
第577図11	刀子	(7.6)	(5.7)	0.8	0.3	(1.9)	(4.2)	鉄	刃部、基部一部欠損。両区。	M8431 40% P L 281
12	刀子	(8.7)	(7.6)	1.3	0.3	(1.1)	(10.3)	鉄	刃部、基部一部欠損。両区。	M8432 40% P L 281
13	刀子	(15.7)	(11.8)	1.5	0.3	(3.9)	(16.6)	鉄	刃部、基部一部欠損。両区。	M8459 80% P L 280

第1415号住居跡 (第578・579図)

位置 調査8区の北西部、M8e5区。

重複関係 竈の西袖部の一部を含む西部の大半が、第1414号住居に掘り込まれているが、床面までは達していない。

規模と平面形 長軸3.62m、短軸3.10mの長方形である。

主軸方向 N-9°-E

壁 西部は第1414号住居に掘り込まれているためほとんど検出できなかった。検出できた東部の壁高は28~33cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。規模は上幅18~30cm、下幅5~8cm、深さ4~8cmで、断面形は緩やかなU字形をしている。

床 ほぼ平坦であり、中央部が特に踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外へ約65cm掘り込んで、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで88cmで、両袖幅106cmである。天井部は崩落している。西袖部の一部が第1414号住居に掘り込まれているが、東袖部の遺存状態は良好であり、内側は火熱を受けて赤変硬化している。火床部は皿状をし、赤変硬化している。竈土層断面図中、第6層には、焼土小ブロック・焼土粒子が多量に含まれていることから、下面が火床面と考えられる。煙道は火床面から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
- 2 暗赤褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量

- 3 暗赤褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
- 4 にぶい赤褐色 灰多量, 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量
- 5 暗赤褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量, ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子・灰微量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・灰中量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 7 暗赤褐色 ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量, 炭化物・粘土粒子・砂粒微量

ピット 3か所 (P1~P3)。P1は径28cmの円形で、深さ13cmであり、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2は径35cmの円形で、深さ14cmであり、P3は長径52cm、短径35cmの楕円形で、深さ10cmである。いずれも北西コーナー部にあり、規模と位置から支柱穴とは認められず、性格は不明である。

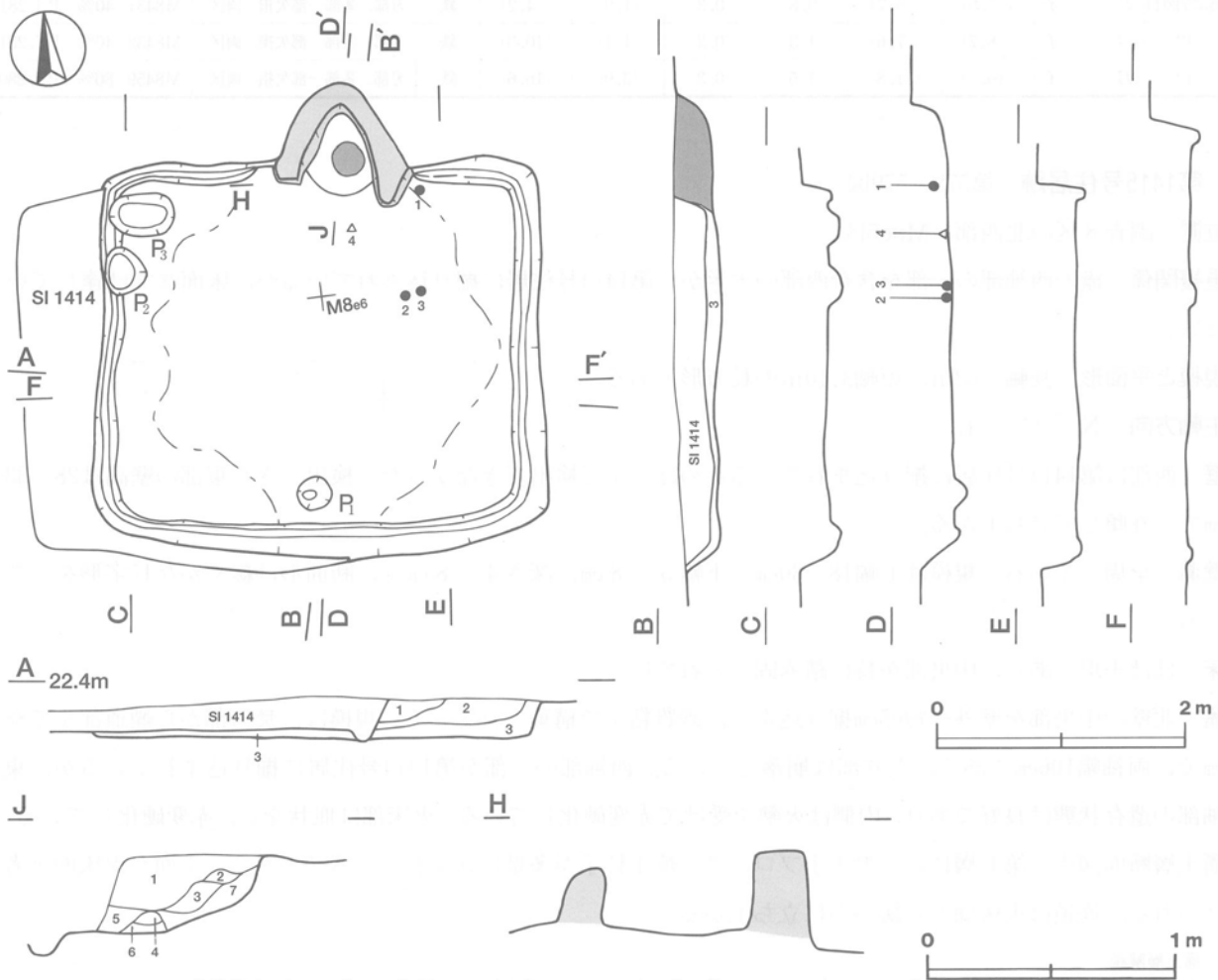
覆土 東部だけしか堆積状況を観察することができなかったが、3層に分層され、ほぼレンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

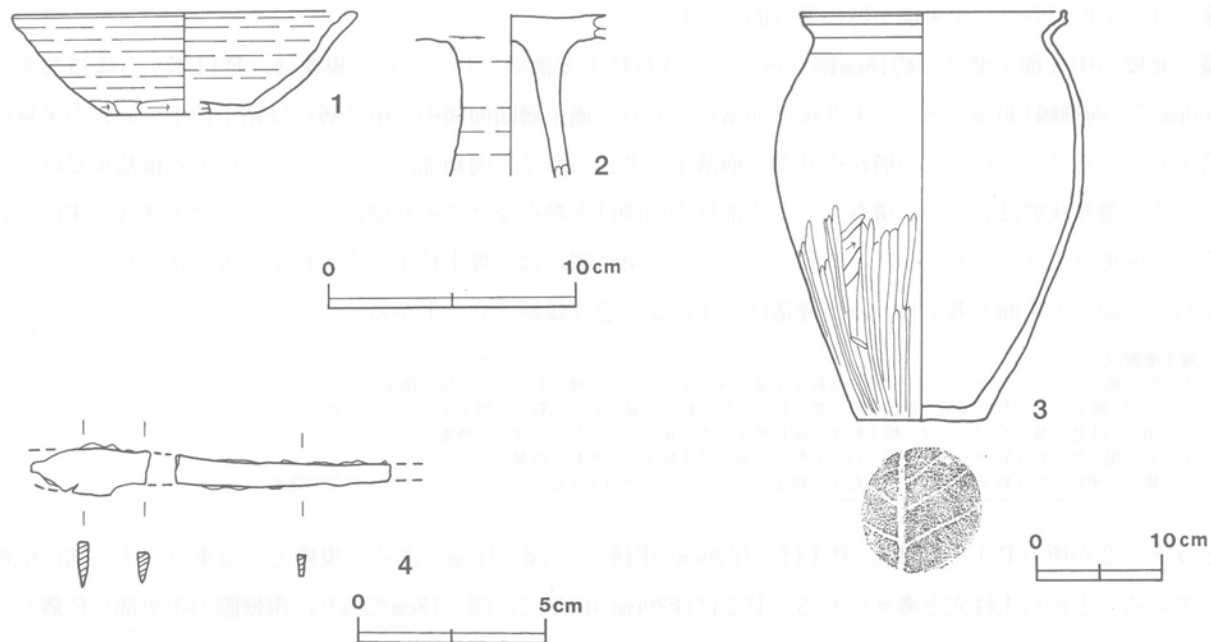
- 1 黒褐色 焼土粒子少量, ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物 土師器片148点, 須恵器片23点, 鉄器1点(刀子)が出土している。第579図1の須恵器坏は、竈東側の床面から逆位で出土している。2の須恵器高坏の脚部と3の土師器甕は、中央部の床面から、いずれも横位で出土している。4の刀子は、竈前の床面から出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第578図 第1415号住居跡実測図



第579図 第1415号住居跡出土遺物実測図

第1415号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第579図 1	坏 須恵器	A [13.4] B 3.9 C [6.2]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色 普通	P 8848 45% P L 265
2	高盤 須恵器	B (6.4)	脚部片。脚部は円筒状を呈する。	体部外面ロクロナデ、内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色、普通	P 8809 10%
3	甕 土師器	A 20.8 B 32.0 C 10.0	口縁部、体部一部欠損。平底。体部は最大径を上位にもつ長胴形を呈する。頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面中位以下ヘラ磨き、内面ナデ。底部木葉痕。	砂粒・雲母・長石・石英 橙色 普通	P 8810 90% P L 265

図版番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長 (cm)	刀身長 (cm)	身幅 (cm)	重ね (cm)	茎長 (cm)	重量 (g)			
第579図4	刀子	(8.8)	(3.2)	1.2	0.3	(5.6)	(7.1)	鉄	刃部、茎部一部欠損。刃区。	M8433 30% P L 280

第1420号住居跡 (第580・581図)

位置 調査8区の西部, M8g5区。

重複関係 第1409号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 全面にトレンチャーによる攪乱を受けており、その攪乱は床面まで達している。そのため規模と平面形は、遺存している部分から長軸3.77m, 短軸3.25mの長方形とした。

主軸方向 N-1°-W

壁 壁高は13~25cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 遺存部分からはほぼ全周していたと推定される。規模は上幅15~24cm, 下幅6~10cm, 深さ4~6cmで、断面形は緩やかなU字形をしている。

床 ほぼ平坦であり、中央部が特に踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外へ約18cm掘り込んで、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで100cmで、両袖幅130cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、第2層には粘土粒子・砂粒が多量に含まれていることから、この層が天井部の崩落土と考えられる。両袖部はトレンチャーによる攪乱を受けているため、遺存状態は悪いが、遺存している部分の内側は火熱を受けて赤変硬化している。火床部は、床面から5~7cm掘りくぼめられており、皿状をしている。第3層には、焼土粒子・炭化粒子・灰が含まれていることから、下面が火床面と考えられる。煙道は火床面から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

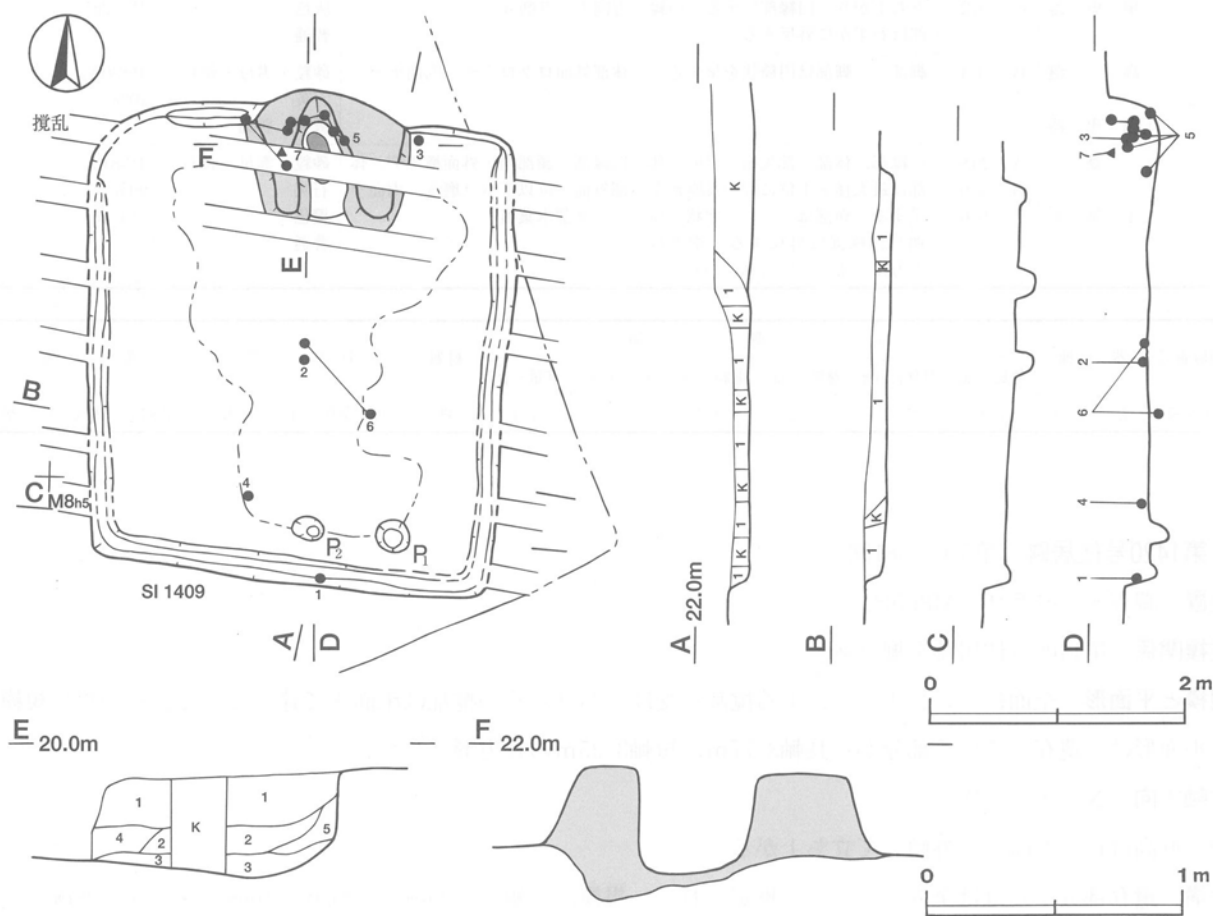
- 1 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 粘土粒子多量、砂粒中量、焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子・焼土小ブロック微量
- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・灰中量、ローム粒子・炭化物微量
- 4 暗褐色 粘土粒子・砂粒中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 極暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量、ローム小ブロック・炭化物微量

ピット 2か所 (P1・P2)。P1は、径26cmの円形で、深さ16cmである。規模と、南東コーナー部に位置していることから主柱穴と考えられる。P2は径20cmの円形で、深さ18cmであり、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 単一層である。ロームブロック・ローム粒子が多量に含まれていることから、人為堆積と思われる。

土層解説

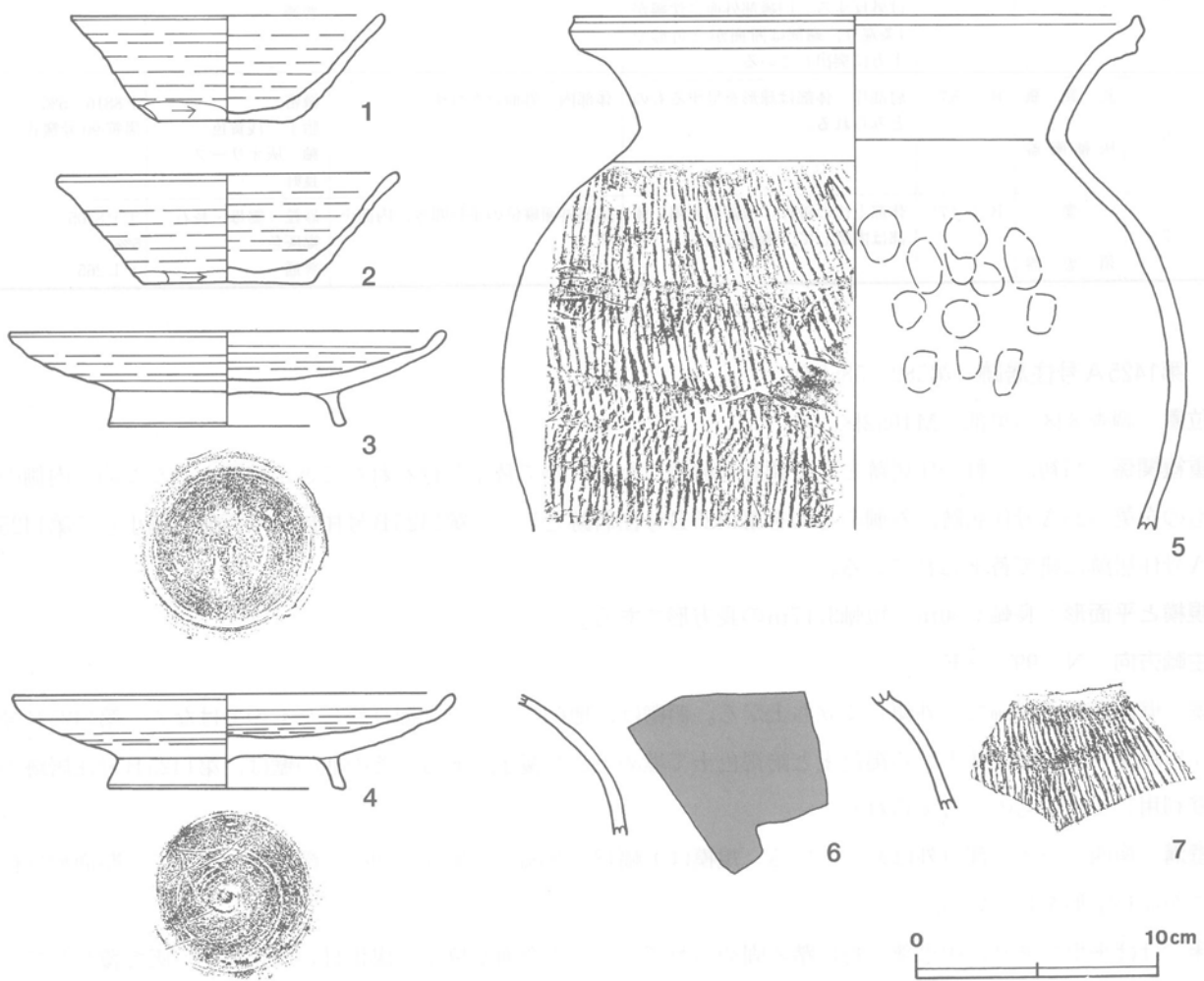
- 1 極暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量



第580図 第1420号住居跡実測図

遺物 土師器片112点、須恵器片42点、灰釉陶器片6点、鉄滓7点が出土している。第581図1の須恵器坏は南壁際の覆土下層から逆位で、2の須恵器坏は中央部の床面から、それぞれ出土している。3の須恵器盤は竈東側の覆土下層から斜位で、4の須恵器盤は南部の床面から正位で、それぞれ出土している。5の須恵器甕は竈内から、6の灰釉陶器長頸瓶は中央部の床面から、いずれも破片で出土している。7の須恵器甕片は、竈の西側の覆土中層から出土している。鉄滓は中央部の覆土下層から出土しているが、鍛冶炉等は確認されておらず、住居が廃絶された後に混入したものと思われる。付近には、本跡とはほぼ同時期の鍛冶工房があった可能性がある。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第581図 第1420号住居跡出土遺物実測図

第1420号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第581図 1	須恵器 坏	A 12.8	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部外面手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り痕を残す一方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 灰色 普通	P 8811 85% P L 265
		B 4.3				
		C 5.6				
2	須恵器 坏	A [13.6]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部外面手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 にぶい褐色 普通	P 8812 60% P L 266
		B 4.4				
		C 6.8				

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第581図 3	盤 須恵器	A [17.6] B 3.8 D [9.6] E 1.5	口縁部、高台部一部欠損。体部は内彎気味に外方に開き、屈曲して口縁部にいたる。口縁部はわずかに外傾する。高台はわずかに外方にふんばる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	砂粒・雲母・長石・石英 黒褐色 普通	P 8813 50% P L 265
4	盤 須恵器	A 17.7 B 3.9 C 9.4 E 1.3	口縁部一部欠損。体部は外傾して外方に開き、屈曲して口縁部に至る。口縁部は外傾する。高台は「ハ」の字状に開く。接地面は平ら。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色 普通	P 8814 75% P L 265
5	甕 須恵器	A [22.6] B (20.7)	体部上半から口縁部にかけての破片。体部は倒卵形を呈する。頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁部は外反する。口縁部外面に沈線が1条巡り、端部は断面が三角形で上方に突出している。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面縦位の平行叩き、内面ナデ。指頭による押さえ痕あり。	砂粒・雲母・長石・石英 灰黄褐色 普通	P 8815 55% P L 266
6	長頸瓶 灰釉陶器	B (5.7)	肩部片。体部は球形を呈するものとみられる。	体部内・外面ロクロナデ。	緻密 胎土 浅黄色 釉 灰オリーブ 良好	P 8816 5% 黒笹 90号窯式カ
7	甕 須恵器	B (4.7)	体部上位の破片。口縁部欠損。体部は内彎して、頸部に至る。	体部外面縦位の平行叩き、内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 褐灰色 普通	T P 8405 5% P L 265

第1425A号住居跡（第582～585図）

位置 調査8区の東部、M10a2区。

重複関係 当初、一軒の住居跡として調査を開始したが、建て替えが行われたことが確認されたため、内側のものを第1425A号住居跡、外側のものを第1425B号住居跡とした。第1425B号住居跡の西側を縮小して第1425A号住居跡に建て替えられている。

規模と平面形 長軸3.50m、短軸3.17mの長方形である。

主軸方向 N-99° - E

壁 壁高は25～45cmで、外傾して立ち上がる。西壁は、地山のロームを掘り残したのではなく、第1425B号住居跡をロームを主体とする褐色土と暗褐色土で埋め土した覆土である。その他の壁は、第1425B号住居跡の壁利用しているものと考えられる。

壁溝 南西コーナー部以外は巡っている。規模は上幅18～36cm、下幅5～10cm、深さ4～10cmで、断面形は緩やかなU字形をしている。

床 ほぼ平坦であり、中央部が特に踏み固められている。床全面が焼土・炭化材・炭化粒子・灰で覆われており、炭化材は主に、北東部に集中している。

焼土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子中量、炭化粒子少量
- 2 赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・灰少量
- 3 赤黒色 炭化粒子多量、焼土粒子中量、灰少量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 5 極暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子・粘土粒子少量

竈 東壁の中央部やや南寄りとな東コーナー部とに2基が並んで検出されたが、中央部の竈からは、北袖部が検出されず、北袖部が存在したと思われる部分には壁溝が巡っており、遺存状態が悪いことから、コーナー部の竈に造り替えたものと考えられる。これらのことからコーナー部の竈が第1425A号のもの、中央部の竈が第1425B号のものと考えられる。本跡の竈は、中央部の第1425B号の竈を廃絶した後に、南東コーナー部を壁外

へ56cm掘り込んで、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで106cmで、両袖幅95cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、第2・14層には粘土粒子・砂粒が多量に含まれることから、これらの層が天井部の崩落土と考えられる。両袖部は良好に遺存しており、内側は火熱を受けて赤変硬化している。住居の内側には突出しておらず、地山のローム層を掘り込み、両内側に粘土粒子・砂粒を貼り付けて構築されている。火床部は、わずかに掘りくぼめられており、皿状をしている。第5層には、焼土粒子・炭化粒子が多量に含まれていることから、下面が火床面と考えられる。火床面からは、火熱を受けて赤変した雲母片岩が立位の状態で出土しており、支脚として使用されたものと考えられる。煙道は火床面から緩やか立ち上がる。

竈土層解説

1	黒褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量	13	黒褐色	炭化粒子多量, 粘土粒子中量, 焼土粒子少量
2	褐灰色	砂粒多量, 焼土粒子・粘土粒子中量, 炭化粒子少量	14	暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子多量, 炭化粒子少量
3	黒褐色	炭化材中量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量	15	黒褐色	粘土粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子微量
4	にぶい赤褐色	焼土粒子多量, 焼土小ブロック・粘土粒子中量, 炭化粒子・砂粒少量	16	黒褐色	焼土粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量
5	暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子多量, 焼土小ブロック・粘土粒子中量, 砂粒少量	17	暗赤褐色	焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒中量, ローム小ブロック・焼土粒子少量
6	灰褐色	灰多量, 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 粘土粒子・砂粒少量	18	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
7	にぶい赤褐色	焼土粒子・粘土粒子多量, 焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量	19	暗赤褐色	粘土粒子・砂粒中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
8	灰褐色	焼土粒子・炭化物・灰中量, 炭化粒子少量	20	暗褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
9	極暗赤褐色	焼土粒子多量, 灰少量	21	暗褐色	ローム粒子多量, 粘土粒子・砂粒中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
10	黒褐色	粘土粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量	22	暗褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 粘土粒子・砂粒少量
11	黒褐色	焼土粒子多量, 焼土小ブロック・炭化粒子中量, 焼土中ブロック・粘土粒子・砂粒少量	23	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量, 粘土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量
12	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・灰中量, ローム粒子・粘土粒子少量			

ピット 3か所 (P1～P3)。P1・P2は、それぞれ径50cm・46cmの円形で、深さ28cm・22cmであり、いずれもコーナー部に位置し、規模と配置から支柱穴と考えられる。P3は径24cmの円形で、深さ22cmであり、北壁際の中央部に位置しているが、性格は不明である。P1土層断面図中、第1層は柱の抜き取り痕と考えられる。

P1土層解説

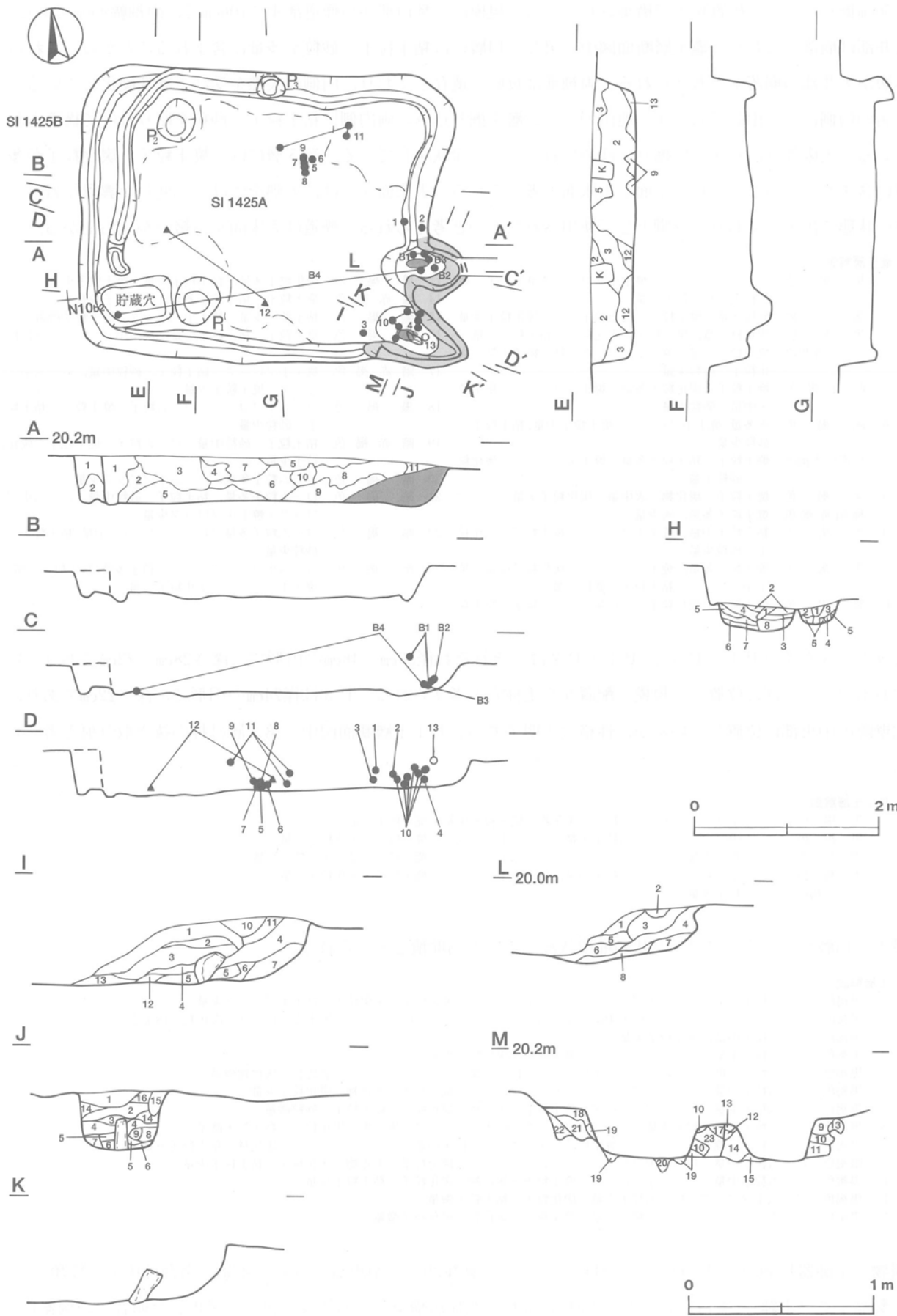
1	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子中量, 焼土粒子少量
2	黒褐色	ローム中ブロック・ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3	黒褐色	ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
4	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
5	にぶい褐色	ローム粒子多量

覆土 13層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量
2	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・粘土小ブロック少量
3	黒褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量
4	黒褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
5	黒褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量, ローム小ブロック・炭化材・炭化物微量
6	黒褐色	ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
7	黒褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
8	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・粘土粒子微量
9	黒褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子中量, ローム小ブロック・炭化材・粘土粒子少量
10	暗褐色	ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子少量
11	黒褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子少量
12	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量
13	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量

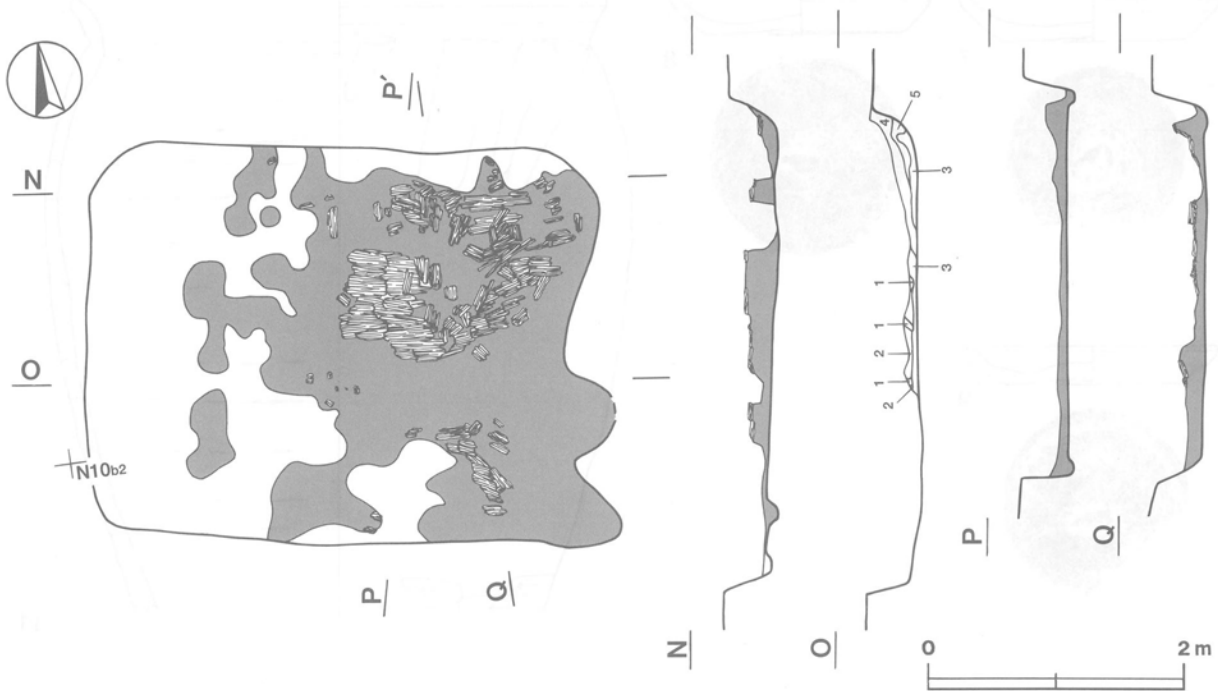
遺物 土師器片593点 (坏169, 高台付坏28, 皿5, 甕類391), 須恵器片81点 (坏38, 高台付坏1, 甕類42), 土製品1点 (土錘), 雲母片岩1点 (支脚), 炭化した住居構築材・布片及び紐カ, 炭化した頭骨片, 陶器片2点, 古墳時代後期の土師器片130点が出土している。また, 床全面に焼土・炭化材・炭化物が検出された。図



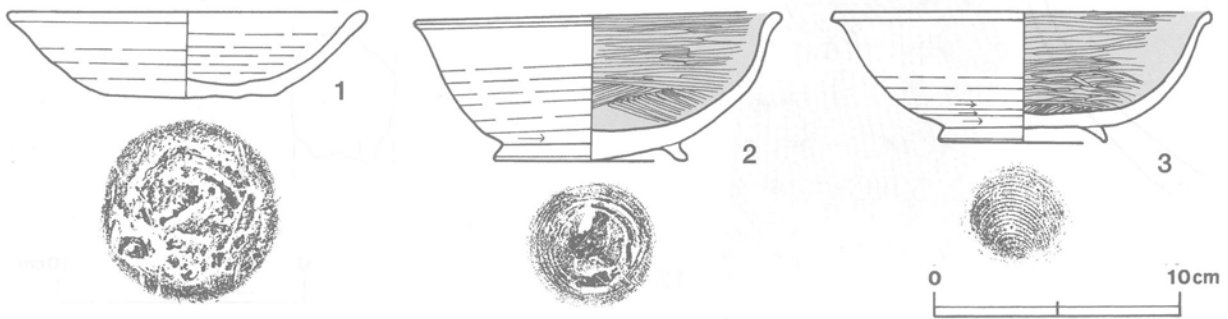
第582図 第1425A・B号住居跡実測図

示した土器は土師器で、拓影図は須恵器甕の体部片である。第584・585図1の坏と2の高台付坏は、竈北側の覆土中層から、1が正位で、2が横位で、それぞれ出土している。3の高台付坏は竈南袖部前の覆土下層から逆位で、4の高台付坏は竈内から逆位で、それぞれ出土している。5～9の皿は、中央部の覆土下層から、いずれも逆位で重ねられた状態で出土している。10の甕は竈内から、11の甕は北東コーナ一部覆土下層から、いずれも破片で出土している。12の甕の体部片は南西部の覆土下層から、13の土錘は竈内から、それぞれ出土している。焼土はほぼ一面に広がっているが、炭化材・炭化物は北東部に集中している。また、焼土層の下層が炭化材・炭化物の層になっている。その炭化材・炭化物の中から成人男性の炭化した頭骨片が検出された。陶器片、古墳時代の土師器片は、攪乱により混入したものと考えられる。

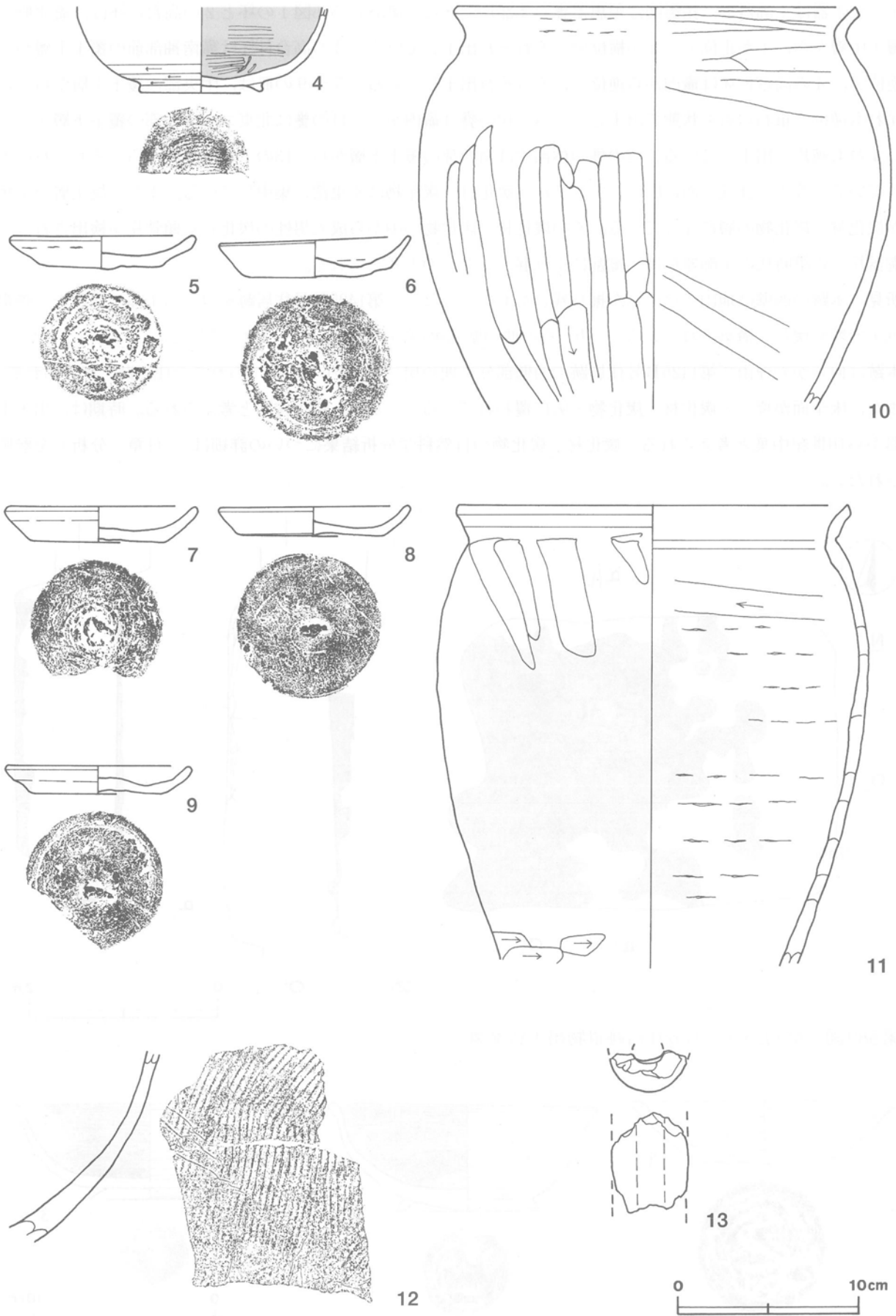
所見 本跡の西壁は地山のロームを掘り残したのではなく、第1425B号住居跡をローム主体の褐色土と暗褐色土で埋め戻して構築されている。一方、その他の壁は第1425B号住居跡と一致している。これらのことから、本跡は何らかの理由で第1425B号住居跡の西壁部分を埋め戻して、縮小して建てられた住居跡と考えられる。また、床全面が焼土・炭化材・炭化物・灰に覆われていることから、焼失住居と考えられる。時期は、出土土器から10世紀中葉と考えられる。炭化材・炭化物の自然科学分析結果についての詳細は、「付章 分析」を参照されたい。



第583図 第1425 A・B号住居跡遺物出土状況図



第584図 第1425 A号住居跡出土遺物実測図(1)



第585图 第1425 A号住居迹出土遺物実測図 (2)

第 1425A 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)				器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)				
第 584 図 1	坏 土師器	A	14.2			口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色、普通	P 8817 99% P L 266 内面に油煙付着
		B	3.4						
		C	7.0						
2	高台付坏 土師器	A	14.4			完形。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反し、端部は丸く収めている。高台は短く「ハ」の字状に開く。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ切り。高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色 普通	P 8818 100% P L 266
		B	5.9						
		D	7.6						
		E	0.7						
3	高台付坏 土師器	A	14.9			口縁部一部欠損。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反し、端部は上方につまみ出している。高台は短く「ハ」の字状に開く。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り、内面ヘラ磨き。底部回転糸切り。高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P 8819 95% P L 266
		B	5.2						
		D	6.4						
		E	0.7						
第 585 図 4	高台付坏 土師器	B (4.6)				高台部から体部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。高台は短く「ハ」の字状に開く。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り、内面ヘラ磨き。底部回転糸切り。高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P 8820 30%
		D	6.6						
		E	0.5						
5	皿 土師器	A	9.8			口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して開き、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい橙色、普通	P 8825 90% P L 266
		B	1.9						
		C	6.5						
6	皿 土師器	A	10.4			口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して開き、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色、普通	P 8826 90% P L 266
		B	2.3						
		C	7.8						
7	皿 土師器	A	10.1			口縁部、底部一部欠損。平底。体部は外傾して開き、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色、普通	P 8827 70% P L 266
		B	2.0						
		C	7.2						
8	皿 土師器	A	10.0			完形。平底。体部は外傾して開き、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、ナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 橙色、普通	P 8828 100% P L 266
		B	1.6						
		C	7.9						
9	皿 土師器	A	9.8			口縁部、底部一部欠損。平底。体部は外傾して開き、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい黄橙色、普通	P 8829 65% P L 266
		B	1.5						
		C	7.3						
10	甕 土師器	A [21.6]				体部中位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部で「く」の字状に屈曲し、口縁部に至る。口縁部は短く外傾し、端部は角張る。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り、内面横ナデ。	砂粒・雲母・石英 にぶい褐色 普通	P 8830 20% P L 267
		B (21.8)							
11	甕 土師器	A [21.0]				体部下位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部で「く」の字状に屈曲し、口縁部に至る。口縁部は外傾し、端部は角張る。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面ナデ、下端横位のヘラ削り、内面ナデ。内面に輪積み痕が残る。	砂粒・雲母・石英 褐色 普通	P 8831 20% P L 266
		B (24.8)							
12	甕 須恵器	B (10.2)				体部下位の破片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面縦位の平行叩き、内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	T P 8409 15% P L 266

図版番号	器種	計測値				特徴	胎土・色調	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第 585 図 13	管状土錘	4.2	(5.4)	[1.5]	(36.6)	両端部欠損。ナデ。	砂粒・雲母・長石、にぶい黄褐色	D P 8431 30%

第 1425 B 号住居跡 (第 582・583・586 図)

位置 調査 8 区の東部, M10a2 区。

重複関係 当初、一軒の住居跡として調査を開始したが、建て替えが行われたことが確認されたため、内側のものを第 1425 A 号住居跡、外側のものを第 1425 B 号住居跡とした。第 1425 B 号住居跡の西側を縮小して第 1425 A 号住居跡に建て替えられている。

規模と平面形 長軸3.88cm, 短軸3.17cmの長方形と考えられる。

主軸方向 N-99° - E

壁 西壁の壁高は22~42cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 西壁際に巡っている部分の規模は, 上幅17~29cm, 下幅5~10cm, 深さ5~8cmで, 断面形は緩やかなU字形をしている。

床 西壁から第1425A号住居跡の西壁までの間の床面は, ほぼ平坦である。

竈 東壁の中央部やや南寄りと南東コーナー一部とに2基が並んで検出されたが, 中央部の竈からは, 北袖部が検出されず, 北袖部が存在したと思われる部分には壁溝が巡っており, 遺存状態が悪いことから, コーナー一部の竈に造り替えたものと考えられる。これらのことからコーナー一部の竈が第1425A号のもの, 中央部の竈が第1425B号のものと考えられる。本跡の竈は, 東壁の中央部やや南寄りを壁外へ約50cm掘り込んで, 砂質粘土で構築されている。規模は, 焚口部から煙道部まで95cmである。両袖幅は, 北袖部の一部が, 第1425A号住居に掘り込まれているため, 遺存している部分の幅で80cmである。天井部は崩落しており, 竈土層断面図中, 第3層には粘土粒子・砂粒が多量に含まれていることから, この層が天井部の崩落土と考えられる。袖部は住居の内部にはあまり突出せず, 掘り残した地山のローム層に粘土粒子・砂粒を版築状に積み上げて構築されており, その内側は火熱を受けて赤変硬化している。火床部は, 約8cm掘りくぼめられており, 皿状をしている。第8層には, 焼土粒子・炭化粒子が多量に含まれていることから, 下面が火床面と考えられる。煙道は火床面から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗褐色 粘土粒子・砂粒中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量
- 3 灰褐色 粘土粒子多量, 焼土粒子・砂粒中量, 炭化粒子少量
- 4 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量, ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 5 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量
- 6 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
- 7 褐色 ローム粒子多量
- 8 暗赤褐色 炭化粒子多量, 焼土粒子・炭化物中量, 粘土粒子・砂粒少量
- 9 暗赤褐色 粘土粒子・砂粒多量。火熱を受けて赤変硬化している。
- 10 黒褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒少量
- 11 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, 焼土中ブロック・粘土粒子・砂粒少量
- 12 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量
- 13 灰褐色 粘土粒子・砂粒多量, 焼土粒子少量
- 14 灰褐色 ローム粒子・粘土粒子・砂粒多量, ローム小ブロック・焼土小ブロック中量, 炭化物少量
- 15 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・粘土粒子少量

貯蔵穴 南西コーナー一部で検出された。長軸80cm, 短軸50cmの隅丸長方形で, 深さは31cmあり, 断面形は逆台形状をしている。土層断面図中, 第2層はしまりが強く, 埋め戻された後に第1425A号住居の床面の一部として使用されたと考えられる。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, 粘土粒子少量, 焼土粒子微量。しまりが強い。
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
- 5 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子多量, 焼土小ブロック少量
- 6 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック中量
- 7 黒褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック・炭化粒子中量, ローム中ブロック少量
- 8 黒褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, ローム中ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量

覆土 2層に分層された。ブロック状の堆積状況から, 人為堆積と考えられる。

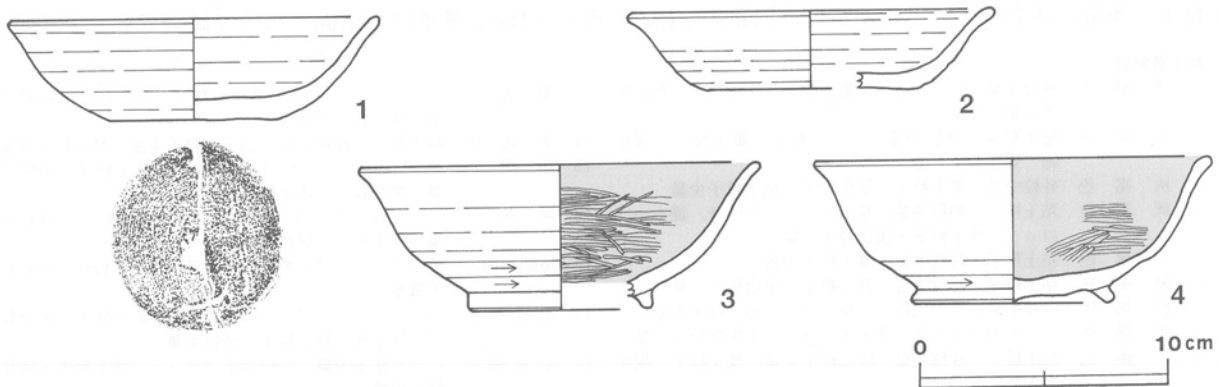
土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物微量

遺物 土師器片12点が出土している。図示した土器は, すべて土師器である。第586図1の坏と3の高台付坏

は、竈内から1が逆位で、3が斜位で、それぞれ出土している。2の坏と4の高台付坏は、竈内と貯蔵穴から出土した破片が、それぞれ接合したものである。

所見 本跡の時期は、出土土器から10世紀前半と考えられる。



第586図 第1425 B号住居跡出土遺物実測図

第1425 B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第586図 1	坏 土師器	A 14.6 B 4.0 C 6.8	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 橙色、普通	P 8832 70% P L 266
2	坏 土師器	A [14.4] B 3.1 C [8.2]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部ヘラナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P 8833 30% P L 266
3	高台付坏 土師器	A [15.8] B 5.7 D [7.0] E 0.8	高台部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。高台は短くほぼ垂下する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り、内面ヘラ磨き。高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P 8834 40% P L 266
4	高台付坏 土師器	A 15.8 B 5.7 D 8.0 E 0.7	高台部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。高台は短く「ハ」の字状に開く。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部ヘラ切り。高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P 8835 60% P L 266

第1428号住居跡 (第587～589図)

位置 調査8区の北西部，M8f0区。

重複関係 北部で第1427号住居跡を掘り込み，北東部が第1368号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.35m，短軸3.98mの長方形である。

主軸方向 N-85° - W

壁 壁高は15～46cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。規模は，上幅14～26cm，下幅5～12cm，深さ8～12cmで，断面形はU字形をしている。

床 ほぼ平坦であり，中央部が特に踏み固められている。各コーナー部は確認面からの深さ40～55cmの楕円形に掘り込み，ロームを主体とした褐色土及び黒褐色土を埋め土し，その土を踏み締めて貼り床としている。土層断面図中，第11～13層がこれである。中央部はほぼ地山のロームを使用している。

竈 西壁の中央部を壁外へ42cm掘り込んで，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで128cmで，両袖幅116cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第4・9層には粘土粒子・砂粒が多量に含まれていることから，これらの層が天井部の崩落土と考えられる。両袖部は地山のロームを床面から高さ

約10cmの土手状に掘り残して、これを基部とし、粘土ブロック・砂粒を含む暗褐色土及び灰褐色土で構築している。内側は火熱を受けて赤変硬化している。火床部は、ローム小ブロック・ローム粒子及び焼土粒子・炭化粒子を含んだ暗赤褐色土を埋め土して構築している。第19・20層がこれにあたる。第17層には焼土ブロック・焼土粒子が多量に含まれていることから、下面が火床面と考えられる。煙道は火床面から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1 黒褐色	砂粒中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量	13 褐灰色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量, 焼土粒子微量
2 灰褐色	粘土粒子・砂粒中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量	14 灰褐色	粘土粒子・砂粒中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量
3 灰褐色	砂粒中量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量	15 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
4 灰褐色	粘土粒子・砂粒多量, 粘土小ブロック中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	16 灰褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
5 灰褐色	粘土粒子・砂粒中量, 焼土粒子少量	17 極暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子多量, ローム粒子・炭化粒子微量
6 暗褐色	粘土粒子・砂粒中量, 焼土粒子・炭化粒子少量	18 暗赤褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・炭化物・粘土粒子・砂粒少量
7 暗褐色	砂粒中量, ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量	19 暗赤褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
8 暗褐色	ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量	20 暗赤褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
9 灰褐色	粘土粒子・砂粒多量, 炭化粒子中量, 焼土粒子・炭化物少量		
10 暗褐色	焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量, 炭化物少量		
11 暗赤褐色	焼土粒子多量, 砂粒中量, 炭化粒子・粘土粒子少量		
12 灰褐色	粘土粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子・砂粒少量, 焼土粒子微量		

ピット 5か所 (P1～P5)。P1～P4は、径25～35cmのほぼ円形で、深さ43～53cmである。P1とP4は竈の両側、P2は北東コーナ一部、P3は南東コーナ一部にそれぞれ位置し、規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は長径45cm、短径32cmの楕円形で、深さ28cmであり、東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

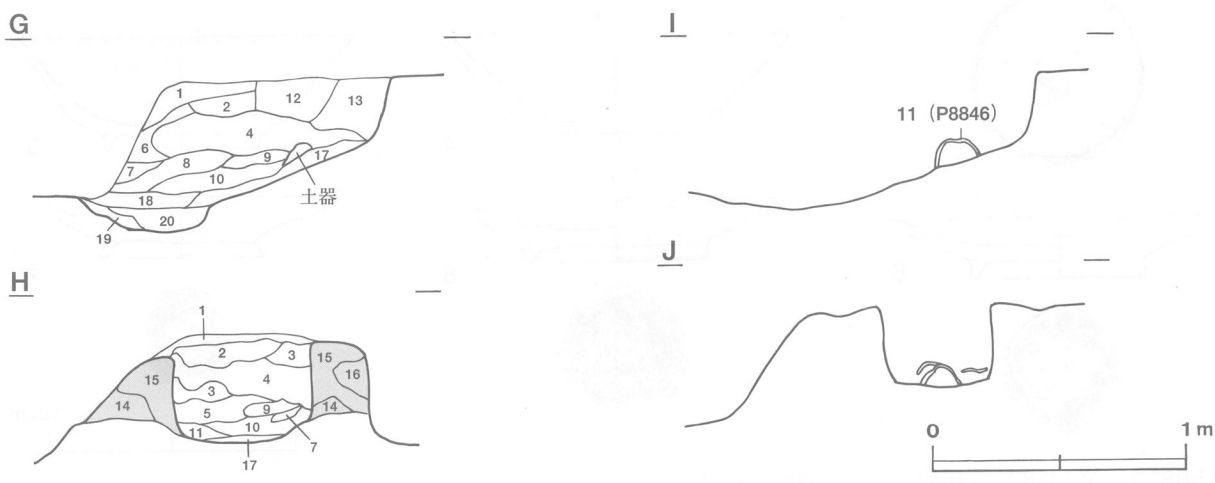
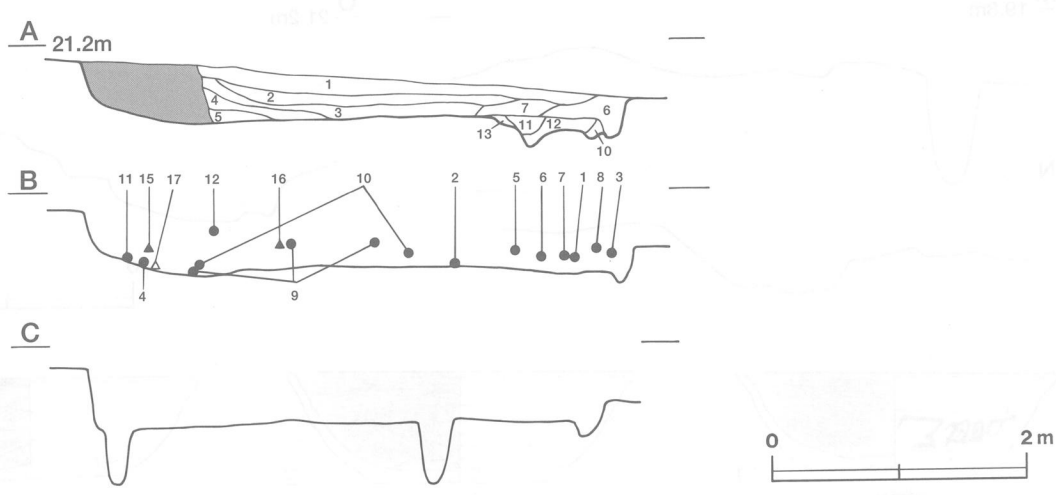
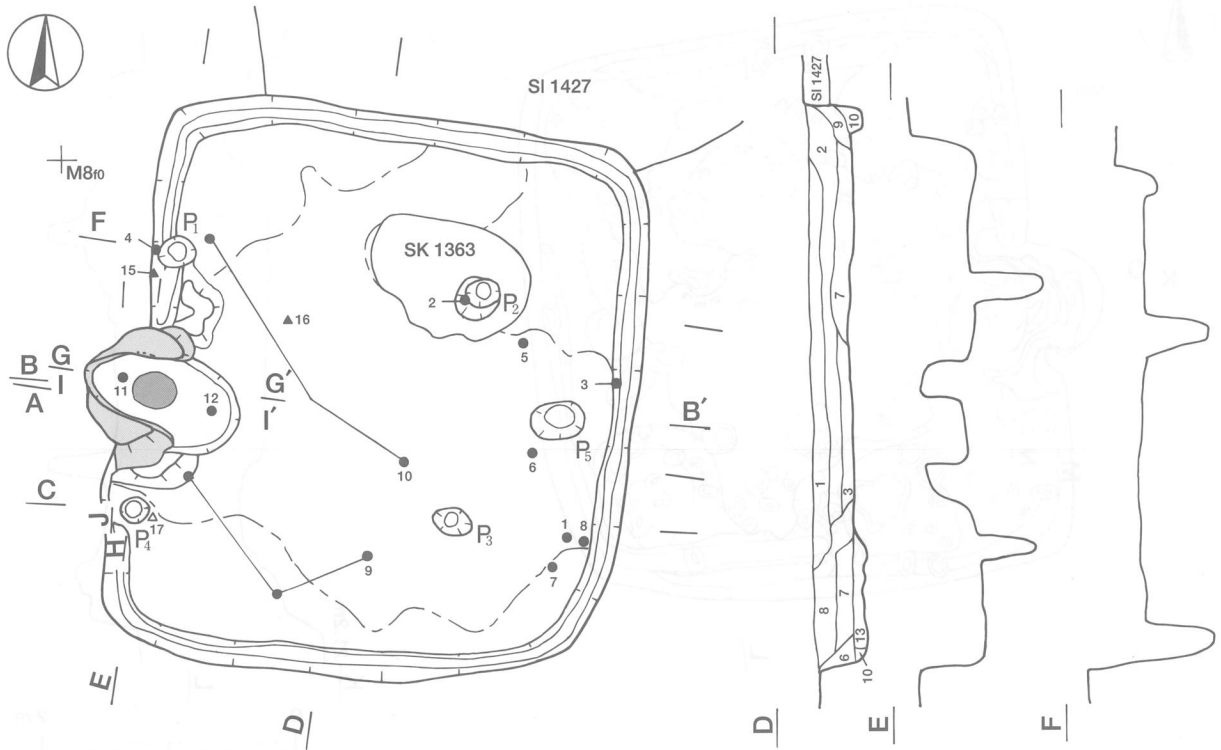
覆土 13層からなる。第1・2層は、ほぼレンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。その他の層は、ブロック状に堆積していることから、人為堆積と考えられる。第10層は壁溝の土層である。

土層解説

1 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
2 暗褐色	粘土粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量
3 暗褐色	焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
4 暗褐色	砂粒多量, 焼土粒子・粘土粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
5 暗褐色	炭化粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
6 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
7 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
8 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・砂粒少量
9 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量, 焼土粒子・炭化物少量
10 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
11 暗褐色	ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
12 褐色	ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
13 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック少量

遺物 土師器片1078点 (坏類165, 高台付坏11, 甕類864, 甌2, 鉢6), 須恵器片521点 (坏類260, 蓋2, 皿4, 蓋2, 短頸壺4, 甕類252), 灰釉陶器1点 (長頸瓶), 鉄製品1点 (門金具) が出土している。第588・589図1の土師器坏, 7・8の須恵器皿は、南東コーナ一部の覆土下層から、1・7が逆位, 8が正位で、それぞれ出土している。2の土師器坏は中央部の床面から正位で、3の土師器坏は東部の壁溝中から斜位で、4の須恵器坏片, 15・16の須恵器甕片は竈北側の覆土下層から、それぞれ出土している。5の土師器高台付坏, 6の須恵器皿は、東部の覆土下層から、5が破片で、6が逆位で、それぞれ出土している。9の土師器鉢片は、南部の覆土下層から出土している。10の土師器鉢は、中央部と北西部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。11の土師器甕は竈内から逆位で出土している。12の灰釉陶器長頸瓶は、竈前の覆土中層から出土している。13の土師器坏片, 14の土師器高台付坏片は、覆土中から出土している。いずれも体部外面に墨書されているが、細片のため判読は不能である。17の門金具は、竈南側の床面から出土している。土器は、床面及び覆土下層から出土していることから、住居が廃絶される時に遺棄されたものと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第587図 第1428号住居跡実測図



M8ro

K/O

M

N

L

K 21.2m

L

0 2m

M 19.8m

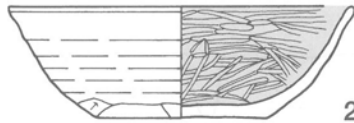
O 21.2m

N

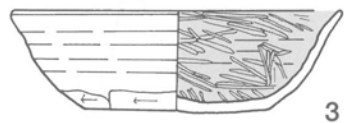
0 2m



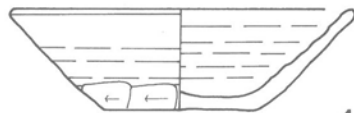
1



2



3



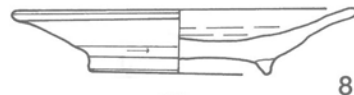
4



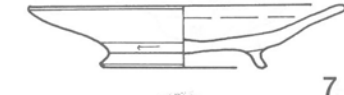
5



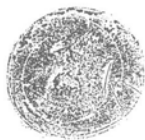
6



8

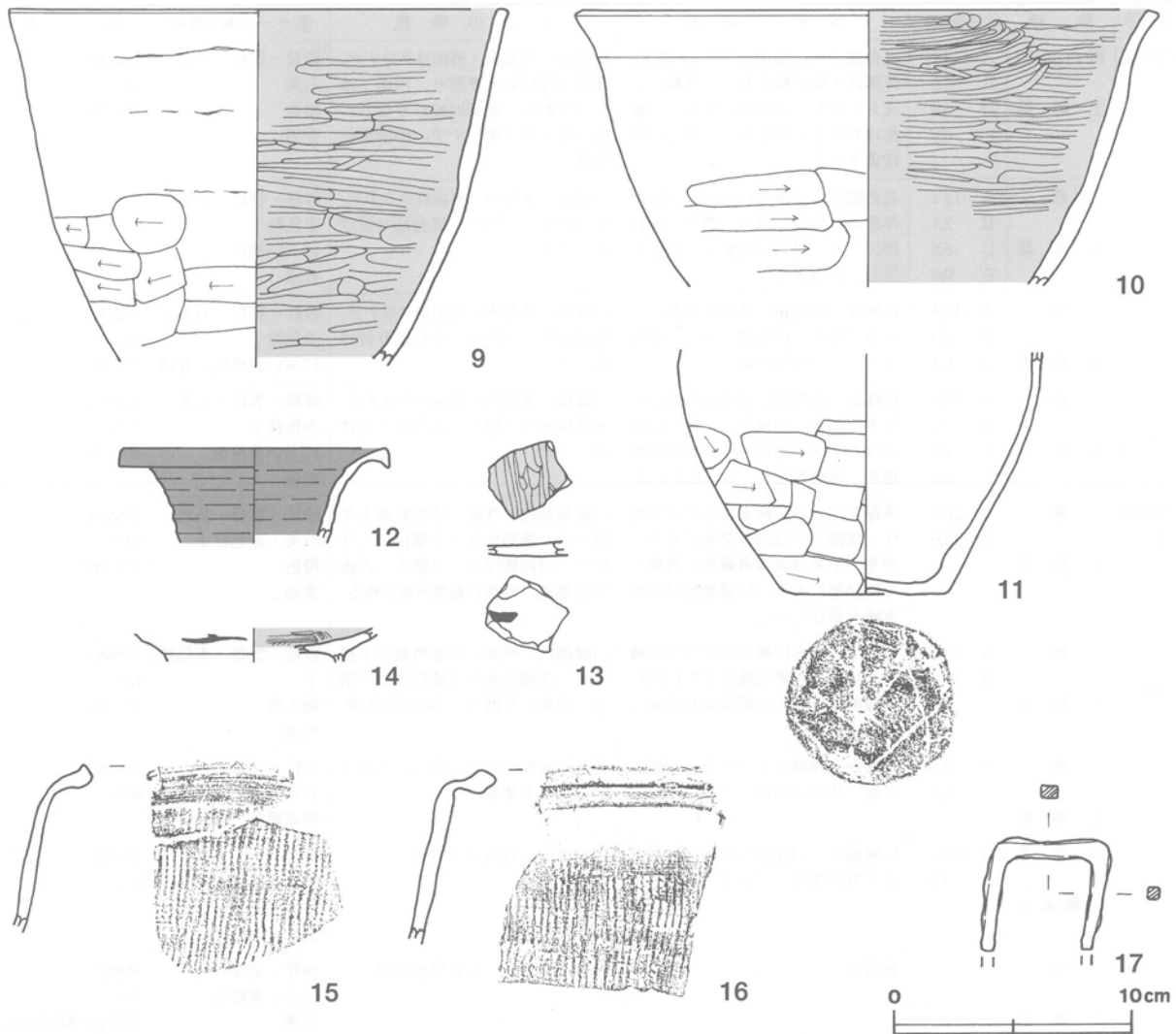


7



0 10cm

第588图 第1428号住居跡・出土遺物実測図



第589図 第1428号住居跡出土遺物実測図

第1428号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第588図 1	坏 土師器	A 12.8	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り，内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英 橙色 普通	P 8836 90% P L 267 体部外面に墨書「子鼻門」
		B 4.0				
		C 6.8				
2	坏 土師器	A [13.8]	体部，口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り，内面ヘラ磨き。底部1方向のヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・ 赤色粒子 にぶい橙色 普通	P 8837 70% P L 267
		B 4.4				
		C 6.8				
3	坏 土師器	A 13.0	体部，口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り，内面ヘラ磨き。底部1方向のヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・ 赤色粒子 橙色 普通	P 8838 70% P L 267
		B 4.2				
		C 7.4				
4	坏 須恵器	A [13.3]	体部，口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り，内面ヘラ磨き。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・ 石英 灰色，普通	P 8839 40% P L 267
		B 4.0				
		C 6.1				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第588図 5	高台付 土師器	A [13.4] B 4.5 D 6.0 E 0.6	高台部から口縁部にかけての破片。体部は下位に稜を有し、外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。高台はほぼ垂下する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り、内面丁寧なヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英 橙色 普通	P 8840 20% P L 267
6	皿 須恵器	A 13.1 B 2.4 D 6.8 E 0.9	高台部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して外方に開き、口縁部に至る。高台は断面が三角形を呈し、ほぼ垂下する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後、ナデ。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい褐色 普通	P 8841 60% P L 267
7	皿 須恵器	A 12.5 B 2.5 D 6.4	口縁部一部欠損。体部は外傾して外方に開き、口縁部に至る。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後、ナデ。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい黄褐色、普通	P 8842 98% P L 267
8	皿 須恵器	A 13.5 B 2.7 C 7.0 E 0.6	口縁部一部欠損。体部は外傾して外方に開き、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。高台は断面が三角形を呈し、ほぼ垂下する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後、ナデ。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい黄褐色 普通	P 8843 75% P L 267
第589図 9	鉢 土師器	A [20.6] B (14.6)	体部下位から口縁部にかけての破片。体部下半は内彎気味に立ち上がり、上半はほぼ直線的に外傾して口縁部に至る。口縁端部はやや丸味を帯びている。	口縁端部内・外面、体部外面上半横ナデ。体部外面下半横位のヘラ削り、内面横位のヘラ磨き。内面黒色処理。外面に輪積み痕が残る。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 褐色 普通	P 8844 20% P L 267
10	鉢 土師器	A [23.8] B (11.3)	体部下位から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面、体部外面上半横ナデ。体部外面下半横位のヘラ削り、内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 褐灰色 普通	P 8845 15% P L 267
11	甕 土師器	B (10.1) C 6.8	底部から体部下半にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面横位のヘラ削り、内面ナデ。底部木葉痕。	砂粒・雲母・長石・石英 明赤褐色、普通	P 8846 40%
12	長頸瓶 灰釉陶器	A [11.0] B (3.8)	口縁部片。口縁部は外反し、端部は下方に突出している。	口縁部内・外面ロクロナデ。	緻密 胎土 灰白色 釉 灰オリーブ色 良好	P 8847 5%
13	坏 土師器	—	底部片。	内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい黄褐色 普通	P 8821 5% 底部外面に墨書判読不能
14	高台付 土師器	B (1.4) E (0.4)	体部下端から高台部にかけての破片。体部は外傾する。高台は垂下する。	体部外面下端ヘラ削り、内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母 橙色 普通	P 8822 5% 体部外面に墨書判読不能
15	鉢 須恵器	B (6.8)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は外傾して直線的に立ち上がり、口縁部で屈曲する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面縦位の平行叩き、内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 黒色 普通	T P 8414 5% P L 267
16	鉢 須恵器	B (7.1)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は外傾して直線的に立ち上がり、口縁部で屈曲する。端部は角張る。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面縦位の平行叩き、内面ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 褐灰色 普通	T P 8413 5% P L 267

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第589図17	冂金具	(4.5)	4.5	0.5~0.7	(20.5)	鉄	平面形は「コ」の字形で、断面は方形。	M8435 70% P L 282

第1431号住居跡 (第590・591図)

位置 調査8区の北西部，M9f3区。

重複関係 第1429・1430・1432号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸4.90m，短軸4.75mの方形である。

主軸方向 N-90° - E

壁 壁高は20~33cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。規模は、上幅8～22cm、下幅4～10cm、深さ6～10cmで、断面形はU字形をしている。

床 ほぼ平坦であり、中央部が踏み固められている。

竈 東壁の中央部やや北寄りを壁外へ約65cm掘り込んで、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで100cm、両袖幅165cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、第1層には火熱を受けて赤変した粘土ブロック・粘土粒子が多量に含まれていることから、天井部の一部が崩落した層と考えられる。両袖部は住居の内部には突出しておらず、地山を掘り込み、両内側に粘土粒子・砂粒を貼り付けて構築されている。内側は火熱を受けて赤変硬化している。火床部は、わずかに掘りくぼめられ、皿状をしている。第4層には焼土粒子が多量、炭化粒子が中量含まれること、下面が火床面と考えられる。煙道は火床面から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子・粘土中ブロック少量。粘土が火熱を受けて赤変硬化している。
- 2 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子中量、ローム粒子少量
- 3 灰褐色 灰多量、ローム粒子・焼土粒子少量
- 4 暗赤色 焼土粒子多量、炭化粒子・灰中量
- 5 黒色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 6 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 7 黒色 焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 8 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量、ローム粒子微量
- 9 黒褐色 焼土粒子・粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 10 黒褐色 焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 11 赤黒色 焼土粒子・炭化粒子中量
- 12 黒褐色 焼土粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量
- 13 黒褐色 焼土粒子・粘土粒子少量、ローム粒子・焼土小ブロック微量
- 14 極暗赤褐色 粘土粒子多量、焼土粒子中量。粘土粒子が火熱を受けて赤変硬化している。
- 15 にぶい赤褐色 粘土粒子・砂粒多量。火熱を受けて赤変硬化している。
- 16 黒褐色 ローム粒子微量

ピット 5か所（P1～P5）。P1～P4は、径55～69cmのほぼ円形で、深さ52～60cmであり、いずれも各コーナー部に位置し、規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は径42cmの円形で、深さ14cmであり、西壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。ピット土層断面図中、第1・2層は柱の抜き取り痕と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・粘土粒子・砂粒少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子・炭化物少量
- 4 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・粘土粒子・砂粒少量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、粘土粒子・砂粒少量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
- 7 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、焼土粒子少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 9 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、焼土粒子少量
- 10 黒褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック・焼土中ブロック中量、焼土粒子・炭化材・粘土粒子・砂粒少量

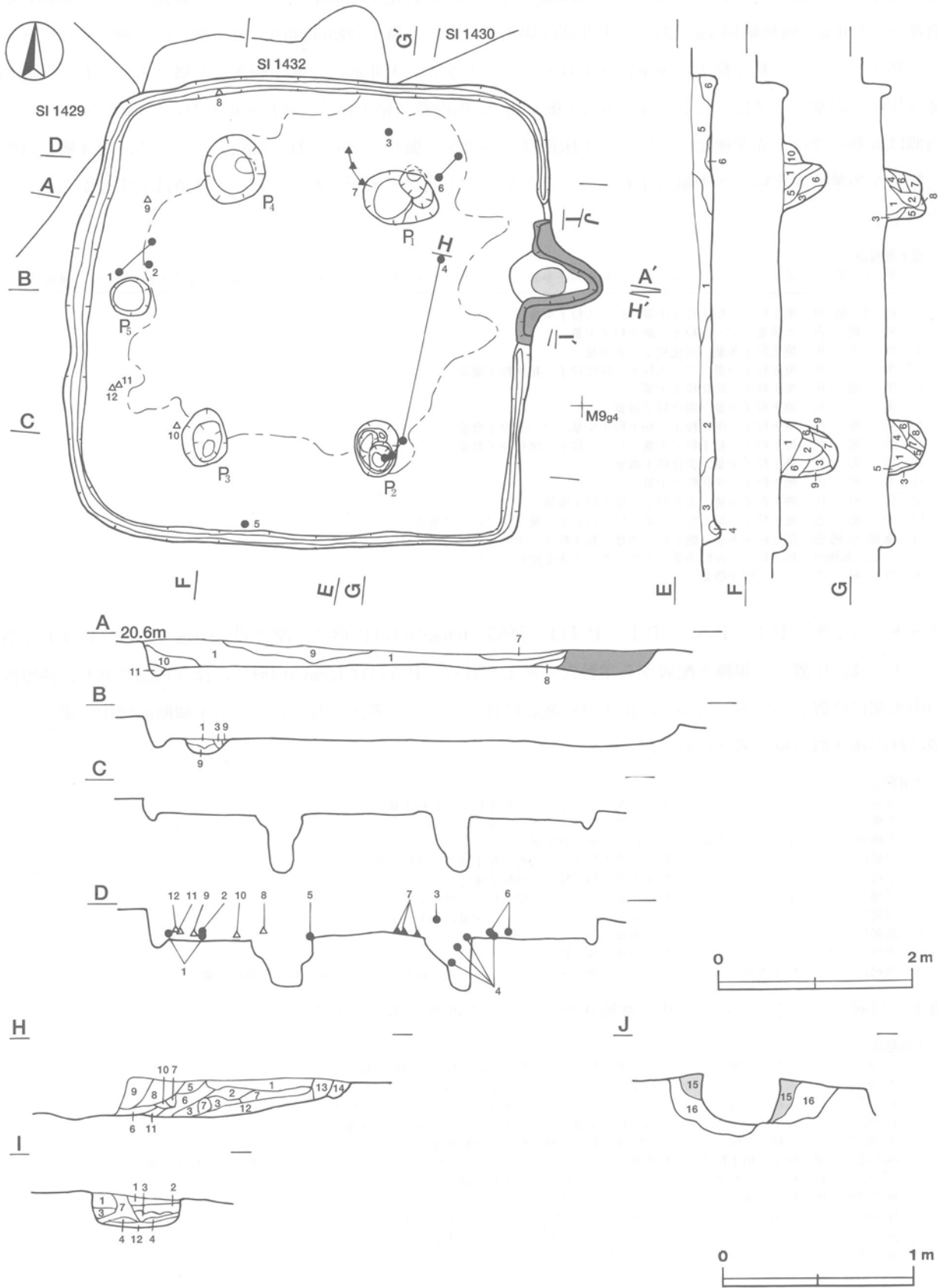
覆土 11層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗赤褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック多量、ローム粒子中量、ローム中ブロック・焼土粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
- 7 黒褐色 粘土粒子・砂粒中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
- 8 極暗褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 9 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 10 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 11 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量

遺物 土師器片794点、須恵器片592点、鉄器5点（刀子4、釘カ1）が出土している。第591図1・2の須恵

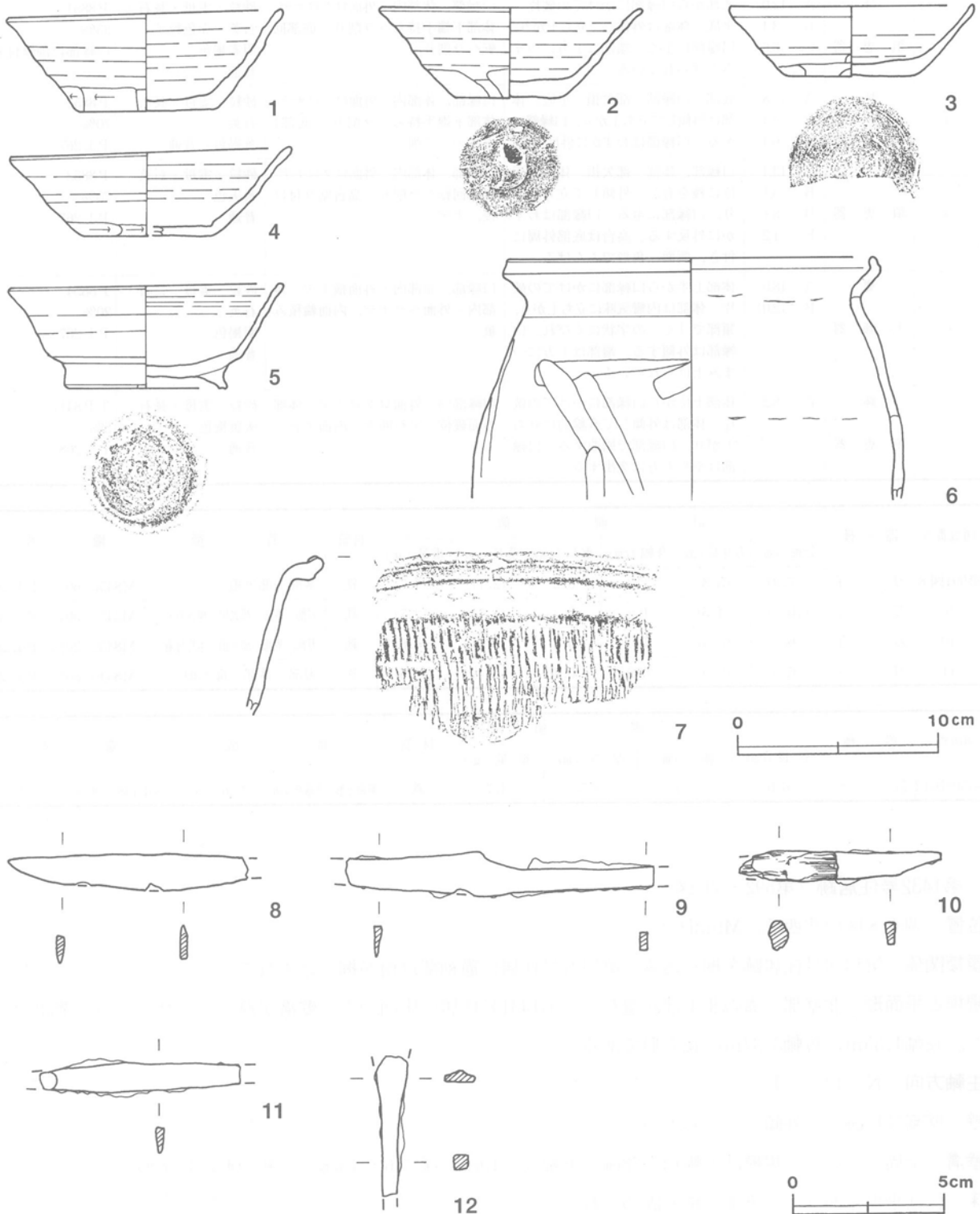
器坏は、西部の覆土下層から、1が逆位で、2が正位で、それぞれ出土している。3の須恵器坏は、北部の覆土中層から正位で出土している。4の須恵器坏は、竈前の床面と南部の覆土下層から出土した破片が接合した



第590図 第1431号住居跡実測図

ものである。5の高台付坏は、南部の床面から正位で出土している。6の土師器甕は、北東コーナー部の覆土下層から破片で出土している。7の須恵器甕の口縁部から体部にかけての破片は、北部の床面から出土している。8の刀子は北西部の覆土下層から、9の刀子は西部の覆土下層から、10・11の刀子、12の釘は、南西部の覆土下層から、それぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第591図 第1431号住居跡出土遺物実測図

第 1431 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第 591 図 1	坏 須 恵 器	A 13.8	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部切り難し痕を残す1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい黄褐色、普通	P 8849 95% P L 267
		B 4.9				
		C 7.0				
2	坏 須 恵 器	A [12.9]	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰黄褐色、普通	P 8850 70% P L 267
		B 4.4				
		C 5.2				
3	坏 須 恵 器	A [12.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 明赤褐色 普通	P 8851 35% 口縁部に油煙付着
		B 3.4				
		C 6.6				
4	坏 須 恵 器	A 13.8	底部、口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 黄褐色、普通	P 8852 70% P L 267
		B 4.4				
		C 6.4				
5	高台付坏 須 恵 器	A 13.4	口縁部、体部一部欠損。体部は下位に稜を有し、外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。高台は底部外周に付き、断面三角形でふんばる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後、ナデ。	砂粒・雲母・石英 黄灰色 普通	P 8853 70% P L 267
		B 5.1				
		D 8.1				
		E 1.2				
6	甕 土 師 器	A 18.0	体部上半から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、頭部で「く」の字状にくびれ、口縁部は外傾する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ、内面輪積み痕。	砂粒・雲母・長石・石英 明褐色 普通	P 8854 20% P L 267
		B (12.0)				
7	鉢 須 恵 器	B (8.2)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は外傾して直線的に立ち上がり、口縁部で屈曲する。口縁部はやや上方に突出する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面縦位の平行叩き、内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 灰黄褐色 普通	T P 8417 5% P L 268

図版番号	器 種	計 測 値						材質	特 徴	備 考
		全長 (cm)	刀身長 (cm)	身幅 (cm)	重ね (cm)	茎長 (cm)	重量 (g)			
第591図 8	刀 子	(7.9)	(5.8)	1.2	0.2	(2.1)	(6.7)	鉄	茎部一部欠損。	M8436 60% P L 282
9	刀 子	(10.2)	(4.5)	1.5	0.3	(5.7)	(12.7)	鉄	刃部、茎部一部欠損。棟区有り。	M8437 50% P L 280
10	刀 子	(6.7)	(5.3)	1.0	0.3	(1.4)	(4.6)	鉄	刃部、茎部一部欠損。木片付着。	M8439 30% P L 282
11	刀 子	(6.6)	(2.9)	0.9	0.3	(3.7)	(6.5)	鉄	刃部、茎部一部欠損。	M8440 80% P L 282

図版番号	器 種	計 測 値				材質	特 徴	備 考
		全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第591図 12	釘 カ	(6.0)	(1.7)	0.5	(4.7)	鉄	断面方形。先端部は折り曲げられている。	M8438 90% P L 282

第1432号住居跡 (第592・593図)

位置 調査 8 区の北西部, M9f3区。

重複関係 第1430号住居跡を掘り込み、第1431号住居に竈袖部以南が掘り込まれている。

規模と平面形 北壁部と竈の北半部が遺存し、第1431号住居の床面の下に壁溝が巡っていたことから確認できた。長軸4.35m、短軸3.37mの長方形である。

主軸方向 N-12° - E

壁 壁高は12cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。規模は上幅12~28cm、下幅 5~10cm、深さ 6~15cmで、断面形はU字形をしている。

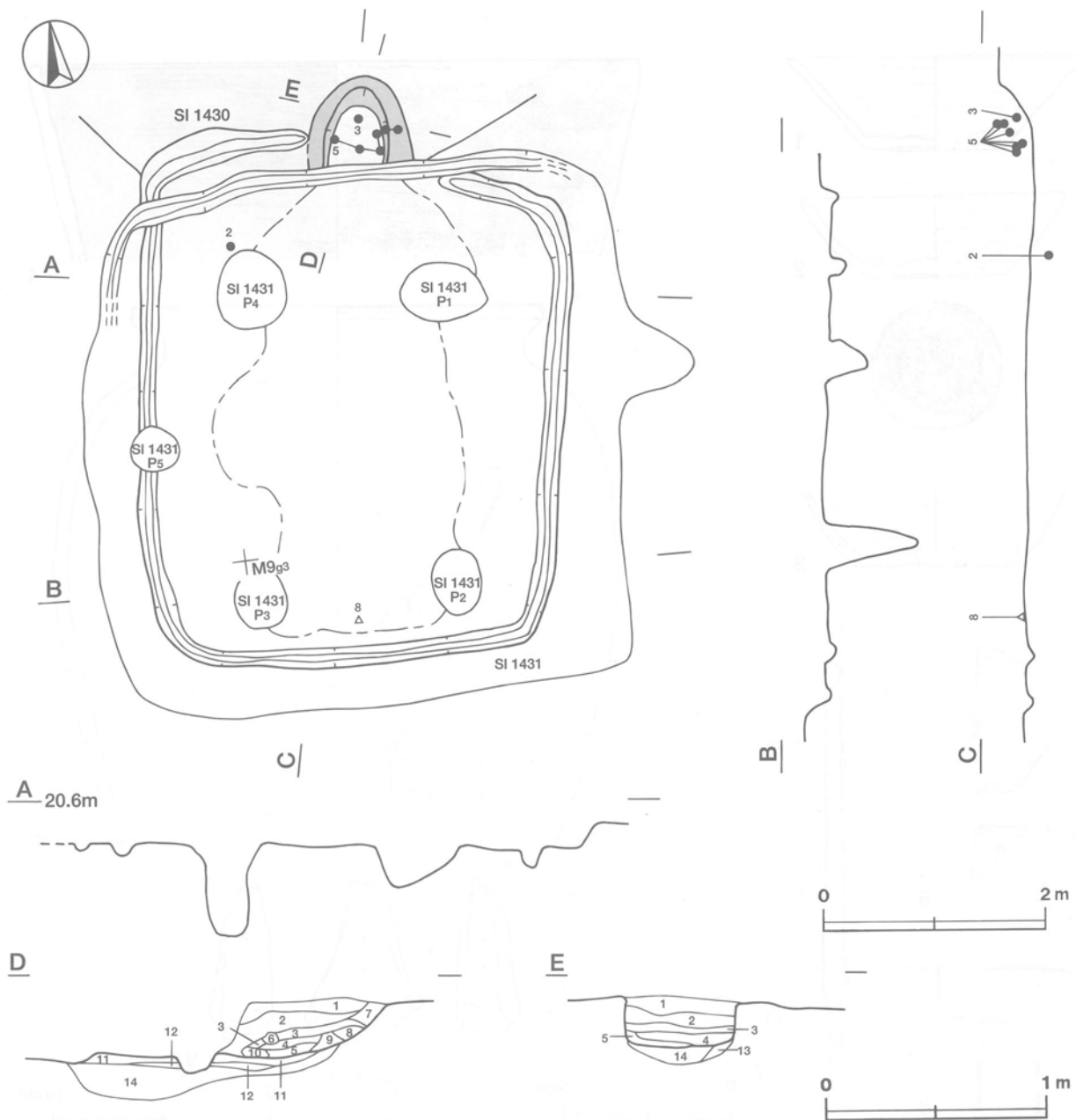
床 ほぼ平坦であり、中央部が踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外へ67cm掘り込んで、砂質粘土で構築されている。両袖部の南端が第1431号住居に掘り

込まれているため、遺存状態は悪く、確認できた規模は、両袖部の南端から煙道部までが82cmで、両袖幅100cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、第7・8層には火熱を受けて赤変した粘土ブロック・粘土粒子が多く含まれていることから、天井部の一部が崩落した層と考えられる。第5層には、焼土粒子・炭化粒子・灰が多量に含まれていることから、下面が火床面と考えられる。煙道は火床面から緩やか立ち上がる。

竈土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
- 3 暗赤褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・灰少量, 粘土粒子・砂粒微量
- 4 黒褐色 焼土粒子・炭化物・灰少量, 炭化粒子微量
- 5 暗赤褐色 灰多量, 焼土粒子・炭化粒子中量
- 6 明褐色 灰多量, 焼土粒子少量
- 7 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子中量, 炭化物・砂粒少量
- 8 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・粘土粒子中量, 砂粒少量
- 9 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物・炭化粒子少量
- 10 灰褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量, 炭化材少量
- 11 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・砂粒中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量

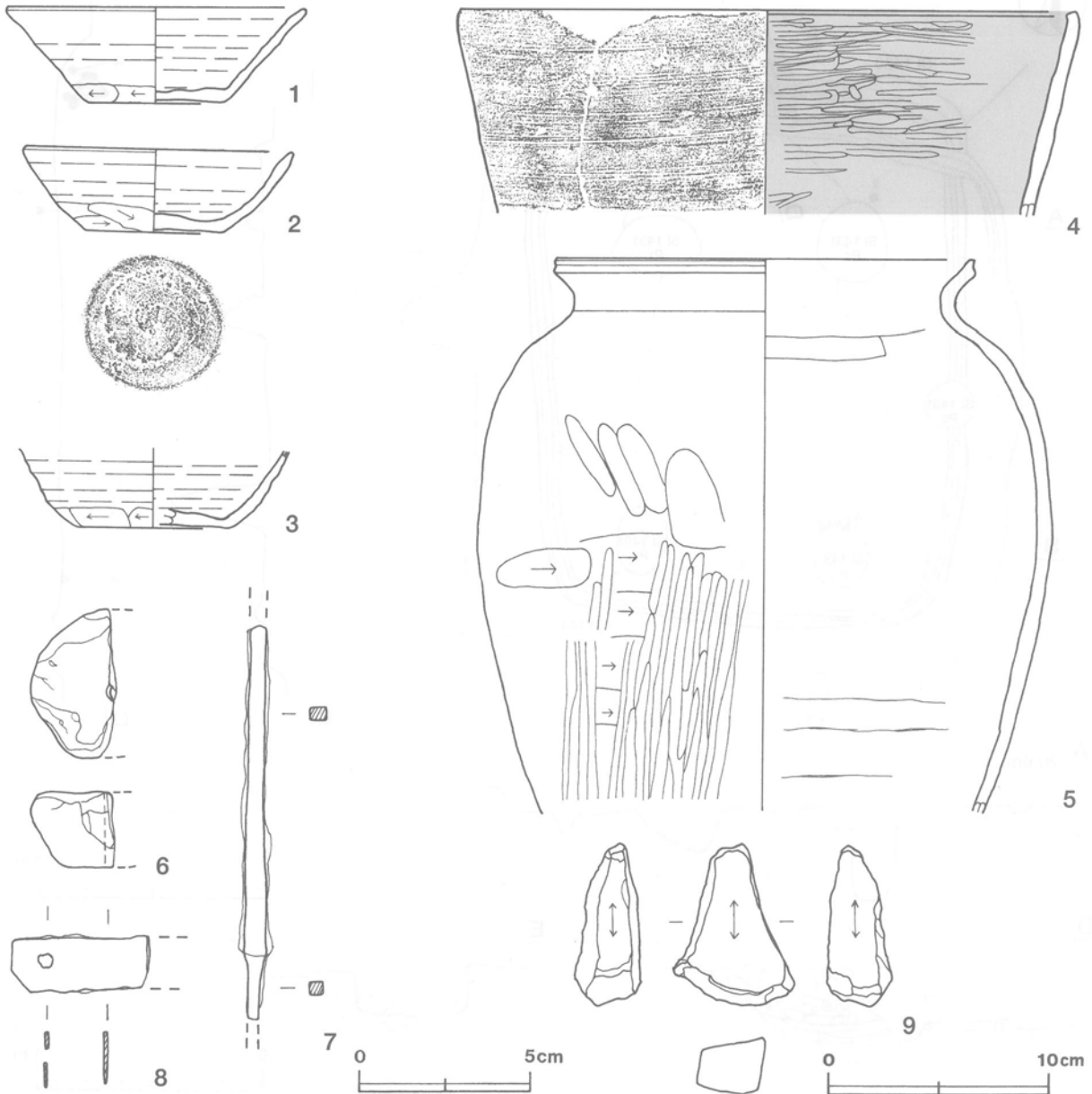


第592図 第1432号住居跡実測図

- 12 黒褐色 砂粒中量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 13 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 14 暗赤褐色 粘土粒子多量, 焼土粒子中量, ローム粒子少量

遺物 土師器片284点, 須恵器片148点, 土製品1点(紡錘車), 鉄器・鉄製品2点(鎌, 手鎌), 石器1点(砥石), 鉄滓2点が出土している。第593図1・2の須恵器坏と4の土師器鉢, 6の土製紡錘車, 7の鎌, 8の手鎌, 9の砥石は, 床の掘り方の埋土中から出土している。3の須恵器坏片と5土師器甕片は, 竈内から出土している。鉄滓は, 覆土中から出土しているが, 本跡からは, 鍛冶炉等は検出されていない。攪乱により混入したものと考えられる。

所見 本跡は当初, 第1431号住居の床面の下から床面が検出され, 柱穴も第1431号住居のものと同様であることから, 第1431号住居の建て替え前の住居跡と考えられた。しかし, 遺存していた北西部付近の覆土堆積状況からは, 人為的に埋め戻された様子は認められず, 竈内には遺棄された状態で土器が出土していることから, 建て替えまたは拡張には当てはまらないとした。時期は, 出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第593図 第1432号住居跡出土遺物実測図

第 1432 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第 593 図 1	坏 須 恵 器	A [13.2] B 4.1 C 6.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色 普通	P 8855 45% P L 268
2	坏 須 恵 器	A [11.8] B 3.6 C 6.1	体部，口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰褐色，普通	P 8856 60% P L 268
3	坏 須 恵 器	B (3.5) C [6.6]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 黄褐色 普通	P 8857 10%
4	鉢 土 師 器	A [27.4] B (9.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は直線的にやや外傾して立ち上がり，口縁部に至る。端部はやや内傾する。	口縁部外面横ナデ。体部外面横位のヘラナデ，内面横位のヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英 にぶい赤褐色 普通	P 8858 5% P L 268
5	甕 土 師 器	A [18.4] B (24.5)	体部下位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部で「く」の字状にくびれ，口縁部は外傾する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部，頸部内・外面横ナデ。体部外面中位以下横位のヘラ削り後ヘラ磨き，内面に輪積み痕を残すナデ。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P 8859 15% P L 268

図版番号	器 種	計 測 値					特 徴	胎土・色調	備 考
		最大径 (cm)	最小径 (cm)	厚 さ (cm)	孔 径 (cm)	重 量 (g)			
第593図6	土製紡錘車	[5.0]	[2.4]	2.3	(0.3)	(20.8)	断面逆台形。ナデ。	砂粒・雲母・長石，黒褐色	D P 8432 30%

図版番号	器 種	計 測 値							材 質	特 徴	備 考
		全長 (cm)	筒径部長 (cm)	筒径部幅 (cm)	莖長 (cm)	莖幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第593図7	鉢	(11.7)	(9.8)	0.5	1.9	0.4	0.4~0.7	(16.5)	鉄	長頸鉢。両関。	M8441 60% P L 282

図版番号	器 種	計 測 値				材 質	特 徴	備 考
		全長 (cm)	幅 (cm)	厚 さ (cm)	重 量 (g)			
第593図8	手 鎌	(4.1)	(1.5~1.7)	0.1	(3.5)	鉄	片隅の破片。莖に径 0.4cm の目釘穴有り。	M8442 40% P L 282

図版番号	器 種	計 測 値				石 質	特 徴	備 考
		長 さ (cm)	幅 (cm)	厚 さ (cm)	重 量 (g)			
第593図9	砥 石	7.1	5.3	2.5	77.8	凝灰岩	砥面3面，中央部が薄くなっている。	Q 8409 40% P L 284

第1442号住居跡 (第594~596図)

位置 調査8区の東部，M10i2区。

重複関係 北東コーナー部の上部が，第1351号土坑に掘り込まれている。また，上部がトレンチャーによる攪乱を受けている。

規模と平面形 長軸4.00m，短軸3.46mの長方形である。

主軸方向 N-116° - E

壁 壁高は33~36cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 南東コーナー部から南部の壁際で検出された。規模は上幅15~33cm，下幅5~20cm，深さ4~8cmで，断面形は緩やかなU字形をしている。

床 ほぼ平坦であり，竈前面の南部が特に踏み固められている。床全面に焼土・炭化材・炭化物が散在しており，特に北部の床面に密集している。

竈 東壁の南東コーナー一部寄りを壁外へ約45cm掘り込んで、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで115cmで、両袖幅102cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、第2・4・5・9層には粘土粒子・砂粒が多量に含まれ、特に第9層は火熱を受けて赤変した粘土粒子・砂粒が多量に含まれていることから、これらの層が天井部の崩落土と考えられる。袖部は粘土粒子・砂粒を主体とした灰褐色土で構築しており、内側は火熱を受けて赤変硬化している。火床面は床面を5cmほど掘りくぼめられており、皿状をしている。第13・14層は焼土粒子・炭化粒子・灰の層であることから、その下層が火床面と考えられる。火床面からは赤変した雲母片岩が立位で出土しており、その上からは土師器の高台付坏が2点、土師器坏が1点、いずれも逆位で重ねられた状態で出土している。いずれも二次焼成を受けており、支脚として使用されたままの状態と考えられる。煙道は火床面から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1 黒褐色	粘土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量	8 暗褐色	ローム粒子・砂粒少量，粘土粒子微量
2 黒褐色	粘土粒子多量，粘土中ブロック・砂粒中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量	9 暗赤褐色	粘土粒子・砂粒多量。粘土粒子・砂粒が火熱を受けて赤変硬化している。
3 黒褐色	砂粒中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量	10 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，粘土粒子・砂粒微量
4 灰褐色	粘土粒子多量，砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量	11 極暗赤褐色	粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化材少量
5 暗赤褐色	粘土粒子・砂粒多量，ローム小ブロック少量。粘土粒子・砂粒が火熱を受けて赤変硬化している。	12 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子中量，粘土粒子・砂粒少量
6 暗赤褐色	粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量	13 にぶい赤褐色	焼土粒子・灰多量
7 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒少量	14 黒褐色	炭化粒子多量，砂粒中量
		15 にぶい赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子多量
		16 灰褐色	粘土粒子多量，砂粒中量，焼土粒子少量
		17 黒褐色	粘土粒子少量，ローム粒子微量
		18 赤褐色	焼土粒子・粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
		19 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック少量

ピット 5か所（P1～P5）。P1は径48cmのほぼ円形で、深さ29cmであり、中央部に位置する。性格は不明であるが、上面には踏み固められた面は認められず、土層断面からみて、上層から中層には焼土・炭化粒子、中でも第2層には茅と思われる炭化材が、中層の第5層には灰が多量に含まれていたことから、炉床の可能性がある。P2・P3は径45cmのほぼ円形で、深さ16cmである。P2は南西コーナー部、P3は北西コーナー部に位置しており、規模と配置から支柱穴と考えられる。P4は長径52cm、短径35cmの楕円形で、深さ22cmである。P5は径35cmの円形で、深さ12cmである。いずれも性格は不明である。

P1土層解説

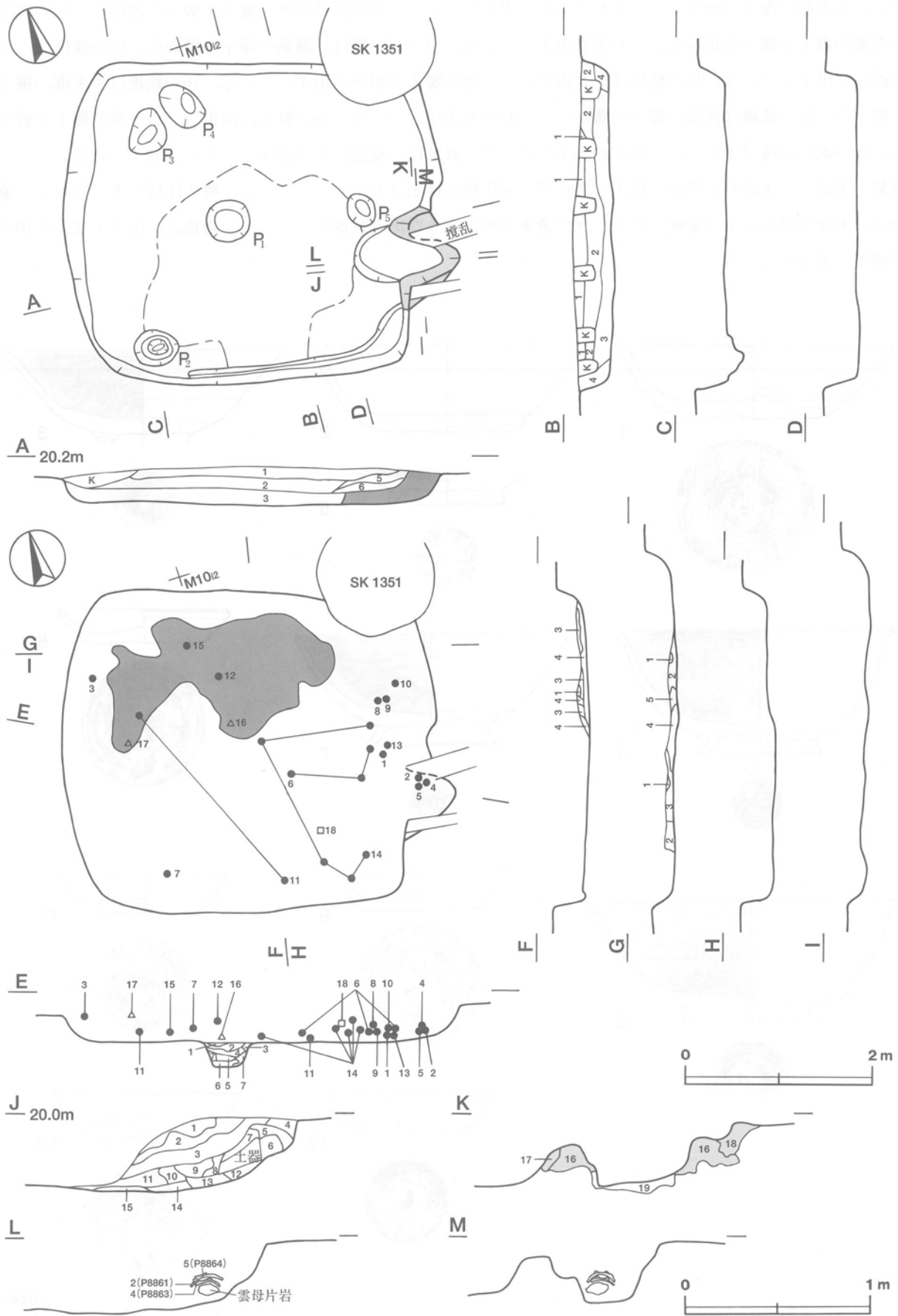
1 黒褐色	焼土粒子中量，炭化材・炭化粒子少量
2 黒褐色	焼土粒子・炭化材中量，炭化粒子少量
3 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量
4 暗赤褐色	焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化物中量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
5 極暗赤褐色	灰多量，焼土小ブロック・焼土粒子中量
6 暗褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック・灰少量
7 褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量

覆土 6層からなる。ほぼレンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量	5 黒褐色	粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	6 黒褐色	粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，粘土粒子微量		
4 褐色	ローム粒子中量		

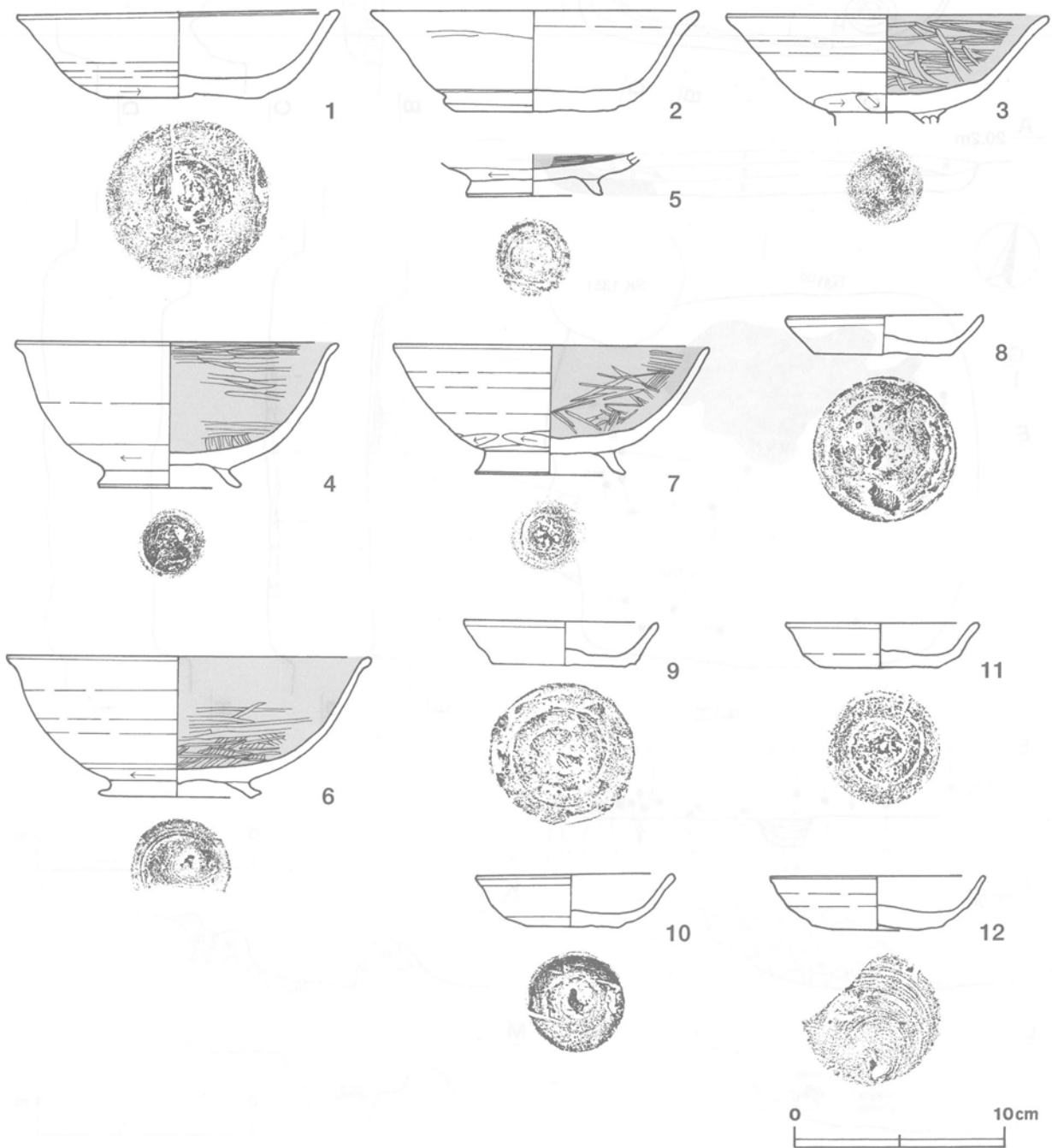
遺物 土師器片564点、須恵器片45点、鉄器2点（鏃）、石器・石製品3点（支脚1、軽石1、砥石1）、鉄滓1点が出土している。図示した土器はすべて土師器である。第595・596図1の坏、6の高台付坏は、竈前の床面から、1が逆位で、6が破片で、それぞれ出土している。2の坏、4・5の高台付坏は、竈火床面の石製支脚に、いずれも逆位の状態で、4に2が、2に5が重ねられて出土している。2・4・5ともに二次的に焼成を受けていることから、支脚の一部として転用されたものと考えられる。3の高台付坏は北西コーナー部の覆土中層から逆位で、7の高台付坏は南西コーナー部の覆土下層から正位で、それぞれ出土している。8～10の



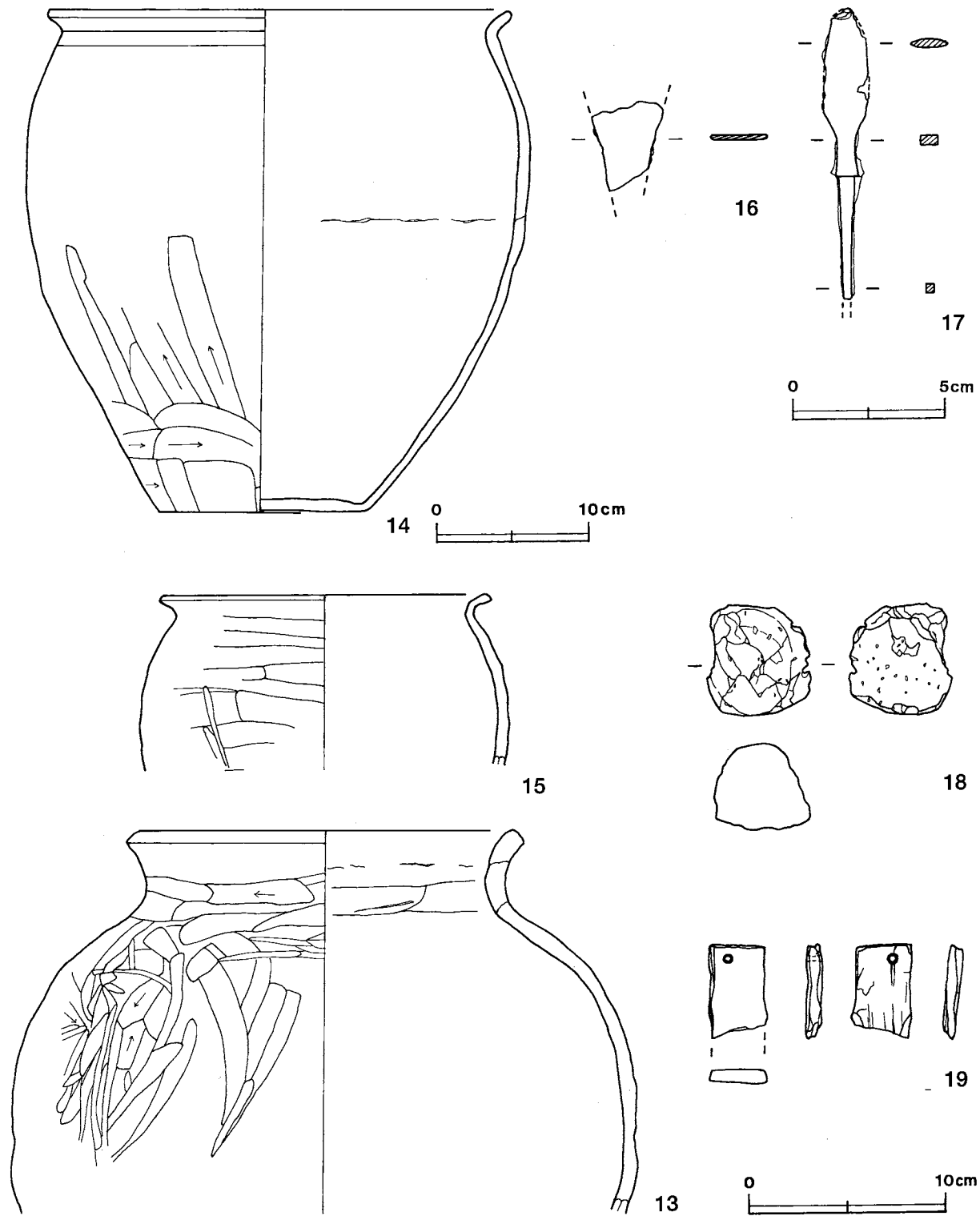
第594図 第1442号住居跡実測図

皿は、北東部の覆土下層から、いずれも正位で出土している。11の皿は西部の覆土下層から逆位で、12の皿は中央部の覆土下層から正位で、それぞれ出土している。13・14の甕は、竈前の覆土下層から、13が横位で、14が破片で出土している。15の甕片は、北西コーナ一部の覆土下層から出土している。16の鉄鏝は中央部の覆土下層から、17の鉄鏝は西部の覆土中層から、それぞれ出土している。18の軽石は南東コーナ一部の覆土下層から、19の砥石は覆土中から、それぞれ出土している。鉄滓は、攪乱により混入したものと考えられる。

所見 本跡は、床面から多量の焼土・炭化材・炭化物が検出されていることから、焼失住居と考えられる。遺物は、本跡が焼失により廃絶されるときに遺棄されたような出土状況をしている。時期は、出土土器から10世紀前半と考えられる。



第595図 第1442号住居跡出土遺物実測図（1）



第596図 第1442号住居跡出土遺物実測図(2)

第1442号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第595図 1	坏 土師器	A 15.0 B 4.0 C 7.3	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反し、端部内側に沈線1条が巡る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子にぶい橙色普通	P 8860 80% P L 268

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第595図 2	坏 土師器	A 15.1	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部外面に輪積み痕が残る。底部回転ヘラ切り後、ナデ。底部の作り雑。	砂粒・雲母・長石・石英 橙色、普通	P 8861 70% P L 268
		B 4.6				
		C 7.1				
3	高台付坏 土師器	A [15.0]	高台部、体部、口縁部一部欠損。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。高台は内側に付く。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端ヘラ削り、内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P 8862 60% P L 268
		B (5.0)				
		E (0.7)				
4	高台付坏 土師器	A [14.8]	高台部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。高台は内側に付き「ハ」の字状に開く。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り、内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P 8863 55% P L 268
		B 6.7				
		D 6.7				
		E 0.8				
5	高台付坏 土師器	B (1.9)	高台部から体部下端にかけての破片。高台は「ハ」の字状に開く。	体部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい褐色、普通	P 8864 30%
		D 6.4				
		E 0.8				
6	高台付坏 土師器	A 16.8	口縁部、高台部一部欠損。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。高台は「ハ」の字状に開き、端部が外方に張り出す。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り、内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P 8865 75% P L 268
		B 6.5				
		D [7.4]				
		E 0.7				
7	高台付坏 土師器	A [14.6]	体部、口縁部一部欠損。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部外面下端ヘラ削り、内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英 橙色 普通	P 8866 50% P L 268
		B 6.0				
		D 6.8				
		E 1.1				
8	皿 土師器	A 9.2	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して開き、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色、普通	P 8867 98% P L 268
		B 1.9				
		C 6.6				
9	皿 土師器	A 9.0	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して開き、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい橙色、普通	P 8868 98% P L 268
		B 2.0				
		C 6.6				
10	皿 土師器	A 9.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に開き、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 橙色、普通	P 8869 90% P L 268
		B 2.1				
		C 5.2				
11	皿 土師器	A 9.2	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に開き、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色、普通	P 8870 90% P L 268
		B 2.5				
		C 4.4				
12	皿 土師器	A [10.0]	底部、体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に開き、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。底部厚く、作り雑。	砂粒・雲母 にぶい黄褐色 普通	P 8871 50%
		B 2.5				
		C 6.2				
第596図 13	甕 土師器	A [18.4]	体部中位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部でくびれ、口縁部は外反する。端部は丸味を帯びる。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ、内面に輪積み痕を残す横ナデ。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P 8872 15% P L 268
		B (19.0)				
14	甕 土師器	A [29.3]	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は倒卵形を呈する。頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁部は短く外傾する。端部はやや角張る。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り、下端横位のヘラ削り、内面に輪積み痕を残す、ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 明赤褐色 普通	P 8873 50% P L 268
		B 32.5				
		C 13.6				
15	甕 土師器	A [16.0]	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎に立ち上がり、頸部で「く」の字状に屈曲し、口縁部は外傾する。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 普通	P 8874 5%
		B (8.5)				

図版番号	器種	計 測 値									材質	特 徴	備 考
		全長 (cm)	鉄身長 (cm)	鉄身幅 (cm)	鉄被部長 (cm)	鉄被部幅 (cm)	茎長 (cm)	茎幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第596図16	鐵	(3.0)	(3.0)	-	-	-	-	-	0.2	(4.8)	鐵	鐵身部の破片。雁又鐵カ。	M844 10% P L 283
17	鐵	(9.6)	(3.9)	1.4	1.7	0.6	(4.0)	0.3	0.3~0.4	(11.8)	鐵	鐵断面両丸。柳葉式カ。	M843 80% P L 282

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第596図18	浮子カ	5.6	5.2	4.3	42.4	軽石	使用痕は認められない。	Q8411 P L284
19	砥石	4.7	2.9	0.7	17.0	粘板岩	砥面は3面で、端部が穿孔されている。	Q8412 30% P L284

第1443号住居跡 (第597図)

位置 調査8区の東部, M10g4区。北東コーナー部が調査区域外に位置している。

規模と平面形 北東コーナー部が調査区域外に位置しているため、全容は確認できなかったが、確認できた部分から長軸2.87m, 短軸2.70mの方形と推測できた。

主軸方向 N-10° - E

壁 東壁は確認できなかったが、それ以外の壁高は8~12cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁際を除いて巡っている。規模は上幅13~22cm, 下幅4~7cm, 深さ3~5cmで、断面形はU字形をしている。

床 ほぼ平坦であり、中央部が踏み固められている。

竈 北壁の北東コーナー部寄りに火床部と袖部の下部と思われる砂質粘土が検出できた。特に東袖部は砂質粘土の痕跡が検出されただけで、遺存状態は極めて悪い。遺存している部分から、規模は焚口部から煙道部まで74cmで、両袖幅78cmと確認できた。天井部は確認できなかった。西袖部は遺存しており、地山のロームを土手状に掘り残して、砂質粘土を積み重ねて構築されている。火床部は、床面から約5cm掘りくぼめられており、皿状をしている。検出された煙道部は、下部だけであるが、火床面から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------|--------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 7 暗赤褐色 | ローム粒子多量, 粘土粒子・砂粒少量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・粘土粒子少量 | 8 暗褐色 | 粘土粒子・砂粒多量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量, 炭化粒子少量 | 9 暗褐色 | ローム粒子多量, 粘土粒子・砂粒中量 |
| 4 黒褐色 | 粘土粒子・砂粒少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |
| 5 極暗赤褐色 | 粘土粒子・砂粒中量, ローム粒子少量 | | |
| 6 黒褐色 | 粘土粒子・砂粒多量, ローム粒子少量 | | |

ピット 5か所 (P1~P5)。P1・P3は、それぞれ径30cm・25cmの円形で、深さ10cm・18cmである。P2は径45cmの円形で、深さ30cmである。P1は南東コーナー部, P2は南西コーナー部に位置し、いずれも規模と配置から支柱穴と考えられる。P3は竈の西側に位置しているが、規模から支柱穴と考えられる。P4は長径43cm, 短径21cmの楕円形で、深さ13cmであり, P5は径23cmの円形で、深さ14cmである。P4とP5は、南壁際に並列していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 9層に分層された。覆土が薄く堆積状況を断定することは難しいが、ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

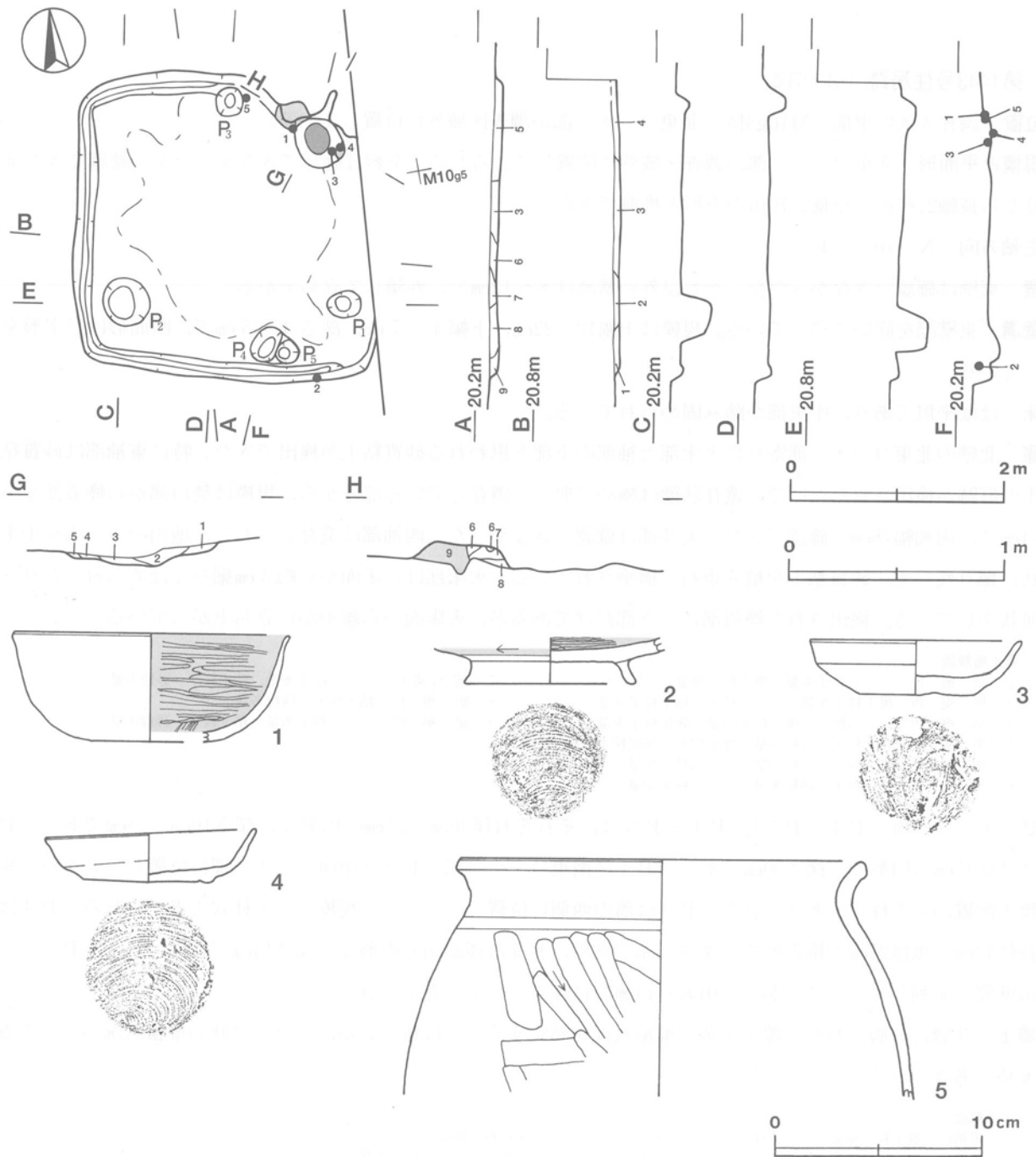
土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土中ブロック微量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 7 黒褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・炭化粒子少量
- 9 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 土師器片94点, 須恵器片9点, 陶器片1点が出土している。図示した土器はすべて土師器である。第597図1の坏, 3・4の皿は竈内から、それぞれ出土している。3・4はともに火床面から、4が正位で、そ

の上に3が逆位で出土している。2の高台付坏は、南東コーナー部の覆土中層から、5の甕は竈西側の床面から、ともに破片で出土している。陶器片は、攪乱により混入したものと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から10世紀前半と考えられる。



第597図 第1443号住居跡・出土遺物実測図

第1443号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第597図 1	坏 土師器	A [13.0] B 5.0 C [6.8]	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎気味に立ち上がり、口 縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒 子 にぶい褐色 普通	P8875 15%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第597図 2	高台付 土師器	B (2.1) D [8.0] E 1.0	底部片。高台部一部欠損。高台は「ハ」の字状に開く。	体部内面へラ磨き。底部回転糸切り。高台貼り付け後、ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい黄褐色、普通	P8876 15%
3	皿 土師器	A 9.9 B 2.5 C 5.4	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して開き、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、へらナデ。作り雑。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P8877 75% P L268
4	皿 土師器	A 9.8 B 2.5 C 6.0	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して開き、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 にぶい橙色、普通	P8878 80% P L268
5	甕 土師器	A [19.0] B (11.1)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部で「く」の字状に屈曲し、口縁部はやや外反する。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面縦位のへら削り、内面横ナデ。	砂粒・雲母・石英 にぶい黄褐色 普通	P8879 5%

第1447号住居跡（第598図）

位置 調査8区の北部，M10a3区。

重複関係 第1445A号住居跡，第42・44・127号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 本跡は，床面の一部が露出した状態で検出された。薄い覆土を取り除くと，西壁際の壁溝の一部と南東コーナー部の一部，北部から竈の火床部が検出された。そのため規模と平面形は，検出されたこれらの部分と土層断面で確認された床面とから，長軸が5.30m，短軸が3.70mの長方形と推定される。

主軸方向 北壁の中央部と思われる位置から赤変硬化した竈の火床部が検出されたことから，これを通る軸線を主軸と考へて，N-3°-Eとした。

壁溝 西壁際で検出された。規模は上幅12~20cm，下幅5~9cm，深さ5cmで，断面形は緩やかなU字形をしている。

床 西部で特に踏み固められている床面が検出された。ほぼ平坦である。

竈 北壁の中央部やや東寄りと思われる位置から火床部の痕跡が検出された。確認できた火床部は，長径40cm，短径26cmの楕円形で，わずかに皿状をしている。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量，灰粒子中量

覆土 覆土が薄いため，堆積状況は確認できなかった。図示したのは掘り方の埋土であり，5層に分層された。

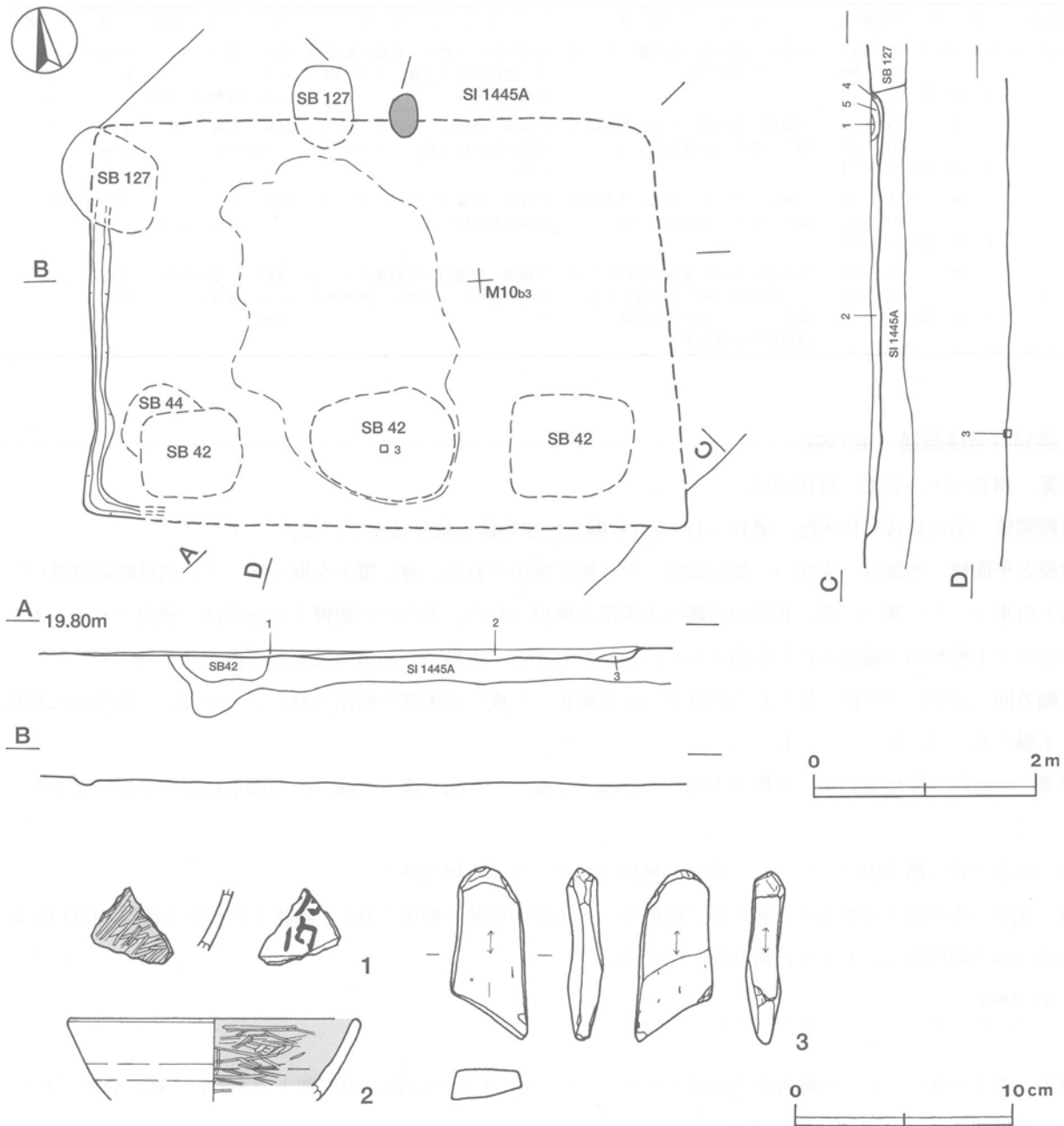
第1層は踏み固められた床面と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量。しまりが強い。
- 2 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量。ややしまりがある。
- 3 黒褐色 炭化物少量，ローム粒子・粘土粒子微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 にぶい赤褐色 焼土粒子多量，炭化粒子中量

遺物 土師器片68点，須恵器28点，砥石1点，陶器片3点が出土している。第598図1の土師器坏片は，遺構確認面から出土している。2の土師器坏片は，竈の火床部から出土している。3の砥石は，南部の床面から出土している。陶器片は，攪乱により混入したものと思われる。

所見 本跡は，床面が露出した状態で検出されたため，壁及び堆積状況は確認できなかった。時期は，出土土器が細片であるため，断定することは難しいが，1・2の坏片から9世紀後半と考えられる。



第598図 第1447号住居跡・出土遺物実測図

第1447号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第598図 1	坏 土師器	B (3.5)	体部片。	体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母にぶい橙色普通	P8880 5% P L 268 外面に墨書「城内」
2	坏 土師器	A [13.0] B (3.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母 灰褐色普通	P8881 10%

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第598図3	砥石	7.8	3.5	1.7	47.4	凝灰岩	砥面4面，中央部が薄くなっている。	Q8413 30% P L 284

表 12 8 区住居跡一覽表

住居跡 番 号	位 置	主軸方向	平面形	規 模 (m) (長軸×短軸)	壁 高 (cm)	床面	内 部 施 設						覆土	出 土 遺 物	備 考 新旧關係 (古→新)
							壁溝	ピット	支柱穴	出入口	炉・竈	貯蔵穴			
504	M8i3	N-2°-W	不明	(3.35)×(2.55)	6~18	平坦	一部	-	1	-	-	-	自然	土師器片, 須惠器片	S I 508→本跡→S K 1341
508	M8i3	N-17°-W	不明	[5.00]×(2.08)	16	平坦	一部	-	2	-	-	-	-	土師器(坏), 鎌	本跡→S I 504
509	M8i4	N-28°-W	方形	4.76×4.68	22~30	平坦	一部	2	4	1	竈	-	自然	土師器(坏・甕), 丸玉	
514	N9e4	N-101°-E	長方形	3.75×3.15	4~11	平坦	-	1	-	-	-	-	自然	土師器(高台付坏)	
520	N9b9	N-4°-W	方形	3.25×3.16	43~49	平坦	全周	-	-	1	竈	-	自然	須惠器(坏・高台付坏・高坏・釜・鉢・甕)	
918	L10h3	N-10°-W	方形	6.50×6.32	18~23	平坦	全周	12	4	1	竈	-	-	須惠器(坏・鉢), 刀子, 鉄滓, 粒状滓, 鍛造剥片	S I 919・S B 118・127 →本跡→S I 917
919	L10i2	N-27°-W	方形	5.97	15	平坦	[全周]	-	4	2	竈	-	人為	土師器(坏・甕・手捏ね土器)	本跡→S I 918・S B 118・127
926	M8c9	N-22°-W	方形	5.56×5.24	26~43	平坦	一部	1	4	2	竈	-	-	土師器(坏・甕)	本跡→S I 925・938・S K 1340
927	L9j1	N-42°-W	方形	5.90×5.81	18~30	平坦	全周	-	4	1	竈	-	人為	土師器(坏・碗)	
931	M9c1	N-22°-E	方形	3.10×2.88	14~42	平坦	-	-	-	1	-	-	人為	土師器(坏), 鉄製紡錘車	S I 942・S I 1405→ 本跡
933	M9c4	N-48°-W	方形	6.31×6.21	18~58	平坦	全周	-	4	2	竈	1	人為	土師器(坏・鉢・高坏・短頸甕)	S I 932→本跡
936	M10d2	N-25°-E	方形	4.10×3.94	25~35	平坦	一部	-	2	1	竈	-	人為	土師器(坏), 須惠器(坏), 緑釉陶器片	本跡→S K 690・S B 41
939	M8c7	N-5°-E	方形	3.48	19~26	平坦	一部	2	2	1	竈	-	-	土師器片	S I 943・944→本跡→ S I 941
941	M8c7	N-2°-E	方形	3.30×3.20	12~20	平坦	一部	-	2	1	竈	-	人為	須惠器(坏・蓋), 手鎌, 鉄滓	S I 939・943・944→ 本跡
943	M8c7	N-56°-W	方形	5.40×5.30	20~34	平坦	一部	-	4	1	竈	-	人為	土師器(坏・甕), 球状土錘, 砥石	本跡→S I 939・941・ 944
944	M8c7	N-16°-W	方形	4.25×4.05	10	平坦	一部	-	4	1	竈	-	-	土師器(坏)	S I 943→本跡→S I 939・941
945	L8h8	N-34°-W	方形	6.56×6.50	6~18	平坦	全周	-	4	2	竈	-	-	土師器(坏・鉢)	本跡→S K 1332・1334
1200	N10g2	N-27°-W	長方形	3.80×3.43	50~57	平坦	-	-	-	1	竈	-	自然	土師器(坏・鉢・甕・甗)	本跡→S I 1213
1201	N10i3	N-7°-E	不明	3.68×(3.54)	24~28	平坦	-	-	-	-	竈	-	自然	土師器(高台付坏), 鉄鎌	S I 1202→本跡→S K 850・855・858
1202	N10j3	N-3°-W	不明	3.77×(2.77)	25~43	平坦	一部	1	2	1	竈	-	人為	土師器(坏・高坏)	本跡→S I 1201→S K 852・859
1203	O10b1	N-3°-E	方形	3.85×3.70	54~58	平坦	全周	-	-	1	竈	-	自然	土師器(甕), 須惠器(坏・高坏・鉢・蓋)	本跡→S I 1204・1205 →S K 856・S K 984
1204	O10b2	N-90°-E	不明	[4.00]×(3.50)	40~46	平坦	一部	1	-	-	竈	-	自然	土師器(坏・高台付坏)	S I 1203→本跡→S I 1205・S K 857
1205	O10b1	N-90°-E	長方形	3.60×3.05	32~42	平坦	一部	1	-	-	-	-	自然	土師器(高台付坏・皿)	S I 1203・1204→本跡 →S K 856・857
1207	N9h9	N-23°-W	方形	3.82×3.70	35~45	平坦	-	-	-	-	竈	-	人為	土師器(坏・高坏・碗・甕)	
1208	O9a8	N-22°-E	不明	3.34×(1.00)	16~22	平坦	一部	-	-	-	竈	-	自然	土師器(坏・高台付坏・皿)	本跡→S I 1209
1209	O9b8	N-110°-E	長方形	3.87×2.98	15~28	平坦	全周	-	1	-	竈	-	自然	土師器(坏・甕), 刀子	S I 1208→本跡→S K 851
1210	N9j4	N-4°-W	方形	2.88×2.75	18~22	平坦	-	-	-	-	竈	-	自然	土師器(坏・高台付坏・皿・甕), 須惠器(坏・甕), 土製支脚	S K 884・885→本跡
1211	N8f5	N-4°-E	方形	4.96×4.80	26~53	平坦	一部	1	4	2	竈	-	人為	土師器(坏・甕・甗), 球状土錘, 土製支脚, 鉄釘	
1212	N9h4	N-8°-E	長方形	6.14×5.54	17~28	平坦	-	-	2	-	竈	-	自然	須惠器(坏)	
1213	N10g2	N-91°-E	方形	3.86×3.74	21~25	平坦	-	-	2	-	竈	-	自然	土師器(高台付坏), 須惠器(甕), 灰釉陶器	S I 1200→本跡
1214	N8h3	N-1°-E	方形	5.35×5.25	17~50	平坦	全周	-	4	1	竈	-	自然	須惠器(坏・甕・壺)	本跡→S I 1220・S B 74・100・101
1215	N8e3	N-5°-E	方形	3.95×3.76	15~26	平坦	-	1	3	1	竈	-	自然	須惠器(坏)	
1216	N8g1	N-15°-W	長方形	6.28×5.46	9~12	平坦	-	-	4	1	竈	-	自然	土師器(坏・甗)	本跡→S K 1034・1036・ S B 74
1217	N8d2	N-2°-E	不明	3.45×[1.80]	5~7	平坦	-	-	-	-	竈	-	-	土師器片, 須惠器片	本跡→S I 1218
1218	N8d1	N-0°	[長方形]	[3.60]×[3.50]	3~5	平坦	-	-	-	-	竈	-	-	須惠器(坏)	S I 1217→本跡
1219	N8h1	N-3°-E	方形	6.74×6.68	23~33	平坦	一部	-	3	2	竈	-	人為	土師器(坏・鉢・甕・甗), 土製品(球状土錘・繻羽口・紡錘車)	本跡→S I 1220・1222・ S B 74
1220	N8h2	N-5°-E	方形	3.96×3.83	20~38	平坦	全周	-	4	1	竈	-	人為	土師器(甕), 須惠器(坏・高台付坏・蓋・甕), 土製支脚	S I 1214・1219→本跡 →S B 74
1221	O8a4	N-4°-E	方形	5.35×5.25	20~32	平坦	全周	3	4	1	竈	-	人為	土師器(坏・高台付坏・皿), 須惠器(坏・蓋・甕), 鉄鎌, 刀子	S I 1235・1243・S B 102・ 103・104→本跡
1222	N8j1	N-0°	方形	5.00×4.68	8~16	平坦	全周	-	2	1	竈	-	人為	須惠器(坏・蓋・鉢)	S I 1219→本跡→S B 72・73
1223	O7b0	N-0°	方形	5.23×4.96	30~40	平坦	全周	-	4	1	竈	-	人為	須惠器(坏・高台付坏・鉢・甕), 土師器(甕), 土製支脚, 刀子, 鉄釘, 鉄鎌	本跡→S K 1054
1224	O8d2	N-12°-E	[長方形]	9.26×[8.00]	7~34	平坦	一部	-	2	1	竈	-	人為	土師器(坏・高坏・甕・ミニチュア土器), 土製支脚, 土玉, 刀子	本跡→S I 1225・1226・ 1230・S B 70・71
1225	O8c3	N-80°-E	不明	4.13×(1.80)	30	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	須惠器(坏・盤・甕)	S I 1224・1230→本跡 →S B 71
1226	O8e3	N-0°	長方形	4.02×3.55	28~40	平坦	全周	-	4	1	竈	-	人為	須惠器(坏・高台付坏・盤), 土師器(甕), 土製支脚, 刀子, 鉄釘, 鉄鎌	S I 1224→本跡→S B 70
1227	O8c5	N-10°-W	方形	6.40	18~32	平坦	一部	-	4	1	竈	-	人為	須惠器(坏・盤・甕), 土師器(甕), 刀子	本跡→S I 1234・S K 882
1228	O8g5	N-90°-E	方形	4.90×4.65	6~27	平坦	一部	-	3	1	竈	-	人為	須惠器(坏・盤)	S I 1236→本跡→S B 83・84・87
1230	O8d3	N-7°-W	[長方形]	[5.20]×[4.00]	-	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	土師器(坏・甕), 土製支脚	S I 1224→本跡→S I 1225・S B 71
1231	O8a6	N-11°-E	長方形	3.66×2.90	38~42	平坦	-	-	-	-	竈	-	人為	土師器(甕), 須惠器(坏・盤)	

住居跡番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内部施設							出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
							壁溝	ピット	主柱穴	出入口	炉・竈	貯蔵穴	覆土		
1232	O8a7	N-10°-E	不明	[3.30]×[3.25]	46~52	平坦	一部	-	-	-	竈	-	人為	須恵器(坏・甕・瓶), 鉄鏃, 環状鉄製品	S B108→本跡
1233	O8e7	N-2°-E	方形	7.22×7.10	64~67	平坦	全周	14	4	2	竈	-	人為	須恵器(坏・高台付坏・甕・瓶), 須恵器(坏・皿・鉢), 土製支脚, 土製支脚, 土製支脚, 土製支脚	S B85・86→本跡→S I1238
1234	O8c6	N-6°-W	長方形	4.03×3.56	49~56	平坦	全周	-	-	1	竈	-	人為	土師器(坏・高台付坏・鉢・甕), 須恵器(坏・甕)	S I1227→本跡→S K882
1235	N8i4	N-44°-W	方形	6.41×6.10	18~45	平坦	-	1	3	-	竈	-	人為	土師器(坏・壺・甕), 球状土鏃	本跡→S I1221・S B102・103・104・106・S K1071
1236	O8f3	N-6°-E	方形	6.10×5.75	23~60	平坦	全周	-	4	1	竈	-	人為	土師器(坏・皿・甕), 須恵器(坏・高台付坏・壺・鉢・甕), 須恵器(坏・高台付坏・壺・鉢・甕), 須恵器(坏・高台付坏・壺・鉢・甕), 須恵器(坏・高台付坏・壺・鉢・甕), 須恵器(坏・高台付坏・壺・鉢・甕), 須恵器(坏・高台付坏・壺・鉢・甕)	S B82→本跡→S I1228・S B87
1237	O8e5	N-0°	[長方形]	[3.77]×[3.37]	4	平坦	-	-	-	-	竈	-	人為	土師器(碗・皿・鉢)	S B84→本跡→S I1238
1238	O8e6	N-0°	長方形	3.60×3.10	10~13	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	土師器(坏・碗・皿・鉢), 須恵器(甕)	S I1237・1233・S B84→本跡
1239	O9f1	N-2°-W	[長方形]	[6.32]×[5.88]	18~32	平坦	-	-	4	1	竈	-	人為	土師器(坏・高台付坏・皿・甕), 須恵器(坏・皿・土製支脚, 刀子, 鉄製紡錘車)	S K1264・S B77→本跡
1241	O8c0	N-0°	方形	7.90×7.60	25~60	平坦	-	-	4	-	竈	-	人為	土師器(坏・高台付坏・皿・甕), 須恵器(坏・高台付坏・壺・鉢・甕), 須恵器(坏・高台付坏・壺・鉢・甕), 須恵器(坏・高台付坏・壺・鉢・甕), 須恵器(坏・高台付坏・壺・鉢・甕), 須恵器(坏・高台付坏・壺・鉢・甕)	SD81・S B109・110→本跡
1242	N9j2	N-100°-E	方形	3.39×3.10	12~27	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	土師器(高台付坏), 須恵器(坏・壺・鉢), 刀子, 小刀, 鉄鏃	S B88→本跡
1243	O8b4	N-0°	方形	3.80×3.67	15~25	平坦	一部	-	-	1	-	-	人為	土師器(坏・碗・甕)	本跡→S I1221・S B102・S K1070
1401	L9f5	N-37°-W	方形	6.98×6.90	16~18	平坦	全周	3	4	2	竈	-	人為	土師器(坏・壺・甕・瓶), 土製支脚, 管状土鏃	
1404	M9b2	N-18°-W	方形	4.14×3.96	12~30	平坦	全周	4	3	2	竈	-	人為	土師器(坏・甕)	
1405	M8d0	N-42°-W	方形	4.70×4.64	22~56	平坦	全周	2	4	1	竈	-	人為	土師器(坏・甕), 土玉, 鏃	本跡→S I931・S K1347
1408	M8g4	N-8°-E	長方形	3.50×(2.66)	19~36	平坦	一部	-	-	1	竈	-	人為	須恵器(坏・高台付坏・甕), 土師器(甕), 土製紡錘車, 刀子	S I1409→本跡
1409	M8g5	N-15°-W	方形	5.85×5.50	7~18	平坦	一部	-	4	1	竈	-	人為	土師器(坏)	本跡→S I1408・1420
1410	M9e8	N-115°-E	長方形	3.58×3.10	30~40	平坦	全周	-	2	1	竈	-	人為	土師器(坏・高台付坏・皿・甕)	
1411	M9e0	N-0°	長方形	3.85×3.50	37~43	平坦	全周	-	-	2	竈	-	人為	須恵器(坏), 刀子	
1412	M9b0	N-4°-E	方形	3.32×3.28	52~56	平坦	全周	-	-	1	竈	-	人為	須恵器(坏・壺・甕)	
1413	M10f2	N-10°-E	長方形	3.30×2.70	30~33	凸凹	全周	-	4	1	竈	-	人為	土師器(坏・鉢・甕), 須恵器(片口鉢・甕)	
1414	M8e5	N-8°-E	方形	3.05×2.80	15~25	平坦	全周	-	2	1	竈	-	人為	土師器(坏・甕), 須恵器(坏・高台付坏・皿・鉢), 球状土鏃, 刀子	S I1415→本跡
1415	M8e5	N-9°-E	長方形	3.62×3.10	22~38	平坦	全周	2	-	1	竈	-	自然	須恵器(坏・高台付坏), 土師器(甕), 刀子	本跡→S I1414
1416	L8h0	N-14°-W	[長方形]	(5.40)×[4.70]	-	平坦	-	-	-	-	竈	-	-	土師器(坏)	
1417	M8h6	N-2°-E	方形	4.30×4.20	33~48	平坦	全周	-	4	1	竈	-	人為	土師器(坏・甕・瓶)	S I1421→本跡
1419	L9d8	N-23°-W	方形	5.55×5.33	4~6	平坦	[全周]	3	4	2	竈	1	-	土師器(坏・高台付坏・甕・瓶)	本跡→S D35B・82
1420	M8g5	N-1°-W	長方形	3.77×3.25	13~25	平坦	一部	-	1	1	竈	-	人為	須恵器(坏・壺・甕), 灰釉陶器	
1421	M8h7	N-43°-W	方形	6.72×6.62	28~43	平坦	全周	-	4	2	竈	1	人為	土師器(坏・碗・鉢・甕・瓶・ミニチュア土器), 土鏃	S I1409→本跡
1422	M10j3	N-14°-W	不明	8.76×(4.50)	22~48	平坦	一部	3	2	-	竈	-	人為	土師器(坏・鉢・甕・瓶), 土鏃	S I1439・S B120→本跡→S I1417
1423	M8b9	N-5°-E	長方形	4.96×4.70	13~36	平坦	全周	2	3	1	竈	-	人為	土師器(坏・鉢・甕)	本跡→SD16・第9号道路状遺構
1424	M9i1	N-60°-E	方形	3.70×3.40	29~42	平坦	全周	-	3	-	竈	-	人為	土師器(坏・甕), 土製支脚	S I1438→本跡→S D84A
1425A	N10a2	N-99°-E	長方形	3.50×3.17	22~45	平坦	一部	1	2	-	竈	-	人為	土師器(坏・高台付坏・皿・甕), 土鏃	
1425B	N10a2	N-99°-E	長方形	3.88×3.17	22~42	平坦	一部	-	-	-	竈	1	人為	土師器(坏・高台付坏)	S I1425B→本跡
1426	M8f8	N-30°-W	不明	5.30×(4.40)	72	平坦	一部	-	2	1	竈	-	人為	土師器(坏・甕), 鶴先形土製品	本跡→S I1425A
1427	M8e0	N-13°-W	長方形	3.80×3.40	15~28	平坦	一部	-	4	1	竈	-	-	土師器(坏), 鉄鏃	S I1434→本跡→S B30・S D84A
1428	M8f0	N-85°-W	長方形	4.53×3.98	15~46	平坦	全周	-	4	1	竈	-	-	土師器(坏・高台付坏・鉢), 須恵器(坏・皿・甕), 灰釉陶器, 門金具	本跡→S I1428
1429	M9f2	N-36°-E	方形	4.53×4.40	24~44	平坦	全周	-	4	1	竈	-	人為	土師器(坏・鉢・甕・瓶), 砥石	S I1427→本跡
1430	M9e3	N-30°-W	方形	5.20×5.13	6~24	平坦	一部	3	3	1	竈	-	自然	土師器(坏・鉢・甕), 土製紡錘車, 土製支脚, 刀子, 鉄釘	本跡→S I1431
1431	M9f3	N-90°-E	方形	4.90×4.75	20~33	平坦	全周	-	4	1	竈	-	人為	須恵器(坏・高台付坏・甕), 土師器(甕), 刀子, 鉄釘	S I1432→本跡→S K1357・1358
1432	M9f3	N-12°-E	長方形	4.35×3.37	12	平坦	全周	-	-	-	竈	-	人為	須恵器(坏), 土師器(鉢・甕), 土製紡錘車, 鉄鏃, 砥石	S I1429・1430→本跡
1434	M8f8	N-26°-W	不明	6.90×(4.45)	14~62	平坦	一部	-	2	-	竈	-	人為	土師器(坏・碗・瓶)	S I1430→本跡→S I1431
1438	M8h9	N-4°-E	長方形	3.80×3.20	-	平坦	全周	-	4	1	竈	-	人為	土師器片	S I1439→本跡→S I1426・S E30・S D86
1439	M8g7	N-12°-W	方形	4.50×4.33	37~45	平坦	一部	-	4	1	竈	-	人為	土師器(坏・甕・瓶), 土玉	本跡→S I1423
1440	M8g6	N-2°-E	長方形	3.20×2.83	24~27	平坦	-	-	-	-	竈	-	自然	土師器(坏), 鉄鏃	本跡→S I1421・1434・1440
1441	M8f6	N-23°-W	方形	5.65×5.40	12~36	平坦	一部	-	4	-	竈	1	-	土師器(坏・甕), 土鏃	S I1439・1441→本跡
1442	M10i2	N-116°-E	長方形	4.00×3.46	33~36	平坦	一部	3	2	-	竈	-	自然	土師器(坏・高台付坏・皿・甕), 鉄鏃, 軽石, 砥石	本跡→S I1440・S D84A・84B
1443	M10g4	N-10°-E	方形	2.87×2.70	8~12	平坦	一部	-	3	2	竈	-	人為	土師器(坏・高台付坏・皿・甕)	本跡→S K1351
1445A	L10j4	N-43°-W	方形	6.40×6.08	25~36	平坦	全周	4	4	2	竈	1	人為	土師器(坏・鉢・高台付坏・鉢・甕), 須恵器(坏), 土製支脚, 土玉, 軽石	
1445B	L10j3	N-43°-W	方形	5.38×5.15	-	平坦	全周	3	4	2	-	1	人為	土師器(坏・鉢), 土製勾玉	S I1445B→本跡→S I1447・S B42・127
1447	M10a3	N-3°-E	[長方形]	[5.30]×[3.70]	0~5	平坦	一部	-	-	-	竈	-	-	土師器(坏), 砥石	本跡→S I1455A・1447・S B42・127
1448	L10j3	N-12°-E	-	-	3	平坦	一部	2	-	-	-	-	-	-	S I1445A・S B42・44・127→本跡

茨城県教育財団文化財調査報告第174集
島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ

熊の山遺跡
(中巻)

平成13(2001)年3月15日印刷

平成13(2001)年3月21日発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番2号
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587

印刷 (株)平電子印刷所
〒970-8024 いわき市平北白土字西ノ内13
TEL 0246-23-9051